
2022年度 前期

2.0単位

異文化マネジメント論

藤原 由紀子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、経営学部のDPである現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修すること、社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修することの2つを目指す。本講義は専門選択科目であり、国際経営論・の発展科目に位置付けられる。

企業の経営が国際化すると、文化的背景の異なる人々と一緒に仕事をすることが増える。顧客との間だけでなく、企業の内部においても文化の違いから生じるさまざまな問題に直面する。その一方、人材の多様化は新しいアイデアの創造に役立つなど、プラスの効果が大きいとも言われている。本講義では、経営における文化の多様性とは何か、文化の違いを捉えたり、異文化をうまく乗り越えるために考えられた理論、異文化コミュニケーションを中心に学修する。

それにより、経営の場における文化の違いに関心を持ち、文化の多様性を生かすうえで適切なマネジメントとはどのようなものかを判断できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

1. 経営における文化とは何かについて説明できる。
2. 文化の多様性のメリットとデメリットについて説明できる。
3. 異文化経営論の代表的な理論について説明できる。
4. グローバル化が進む中で企業が直面するグローバル・ローカル・トレードオフについて、
具体的を挙げて説明できる。
5. コミュニケーションにおけるコンテキストの違いとは何を意味するのか、説明できる。
6. 異文化コミュニケーションで発生する問題についてコンテキストの観点から説明できる。
7. 日本企業の国際経営が国際経営を行ううえで抱える問題点について、異文化対応の観点から
説明できる。
8. 経営の場における異文化問題に関心を持ち、その原因が何にあるのかについて考えられる。

< 授業のキーワード >

文化、コミュニケーション、コンテキスト、異文化理解

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。グループワークもしくはペアワー

クを取り入れる場合があるが、オンデマンドでの実施が難しい場合は、変更する場合がある。

< 履修するにあたって >

私語は、厳禁です。

グループワークやペア・ワークを実施する場合には、こちらでメンバーを指定します。

国際経営論の基礎知識が必要となる場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・事後学修として、講義中に配布したプリント等を読み返すなどして、理解を確実なものにすること(30分)。
- ・良質のテレビ番組を視聴したり、授業中に紹介する企業の事例を読んだりして、講義で学んだ知識や理論を使って現実の企業活動を解釈する練習をしてください。

< 提出課題など >

理解できているかを確認するために、授業中に小テストを行う。

組織文化についてのレポート(1回)を課す。

理解できているかを確認するため、最終授業中に課題を出す。

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート(20%)、授業中の小テスト(30%)、最終授業での確認テスト(50%)で評価する。

< 参考図書 >

馬越恵美子・桑名義晴編著 異文化経営学会著 『異文化経営の世界 その理論と実践』白桃書房、3,300円。

太田正孝編著 『異文化マネジメントの理論と実践』同文館出版、2500円。

林倬史著 『イノベーションと異文化マネジメント』唯学書房、2,200円

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

異文化マネジメントとは何か、その意味と意義について説明する。

本講義の進め方、評価の仕方についても説明する。

第2回 企業のグローバル化と異文化問題

文化とは何か。企業活動のグローバル化が進むにつれて、文化が経営にどのような影響を与えるのかを学ぶ。

第3回 日本企業の国際経営と異文化経営

日本企業で異文化マネジメントをうまく行っている企業はまだ少ない。その要因となる日本企業の国際経営の特徴と日本人のコミュニケーションの特徴について学ぶ。

第4回 経営と国の文化-1

文化は、経営に対してさまざまな点で影響を及ぼしている。ここでは、ホフステッドを中心に、経営において国の文化はどのように理解され、類型化されるのかを異文化経営の代表的な理論から学ぶ。

第5回 経営と国の文化-2

文化は、経営に対してさまざまな点で影響を及ぼしている。ここでは、ホフステッドを中心に、経営において国の文化はどのように理解され、類型化されるのかを異文化経営の代表的な理論から学ぶ。

第6回 組織文化の比較

同じ組織で働く人が共有する価値観、信条、行動規範である組織文化について学ぶ。

第7回 組織文化の比較-1

組織文化についてのグループワークまたはペアワークを行う。大学や高校なども、組織である。そこで、シャインの「文化のレベル」にしたがって、受講者どうして自分が卒業した高校の組織文化を比較しあう。その結果は、レポートとして提出する。

この回では、課題の具体的な内容や方法について説明する。

第8回 組織文化の比較-2

組織文化についてのグループワークまたはペアワークを行う。大学や高校なども、組織である。そこで、シャインの「文化のレベル」にしたがって、受講者どうして自分が卒業した高校の組織文化を比較しあう。その結果は、レポートとして提出する。

この回では、前回以降にでた質問に答える形で説明を行う。

第9回 組織の文化と国の文化

国の文化が組織文化にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。

第10回 異文化コミュニケーションとコンテキスト・マネジメント-1

組織内の異文化問題の多くが、人対人のコミュニケーションから生じている。ここでは、異文化コミュニケーションの理論、文化によるコンテキストの違いについて学ぶ。

第11回 異文化コミュニケーションとコンテキスト・マネジメント-2

文化によるコンテキストの違いをいかにうまく乗り越えるのかというコンテキスト・マネジメントについて学ぶ。

第12回 文化的多様性のマネジメント-1

文化的多様性は組織の効率的な運営にマイナスの影響を与えるが、プラスの相乗効果である異文化シナジーを得ることもできる。ここでは、文化的多様性を生かすためには、どのようなマネジメントが適切かを学ぶ。

第13回 文化的多様性のマネジメント-2

文化的多様性は組織の効率的な運営にマイナスの影響を与えるが、プラスの相乗効果である異文化シナジーを得ることもできる。ここでは、文化的多様性を生かすためには、どのようなマネジメントが適切かを学ぶ。

第14回 異文化の人と一緒に働くとはケーススタディ：日産自動車の事例

日産自動車の事例をもとに、異文化問題とその対応について考える。

第15回 まとめ

これまでの講義内容を理解できているかどうかを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

異文化マネジメント論

藤原 由紀子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義は、経営学部でのDPである現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修すること、社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修することの2つを目指す。本講義は専門選択科目であり、履修モデルの1つ「インターナショナル・モデル」の一科目に位置付けられる。異文化への関心がある人、異文化への理解が必要となる仕事や留学を考えている学生に履修をすすめる。

国境をまたいで仕事をする人々の多くが、コミュニケーションの仕方やビジネスの場における適切な振る舞いが文化によって異なることを十分に理解していない。その結果、誤解を招く、職場の雰囲気悪化、従業員の士気の低下、目標の未達成などの問題が発生する。

本講義は、ビジネスの場において文化の違いがどこにどのように表れるのかを理解する。異文化における適切なマネジメントとはどのようなものを理解する。

自分のもつ文化への気づきを促し、知識を実践の場で生かせるようになることを目的とする。

<到達目標>

1. 文化の違いが生まれやすい8つのマネジメントの領域について説明できる。
2. どの国が、どのようなビジネス文化をもつのか、8つの領域の観点から説明できる。
3. ビジネス文化が異なると、どのような問題が発生するのかを、説明できる。
4. 自分と他者の文化を比較し、文化マップを作成できる。
5. ビジネス文化の多様性があるなかで、文化の違いを適切にマネジメントするにはどうすべきかを具体的に説明できる。

<授業のキーワード>

異文化理解、コミュニケーション、適切な振る舞い、文

化の相対性

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

対面授業になった場合に感染状況が改善していれば、第12・13回目あたりで2, 3人でのグループワークを行う場合もある。(履修者数からオンデマンド授業になったため、グループワークは実施しない)

< 履修するにあたって >

授業は、テキストに沿って行います。授業中に使用する図表、事例の詳細はテキストに書いてありますので、資料として配付しません。

私語は厳禁です。授業内容に関する質問や発言は歓迎します。

経営と文化の関わりについて関心をもつ人の受講を希望します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、テキストの該当箇所を丁寧に読んで理解すること。(30分程度)

< 提出課題など >

理解できているかを確認するための小テストを授業中に行う。

それについての解説や講評は、次の授業で行う。

中間レポート

自身が各指標のどこに位置づけられるのかを、他の人との比較で明らかにしてもらおう。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト(50%)、中間レポート(20%)、最終確認テスト(30%)で評価する。

< テキスト >

エリン・メイヤー著、田岡恵監訳 『異文化理解力』
英治出版、1,880円+税。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本講義の概要、講義の進め方、評価の仕方について説明する。

文化の違いが生まれやすい8つのマネジメントの領域について説明する。

第2回 異文化間のコミュニケーション

文化によるコミュニケーションの違いをコンテキストの

観点から理解し、異文化の人とコミュニケーションをする際のコンテキスト・マネジメントについて学ぶ。

第3回 勤務評価とネガティブ・フィードバック

文化によって、マイナス評価の伝え方に違いがある。その結果、ビジネスの場での礼節をわきまえた振る舞いについて認識の違いがあることを学ぶ。

第4回 コミュニケーションとネガティブ・フィードバックの逆転

コミュニケーションの指標における位置づけと、とネガティブ・フィードバックの指標における位置づけが逆転している国がある。ここでは、コミュニケーションの指標とネガティブ・フィードバックの指標の両面から各国の文化について学ぶ。

第5回 多文化世界における説得技術-1

文化によって思考法に違いがある。思考法の違いが物事を理解する際のプロセスに影響を及ぼしていること、その結果、文化によって異なる効果的な説得技術について学ぶ。

第6回 多文化世界における説得技術-2

文化によって思考法に違いがあり、思考法の違いが物事を理解する際のプロセスに影響を及ぼしていること、その結果、文化によって異なる効果的な説得技術について学ぶ。

第7回 リーダーシップ、階層、パワ

良い上司についての認識は、文化によって異なる。ここでは、文化によって異なる望ましいリーダーシップの型、階層、権力格差について学ぶとともに、異文化においてはどの振る舞えば良いのかを理解する。

第8回 意思決定のスタイル-1

文化によって望ましい意思決定のスタイルがどのように異なるのかについて学ぶ。

第9回 意思決定のスタイル-2

各文化に特徴的な意思決定のスタイルがどのようにして形成されてきたのかについて学ぶ。

第10回 スケジューリングと各文化の時間に対する認識
ある文化では遅刻とみなされるものが、別の文化では時間内と許容されることがある。文化によって時間感覚がどのように異なるのかを理解し、多文化の中でのスケジューリングのマネジメントについて学ぶ。

第11回 信頼構築の方法-1

人への信頼は、ビジネスを通じて形成される認知的信頼と、親密さや友情などの感情から形成される感情的信頼に分けられる。ビジネスの場で重要視される信頼のタイプが文化によってどのように異なるのかを学ぶ。

第12回 信頼構築の方法-2

人への信頼は、ビジネスを通じて形成される認知的信頼と、親密さや友情などの感情から形成される感情的信頼に分けられる。ビジネスの場で重要視される信頼のタイ

ブが文化によってどのように異なるのかを学ぶ。

第13回 見解の相違の表明と感情表現－1

意見が違うこと、またその違いを表明することに対する認識が文化によってどのように違うのか、多文化の中で意見を表明する場合の課題について学ぶ。

第14回 見解の相違の表明と感情表現－2

意見が違うこと、またその違いを表明することに対する認識が文化によってどのように違うのか、多文化の中で意見を表明する場合の課題について学ぶ。

第15回 まとめ

これまでの講義内容を理解できているかどうかを確認する。

2022年度 前期

2.0単位

イベント・マネジメント

竹内 利江

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修すること、社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修することを目指す。

イベントは、博覧会、オリンピック、国際会議や、身近な市民まつり、スポーツイベントなど、公共性の高いもの、営利的なものから私的なものまで多種多様である。豊かな現代社会を創造するイベントはコミュニケーション・メディアとしての特性も有し、地域イベントは地域を活性化するとともに貴重な観光資源ともなっている。授業を通して、イベント・マネジメントに関する総合的な知識を修得し、イベントを企画し、計画し、実施するためのマネジメント力の向上を目的とする。なお、この科目の担当者は実務経験のある教員である。博覧会をはじめ、数々の地域イベントに関わった経験を活かし、具体的な事例を交えながら、実践力を身につける教育を行いたい。

< 到達目標 >

- ・ イベントを分類し、それぞれの目的と役割を説明することができる。
- ・ イベントの企画立案から実施計画、制作推進、運営に関する基礎知識を修得する。
- ・ イベントの調査を通して、マネジメントの視点から課題を発見し、解決策を提案できる。
- ・ グループワークを通して、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を向上させる。

< 授業の進め方 >

- ・ 講義を中心に授業を進めます。
- ・ 授業後半に少人数でのグループワークを行う予定です。履修人数や授業方法の変更によって修正する場合があります。
- ・ 毎回、授業内容に関するコメントを提出してもらいます。

アンケートへの回答を求めることもあります。それらの内容は必要に応じて共有します。

< 履修するにあたって >

- ・ テキストの購入費用がかかります。
- 後期開講の「イベント・マネジメント」でも同じテキストを使います。
- ・ グループワークへの積極的な参加を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・ 授業前後の予習・復習で1時間程度。テキストの指定頁を読んで授業に参加してください。
- ・ レポートの作成で5時間程度。
- ・ 日頃から身の回りで行われているイベントの情報を収集し、関心を持ったイベントには実際に足を運び、会場の設営、運営スタッフの応対や来場者の様子を観察してみてください。

< 提出課題など >

- ・ イベントの調査レポートを提出してもらいます。初回の授業で調査内容について説明します。
- ・ グループで作成したワークシートを提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

- ・ 小テスト 60% 授業を通して学修してきた知識の理解を問います。
- ・ レポート 40% 内容の妥当性と論理的構成について評価します。グループワークでのワークシートを含めて総合評価します。

< テキスト >

一般社団法人日本イベント産業振興協会監修・発行『イベント検定公式テキスト 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント』2015年。(3000円税別)

< 参考図書 >

佐々木直彦『プロデュース能力』日本能率協会マネジメントセンター、2008年。

その他、参考文献や参考サイトは授業中に指示します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

イベントの概念

授業のねらいやオンライン授業の進め方、課題の内容、注意事項等について確認する。イベントとは何か、イベントの定義や基本構造、イベントの分類について学ぶ。(テキスト第1章第1節)

第2～4回 イベントの歴史とメディアとしてのイベント社会の発展とともに進化するイベントの展開と、発信者

と受信者をつなぐ媒体（メディア）としてのイベントの機能やイベントの社会的役割について理解し、様々なイベントについて学ぶ。（テキスト第1章2・3節）

第5～6回 イベントの企画と計画

企画と計画の違いを理解し、事例を交えながら企画のコア・アイデアを発想する方法について考える。基本計画および実施計画の考え方や構成内容、また実施マニュアルについて学ぶ。（テキスト第2章第4・5節）

第7回 イベントの企画書とプレゼンテーション

企画書に求められる力、企画書の構成および企画書のプレゼンテーション方法について考える。（第2章第6節）

第8～9回 イベントの制作推進

イベントのプロデューサー、ディレクターをはじめ、各担当者の業務内容、制作に必要な管理業務について学び、会場の選び方や構成、施工管理やプログラム制作に関する理解を深める。（テキスト第3章第7～9節）

第10回 イベントの告知と集客

参加者、協力者、来場者それぞれに対する告知、集客活動のためのツールや手段を理解し、告知のための活用メディアの特性を考える。（テキスト第3章第10節）

第11・12回 イベント運営とマネジメント

イベント運営の全体像を掴み、運営業務のポイント、リスクマネジメントや安全管理について学ぶ。（テキスト第4章第11～13節）

第13・14回 イベントの調査研究

イベントの調査レポートをもとに、少人数のグループワークを行い、各自、調査した内容について報告する。それぞれのイベントの特徴や発見した課題等について意見交換し、その内容をワークシートに整理する。

第14回 イベントの調査研究

ワークシートをもとにグループでプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする。様々なイベントを比較検討し、企画力、運営上の課題等について理解を深める。

第15回 総括

グループワークの振り返りを行い、イベント・マネジメントにおける重要事項について再確認する。

2022年度 後期

2.0単位

イベント・マネジメント

竹内 利江

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修すること、社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識

・技能を学修することを目指す。

イベント・マネジメントに関する基礎知識をもとに、これからのイベントに求められるコンプライアンス、サステナビリティやレガシーへの理解を深め、ユニバーサルイベントの基礎知識を修得する。またチームで地域イベントの企画案および実施スケジュール案を作成しプレゼンテーションを行う。どのようなイベントが地域社会に役立つのか、どのように告知すれば人々の心に届くのか、どのような運営をすれば、来場者は満足するのか、チームでディスカッションしながら考えていく、なお、この科目の担当者は実務経験のある教員である。博覧会をはじめ、数々の地域イベントに関わり、観光産業に従事した経験を活かし、グループワークでは実践力を身につける教育を行いたい。

< 到達目標 >

・イベントのコンプライアンス、サステナビリティ及びレガシーについて理解し、ユニバーサルイベントが求められる背景と構成要件について説明できる。

・地域イベントの企画に向けて、チーム内での役割を果たし、メンバーと協力して企画・計画案を提案することができる。

・グループワークを通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力およびファシリテーションスキルを向上させる。

< 授業のキーワード >

コンプライアンス、レガシー、ユニバーサルイベント

< 授業の進め方 >

・授業の前半は講義中心で進めます。
・授業の後半では少人数でのグループワークを行います。履修人数や授業方法の変更によって授業計画を修正する場合があります。

・講義に関するコメントを提出してもらいます。アンケートへの回答を求める場合もあります。それらは必要に応じて共有します。

・グループワーク時はワークシート等で進捗状況を記述してもらいます。

< 履修するにあたって >

・イベント・マネジメント を履修していることが望ましい。本科目より履修する学生は、事前に指定テキスト127頁までを読んでおいてください。

・グループワークへの積極的な参加を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

・授業の予習・復習で1時間程度。
・企画案の作成、担当資料の作成に5時間程度。

< 提出課題など >

・授業内で小テストを行います。提出期限終了後、正解について解説します。

・グループワークでは、毎回、ワークシート等で進捗状況を報告してもらいます。

・チームで作成した地域イベントの企画案、予算案、実施スケジュール案およびプレゼンテーション資料を提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

・小テスト 40% 授業で学修した知識の理解を問います。

・企画関連資料 60%

グループで作成した各資料の内容の妥当性と論理的構成、グループワークへの参加態度やプレゼンテーションを含めて 総合評価します。

<テキスト>

一般社団法人日本イベント産業振興協会監修・発行『イベント検定公式テキスト 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント』2015年。(3000円税別)

<参考図書>

一般社団法人日本イベント産業振興協会監修・発行「ユニバーサルイベント検定公式テキスト いま、求められるユニバーサルイベント」2015年。

<授業計画>

第1・2回 ガイダンス

イベントの基本

授業のねらい、進め方や課題レポート、注意事項等について確認する。さまざまなイベントの事例を紹介しながら、イベントの概念、分類、役割、イベントの基本について確認する。

第3回 イベントのリスクマネジメントとコンプライアンス

イベントのリスクマネジメントについて確認し、コンプライアンスの考え方や著作権や肖像権など、イベントに関わる法規制について学ぶ。

第4回 イベントのサステナビリティとレガシー

事例を通して、イベントのサステナビリティとレガシーについて学び、これからのイベントに必要な知識を習得する。

第5回 ユニバーサルイベント

ユニバーサルデザインの考え方やバリアフリーデザインとの違い、ユニバーサルイベントの概念やユニバーサルイベントが必要とされる背景について確認する。

第6回 ユニバーサルイベント

誰もがイベントへの参加を可能とする会場構造や運営体制を持つユニバーサルイベントを実現するために、さまざまな「不便さ」を理解し、対応を考える。

第7・8回 地域イベントの事例研究

地域イベントの事例を通して、その社会性や独自性、また問題点についてディスカッションし、地域イベントを支えるボランティアの役割や地域イベントを継続するための課題について考える。

第9回 イベント企画案作成に向けて

10回目以降のグループワークの目標や進め方を確認する。グループのメンバーは、原則、プロデューサー、広報、

会場運営、管理担当の4人として、グループ分けを行う。第10.11回 イベントの企画と運営

個人で企画案を持ち寄り、企画の背景や内容についてチームで議論する。独自性があり、実現性の高い地域イベントの企画案の概要を決定する。

第12・13回 イベントの企画と運営

プロデューサーをリーダーとしつつ、メンバー全員で検討しながら企画内容の精度を高め、担当者別に資料を作成する。プロデューサーは全体の企画案、広報担当はプレゼン資料、運営担当は実施スケジュール案、管理担当は予算案を作成する。

第14・15回 イベントの企画と運営

(プレゼンテーション)

グループでプレゼンテーションを行い、その内容について全員でディスカッションする。多様なイベントの企画・計画案を通して学び合い、グループワークの振り返りを行う。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

赤坂 義浩

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

本科目は、3年次配当のコア科目・選択必修科目であり、経営学部ディプロマ・ポリシー「5.経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する」ことが出来るようになることが目的である。

受講者は、近世から現代に至る日本の企業経営諸制度の歴史を学ぶことにより、今日、日本企業が直面している経営上の諸課題について、自律的に分析、考察することが出来るようになる。

<到達目標>

日本における経営諸制度の歴史を学ぶことにより、企業経営の仕組みや成り立ち、あるいは、日本企業が直面している様々な問題に関する理解を深め、解決策を自律的に考察出来るようになることが目的である。

<授業のキーワード>

経営史、経済史、株式会社制度、企業家、企業者史

<授業の進め方>

毎回講義前に、チームごとに予習、報告資料づくり、質疑応答の準備を行う。講義中では、内容についてプレゼンテーションをしてもらい、質問に答えてもらう。このような形式で、テキストを講読する。

<履修するにあたって>

プレゼンテーションを担当するチームのメンバーはもちろん、それ以外の受講者も、事前にテキストを読んでおかなければならない。積極的に質疑応答、ディスカッ

ョンに参加しなければ、ただ出席しているだけでは単位を付与しない。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキスト内容の予習、専門用語の調査、当該時期の日本経済の状況に関する調査などの予習が必要である。

< 提出課題など >

特になし。

< 成績評価方法・基準 >

プレゼンテーションを担当するチームのメンバーは、準備作業と当日のプレゼンテーションに関するメンバーの貢献度を相互評価する「貢献点」と、質疑応答の状況について「発言点」、さらに、プレゼンテーションを聞いた受講者が、その内容がどれくらい明瞭に伝わったかを査定する「プレゼンテーション評価点」(A~Cの3段階)を加算する。それ以外の受講者は、質疑応答に参加した分だけ「発言点」を加算する。

それらの合計点数から、欠席回数、遅刻回数に応じて減点を行う。それらの結果を成績評価とする。

< テキスト >

宮本又郎、阿部武司、宇田川勝、沢井実、橘川武郎著『日本経営史[新版]』(有斐閣、新版第1刷:2007年)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと準備

本ゼミの進め方に関するガイダンスと、プレゼンテーションのチーム分け、順番の決定等、テキスト講読の準備を行う。

第2回 第1章第1節 江戸時代の経済発展

この回では、まず、背景として近世のマクロ経済の推移について学ぶ。

第3回 第1章第2節 江戸時代の商家経営

この回では、中世から近世初頭まで活躍していた「初期豪商」が果たした役割、そして、それに替わって登場してきた都市商人の成長について学ぶ。

第4回 第1章第3節 江戸期商家の経営システム

江戸期商家の経営管理システムとして、この回では、所有構造や企業形態、企業統治、経営管理の仕組みと、中間組織としての同業組織「株仲間」が果たした役割について学ぶ。

第5回 第1章第4節 商家の経営管理システム

この回では、商家の経営管理の仕組みについて学ぶ。

第6回 第2章第1節 明治前・中期の日本経済

この回では、幕末の開港期から明治中期にかけての日本経済の動向や、近代化の初期条件について学ぶ。

第7回 第2章第2節 近代的経営組織の形成

この回では、近代産業の移植に不可欠な制度として、株式会社制度の普及やその担い手としての企業家、財閥の出現と発展などについて学ぶ。

第8回 第2章第3節 近代的経営管理の形成

この回では、近代産業企業の担い手として、技術者、近代的労働者の形成過程、近代的会計制度の形成と普及に

ついて学ぶ。

第9回 第2章第4節 明治国家と企業

この回では、「殖産興業政策」と呼ばれる近代産業企業の支援政策や金融機関が果たした役割を中心に、国家と企業の関係について学ぶ。

第10回 第3章第1節 日露戦後から昭和初年に至る日本経済

この回では、日露戦争後から昭和初年にかけての日本経済の動向について学ぶ。

第11回 第3章第2節 大企業時代の到来

この回では、企業の合併、統合による大企業の登場や、財閥間競争、そしていわゆる「財界」の形成について学ぶ。

第12回 第3章第3節 新興産業の勃興と産業開拓活動

この回では、新興財閥の形成や、都市化の進展を背景にした都市型産業の形成と発展、在来産業の発展過程について学ぶ。

第13回 第3章第4節 企業活動の国際化

この回では、この頃から活発になり始めた日本企業の国際進出や、外国企業の日本市場進出とそのインパクトについて学ぶ。

第14回 第3章第5節 経営管理の進展

この回では、財閥傘下企業を中心に大企業に登場した専門経営者の成長や、人事管理制度、「科学的管理法」と呼ばれる近代的な経営合理化策の導入過程について学ぶ。

第15回 第4章第1節 戦前から戦後へ

この回では、1930年代から第2次大戦期、戦後復興期にかけての日本経済の動向について学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

伊藤 健

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

企業経営や行政などにおける意思決定では、データに基づいた合理的な判断を行なう必要がある。本演習では、そのような場合に有効な基本概念と、現実の場面で利用できる実用的手法を習得することを目標とする。

< 到達目標 >

- ・データに基づく意思決定基本概念の理解
- ・表計算ソフトによるデータ分析手法の習得

< 授業の進め方 >

担当者による説明(講義)だけの回もあるが、基本的には筆記、あるいは表計算ソフトによる演習を実施する。

< 履修するにあたって >

正当な理由の無い欠席、無断欠席は厳禁で、ゼミの除籍判断材料となるので注意すること。表計算ソフトを利用

するため（担当者はMicrosoft Excelで説明する）、ファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

テキストを指定しないため、基本的には予習のような準備作業は発生しないが、毎回の内容を復習したり、課題に取り組むことが予習につながるため、そのような作業を行う必要がある。また、履修者に発表を割り当てた場合には、その準備を十分に行う必要がある。

<提出課題など>

課題を出題する回もあるので、その場合には必ず期限内に提出すること。

<成績評価方法・基準>

演習参加への積極性（出席回数、発言内容等）を50%、課題の状況（提出実績や質）を50%で評価する。

<テキスト>

指定しない

<参考図書>

必要に応じて指示、または配布

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本演習（IB含む）の進め方など注意事項を説明する。

第2?4回 データに基づく意思決定の基礎

経営におけるデータに基づいた合理的な意思決定の概要や重要性について議論する。

第5?8回 表計算ソフト（Excel）の基本操作と統計データ分析

データを分析するために必要な表計算ソフトの基本的な操作方法や、各種ツールの利用方法を確認する。

第9?14回 需要の分析

経営意思決定に必要な情報である需要の分析方法について議論する。

第15回 予備日

進捗状況により各回の内容は多少変化するため、それに応じて当該講義内容を決定する。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

江頭 寛昭

<授業の方法>

演習（またはリアルタイム授業）

<授業の目的>

この科目は、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得することを目指す。

選択必修科目の中のコア科目で、専門科目で学んだ知識をもとに経営の問題を総合的に分析・解析する実践的な技能を身に着けることを目指す。

中小企業は事業所の99%を占めるなど、産業の中で重要な役割を果たしており、大手企業が作る工業製品もその部品の多くが中小企業によってつくられています。しかし、グローバル化をはじめとする社会の変化のなかで、大手企業と中小企業が作り出してきた関係も大きな変化を迫られています。そこで、このように変化する現代の産業活動や取引関係について、自動車産業やアパレル産業など身近な産業・企業を取り上げながら議論していき、日本の現代の産業・企業が有する特徴を捉え、抱える課題について議論し、理解を深めることを目的とする。
なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究者として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な知識をもとに指導を行う。

<到達目標>

演習 で取り組む卒業論文作成のために必要な知識の獲得することができる。報告・レポートに関する技能の習得と卒論のテーマ選定に必要な課題の絞り込みを行うことができる。

<授業のキーワード>

企業、業界、経営理念、経営戦略、グループワーク

<授業の進め方>

演習 Aでは、それぞれ順番に課題を提示し、リサーチ、レポート作成、報告を行っていただきます。

<履修するにあたって>

ゼミは全員参加を原則とし、やむを得ず欠席の際には必ず連絡のこと。

<授業時間外に必要な学修>

リサーチはできるだけ多くの資料に接し、その資料を丁寧に整理することが欠かせません。リサーチとプレゼンテーションのための準備を丁寧に行う必要があります。

<提出課題など>

毎回担当を決め報告していただき、報告をもとに参加者全員で議論していただきます。

<成績評価方法・基準>

欠席回数が3分の1を超える場合は評価対象といたしません。報告内容と議論参加への積極性、受講態度をもとに総合的に判断し、評価します。

<テキスト>

必要に応じて指示します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ゼミでの1年間の活動内容について説明します。

第2~3回 リサーチ・レポートの準備と下調べ

企業や業界を具体的に取り上げ、リサーチテーマを選択し、リサーチの準備について解説します。

第4~7回 リサーチ・レポート（前半）

リサーチ・レポートを行っていただきます。

第8~9回 リサーチ・レポートの準備と下調べ（後半）

リサーチ・レポート（前半）での質疑の内容を反映させ

て、より深めたりサーチ・レポートのためのテーマの再設定と準備をしていただきます。

第10～13回 リサーチ・レポート（後半）

リサーチ・レポート（前半）での質疑の内容を反映させて、より深めたりサーチ・レポートを行っていただきます。

第14～15回 総括と演習 Bに向けての準備

前半と後半のリサーチ・レポートの総括を行い、演習 Bの個人によるリサーチテーマの絞り込みを行います。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

大角 盛広

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

一大産業となっているソフトウェアの根幹を成すプログラミングについて学び、IT業界に関係する方面への就職を考えている学生にとって必要な素養が身につくことを目的とする。与えられたソフトウェアを使うだけではなく自分で作ることもできるという事実を学ぶ。

あえて目的を絞り込み、プログラミングの基礎の基礎である変数と制御構造のみを徹底的に学び、実際に自分でプログラムができるようになることを目的とする。

この授業は、情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPIに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からソフトウェア開発について解説する。

< 到達目標 >

ソフトウェアの成り立ちについて理解する。

プログラミング言語おける変数と制御構造について理解する。

外部からの入力に対して反応して出力を行うプログラムを自力で作成できる。

< 授業のキーワード >

コンピュータ言語、アルゴリズム、変数、制御構造、データ構造

< 授業の進め方 >

Windows用パソコンを使用する

< 授業時間外に必要な学修 >

プログラミングを学びはじめの頃は1週間に1度では忘れてしまうので、毎回自宅等で練習問題を解いて復習をすること。なお、授業ではかなり多くの練習問題を課すが、いくつかの「難」印のついたものについては授業では解答を明示せずヒントしか与えないので自力で考え抜くこ

と。

< 提出課題など >

特になし。

< 成績評価方法・基準 >

練習問題・応用問題への取り組み状況により100%評価する。

< テキスト >

教材としてプリントを配布する。

< 参考図書 >

「C言語入門」, 大角盛広, 西東社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、評価方法等について説明を受ける

第2回 コンピュータ言語・スクリプト言語とは

マウス等で画面上のメニューを選びながらの処理ではなく、あらかじめ処理手順を文字で記述しておくという概念を学ぶ

第3回 変数と制御構造

繰り返しの概念、繰り返しを制御するための変数について学ぶ

第4回 変数と制御構造

場合分けの概念、場合分けを制御するための変数について学ぶ

第5回 洗練された制御構造

for-nextによる繰り返しについて学ぶ

第6回 洗練された制御構造

whileによる繰り返しについて学ぶ

第7回 練習問題

練習問題を自分でプログラムすることで知識・技術を定着させる

第8回 応用問題

少し考える必要のある問題をプログラムすることで、思考力・応用力を身につける

第9回 入出力

プログラム実行中にデータを取り込む方法について学び、文字表示位置の変更等の見せ方の技術についても学ぶ

第10回 入出力

プログラム実行中にデータを取り込む方法、および文字表示位置の変更等のバリエーションについて学ぶ

第11回 練習問題

練習問題を自分でプログラムすることで知識・技術を定着させる

第12回 応用問題

少し考える必要のある問題をプログラムすることで、思考力・応用力を身につける

第13回 まとめと復習

まとめと復習をおこなう

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

小川 賢

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

ビジネスの問題を発見し解決する能力を修得するために経済学の基本的な考え方を学ぶ。あわせて、統計とITリテラシーの向上をはかる。

< 到達目標 >

経済学の考え方を身に着ける。

データ分析の基本を理解している。

< 授業の進め方 >

グループワークまたは個人でのレジュメによる報告を中心に進める。必要に応じてディスカッションを行い、その理解を深める。

< 履修するにあたって >

単位修得には毎回の講義中のコメントが必要である。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前にテキストに目を通して、説明資料を作成する。質問を考えておく。

1回の講義は1時間程度の授業時間外の準備が目安である。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミでの報告・発表内容(70%)と報告・発表を聴く姿勢・聴いての質問やコメント(30%)で評価する。

< テキスト >

伊丹敬之著『経済を見る眼』東洋経済新報社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの進め方。グループ分け。

第2回～第3回 学習の準備

テキストを読む、調べる、関連書籍を読む、レジュメを作成し報告するための基本を学ぶ。

第4回～第11回 経済学の基礎

情報や情報通信産業と企業の経済活動や私たちの生活がどう変わっていくのかを理解するための経済学の基礎を学ぶ。

第12回～第14回 情報学の基礎

情報を正しく判断する力メディアリテラシーの基礎を学ぶ。

第15回 まとめ

これまでに学んだことを総括する。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

小澤 優子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 >

この科目は、学部のDPにある経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指すものである。経営学に関する基礎知識を必要とします。

今日の企業において、近年、比較的新しい問題領域が重要視されている。企業が我々ステークホルダーに与える影響が大きくなっているために、企業の果たすべき責任を明らかにしようとする企業の社会的責任(CSR)に関するものがそれである。そして、その中でも、誰のために企業経営がなされるべきであるのか、如何に経営者をチェックするのか、などといったコーポレート・ガバナンス(企業統治)の問題がとりわけ重要な課題として指摘される。本研究演習ではこれらの問題を実践と理論の両側面から学習し、企業のあるべき姿を考えていく。まず、演習Aにおいては、それらの理論的な側面について検討していく。

< 目的 >

・企業経営の全体像を理解することができる。

・「企業の社会的責任(CSR)」と「コーポレート・ガバナンス」という問題について、説明することができる。

< 到達目標 >

・近年話題になっている問題について説明することができる。

・企業が取り組むべき課題に関心を持ち、自分なりの見解を明らかにできるようになる。

・実際の企業経営について、そこで生じる問題について理解し、対応策などを提示できるようになる。

< 授業のキーワード >

株式会社、CSR、コーポレート・ガバナンス、ステークホルダー

< 授業の進め方 >

少人数のグループワークが中心となります。

< 履修するにあたって >

積極的に授業やゼミ活動に参加することを望みます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間内に報告準備の時間はあまりとれないため、授業時間外にグループで集まって報告の準備をする必要があります。必ずグループ毎に相談をし、報告のための準備を主体的に行いましょう。また、報告が始まってからは、その内容の復習を事後学習として2時間程度行うことが不可欠となります。

< 提出課題など >

報告の際や期末にレポートなどの提出を求めます。報告の際のレポートは、次の演習の際にいくつかの回答をサンプルとしてあげ、理解を深めるようにします。また、期末のレポートに関しては、一人ずつ添削をしたうえで、提出の翌週に返却します。

演習科目ということを考え、報告の際に意見や疑問点を積極的に発言するようにしましょう。

< 成績評価方法・基準 >

3分の2以上の出席が必要となる。そのうえで、発表(30%)や質疑応答への参加状況(40%)を中心に、授業毎の課題や期末レポートの提出状況(30%)をあわせて総合的に判断する。

< テキスト >

特定のものは使用しない。

< 参考図書 >

伊丹敬之『日本型コーポレートガバナンス』日本経済新聞社、2000年。

佐久間信夫 編著『現代経営学』学文社、2005年。

吉田和夫・大橋昭一監修『基本経営学用語辞典』同文館出版、2015年。

これ以外に、必要に応じて授業中に指示します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

演習 の進め方などについて説明する。

第2・3回 コーポレート・ガバナンスとCSRに関する基本的な見解

CSR(企業の社会的責任)とコーポレート・ガバナンス(企業統治)に関する基本的な見解を学習する。そのうえで、この回以降の報告に向けて、グループ分けしたり担当箇所を決定したりしていく。

第4・5・6回 報告の準備

報告に向けて、グループ毎に準備を進めていく。その過程で、図書館の利用方法や、日経テレコンの使い方、また、有価証券報告書やCSRレポートなどの見方を学習していく。

第7回 中間報告

報告に向けての内容確認や進捗状況などについて、中間報告をグループごとに行う。

第8・9・10回 企業形態の発展、ならびに、CSRとコーポレートガバナンス

まずは株式会社に至るまで企業がどのように発展したのか、それによって、どのような問題が企業にとって重要になったのかを学習する(1グループ目)。また、CSRとコーポレートガバナンスの理論的な内容に関して、2・3グループ目の報告を基に議論をしていく。

第11・12回 事例研究

前回までの学修内容をもとに、CSRとコーポレートガバナンスに関して、実際の企業が公表しているそれらのレポートを検討していく。

第13・14回 レポート作成

演習 Aで学んだ内容について、各自レポートを作成することを通じて、その内容の確認を行う。

第15回 演習 Aのまとめ

これまで学んだことに関する内容の確認を行う。また、レポートを返却する。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

河瀬 豊

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

各自研究テーマを設定し、そのための基礎的な知識を修得する。

本演習では、DPに示す「企業等の財務・会計に関する基礎から応用に至るまでの知識・技能を学修する」ことを目指す。

< 到達目標 >

- ・リサーチ・クエスチョンを設定する。
- ・初歩的な論理的思考力を身につける。
- ・社会人に必要とされる時事問題は何かを知り、議論できるようにする。

< 授業のキーワード >

リサーチ・クエスチョン, 演繹的推論, 財務会計, ファイナンス

< 授業の進め方 >

演習形式で行う。受講生は、教科書を輪読したり、時事問題について発表し、皆で議論する。

< 履修するにあたって >

日商簿記2級程度の知識があることが望ましい。税務会計・ , 会計学概論・ の科目を履修していること、あるいは、並行して履修すること。財務会計の学習をするにあたっては、会計法規集は当然に必要である。

なお、受講生の希望や理解の状況により、内容を変更する可能性がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

会計の知識が不十分な状態で本演習を履修することになった者は、ゼミが始まる前に簿記論・ の内容を復習し、日本商工会議所簿記検定試験の商業簿記2級を学習し、指定図書を読んでおくこと。

報告者は相当の準備が必要である。その他の受講生は、教科書等の文献を十分に読んでから演習に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

報告内容、レポート、ゼミへの貢献(例えば、有益なディスカッションなど)、小テストを行った場合はテストの点数、受講態度等、総合的に評価する。評価方法の詳細については1回目に説明する。なお、ゼミについては

原則としてすべて出席すべきなので、欠席については相当な減点対象となる。

<テキスト>

桜井久勝（最新のもの）『財務会計講義』中央経済社。

<参考図書>

中央経済社編（最新のもの）『会計法規集』中央経済社。

日本公認会計士協会・企業会計基準委員会編（最新のもの）『会計規則集』日本公認会計士協会出版局。

<授業計画>

第1回 ガイダンス及び科学哲学について

受講における詳細な注意事項と輪読の担当者を決める。

科学とは何かについて議論する。演習内容は、各自のテーマに基づいて履修者が報告する形式で行う。シラバスには、財務会計をテーマに選んだときの例を示す。

第2回 演繹的推論とロジカルシンキング

論理学のごく初歩的な知識を確認し、経営学ではどのように応用されているかを知る。

第3回～第5回 財務会計の体系

財務会計の機能と制度、利益計算の仕組み、会計理論と会計基準、及び利益測定と資産評価の基礎概念について学ぶ

第6回 金融商品の会計

現金預金と有価証券について学ぶ

第7・8回 営業循環

売上高と売上債権、棚卸資産と売上原価について学ぶ。

第9・10回 固定資産・繰延資産

有形固定資産と減価償却、無形固定資産と繰延資産について学ぶ。

第11回 負債

負債について学ぶ。

第12回 純資産

株主資本と純資産について学ぶ。

第13回 計算書類

計算書類の作成と開示制度について、財務諸表と比較しながら学ぶ。

第14回 外貨建取引等の換算

外貨建取引等の換算について学ぶ。

第15回 まとめ

これまでに学習した内容をまとめる。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

今野 勤

<授業の方法>

講義、演習

本講義は、実務経験のある教員による実践的教育から構成される授業科目である。

授業で利用する資料はOffice365のOneDriveの次のURLに保存しています。URLをコピー＆ペーストし、授業開始までにダウンロードしてください。

https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bt115117_ba_kobegakuin_ac_jp/EmXb0XKoDeFPqd3Zid5avm0BhiqmGTUBPI0N1_ATKUgV4A?e=fVy9ZY

連絡先 t-konno@ba.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて

授業を 実施します。

ただし、避難指示、避難勧告 が発令されている場合は ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

<主題>

企画力をつけよう

学生諸君は、A社のスマホや携帯端末のようなヒット商品をどのように企画しているか、知っていますか？これは、天才的な経営者のヒラメキだけではないのです。ヒラメキは商品のひとつの仮説（こういう商品があったら売れる）です。仮説が本当に正しいかどうかは、市場情報を収集、分析し仮説が正しいということを立証しなければなりません。

ゼミでは、この仮説の立て方、市場情報の収集、分析法を勉強します。具体的には、エクセルで作った例題を通して、これらの方法を学びます。したがって、エクセルの使い方の勉強にもなります。さらに情報収集ではインターネットのサイトの見方、プレゼンテーションのやり方とパワーポイントの使い方の勉強にもなります。ゼミでは、PCが使える部屋を用意しますのでUSBを持参するだけで結構です。

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、

1．現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために

有用な知識を総合的に学修する。

3．情報通信技術（ICT）を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題

をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

に対応している。

<到達目標>

企業において、商品企画ができるプランナーになる。

<授業のキーワード>

商品企画 インタビュー アンケート コンジョイント分析

<授業の進め方>

テキストによる解説と演習を繰り返す。成果を発表し、採点する。コロナの事情から、成績は、課題を提出していただき、それを評価する。

<履修するにあたって>

授業時には必ずUSBメモリを携帯する

<授業時間外に必要な学修>

学内外で、インタビュー、アンケートデータを収集すること。半年で、6時間

<提出課題など>

授業時に課題を発表し、期限までに課題を提出を実施する。また、授業中に受講者の意見や疑問点について自発的発言を求めることがある。

<成績評価方法・基準>

半期10回以上の出席、半期2回程度の課題提出

<テキスト>

今野 勤 「データ解析による 実践マーケティング」 日科技連出版

<参考図書>

今野 勤 他 『QFD・TRIZ・タグチメソッドによる開発・設計の効率化』日科技連出版

<授業計画>

第1回 クラス・ガイダンス

このクラスの全体の狙いを説明。顧客満足の考え方、PDCAサイクルのまわし方について、解説する

第2回 既存商品・サービスの顧客満足の向上1

現在、販売している商品・サービスの顧客満足の向上について理解する

第3回 既存商品・サービスの顧客満足の向上2

インタビューにおける質問項目の作成方法を、演習を通じて理解する。

第4回 既存商品・サービスの顧客満足の向上3

インタビューの演習をする。友人などの外部の人にインタビューをする。

第5回 既存商品・サービスの顧客満足の向上4

インタビューの結果をまとめる

第6回 発表1

インタビュー結果をまとめ、ゼミ内で発表する

第7回 既存商品・サービスの顧客満足の向上5

アンケート調査の方法を解説する

第8回 既存商品・サービスの顧客満足の向上6

アンケートの質問項目を作成する。

第9回 既存商品・サービスの顧客満足の向上7

アンケート調査を実施する。

第10回 既存商品・サービスの顧客満足の向上8

アンケート・データの分析方法を演習を通じて理解する。

第11回 既存商品・サービスの顧客満足の向上9

パワーポイントの使い方を演習を通じて理解する。

第12回 既存商品・サービスの顧客満足の向上10

うまいプレゼンテーションの方法を演習を通じて理解する。

第13回 既存商品・サービスの顧客満足の向上11

発表準備として、発表資料を作成する。

第14回 まとめ

発表原稿の作成、と発表方法を練習する

第15回 発表2

発表と講評及び採点をする

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

塩出 省吾

<授業の方法>

対面授業（演習）

<授業の目的>

この演習では「アンケート調査」ということをテーマにして学習する。社会では電話、街頭、インターネット、郵送を通じて様々なアンケート調査が行われている。このようなアンケート調査について、良いアンケート調査の方法を学習し、実際にアンケートを作成・実地調査し、さらに調査結果を分析する方法について学習し理解することを目的とする。演習Aでは前期にアンケート調査について学習し、毎年実施しているアンケート調査について見直しと実地調査を行う。これは一種のアクティブ・ラーニングの実施である。

<到達目標>

- ・統計調査および分析を理解することができる。
- ・経営のためにより良い意思決定をすることができる。
- ・目的に応じた適切なアンケートを各自作成できるようになる。
- ・アンケート調査を実際に企画し実施することによってアンケート調査の問題点を学ぶことができる。

<授業のキーワード>

アンケート調査、統計分析

<授業の進め方>

アンケート調査の手法について学び、実際の問題に適用することによって様々な問題点があることを学ぶ。

<履修するにあたって>

ゼミ活動としては学外で実施するアンケート調査も含まれる。また、普段から身の回りのアンケートについては各自が関心を持ってテーマとしてゼミに持ち込んで欲しい。例年6月10日の「時の記念日」から始まる1週間を明石では「時のウィーク」とし、その期間中の日曜日（今年は6月16日）がメインデーで、様々なイベント催しが明石公園を中心に開催されている。このゼミではこの地域の行事ににおいて、メインデーに来場する人に「時のウィーク」に関するアンケート調査を実施することで参加し地域貢献に協力している。一般の来場者にアンケートを取ることでアンケートの作り方や現場での取り方を体験学習する。新型コロナの状況によっては「時のウィーク」のアンケート調査は実施しないこともある。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞や雑誌、本から関心のあるデータを集める。

< 提出課題など >

アンケート調査の実施にに関して、各自レポートにまとめ提出する。

< 成績評価方法・基準 >

受講状況および時間内の発表50%、レポート50%で評価する。

< テキスト >

必要に応じて資料を配布する。

< 参考図書 >

朝野熙彦著『アンケート調査入門』（東京図書）

安藤明之著『初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』（日本評論社）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

1年間で学ぶことがらについて説明する。

第2回 ゼミキャリアガイダンス

3年次になって、企業を見る視点について学習する。

第3回 アンケート調査の方法

より良いアンケートの作り方について学習する。

第4回 アンケート調査の方法

より良いアンケートの作り方について学習する。

第5回 アンケート調査の方法

より良いアンケートの作り方について学習する。

第6回 アンケート調査の方法

より良いアンケートの作り方について学習する。

第7回 アンケート調査紙の作成

明石で開催されるイベント「時のウィーク」のメインデーに調査するアンケート用紙の作成を行う。

第8回 アンケート調査紙の作成

明石で開催されるイベント「時のウィーク」のメインデーに調査するアンケート用紙の作成を行う。

第9回 アンケート調査紙の作成

明石で開催されるイベント「時のウィーク」のメインデーに調査するアンケート用紙の作成を行う。

第10回 アンケート調査の実施（学外研修）

イベント「時のウィーク」のメインデーに会場の明石公園でアンケート調査を実施する。

第11回 アンケート調査結果の集計

明石で開催されるイベント「時のウィーク」のメインデーに調査したアンケート調査用紙の集計を行う。また、反省会も行う。

第12回 アンケート調査の分析法

アンケート調査の分析方法について学習する。

第13回 アンケート調査の分析法

アンケート調査の分析方法について学習する。

第14回 「時のウィーク」アンケート調査結果の分析

「時のウィーク」のアンケート調査で得られたデータの集計結果を分析する。

第15回 「時のウィーク」アンケート調査結果の分析

「時のウィーク」のアンケート調査で得られたデータの集計結果を分析する。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

島永 和幸

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。コア科目に属し、3年次の演習科目として位置づけられる。3年前期（演習 A）では、企業価値経営に関する基礎知識について学習します。

< 到達目標 >

企業価値経営に関する知識について理解できる。（知識）、ディスカッションができる。（技能）、レポートが作成できる。（技能）

< 授業のキーワード >

企業価値経営

< 授業の進め方 >

報告者は、指定された内容についてレジュメに要約し、報告する。それ以外の者は、質疑応答等を行う。必要に応じてグループワークを行う。

< 履修するにあたって >

経営分析論 ・ や財務会計論 ・ の履修を希望する。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告者は、レジュメを作成し、必要部数をコピーして、ゼミ開始時に配布すること。（目安として1時間）

SDGsに関する新聞記事等に日ごろから目を通しておくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

報告者は、指定された内容についてレジュメに要約し、

報告する。それ以外の者は、質疑応答等を行う。必要に応じてグループワークを行う。

<成績評価方法・基準>

ゼミでの発表、質疑応答、グループワークへの取り組み状況、レポート課題など(100%)を総合的に勘案して評価する。

<テキスト>

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版、2021年、4,620円。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準等を理解する。

第2回 序章

序章 価値思考が未来を変えるの内容を理解する。

第3回 序章

序章 価値思考が未来を変えるの内容を理解する。

第4回 第2章

第2章 企業価値経営のフレームワークの内容を理解する。

第5回 第2章

第2章 企業価値経営のフレームワークの内容を理解する。

第6回 第3章

第3章 財務諸表から読む企業活動の内容を理解する。

第7回 第3章

第3章 財務諸表から読む企業活動の内容を理解する。

第8回 第4章

第4章 戦略的ファンダメンタル分析の内容を理解する。

第9回 第4章

第4章 戦略的ファンダメンタル分析の内容を理解する。

第10回 第5章

第5章 経営戦略分析の内容を理解する。

第11回 第5章

第5章 経営戦略分析の内容を理解する。

第12回 第6章

第6章 会計戦略分析の内容を理解する。

第13回 第7章

第7章 電機業界のファンダメンタル分析の内容を理解する。

第14回 第7章

第7章 電機業界のファンダメンタル分析の内容を理解する。

第15回 まとめ

演習 Aのふりかえりと演習 Bに向けた準備を行う。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

島永 嵩子

<授業の方法>

演習形式。

<授業の目的>

この科目は、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得することを目指す。本ゼミは、コア科目に属し、3年次の演習科目として位置づけられる。本ゼミでは、流通業態を対象にして、各業態がどのような特徴をもっているのか、それはどのようにして誕生してきたのか、誕生してから今日までどのように進化してきたのか、といった点を中心に議論していく。演習 Aでは、体験型ビジネスゲームや流通・マーケティングの事例研究を実施する。マーケティングや流通の理論や手法について、グループ討議を通じて実践的に学習し、理解を深めることができるようになることを目的とする。

<到達目標>

ゼミ活動を通じて、マーケティングや流通の理論や手法について理解を深める。

<授業のキーワード>

流通、事例研究

<授業の進め方>

グループでの発表およびグループディスカッション形式をとる。

<履修するにあたって>

ゼミでは、毎回の出席が基本です。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習として、流通業態に関する資料収集やグループ活動を行うこと。(目安として2時間)

<成績評価方法・基準>

発表の内容(50%)やゼミへの貢献度(50%)によって総合的に評価する。

<参考図書>

石井淳蔵・向山雅夫編著(2009)『小売業の業態革新(シリーズ流通体系)』中央経済社。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ゼミの進め方を理解する。

第2回 情報探索講座

図書館を活用した情報収集の仕方について理解する。

第3回 ビジネスゲームについての説明

グループ分けや事前準備を行う。

第4~5回 ビジネスゲームの実施

体験型学習ゲームを通して、マーケティング・流通の基礎を実践的に学習する。

第6回 ビジネスゲームの振り返り

ビジネスゲームで学んだことを整理する。

第7～8回 ケース・スタディ1

マーケティング・ミックスについて理解を深める。

第9～10回 ケース・スタディ2

事業の定義などについて理解を深める。

第11～12回 ケース・スタディ3

流通チャネルのデザインについて理解を深める。

第13～14回 ケース・スタディ4

ダイヤモンドチェーン・マネジメントについて理解を深める。

第15回 全体のまとめ

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

千田 直毅

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本講義では、専門領域としての人的資源管理論における緒理論と企業における人的資源管理の実態を深く理解する、卒業論文の執筆に向けての基礎（論文の書き方、形式、資料の検索の仕方、調査の実施）を学ぶことを目的とする。

< 到達目標 >

人的資源管理論に関する知識の習得に加え、学術書および学術論文の読み方、文章の書き方といった、論文執筆における基礎的なスキルを体得する、企業調査・分析におけるグループワークを通してディスカッション能力の向上を目指す。また、企業の人的資源管理をより深く理解することを通じて、自身の将来のキャリア形成のための意識を高めることも目的としている。

< 授業の進め方 >

前期は少人数のグループに別れて人的資源管理のテキストを輪読し、人的資源管理論の基礎知識を習得するとともに、グループ発表を通じてプレゼンテーションのトレーニングを行う。

< 履修するにあたって >

ゼミにおいては参加者の積極性が非常に重要です。楽しく、有意義なゼミにするためにみなさんの積極的な参加を希望します。無断欠席・遅刻に関しては厳しく対処します。

< 授業時間外に必要な学修 >

グループワークにおける調査、分析、報告資料の作成等は講義時間外に行う必要があります。

< 提出課題など >

初回の講義において指示します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義における出席および事前レポート課題（50%）、報告やディスカッションにおけるクラスへの貢献（50%）

< テキスト >

上林憲雄他『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣ブックス。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ゼミの概要およびゼミの進め方の説明。

第2回 テキストの輪読、ディスカッション

人の管理とはどんなことか（人的資源管理入門）

第3回 テキストの輪読、ディスカッション

組織は人をどのように捉えるのか（人間モデル・組織行動）

第4回 テキストの輪読、ディスカッション

会社は誰が動かしているのか：コーポレート・ガバナンス

第5回 テキストの輪読、ディスカッション

人の働く組織をどのように作るのか（組織設計）

第6回 テキストの輪読、ディスカッション

組織は人をどのように雇い入れるのか（採用・配置）

第7回 テキストの輪読、ディスカッション

組織は人をどのように育てるのか（キャリア開発・人材育成・教育訓練）

第8回 テキストの輪読、ディスカッション

組織は仕事の結果をどのように評価するのか（評価・考課）

第9回 テキストの輪読、ディスカッション

組織は人をどのように処遇するのか（昇進・昇格）

第10回 テキストの輪読、ディスカッション

組織は人にどのような報酬を与えるのか（賃金・福利厚生）

第11回 テキストの輪読、ディスカッション

組織は辞めていく人とどのように関わるのか（退職）

第12回 テキストの輪読、ディスカッション

多様化する働く人たちを組織はどう管理するのか（女性労働・高齢者雇用）

第13回 テキストの輪読、ディスカッション

多様化する雇用形態を組織はどう管理するのか（非正規雇用）

第14回 テキストの輪読、ディスカッション

多様化する労働時間と場所を組織はどう管理するのか（裁量労働・在宅勤務）

第15回

テキストの輪読、ディスカッション

多様化する働く意味づけを組織はどう管理するのか（ワーク・ライフ・バランス）

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

田中 康介

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本ゼミでは、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目的とする。そのため本ゼミでは、地域や企業その他の組織が抱える問題や課題を解決する為の、プロジェクトプランやビジネスプランの企画立案や提案を、アクティブ・ラーニングとして行う。アクティブ・ラーニングとは（文科省：用語集より）、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称である。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

< 到達目標 >

1. 地域や企業その他の組織が抱える問題や課題を発見し、具体的に把握できる。
2. 上記の問題や課題を解決する為の、プロジェクトやビジネス等を企画立案できる。
3. 自らが調査研究して、まとめた内容を具体的に説明できる。

< 授業のキーワード >

問題の発見、課題の探索、解決案、ビジネスプラン、プロジェクトプラン

< 授業の進め方 >

グループ・ワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心にを行います。各自の自主性を尊重します。

< 履修するにあたって >

履修者には、調査や研究に対する積極的な取り組みが望まれます。ゼミ（クラス）では授業中、自主的・自発的な発言が求められます。無断欠席をしないで下さい（他のメンバーに迷惑が掛かることもあるので）。

< 授業時間外に必要な学修 >

ゼミ以外の時間でも、自主的・積極的に個人研究やグループ・ワークを行って下さい。

< 提出課題など >

上記の成果物（コンペやコンテストでの発表内容・作成資料）の提出は必須とします。

< 成績評価方法・基準 >

成果物（コンペやコンテストでの発表内容・作成資料）

50%、グループ・ワーク（ディスカッション・プレゼンテーション）等50%の割合で、成績評価します。但し評価対象は、出席回数が授業回数の3分2以上であることを前提とします。

< テキスト >

教材や資料は適宜配布します。

< 参考図書 >

必要に応じて指示します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス～イントロダクション

最初に、本ゼミの目的や方法、概要等について説明した上で、導入講義を行う。導入講義では、まず「ビジネスプランとは何か」（意味・意義）を理解し、そして、ビジネスプランの策定方法について理解していく。

第2回 イントロダクション～グループ分け

第1回に続き、導入講義を行うとともに、クラス全員を、1グループ数人ずつ、幾つかのグループに分ける。そしてグループ毎に、問題や課題の発見や設定に取り組む。

第3回 問題・課題の発見・設定

グループ毎に、問題や課題の発見や設定の為の、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第4回 問題・課題の発見・設定

グループ毎に、問題や課題の発見や設定の為の、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第5回 問題・課題の発見・設定

グループ毎に、問題や課題の発見や設定の為の、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第6回 問題・課題の発見・設定

グループ毎に、問題や課題の発見や設定の為の、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第7回 問題・課題の解決案の案出

第1グループ・第2グループで、問題や課題の解決案を案出する為の、ディスカッションやグループ・ワークを行う。

第8回 問題・課題の解決案の案出

第1グループ・第2グループで、問題や課題の解決案を案出する為の、ディスカッションやグループ・ワークを行う。

第9回 問題・課題の解決案の案出

第3グループ・第4グループで、問題や課題の解決案を案出する為の、ディスカッションやグループ・ワークを行う。

第10回 問題・課題の解決案の案出

第3グループ・第4グループで、問題や課題の解決案を案出する為の、ディスカッションやグループ・ワークを行う。

第11回 問題・課題の解決案の発表

第1グループ・第2グループで、まとめたプラン(解決案)について、その成果をを発表する。

第12回 問題・課題の解決案の発表

第1グループ・第2グループで、まとめたプラン(解決案)について、その成果をを発表する。

第13回 問題・課題の解決案の発表

第3グループ・第4グループで、まとめたプラン(解決案)について、その成果をを発表する。

第14回 問題・課題の解決案の発表

第3グループ・第4グループで、まとめたプラン(解決案)について、その成果をを発表する。

第15回 総括

グループ毎に、前期のまとめと振り返りを行う。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

辻 幸恵

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

企業経営に関する問題にさらに自主的に関心を深めるために、グループをつくり、各グループがマーケティング分野に属するテーマを決める。これらのテーマを調査し、分析する。この成果を神戸マルイ1Fの三宮フューチャーマーケットというコーナーで発表する。対象企業は地元の神戸にゆかりのある企業を優先する。学生自らがその企業の良さを顧客にアピールしたり、共に商品開発をする。このことによって、ビジネス全般にわたって活用するために必要な知識を総合的に学修できる。これは経営学部のディプロマポリシーと合致している。さらに経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。6月末には学会の年次大会でグループごとに口頭発表をする。学会発表はパワーポイントを使用するので、そのための資料づくりもおこなう。通信技術を用いて、情報を集め、さらにそれをプレゼンできるように加工することも、情報の整理技術を習得する機会となる。さらに実務経験のある教員として、結果の推測や予測する手助けとして具体例を示すことができる。

< 到達目標 >

1. 知識としてはマーケティングの基礎と現実的な商品や広告が理論的に説明できることを目標とする。
2. 態度・習慣としては、自分でテーマを選択し、そのテーマについて調べ、まとめ、発表することができるようになることである。また新製品をリサーチしようとする態度がみにつくことである。
3. 技術としては、人前で発言できる力、また人の話を正確に聞く力を身に付けることである。

< 授業のキーワード >

マーケティング、顧客満足、ブランド、キャラクター

< 授業の進め方 >

講義だけではなく、少人数のグループディスカッション

も取り入れる。発表などをした後は、各自にこちらからコメントカードを配布するので、それをよく読んで、次回に備えること。

< 履修するにあたって >

前期は6月の学会発表に向けてビジネスマナーなどもとりあげるので、マナーについての基本的な知識は学習しておくこと。具体的にはスーツの着こなし方、名刺の受け取り方、渡し方、自己紹介の方法などである。また、マーケティングに関するニュースなどには関心をもってほしいので、毎日、ニュースなどをチェックすること。新聞ならば朝刊、夕刊ともにチェックをすることを求める。また、毎回教材を指定しているので授業の後は該当教材の復習を各自がしておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスに示したとおり、テーマを選択したならば、そのテーマにそって文献などを読む必要がある。なお、キャラクターに関しては指定図書を活用すればよい。産学官との連携も積極的にすすめているので、その課題に対する学習は別途、ゼミ時間とは別に設ける。

< 提出課題など >

提出物としては、発表したときにまとめた資料などはまとめて提出してもらおう。前期も後期も同様である。

< 成績評価方法・基準 >

前期(1回目～15回目)は以下の3つの合計で評価をする。これらの合計が評価となる。

1. 総合評価点40点、0点から40点までで評価をする。総合評価点は毎回の授業内での態度、マナー、参加度の3つの視点から評価をする。1回の授業で0点から3点の配点になる。ただし9回目と15回目はこの日常点は含まれない。また別途、挙手や発表、課題への学外での取り組みは評価の対象とする。

2. 9回目：中間でのグループ発表30点、0点から30点までで評価をする。

3. 15回目：個別の課題発表30点、0点から30点までで評価をする。

後期(16回目～30回目)は以下の3つの合計で評価をする。これらの合計が評価となる。以下の詳細は前期と同じである

1. 総合評価点40点

2. 中間課題評価：30点

3. 16回目：個別の課題発表点30点、0点から30点までで評価をする。

< テキスト >

随時プリントを配布する

< 参考図書 >

辻幸恵『流行と日本人 - 若者の購買行動とファッション・マーケティング - 』白桃書房、2001年、2200円+税

< 授業計画 >

1回

ゼミの概要

ゼミの概要として、目的、内容、前期の到達目標、ゼミ内での約束事などを説明する。自己紹介などもおこなう。

2回 マーケティングの基礎用語の確認

マーケティングの基本を確認する。同時にこのゼミでは市場を中心に消費者行動にも着目をするので消費者の視点についても説明をする。

3回 テーマの選択

前期には身近な話題を中心にテーマを決めたいので、この時間に各自がどのテーマがよいかを決める。テーマごとに班分けをする。ちなみに昨年のテーマは雑貨が売れている理由、ファストファッションについて、スイーツの戦略などであった。今年もいくつか提示はするが、提示された以外のものでもかまわない。

4回 テーマにそってのアプローチについて

テーマにそってどのような視点から学習していけば、あるいは調査をしていけばよいのかについて基本的な文献検索からはじめる。また、テーマが大きい場合はどこから考えていけばよいのかを指示する。ここからはグループでの活動になるので、この時間内に各グループ内での役割も決定をする。

5回 テーマ発表への準備

各グループがテーマを決め、研究を開始しているはずである。最終的にはそれらを発表するが、その発表方法などをこの時間では確認をする。基本的には発表はパワーポイントの使用を考えている。

6回 各グループの中間発表

1ヶ月何をどの程度調べたのかについて各グループが報告をする。企業とのコラボの準備をすすめる。ホームページの見方、財務諸表の見方などを学習する。

7回 テーマ発表での注意事項

発表をする際の注意事項を確認する。発表時間、質疑応答時間、発表する際に準備するもの、マナーなどである。また聞く側の注意事項も説明をする。これらは、授業内だけではなく、今後、学会に行く場合などを含めて、報告する側、される側の態度やマナーもあわせて指導する。また、学会以外にも企業報告があるのでそちらには必ず参加するので、その準備をする。参加企業のホームページ、新製品は調べておく。

8回 テーマにそって各グループ発表

各グループが持ち時間内に発表をする。発表グループ以外のものが質問をするので、それにこたえる。

9回 グループ発表の反省会と新しい課題について

前回のグループ発表における反省事項を各自が述べる。またグループとしての評価を発表する。自分はグループ内でどのような貢献ができたのかについても考える。

10回 過去のヒット商品について

過去のヒット商品とその時代背景について説明をする。たとえば大正時代に流行をした竹久夢二の文具や、昭和

に流行をしただっちゃん人形など主に製品を中心にとりあげる。これらをヒントに現在、コラボ企画中の企業にも何が提案できるのかを各自が考える

11回 過去のヒット現象について

前回は製品を中心とした話であったので、今回は昭和に流行した現象について話をする。たとえばミニスカート、たけのこ族、アイドルブーム、宇宙戦艦ヤマトをはじめとしたアニメブームのさきがけなどである。お茶ブームを学習し、現在コラボ企画中の南京町の天福名茶の商品のアピール方法を検討する。

12回 現在のヒット商品について

主に2014年以降のヒット商品についての考察をする。ここでは過去の事例をふまえて、なぜそれらがヒットをしているのかについて議論をする。また、今後日本でヒットしそうな商品を雑貨や小物の中から探し、商品開発（フェリシモ、手芸メーカー）とのコラボに備える。

13回 研究テーマの選択

各自がヒット商品というテーマで調べることにするが、その際に何のヒットについてのテーマにするのかを決めてもらう。映画、音楽、事象、広告、製品などから選択をする。

14回 研究テーマへの取り組みの報告

各自がどのようなテーマで、何をどこまでどのような方法で調べているのかの報告を実施する。お互いに現状を知ることによって、各自が方法を見直すことができる。企業コラボの状況を各チームごとに情報共有する。

15回 研究テーマにそっての発表会

各自がテーマにそって発表をする。発表は2人一組になり、どちらがよかったのかを聞いている側が採点をする。夏休みの商品開発にむけてフェリシモチームは開発と情報発信に分かれる。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

福井 直人

<授業の方法>

演習（対面）

<授業の目的>

このゼミでは、組織と個人とのよりよい関係を考えることを目的とします。組織で働く人は、組織からの指揮命令に従うという点で他律性を帯びていますが、個人の自由意志を持って働くという点では自律性を帯びていません。他律性と自律性の相克をどのように止揚するかについて、働いて生きる（＝キャリア）、人と組織の能力を引き出す（＝人的資源管理）という2つのテーマを中心に研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。多くの優れた理論を学び、それ

を使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なうことも目的とします。演習 Aでは、ベーシックな教科書を1回で1章ずつ輪読する予定であり、各回2人ずつ報告者を指名する予定です。

<到達目標>

1. 人的資源管理の基礎的概念について説明できる。
2. モチベーション向上やリーダーシップ発揮に成功した企業の情報を独力で収集できる。
3. 身近な組織（サークル、アルバイトなど）に、あるべき人事制度を提案できる。

<授業のキーワード>

経営組織、人的資源管理、経営学研究方法論

<授業の進め方>

上述のとおり、各回2名ずつ報告者を指名し、1章ずつ教科書を読み進めていきます。もちろん報告者が一方的に話して終わりというのではなく、聴衆からの関連な議論を期待します。ディスカッションを通じて双方向のコミュニケーションのあり方も修得しましょう。もちろん意見を述べる上でのマナーも重要です。

<履修するにあたって>

少なくとも経営学入門の内容を復習しておいてください。本科目と非常に関連性の高い科目は経営組織論、経営管理総論、人的資源管理論ですので、それらの科目も受講を済ませておいて（あるいは並行受講して）ください。

<授業時間外に必要な学修>

事前に教科書の指定された箇所を読み、分からない語は辞典で調べる。（目安として1時間）

報告に指定された回は忘れずにレジュメを作成し、人数分印刷してくる。（目安として3時間）

事後に配布資料およびノートを見直す。必要に応じて教科書に立ち返る。（目安として1時間）

<提出課題など>

中間レポートと期末レポートを課します。中間レポートについては点数のみフィードバックし、期末レポートについては添削のうえ最終回に返却します。

<成績評価方法・基準>

報告25%、中間レポート25%、期末レポート50%

中間レポートについては教科書内容を確認するような簡易レポートを課す予定で、点数のみフィードバックします。期末レポートについては論理的思考力を問うために、教科書以外の事例を分析する課題を出す予定。こちらは添削のうえ最終回に返却します。

<テキスト>

上林憲雄編(2016)『ベーシックプラス人的資源管理』中央経済社。(2,640円)

<参考図書>

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。(3,080円)

<授業計画>

第1回 ゼミのイントロダクション

このゼミの概要について説明したうえで、人的資源管理とは何かについて簡単に説明します。研究倫理についても時間があれば言及するかもしれません。

第2回 人的資源管理入門

人的資源管理の定義、機能、特徴、史的変遷について調べます。(教科書第1章)

第3回 人間モデル

科学的管理法における経済人モデルから、人間関係論における社会人モデルへの移行について論及します。(教科書第2章)

第4回 組織構造

組織における分業と調整の仕組みについて、作業組織と管理組織双方の側面から考察します。(教科書第5章)

第5回 モチベーション

人の行動を引き起こすモチベーションについて、マズローやハーズバーグを代表とする内容理論を中心に学習します。(教科書第6章)

第6回 リーダーシップ

組織における対人影響のひとつとしてのリーダーシップについて、資質理論、行動理論などを中心に学びます。さらには変革型リーダーシップやサーバント・リーダーシップについても調べます。(教科書第7章)

第7回 コミットメント

組織と個人の関わりあいを表す概念である組織コミットメントについて考察を深めます。功利的と情緒的を対比的に調べましょう。(教科書第8章)

第8回 雇用管理

組織で働いてもらう従業員をどのように雇うか、雇用管理の問題を取り上げます。採用・異動・退職という一連のフローについて確認します。ただし内容は前2つが中心です。(教科書第9章)

第9回 人材育成

日本企業において従業員の能力向上がどのように図られているか、OJTやOff-JTの内実を確認しつつ、キャリア開発との連関についても問い直します。(教科書第10章)

第10回 評価

従業員の働きぶりを評価する仕組みとして、人事評価を取り上げます。評価技法と評価過程の双方についての理解を深めます。(教科書第11章)

第11回 昇進

組織における職位上昇である昇進について扱います。昇進の機能について考察した後で、昇進の頭打ちであるキャリア・プラトーの解消策について検討します。(教科書第12章)

第12回 賃金

労働の対価として支払われる報酬の中心である、賃金の支払いルールについて検討します。とくに賃金形態に注目し、日本企業において普及した職能給の長短を調べます。(教科書第13章)

第13回 労使関係

処遇改善や雇用保証のために、従業員が経営者に対してどのように対抗していくかを、労働組合の役割を中心に議論します。さらに日本的労使関係の特徴についても検討します。(教科書第14章)

第14回 国際人的資源管理

グローバル企業が国境を越えてどのような活動をしているかを確認したうえで、グローバル企業の人的資源管理のあり方について分化と統合の観点から考察します。(教科書第15章)

第15回 戦略的人的資源管理

経営戦略と適合的な人的資源管理のあり方を問います。(教科書第3章、第4章)

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

藤原 由紀子

< 授業の方法 >

演習(対面)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに掲げられている現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学習すること、また経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得することを目指している。経営学部のコア科目に属し、演習 B、演習 C・卒業論文の準備科目である。

海外市場での製品やサービスの販売に際して、多国籍企業はどのようなマーケティング活動を行っているのか。国内で行うマーケティングとの違いはどこにあるのか。本講義では、事例を用いて多国籍企業のグローバルマーケティングについての理論や概念について学ぶ。その後、理論や概念を使って実際の企業活動を分析し、その結果を発表する。発表はグループ単位で行う。本講義を通じて 理論や概念を使って現実の企業活動を分析する力、ディスカッションをする力の2つを習得することを目的とする。

< 到達目標 >

1. テキストの内容について理解し、レジュメを使って説明することができる。
2. 文献やインターネットを使って情報を収集することができる。
3. 学んだ知識や理論を使って、現実の企業活動について説明できる。
4. 調査や分析の結果を発表資料にまとめることができる。
5. まとめた資料を使って、発表したりプレゼンテーションすることができる。

6. グループのメンバーと共同作業をしたり、意見交換することができる。

7. 授業中に発言や議論することができる。

8. プレゼンテーションや発表に際して質問したり、質問に対して適切に答えることができる。

< 授業のキーワード >

多国籍企業、現地化、標準化

< 授業の進め方 >

・テキストを使ってグローバルマーケティングの基本知識を学ぶ。

・その後、学習した理論や概念を使って少人数によるグループワークを行い、その成果をプレゼンテーションしてもらう。

・プレゼンテーションした内容について、ディスカッションを行う。

・必要に応じて、就職活動に関する講演や実務家による講演を受講する。

・企業や他の大学とのアクティブ・ラーニングに参加する場合は、授業計画を変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

講義はグループ発表形式で行います。授業中に少なくとも1回は発言してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

レジュメづくり、その過程でのテキストおよび関連する文献の熟読、わからない用語調べなどを行う。

グループワークを完成させるための調査や作業を授業外に行ってもらいます。

< 提出課題など >

テキスト等についてのレジュメを使った発表以外に、グループワークの成果を発表したり、提出したりしてもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

単位の取得には、11回以上の出席が必要です。グループワークへの参加状況30%、授業中の質疑応答や議論への参加状況など30%、レポートや授業中の課題提出40%で評価します。

< テキスト >

『1からのグローバル・マーケティング』小田部正明、栗木契、太田一樹編著 2,400円+税

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容や進め方、評価の仕方について説明する。

第2～4回 国際貿易の理論と実際

(グループワーク)

なぜ貿易が行われるのか。この理由について、グループで考えて発表する。どのグループの案が妥当なのかを議

論した後、国際貿易の理論を学び、現実との違いについて理解する。

第5回 多国籍企業の市場参入形態（ゼミ生による発表）

グローバルマーケティングの発展を海外市場への参入形態から学ぶ。

また、グローバルマーケティングの発展を支えるものとして、国際経営を行う組織構造の変化についても学ぶ。

第6回 グローバルな文化環境（ゼミ生による発表）

グローバル化が進むと消費の均質化が進む一方、各国の文化の違いは消えることはない。この文化環境の多様性のなかで、どのようにマーケティングが行われているのか、その活動について学ぶ。

第7回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第8回 グローバル市場セグメンテーション

グローバルな市場で、企業がどのように買い手をグループ分けし、狙いを定めたセグメントにアプローチしていくのかを学ぶ。

第9回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第10回 グローバル・マーケティング戦略

世界各国でマーケティングを進めるなかで、活動を共通化するものと、国や地域の状況に合わせて個別に実施するものの2つの考え方が出てくる。ここでは、グローバルマーケティングにおける標準化と現地化戦略について学ぶ。

第11回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第12回 グローバル市場への参入戦略

グローバル・マーケティングの展開に大きく影響する海外事業の所有形態について学ぶ。

第13回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第14・15回 グローバル市場調査

（グループワーク）

グローバル市場調査の方法について学び、課題に取り組む。

第26回

第27～29回

第30回

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

松田 裕之

< 授業の方法 >

演習〔対面形式で実施〕

ただし、コロナ感染状況によってオンライン授業（リアルタイムとオンデマンドの組み合わせ）に変更する可能性あり。

< 授業の目的 >

入門演習、基礎演習 ・ の延長上にあり、より高度な専門知識や協働スキルを学修します。ヒト・モノ・カネ・情報から成る経営資源の中で、ヒト=人間が一番の要となります。あとの三つはヒトによる運営次第で価値が大きく変わるからです。この演習では、ヒト=人間の営みに社会・文化の観点から多面的にアプローチします。

< 到達目標 >

- (1)人間という多面的な存在の本質を考えていくことができる 態度
- (2)ものの見方のバリエーションを増やすことができる 知識
- (3)現代の企業経営に関する基本的知識を学修できる 知識
- (4)経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能をできる 知識・技能

< 授業のキーワード >

好奇心、他人への配慮、自己都合での行動抑止、信頼、協働

< 授業の進め方 >

『孫子』をテキストに使用します。

< 履修するにあたって >

感染状況が改善されて、移動・対人接触の危険性が緩和されれば、アクティブラーニングや課外学習を導入します。

< 授業時間外に必要な学修 >

グループ発表の準備とゼミ学習の復習のための時間を確保してください。

< 提出課題など >

『孫子』各篇にかんして4回のテーマを設定し、解答を指示した形式で作成してdotCampusで提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

グループワークへの取り組み、発表の内容、質疑応答の作法を総合的に評価します（60％）。

また、プラスアルファとして、アクティブラーニングの企画・実施に際しての自主性や課外学習の学習態度も評価対象とします（40％）。

< テキスト >

『孫子・三十六計』角川ソフィア文庫

< 参考図書 >

テーマに応じてその都度紹介します。

< 授業計画 >

第1回 自己紹介・ゼミナールの進め方

教員ならびにゼミ生の自己紹介のあと、上記の内容につ

いて詳細に説明します。

第2回 テーマの選定と分担の決定

グループ分けを実施し、各グループの担当篇を決定します。

第3回 模擬授業

ZOOMによる演習を試行し、問題点や改善点を話し合います。

第4～7回 ゼミ生による質疑応答

『孫子・三十六計』角川ソフィア文庫の各篇を読みながら、質疑応答を実践してもらいます。

第8～11回 ゼミ生による質疑応答

『孫子・三十六計』角川ソフィア文庫の各篇を読みながら、質疑応答を実践してもらいます。

第12～14回 ゼミ生による質疑応答

『孫子・三十六計』角川ソフィア文庫の各篇を読みながら、質疑応答を実践してもらいます。

第15回 総括と後期 Bの履修に関する注意

Aの総括と反省を各人に発表してもらい、Bの履修についての注意点および授業内容の予告を行います。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

宮本 幸平

< 授業の方法 >

演習・対面授業

< 授業の目的 >

本ゼミは、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能の習得のために、経済学及び会計学の基礎理論理解を主題とする。我々が暮らす社会は「経済社会」としての一面があり、これは「商品」の流通・消費によって生活が維持されることから伺える。こうした商品流通には「貨幣」が必要であり、したがって我々の暮らしにおいて貨幣が重要な意味を持つてくる。前期のゼミでは、「貨幣」の流れを計算・記録する財務会計の基本的な枠組み（会計学の基礎理論を含む）の理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、演習の運営を行うものとする。

< 到達目標 >

財務会計の主たる構成要素である財務諸表の体系と内容を理解できる。

財務諸表の機能を理解できる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。授業の最後に「まとめ」のミニレポートを作成します（10分程度）。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、財務会計の基本テキスト（任意）を読

んでおくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

講義終了後、ミニレポート（講義内容をまとめたもの）の作成を行う。次の回においてコメントを返す。

< 成績評価方法・基準 >

100%レポートで評価する。

< テキスト >

毎回、レジュメを配布する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション・会計基準および概念フレームワーク

最初に、授業方法、評価方法などの説明を行う。

わが国における会計基準の憲法的基準（メタ基準）である「企業会計原則」を概観するとともに、今般の国際標準となっている「国際会計基準」について概要を理解する。また、日本および国際会計基準の「概念フレームワーク」についても理解する。

第2回 財務諸表の機能

財務会計の主要な構成要素である財務諸表（貸借対照表・損益計算書など）について、体系と機能および表示内容について理解する。また、国際会計基準が規定する財務諸表体系との相違点を把握する。

第3回 「貸借対照表」の内容と機能

主要な財務諸表の1つである「貸借対照表」について、その基礎概念、機能、表示内容を総括的に理解する。また、国際会計基準との相違点についても把握する。

第4回 「損益計算書」と利益概念

主要な財務諸表の1つである「損益計算書」について、その基礎概念、機能、表示内容を総括的に理解する。また、国際会計基準で規定された「包括利益計算書」との相違点についても把握する。 <12:内容>

第5回 「キャッシュ・フロー計算書」の内容と機能

主要な財務諸表の1つである「キャッシュ・フロー計算書」について、その概念、機能、表示内容を総括的に理解する。また、国際会計基準との相違点についても把握する。

第6回 中間財務報告の内容と機能

「中間財務報告」およびわが国金融商品取引法で規定される「四半期財務報告」について理解する。

第7回 「セグメント情報」の内容と機能

国際会計基準で規定され開示が求められる「セグメント情報」につき、その機能と表示内容を理解する。

第8回 中間まとめ

第7回までのまとめを行う。

第9回 資産・負債評価（流動資産）

棚卸資産、有価証券、債権の評価につき、規定（国内および国際）、実務および理論を理解する。

第10回 資産・負債評価（固定資産・無形資産）

有形固定資産、無形資産の評価とその減価償却につき、規定（国内および国際）、実務および理論を理解する。

第11回 資産・負債評価（引当金）

引当金につき、規定（国内および国際）、実務および理論を理解する。とくに日本基準と国際基準の相違点である修繕引当金の取扱いなどについて、内在する論点を把握する。

第12回 利益概念

利益計算の主要概念である「発生主義」・「実現主義」・「費用収益対応原則」について、内在する会計理論を理解する。

第13回 当期純利益と包括利益

利益計算において、わが国で規定されている「当期純利益」と国際会計基準で規定されている「包括利益」について、理論・実務両面の相違点について理解する。

第14回 利益概念の国際化

利益概念の国際化に伴って留意すべき各論（工事契約・株式報酬・従業員給付・研究開発費など）について理解する。

第15回 学習内容の確認

総まとめを行い、知識の定着を図る。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

安井 一浩

< 授業の方法 >

演習を対面形式で行う。

< 授業の目的 >

将来的に会計専門家を目指す人を対象に、会計基準に関する知識を習得することを目的とする。まず教科書をもとに会計基準の内容を学習する。その後、自分の興味のある分野を選び、その分野に関する会計基準の概要および問題点に関する発表を行う。発表の後に公認会計士としての実務経験がある教員から、守秘義務を逸脱しない範囲で、実務の観点を踏まえたコメントがある。また他の学生からのコメントもあり、今後の学習において意識すべき問題点を認識することとなる。

< 到達目標 >

財務会計における重要な概念を理解すること到達目標とする。また最終的には日本商工会議所簿記検定1級合格のための知識の修得を目標とする。

< 授業のキーワード >

会計基準

< 授業の進め方 >

教科書に基づく討論と各人の発表を組み合わせる授業を進める。

また毎回、開始時に小テストを行う。

< 履修するにあたって >

指示がある回には電卓を持参すること。またわからないことがある場合には、その場で質問を行い疑問点を残さ

ずに帰るようにすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞および他の報道において企業の財務内容開示に関するニュースがあれば、必ず目を通しておくこと。また教科書から関連する部分を見つけ出し読むことが必要となる。これらに要する時間は1週間当たり1時間である。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト50%、発表（コメントを含む）50%の割合で評価する。また資格試験、検定試験等の合格状況を加味する。

< テキスト >

桜井久勝、須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣。授業開始日現在における最新版とする。

< 授業計画 >

第1回 授業の進め方の説明

授業の進め方についてガイダンスを行う

第2回～第5回 財務会計の基礎概念

教科書に基づいて財務会計の主要論点の基礎概念について説明を行う。

第6回～第8回 発表

原則として各回二人ずつ、1人目から6人目のゼミ生が、各自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。資料を作成すること。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。

第9回～第11回 発表その2

原則として各回二人ずつ、7人目から12人目のゼミ生が、各自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。資料を作成すること。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。

第12回～第14回

発表その3

原則として各回二人ずつ、13人目から16人目のゼミ生が、各自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。資料を作成すること。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。

なおゼミ生の人数の関係で発表が終了した場合には、教科書を用いてその内容の解説を行う。

第15回 校外学習

地元神戸の産業について理解を深めるため、校外学習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

柳 久恒

< 授業の方法 >

「対面授業」

本学の方針に則り、対面授業を行う。

< 授業の目的 >

本授業は、受講生のスポーツへの興味関心を高めるとともに、「スポーツマーケティング」や「スポーツマネジメント」に関する実践的な知識と技術を習得することを目的とします。

< 到達目標 >

・目的に即してプロジェクトを企画&立案し、実施することができる。

・アイスブレイクやグループワークなどを通じて受講生同士の親睦を深める。

< 授業のキーワード >

スポーツマーケティング、スポーツマネジメント

< 授業の進め方 >

自分(たち)で目的に即したプロジェクトを企画&立案して実施する。

< 履修するにあたって >

・原則として、毎回の授業に出席すること。

・授業を欠席する場合は、当該授業開始時刻までに連絡すること。

・無断で授業を欠席した場合には、厳しい減点を科す。

・学外のスポーツ関連の企業や施設、イベントを訪問することがある。(予定)

・授業計画は、授業の進み方等により、多少前後することがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で課された課題に取り組む。

< 提出課題など >

グループや個人に企画書の作成とパワーポイントを用いたプレゼンテーション、プロジェクトの実施を課す。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は、グループや個人の企画書と発表、プロジェクトの実施結果などを総合して行う。

< テキスト >

必要に応じて資料を配布、紹介する。

< 参考図書 >

「図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント」
山下秋二、中西純司、松岡宏高(編著)、大修館書店(2016年)。

「ゴールは偶然の産物ではない~FCバルセロナ流世界最強マネジメント~」フェラン・ソリアーノ(著)、グリーン裕美(翻訳)、アチーブメント出版(2009年)。

「スポーツマネジメント入門: プロ野球とプロサッカーの経営学」西崎信男(著)、税務経理協会(2015)。

「スポーツの資金と財務」武藤泰明(著)、大修館書店(2014)。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方と評価方法の説明、意見交換を行う。

第2回 キーワードの検討

興味・関心のある問題や課題について検討し、オリジナリティ溢れるキーワードを設定する。

第3回 テーマの設定

設定したキーワードからテーマを設定する。

第4回 文献資料の収集

テーマに即した文献資料、情報を収集し、企画書の作成準備を行う。

第5回 企画書作成の相談

進捗状況の確認と議論を目的として、個人またはグループで検討した課題に関する資料を作成する。

第6回 企画書作成の相談

進捗状況の確認と議論を目的として、個人またはグループで検討した課題に関する資料を作成する。

第7回 企画書作成の相談

進捗状況の確認と議論を目的として、個人またはグループで検討した課題に関する資料を作成する。

第8回 企画書の発表

発表(個人またはグループ×発表15分+質疑応答10分)

第9回 企業・施設・イベント訪問

スポーツ関連の企業・施設・イベントを訪問し、スポーツ関連の産業、ビジネスに関する理解を深める。

第10回 プロジェクトの実施検討

プロジェクトの実施を検討する。

第11回 プロジェクトの実施検討

プロジェクトの実施を検討する。

第12回 プロジェクトの実施

企画立案したプロジェクトを実施する。

第13回 プロジェクトの実施

企画立案したプロジェクトを実施する。

第14回 発表

発表(発表15分+質疑応答10分)

第15回 発表と総括

発表(発表15分+質疑応答10分)と総括を行う。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式授業を実施します。しかし、状況が変わった場合は、オンライン授業になることがあります。

< 授業の目的 >

(主題)

管理会計における管理工学的な技法を課題 (調査・研究対象) として選定し、その調査・研究成果を課題研究報告書として制作する。管理工学的な論理は画一的概念ではなく、多義的な解釈を許容する。よって、既存概念を新たに論理展開させる余地を有している。課題を、調査・研究し、革新的な論理を新たに導き出すことが、演習の目的である。そのためには、自由な解釈や思想、そして発想を持ち合わせる事が重要である。調査・研究の方法は、文献研究やデータ分析、ネット検索など多様な方法を活用する。

(目標)

課題における革新的な論理を、根拠をもって概説し、実態組織に適用 (準用) する場合の実施可能性を提唱でき、卒業論文の執筆に寄与するほどの完成度を達成させることである。

< 到達目標 >

管理会計の多くの技法を学び、それぞれの管理工学的見地を認識することで、実社会での管理会計の位置付けや必要性を認識すること。唯物論ではない技法であるため、個人的な見解を持ち合わせることができれば幸いとなる。

< 授業のキーワード >

カスタママネジメント・テクニカルマネジメント・ヒューマンマネジメント

< 授業の進め方 >

自らが選定した研究テーマを、自律的に進めて行く。研究の方法や情報収集の仕方、さらに集約の仕方などについて、適時に指導する。

< 履修するにあたって >

別段の理由がない限り、欠席を想定していない。(原則 3 回以下)

< 授業時間外に必要な学修 >

多くの書籍を図書館で活用すること。

< 提出課題など >

適時に、提出を課す。

< 成績評価方法・基準 >

調査・研究への取組み姿勢や積極的参加度により評価する。

< テキスト >

随時、指導する。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

管理会計技法について体系的な概説を行う。

第2回 管理会計技法の調査

管理会計における管理技法を収集し整理・検討する。

第3回 管理会計技法の識別

目的適合性に合わせた技法を類別する。

第4回 管理会計技法の調査・研究対象の選定

調査・研究対象とする管理会計技法を選定する。

第5回 管理会計技法の調査・研究対象の情報収集

文献等やデータの収集を行う。インターネットも活用する。

第6回 管理会計技法の調査・研究対象の分析

文献等やデータによって情報収集された結果を分析する。

第7回 管理会計技法の調査・研究対象の視点整理

調査・研究対象の解すべき視点や論点を洗い出す。

第8回 管理会計技法の調査・研究結果の報告レポート

作成

洗い出された視点や論点をレポートにまとめる。

第9回 管理会計技法の調査・研究結果の報告会と討論

報告をもとに討論を行う。

第10回 管理会計技法の調査・研究結果の報告会と討論

報告をもとに討論を行う。

第11回 管理会計技法の調査・研究結果の報告会と討論

報告をもとに討論を行う。

第12回 調査・研究の展開

調査・研究をさらに深化させる。

第13回 調査・研究の展開

調査・研究をさらに深化させる。

第14回 調査・研究の展開

調査・研究をさらに深化させる。

第15回 中間報告会

調査・研究の経緯とこれまでの成果を考察する。

2022年度 前期

2.0単位

演習 A

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

3年次配当のコア科目・選択必修科目であり、4年次配当の「演習II」への導入科目として位置づけられる。

本セ`ミテ`は情報化社会で`必要な情報リテラシ(情報・情報機器を使いこなす能力)を習得し、コンピュータを使った情報収集、テ`ータ解析について学習する。情報リテラシの習得においては特定アプリケーション固有の操作方法だけでなく、情報ネットワークやテ`ータヘ`ースといった様々な要素技術に 関する基礎知識

が重要となるため、これら要素技術についても学習する。また、希望者には情報処理技術者試験、特に基本情報技術者試験やITパスポート試験を受験するために必要な知識、技能についても指導する。

<到達目標>

- ・表計算ソフトウェアやプログラミング言語を使用し、データの集計・分析などを行える。(技能)
- ・演習IIで卒業論文を作成するために必要となる知識
- ・技術を身につける。(知識・技能)

<授業のキーワード>

Excel、Python、最適化問題、情報技術

<授業の進め方>

PCを用いた演習とプレゼンテーションを中心に実施する。

<履修するにあたって>

欠席回数が3分の1を超える場合は単位を与えないので注意すること。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と {<https://rinsaka.com/>} も参照してください。

<授業時間外に必要な学修>

グループ課題について役割を分担し、各自がその分担について30分? 1時間程度を使って作業することが求められる。

<提出課題など>

Excel や Python に関する演習課題の提出を求める。

<成績評価方法・基準>

提出課題、発表内容、ゼミへの貢献度で評価する。

<テキスト>

指定しない。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ゼミの進め方を理解し、グループワークやプレゼンテーションのグループ分けを行う

第2回 Excel による問題解決(グループワーク1)

Excel を利用した最適化問題の解決に挑戦する

第3回 Excel による問題解決(グループワーク2)

Excel を利用した最適化問題の解決に挑戦する

第4回 プレゼンテーション

グループごとに結果を報告・討論する

第5回 Excel による問題解決(グループワーク1)

Excel のソルバーによって様々な最適化問題を解決する

第6回 Excel による問題解決(グループワーク2)

Excel のソルバーによって様々な最適化問題を解決する

第7回 Excel による問題解決(グループワーク3)

Excel のソルバーによって様々な最適化問題を解決する

第8回 Python 入門1

Python によるプログラム作成方法および基本的な文法を学ぶ

第9回 Python 入門2

Python によるプログラム作成方法および基本的な文法を学ぶ

第10回 Python 入門3

Python によるプログラム作成方法および基本的な文法を学ぶ

第11回 Python による問題解決(グループワーク1)

Python によって様々な最適化問題を解決する

第12回 Python による問題解決(グループワーク2)

Python によって様々な最適化問題を解決する

第13回 Python による問題解決(グループワーク3)

Python によって様々な最適化問題を解決する

第14回 プレゼンテーション

グループごとに結果を報告・討論する

第15回 前期のまとめ

前期の内容をふりかえるとともに、後期の演習IBから始める卒業研究のテーマについて説明する

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

赤坂 義浩

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、3年次配当のコア科目・選択必修科目であり、経営学部ディプロマ・ポリシー「5.経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する」ことが出来るようになることが目的である。

受講者は、近世から現代に至る日本の企業経営諸制度の歴史を学ぶことにより、今日、日本企業が直面している経営上の諸課題について、自律的に分析、考察することが出来るようになる。

<到達目標>

日本における経営諸制度の歴史を学ぶことにより、企業経営の仕組みや成り立ち、あるいは、日本企業が直面している様々な問題に関する理解を深め、解決策を自律的に考察出来るようになることが目的である。

<授業のキーワード>

経営史、経済史、株式会社制度、企業家、企業者史

<授業の進め方>

毎回講義前に、チームごとに予習、報告資料づくり、質疑応答の準備を行う。講義中では、内容についてプレゼンテーションをしてもらい、質問に答えてもらう。このような形式で、テキストを講読する。

なお、緊急事態宣言の延長にともない、初回と第2回(9月22日、29日)については、Zoomによる遠隔講義(

リアルタイム)で実施します。下欄のZoom会議室URL、パスコードで、アクセスして下さい。講義名が「演習A」になっていますが、下記のURLが後期の「演習B」会議室のURLになっています。

Zoomミーティングに参加する

https://zoom.us/j/95430206980?pwd=Q2x0WDhmZkNqaGJjc1RrOEVSd0NyZz09

ミーティングID: 954 3020 6980

パスコード: 532964

<履修するにあたって>

プレゼンテーションを担当するチームのメンバーはもちろん、それ以外の受講者も、事前にテキストを読んでおかなければならない。積極的に質疑応答、ディスカッションに参加しなければ、ただ出席しているだけでは単位を付与しない。

<授業時間外に必要な学修>

テキスト内容の予習、専門用語の調査、当該時期の日本経済の状況に関する調査などの予習が必要である。

<提出課題など>

特になし。

<成績評価方法・基準>

プレゼンテーションを担当するチームのメンバーは、準備作業と当日のプレゼンテーションに関するメンバーの貢献度を相互評価する「貢献点」と、質疑応答の状況について「発言点」、さらに、プレゼンテーションを聞いた受講者が、その内容がどれくらい明瞭に伝わったかを査定する「プレゼンテーション評価点」(A~Cの3段階)を加算する。それ以外の受講者は、質疑応答に参加した分だけ「発言点」を加算する。

それらの合計点数から、欠席回数、遅刻回数に応じて減点を行う。それらの結果を成績評価とする。

<テキスト>

宮本又郎、阿部武司、宇田川勝、沢井実、橘川武郎著『日本経営史[新版]』(有斐閣、新版第1刷:2007年)

<授業計画>

第1回 ガイダンスと準備

本ゼミの後期(演習B)の進め方に関するガイダンスを行う。

第2回 第4章第2節 大企業体制の変遷

この回では、1930年代の大企業体制の確立、財閥の拡大と再編、戦後の財閥解体と企業集団の形成と、その結果として出現した「二重構造」の再現について学ぶ。

第3回 第4章第3節 労使関係の変化

この回では、昭和初期の1930年代から戦時中、戦後にかけて大きく変化していった労使関係についてについて学ぶ。

第4回 第4章第4節 技術開発の推進

この回では、昭和初期から戦中戦後にかけての企業の技術開発のありかたについて学ぶ。

第5回 第4章第5節 経営管理の展開

この回では、戦前の産業合理化運動の展開、戦時下の経営管理のあり方、戦後のアメリカ式経営管理の導入について学ぶ。

第6回 第5章第1節 高度成長とその後の日本経済の変転

この回では、戦後の日本経済の動向について学ぶ。

第7回 第5章第2節 成長を実現したメカニズム

この回では、戦後日本経済の高度成長を実現した企業経営上の要因、メカニズムについて学ぶ。

第8回 第5章第3節 資本家企業や中小企業の役割と第3次産業の動向

この回では、戦後の資本家企業の成長や中小企業の経営、企業金融の変化や流通部門の革新について学ぶ。

第9回 第5章第4節 技術革新と技術開発

この回では、高度成長期以降の企業の技術開発体制や、それを促進するシステムについて学ぶ。

第10回 第5章第5節 日本の経営の光と影

この回では、いわゆる「バブル経済」期の日本企業の経営管理の強味や、「バブル後」における経営課題について学ぶ。

第11回 エピローグ 日本経済と日本企業が直面する問題

この回では、「失われた10年」と呼ばれる1990年代以降の日本経済の動向と、日本企業が直面する経営上の諸課題について学ぶ。

第12回~第15回 演習と卒業論文作成へ向けて

この回では、まず次年度の「演習」・「卒業論文」履修に関するガイダンスを行う。次に、ここまでで学んできたことを踏まえて、演習・卒業論文の履修に向けての準備作業を行う。具体的には、経営史の様々なトピックを振り返り、卒業論文のテーマについて考え、史料検索などを行う。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

伊藤 健

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

演習IAの内容をふまえ、より実践的なデータに基づく意思決定手法や経営管理手法を習得し、現状の分析や改善方法を考察する訓練と、演習IIや卒業論文執筆の準備を行う。

<到達目標>

データに基づく実践的な分析能力の習得

< 授業の進め方 >

担当者による説明（講義）だけの回もあるが、基本的には筆記、あるいは表計算ソフトによる演習を実施し、履修者が課題に関する考察結果について発表を行う。

< 履修するにあたって >

正当な理由の無い欠席、無断欠席は厳禁で、ゼミの除籍判断材料となるので注意すること。表計算ソフトを利用するため（担当者はMicrosoft Excelで説明する）、ファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストを指定しないため、基本的には予習のような準備作業は発生しないが、毎回の内容を復習したり、課題に取り組むことが予習につながるため、そのような作業を行う必要がある。また、履修者に発表を割り当てた場合には、その準備を十分に行う必要がある。

< 提出課題など >

課題を出題する回もあるので、その場合には必ず期限内に提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

演習参加への積極性（出席回数、発言内容等）を50%、課題の状況（提出実績や質）を50%で評価する。

< テキスト >

指定しない

< 参考図書 >

必要に応じて指示、または配布

< 授業計画 >

第1?2回 経済性分析

経営資源が効率的に活用されているかを分析する方法について議論する。

第3?9回 経営管理技法

経営意思決定の場面で活用できる様々な計画手法について議論する。

第10?14回 自由課題

履修者自身がデータを入手し、これまで取り扱った分析方法（演習IA含む）を利用して、自分なりの考察を発表し、それについて受講者で議論する。

第15回 予備日

進捗状況により各回の内容は多少変化するため、それに応じて当該講義内容を決定する。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

江頭 寛昭

< 授業の方法 >

遠隔授業(リアルタイム)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得することを目指す。

す。

選択必修科目の中のコア科目で、専門科目で学んだ知識をもとに経営の問題を総合的に分析・解析する実践的の技能を身に付けることを目指す。

中小企業は事業所の99%を占めるなど、産業の中で重要な役割を果たしており、大手企業が作る工業製品もその部品の多くが中小企業によってつくられています。しかし、グローバル化をはじめとする社会の変化のなかで、大手企業と中小企業が作り出してきた関係も大きな変化を迫られています。そこで、このように変化する現代の産業活動や取引関係について、自動車産業やアパレル産業など身近な産業・企業を取り上げながら議論していき、日本の現代の産業・企業が有する特徴を捉え、抱える課題について議論し、理解を深めることを目的とする。なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究者として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な知識をもとに指導を行う。

< 到達目標 >

演習 で取り組む卒業論文作成のために必要な知識の獲得することができる。報告・レポートに関する技能の習得と卒論のテーマ選定に必要な課題の絞り込みを行うことを目標とする。

< 授業のキーワード >

企業、業界、経営理念、経営戦略、卒業論文

< 授業の進め方 >

演習 Bでは、一人ひとりがテーマを決め、リサーチ、レポート作成、プレゼンテーションを行うとともに、演習 で取り組む卒論作成につながるよう卒論作成を前提にテーマの絞り込みを行っていただきます。

< 履修するにあたって >

ゼミは全員出席を原則とし、やむを得ず欠席の際には必ず連絡のこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

リサーチ活動は基本的に授業時間外で行うこととなりますので、日常からリサーチテーマを意識して図書館、ネットを活用し必要な資料・情報を収集するように心がけていただきます。

< 提出課題など >

毎回担当者を決め、分担して報告していただき、報告をもとに参加者全員で議論していただきます。前期はグループに分かれ、産業・経済が抱える具体的な問題をテーマにリサーチ・報告をしていただきます。年後半には、卒論のテーマ選定を念頭に、個別で具体的な企業や業界を取り上げ、報告テーマを自ら選択しリサーチ・報告していただきます。

< 成績評価方法・基準 >

欠席回数が3分の1を超える場合は評価対象といたしません。報告内容と議論参加への積極性、受講態度をもとに

総合的に判断し、評価します。

<テキスト>

必要に応じて指示します。

<参考図書>

必要があればその都度指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ゼミでの後期の活動内容について説明します。

第2～3回 個人のリサーチ・レポート(前半)の準備と下調べ

ゼミ生一人一人の興味や関心に沿ってリサーチのテーマを決め、リサーチに着手できるよう、下調べを行い必要な資料を確保していただきます。

第4～7回 個人でのリサーチ・レポート

ゼミ生一人一人に自ら決めたテーマに沿ってリサーチ・レポートを実施していただきます。

第8～9回 リサーチ結果のブラッシュアップ

リサーチ・レポートでの議論をもとに、リサーチテーマの修正と内容の絞り込みを行います。

第10～13回 個人別再リサーチ・レポート

リサーチ・レポートのブラッシュアップをもとに、卒業論文につながるできるよう、絞り込んだテーマで再びリサーチ・レポートに取り組んでいただきます。

第14～15回 総括と卒論作成に向けての準備

演習 Bでの活動を総括し、卒業論文の作成に向けて準備をしていただきます。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

大角 盛広

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

卒業論文を視野に入れて、ICTに関連するテーマについて、分析する立場と創造する立場から研究に取り組む。各自の興味に応じて、リサーチ系とシステム開発系のグループに分かれるものとする。リサーチ系は、例えばビットコインなどのICT技術に強く依存する既存システムの仕組みや理論的背景・社会的影響等についてリサーチを行う。開発系は、PythonやCやVBAなどのコンピュータ言語を使うかもしくは既存のツールを組み合わせることによってPCやスマートフォンで動作する簡単なシステムの開発を行う。

それらの調査研究や開発を通じて、またお互いの成果発表を聞くことによって、卒業論文のテーマを固めていくとともに、今後の自主的な勉強・研究方針について具体的なビジョンを持つことを目的とする。

この授業は、情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から指導もしくは助言等を与える。

<到達目標>

演習 で取り組む卒業論文のテーマ設定のために必要な知識を獲得することができる。

グループによる報告・レポートに関する技能を習得できる。

<授業の進め方>

グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に行う。

ほぼ毎回、進捗状況や討論内容について簡単な報告をしてもらう。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間内に調査や報告準備の時間はとれないため、授業時間外にその準備をする必要がある。また、開発系のテーマに取り組む学生はプログラム作成やデバッグの時間が必要である。

<成績評価方法・基準>

中間報告・成果発表の内容と質疑応答への参加状況(50%)、および授業毎の進捗報告(50%)で評価する。

<テキスト>

特定のものは使用しない。

<参考図書>

「C言語入門」,大角盛広,西東社

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、評価方法等について説明を受ける

第2回 テーマ紹介

開発系・リサーチ系のそれぞれにどのようなテーマが考えられるか、例示を受ける

第3回 テーマ決定

グループワークのテーマを決定する

第4回 準備

開発・リサーチに着手できるよう下調べを行う

第5回 開発・リサーチ1

討論を通してテーマの修正や内容の絞り込みを行う

第6回 開発・リサーチ2

討論を通してテーマへの取り組みを進める

第7回 中間報告1

調査系グループの中間報告

第8回 中間報告2

開発系グループの中間報告

第9回 開発・リサーチ3

中間報告を踏まえて内容や方向性の修正等を行う

第10回 開発・リサーチ4

討論を通してテーマへの取り組みを進める

第11回 開発・リサーチ5

討論を通してテーマへの取り組みを進める

第12回 開発・リサーチ6

討論を通してテーマへの取り組みを進める

第13回 成果発表1

調査系グループの成果発表

第14回 成果発表2

開発系グループの成果発表

第15回 まとめ

全体を振り返りまとめるとともに、卒業論文に関するガイダンスを受ける

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

小川 賢

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

前期で学んだ経済学の基本的な考え方に基づいて、様々なデータから主張したい仮説を検証するためにふさわしい分析ができるように、様々な分析方法を理解する。

< 到達目標 >

経済学的な考え方に基づいた仮説を設定できる。

様々な分析方法の中から適切な分析方法を選択し、データ分析ができる。

< 授業の進め方 >

レジュメによる報告を中心に進める。必要に応じてディスカッションを行い、その理解を深める。

< 履修するにあたって >

単位修得には3分の2以上の出席が必要である。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前にテキストに目を通して、説明資料を作成する。質問を考えておく。

1回の講義は4時間程度の準備が目安である。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミでの報告・発表内容(65%)と報告・発表を聴く姿勢・聴いての質問やコメント(35%)で評価する。

< テキスト >

伊丹敬之著『経済を見る眼』東洋経済新報社

< 授業計画 >

第1回 演習の進め方

卒業論文の作成を視野に入れた演習の進め方について説明する。

第2回～第6回 経済学の基礎

様々な視点から経済・ビジネスを見る眼をテキストの輪読を通して学ぶ。

第7回～第10回 情報や情報通信産業と企業の経済活動

情報や情報通信産業の進展による私たちの生活の変化についてグループワークを通して理解を深める。

第11回～第14回 情報や情報通信産業と私たちの生活
情報や情報通信産業の進展による私たちの生活の変化についてグループワークを通して理解を深める。

第15回 まとめ

これまでに学んだことを総括し、卒業論文のテーマ選定につなげる。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

小澤 優子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 >

この科目は、学部のDPにある経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指すものである。企業経営に関する基本的な理解や、実際の企業経営に関する理解を必要とします。

今日の企業において、近年、比較的新しい問題領域が重要視されている。企業が我々ステークホルダーに与える影響が大きくなっているために、企業の果たすべき責任を明らかにしようとする企業の社会的責任(CSR)に関するものがそれである。そして、その中でも、誰のために企業経営がなされるべきであるのか、如何に経営者をチェックするのか、などといったコーポレート・ガバナンス(企業統治)の問題がとりわけ重要な課題として指摘される。本研究演習ではこれらの問題を実践と理論の両側面から学習し、企業のあるべき姿を考えていく。演習Bにおいては、前期の演習Aの理論的な理解に基づいて、実際の企業の取組を検討することにより、それらの実践的な側面について理解を深めていく。

< 目的 >

- ・企業経営の全体像を理解することができる。
- ・「企業の社会的責任(CSR)」と「コーポレート・ガバナンス」という問題について、理論と実践とを関連付けて説明することができる。

< 到達目標 >

- ・近年話題になっている問題について説明することができる。
- ・企業が取り組むべき課題に関心を持ち、自分なりの見解を明らかにできるようになる。
- ・実際の企業経営について、そこで生じる問題についてより深く理解し、対応策や展望などを提示できるようになる。

< 授業のキーワード >

株式会社、CSR、コーポレート・ガバナンス、ステーク

ホルダー

< 授業の進め方 >

少人数のグループワークが中心となります。

< 履修するにあたって >

積極的に授業やゼミ活動に参加することを望みます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間内に報告準備の時間はあまりとれないため、授業時間外にグループで集まって報告の準備をする必要があります。必ずグループ毎に相談をし、報告のための準備を主体的に行いましょう。また、報告が始まってからは、その内容の振り返りを2時間程度行うことが不可欠となります。

< 提出課題など >

報告の際には、報告者に対する意見や疑問点に関する積極的な発言を求めます。また、報告の際に、報告グループの内容に対してコメントシートを提出してもらいます。そして、この内容全体を報告グループにフィードバックし、より良い内容のために役立てていきます。

< 成績評価方法・基準 >

3分の2以上の出席が必要となる。そのうえで、発表(30%)や質疑応答への参加状況(40%)を中心に、授業毎の課題や期末レポートの提出状況(30%)をあわせて総合的に判断する。

< テキスト >

特定のものを使用しない。

< 参考図書 >

伊丹敬之『日本型コーポレートガバナンス』日本経済新聞社、2000年。

佐久間信夫 編著『現代経営学』学文社、2005年。

吉田和夫・大橋昭一監修『基本経営学用語辞典』同文館出版、2015年。

これ以外に、必要に応じて授業中に指示します。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクション

演習 Bの進め方などについて説明する。

第2・3回 理論的な内容の確認

演習 Aで学習したCSR(企業の社会的責任)とコーポレート・ガバナンス(企業統治)に関する基本的な見解を再度、確認しておく。そのうえで、この回以降の報告に向けて、グループ分けしたり担当箇所を決定したりしていく。

第4・5・6回 報告の準備

報告に向けて、グループ毎に準備を進めていく。理論的な内容の分析をより深く進めると同時に、実際の企業の取組を検討していく。

第7回 中間報告

全ての報告グループの中間報告を行い、報告の全体像の確認をしていく。

第8・9回 報告の準備(最終報告に向けて)

中間報告での意見をもとに構成や内容の修正を行い、最

終報告のための準備を進めていく。

第10~13回 報告会

毎回1グループ毎の報告会を実施し、その内容に関して演習のメンバー全員でディスカッションをしていく。その際、報告者以外のメンバーには、報告内容に関するコメントシートの提出を求める。

第14回 報告の反省

グループ毎に、ディスカッションの内容やフロア側から出されたコメントシートを基に、報告内容を振り返る。

第15回 演習 全体のまとめ

これまで学んだことに関する全体内容の確認を行う。また、演習や卒業論文の作成に向けてのガイダンスを行う。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

河瀬 豊

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

各自の研究を進めて、その進捗を授業中に報告し、議論する。

この演習は経営学部DPの「企業等の財務・会計に関する基礎から応用に至るまでの知識・技能を学修する」ことを目指す。

< 到達目標 >

・タックス・プランニングの基礎を説明できるようになる。

・卒業論文を作成する基礎知識を身につける。

< 授業のキーワード >

税務会計，法人税，税務計画（タックス・プランニング）

< 授業の進め方 >

教科書を輪読する。初回に受講生の発表担当箇所を決める。

< 履修するにあたって >

財務会計及び税務会計の初歩的な知識は前提とする。

履修しておくことが望ましい科目は次のとおり。簿記論・，会計学総論・，税務会計論・，商業簿記など。履修していない科目がある場合は、ゼミと並行して受講すること。

受講者の理解度や希望によって内容を変更する可能性がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告担当者は、相当な準備が必要である。その他の受講生は、事前に教科書を読み、質問内容や議論のテーマを考えておくこと。

< 成績評価方法・基準 >

報告内容を中心に総合的に評価する。必要に応じて、レポートを課したり、小テストを実施することもある。出席することは当然なので、無断欠席は相当の評価減の対象となる。

<テキスト>

入手可能であれば、指定図書の[1]を教科書として指定する。入手困難な場合は授業中に指示する。

<参考図書>

【指定図書】

[1]鈴木一水(2013)『税務会計分析』森山書店
[2]Erickson et al.(2019) 'Taxes and Business Strategy 6th ed.'

[3]金子友裕(2021)『法人税法入門講義』中央経済社(その時点での最新版)

[4]中島茂幸, 櫻田讓編著(2020)『Newベーシック税務会計<企業課税編>』五紘舎

【参考図書】

[5]渡辺智之(2005)『税務戦略入門』東洋経済新報社

[6]岡村忠生(2007)『法人税法講義[第3版]』成文堂

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ガイダンスと輪読担当箇所を決める。

以下の主題と内容は、研究テーマに税務計画分野を選択した場合の例である。

第2回 税務会計の分析枠組み

税務会計の分析枠組み

第3回 タックス・プランニング

税務計画(タックス・プランニング)とは何か、単なる税額計算との違いを明らかにする

第4回 企業観

法人実在説, 法人擬制説, 契約の束の概念について学ぶ

第5回 税務法令遵守

税務法令順守について学ぶ

第6回 税率概念

実効税率, 限界税率等について学ぶ

第7回 組織形態

組織形態及びその課税制度について学ぶ

第8回 課税所得計算制度の歴史的展開

税務会計の歴史について学ぶ

第9回 確定決算主義

確定決算主義の構造について学ぶ。

第10回 税以外のコスト

エージェンシーコストなどについて学ぶ

第11回 税務法令と会計判断

税務法令と会計判断

第12回 課税所得の特徴

所得と利益の違いについて学ぶ。

第13回 給与体系

給与を取り巻く税制について学ぶ

第14回 フリンジベネフィット

フリンジベネフィットについて学ぶ。

第15回 役員給与

役員給与に関する税コストとエージェンシーコストについて学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

今野 勤

<授業の方法>

講義、演習

<9月20日(月)~10月2日(土)までの授業形態>

遠隔授業(リアルタイム授業)

10月4日(月)以降の授業形態は、対面です。

<授業の目的>

<主題>

企画力をつけよう

学生諸君は、A社のスマホや携帯端末のようなヒット商品をどのように企画しているか、知っていますか?これは、天才的な経営者のヒラメキだけではないのです。ヒラメキは商品のひとつの仮説(こういう商品があったら売れる)です。仮説が本当に正しいかどうかは、市場情報を収集、分析し仮説が正しいということを立証しなければなりません。

ゼミでは、この仮説の立て方、市場情報の収集、分析法を勉強します。具体的には、エクセルで作った例題を通して、これらの方法を学びます。したがって、エクセルの使い方の勉強にもなります。さらに情報収集ではインターネットのサイトの見方、プレゼンテーションのやり方とパワーポイントの使い方の勉強にもなります。

ゼミでは、PCが使える部屋を用意しますのでUSBを持参するだけで結構です。

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、

1. 現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために

有用な知識を総合的に学修する。

3. 情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題

をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

に対応している。

この授業は、実務経験のある教員が指導する。企業の経営現場のリアルな情報により、理論の実践の違いが理解できる。

<到達目標>

企業において、商品企画ができるプランナーになる。

<授業のキーワード>

商品企画 インタビュー アンケート コンジョイント分析

<授業の進め方>

テキストによる解説と演習を繰り返す。成果を発表し、採点する

<履修するにあたって>

授業時には必ずUSBメモリを携帯する

<授業時間外に必要な学修>

学内外で、インタビュー、アンケートデータを収集すること。半年で、6時間

参考図書の図表、例題を自習する

<提出課題など>

授業時に課題を発表し、期限までに課題を提出を実施する。また、授業中に受講者の意見や疑問点について自発的発言を求めることがある。

<成績評価方法・基準>

半期10回以上の出席、半期2回程度の課題提出

<テキスト>

今野 勤 「データ解析による 実践マーケティング」 日科技連出版

<参考図書>

今野 勤 他 『QFD・TRIZ・タグチメソッドによる開発・設計の効率化』日科技連出版

<授業計画>

第1回 クラス・ガイダンス

このクラスの全体の狙いを説明。新商品・サービスの考え方、PDCAサイクルのまわし方を解説する

第2回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出1

コンジョイント分析に即した、アンケートの作り方を演習を通じて理解する。

第3回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出2

新商品のアンケートを作成する。

第4回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出3

少人数(5人程度)のアンケートを実施する。

第5回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出4

アンケート結果から、被験者の好む要因と水準(たとえば、色は赤が好きなど)を求める方法を、演習を通じて理解する。

第6回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出5

ピボット・テーブルを使い、最適な商品企画案の求めかたを、演習を通じて理解する。

第7回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出6

最適商品企画案の販売価格を求める。これを演習を通じて理解する。

第8回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出7

少人数のアンケートの解析結果から、アンケートを見直す。

第9回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出8

見直したアンケートをもとに、20人分のアンケート調査の計画を立てる。

第10回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出9

20人分のアンケート調査を実施する

第11回 経営のための見識を広める

アクティブラーニング (実際の工場など見ることにより、現場が抱える問題を認識し、解決策を検討する)

第12回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出10

20人分のデータを解析し、最適な商品企画案と販売価格を求める。

第13回 新商品・サービスの提供による顧客満足創出11

パワーポイントによる発表準備

第14回 まとめ

発表用資料と原稿を作成し、発表準備をする

第15回 発表

発表と講評及び採点

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

塩出 省吾

<授業の方法>

講義と演習

<授業の目的>

この演習では「アンケート調査」ということをテーマにして学習する。社会では電話、街頭、インターネット、郵送を通じて様々なアンケート調査が行われている。このようなアンケート調査について、良いアンケート調査の方法を学習し、実際にアンケートを作成・実地調査し、さらに調査結果を分析する方法について学習し理解することを目的とする。本演習では前期のアンケート作成に

関する学習に引き続いて、後期はグループで実際に経営を中心とする様々な問題についてアンケート調査を企画し、調査用紙の作成および実地調査を行い、その結果を報告発表する。これは教室外での学習も含めたアクティブ・ラーニングの実施である。

<到達目標>

- ・統計調査および分析を理解することができる。
- ・経営のためにより良い意思決定をすることができる。
- ・目的に応じた適切なアンケートを各自作成および実施ができるようになる。

<授業のキーワード>

アンケート調査、統計分析

<授業の進め方>

アンケート作成に向けて、少人数のグループワークを取り入れる。

<履修するにあたって>

ゼミ活動としては学外で実施するアンケート調査も含まれる。また、普段から身の回りのアンケートについては各自が関心を持ってテーマとしてゼミに持ち込んで欲しい。

<授業時間外に必要な学修>

学内や学外でアンケート調査を実施する。

<提出課題など>

グループ毎のアンケート調査の実施とその集計・分析結果を発表し、各自レポートにまとめ提出する。

<成績評価方法・基準>

アンケート調査の実施・集計・分析60%、受講状況および時間内の発表20%、レポート20%で評価する。なお、出席が3分の2以上なければ単位を与える対象にはしないので注意すること。(遅刻は時間で累計して欠席回数に加えます。)

<テキスト>

必要に応じて資料を配布する。

<参考図書>

朝野熙彦著『アンケート調査入門』(東京図書)
安藤明之著『初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』(日本評論社)

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習 Bで学習する内容について説明する。また、グループワークのテーマも決める。

第2回 グループで決めたテーマでアンケートの企画

第1回で決めたグループのテーマに従ってアンケート調査用紙を作成する。

第3回 グループで決めたテーマでアンケートの企画

グループのテーマに従ってアンケート調査用紙を作成する。

第4回 アンケートの検討

各グループで作成したアンケート調査用紙をゼミ生全員で検討し、意見交換により改善・修正する。

第5回 アンケートの検討

各グループで作成したアンケート調査用紙をゼミ生全員で検討し、意見交換により改善・修正する。

第6回 工場見学

各グループで実施したアンケート調査の結果報告会に向けた準備をする。

第7回 データ分析手法

アンケート調査の結果分析のためのデータ分析手法について学習する。

第8回 データ分析手法

アンケート調査の結果分析のためのデータ分析手法について学習する。

第9回 データ分析手法

アンケート調査の結果分析のためのデータ分析手法について学習する。

第10回 データ分析手法

アンケート調査の結果分析のためのデータ分析手法について学習する。

第11回 アンケート調査実施報告の準備

各グループで実施したアンケート調査の結果報告会に向けた準備をする。

第12回 アンケート調査実施報告の準備

各グループで実施したアンケート調査の結果報告会に向けた準備をする。

第13回 報告会

アンケート調査結果の報告会を実施する。

第14回 ゼミ講演会

就職活動を始める前に企業の講師によるアドバイスを受ける。

第15回 まとめ

3年次演習のまとめをし、4年次演習および卒論について説明をする。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

島永 和幸

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。コア科目に属し、3年次の演習科目として位置づけられる。3年後期(演習 B)では、企業価値経営とSDGsに関する基礎知識について学習します。

<到達目標>

企業価値経営やSDGsに関する知識について理解できる。(知識)、ディスカッションができる。(技能)、レポート

が作成できる。(技能)

<授業のキーワード>

企業価値経営、SDGs

<授業の進め方>

報告者は、指定された内容についてレジюмеに要約し、報告する。それ以外の者は、質疑応答等を行う。必要に応じてグループワークを行う。

<履修するにあたって>

経営分析論 ・ や財務会計論 ・ の履修を希望する。

<授業時間外に必要な学修>

報告者は、レジюмеを作成し、必要部数をコピーして、ゼミ開始時に配布すること。(目安として1時間)

SDGsに関する新聞記事等に日ごろから目を通しておくこと。(目安として1時間)

<提出課題など>

報告者は、指定された内容についてレジюмеに要約し、報告する。それ以外の者は、質疑応答等を行う。必要に応じてグループワークを行う。

<成績評価方法・基準>

ゼミでの発表、質疑応答、グループワークへの取り組み状況、レポート課題など(100%)を総合的に勘案して評価する。

<テキスト>

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版、2021年、4,620円。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 インTROダクシヨン

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準等を理解する。

第2回 第8章

第8章 企業価値とバリュエーションの内容を理解する。

第3回 第8章

第8章 企業価値とバリュエーションの内容を理解する。

第4回 第9章

第9章 証券市場と企業評価の内容を理解する。

第5回 第9章

第9章 証券市場と企業評価の内容を理解する。

第6回 第10章

第10章 資本コストの測定と管理の内容を理解する。

第7回 第10章

第10章 資本コストの測定と管理の内容を理解する。

第8回 第7章

第7章 ケース・スタディー ファンダメンタル分析の内容を理解する。

第9回 第8章

第8章 企業価値とバリュエーションの内容を理解する。

第10回 第9章

第9章 証券市場と企業評価の内容を理解する。

第11回 第10章

第10章 資本コストの測定と管理の内容を理解する。

第12回 第11章

第11章 ピジョンの企業価値評価の内容を理解する。

第13回 第11章

第11章 ピジョンの企業価値評価の内容を理解する。

第14回 第15章

第15章 非財務・ESG情報による企業評価の内容を理解する。

第15回 まとめ

演習 Bのふりかえりと演習 に向けた準備を行う。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

島永 嵩子

<授業の方法>

演習形式

<授業の目的>

この科目は、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得することを目指す。本ゼミは、コア科目に属し、3年次の演習科目として位置づけられる。本ゼミは、流通業態を対象にして、各業態がどのような特徴をもっているのか、それはどのようにして誕生してきたのか、誕生してから今日までどのように進化してきたのか、といった点を中心に議論していく。具体的には、ゼミ生をいくつかのグループに分け、グループごとに関心のある流通業態を設定し、その業態を支える仕組みがどのようなものなのかについて調査・分析を進める。その成果をゼミで発表していくことによって、流通業態の仕組みに対する理解を深めることができるようになることを目的とする。

<到達目標>

1. 各グループのプレゼンテーションを通じて、他の業態の仕組みや工夫との違いについて議論する力を養う。
2. ゼミ活動を通じて、流通業の全体像や個別企業の戦略について分析する能力を養う。

<授業のキーワード>

流通業態、流通の仕組み

<授業の進め方>

グループでの発表およびグループディスカッション形式をとる。

<履修するにあたって>

ゼミでは、毎回の出席が基本です。遅刻も無断欠席も厳禁とします。全講義回数3分の1以上の欠席の場合には、その時点で「不可」となります。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習として、流通業態に関する資料収集やグループ活動を行うこと。(目安として2時間)

<成績評価方法・基準>

発表の内容(30%)や学外フィールドワークに参加する姿勢(30%)、ゼミへの貢献度(40%)によって総合的に評価する。

<参考図書>

石井淳彦・向山雅夫編著(2009)『小売業の業態革新(シリーズ流通体系)』中央経済社。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ゼミの進め方を理解する。

第2~4回 百貨店業態について

百貨店業態の特徴や仕組みについて発表を行う。

第5~7回 コンビニエンスストア業態について

コンビニエンスストア業態の特徴や仕組みについて発表を行う。

第8~10回 スーパーマーケット業態について

スーパーマーケット業態の特徴や仕組みについて発表を行う。

第11~13回 ショッピングセンターについて

ショッピングセンターの特徴や仕組みについて発表を行う。

第14回 学外フィールドワークの実施

商業施設を見学し、売場や店舗の責任者へのヒアリング調査を行う。

第15回 全体のまとめ

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

千田 直毅

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本講義では、専門領域としての人的資源管理論における緒理論と企業における人的資源管理の実態を深く理解する、卒業論文の執筆に向けての基礎(論文の書き方、形式、資料の検索の仕方、調査の実施)を学ぶことを目的とする。

<到達目標>

人的資源管理論に関する知識の習得に加え、学術書および学術論文の読み方、文章の書き方といった、論文執筆における基礎的なスキルを体得する、企業調査・分析におけるグループワークを通してディスカッション能力の向上を目指す。また、企業の人的資源管理をより深く理解することを通じて、自身の将来のキャリア形成のための意識を高めることも目的としている。

<授業の進め方>

後期はグループごとに関心のある企業における人事制度

の実態を調査し、報告資料としてまとめる。

<履修するにあたって>

ゼミにおいては参加者の積極性が非常に重要です。楽しく、有意義なゼミにするためにみなさんの積極的な参加を希望します。無断欠席・遅刻に関しては厳しく対処します。

<授業時間外に必要な学修>

グループワークにおける調査、分析、報告資料の作成等は講義時間外に行う必要があります。

<提出課題など>

初回の講義において指示します。

<成績評価方法・基準>

毎回の講義における出席および事前レポート課題(50%)、報告やディスカッションにおけるクラスへの貢献(50%)

<テキスト>

特に指定しない

<授業計画>

第1回 合同ゼミに向けたイントロダクション

他大学との合同ゼミに向けた活動に関する説明を行う。

第2回? 第6回 資料収集1

各グループの研究テーマに関する資料の収集

第7回? 10回 資料収集2

各グループの研究テーマに関する資料の収集

第11回? 13回 調査と分析1

企業等へのアンケート調査、ヒアリング調査の実施

第14回? 第15回 調査と分析2

調査データの分析と報告資料の作成

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

田中 康介

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本ゼミでは、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指す。そして、本ゼミの最終目標は、学内外のプロジェクトやイベント、コンペやコンテストに参加して、その成果を問う事にある。これまでも、様々なプロジェクトやコンテスト等に参加し、そこでゼミ生の努力が評価され、賞を受賞したり、新聞などマスコミに取り上げられたりしている。

<到達目標>

1. 地域や企業その他の組織が抱える問題や課題を発見し、具体的に把握できる。
2. 上記の問題や課題を解決する為の、プロジェクトや

ビジネス等を企画立案できる。

3. 自らが調査研究して、まとめた内容を具体的に発表できる。

<授業のキーワード>

問題の発見、課題の探索、解決案、ビジネスプラン、プロジェクトプラン

<授業の進め方>

グループ・ワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心にを行います。各自の自主性を尊重します。

<履修するにあたって>

履修者には、調査や研究に対する積極的な取り組みが望まれます。ゼミ(クラス)では授業中、自主的・自発的な発言が求められます。無断欠席をしないで下さい(他のメンバーに迷惑が掛かることもあるので)。

<授業時間外に必要な学修>

ゼミ以外の時間でも、自主的・積極的に個人研究やグループ・ワークを行って下さい。

<提出課題など>

上記の成果物(コンペやコンテストでの発表内容・作成資料)の提出は必須とします。

<成績評価方法・基準>

成果物(コンペやコンテストでの発表内容・作成資料)50%、グループ・ワーク(ディスカッション・プレゼンテーション)等50%の割合で、成績評価します。但し評価対象は、出席回数が授業回数の3分2以上であることを前提とします。

<テキスト>

教材や資料は適宜配布します。

<参考図書>

必要に応じて指示します。

<授業計画>

第1回 前期からの引継ぎ等

前期に行った活動の確認と引継ぎ等を行い、後期の活動計画を立てる。

第2回 前期からの引継ぎ等

前期に行った活動の確認と引継ぎ等を行い、後期の活動計画を立てる。

第3回 問題・課題の発見・設定

第1・第2グループで、問題や課題の発見や設定の為に、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第4回 問題・課題の発見・設定

第1・第2グループで、問題や課題の発見や設定の為に、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第5回 問題・課題の解決案の案出

第3・第4グループで、問題や課題の発見や設定の為に、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第6回 問題・課題の解決案の案出

第3・第4グループで、問題や課題の発見や設定の為に、グループ・ワークやディスカッションを行う。

第7回 フィードバック

第1・第2グループで、成果に対して、それぞれフィードバック(反省・改善提案等)を行う。成果物(レポート・報告書等)にまとめる。

第8回 フィードバック

第1・第2グループで、成果に対して、それぞれフィードバック(反省・改善提案等)を行う。成果物(レポート・報告書等)にまとめる。

第9回 フィードバック

第1・第2グループで、成果に対して、それぞれフィードバック(反省・改善提案等)を行う。成果物(レポート・報告書等)にまとめる。

第10回 フィードバック

第3・第4グループで、成果に対して、それぞれフィードバック(反省・改善提案等)を行う。成果物(レポート・報告書等)にまとめる。

第11回 フィードバック

第3・第4グループで、成果に対して、それぞれフィードバック(反省・改善提案等)を行う。成果物(レポート・報告書等)にまとめる。

第12回 フィードバック

第3・第4グループで、成果に対して、それぞれフィードバック(反省・改善提案等)を行う。成果物(レポート・報告書等)にまとめる。

第13回 ゼミ活動のまとめ

ゼミ活動について、各グループで、全体的な総括(まとめ・振り返り)を行う。

第14回 ゼミ活動のまとめ

ゼミ活動について、各グループで、全体的な総括(まとめ・振り返り)を行う。

第15回 ゼミ活動のまとめ

ゼミ活動について、各グループで、全体的な総括(まとめ・振り返り)を行う。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

辻 幸恵

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

企業経営に関する問題にさらに関心を深めるために、企業とのコラボに着目をする。企業を調査し、分析することは経営する側の視点で社会を見つめることにつながるからである。よって、後期の目標は、三宮フューチャーマーケットに参加の企業分析から、商品やサービスの社会的意味を理解し、プロモートできることが目的である。具体的には、「自己の可能性を引き出す」ために、人前

で発表する機会をふやす。今回は神戸マルイ1Fを活用する。自分の調べる能力や考える能力をのばせる、あるいは引き出すためである。よって、自分の考えを相手に伝えることができる、相手の話の内容を正確に聞き取ることができるようになること、企画をたてることができることである。そして、経営の問題を総合的に企業の分析・解析できる知識と技能を習得することを目標とする。また、後期はイベントの運営にも参加し、経営全般の学習もおこなう。具体的には阪急電車高架下にある商店街のピアザマルシェを運営する。常に実務経験のある教員として、結果の推測や予測する手助けとして実例を示すことができる。

<到達目標>

- 1.知識としてはマーケティングの基礎と現実的な商品や広告が理論的に説明できることを目標とする。
- 2.態度・習慣としては、自分でテーマを選択し、そのテーマについて調べ、まとめ、発表することができるようになることである。また新製品をリサーチしようとする態度がみにつくことである。
- 3.技術としては、人前で発言できる力、また人の話を正確に聞く力を身に付けることである。

<授業のキーワード>

マーケティング、顧客満足、ブランド、リサーチ、プロモーション、地域企業

<授業の進め方>

講義だけではなく、少人数のグループディスカッションも取り入れる。マルイで企画などをした後は、必ず振り返る時間をもつ

<履修するにあたって>

自主的な、主体的な態度を身に付けるように、時事問題やニュース、ヒット商品などの話題については各自で情報を集め、それに対する意見をもっておくこと。また、マーケティングに関するニュースなどには関心をもってほしいので、毎日、ニュースなどをチェックすること。新聞ならば朝刊、夕刊ともにチェックをすることを求める。また、毎回教材を指定しているので授業の後は該当教材の復習を各自がしておくこと。(株)コムユースタイル、マルイグループ、フェリシモをはじめ連携先のホームページから、そのコンセプト、会社概要、財務諸表などを事前に把握すること。

<授業時間外に必要な学修>

シラバスに示したとおり、テーマを選択したならば、そのテーマにそって文献などを読む必要がある。なお、リサーチに関しては指定図書を活用すればよい。産学官との連携も積極的にすすめているので、その課題に対する学習は別途、ゼミ時間とは別に設ける。

<提出課題など>

提出物としては、発表したときにまとめた資料、ミーティングの議事録などはまとめて提出してもらう。前期も後期も同様である。

<成績評価方法・基準>

以下の3つの合計で評価をする。これらの合計が評価となる。

- 1.総合評価点40点、0点から40点までで評価をする。総合評価点は毎回の授業内での態度、マナー、参加度の3つの視点から評価をする。
- 2.グループ内での役割点(コラボ中にグループ内でのような活躍ができたかを評価する)0点から30点までで評価をする。
- 3.マルイ・フェリシモでの活躍点:0点から30点までで評価をする。

<テキスト>

適宜、プリントを配布する

<参考図書>

辻幸恵『流行と日本人 - 若者の購買行動とファッション・マーケティング - 』白桃書房、2001年、2200円+税

<授業計画>

1回

ゼミの後期の概要説明

ゼミの概要として、目的、内容、前期の到達目標、ゼミ内での約束事などを説明する。課題紹介などもおこなう。

2回 マーケティングの基礎用語と企業対応の確認

マーケティングの基本を確認する。市場を中心に顧客にも着目するので消費者の視点についても説明をする。また、三宮フューチャー・マーケットを実施しているので企業の対応についても基本事項を確認する。ホテル・神戸ラスイートハーバーランドのサービス、顧客層などの聞き取りを実施したチームの報告を聞く

3回 テーマの選択

身近な企業を中心にテーマを決めたいので、この時間に各自がどのテーマがよいかを決める。テーマごとに班分けをする。学会パネルを作成した若者のトレンド、清原の新製品、神戸衡機の人材獲得企画、日本茶の販売、行政とのコラボなどである。各チームでその企業の売上、顧客層、広告手法、課題などの情報やデータは共有し解決策を提案する。マルイでのホテル ラスイート神戸・ハーバーランドの顧客の様子などの報告をラスイートチームから受ける。同時に問題点も報告を受ける。次回の神戸中央区役所とのコラボ企画について区役所チームから概要説明を受ける

4回 テーマにそってのアプローチについて

テーマにそってどのような視点から学習していけば、あるいは調査をしていけばよいかについて基本的な文献検索からはじめる。また、テーマが大きい場合はどこから考えていけばよいかを指示する。ここからはグループでの活動になるので、この時間内に各グループ内での役割も決定をする。企業とのコラボ(株式会社清原)の

新製品開発後の顧客反応などのリサーチ結果を検討する。

5回 テーマ発表への準備

各グループがテーマを決め、企画や研究を開始してする。最終的にはそれらのアイデアを企業（この場合はBtoBの神戸衝機）にむけて発表するが、その発表方法などをこの時間では確認をする。基本的には発表はパワーポイントの使用を考えている。神戸衝機の説明、課題を先に取り組むようにリサーチデザインを決定する。また、過去の顧客データを共有する（守秘義務は厳守）。

6回 各グループの中間発表

企画について、何をどの程度調べたのかあるいは予想をたてて、実行したのかについて各グループが報告をする。（株）コムーススタイルとの提携により、今回は商店街全体での課題を把握する。また、カード使用のリサーチ、マップづくり、マルイグループとの連携によるコラボ企画も含む。ここで自らが顧客データを集め、それを企業が有している過去の顧客に関するデータと比較をする。商店街が実施するピアザマルシェの運営を担うので、そのための情報を共有する

7回 企画発表での注意事項

企画を発表をする際の注意事項を確認する。発表時間、質疑応答時間、発表する際に準備するもの、パワーポイントの製作方法、発表マナーなどである。また企業に向くときの、アポイントのとり方や訪問マナーもあわせて説明する。三宮高架下ピアザ商店街の中の個店にリサーチに行く場合は各自が名刺交換をしてもらうこと。

8回 テーマにそって各グループ発表

各グループが持ち時間内にコラボ成果の発表をする。発表グループ以外のものが質問をするので、それにこたえる。また、次回の日本茶農家とのコラボについての概要を日本茶チームから説明を受ける。それに先立ち、商標のついての専門家をゼミに招いて講義を受ける。

9回 グループ発表の反省会と新しい課題について

前回のグループ発表における反省事項を各自が述べる。またグループとしての評価を発表する。自分はグループ内でどのような貢献ができたのかについても考える。特にデータを元とした提案ができたか否か、机上の空論になっていないかどうかをしっかりと検証する。

10回 コラボ企業のサービス・商品・広告について

（株）コムーススタイルの手作りアクセサリーをはじめ、過去のヒット商品とその時代背景について説明をする。また、マルイや三宮高架下ピアザ商店街のイベント企画の実際や、マルイで取り上げた企業などを例示して、当日の売上や顧客動向を検証する。

11回 過去のマーケットについて

前回は製品を中心とした話であったので、今回は昭和に流行した現象について話をする。たとえばミニスカート、たけのこ族、アイドルブーム、宇宙戦艦ヤマトをはじめとしたアニメブームのさきがけなどである。また、平成になってからのフェスブーム、イベントを中心としたコ

ト消費についてのヒットを検証する。検証にあたっては、企業あるいは業態の昭和時代のデータとも比較をする。

12回 現在のマーケットについて

主に2014年以降のヒット商品についての考察をする。ここでは過去の事例をふまえて、なぜそれらがヒットをしているのかについて議論をする。

13回 研究テーマの選択

各自がコラボというテーマで調べたが、その際に何についての具体的にどのようにしたのかを思い出し、また、今後続きがあるならばどのようにするのかを決めてもらう。

14回 研究テーマへの取り組みの報告

各自がどのようなテーマで、何をどこまでどのような方法で調べているのかの報告を実施する。お互いに現状を知ることによって、各自が方法を見直すことができる。

15回 研究テーマにそっての発表会

各自がテーマにそってどのような活動ができたのかを振り返る

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

福井 直人

<授業の方法>

演習（対面）

<授業の目的>

このゼミでは、組織と個人とのよりよい関係を考えることを目的とします。組織で働く人は、組織からの指揮命令に従うという点で他律性を帯びていますが、個人の自由意志を持って働くという点では自律性を帯びていません。他律性と自律性の相克をどのように止揚するかについて、働いて生きる（＝キャリア）、人と組織の能力を引き出す（＝人的資源管理）という2つのテーマを中心に研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なうことも目的とします。演習 Bでは、演習 Aで学んだことをさらに発展させ、チームごとに研究テーマを設定し合同ゼミに向けた報告資料を作成し、また実際に報告もしてもらいます。

<到達目標>

1. 人的資源管理の基礎的概念について説明できる。
2. 人事制度変革に成功した企業の情報を独力で収集できる。
3. 身近な組織（サークル、アルバイトなど）に、あるべき人事制度を提案できる。

<授業のキーワード>

経営組織、人的資源管理、経営学研究方法論

< 授業の進め方 >

合同ゼミまでは、チーム研究・報告資料作成を行い、チームごとに報告練習をしてもらいます。もちろん報告者が一方的に話して終わりというのではなく、聴衆からの闊達な議論を期待します。合同ゼミ本番を予想した質疑応答を行います。合同ゼミ終了後は少ししか期間がありませんが、個人での卒業研究テーマの決定に取り組みます。

< 履修するにあたって >

少なくとも経営学入門の内容を復習しておいてください。本科目と非常に関連性の高い科目は経営組織論、経営管理総論、人的資源管理論ですので、それらの科目も受講を済ませておいて（あるいは並行受講して）ください。あと知識面ではないですが行動面についてコメントしますと、チーム研究においてはフリーライド厳禁です。少しでもチームに貢献しましょう。おそらくそこから得られる報酬も大きいはずですよ。

< 授業時間外に必要な学修 >

合同ゼミに向けてチームごとにテーマを設定し、報告資料を作成する。（目安として1時間）

各回の討論を振り返り内省する。必要に応じてさらに調べ物をする。（目安として1時間）

前期の教科書でカバーできない論点については、参考図書を読んで確認してください。

< 提出課題など >

提出というわけではないが、合同ゼミにおいてチーム報告をすることが成果物のひとつとなります。これを行えば一定の点数は付与します。そして期末レポート（内容については演習中に告知するが、合同ゼミに関するものか、今後研究するテーマに関するものかいずれかを課します。期末レポートについては添削のうえドットキャンパスからフィードバックする予定です。

< 成績評価方法・基準 >

合同ゼミでの報告50%、期末レポート50%
人事制度に成功した企業の情報を独力で収集すること、またあるべき人事制度を提案できることが、合同ゼミ報告資料作成のポイントになります。そのための基礎知識はあることが前提でしょう。期末レポートにおいても同様です。

< テキスト >

上林憲雄編(2016)『ベーシックプラス人的資源管理』中央経済社。(2,640円)

< 参考図書 >

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。(3,080円)

< 授業計画 >

第1回 ゼミのイントロダクション

このゼミの概要について説明したうえで、人的資源管理とは何かについて簡単に説明します。研究倫理についても時間があれば言及するかもしれません。

第2回～第6回 各グループの研究テーマに関する資料の

収集

各グループの研究テーマに関する資料の収集および読解を行ないます。分析枠組の構築も行います。

第7回～第10回 1次資料の収集

仮説設定を行なったうえで、企業等へのアンケート調査、ヒアリング調査の実施します。もちろん仮説発見型研究の場合もあります。調査目的に適った資料収集の方法論を身につけましょう。

第11回～第13回 報告資料の作成、報告演習

収集した資料を分析・解釈し、わかりやすい報告資料の作成に取り組みます。さらにプレゼンテーション力を高めるために、本番さながらの報告演習を実施します。

第14回 合同ゼミへの参加

合同ゼミに参加し、チーム研究の集大成としての報告を行ないます。もちろん他大学による各報告も聴講します。闊達な質疑応答を期待します。

第15回 来季の卒業研究に向けての個人報告

次年度は卒業研究作成に取り組みます。春季休業時から取り組んでほしいので、まずは各自のテーマを設定し、報告してもらいます。参考文献については教員から紹介することもあります。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

藤原 由紀子

< 授業の方法 >

演習(対面)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに掲げられている現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学習すること、また経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得することを目指している。経営学部のコア科目に属し、演習 B、演習・卒業論文の準備科目である。

海外市場での製品やサービスの販売に際して、多国籍企業はどのようなマーケティング活動を行っているのか。国内で行うマーケティングとの違いはどこにあるのか。本講義では、事例を用いて多国籍企業のグローバルマーケティングについての理論や概念について学ぶ。その後、理論や概念を使って実際の企業活動を分析し、その結果を発表する。発表はグループ単位で行う。本講義を通じて 理論や概念を使って現実の企業活動を分析する力、 ディスカッションをする力の2つを習得することを目的とする。

< 到達目標 >

1. テキストの内容について理解し、レジュメを使って説明することができる。

2. 文献やインターネット使って情報を収集することができる。
3. 学んだ知識や理論を使って、現実の企業活動について説明できる。
4. 調査や分析の結果を発表資料にまとめることができる。
5. まとめた資料を使って、発表したりプレゼンテーションすることができる。
6. グループのメンバーと共同作業をしたり、意見交換することができる。
7. 授業中に発言や議論することができる。
8. プレゼンテーションや発表に際して質問したり、質問に対して適切に答えることができる。

< 授業のキーワード >

多国籍企業、現地化、標準化

< 授業の進め方 >

- ・テキストを使ってグローバルマーケティングの基本知識を学ぶ。
- ・その後、学習した理論や概念を使って少人数によるグループワークを行い、その成果をプレゼンテーションしてもらう。
- ・プレゼンテーションした内容について、ディスカッションを行う。
- ・必要に応じて、就職活動に関する講演や実務家による講演を受講する。
- ・企業や他の大学とのアクティブ・ラーニングに参加する場合は、授業計画を変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

講義はグループ発表形式で行います。授業中に少なくとも1回は発言してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

発表資料の作成、その過程でのテキストおよび関連する文献の熟読、わからない用語について調べるなどを行う。グループワークを完成させるための調査や作業を授業外に行ってもらいます。

< 提出課題など >

テキスト等についてのレジュメを使った発表以外に、グループワークの成果を発表したり、提出したりしてもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

単位の取得には、11回以上の出席が必要です。グループワークへの参加状況30%、授業中の質疑応答や議論への参加状況など30%、レポートや授業中の課題提出40%で評価します。

< テキスト >

『1からのグローバル・マーケティング』小田部正明、

栗木契、太田一樹編著 2,400円+税

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容や進め方、評価の仕方について説明する。

第2回 グループワーク

グループでテキストの担当箇所を熟読し、発表準備を行う。

第3回 グローバル製品戦略

(ゼミ生による発表)

海外の市場に向けて、どのような製品やサービスを開発すべきか。そのためにはどのような組織の仕組みが必要かを考える。

第4回 グローバル・ブランド戦略(ゼミ生による発表)

統一された1つのブランドでグローバル展開すべきか、国や地域によって異なるブランドを使うべきか。企業が自社の製品やサービスをグローバルに展開していくときに直面するブランディングの問題について学ぶ。

第5回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第6回 グローバル価格戦略

(ゼミ生による発表)

グローバルに流通する製品やサービスの価格は、国や地域によって異なる。なぜこのようなことが起こるのか。どのようにして価格は決定されるのか、その枠組みについて学ぶ。

第7回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第8回 グローバル競争の場としての日本

グローバル企業による日本進出の事例をもとに、その成功、失敗要因について考える。

第9～11回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第12回 グローバル企業による日本進出

グローバル企業による日本でのマーケティングについて、実地調査を行う。

第13回 グループワーク

学んだ理論や概念を使って、課題に取り組む。

第14・15回 ゼミ生による発表

グループワークや実地調査による分析結果を発表し、その内容についてディスカッションを行う。

第26回

第27～29回

第30回

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

松田 裕之

< 授業の方法 >

演習〔対面形式〕

< 授業の目的 >

演習 Aの延長上にあり、より高度な専門知識や協働スキルを学修します。ヒト=人間の営みに社会・文化の観点から多面的にアプローチして、ヒト資源の有効な活用に必要な知識やスキルを、グループ研究と発表、質疑応答やディベートの形式によって養います。これを通して、演習の卒業論文の作成に活用できる多角的な視点と比較の方法を身につけます。

< 到達目標 >

- (1) 質疑応答形式をマスターできる 技能
- (2) ヒト=人間に対する興味とリスペクトを高めることができる 態度・習慣
- (3) 組織のなかでの存在感をきちんと確立するスキルを養うことができる 技能・態度

< 授業のキーワード >

リスペクト、好奇心、他人への配慮、自己都合での行動抑止、信頼、協働

< 授業の進め方 >

グループワークには、『個人の自立と成長のための経営学入門：キャリア戦略を考える（新しい経営学）』を使用します。講義後、その内容にかかわる設問について、回答や意見を求めていきます。また、就職活動をにらみ、履歴書やESの作成、SPI試験の対策なども実施します。

< 履修するにあたって >

課外活動については、その都度、ゼミ生と協議して、時間割変更や土曜日の活用などで対応します。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習・予習に各1時間をかけてください。

< 提出課題など >

dotCampusより適宜指示します。

< 成績評価方法・基準 >

グループワークへの取り組み、発表の内容、質疑応答の作法を総合的に評価します（60％）。

また、プラスアルファとして、アクティブラーニングの企画・実施に際しての自主性や課外学習の学習態度も評価対象とします（40％）。

< テキスト >

斉藤毅憲・渡辺峻『個人の自立と成長のための経営学入門：キャリア戦略を考える（新しい経営学）』

文真堂

< 参考図書 >

テーマに応じてその都度紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ゼミナールの進め方

上記の内容について詳細に説明します。

第2回 テキスト紹介と各グループの分担章の決定

テキストの紹介と使用意図を説明し、各グループの分担章を決めます。

第3～6回 グループ発表と質疑応答

各グループが斉藤毅憲・渡辺峻『個人の自立と成長のための経営学入門：キャリア戦略を考える（新しい経営学）』の1章をモチーフにして設定したテーマを討論してもらいます。

第7～11回 グループ発表と質疑応答

各グループが斉藤毅憲・渡辺峻『個人の自立と成長のための経営学入門：キャリア戦略を考える（新しい経営学）』の1章をモチーフにして設定したテーマを討論してもらいます。

第12～13回 国立民族学博物館でのビジネススケッチ実習と大阪企業家ミュージアムでの就活前研修

国立民族学博物館でビジネススケッチの実習を行います。

各自展示物2点を選び、スケッチ並びに用途・特徴の記入を行います。大阪企業家ミュージアム学芸員による企業研究の効果的な進め方の講習を受けます。

第14～15回 A・Bを通しての総括と演習 履修についての説明と注意

演習 A・Bをつうじての総括と反省点を各自発表したあと、演習の履修に関する注意点、卒論のテーマの選定と文献の探し方についての説明を行います。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

宮本 幸平

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本ゼミは、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能の習得のために、経済学及び会計学の基礎理論理解を主題とする。我々が暮らす社会は「経済社会」としての一、経済学及び会計学の基礎理論理解を主題とする。面があり、これは「商品」の流通・消費によって生活が維持されることから伺える。こうした商品流通には「貨幣」が必要であり、したがって我々の暮らしにおいて貨幣が重要な意味を持つてくる。後期のゼミでは、貨幣をコントロールする「金融」の機能を理解することを目標とする。具体的には、経済活動

における「金融」の流れを理解し（経済学の基礎理論を含む）、併せて「金融」の流れを計算・記録する会計の基本的な枠組み（会計学の基礎理論を含む）などの理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、演習の運営を行うものとする。

<到達目標>

1. 経済の基本的な仕組みが理解できる。
2. 金融商品について理解できる。

<授業の進め方>

講義を中心として、知識の習得を図る。また、経済に関する新聞記事のプレゼンテーションを行う。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、自身が調査した新聞記事と関連する記事を読んでおくこと。（目安として1時間）

<提出課題など>

毎回、新聞記事をまとめたレポートを課す。プレゼンテーションの後にコメントを返す。

<成績評価方法・基準>

レポート・プレゼンテーション80%、討論参加度20%として評価する。

<テキスト>

毎回、配布する。

<授業計画>

第1回 経済のしくみ

我々の暮らしのなかで経済がどのように動いているか、「貨幣」がどのような役割を果たしているかについて理解する。

第2回 経済のしくみ

我々の暮らしにおいて「貨幣」のコントロールがどのように行なわれているか、それによって暮らしがどのように変化するかについて説明する。

第3回 経済のしくみ

不況、インフレ、失業などがどのようなプロセスで生じるかについて、基本的な経済理論によって理解する。

第4回 経済のしくみ

今般の経済動向として世界同時不況（リーマン・ショック）がなぜ起こったか、その理由を経済学および会計学の視点から理論的に説明する。

第5回 金融機関のしくみ

金融機関の中心である「銀行」が我々の生活において果たす役割について説明する。

第6回 金融機関のしくみ

「銀行」が取り扱う金融商品の種類と内容を説明する。また、証券会社の基本的な機能についても触れる。

第7回 金融政策のしくみ

不況、インフレ、失業に対する処方箋としての「金融政策」はどのようなものであるかについて基礎的な理論を

説明する。

第8回 金融政策のしくみ

「金融政策」について、やや発展的な経済理論（マクロ経済学）を説明する。

第9回 財政政策のしくみ

今般のような不況時において政府が発動する「財政政策」について基礎的な理論を説明する。

第10回 経済活動と会計の関係

我々が行なう経済活動は「取引」単位に集約され、「会計」によって計算・記録する。そこで、日々の経済活動がどのように「会計」によってまとめられるかについて説明する。

第11回 会計学の基礎理論

経済活動が「取引」単位に集約される「会計」がいかにして計算されるか（会計の計算構造）について、その概略を説明する。

第12回 金融派生商品の取引（先物取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「先物取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第13回 金融派生商品の取引（オプション取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「オプション取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第14回 金融派生商品の取引（金利スワップ取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「金利スワップ取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第15回 学習内容の討論

演習で学んだ内容に基づき、討論を行う。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

安井 一浩

<授業の方法>

演習形式で行う。

<授業の目的>

将来的に会計専門家を目指す人を対象に、会計基準に関する知識を習得することを目的とする。まず教科書をもとに会計基準の内容を学習する。その後、自分の興味のある分野を選び、その分野に関する会計基準の概要および問題点に関する発表を行う。発表ではパワーポイントを使用する。これは内容の理解とともに将来のプレゼンテーション能力を高めることを目的としている。発表の後に公認会計士としての実務経験がある教員から、守秘義務を逸脱しない範囲で、実務の観点を踏まえたコメントがある。また他学生のコメントもあり、今後の学習において意識すべき問題点を認識することとなる。

<到達目標>

財務会計における重要な概念を理解すること到達目標とする。また最終的には日本商工会議所簿記検定1級合格のための知識の修得を目標とする。

<授業のキーワード>

会計基準

<授業の進め方>

教科書に基づく討論と各人の発表を組み合わせる授業を進める。

また毎回、開始時に小テストを行う。

<履修するにあたって>

指示がある回には電卓を持参すること。またわからないことがある場合には、その場で質問を行い疑問点を残さずに帰るようにすること。

<授業時間外に必要な学修>

新聞および他の報道において企業の財務内容開示に関するニュースがあれば、必ず目を通しておくこと。また教科書から関連する部分を見つけ出し読むことが必要となる。これらに要する時間は1週間当たり1時間である。

<成績評価方法・基準>

小テスト50%、発表(コメントを含む)50%の割合で評価する。また資格試験、検定試験等の合格状況を加味する。

<テキスト>

桜井久勝、須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣。なお授業開始日現在における最新版とする。

<授業計画>

第1回 授業の進め方の説明

授業の進め方についてガイダンスを行う

第2回～第5回 財務会計の基礎概念

教科書に基づいて財務会計の主要論点の基礎概念について説明を行う。

第6回～第8回 発表その1

原則として各回2人ずつ、1人目から6人目のゼミ生が各自の興味のある財務会計の論点について発表を行う。なお原則としてパワーポイントを使用する。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。

第9回～第11回 発表その2

原則として各回2人ずつ、7人目から12人目のゼミ生が各自の興味のある財務会計の論点について発表を行う。なお原則としてパワーポイントを使用する。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。

第12回～第14回 発表その3

原則として各回2人ずつ、13人目から16人目のゼミ生が各自の興味のある財務会計の論点について発表を行う。なお原則としてパワーポイントを使用する。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。なおゼミ生の人数の関係で発表が終了した場合には、教科書を用いてその内容の解説を行う。

第15回

ガイダンス

就職ガイダンスを行う。

なお第1回～第14回の授業と前後する場合がある。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

柳 久恒

<授業の方法>

「対面授業」

本学の方針に則り、対面授業を行う。

<授業の目的>

本授業は、受講生のスポーツへの興味関心を高めるとともに、「スポーツマーケティング」や「スポーツマネジメント」に関する実践的な知識と技術を習得することを目的とします。

<到達目標>

・目的に即してプロジェクトを企画&立案し、実施することができる。

・アイスブレイクやグループワークなどを通じて受講生同士の親睦を深める。

<授業のキーワード>

スポーツマーケティング、スポーツマネジメント

<授業の進め方>

自分(たち)で目的に即したプロジェクトを企画&立案して実施する。

<履修するにあたって>

・原則として、毎回の授業に出席すること。

・授業を欠席する場合は、当該授業開始時刻までに連絡すること。

・無断で授業を欠席した場合には、厳しい減点を科す。

・学外のスポーツ関連の企業や施設、イベントを訪問することがある。(予定)

・授業計画は、授業の進み方等により、多少前後することがある。

<授業時間外に必要な学修>

授業で課された課題に取り組む。

<提出課題など>

グループや個人に企画書の作成とパワーポイントを用いたプレゼンテーション、プロジェクトの実施を課す。

<成績評価方法・基準>

成績評価は、グループや個人の企画書と発表、プロジェクトの実施結果などを総合して行う。

<テキスト>

必要に応じて資料を配布、紹介する。

<参考図書>

「図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント」
山下秋二、中西純司、松岡宏高(編著)、大修館書店(

2016年)。

「ゴールは偶然の産物ではない~FCバルセロナ流世界最強マネジメント~」フェラン・ソリアーノ(著)、グリーン裕美(翻訳)、アチーブメント出版(2009年)。

「スポーツマネジメント入門:プロ野球とプロサッカーの経営学」西崎信男(著)、税務経理協会(2015)。

「スポーツの資金と財務」武藤泰明(著)、大修館書店(2014)。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方と評価方法の説明、意見交換を行う。

第2回 キーワードの検討

興味・関心のある問題や課題について検討し、オリジナリティ溢れるキーワードを設定する。

第3回 テーマの設定

設定したキーワードからテーマを設定する。

第4回 文献資料の収集

テーマに即した文献資料、情報を収集し、企画書の作成準備を行う。

第5回 企画書作成の相談

進捗状況の確認と議論を目的として、個人またはグループで検討した課題に関する資料を作成する。

第6回 企画書作成の相談

進捗状況の確認と議論を目的として、個人またはグループで検討した課題に関する資料を作成する。

第7回 企画書作成の相談

進捗状況の確認と議論を目的として、個人またはグループで検討した課題に関する資料を作成する。

第8回 企画書の発表

発表(個人またはグループ×発表15分+質疑応答10分)

第9回 企業・施設・イベント訪問

スポーツ関連の企業・施設・イベントを訪問し、スポーツ関連の産業、ビジネスに関する理解を深める。

第10回 プロジェクトの実施検討

プロジェクトの実施を検討する。

第11回 プロジェクトの実施検討

プロジェクトの実施を検討する。

第12回 プロジェクトの実施

企画立案したプロジェクトを実施する。

第13回 プロジェクトの実施

企画立案したプロジェクトを実施する。

第14回 発表

発表(発表15分+質疑応答10分)

第15回 発表と総括

発表(発表15分+質疑応答10分)と総括を行う。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

吉田 康久

<授業の方法>

対面式授業を実施します。

<授業の目的>

(主題)

演習 Aでの調査・研究によって明らかにされた課題に対して、論理的に自らの解釈と意見を融合させ、新たな認識観を構築する。そのためには、自由な解釈や思想、そして発想を持ち合わせることが欠かせない。調査・研究によって明らかにされた課題を、新たに論理展開させ、革新的な論理を導き出すことが重要である。

(目標)

演習 Bは、卒業論文を執筆できるほどに、調査・研究の完成度を高めなければならない。ここでは、自らの知見を、展開させる調査報告の作成が中心になる。

<到達目標>

管理会計の技法には、システムとしての思想やプロセスが存在することを認識しなければならない。ただ、唯物論ではない技法であるため、個人的な見解を持ち合わせることが不可欠である。

<授業のキーワード>

コストマネジメント・テクニカルマネジメント・ヒューマンマネジメント

<授業の進め方>

自らが選定した研究テーマを、演習 Aよりも、さらに自律的に進めて行く。追加的な研究の方法や情報収集の仕方、さらに集約の仕方などについて、適時に指導する。

<履修するにあたって>

別段の理由がない限り、欠席を想定していない。(原則3回以下)

<授業時間外に必要な学修>

多くの書籍を図書館で活用すること。

<提出課題など>

適時に、提出を課す。

<成績評価方法・基準>

調査・研究への取組み姿勢や積極的参加度により評価する。

<テキスト>

随時、指導する。

<参考図書>

指定しない。

<授業計画>

第1回 調査・研究対象の検討会

調査・研究対象の論点整理の方向性を検討する。

第2回 調査・研究対象の検討会

調査・研究対象の論点整理の方向性を検討する。

第3回 調査・研究の実施

選定した管理会計技法の研究成果を報告書にまとめる。

第4回 調査・研究の実施

検討会で認識された論点を継続して調査・研究を行う。

第5回 調査・研究の実施

検討会で認識された論点を継続して調査・研究を行う。

第6回 調査・研究の実施

検討会で認識された論点を継続して調査・研究を行う。

第7回 研究報告書の作成手順

研究成果を報告書として作成するための要点について検討する。

第8回 研究報告書の作成

選定した管理会計技法の研究成果を報告書にまとめる。

第9回 研究報告書の作成

選定した管理会計技法の研究成果を報告書にまとめる。

第10回 研究報告書の作成

選定した管理会計技法の研究成果を報告書にまとめる。

第11回 研究報告書の作成

選定した管理会計技法の研究成果を報告書にまとめる。

第12回 調査・研究成果の発表会

発表をもとに議論を行う。

第13回 調査・研究成果の発表会

発表をもとに議論を行う。

第14回 調査・研究成果の発表会

発表をもとに議論を行う。

第15回 最終報告会

調査・研究の成果を諮問する。

2022年度 後期

2.0単位

演習 B

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

3年次配当のコア科目・選択必修科目であり、4年次配当の「演習II」への導入科目として位置づけられる。本セミナーでは情報化社会で必要な情報リテラシ(情報・情報機器を使いこなす能力)を習得し、コンピュータを使った情報収集、データ解析について学習する。情報リテラシの習得においては特定アプリケーション固有の操作方法だけでなく、情報ネットワークやデータベースといった様々な要素技術に関する基礎知識が

重要となるため、これら要素技術についても学習する。更に、Webサービスなどの事例を社会的側面と技術的側面からとりあげ、その仕組みや役割を理解する。また、希望者には情報処理技術者試験、特に基本情報技術者試験やITパスポート試験を受験するために必要な知識、技能についても指導する。

< 到達目標 >

- ・表計算ソフトウェアやデータベースを使用し、データの集計・分析などを行える。(技能)
- ・演習IIで卒業論文を作成するために必要となる知識・技術を身につける。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

PHP, データベース、最適化問題、情報技術

< 授業の進め方 >

PCを用いた演習とプレゼンテーションを中心に実施する。

< 履修するにあたって >

欠席回数が3分の1を超える場合は単位を与えないので注意すること。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と { <https://rinsaka.com/> } も参照してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

各自が決定したテーマに対する研究時間として、毎週継続的に1時間程度あるいはそれ以上の時間を充てることが望ましい。

< 提出課題など >

卒業研究テーマに関するレジюмеやスライドの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

発表内容、セミナーへの貢献度で評価する。

< テキスト >

指定しない。

< 参考図書 >

適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 卒業論文テーマの決定について

各自の卒業研究テーマを決定し、今後の研究方針について議論する

第2回 Webサービスの開発1

Python Django を使った Web サービスのプロジェクトを作成し初期設定を行う

第3回 Webサービスの開発2

データベースを作成し、テスト用データを投入する

第4回 Webサービスの開発3

モデル、ビュー、コントローラを作成し、システムに記事を投稿できるようにする

第5回 Webサービスの開発4

入力内容の検証、編集機能を作成し、テストの自動化を実現する

第6回 卒業研究の背景と目的1

卒業研究テーマについての背景を理解し、研究目的につ

いて議論する

第7回 卒業研究の背景と目的2

卒業研究テーマについての背景を理解し、研究目的について議論する

第8回 卒業研究の背景と目的3

卒業研究テーマについての背景を理解し、研究目的について議論する

第9回 卒業研究手法1

卒業研究で利用する分析方法について議論する

第10回 卒業研究手法2

卒業研究で利用する分析方法について議論する

第11回 卒業研究手法3

卒業研究で利用する分析方法について議論する

第12回 プレゼンテーション1

各自の卒業研究進捗状況について発表・討論する

第13回 プレゼンテーション2

各自の卒業研究進捗状況について発表・討論する

第14回 プレゼンテーション3

各自の卒業研究進捗状況について発表・討論する

第15回 まとめ

1年間の活動内容をふりかえり、卒業論文完成までの方針について議論する

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

赤坂 義浩

< 授業の方法 >

対面授業（演習）

< 授業の目的 >

本科目は、4年次配当のコア科目、選択必修科目であり、経営学部DP「5.経営の問題を総合的に分析。解析できる知識・技能を修得する」ことが目的である。本ゼミでは、受講者が卒業論文を作成するための準備、および作成指導を受けるためのゼミである。すなわち、受講者は、演習で学んだことをもとに、受講者各自が選択した研究テーマについて深く掘り下げて学び、論文を作成して提出することが目標である。

< 到達目標 >

演習で学んだ知識等を活用し、受講者が選んだ経営史の論点について自分で分析し、論文としてまとめ、表現できるようになることが目的である。

< 授業のキーワード >

経営史、経済史、卒業論文

< 授業の進め方 >

新年度の開講方法については、4月の新型コロナウイルス感染症の感染状況によって変わってきますが、現在のところ、対面により開講する予定です。もし感染状況によって遠隔開講にする場合は、zoomによるオンライン形

式で開講します。下の欄の「遠隔授業情報」にあるURLにアクセスして下さい。どちらにするかは、追ってお知らせします。

< 履修するにあたって >

経営史の論文作成のために必要なガイダンスを第1回の講義で行う。論文作成のための各種作業を進めてもらうことになるが、途中随時、進捗状況について報告してもらうほか、中間報告を実施してもらう。中間報告では、卒論作成作業の進捗状況についてレジュメを作成して、報告してもらう。

< 授業時間外に必要な学修 >

各学生が設定した論文テーマについて調査・資料収集・草稿作成などを行う。

< 提出課題など >

中間報告などに必要なレジュメ、提出形式に則り完成させた卒業論文

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の作成作業の中で随時行うプレゼンテーションや提出課題に基づいて成績評価を行う。

< 参考図書 >

各学生の卒業論文作成に必要な文献・資料について各担当教員が紹介・助言を行う。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

経営史の論文作成手順に関する説明、年間スケジュールについてガイダンスを行う。

第2回 卒業論文作成の準備(1)

各自、卒業論文のテーマを決めてもらう。このとき、なぜそのテーマについて取り上げるのか、について、考えてもらう。

第3回 卒業論文作成の準備(2)

論文作成に必要な史料・文献収集のため、ライブラリーツアーを実施して、図書館における史料・文献の検索方法について学ぶ。

第4回 史料・文献調査(1)

第3回で実施した、史料・文献検索のためのライブラリーツアーで学んだことを踏まえて、各自の卒業論文のテーマに関する史料・文献の所蔵状況を調べ、どのような史料・文献があるのか、報告してもらう。史料・文献がほとんど得られない場合には、論文テーマの変更も併せて検討する。

第5回 史料・文献調査(2)

第3回で実施した、史料・文献検索のためのライブラリーツアーで学んだことを踏まえて、各自の卒業論文のテーマに関する史料・文献の所蔵状況を調べ、どのような史料・文献があるのか、報告してもらう。史料・文献がほとんど得られない場合には、論文テーマの変更も併せて検討する。

第6回 史料・文献調査(3)

第3回で実施した、史料・文献検索のためのライブラリ

ーツアーで学んだことを踏まえて、各自の卒業論文のテーマに関する史料・文献の所蔵状況を調べ、どのような史料・文献があるのか、報告してもらおう。史料・文献がほとんど得られない場合には、論文テーマの変更も併せて検討する。

第7回 史料・文献収集(1)

図書館や、外部の公共図書館なども活用して、卒業論文の作成に必要な史料・文献を収集してもらい、収集状況の報告と、収集した史料・文献の紹介をしてもらう。

第8回 史料・文献収集(2)

図書館や、外部の公共図書館なども活用して、卒業論文の作成に必要な史料・文献を収集してもらい、収集状況の報告と、収集した史料・文献の紹介をしてもらう。

第9回 史料・文献収集(3)

図書館や、外部の公共図書館なども活用して、卒業論文の作成に必要な史料・文献を収集してもらい、収集状況の報告と、収集した史料・文献の紹介をしてもらう。

第10回 史料・文献収集(4)

図書館や、外部の公共図書館なども活用して、卒業論文の作成に必要な史料・文献を収集してもらい、収集状況の報告と、収集した史料・文献の紹介をしてもらう。

第11回 卒論研究(1)

過去の卒業論文を参考として配布し、史料・文献の使い方や分析方法などについて学んでもらう。

第12回 卒論研究(2)

過去の卒業論文を参考として配布し、史料・文献の使い方や分析方法などについて学んでもらう。

第13回 史料・文献の読み込みと分析(1)

収集した史料・文献の読み込みと分析作業を進めてもらう。随時、作業状況について報告してもらおう。

第14回 史料・文献の読み込みと分析(2)

収集した史料・文献の読み込みと分析作業を進めてもらう。随時、作業状況について報告してもらおう。

第15回 史料・文献の読み込みと分析(3)

収集した史料・文献の読み込みと分析作業を進めてもらう。随時、作業状況について報告してもらおう。

第16回 論文の構成案作成(1)

史料・文献の読み込み、分析作業を踏まえて、卒業論文の構成を考え、どうすれば効果的に自分の考えを論文を通して読者に伝えられるかについて考えてもらう。

第17回 論文の構成案作成(2)

史料・文献の読み込み、分析作業を踏まえて、卒業論文の構成を考え、どうすれば効果的に自分の考えを論文を通して読者に伝えられるかについて考えてもらう。

第18回 粗原稿執筆作業(1)

論文構成案にもとづき、論文の執筆作業に入ってもらおう。毎回、原稿の執筆状況や、執筆の際に気付いたこと、追加しなければならない史料・文献など補足事項についても報告してもらおう。また、論文構成の変更がある場合も随時報告してもらおう。

第19回 粗原稿執筆作業(2)

論文構成案にもとづき、論文の執筆作業に入ってもらおう。毎回、原稿の執筆状況や、執筆の際に気付いたこと、追加しなければならない史料・文献など補足事項についても報告してもらおう。また、論文構成の変更がある場合も随時報告してもらおう。

第20回 粗原稿執筆作業(3)

論文構成案にもとづき、論文の執筆作業に入ってもらおう。毎回、原稿の執筆状況や、執筆の際に気付いたこと、追加しなければならない史料・文献など補足事項についても報告してもらおう。また、論文構成の変更がある場合も随時報告してもらおう。

第21回 中間報告(1)

この時点での原稿執筆状況とその内容、明らかになったことや、課題、懸案事項について、各自レジュメを作成の上、報告してもらおう。

第22回 中間報告(2)

この時点での原稿執筆状況とその内容、明らかになったことや、課題、懸案事項について、各自レジュメを作成の上、報告してもらおう。

第23回 粗原稿執筆作業(4)

中間報告で出た懸案や補足史料の収集に基づいて、粗原稿を完成させてもらう。最後に結論として、明らかになったこと、わかったことをまとめてもらう。

第24回 粗原稿執筆作業(5)

中間報告で出た懸案や補足史料の収集に基づいて、粗原稿を完成させてもらう。最後に結論として、明らかになったこと、わかったことをまとめてもらう。

第25回 粗原稿提出と修正作業(1)

書き上げた粗原稿を提出してもらい、講義担当者が読んだ上で修正点を挙げ、それに基づき各自原稿の修正作業を行ってブラッシュアップし、完成原稿に仕上げてもらおう。また、最後に推敲をしてもらい、誤字、脱字のチェックも併せて行ってもらおう。

第26回 粗原稿提出と修正作業(2)

書き上げた粗原稿を提出してもらい、講義担当者が読んだ上で修正点を挙げ、それに基づき各自原稿の修正作業を行ってブラッシュアップし、完成原稿に仕上げてもらおう。また、最後に推敲をしてもらい、誤字、脱字のチェックも併せて行ってもらおう。

第27回 粗原稿提出と修正作業(3)

書き上げた粗原稿を提出してもらい、講義担当者が読んだ上で修正点を挙げ、それに基づき各自原稿の修正作業を行ってブラッシュアップし、完成原稿に仕上げてもらおう。また、最後に推敲をしてもらい、誤字、脱字のチェックも併せて行ってもらおう。

第28回 粗原稿提出と修正作業(4)

書き上げた粗原稿を提出してもらい、講義担当者が読んだ上で修正点を挙げ、それに基づき各自原稿の修正作業を行ってブラッシュアップし、完成原稿に仕上げてもらおう。

う。また、最後に推敲をしてもらい、誤字、脱字のチェックも併せて行ってもらう。

第29回 完成原稿提出

完成原稿の提出要件のチェック作業と、論文の提出を行う。

第30回 総括

卒業論文に付ける「論文要旨」をもとに、各自が卒業論文の内容と、明らかにしたことを発表してもらう。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

江頭 寛昭

< 授業の方法 >

演習（または、リアルタイム授業）

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得することを目指す。

選択必修科目の中のコア科目で、専門科目で学んだ知識をもとに経営の問題を総合的に分析・解析する実践的の技能を身に着けることを目指す。

中小企業は事業所の99%を占めるなど、産業の中で重要な役割を果たしており、大手企業が作る工業製品もその部品の多くが中小企業によってつくられています。しかし、グローバル化をはじめとする社会の変化のなかで、大手企業と中小企業が作り出してきた関係も大きな変化を迫られています。そこで、このように変化する現代の産業活動や取引関係について、自動車産業やアパレル産業など身近な産業・企業を取り上げながら議論していき、日本の現代の産業・企業が有する特徴を捉え、抱える課題について議論し、理解を深めることを目的とする。学習の集大成として卒業論文の作成に結びつける。

なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究員として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な知識をもとに助言、指導を行う。

< 到達目標 >

年度当初に産業に関わる題材から卒業論文のテーマを選定し、執筆する。

< 授業のキーワード >

企業活動、業界、取引関係、経営戦略、卒業論文

< 授業の進め方 >

年度当初に卒論のテーマを決定し、テーマを基に資料収集、考察を進め、卒論を執筆していただきます。

卒論作成途中で、進捗状況を適宜報告していただき、報告内容に応じて指導いたします。

< 履修するにあたって >

ゼミは全員参加を原則とし、やむを得ず欠席の際には必ず連絡のこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

できるだけ早期に論文のテーマを確定し、必要な資料・文献を収集・分析を丹念に行い、テーマの具体的なイメージが明確になるようにしてください。

< 提出課題など >

卒業論文の執筆・提出が評価の条件となります。

< 成績評価方法・基準 >

無断欠席が授業回数の3分の1を超える場合は評価対象になりません。卒業論文の内容と議論参加への積極性、受講態度をもとに評価します。

< テキスト >

必要があればその都度指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文の作成に向けて、活動内容とスケジュールについて説明します。

第2～4回 卒業論文の書き方と要点

卒業論文作成のための準備段階として、テーマ設定の仕方、卒論の形式、書き方などについて概説します。

第5～7回 主題の決定

卒業論文のテーマ（主題）を決め、必要な資料・情報を集めるための準備をします。

第8～11回 資料・情報収集

卒業論文作成に必要な資料・情報の収集とそのためのアドバイスをを行います。

第12～15回 論文の構成検討

収集した資料・情報をもとに論文執筆の基礎となる論文の骨組みを構成していきます。

第16～20回 論文草稿作成

論文の構成を肉付けし、論文の完成イメージを具体化させます。

第21～24回 論文執筆

卒業論文の執筆を行います。

第25～29回 論文修正・検討

執筆した卒業論文の内容、表現の的確さを検討し修正を加えます。

第30回 稿評・評価

完成した卒業論文の内容についての評価を行い、フィードバックします。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

大角 盛広

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

各々が決定した卒業論文テーマについて研究成果を定期的に発表、討論し、学位を得るにふさわしい論文の作成をめざす。

<到達目標>

・設定したテーマについて情報収集や分析等を行い、その結果を文章化・グラフ化・図式化できる

技能

・論文作成に使用した参考文献の出典をきちんと明記できる 技能・態度

・自分の考えを論理的に展開できる 技能

・正しい表記と法をもちいた文章を作成できる 技能

・オリジナリティのある卒業論文を作成できる 技能

<授業のキーワード>

オリジナリティ、問題意識、情報収集、伝える、進める

<授業の進め方>

本演習は、ゼミが主体となって運営される。卒業論文の報告者は、レジュメを作成し、報告や質疑

応答を行う。最終的に、指定された期までに卒業論文を作成し提出する。

<履修するにあたって>

就職活動によって休むことは認めるが、必ず事前に連絡すること。

<授業時間外に必要な学修>

各々が決定したテーマに対する研究時間として、毎週継続的に3時間程度あるいはそれ以上の時間を充てることが望ましい。

<提出課題など>

定期的な研究報告と卒業論文の提出を義務づける。

<成績評価方法・基準>

卒業論文、プレゼンテーション、質疑応答によって総合的に評価する。

<テキスト>

特に指定しない。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

1年間の演習について説明する。

第2回 テーマ選び

各自、研究テーマを選んで発表する。

第3回 テーマの検討

各自、研究テーマを選んで発表する。

第4回 テーマの検討

選んだテーマの妥当性について検討する。

第5回 テーマの検討

選んだテーマの妥当性について検討する。

第6回 テーマの検討

選んだテーマの妥当性について検討する。

第7回 テーマの検討

選んだテーマの妥当性について検討する。

第8回 テーマの検討

選んだテーマの妥当性について検討する。

第9回 資料検索

研究に必要な資料を検索する。

第10回 資料検索

研究に必要な資料を検索する。

第11回 資料収集

研究に必要な資料を集める。

第12回 資料収集

研究に必要な資料を集める。

第13回 資料収集

研究に必要な資料を集める。

第14回 資料収集

研究に必要な資料を集める。

第15回 資料収集

研究に必要な資料を集める。

第16回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第17回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第18回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第19回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第20回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第21回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第22回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第23回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第24回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第25回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第26回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第27回 研究指導

各自の研究テーマに従った研究指導を行う。中間報告を実施する。

第28回 研究のまとめ

研究を完成し発表する。

第29回 研究のまとめ

研究を完成し発表する。

第30回 演習のまとめ

2年間の演習の総まとめを行う。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

小川 賢

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

情報通信社会に関連する企業の活動や私たちの生活に与える影響等、演習で学修した内容を踏まえて、各自がテーマを設定し、問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を活用して、そのテーマに関連した卒業論文を作成し、学修の成果をまとめる。

<到達目標>

ネット社会での情報と企業・私たちのかかわり方について、各自が研究テーマを設定し、卒業論文にまとめる。

<授業のキーワード>

卒業論文

<授業の進め方>

卒業論文の執筆は各自のワークで、必要に応じてディスカッションを行い、その内容を共有する。

<履修するにあたって>

単位修得には卒業論文の提出と他受講生の報告に対するコメントが必要である。

<授業時間外に必要な学修>

事前に設定したテーマに関して説明資料を作成する。指摘されたコメントなどを次回までに資料に反映させる。1回の時間外の学習は2時間程度が目安である。

<成績評価方法・基準>

卒業論文（100%）で評価する。

<テキスト>

白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方[第2版]』ミネルヴァ書房

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ゼミの進め方。卒業論文についての説明。

第2回～第8回 テーマの選定

卒業論文執筆にあたってのテーマの選定を行う。

第9回～第12回 テーマの決定

テーマ・分析方法を決定する。

第13～第15回 中間報告1

分析結果を報告し、今後の卒業論文執筆の課題や工程を明確にする。

第16回 後期の進め方

卒業論文を提出までのタイムスケジュールについて説明する。

第17回～第19回 執筆と修正

議論を通して内容を適宜修正しつつ執筆していく。

第20～第22回 中間報告2

これまでの進捗状況を報告し取り組んできた内容を総括し、今後の卒業論文執筆の課題や工程を明確にする。

第23回～第25回 推敲

議論を通して内容を適宜修正し完成に近づける。

第26回～第28回 最終報告

取り組んだ内容やインプリケーションなどを報告し、レビューを受けて仕上げる。

第29回～第30回 まとめ

卒業論文を提出し学修内容を総括する。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

小澤 優子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

<主題>

この科目は、学部DPにある経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指すものである。経営学に関する専門的な理解や、実際の企業経営に関する理解を必要とします。

演習 A・Bで学習した企業の社会的責任（CSR）やコーポレート・ガバナンスに関する内容をもとに、卒業論文の執筆を進めていく。前期に卒業論文のテーマを設定し、そのための資料収集やそれらの分析を行う。この過程で、論文の大まかな構成も決めていく。後期では論文の執筆を開始し、また、その途中経過を報告、ディスカッションすることを通じて、論文を完成させていく。

<目的>

- ・CSRやコーポレート・ガバナンスの全体像を理論と実践の両側面からより深く理解することができる。
- ・大学における学習の集大成としての卒業論文を完成させる。

<到達目標>

- ・近年話題になっている問題について、自分の観点で説明することができる。
- ・新聞などで報道される社会におけるさまざまな問題に

ついて、関心を持つことができる。

・実際の企業経営について、そこで生じる問題について理解し、対応策などを提示できるようになる。

< 授業のキーワード >

株式会社、CSR、コーポレート・ガバナンス、ステークホルダー

< 授業の進め方 >

前半は、個人もしくは少人数のグループワークを中心に、後半は各自で卒論の執筆にあたる。

< 履修するにあたって >

積極的に授業やゼミ活動に参加することを望みます。

< 授業時間外に必要な学修 >

グループのメンバーで集まって卒論執筆のための文献収集をしたり、各自、図書館や情報センターで情報収集をする必要があります。また、とりわけ後期に入ってから、論文の執筆を各自、授業時間以外で進めておくことが不可欠となります。1週間に2,3時間程度は論文を書き進めたり、資料を集めたりしましょう。

< 提出課題など >

最終的には卒業論文の提出が不可欠です。また、その作成過程で、求められた個所までの論文の提出なども必要となります。これに関しては、提出した翌週までには添削の上で返却します。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミ活動ならびに質疑応答への参加状況(30%)や発表(20%)、ゼミ卒業論文の作成・提出(50%)をあわせて総合的に判断する。

< テキスト >

特定のものを使用しない。

< 参考図書 >

吉田和夫・大橋昭一監修『基本経営学用語辞典』同文館出版、2015年。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

演習 の進め方などについて説明する。

第2回～第14回 卒業論文のテーマ設定と文献の収集、調査

個人もしくはグループ単位で関心のあるテーマを選び、論文作成のための文献の収集や調査を行う。その過程で、卒業論文のテーマや文献収集などの進捗状況を報告する。

第15回 授業前半のまとめ

前期のまとめを実施する。また、夏休中の課題について説明を行う。

第16回 後期の授業のためのガイダンス

後期の授業の進め方などについて説明する。

第17回～第29回 卒業論文の指導

個別に卒業論文の進捗状況の報告(複数回)、また、その内容に対するフィードバックを行う。第29回目講義の終了までに、論文を完成させ、提出する。

第30回 演習 のまとめ

卒業論文の報告会、反省会を行う。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習 (及び卒業論文) 【19-】

今野 勤

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

卒業論文は、4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、3年次から始まる演習、で得られた知見を基に、学士の学位を得るにふさわしい論文の作成をめざす。

< 到達目標 >

各演習を担当する教員から専門性の高い助言を受け、それらを各人が理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通じて、学術的な思考にくわえて、問題解決能力を高めることを目標としている。

< 授業のキーワード >

メディアリテラシー、論文執筆の作法、独自の視座

< 授業の進め方 >

各担当教員による個別指導、後期は講義、演習、「対面授業および遠隔授業併用(オンライン授業)」

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、別途定める。

< 授業時間外に必要な学修 >

各学生が設定した論文テーマについて調査・資料収集・草稿作成などを行う。月10時間

< 提出課題など >

提出様式に則り完成させた卒業論文

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。演習担当教員は、所定の期間に所定の手続きを経てKPC教務センター経営学部窓口へ提出された完成論文を、主査として厳密に審査する。その審査に合格すれば、「卒業論文」4単位が与えられる。

< テキスト >

「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を配布する。

< 参考図書 >

各担当教員が必要に応じて選定・紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文を作成する意味と作成に関する注意事項の説明。

第2回～28回 論文作成の個別指導

各自のテーマに従った情報検索と文献資料の収集を行う
論文の論理構成と章建てを行い、指導教員のチェックを受け、必要に応じてゼミナール内での発表等を行う

各自の進捗状況を指導教員に報告するとともに、必要に応じた論文の補筆修正を受ける 指導教員のチェックを経た原稿をもとに、各自で論文を完成させる。

第29回～30回 論文の提出

指導教員の最終指導と完成の確認を得て、所定提出期間に卒業論文提出要項にしたがった手順で、K P C教務センター経営学部窓口で卒業論文を提出する。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

塩出 省吾

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

島永 和幸

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得することを目指す。本演習は、コア科目に属し、4年次の演習科目として位置づけられる。これまでの学修内容を踏まえて、卒業論文（卒論）の作成を目的とする。卒業論文は、4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、3年次から始まる演習、で得られた知見を基に、学士の学位を得るにふさわしい論文の作成をめざす。

< 到達目標 >

1. 卒論作成に必要な情報検索と収集の仕方を獲得する。
2. 卒論のテーマについて、資料を用いながら、自分の意見を述べることができる。
3. 指導教員の指導を受けながら、卒業論文を作成することができる。

各演習を担当する教員から専門性の高い助言を受け、それらを各人が理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通じて、学術的な思考にくわえて、問題解決能力を高めることを目標としている。

< 授業のキーワード >

1. 卒論作成
2. 情報検索
3. 情報収集の仕方

< 授業の進め方 >

本演習は、ゼミ生が主体となって運営される。卒論の報告者は、レジュメを作成し、報告や質疑応答を行う。指定された期日までに卒業論文を作成し、提出する。

< 履修するにあたって >

卒論で単位取得できなかった場合を見越して、卒論以外の講義科目も履修すること。

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、別途定める。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、卒業論文作成に必要な資料収集を行い、ゼミでの指導教員のコメントを受けて、適宜修正すること。（目安として2時間）

< 提出課題など >

指定された期日までに卒業論文を提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文への取り組み状況や中間報告、質疑応答等60%、卒業論文の内容等40%の割合で、総合的に評価する。

< テキスト >

「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を配布する。

< 参考図書 >

適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

演習 の概要と卒業論文作成に関する注意事項について理解する。

第2回～第4回 卒業論文のテーマ選び

卒業論文のテーマ選びと情報検索および情報収集を行う。

第5回 卒業論文のテーマ報告

卒業論文テーマの報告(中間報告)と質疑応答を行う。

第6回～第10回 卒業テーマに関する資料収集と章構成の素案作り

卒業論文のテーマに関連する資料を収集しながら、章構成の素案を作成する。

第11回 収集した資料と章構成の素案に関する報告

収集した資料と章構成の素案に関する報告(中間報告)と質疑応答を行う。

第12回～第14回 追加資料の収集と卒論の素案作り

追加資料の収集と卒論の素案作りを行う。

第15回 卒論の素案に関する報告

卒論の素案に関する報告(中間報告)を行う。

第16回～第20回 追加資料の収集と卒論作成

追加資料の収集と卒論作成を行う。

第21回 卒論の中間チェック

作成した卒論箇所について報告(中間報告)を行い、質疑応答を行う。

第22回～25回 追加資料の収集と卒論作成

追加資料の収集と卒論作成を行う。

第26回～第29回 卒論のフル原稿のチェック

卒論のフル原稿を報告(中間報告)し、質疑応答を行う。

第30回 卒論提出(予定日)と演習 のふりかえり

卒論の提出(予定日)と演習 のふりかえり

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

島永 嵩子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得することを目指す。本ゼミは、コア科目に属し、4年次の演習科目として位置づけられる。演習

では、各自の関心に合わせて「ゼミ卒業論文」のテーマを選択し、それについて調査・研究を行い、「ゼミ卒業論文」としてまとめることができるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

「ゼミ卒業論文」の作成を通じて、

プレゼンテーションのスキルを向上させること

情報収集能力を養うこと

論理的思考力を修得すること

< 授業のキーワード >

卒業論文、情報検索、情報収集の仕方

< 授業の進め方 >

ゼミでの研究報告を経て、最終的に「ゼミ卒業論文」としてまとめる。

< 履修するにあたって >

中間報告を経ず提出された卒業論文は「不可」とします。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習として、資料収集を行い、卒業論文の報告や作成を行うこと。（目安として2時間）

< 提出課題など >

指定された期日までに卒業論文を提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミでの報告50%、卒業論文の内容50%

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習 の概略を理解する。

第2～3回 卒論の書き方について

卒論を書くための基礎的な考え方を理解する。

第4～6回 文献資料の収集

論文を執筆するにあたって必要な文献研究や資料収集について理解する。

第7～9回 先行研究のまとめ

各自で行った文献研究の結果をまとめ、ゼミで発表する。

第10～15回 テーマおよび問題意識についての発表

問題意識を明確にし、卒論のテーマを決定する。

第16～20回 卒論の中間発表

卒論の構成を吟味し、中間発表を行う。

第21～25回 卒論の個人指導

中間発表の反省を踏まえ、個人ベースで執筆の指導を行う。

第26～29回 卒論の最終報告

卒論の要点の発表および最終確認を行う。

第30回 卒論の最終提出

卒論の最終報告でもらったコメントを参考に、原稿を加筆修正し、最終版を完成する。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

千田 直毅

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

これまで学んできた経営学、特に人的資源管理論の知識や考え方をふまえ、卒業論文の執筆に取り組む。

< 到達目標 >

・卒業論文執筆を通じて、人的資源管理に関する理論を体系的に理解する。

・卒業論文執筆および進捗報告を通じて、資料の収集能力およびプレゼンテーション能力を高める。

・学士相当の卒業論文を完成させる。

< 授業の進め方 >

各人が卒業論文の進捗を発表し、その内容につき討議、あるいは指導教員からのコメント・指導を受ける。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文の執筆およびそれに必要な調査や分析、進捗報告資料の作成は講義時間外にも行う必要があります。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミへの取り組み（30%）、卒業論文（70%）

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

卒業論文の執筆についての説明、演習 の進め方の説明。

第2回～第4回 卒論のテーマ決めと文献調査

各人の卒論テーマの決定と、それに関連する文献・資料の調査を行う。

第5回～第7回 卒論のテーマ決めと文献調査

各人の卒論テーマの決定と、それに関連する文献・資料の調査を行う。

第8回～第10回 卒論のテーマ決めと文献調査

各人の卒論テーマの決定と、それに関連する文献・資料の調査を行う。

第11回～第12回 研究進捗報告

各人の卒論テーマおよび研究の進捗について報告を行う。

第13回～第14回 研究進捗報告

各人の卒論テーマおよび研究の進捗について報告を行う。

第15回 前半のまとめ

前期の文献・資料研究のまとめと今後の論文執筆における課題等について議論する。

第16回～18回 研究進捗報告

各人の研究・執筆の進捗に関する報告およびディスカッションを行う。

第19回～21回 研究進捗報告

各人の研究・執筆の進捗に関する報告およびディスカッションを行う。

第22回～第24回 データ収集・分析および論文執筆

これまでの進捗報告においてうけたコメントや指導をふまえ、データの収集・分析、および論文の執筆と修正を行い、報告する。

第25回～第27回 データ収集・分析および論文執筆

これまでの進捗報告においてうけたコメントや指導をふまえ、データの収集・分析、および論文の執筆と修正を行い、報告する。

第28回～第30回 卒論の最終報告

卒業論文の完成と提出に向けての最終報告を行い、適宜追記・修正作業を行う。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

田中 康介

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本演習では、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目的とする。そのため、理論と実践の両面から、企業経営や経営戦略、及び経営組織を理解する事を目指す。方法として、理論研究と共に実際の企業行動（ケース）を分析する事によって、仮説の導出や検証、またそれらの理論的な説明を試みる。或いは、既存の理論に対する問題提起を行って、ケース研究を通じて、その反証や理論的説明を試みる場合もある。何れにせよ、理論研究とケース分析を通じての、理論と実践の両面での研究を前提とする。

<到達目標>

1. 理論と実践の両面から企業の経営や戦略、組織を説明できる。
2. 実在する産業や企業を現実的に説明できる。
3. 実地に調査、研究した事を論理的に記述できる。

<授業のキーワード>

経営戦略、経営組織、業界研究、環境分析、事例研究(ケース・スタディ)

<授業の進め方>

ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、それらの成果を論文にまとめていきます。各自の自主性を尊重します。

<履修するにあたって>

履修者には、調査や研究に対する積極的な取り組みが望まれます。また、現象や事象、事例等に関して、深い洞察や考察が求められます。

<授業時間外に必要な学修>

演習以外の時間でも、自主的・積極的に調査研究や論文執筆を行って下さい。

<提出課題など>

本演習全体を通じての成果物として、卒業論文の提出を義務づけています。尚、本演習の単位を修得するためには、卒業論文の提出は必須です。

<成績評価方法・基準>

成果物（卒業論文）50%、研究発表（プレゼンテーション・ディスカッション）等50%の割合で、成績評価します。但し評価対象は、出席回数が授業回数の3分の2以上であることを前提とします。

<テキスト>

特になし

<参考図書>

各自に対し、必要に応じて個別に指示します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション～研究の構想と計画

卒業論文の構成や内容をどのようなものにするか検討し、研究計画を構想する。

第2回 イントロダクション～研究の構想と計画

卒業論文の構成や内容をどのようなものにするか検討し、研究計画を構想する。

第3回 イントロダクション～研究の構想と計画

卒業論文の構成や内容をどのようなものにするか検討し、研究計画を構想する。

第4回 研究計画の構想と策定

研究計画(目的・方法・結論等)を構想・策定し、研究計画書を作成する。

第5回 研究計画の構想と策定

研究計画(目的・方法・結論等)を構想・策定し、研究計画書を作成する。

第6回 研究計画の構想と策定

研究計画(目的・方法・結論等)を構想・策定し、研究計画書を作成する。

第7回 研究計画の構想と策定

研究計画(目的・方法・結論等)を構想・策定し、研究計画書を作成する。

第8回 調査研究と執筆

研究計画に基づき、論文の構成や展開に就いて検討し、目次を作成する。

第9回 調査研究と執筆

研究計画に基づき、論文の構成や展開に就いて検討し、目次を作成する。

第10回 調査研究と執筆

研究計画に基づき、論文の構成や展開に就いて検討し、目次を作成する。

第11回 調査研究と執筆

論文要旨に就いて検討し、執筆する。夏期休業中に、1章部分に就いて検討し、執筆する。

第12回 調査研究と執筆

論文要旨に就いて検討し、執筆する。夏期休業中に、1章部分に就いて検討し、執筆する。

第13回 調査研究と執筆

論文要旨に就いて検討し、執筆する。夏期休業中に、1章部分に就いて検討し、執筆する。

第14回 調査研究と執筆

論文要旨に就いて検討し、執筆する。夏期休業中に、1章部分に就いて検討し、執筆する。

第15回 調査研究と執筆

論文要旨に就いて検討し、執筆する。夏期休業中に、1章部分に就いて検討し、執筆する。

第16回 調査研究と執筆

1～2章部分に就いて検討、執筆する。

第17回 調査研究と執筆

1～2章部分に就いて検討、執筆する。

第18回 調査研究と執筆

1～2章部分に就いて検討、執筆する。

第19回 調査研究と執筆

1～2章部分に就いて検討、執筆する。

第20回 調査研究と執筆

1～2章部分に就いて検討、執筆する。

第21回 調査研究と執筆

3章部分に就いて検討、執筆する。

第22回 調査研究と執筆

3章部分に就いて検討、執筆する。

第23回 調査研究と執筆

3章部分に就いて検討、執筆する。

第24回 調査研究と執筆

4章～最終章部分に就いて検討、執筆する。

第25回 調査研究と執筆

4章～最終章部分に就いて検討、執筆する。

第26回 調査研究と執筆

4章～最終章部分に就いて検討、執筆する。

第27回 調査研究と執筆

4章～最終章部分に就いて検討、執筆する。

第28回 論文の完成

論文の最終章(結論等)まで書き上げ、論文を完成させる(指導教員に提出)。

第29回 論文の確認と再検討

論文の最終チェック(再検討)を行い、必要に応じて調整・修正する。

第30回 論文の確認と再検討

論文の最終チェック(再検討)を行い、必要に応じて調整・修正する。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習 (及び卒業論文) 【19-】

辻 幸恵

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

企業経営に関する問題にさらに自主的に関心を深めるために、各自が興味のある会社を選択し、SWOT分析する。これを対象企業と呼ぶ。次に対象企業の商品やサービスに関する資料を集め、その商品やサービスに対する顧客満足を考察する。このことによって、対象企業のビジネス全般にわたって活用するために必要な知識を総合的に学修できる。これは経営学部のディプロマポリシーと合致している。さらに経営学に通じる問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。調べる過程において通信技術を用いて、情報を集め、さらにそれを加工することも、情報の整理技術を習得する機会となる。実務経験のある教員として、結果の推測や予測する手助けとして具体例を示すことができる。

<到達目標>

- 1.知識としてはマーケティングの基礎と現実的な商品や広告が理論的に説明できることを目標とする。
- 2.態度・習慣としては、自分でテーマを選択し、そのテーマについて調べ、まとめ、発表することができるようになることである。また新製品をリサーチしようとする態度がみにつくことである。
- 3.技術としては、リサーチした対象企業とその顧客に関する情報をまとめる力を身に付けることである。

<授業のキーワード>

マーケティング、顧客満足、ブランド、消費者行動

<授業の進め方>

講義だけではなく、少人数のグループディスカッションも取り入れる。発表などをした後は、各自にこちらからコメントカードを配布するので、それをよく読んで、次回に備えること。

<履修するにあたって>

マーケティング論と消費者行動論の基本的な知識は学習しておくこと。また、マーケティングに関するニュースなどには関心をもってほしいので、毎日、ニュースなどをチェックすること。新聞ならば朝刊、夕刊ともにチェックをすることを求める。また、毎回教材を指定しているので授業の後は該当教材の復習を各自がしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

シラバスに示したとおり、テーマを選択したならば、そ

のテーマにそって文献などを読む必要がある。なお、マーケティング論や消費者行動論に関しては指定図書を活用すればよい。産学官との連携も積極的にすすめているので、その課題に対する学習は別途、ゼミ時間とは別に設ける。

< 提出課題など >

提出物としては、発表したときにまとめた資料などはまとめて提出してもらう。前期も後期も同様である。

< 成績評価方法・基準 >

前期(1回目～15回目)は以下の3つの合計で評価をする。これらの合計が評価となる。

1. 総合評価点40点、0点から40点までで評価をする。総合評価点は毎回の授業内での態度、マナー、参加度の3つの視点から評価をする。1回の授業で0点から3点の配点になる。ただし9回目と15回目はこの日常点は含まれない。また別途、挙手や発表、課題への学外での取り組みは評価の対象とする。

2.9回目：中間でのグループ発表30点、0点から30点までで評価をする。

3.15回目：個別の課題発表30点、0点から30点までで評価をする。

後期(16回目～30回目)は以下の3つの合計で評価をする。これらの合計が評価となる。以下の詳細は前期と同じである

1. 総合評価点40点

2. 中間課題評価：30点

3.16回目：個別の課題発表点30点、0点から30点までで評価をする。

< テキスト >

随時プリントを配布する

< 参考図書 >

辻幸恵『流行と日本人 - 若者の購買行動とファッション・マーケティング -』白桃書房、2001年、2200円 + 税

< 授業計画 >

1回

ゼミの概要

ゼミの概要として、学習の到達目標、ゼミ内での約束事などを説明する。学習する上で参考になるような、あるいは対象となるような企業の紹介などもおこなう。

2回 マーケティングの基礎用語の確認

マーケティング論の基本を確認する。同時にこのゼミでは市場を中心に消費者行動にも着目をするので消費者の視点についても説明をする。

3回 対象企業とテーマの選択

身近な会社を紹介し、それらのマーケティング戦略を中心に各自が調べる会社を決めたいので、この時間に各自がどのような視点からアプローチをすればよいかを決める。

4回 テーマにそってのアプローチについて

テーマにそってどのような視点から学習していけば、あるいは調査をしていけばよいのかについて基本的な文献検索からはじめる。また、テーマが大きい場合はどこから考えていけばよいかを指示する。

5回 対象企業に関する分析への準備

各グループがテーマを決め、研究を開始しているはずである。最終的にはそれらを発表するが、その発表方法などをこの時間では確認をする。基本的には発表はパワーポイントの使用を考えている。

6回 各自の中間発表

1ヶ月何をどの程度調べたのかについて各グループが報告をする。企業とのコラボの準備をすすめる。ホームページの見方、財務諸表の見方などを学習する。

7回 テーマ発表での注意事項

発表をする際の注意事項を確認する。発表時間、質疑応答時間、発表する際に準備するもの、マナーなどである。また聞く側の注意事項も説明をする。これらは、授業内だけではなく、今後、学会に行く場合などを含めて、報告する側、される側の態度やマナーもあわせて指導する。また、学会以外にも企業報告があるのでそちらには必ず参加するので、その準備をする。参加企業のホームページ、新製品は調べておく。

8回 テーマにそって各グループ発表

各グループが持ち時間内に発表をする。発表グループ以外のものが質問をするので、それにこたえる。

9回 グループ発表の反省会と新しい課題について

前回のグループ発表における反省事項を各自が述べる。またグループとしての評価を発表する。自分はグループ内でどのような貢献ができたのかについても考える。

10回 過去のヒット商品について

過去のヒット商品とその時代背景について説明をする。たとえば大正時代に流行をした竹久夢二の文具や、昭和に流行をしただっちゃん人形など主に製品を中心にとりあげる。これらをヒントに現在、コラボ企画中の企業にも何が提案できるのかを各自が考える

11回 過去のヒット現象について

前回は製品を中心とした話であったので、今回は昭和に流行した現象について話をする。たとえばミニスカート、たけのこ族、アイドルブーム、宇宙戦艦ヤマトをはじめとしたアニメブームのさきがけなどである。お茶ブームを学習し、現在コラボ企画中の南京町の天福名茶の商品のアピール方法を検討する。

12回 現在のヒット商品について

主に2014年以降のヒット商品についての考察をする。ここでは過去の事例をふまえて、なぜそれらがヒットをしているのかについて議論をする。また、今後日本でヒットしそうな商品を雑貨や小物の中から探し、商品開発(フェリシモ、手芸メーカー)とのコラボに備える。

13回 研究テーマの選択

各自がヒット商品というテーマで調べることにするが、その際に何のヒットについてのテーマにするのかを決めてもらう。映画、音楽、事象、広告、製品などから選択をする。

14回 研究テーマへの取り組みの報告

各自がどのようなテーマで、何をどこまでどのような方法で調べているのかの報告を実施する。お互いに現状を知ることによって、各自が方法を見直すことができる。企業コラボの状況を各チームごとに情報共有する。

15回 研究テーマにそっての発表会

各自がテーマにそって発表をする。発表は2人一組になり、どちらがよかったのかを聞いている側が採点をする。夏休みの商品開発にむけてフェリシモチームは開発と情報発信に分かれる。

16回 卒論にむけて

卒論の書き方について再度説明をする。また卒論を書く意味や意義、論旨についての確認をする

17回 卒論の書き方

レポートの書き方を復習する。口語にならないための注意事項、注釈のつけ方、参考文献の書き方などを確認する。

18回 卒論の書き方2

実際に構図の考案について、章立てについて、などを説明する。問題提議をどこに、どのように設定するのも合わせて事例をあげて説明をする。

19回 論理について

論理の話をする。論旨の作り方を具体的に説明をする。一方、感想になりがちな事例もあげる。

20回 文献の選択と読み方について

参考文献をはじめとし、文献の読み方、引用の方法、文献の必要性などについて説明をする

21回 図表についての説明

卒論で使用するための図表について説明をする。

22回 図表についての説明2

図表の探し方について説明をする。これは参考資料の選定にも通じている。

23回 考察について

考察について説明をする。仮説に対する結果をどのように考えていくのかが、考察である。

24回 考察について2

考察は感想文ではなく、結果をふまえること、あるいは先行研究との比較になることなどを説明する。

25回 卒業論文の見直し

各自が卒業論文の見直しをする。レイアウト、図表番号、注釈、参考文献などをチェックする

26回 卒業論文の見直し2

最終的に再度、見直しをする。足りないところの補充などをする。

27回 現在の市場について

現在の市場の特徴を考察する

28回 消費者の傾向について

現在の若者の傾向を分析する

29回 今後の消費者の変化について

今後の消費者の傾向について、過去の消費者との比較をおこなう

30回 まとめ

最後の授業で1年間の振り返りをする

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

福井 直人

<授業の方法>

演習（対面）

<授業の目的>

このゼミでは、働いて生きる（＝キャリア）、人と組織の能力を引き出す（＝人的資源管理）という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。本科目では卒業論文の完成を目指します。こちらから特定の課題を出すという形式は取らず、各ゼミ生が研究した内容を毎回報告してもらう予定です。卒論作成を通じて、より深い思考力や協働スキルの獲得を目指します。

<到達目標>

人的資源管理論や経営組織論に関する理論的知識と修得するとともに、高度なディスカッションスキルを構築する。最終的には卒業論文の完成を目標とする。

<授業のキーワード>

人的資源管理、経営組織、経営学方法論

<授業の進め方>

個人による論文作成を進めてもらい、その進捗状況を各回で報告してもらいます。報告者以外も報告者による報告を真摯に聞き、質疑応答に参加することが求められます。

<履修するにあたって>

人的資源管理論、経営組織論、経営戦略論、経営管理総論の履修ないし並行履修が望ましい。1学期と2学期は同じルーティンでゼミを行なう予定なので、進め方は1学期中に慣れておくとうい。

<授業時間外に必要な学修>

事前学修：毎週のゼミに備え、卒業論文のテーマについて各自で独習するようにしてください。卒業研究の作成は学生諸君の自発的な努力にかかっています。配布された文献がある場合は必ず授業前に読んでおいて下さい。いうまでもなく、各回の報告担当者は報告準備が必要で

す。事後学修：福井からのフィードバックをもとに卒業論文の完成にむけて進める必要があることは、言うまでもありません。さらに、ほかの人の報告からよりよく学ぶため、自身のテーマ以外についても本を読むなりしてみま

しょう。

< 提出課題など >

卒業論文に向けて、少なくとも下記の課題を課します。

- ・ 夏期中間レポート（卒業論文の前段階）
- ・ 卒業論文草稿第1回
- ・ 卒業論文草稿第2回

以上の各段階を経たうえで卒業論文の本稿を提出することを認められます。換言すれば、以上の段階で担当教員による校正・評価を受けていない卒業論文は一切受理することができません。

< 成績評価方法・基準 >

夏期中間レポート25%、卒業論文の草稿提出25%、授業への貢献度（発表など）50%

出席はあくまでも単位修得の必要条件であり、したがるといって加点はないです（無断欠席は減点）。就職活動が続いている学生については欠席を考慮することがありますが、内定式への出席は欠席扱いとします。また、内定後研修と演習 が重複した場合は、研修へは絶対に出席してはならず、演習 に出席しなければなりません。

< テキスト >

指定しません。

< 参考図書 >

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2018)『経験から学ぶ人的資源管理（新版）』有斐閣。

白木三秀編(2018)『人的資源管理の力』文眞堂。

上林憲雄編(2016)『ベーシック+ 人的資源管理』中央経済社。

岩出博(2013)『Lecture人事労務管理（増補版）』泉文堂。

卒業論文の書き方に関する参考図書については演習中に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 本科目の進め方の確認、および研究倫理について

文献の内容や今後の進め方を確認します。研究倫理について学びます。

第2回、第3回 ケーススタディ

ケースを用いた議論を通して理解を深めます。

第4回、第5回 文献研究

文献発表とディスカッションを行います。

第6回、第7回 ケーススタディ

ケースを用いた議論を通して理解を深めます。

第8回、第9回 文献研究

文献発表とディスカッションを行います。

第10回、第11回 ケーススタディ

ケースを用いた議論を通して理解を深めます。

第12回、第13回 文献研究

文献発表とディスカッションを行います。

第14回、第15回 ケーススタディ

ケースを用いた議論を通して理解を深めます。

第16回、第17回 文献研究

文献発表とディスカッションを行います。

第18回、第19回 ケーススタディ

ケースを用いた議論を通して理解を深めます。

第20回、第21回 文献研究

文献発表とディスカッションを行います。

第22回、第23回 ケーススタディ

ケースを用いた議論を通して理解を深めます。

第24回、第25回 文献研究

文献発表とディスカッションを行います。

第26回、第27回 ケーススタディ

ケースを用いた議論を通して理解を深めます。

第28回～第30回 文献研究およびケーススタディの総まとめ

ケースを通じて学んだことをグループ内で議論し要約します。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

藤原 由紀子

< 授業の方法 >

演習（対面）

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得することを目指す。この科目は経営学部のコア科目であり、専門科目で学んだ知識、調査・分析力、文章にまとめあげる力が必要となる。各自が経営学分野で関心のあるテーマを選び、資料集め、調査、分析を通じて、卒業論文を完成させることを目的とする。授業では、情報収集の方法や、卒業論文を執筆するための指導を行う。また、他のゼミ生の発表に対して互いにコメントしあうことで、テーマに関する洞察を深めていく。

< 到達目標 >

卒業論文として完成させることを目標とする。その過程で次のことも目標とする。

- ・ 自ら決めたテーマについて情報収集したり、分析を伝える。
- ・ 集めた情報や分析結果を文章やグラフ、図で表現することができる。
- ・ 他のゼミ生の発表内容について関心をもち、その内容について検討することができる。
- ・ 検討した結果を、質問やアドバイスという形で発言できる。
- ・ 卒業論文のどこかに、オリジナリティを出す。

< 授業のキーワード >

問題意識、情報収集、分析、伝える、自ら進める

< 授業の進め方 >

自分が選んだテーマについて調べたことを中心に、各自月1回程度の発表を行う。その発表に対して、教員やゼミ生を交えて質疑応答を行う。これにより疑問点や不明な点を明らかにし、テーマに対してさらに調べるべきことや習得すべき理論的知識を明確にする。テーマ選びや情報収集のやり方を学ぶために、図書館や情報処理実習室も活用する。

< 履修するにあたって >

卒論のテーマ選びは重要です。自分の関心がどこにあるのか、そのテーマについて調べる意義は何なのかなど、深く考えることが必要となります。

卒論が完成するまでには時間が多くあるようですが、日々の取り組みがなければ完成は難しいです。自分で考えること、物事を計画的に進めていくことが必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

必要な文献の収集、研究対象についての情報収集を行う。発表に備えて、調べた事柄、自分なりの分析について、文章化する。

指導に沿って、卒論の加筆・修正をする。

< 提出課題など >

- ・前期に2回、後期に2回の発表を課す。

発表された内容については、授業中に議論するとともに、改善点や方向性について指導する。

- ・夏季休業中の課題として、それまでの発表内容をもとに執筆した部分を提出してもらう。

それについては、個別に指導する。

- ・11月末までに、ほぼ完成した状態の卒論を提出してもらう。

- ・論文の内容、構成を中心に個別に指導を行い、論文完成につなげる。

< 成績評価方法・基準 >

単位認定には、半期ごとに12回以上の出席と発表資料を用いての授業中の発表（前期2回、後期2回）が必要です。

他の受講生の発表についての発言や議論への参加状況50%、発表資料の内容30%、情報収集などへの取り組み状況20%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文とはどのようなものなのか、授業の進め方を説明する。

第2～5回 テーマの選定と文献調査

卒業論文のテーマ探しを行い、選定する。文献調査やインターネットなどを通じた情報収集を行う。

第6回 情報収集の方法

インターネットを使って信頼性の高い情報を収集するための方法を学ぶ。

第10～15回 ゼミ生による発表

情報収集した内容や、それについての分析結果について、レポートの形の資料を作って発表する。

第16回 卒論の構成について

卒論がどのような構成で成り立っているのかを、簡単な論文を使って学ぶ。各章でどのようなことについて記述するのか、今後、何について調べなければならないのかを把握する。

第17～24回 論文の執筆とゼミ生による発表

- ・論文の一部をレポートにし、ゼミで発表する。そこで出た質問やコメントを

- もとに内容を修正したり、さらに情報収集をすることで、論文の執筆を進める。

- ・11月末までに、ほぼ完成した論文を提出してもらう。その論文について、全体

- の構成や内容について指導を行うので、12月中に加筆修正を行う。

第25～29回 卒論の仕上げ

教員や他のゼミ生からの指摘をもとにして、卒論として提出できる形に完成させる。

第30回 卒論のふりかえり

卒論について振り返り、講評を行う。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

松田 裕之

< 授業の方法 >

演習〔後期は対面授業および遠隔授業併用〕

< 授業の目的 >

卒業論文は、4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、3年次から始まる演習、で得られた知見を基に、学士の学位を得るにふさわしい論文の作成をめざす。

< 到達目標 >

各演習を担当する教員から専門性の高い助言を受け、それらを各人が理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通じて、学術的な思考にくわえて、問題解決能力を高めることを目標としている。

< 授業のキーワード >

メディアリテラシー、論文執筆の作法、独自の視座

< 授業の進め方 >

各担当教員による個別指導

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、

別途定める。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒論作成については、4月にテーマの設定、5?6月に必要な文献資料の収集、7月に構成の検討、8月以降に草稿の作成を行い、10月に草稿を完成させ、以降指導教員の添削を受けて12月20日までに完成させることになります。8月以降は1日最低2時間を卒論執筆に充当してください。

< 提出課題など >

提出様式に則り完成させた卒業論文

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。演習担当教員は、所定の期間に所定の手続きを経てK P C 教務センター経営学部窓口へ提出された完成論文を、主査として厳密に審査する。その審査に合格すれば、「卒業論文」4単位が与えられる。

< テキスト >

演習 シラバス「授業の方法」欄に掲載したURLでONE D RIVEから各自卒論作成のマニュアル資料をダウンロードしてください。

< 参考図書 >

各担当教員が必要に応じて選定・紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文を作成する意味と作成に関する注意事項の説明。

第2回~28回 論文作成の個別指導

各自のテーマに従った情報検索と文献資料の収集を行う
論文の論理構成と章建てを行い、指導教員のチェックを受け、必要に応じてゼミナール内での発表等を行う
各自の進捗状況を指導教員に報告するとともに、必要に応じた論文の補筆修正を受ける 指導教員のチェックを経た原稿をもとに、各自で論文を完成させる。

第29回~30回 論文の提出

指導教員の最終指導と完成の確認を得て、所定提出期間に卒業論文提出要項にしたがった手順で、K P C 教務センター経営学部窓口へ卒業論文を提出する。

2022年度 前期~後期

8.0単位

演習 (及び卒業論文) 【19-】

宮本 幸平

< 授業の方法 >

演習・対面授業

< 授業の目的 >

本ゼミは、経営学部のD Pに示す、「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得」を目指す。そして、現代経済論および会計学理論の本質的理解を目途とする。そこで、3年次で学んだ現代経済・金融・マクロ経済・財務会計論等の知識を援用し、各自が論文(卒

業論文)の作成に取り組むことを目標とする。ゼミの前期では、個々のテーマを斟酌しながら共通の論点・知識についての理解を目標とする。後期には、順次プレゼンテーションを実施しつつ、論文作成を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、演習の運営を行うものとする。

< 到達目標 >

間近の世界経済の状況について把握できる。

経済学理論を援用して、企業の採るべき戦略を策定することができる。

< 授業の進め方 >

各自が調査した経済に関する新聞記事のプレゼンテーションを行う。

卒業論文の途中経過につき報告を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、前授業の成果をピックアップし、内容を簡潔に整理しておくこと。(目安として1時間)

< 提出課題など >

後期から、各自が準備した内容のプレゼンテーションを行い、これに対してコメントを返す。

< 成績評価方法・基準 >

提出論文100%で評価する(論文提出者のみ評価対象とする)。

< テキスト >

毎回、レジュメ等を配布する。また、適宜テキストを指定する。

< 授業計画 >

第1回~第3回 年度計画説明と論文作成ガイダンス
年度計画について説明し、論文作成のためのガイダンスを行う。

第4回~第7回 論文テーマ決定(第1次)

各自論文テーマを決定し、報告する(第1次)。

第8回~第10回 論文テーマの論点解説

決定された各論文テーマに対し、共通の理論・論点につき網羅的に解説する。

第11回~第13回 論文の進捗状況と今後方針の報告
当該時点の研究の進捗状況と後期以降の方針につき、報告を行う。

第14回~第16回 後期計画説明と論文作成ガイダンス

後期計画について説明し、論文作成のためのガイダンスを行う。

第17回~第20回 論文テーマ確認(最終決定)

論文テーマの最終確認を行う。当該時点をもってテーマを確定する。

第21回~第23回 論文報告

執筆中の論文につき、到達点の内容を報告(プレゼンテーション)する。

第24回~第27回 論文作成指導

論文の作成を行う。

第28回～第30回 論文プレゼンテーション
作成論文のプレゼンテーションと質疑応答を行う。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

安井 一浩

<授業の方法>

演習形式で行う。

<授業の目的>

将来的に会計専門家を目指す人を対象に、会計基準に関する知識を習得することを目的とします。まず教科書をもとに財務会計の知識を学習します。その後、自分の興味のある分野を選び、その分野に関する会計基準の概要および問題点を発表します。そこでは自分の理解の程度を確認するとともに、公認会計士として実務経験がある教員から、守秘義務を逸脱しない範囲でコメントがなされ、また他の学生からのコメントもあり、今後の学習において意識すべき問題点を認識することとなります。また最終的に学習した成果は卒業論文としてまとめることも目的とします。卒業論文は、4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、3年次から始まる演習、
得られた知見を基に、学士の学位を得るにふさわしい論文の作成をめざします。

<到達目標>

財務会計における重要な概念を理解し、卒業後に会計専門家として業務に従事する知識を習得することを到達目標とする。そのために簿記検定1級の合格または税理士試験の合格（科目合格を含む）を目標とします。卒業論文は、教員から専門性の高い助言を受け、それらを各人が理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通じて、学術的な思考にクわえて、問題解決能力を高めることを目標としている。

<授業のキーワード>

会計基準

<授業の進め方>

教科書に基づく討論と各人の発表を組み合わせる授業を進める。

また毎回、開始時に小テストを行う。

後半では、卒業論文の作成に力点を置いて指導を行う。

<履修するにあたって>

指示がある回には電卓を持参すること。なお発表およびディスカッションを中心として進める。またわからないことがある場合には、その場で質問を行い疑問点を残さずに帰るようにすること。

<授業時間外に必要な学修>

授業中に説明した内容を復習すること。復習に要する時間は1.5時間である。

<成績評価方法・基準>

小テスト50%、発表（コメントを含む）50%の割合で評価する。また資格試験、検定試験等の合格状況を加味する。またレポートおよび検定試験等の合格状況を加味する。

<テキスト>

桜井久勝、須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣。なお開講日現在における最新版とする。

<授業計画>

第1回 授業の進め方の説明

授業の進め方および卒業論文の作成要領についてガイダンスを行う

第2回～第4回 財務会計の諸概念

教科書に基づいて財務会計の主要論点の基礎概念について説明を行う。

第5回～第7回 発表（第1回目）その1

各原則として各回2名ずつ、1人目から6人目のゼミ生に、卒業論文に向けて自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。

第8回～第10回

発表（1回目）その2

各原則として各回2名ずつ、7人目から12人目のゼミ生に、卒業論文に向けて自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。

第11回～第13回

発表（第1回目）

各原則として各回2名ずつ、12人目から16人目のゼミ生に、卒業論文に向けて自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。また発表された内容をもとにグループ・ディスカッションを行う。なおゼミ生に人数の関係で、発表が終了した場合には、財務会計の諸概念について教科書をもとに説明を行う。

第14回～第16回 卒業論文の作成方法

卒業論文の作成要領、引用文献の記載方法、章立ての方法等について指導を行う。

第17回～第19回 発表（2回目）その1

各原則として各回2名ずつ、1人目から6人目のゼミ生に、卒業論文に向けて自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。また発表された内容をもとに卒業論文作成に向けての指導を行う。

第20回～22回 発表（2回目）その2

各原則として各回2名ずつ、7人目から12人目のゼミ生に、卒業論文に向けて自の興味のある財務会計の論点

または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。また発表された内容をもとに卒業論文作成に向けての指導を行う。

第23回～第25回 発表(2回目)その3

各原則として各回2名ずつ、13人目から16人目のゼミ生に、卒業論文に向けて自の興味のある財務会計の論点または実際の企業の財務諸表について調査を行い発表を行う。また発表された内容をもとに卒業論文作成に向けての指導を行う。なおゼミ生の人数の関係で指導が終了した時には、教科書をもとに財務会計の諸概念について説明を行う。

第26回～第28回 卒論最終指導その1

ゼミ生全員について、個別に卒業論文の最終的な仕上げに向けての指導を行う。

第29回～第30回 卒論最終指導その2

ゼミ生全員について、個別に卒業論文が提出できるレベルに達しているかについて、形式面も含めて確認し必要に応じて指導する。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習 (及び卒業論文) 【19-】

柳 久恒

< 授業の方法 >

授業の方法：リアルタイム授業および課題とフィードバック中心の通信教育

接続用URL：<https://zoom.us/j/98514186407?pwd=SGplaDI4OFU3MDRaQ1hCK0Y3YXlkZz09>

ミーティングID: 985 1418 6407

パスワード: 083899

教員への質問等はdotCampusの質問箱を利用しましょう。

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。

解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの以下の場所に記載されているので、ご確認ください。

URL：<https://www.kobegakuin.ac.jp/students/toriatsukai.html>

< 授業の目的 >

・本授業は、卒業研究の完成を目的とし、そこに至るまでの相談、議論、指導を行う。

< 到達目標 >

・各受講生は興味・関心のある問題や課題を見出し、オリジナリティ溢れるテーマ・タイトルを自ら設定する。

・テーマ・タイトルに沿った和文・英文論文ならびに文献、資料を収集、精読し、考察を踏まえたうえでそれらをまとめ、新たな知見を明らかにする。

< 授業のキーワード >

スポーツマーケティング、スポーツマネジメント

< 授業の進め方 >

・授業の中で、受講生が自ら課した課題を発表、提出させることで、理解度・到達度を確認する。

< 履修するにあたって >

・原則として、テーマは1人1題とする。

・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。

< 授業時間外に必要な学修 >

論文の書き方や卒業研究のテーマ、内容の検討と執筆、資料の収集など

< 提出課題など >

卒業研究を作成し、パワーポイントを用いた卒業研究の発表を課す。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、卒業研究の執筆(評価割合80%)と卒業研究の発表(評価割合20%)の結果を総合して成績評価を行う。

< テキスト >

必要な場合は資料を配布する。

< 参考図書 >

「サッカーで燃える国 野球で儲ける国 スポーツ文化の経済史」ステファン・シマンスキー、アンドリュー・ジンバリスト(著)、田村 勝省(翻訳)、ダイヤモンド社(2006年)。

「スポーツMBA」広瀬一郎(編著)、創文企画(2006)

「スポーツの経済学」マイケル・A・リーズ(著)、ピーター・フォン・アルメン(著)、大坪正則(監修)、佐々木勉(翻訳)、中央経済社(2012年)。

「スポーツ経営学入門 理論とケース 増補改訂版」大野貴司(著)、三恵社(2015年)。

「スポーツの経済学」小林至(著)、PHP研究所(2015年)ほか

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習 の進め方と評価方法の説明、意見交換を行う。

第2回 研究計画

各受講生は、興味・関心のある問題や課題を見出し、オリジナリティ溢れるテーマ・タイトルを自ら設定して卒業研究の研究計画を立てる。

第3?4回 先行研究の検討

収集した資料を精読する

第5?6回 研究計画の発表準備

テーマ・タイトル、研究動機や研究の背景、先行研究の検討結果、研究目的、用語の定義、今後のスケジュール、

研究方法の検討などを行う

第7?8回 プロポーザル(研究計画発表)

進捗状況の確認と議論を目的として、受講生が自ら課した課題を資料およびパワーポイントを用いて発表し、提出する。

第9?10回 ディスカッション

研究の構成や研究方法等についてディスカッションを行い、それらを踏まえたうえで研究計画をまとめる。

第11?12回 プレ調査の実施とデータの入力・分析
プレ調査を行い、データの入力や分析方法、図表の用い方などを学び、実践する。

第13?14回 授業内プレゼンテーション

進捗状況の確認と議論を目的として、受講生が演習で実施してきた内容をまとめ、資料およびパワーポイントを用いて発表し、提出する。

第15回 ふりかえり

実施してきた内容をふりかえり、課題をもとに長期休暇と後期に向けた計画を策定する。

第16回 研究計画の修正

ふりかえりを踏まえ、後期の進め方と評価方法の確認、意見交換を行う。

第17回 研究計画の確認

各受講生は、興味・関心のある問題や課題を見出し、オリジナリティ溢れるテーマを自ら設定して卒業研究の研究計画を微調整する。

第18?19回 本調査の実施とデータの入力・分析

本調査を行い、データの入力や分析、図表の作成などを行う。

第20?21回 中間発表の準備

本調査をもとに結果をまとめる。

第22?23回 中間発表と質疑応答

進捗状況の確認と議論を目的として、受講生が自ら課した課題を資料およびパワーポイントを用いて発表し、提出する。また受講生全員で質疑応答を行う。

第24?25回 ディスカッション

研究の構成や結果のまとめ等についてディスカッションを行い、それらを踏まえたうえで研究をまとめる。

第26?27回 卒業研究の提出

考察、結論、今後の課題、研究の限界、引用参考文献リスト、謝辞、抄録の作成などを行い、校正したうえで最終的に提出する。

第28回 卒業研究の再校

再校した卒業研究を提出する。

第29?30回 卒業研究の発表会とふりかえり

卒業研究の発表会と演習のふりかえりをし、1年間の総括をする。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習 (及び卒業論文) 【19-】

吉田 康久

<授業の方法>

対面式授業を実施します。しかし、状況が変わった場合は、オンライン授業になることがあります。

<授業の目的>

(主題)

卒業論文作成のための指導を行う。テーマは、自らが選定し決定する。指導の内容は、研究に求められる方法論を中心に行う。論文作成のためには、先行研究や現状分析を明らかにする必要があり、また、仮説・検証という手続きも要請される。論文執筆に不可欠な事項を修学する。

(目標)

論文執筆のために不可欠な要素を理解し、自らの問題意識によって、研究意欲を惹起させることを狙う。研究の深化には、私的好奇心が求められる。

<到達目標>

論文執筆のために方法論を周知すること。

<授業のキーワード>

先行研究・仮説・検証

<授業の進め方>

基本行動は、自らの問題意識にもとづき、適時の指導を行う。本演習は、講義ではないため、一方的な解説ではなく、インターラクティブに遂行する。

<履修するにあたって>

卒業論文の作成を前提とする。

<授業時間外に必要な学修>

時間のある時に自ら執筆を敢行する。

<提出課題など>

適時に課すことがある。

<成績評価方法・基準>

参加の程度と論文の完成度により評価する。

<テキスト>

随時に指導する。

<参考図書>

指定しない。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

卒論作成への要領を概説する。

第2回 研究テーマの選定

問題意識を調査する。

第3回 研究テーマの検討

研究題目としての成立の可否を考察する。

第4回 研究の実施

研究テーマの調査方法を説明する。

第5回 研究の実施
情報およびデータの収集方法を説明する。

第6回 研究の実施
収集した資料やデータの分析手法を説明する。

第7回 研究報告の作成準備
報告書作成のための手順について説明する。

第8回 研究報告の作成準備
研究報告をデータとして入力する方法を説明する。

第9回 研究報告の作成準備
研究報告内容の吟味を行う。

第10回 研究報告会の開催
報告をもとに討論を行う。

第11回 研究報告会の開催
報告をもとに討論を行う。

第12回 研究報告会の開催
報告をもとに討論を行う。

第13回 研究の展開
報告会を踏まえて研究をさらに深化させる。

第14回 研究の展開
報告会を踏まえて研究をさらに深化させる。

第15回 研究の展開
報告会を踏まえて研究をさらに深化させる。

第16回 論文執筆の実施
1 対応で指導を行う。同時に執筆の妥当性を検証する。

第17回 論文執筆の実施
1 対応で指導を行う。同時に執筆の妥当性を検証する。

第18回 論文執筆の実施
1 対応で指導を行う。同時に執筆の妥当性を検証する。

第19回 論文執筆の実施
1 対応で指導を行う。同時に執筆の妥当性を検証する。

第20回 論文執筆の実施
1 対応で指導を行う。同時に執筆の妥当性を検証する。

第21回 論文の中間報告
研究論文の方向性を検証する。

第22回 論文の中間報告
研究論文の方向性を検証する。

第23回 論文の中間報告
研究論文の方向性を検証する。

第24回 論文執筆の展開
中間報告を踏まえて最終確認を行う。

第25回 論文執筆の展開
中間報告を踏まえて最終確認を行う。

第26回 論文執筆の展開
中間報告を踏まえて最終確認を行う。

第27回 注釈の付与
注釈の意義と執筆の形式について説明する。

第28回 引用文献の付与
引用文献の記載方法を説明する。

第29回 序論・結論の付与
序論・結論の執筆を完成させる。

第30回 研究論文の報告
研究論文の最終確認。

2022年度 前期～後期

8.0単位

演習（及び卒業論文）【19-】

林坂 弘一郎

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

コア科目・選択必修科目に属し、4年間の学修の集大成となる科目である。

各自が決定した卒業論文テーマについて研究成果を定期的に発表、討論し、学士の学位を得るにふさわしい論文の作成をめざす。

<到達目標>

大学生活4年間における集大成としての卒業論文を完成させる。

<授業の進め方>

主として卒業研究の進捗状況報告および個別指導を実施する。

<履修するにあたって>

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と { <https://rinsaka.com/> } も参照してください。

<授業時間外に必要な学修>

各自が決定したテーマに対する研究時間として、毎週継続的に1時間程度あるいはそれ以上の時間を充てることが望ましい。

<提出課題など>

定期的な研究報告と卒業論文の提出を義務づける。

<成績評価方法・基準>

卒業論文、プレゼンテーション、質疑応答によって総合的に評価する。なお、欠席回数が3分の1を超える場合は単位を与えないので注意すること。

<テキスト>

指定しない。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

卒業研究の進捗状況を確認し、今後の研究方針や発表スケジュールを決定する

第2回 卒業論文の様式理解

卒業論文の様式(表紙、目次、章構成、参考文献等)を理解し、MS-Wordで卒業論文を作成するための方法を習

得する
第3回 Webサービスの事例紹介(1)
インターネット通販における顧客関係管理などの事例を紹介する
第4回 Webサービスの事例紹介(2)
インターネット通販における顧客関係管理などの事例を紹介する
第5回 Webサービスの事例紹介(3)
インターネット通販における顧客関係管理などの事例を紹介する
第6回 卒業研究の経過報告 (1)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第7回 卒業研究の経過報告 (2)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第8回 卒業研究の経過報告 (3)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第9回 卒業研究の個別指導(1)
卒業研究の進捗状況について報告し、個別指導を受ける
第10回 卒業研究の個別指導(2)
卒業研究の進捗状況について報告し、個別指導を受ける
第11回 卒業研究の個別指導(3)
卒業研究の進捗状況について報告し、個別指導を受ける
第12回 卒業研究の経過報告(1)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第13回 卒業研究の経過報告(2)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第14回 卒業研究の経過報告(3)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第15回 前半のまとめ
前半の活動内容についてふりかえるとともに、卒業論文完成に向けての方針について議論する
第16回 卒業研究の経過報告(1)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第17回 卒業研究の経過報告(2)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第18回 卒業研究の経過報告(3)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第19回 卒業研究の個別指導(1)
卒業研究の進捗状況について報告し、個別指導を受ける
第20回 卒業研究の個別指導(2)
卒業研究の進捗状況について報告し、個別指導を受ける
第21回 卒業研究の個別指導(3)
卒業研究の進捗状況について報告し、個別指導を受ける
第22回 卒業研究の経過報告(1)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第23回 卒業研究の経過報告(2)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第24回 卒業研究の経過報告(3)
卒業研究の進捗状況について報告・討論する
第25回 卒業論文の執筆状況報告と指導(1)

卒業論文の執筆状況について報告し、個別指導を受ける
第26回 卒業論文の執筆状況報告と指導(2)
卒業論文の執筆状況について報告し、個別指導を受ける
第27回 卒業論文の執筆状況報告と指導(3)
卒業論文の執筆状況について報告し、個別指導を受ける
第28回 卒業論文の提出
卒業論文を完成させ提出する
第29回 卒論発表会と総まとめ(1)
卒業論文の発表会で各自が発表すると共に、大学生生活の総まとめを行う
第30回 卒論発表会と総まとめ(2)
卒業論文の発表会で各自が発表すると共に、大学生生活の総まとめを行う

2022年度 前期

2.0単位

応用経営情報処理

大角 盛広

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この授業では、ごく簡単なWeb Page(ホームページ)作りと、Excelを縦横に活用し簡単なシステムを作成する方法を学ぶ。インターネット上での情報発信に関する基礎的な理解と、個人的にも業務上でも利用価値の高いExcelについてより深く理解し活用できるようになることが目標である。Excelについては、よく知られているような表計算だけではなく、思わず家でも試してみたいような活用例を学ぶ。例年、「えっ、こんな使い方ができるの!？」と驚く学生も多いが、Excelに使われるのではなく、柔軟な発想でさまざまなことにExcelを応用するという体験ができる。

この授業は、情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から情報システムについて解説する。

< 到達目標 >

Web Pageの仕組みがわかる。

簡単なWeb Pageを自分で作ることができる。

Excelの関数を使い役に立つシステムを作ることができる。

Excelの処理を自動化する方法が理解できる。

< 授業の進め方 >

Windowsパソコンを使用する

< 履修するにあたって >

受講人数制限科目であるので抽選希望登録が必要である。

< 授業時間外に必要な学修 >

インターネットを通じてブラウザに情報を送り見やすい形式で表示させるためには、授業で紹介する技法以外にも膨大な種類があるので、自分自身でいくつか調べてみる。また、個人レベルでの事務処理の自動化としてどのような手段が考えられるのか、自分で調べたり考えたりすること。

< 提出課題など >

Web PageとExcelに関してそれぞれ課題レポートを提出してもらう。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み状況30%、課題レポート70%の割合で評価する。

< テキスト >

教材としてプリントを配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、評価方法等について説明を受ける

第2回 Web Pageの仕組み

Web Pageの仕組みについて、基礎的なことから学ぶ

第3回 Web Pageの作り方 1

HTMLによるWeb Pageの構造記述方法について学ぶ

第4回 Web Pageの作り方 2

画像の取り扱い、複数ファイルのリンクについて学ぶ

第5回 Web Pageの作り方 3

表の取り扱いとレイアウト、飾り付け等について学ぶ

第6回 Web Pageの作り方 4

文字コード、簡単なJavaScriptについて学ぶ

第7回 課題作成

今までの知識を応用して課題を作成する

第8回 Excelの関数 1

IF, COUNTIFなどの場合分け関数について学ぶ

第9回 Excelの関数 2

VLOOKUP関数の基礎を学ぶ

第10回 Excelの関数 3

VLOOKUP関数による場合分け・仕分け等について実例で学ぶ

第11回 Excelの関数 4

VLOOKUP関数のさまざまな応用について学ぶ

第12回 画像の検索

名前付けによる擬似的な画像検索の方法について学ぶ

第13回 Excelのマクロ

マクロの基礎およびボタンとの連動について学ぶ

第14回 課題作成 1

今までの知識を応用して課題を作成する

第15回 課題作成 2

今までの知識を応用して課題を作成する

2022年度 前期

2.0単位

応用経営情報処理

持田 信治

< 授業の方法 >

講義とパソコンを使? した演習を? う。

なお、DotCampusで資料を配布することがあるので確認しておくこと。

【連絡先】

bs165090@ba.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

経営戦略に於いては、幾つかの条件下において目標値を最大あるいは最小にする問題が存在する。そこで本講義では実際の問題最大、最小を求める解法として回帰分析と線形計画法を説明する。次に本講義では実際の問題を回帰分析や線形計画問題として捉えるための基本を理解することを目指す。そして本講義の目標はEXCELを使用して実際に回帰分析や線形計画問題を解けるようになることである。また本講義は講義担当者のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づく、経営戦略とプロジェクトの関係及び経営戦略の策定ポイントを解説する。

< 到達目標 >

本講義の目標は以下の2つである。

(1) 企業経営に於ける科学的な分析方法の目的と必要性を説明できるようになること。

(2) EXCELを使用して回帰分析や線形計画問題を解けるようになること。

< 授業のキーワード >

企業経営、科学的な分析方法、線形計画法

< 授業の進め方 >

講義と演習を中心に進め、必要に応じてディスカッションを行う、

また授業において、今回の講義及び前回の講義内容について、小テストを行うこともある。

< 履修するにあたって >

ICT実習で学ぶエクセルの知識があることが望ましい。今回の講義及び前回の講義内容について、課題を提示することもある。

各自、自宅等でPCで指定のアプリケーションを利用できることを前提とする。

指定のアプリケーションとは以下の通り。

(1) マイクロソフト EXCELとWORD

(2) PDFの表示ができるソフト

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後において、今回の講義及び前回の講義内容に

ついて、小テストを行うこともあるので、授業後の復習を行うこと。また小テストの内容は講義では説明をしていない関連項目に及ぶこともあるので講義テーマについて学修の？安として予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を？うのに0.5時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

講義の終わりに当該講義に関する小テストを行う、又は講師内容に関するレポートの提出を要求することがある。実施した小テストや課題については、次回の講義内で必要に応じて説明を行う。

< 成績評価方法・基準 >

課題やコメントにより評価する。また、課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。

< テキスト >

プリント資料を適宜配布する。

< 参考図書 >

(1)EXCELでかんたんデータ分析、河野真紀・河野善仁、オーム社、2009

< 授業計画 >

第1回 企業戦略と情報について

企業経営における目的と資源と情報とは

第2回 企業経営の戦略とは

企業経営における科学的な戦略について

第3回 科学的な戦略とは

科学的な戦略立てと確率について

第4回 データ処理の基本

データ分析とヒストグラム

第5回 戦略とデータ処理

戦略とパレート図の演習

第6回 知識とデータ

知識を生かすチェックシート

第7回 まとめの試験 1

第1回から6回までの内容について試験を行う

第8回 線形モデルとは

離散化と線形モデルについて

第9回 戦略と回帰分析

回帰分析と重回帰分析について

第10回 戦略と回帰分析 その2

数量化 類分析について

第11回 線形計画法

線形計画法の基本について

第12回 線形計画法演習 #2

EXCELLを用いて線形計画法を解く

第13回 線形計画法演習 #3

実際の問題を線形計画法を用いて解く

第14回 まとめの試験 2

第8回から12回までの内容について試験を行う

第15回 前期の総まとめ

前期のまとめと演習を行う

2022年度 前期

2.0単位

応用経営情報処理

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と実習

< 授業の目的 >

プログラミング言語JavaScriptの概念を理解して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。また、基本的なアルゴリズムやデータ構造を理解する。

< 到達目標 >

・JavaScriptを使用して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。

・基本的なアルゴリズム（順次・選択・繰返し）やデータ構造（クラス・オブジェクト）を理解する。

< 授業のキーワード >

JavaScript、プログラミング、Monaca、Webアプリ開発、スマートフォンアプリ開発

< 授業の進め方 >

パソコンを用いた講義・実習形式の授業。パワーポイント資料を用いて説明、例題を提示したのち、各自でプログラムを作成しながら理解を進める。

< 履修するにあたって >

プログラミング経験は問わないが、難易度はやや高めに設定しているので、履修に際しては十分に留意のこと。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業毎に約1時間

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

実習課題（80%）、授業中の取り組み（20%）で評価する。

< テキスト >

「Monacaで学ぶはじめてのプログラミング ~ モバイルアプリ入門編 ~」、生形可奈子・岡本雄樹著、アシアル株式会社

< 参考図書 >

「たった1日で基本が身に付く！JavaScript超入門」、片淵彼富著、山田祥寛監修、技術評論社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方、成績評価方法等の説明

第2回 JavaScript環境構築

JavaScript環境（Monaca）の設定、統合環境の利用方法

第3回 HTML/CSS入門

Webページの記述言語であるHTML/CSSの概略を学ぶ

第4回 JavaScript入門

JavaScriptを用いた簡単な演算および表示について学ぶ

第5回 条件分岐

条件によって処理を変更するif文について学ぶ

第6回 関数

機能単位で処理を行う関数について学ぶ

第7回 復習

前半の復習と問題解説

第8回 課題実習(1)

これまでの内容に関する実習課題製作

第9回 イベント

マウスやボタンなどと連動したプログラム処理について学ぶ

第10回 DOM

HTMLファイルの各要素にアクセスする方法について学ぶ

第11回 フォーム・演算子

ユーザインターフェイスの作成方法および様々な演算方法について学ぶ

第12回 配列・繰り返し

データをまとめて扱う方法および処理の繰り返しについて学ぶ

第13回 復習

後半の復習と問題解説

第14回 課題実習(2)

これまでの内容に関する実習課題製作

第15回 総復習

前期の総復習、実習課題解説

2022年度 後期

2.0単位

応用経営情報処理

大角 盛広

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

一大産業となっているソフトウェアの根幹を成すプログラミングについて学び、IT業界に関係する方面への就職を考えている学生にとって必要な素養が身につくことを目的とする。与えられたソフトウェアを使うだけでなく自分で作ることもできるという事実を学ぶ。

あえて目的を絞り込み、プログラミングの基礎の基礎である変数と制御構造のみを徹底的に学び、実際に自分でプログラムができるようになることを目的とする。

この授業は、情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPIに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点

からソフトウェア開発について解説する。

< 到達目標 >

ソフトウェアの成り立ちについて理解する。

プログラミング言語おける変数と制御構造について理解する。

外部からの入力に対して反応して出力を行うプログラムを自力で作成できる。

< 授業の進め方 >

パソコンを使った実習形式である。

< 履修するにあたって >

受講人数制限科目であるので抽選希望登録が必要である。

< 授業時間外に必要な学修 >

プログラミングを学びはじめの頃は1週間に1度では忘れてしまうので、毎回自宅等で練習問題を解いて復習をすること。なお、授業ではかなり多くの練習問題を課すが、いくつかの「難」印のついたものについては授業では解答を明示せずヒントしか与えないので自力で考えてみる

< 提出課題など >

授業中に復習を兼ねた練習問題を課す。

< 成績評価方法・基準 >

実習への取り組み状況80%、後期後半に行うミニテスト20%の割合で評価する。

< テキスト >

教材としてプリントを配布する。

< 参考図書 >

大角盛広著『C言語入門』西東社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、評価方法等について説明を受ける

第2回 コンピュータ言語・スクリプト言語とは

マウス等で画面上のメニューを選びながらの処理ではなく、あらかじめ処理手順を文字で記述しておくという概念を学ぶ

第3回 変数と制御構造

繰り返しの概念、繰り返しを制御するための変数について学ぶ

第4回 変数と制御構造

場合分けの概念、場合分けを制御するための変数について学ぶ

第5回 洗練された制御構造

for-nextによる繰り返しについて学ぶ

第6回 洗練された制御構造

whileによる繰り返しについて学ぶ

第7回 練習問題

練習問題を自分でプログラムすることで知識・技術を定着させる

第8回 応用問題

少し考える必要のある問題をプログラムすることで、思考力・応用力を身につける

第9回 入出力

プログラム実行中にデータを取り込む方法について学び、文字表示位置の変更等の見せ方の技術についても学ぶ

第10回 入出力

プログラム実行中にデータを取り込む方法、および文字表示位置の変更等のバリエーションについて学ぶ

第11回 入出力

グラフィック表示について学ぶ

第12回 データ構造

配列について学ぶ

第13回 練習問題

練習問題を自分でプログラムすることで知識・技術を定着させる

第14回 応用問題

少し考える必要のある問題をプログラムすることで、思考力・応用力を身につける

第15回 まとめと復習

まとめと復習をおこなう

2022年度 後期

2.0単位

応用経営情報処理

持田 信治

< 授業の方法 >

講義とパソコンを使? した演習を? う。

なお、DotCampusで資料を配布することがあるので確認しておくこと

【連絡先】

bs165090@ba.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

経営上または戦略上の意志決定に於ける情報処理? 法を学ぶ。また、最近のコンピュータの進歩により、数値シミュレーションが広く普及していることに鑑み、本講義では? 経営情報処理 で学んだ回帰分析や線形計画法を利? したシミュレーションを学び、シミュレーションモデルの作成とシミュレーションの基礎を理解する。そして、本講義の履修はディプロマポリシーの(知識・技能)にある、課題を考察し、解決するための知識や技能を? につけるに貢献する。

更に、本講義は講義担当者のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づく、経営戦略とプロジェクトの関係及び経営戦略の策定ポイントを解説する。

< 到達目標 >

本講義の? 標は以下の4つである。

(1) 経営戦略に於ける情報処理の基本が説明できる。

(2) 確率モデルを利? したシミュレーションの例について学ぶこと。

(3) EXCELを使? して実際に回帰分析や線形計画問題を解けるようになること。

(4) EXCELを使? したシミュレーションを? い、数値シミュレーションによる問題解決の? 順を学ぶこと。

< 授業のキーワード >

企業経営、科学的な分析? 法、シミュレーション

< 授業の進め方 >

情報処理実習室で講義を行いつつ、PCを操作し実習を行う。

また授業において、今回の講義及び前回の講義内容について、

小テストや課題の提示を行うこともある。

< 履修するにあたって >

各自、ICT実習で学ぶEXCELの知識を習得していることが望ましい。

毎回の講義及び前回の講義内容について、課題を提示することもある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後において、今回の講義及び前回の講義内容について、? テストを? うこともあるので、授業後の復習を? うこと。また? テストの内容は講義では説明をしていない関連項? に及ぶことも

あるので講義テーマについての学修の? 安として予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を? うのに0.5時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

講義の終わりに当該講義に関する小テストや課題提示を行うこともある。

又は講師内容に関するレポートの提出を要求することがある。

実施した小テストや課題については、次回の講義内で必要に応じて説明を行う。

< 成績評価方法・基準 >

課題やコメントにより評価する。また、課題やコメントについて? 主学習が認められる場合には特に評価する。

< テキスト >

プリント資料を適宜配布する。

< 参考図書 >

(1)EXCELでかんたんデータ分析、河野真紀・河野善仁、オーム社、2009

< 授業計画 >

第1回 はじめに

授業の概要と経営戦略

第2回 経営戦略と経営環境

経営戦略を取り巻く環境について

第3回 経営戦略と情報分析

経営戦略と情報分析手法、QC7つ道具について

第4回 科学的な戦略 # 1

予測と情報分析（線形計画法）

第5回 科学的な戦略 # 2

予測モデルの作成（回帰分析）

第6回 科学的な戦略 # 3

シミュレーションモデルと待ち行列と釣銭問題

第7回 まとめの試験 1

第1回から6回までの内容について試験を行う

第8回 シミュレーション演習 # 1

色々なシミュレーション

第9回 シミュレーション演習 # 2

乱数とモンテカルロ法

第10回 経営戦略とデータ分析

データマイニングの経営戦略への応用

第11回 言語データの分析 # 1

言語データと分析手法について

第12回 言語データの分析 # 2

言語データ分析手法を用いたアンケート処理

第13回 データの傾向分析

データの傾向分析と最大、最小問題の扱いについて

第14回 まとめの試験 2

第8回から12回までの内容について試験を行う

第15回 後期の総まとめ

経営戦略とシミュレーションのまとめ

2022年度 後期

2.0単位

応用経営情報処理

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と実習

< 授業の目的 >

プログラミング言語C#の概念を理解して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。また、基本的なアルゴリズムやデータ構造を理解する。

< 到達目標 >

・C#を使用して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。

・基本的なアルゴリズム（順次・選択・繰返し）やデータ構造（クラス・オブジェクト）を理解する。

< 授業のキーワード >

C#、プログラミング、Unity、ゲームアプリ開発

< 授業の進め方 >

パソコンを用いた講義・実習形式の授業。パワーポイント資料を用いて説明、例題を提示したのち、各自でプロ

グラムを作成しながら理解を進める。

< 履修するにあたって >

各自でノートPCを準備すること（必須）。プログラミング経験は問わないが、難易度はやや高めに設定しているので、履修に際しては十分に留意のこと。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業毎に約1時間

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

実習課題（80%）、授業中の取り組み（20%）で評価する。

< テキスト >

「Unity超入門」、鈴木道生著、技術評論社

< 参考図書 >

「Unityの教科書 Unity 2020完全対応版」、北村愛実著、SBクリエイティブ

「UnityではじめるC# 基礎編」、大槻有一郎著・いたのくまんぼう監修、株式会社エムディエヌコーポレーション

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方、成績評価方法等の説明

第2回 C#環境構築

C#環境（Unity）のインストール、統合環境の利用方法

第3回 製作実習(1)

Unityの各種機能を利用した、プログラミングなしでのゲーム製作実習

第4回 製作実習(1)

Unityの各種機能を利用した、プログラミングなしでのゲーム製作実習

第5回 スクリプトの基本

C#を用いたスクリプトプログラミングの基礎

第6回 製作実習(2)

C#を用いたスクリプトプログラミングによる、簡単なゲーム製作

第7回 製作実習(2)

C#を用いたスクリプトプログラミングによる、簡単なゲーム製作

第8回 課題実習(1)

これまでの内容に関する実習課題製作

第9回 製作実習(3)

C#を用いたスクリプトプログラミングによる、やや高度なゲーム製作

第10回 製作実習(3)

C#を用いたスクリプトプログラミングによる、やや高度なゲーム製作

第11回 製作実習(4)

C#を用いたスクリプトプログラミングによる、より高度なゲーム製作

第12回 製作実習(4)

C#を用いたスクリプトプログラミングによる、より高度なゲーム製作

第13回 復習

後半の復習と課題解説

第14回 課題実習(2)

これまでの内容に関する実習課題制作

第15回 総復習

後期の総復習、実習課題解説

2022年度 前期

2.0単位

応用経営統計学

今野 勤

< 授業の方法 >

講義、演習

授業で利用する資料はOffice365のOneDriveの次のURLに保存しています。URLをコピー & ペーストし、授業開始までにダウンロードしてください。

https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bt115117_ba_kobegakuin_ac_jp/EnHs0MgVufZ0mS8P8ZV7a3QBJK4hyu0ECIcR8MpJSP_-3g?e=DoF0fx

連絡先 t-konno@ba.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて

授業を 実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的変更について >

4月26日（月）から5月29日（土）までの間、授業形態をオンライン、オンデマンド併用授業にします。オンラインに参加できない学生は、オンライン授業の内容をOneDrive(上記URL)に上げますのでそれを閲覧してください。受講方法につきましては「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

< 主題 >

経営学部ではマーケティングや経営戦略に代表されるようにデータを扱うものが多い。この講義ではデータ処理に必要な基礎的なコンピューターの使い方学びを、企業が抱える様々な課題に応用することを目的とする。すなわち経営統計学講座で身につけた統計学の基礎知識をもとに、経営の現場で実際に応用する統計の考え方と、統計手法とマスターする（定員 最大40名）

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、

3. 情報通信技術（ICT）を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数値情報の知識や技術を学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

に対応している。

実務経験のある教員が指導するので、実践に即したデータ解析力が身につく

< 到達目標 >

マーケットで実際に起きている現象をデータを化し、PCを使って数多くのEXCELによる例題を解き、統計手法を活用する実践力が身につく

< 授業のキーワード >

統計解析、データサイエンス

< 授業の進め方 >

毎回、EXCELを使って例題を解くことによって、EXCEL、統計手法の実践力をつける。なお、コロナによる事情から、試験は、課題提出となる。

< 履修するにあたって >

配布データを含んだUSBを毎回、持ってくること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で出題される課題を復習すること。目安の時間は、1時間。

< 提出課題など >

特になし

< 成績評価方法・基準 >

最終確認テスト40%、小テスト（2回）40%、受講内容（授業態度、出席、出席カードの記載内容など）20%の割合で評価する。

< テキスト >

オリジナルパワーポイント、およびEXCELデータ

< 参考図書 >

「すぐわかるEXCELによる多変量解析」、「すぐわかるEXCELによる実験計画法」いずれも、内田 治 東京図書
< 授業計画 >

第1回 経営におけるデータの収集と分析
経営におけるデータ収集と分析の重要性を理解する。Y=f(x)、因果マトリックス、基本統計量、ヒストグラム

第2回 様々な分布

正規分布、平均値の分布、Rの分布、F分布、t分布

第3回 推定・検定

2つの集団（たとえば男性、女性）で、成績の平均、バラツキに違いがあるかどうかを見破る。

第4回 模擬テスト

これまでの学習内容を、振り返る。

第5回 理解度テスト1

これまでの学習内容について、3-5問テストを実施する

第6回 相関・回帰分析

ある一つの変数が、売りに影響するときに、その影響度を寄与率と偏回帰係数で予測する

第7回 重回帰分析

複数の説明変数が、目的変数に与える影響を理解する

第8回 重回帰分析の諸問題

多重共線性の問題を認識し、対応策である変数選択方法を理解する

第9回 模擬テスト

これまでの講義内容を復習し、小テストに備える

第10回 理解度テスト2

講義6～9について、確認テストをする

第11回 判別分析

例えば、売れるコーヒーと売れないコーヒーの違いを判別する

第12回 主成分分析

たとえば、コーヒーについてたくさんある要因が、要するにいくつに集約できるか分析する。似たような要因をまとめる

第13回 数量化理論、類

休日と平日で、店の売上げが違うかどうかを分析してみる。

第14回 模擬テスト

これまでの講義について、復習し次回の期末判定に備える。

第15回 最終確認テスト

すべての講義内容を含むテストをし成績をつける。

2022年度 後期

2.0単位

応用経営統計学

今野 勤

< 授業の方法 >

講義、演習

< 9月20日(月)～10月2日(土)までの授業形態 >

遠隔授業(リアルタイム授業)

10月4日(月)以降の授業形態は、対面です。

< 授業の目的 >

< 主題 >

経営学部ではマーケティングや経営戦略に代表されるようにデータを扱うものが多い。この講義ではデータ処理に必要な基礎的なコンピューターの使い方学びを、企業が抱える様々な課題に応用することを目的とする。すなわち経営統計学講座で身につけた統計学の基礎知識をもとに、経営の現場で実際に応用する統計の考え方と、統計手法とマスターする(定員 最大40名)

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、

3. 情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題

をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

に対応している。

この授業は、実務経験のある教員が指導する。企業の経営現場のリアルな情報により、理論の実践の違いが理解できる。

< 到達目標 >

マーケットで実際に起きている現象をデータを化し、PCを使って数多くのEXCELによる例題を解き、統計手法を活用する実践力が身につく

< 授業のキーワード >

統計解析、データサイエンス

< 授業の進め方 >

毎回、EXCELを使って例題を解くことによって、EXCEL、統計手法の実践力をつける

< 履修するにあたって >

授業時には必ずUSBメモリを携帯もしくは、学生のonedr

iveに保存する

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で出題される課題を復習すること。目安の時間は、1時間。なお参考図書の例題を自分で解くとさらによい

< 提出課題など >

特になし

< 成績評価方法・基準 >

最終確認テスト50%、小テスト(2回)40%、受講内容(授業態度、出席、出席カードの記載内容など)10%の割合で評価する。

< テキスト >

オリジナルパワーポイント、およびEXCELデータ

< 参考図書 >

内田治：すぐわかるEXCELによる多変量解析 東京図書 2000

内田治：すぐわかるEXCELによる実験計画法 東京図書 1999

< 授業計画 >

第1回 前期復習($Y=f(x)$)、ヒストグラム、因果マトリックス)

統計の基本であるヒストグラムを描いてみる。

第2回 検定・推定

売り場面積、店員の数、売り上げなどを2つの職場で比較すると違いがあるか?

第3回 実験計画法とは、1,2元配置分散分析

売り場面積、売り場の人員、2つの要因を組み合わせた時の売上高を予測する。

第4回 模擬テスト

講義1~3の復習をする

第5回 理解度テスト1

内容4と同じ 2回目

第6回 多元配置実験

第7回 直交実験1(2水準)

ちらしを出すか、出さないか? ポイントセールをするか、しないか?などの2者選択の項目を複数、組み合わせた時の売り上げの違いを分析する。

第8回 直交実験(2水準)

売り場面積が、200、300、400、500平方メートルと変えた時、店の売り上げがどのくらい違うか分析する。

第9回 模擬テスト

理解度テスト2に向けて、総合的な復習をする

第10回 理解度テスト2

タグチメソッドとSN比の概念、計算方法を理解する。

第11回 直交実験(3水準)

広告費を、200万円、300万円、400万円と3つの案があり、トライした時の売上高への影響を分析する。

第12回 直交実験(多水準、擬水準)

売り場面積が、200、300、400、500平方メートルのよう

に多水準また擬水準が想定できるときに、店の売り上げがどのくらい違うか分析する。

第13回 応答曲面法

説明変数と目的変数間で、2次曲面が想定できる場合の予測法について理解する

第14回 全体復習

模擬テストを実施する

第15回 最終確認テスト

すべての講義内容を含むテストをし成績をつける。

2022年度 前期~後期

4.0単位

応用簿記【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

日商簿記2級検定試験合格に向けた問題の解答・解説を中心にします。

【前期について】

対面により講義を実施する。

【後期について】

対面により講義を実施する。

日商簿記検定合格に向けた問題の解答・解説を中心にします。

5限目のキャリアトレーニング特別講義 も必ず履修すること。

また、この授業は前期「応用簿記」の続きである。

具体的には、第1回目の講義において説明する。

不明点があればご連絡ください。

『応用簿記』に関する連絡先

大原学園 櫻井喜平

yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

< 授業の目的 >

ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定の受験を通じて習得していく講義である。

一般企業はもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。本講義では、株式会社会計を対象として学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に大変役立つ知識である。

< 到達目標 >

日商簿記検定試験2級合格レベルの計算力および簿記の

基本処理を身につけることができる。

株式会社社会計の基礎についての理解を深めることができる。

< 授業のキーワード >

商業簿記、財務会計

< 授業の進め方 >

テキストを使用し講義を進める。問題演習もおりこみながら進行する。

問題演習時には電卓を使用する。

学生の習熟度により、下記授業計画は変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

この講義を受講するには事前に日商簿記3級レベルの知識が必要である。

簿記3級の知識があることを前提に授業は進行する。(簿記3級に合格している必要はありません。)

11月検定試験受験者向けに夏休み補講を実施する。

また、後期試験終了後に日商簿記検定合格の為の直前プログラムを実施する。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

自宅復習が必要である。

具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、1時間程度の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中のミニテスト及び宿題等(30%)、期末試験(70%)により評価する。

< テキスト >

「ALFA2級課程 商業簿記」(テキスト、ドリル、アンサー)大原専門学校

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、簿記学習の目的

簿記を学習する目的や学習の進め方、自宅復習について。

第2回 総論

簿記一巡の流れ、財務諸表について学習する。

第3回 現金預金、銀行勘定調整表

現金預金、銀行勘定調整表について学習する。

第4回 債権・債務

クレジット売掛金・手形

第5回 債権・債務

電子記録債権・電子記録債務

第6回 棚卸資産

商品売買(3分法、売上原価対立法)について学習する。

第7回 棚卸資産

商品の評価、仕入れおよび売上の割引・割戻について学習する。

第8回 有価証券

売買目的有価証券について学習する。

第9回 有価証券

満期保有目的有価証券、子会社株式および関連会社株式を学習する。

第10回 有価証券

その他有価証券について学習する。

第11回 有価証券

有価証券の売却について学習する。

第12回 有形固定資産

有形固定資産の購入、修繕費および改良費について学習する。

第13回 有形固定資産

減価償却費、圧縮記帳について学習する。

第14回 有形固定資産

有形固定資産の売却、買換、除却、滅失について学習する。

第15回 有形固定資産

リース会計について学習する。

第16回 総まとめ

問題演習を行います。

第17回 総まとめ

問題演習を行います。

第18回 総まとめ

問題演習を行います。

第19回 総まとめ

問題演習を行います。

第20回 総まとめ

問題演習を行います。

第21回 総まとめ

問題演習を行います。

第22回 直前答案練習

検定試験模擬試験の問題を解答する。

第23回 直前答案練習

検定試験模擬試験の問題を解答する。

第24回 直前答案練習

検定試験模擬試験の問題を解答する。

第25回 直前答案練習

検定試験模擬試験の問題を解答する。

第26回 直前答案練習

検定試験模擬試験の問題を解答する。

第27回 総まとめ

問題演習を行います。

第28回 総まとめ

問題演習を行います。

第29回 直前答案練習

検定試験模擬試験の問題を解答する。

第30回 直前答案練習

直前答案練習

2022年度 前期

2.0単位

会計学総論 【19-】 / 財務会計 【-18】

宮本 幸平

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、経営学部のDPに示す、「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」ことを目指す。そして、財務会計総論の理論的理解を主題とする。財務会計は、企業と利害関係を有する第三者（債権者である銀行や出資に関連している株主・投資家）が当該企業の経営状況を判断するための情報提供を目的とするものである。すなわち、第三者の意思決定に有用な情報を与えるための計算・報告体系（諸概念・基準・実務ルールなど）といえる。また現在、欧米を中心に国際会計基準の適用が進んでおり、わが国独自の会計基準といかに整合化していかかが重要課題となっている。そこで「財務会計」では、日本基準と国際基準を併せながら（あるいは比較しながら）、財務会計の主たる構成要素である財務諸表の体系と内容・機能の理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から講義するものとする。

< 到達目標 >

財務会計の主たる構成要素である財務諸表の体系と内容を理解できる。

財務諸表の機能を理解できる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。終了後、「まとめ」のミニレポートを作成・提出します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる内容につき、一般的な入門テキストを読んでおくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

毎回のミニレポートおよび期末レポートの作成を行う。提出されたレポートに対しては、全体的な概況を講義中にコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポート10%、期末レポート90%レポートで評価する。

< テキスト >

毎回、レジュメを配布する。

< 授業計画 >

第1回 今後の学修方法・日本基準および国際会計基準と概念フレームワーク

最初に、今後の学修方法について説明する。

わが国における会計基準の憲法的基準（メタ基準）である「企業会計原則」を概観するとともに、今般の国際標準となっている「国際会計基準」について概要を理解する。また、日本および国際会計基準の「概念フレームワーク」についても理解する。

第2回 財務諸表の体系

財務会計の主要な構成要素である財務諸表（貸借対照表・損益計算書など）について、体系と機能および表示内容について理解する。また、国際会計基準が規定する財務諸表体系との相違点を把握する。

第3回 「貸借対照表」の内容と機能

主要な財務諸表の1つである「貸借対照表」について、その基礎概念、機能、表示内容を総括的に理解する。また、国際会計基準との相違点についても把握する。

第4回 「損益計算書」および「包括利益計算書」の内容と機能

主要な財務諸表の1つである「損益計算書」について、その基礎概念、機能、表示内容を総括的に理解する。また、国際会計基準で規定された「包括利益計算書」との相違点についても把握する。 <12:内容>

第5回 「キャッシュ・フロー計算書」の内容と機能

主要な財務諸表の1つである「キャッシュ・フロー計算書」について、その概念、機能、表示内容を総括的に理解する。また、国際会計基準との相違点についても把握する。

第6回 中間財務報告の内容と機能

「中間財務報告」およびわが国金融商品取引法で規定される「四半期財務報告」について理解する。

第7回 「セグメント情報」の内容と機能

国際会計基準で規定され開示が求められる「セグメント情報」につき、その機能と表示内容を理解する。

第8回 中間まとめ

第7回までのまとめを行う。

第9回 資産・負債評価（流動資産）

棚卸資産、有価証券、債権の評価につき、規定（国内および国際）、実務および理論を理解する。

第10回 資産・負債評価（固定資産・無形資産）

有形固定資産、無形資産の評価とその減価償却につき、規定（国内および国際）、実務および理論を理解する。

第11回 資産・負債評価（引当金）

引当金につき、規定（国内および国際）、実務および理論を理解する。とくに日本基準と国際基準の相違点である修繕引当金の取扱いなどについて、内在する論点を把握する。

第12回 利益概念

利益計算の主要概念である「発生主義」・「実現主義」・「費用収益対応原則」について、内在する会計理論を理解する。

第13回 利益概念の国際化（当期純利益と包括利益

)
利益計算において、わが国で規定されている「当期純利益」と国際会計基準で規定されている「包括利益」について、理論・実務両面の相違点について理解する。

第14回 利益概念の国際化（各論）

利益概念の国際化に伴って留意すべき各論（工事契約・株式報酬・従業員給付・研究開発費など）について理解する。

第15回 学習内容の確認

総まとめを行い、知識の定着を図る。

2022年度 後期

2.0単位

会計学総論 【19-】 / 財務会計 【-18】

宮本 幸平

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、経営学部のDPに示す、「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」ことを目指す。そして、財務会計総論の理論的理解を主題とする。財務会計は、国際会計基準を勘案しながら、財産計算および損益計算の各論につき、内容および論点の理解を主題とする。「財務会計」では、日本基準と国際基準を併せながら（あるいは比較しながら）、財務会計の主たる構成要素である財務諸表の体系と内容・機能を中心に総論的に説明した。本講義では、財務会計について重要論点を学習するとともに、実際に公表されている特定企業の有価証券報告書を概観し、その内容および理論的含意の理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から講義するものとする。

連絡先：miyamoto@ba.kobegakuin.ac.jp

< 到達目標 >

重要な財務諸表の各論について理解できる。

企業結合、連結会計について、計算構造を理解できる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。授業の最後に「まとめ」のミニレポートを作成します（10分程度）。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる内容につき、一般的な入門テキストを読んでおくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

講義終了後、ミニレポート（講義内容をまとめたもの）の作成を行う。提出されたレポートに対しては、全体的

な概況を講義中にコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート80%、ミニレポート20%で評価する。

< テキスト >

毎回、レジュメを配布する。

< 授業計画 >

第1回 純資産会計

貸借対照表の構成要素で自己資本としての資金調達源泉である純資産（資本）について、各表示項目（資本金・資本剰余金・利益剰余金・自己株式・評価換算差額等・新株予約権など）の意義および理論的含意を理解する。

第2回 退職給付会計

退職給付に係る企業の負担を処理する一連の会計処理である「退職給付引当金」につき、意義、理論および処理方法を理解する。

第3回 リース取引

「リース」とは、特定物件の所有者（貸手）が使用者（借手）に使用収益する権利を与え、借手がリース料を支払う取引をいう。講義では、リース取引の分類と取引内容（ファイナンス・リース取引/オペレーティング・リース取引）、判定基準と会計処理について説明する。

第4回 減損会計

固定資産の利用によって得られる収益が当初予想よりも低下した場合に資産価額を減額する処理を「減損会計」という。講義では、減損処理の手順につき説明する。

第5回 デリバティブ取引（概要・先物取引）

デリバティブ取引の概要と、取引の一形態（一商品）である先物取引の会計処理方法について理解する。

第6回 デリバティブ取引（オプション取引・金利スワップ取引）

デリバティブ取引のうち、オプション取引と金利スワップ取引につき、会計処理方法を理解する。

第7回 外貨換算会計

外貨建取引の会計処理、外貨建有価証券の会計処理、および為替予約（先物為替取引）につき理解する。

第8回 中間まとめ

第7回までのまとめを行う。

第9回 税効果会計

法人税を純利益に合理的に対応させた「税効果会計」につき、その意義と計算方法を理解する。

第10回 企業結合

企業同士が一つの報告単位に統合される「企業結合」について、会計処理および企業評価額の算定方法を理解する。

第11回 連結会計（一般原則・一般基準・作成概要）

連結会計の意義と処理方法を把握するために、「一般原則」・「一般基準」および作成方法の概要について理解する。

第12回 連結会計（発展的論点）

連結会計の発展的論点として「子会社株式の追加取得」・「内部取引高と債権・債務の相殺消去」・「持分法」について理解する。

第13回 財務報告書事例

実際に公表されている特定企業の有価証券報告書について、その表示内容の理論的含意を理解する。

第14回 財務報告書事例

前回に引続き、特定企業の有価証券報告書における表示内容と理論的含意について習得する。

第15回 学習内容の確認

総まとめを行い、知識の定着を図る。

2022年度 前期

2.0単位

会計学特講 【19-】

河瀬 豊

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

財務会計を中心に会計学の概要と規則や条文の読み方を学ぶ。

税務会計を学修するには、簿記、財務会計（特に会社法会計）、会社法など多くの知識が必要である。この授業は、税の学修経験がない学生が効率的に税の基礎知識を修得することを目的とする。この授業履修後に税務会計論・を履修することが望ましい。

< 到達目標 >

1. 財務会計を中心に会計学の概要を学ぶ。
2. 税務会計の学修準備として必要な知識を習得する。

< 授業のキーワード >

会社法会計、基準性、逆基準性、法源

< 授業の進め方 >

原則として、講義形式による。

< 履修するにあたって >

[前提知識]

簿記の履修、又は、日商簿記3級程度の知識を前提とする。

[持参するもの]

教科書、会計法規集及び六法（条文を参照しているものであれば何でもよい）、電卓

[履修後に受講を想定している科目]

税務会計論・

< 授業時間外に必要な学修 >

[予習]

教科書や事前に配付（学内LMSにアップロードしたものを含む）した資料を読んでおくこと。

[復習]

教科書、会計基準や条文、配付物、板書や口頭で説明した内容などを書き写したノートをよく読む。

仕訳や計算例などがあれば、それを解く。さらに、授業中に指示された方法で自分の財務会計まとめノートを作成する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験 100%

（新型コロナウイルスの感染状況等により、成績評価方法を変更する可能性がある。）

< テキスト >

藤本・林・増山『税法の基本』実務出版（授業開始時点で最新のもの）。

特に指定しないが、会計法規集と条文集を各自準備すること。

指定図書の桜井久勝『財務会計論』の購入も推奨する。

< 参考図書 >

[教科書以外で各自準備する資料]

会計法規集を持参すること。

例えば、中央経済社編『新版会計法規集』中央経済社などがある。

[指定図書]（履修するにあたって、読んでおくことが望ましい図書で授業内容よりも易しいものが多い。）

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣。

谷他『1からの会計<第2版>』碩学舎。

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社（授業開始時点で最新のもの）。【必須ではないが、購入推奨】

[参考図書]（予習・復習の参考になる図書、授業内容よりも難しいものが多い。）

講義中に適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 税制と財政の概要

・ガイダンス

・税制と財政の概要

第2回 税とは何か

・税の定義

・税について考えるときに考慮すべきものとして、社会保険料、伏在税、取引機会の喪失について考える。

第3回 税の種類

税の種類などについて学ぶ

第4回 所得税

個人の所得に対して課税される税について概観する。

第5回 法人税

法人の所得に対して課税される税について概観する。

第6回 消費税

消費税について概観する。

第7回 租税法律主義

・納税の義務

・租税法律主義

第8回 申告納税制度

申告納税制度と賦課課税制度について学ぶ。

第9回 法源

・法源

・法律，政令

・通達

第10回 制度会計

・制度会計

・税務会計における会社法会計の重要性

・公正処理基準

第11回 収益認識基準

収益認識会計基準について学ぶ。

第12回 費用収益対応の原則

・費用収益対応の原則

・売上原価

第13回 減価償却

・減価償却

・逆基準性

第14回 引当金

引当金

第15回 純資産

純資産の部の区分を学び，特に株主資本について学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

会計学特講 【19-】

河瀬 豊

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

相続税と贈与税の初步について学ぶ。単に相続税額を計算するだけでなく，制度に内在する問題点について考える。また，プランニング・アプローチの視点を取り入れ，なぜ富裕層があまり相続税を納税していないのかについて，その仕組みを理解する。

< 到達目標 >

・単純化されたケースの相続税額や贈与税額を計算することができるようになる。

・税務会計論 と併せて履修することにより，資産税に関する基礎知識が身につく。

・相続税におけるタックス・プランニングを理解し，なぜ，富裕層が何代にもわたって富裕層であり続けることができるのかを構造的に理解する。

< 授業のキーワード >

相続税，贈与税，譲渡所得，資産税

< 授業の進め方 >

講義形式による。

< 履修するにあたって >

【前提知識】

前提知識は特に必要としない。ただし，税に関する知識や所得税の知識はあった方が理解が早いので，税務会計論，会計学特論（2022年度）を履修することが望ましい。

【持ち物】

教科書，条文及び電卓を持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

（予習）事前に教科書を読む。配付物があるときは，それを読む。

（復習）教科書，条文，ノートをよく読み，必要に応じて計算例を解く。

< 提出課題など >

複数回のレポートを課す予定である。提出されたレポートについては，授業中に全体に対して講評する。

< 成績評価方法・基準 >

レポート100%

レポートは複数回行う予定である。また，授業中に小テスト形式のレポートを実施することもある。

< テキスト >

北本高男『基礎から身につく相続税・贈与税』大蔵財務協会（講義開始時点での最新版）。

< 参考図書 >

【指定図書】

辻 敢・齋藤 幸司『相続税・贈与税入門の入門』税務研究会（最新のもの）。

北本 高男『基礎から身につく財産評価』大蔵財務協会（最新のもの）。

【参考図書】

加藤 千博 編『図解 相続税・贈与税』大蔵財務協会（最新のもの）。

櫻井元博 編『図解 財産評価』大蔵財務協会（最新のもの）。

武田昌輔監『DHCコンメンタール相続税法』第一法規。

小林栢弘・佐藤清勝・梶山清児（2021）『専門家のための資産税実例回答集 譲渡・相続・贈与の重要事例（改訂 第五版）』税務研究会。

森田哲也編（2020）『相続税法基本通達逐条解説 令和2年11月改訂版』大蔵財務協会。

渡邊定義・村上晴彦・小坂明正（2021）『相続税・贈与税 体系 財産評価』大蔵財務協会。

松岡 章夫（編著）（2021）『ゼミナール相続税法』大蔵財務協会。

宇野沢 貴司（2020）『財産評価基本通達逐条解説 令和2年版』大蔵財務協会。

大野隆太編（2020）『相続税・贈与税関係 租税特別措置法通達逐条解説 令和元年12月改訂版』大蔵財務協会。
品川・緑川（2005）『徹底解明 相続税財産評価の理論と実践』ぎょうせい。

加藤千博編『図解 譲渡所得』大蔵財務協会（最新のもの）。

他に，税務会計論，租税論 の参考図書も参考にしてください。

< 授業計画 >

第1回 資産税の概要

相続税，贈与税，譲渡所得税の概要を学ぶ。
第2回 相続税額と贈与税額の計算方法
相続税額と贈与税額の計算方法を学ぶ。
第3回 民法上の相続
民法上の相続の概要について学ぶ。
第4回 納税義務者，課税財産及び非課税財産
納税義務者，課税財産及び非課税財産について学ぶ。
第5回 相続税の申告
課税価格及び基礎控除
相続税の申告制度について学ぶ。
相続税の課税価格及び基礎控除について学ぶ。
第6回 相続税の総額及び各相続人の相続税額の計算，
並びに，税額控除
相続税額の計算方法について学ぶ。
第7回 財産評価 1
相続税法と財産評価基本通達との関係：相続税における時価を中心に学ぶ。
財産評価（土地）：特に宅地
第8回 財産評価 2
財産評価（土地）：特に農地，山林，雑種地など
第9回 財産評価 3
財産評価（土地等）：借地権など
第10回 財産評価 4
株式などの評価
第11回 財産評価 5
相続税の特例
その他財産の評価
相続税の特例：小規模宅地等についての相続税の課税価格の計算の特例を中心に
第12回 贈与税と他の税との関係
贈与税の納税義務者
贈与税の申告制度
贈与税と他の税との関係，贈与税の基本的事項を学ぶ。
第13回 相続時精算課税制度
暦年課税制度と相続時精算課税制度について学ぶ。
第14回 分離課税の譲渡所得 1
税務会計論 では，譲渡所得について，総合課税されるものだけを学習したので，ここでは，分離課税される譲渡所得について学ぶ。
第15回 分離課税の譲渡所得 2
譲渡所得と相続税・贈与税との関係
主に，譲渡所得と相続税の二重課税問題について学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

会計監査論 【19-】 / 会計監査 【-18】

安井 一浩

<授業の方法>

講義形式で行う。

<授業の目的>

本授業の主題は、財務諸表が適正に表示されているか否について意見を表明する財務諸表監査である。特に監査の基礎概念および監査制度についての説明を行う。また本授業では、教科書第1章から第7章の内容に基づいて、財務諸表監査に関する諸概念を理解することにより、公認会計士として監査業務に従事する場合、財務諸表監査の対象となっている企業に勤務し、業務において監査を受ける場合に役立つ基礎知識を身につけることを目的としている。なお本授業では公認会計士として監査の実務経験のある教員が、守秘義務を逸脱しない範囲で、実務的な観点に基づく説明を適宜行う。

<到達目標>

教科書第1章から第7章の内容について、授業の目的で示した業務に対応するために必要な財務諸表監査の基礎概念を、理解し修得することを到達目標とする。

<授業のキーワード>

会計監査、監査基準、リスクアプローチ

<授業の進め方>

教科書の記述に沿って説明を行う。

なお教科書が新版となった場合、下記の授業計画が前後する可能性もある。

また毎回授業開始時に、前回の授業内容についての小テストを行う。

<履修するにあたって>

財務会計の基礎的な概念を理解していることが望ましい。また会計監査を同じ年度で履修することが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

授業終了後にその授業で学習した範囲を教科書で復習し、次週の小テストに備える必要がある。また新聞その他の報道において財務報告および監査に問題がある事件があれば、教科書の関連する記述を探すようにしてほしい。これらの学修に要する時間は毎週1時間である。

<成績評価方法・基準>

授業中の小テスト60%、定期試験40%

<テキスト>

山浦久司著「監査論テキスト」山浦久司著 中央経済社
授業開始日現在の最新版とする。

<授業計画>

第1回 監査の基本的
概念 1

財務諸表監査の定義、目的、機能について説明を行う。

第2回 監査の基本的概念 2

財務諸表監査と財務諸表の虚偽表示、粉飾との関係について説明を行う。

第3回 監査の機能

財務諸表監査の必要性とその他の機能について説明を行う。

第4回 資本市場と監査

資本市場と監査の関係について説明を行う。

第5回 金融商品取引法と財務諸表監査 1

金融商品取引法に基づく企業内容の開示制度について説明を行う。

第6回 金融商品取引法と財務諸表監査 2

金融商品取引法に基づく財務諸表監査制度について説明を行う。

第7回 金融商品取引法と財務諸表監査 2

金融商品取引法に基づく財務諸表監査制度について説明を行う。

第8回 会社法と監査 1

会社法に基づく開示制度について説明を行う。

第9回 会社法と監査 2

会社法に基づく監査制度について説明を行う。

第10回 公認会計士制度

財務諸表監査の担い手である公認会計士の制度について説明を行う。

第11回 監査基準 1

監査基準の構成及び内容について説明を行う。

第12回 監査基準 2

監査基準の内容について説明を行う。

第13回 リスク・アプローチ 1

リスクアプローチに基づく財務諸表監査の進め方について解説を行う。

第14回 リスク・アプローチ 2

リスクアプローチに基づく財務諸表監査の進め方について解説を行う。

第15回 監査計画

取引サイクル、監査要点、試査の考え方について説明を行う。

2022年度 後期

2.0単位

会計監査論 【19-】 / 会計監査 【-18】

安井 一浩

< 授業の方法 >

講義形式で行う。

< 授業の目的 >

本授業の主題は、財務諸表が適正に表示されているか否について意見を表明する財務諸表監査である。特に監査の諸概念および監査制度についての説明を行う。また本授業では、教科書第8章から第15章の内容に基づいて、財務諸表監査に関する諸概念を理解することにより、公認会計士として監査業務に従事する場合、財務諸表監査の対象となっている企業に勤務し、業務において監査を受ける場合に役立つ基礎知識を身につけることを目的としている。なお本授業では公認会計士として監査の実務経験のある教員が、守秘義務を逸脱しない範囲で、実務

的な観点に基づく説明を適宜行う。

< 到達目標 >

教科書第8章から第15章の内容について、授業の目的で示した業務に対応するために必要な財務諸表監査の基礎概念を理解し、身に着けることを到達目標とする。

< 授業のキーワード >

会計監査、監査基準、監査報告書、内部統制監査

< 授業の進め方 >

教科書の記述に沿って説明を行う。

なお教科書が新版となった場合、下記の授業計画が前後する可能性がある。

また毎回授業開始時に、前回の授業内容についての小テストを行う。

< 履修するにあたって >

財務会計の基礎的な概念を理解していることが望ましい。また会計監査を同じ年度において先に履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業終了後にその授業で学習した範囲を教科書で復習し、次週の小テストに備える必要がある。また新聞その他の報道において財務報告および監査に問題がある事件があれば、教科書の関連する記述を探るようにしてほしい。これらの学修に要する時間は毎週1時間である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の小テスト60%、定期試験40%

< テキスト >

山浦久司著「監査論テキスト」中央経済社

授業開始日現在の最新版とする。

< 授業計画 >

第1回 会計監査の進め方

監査計画におけるリスク評価および試査について説明を行う。

第2回 監査手続

勘定残高の実証手続きについて説明を行う。

第3回 コンピュータと監査

コンピュータ利用監査、継続企業の前提に関わる監査について説明を行う。

第4回 監査完了までのプロセス

後発事象の監査、経営者確認書、監査調書、意見審査についての説明を行う。

第5回 会計監査と不正への対応

不正への対応と財務諸表監査について説明を行う。

第6回 監査報告書

監査報告書の記載事項について説明を行う。

第7回 不正への対応

不正への対応と財務諸表監査について説明を行う。

第8回 監査意見と監査報告書 1

監査意見と監査報告書の構成について説明を行う。

第9回 監査意見と監査報告書 2

監査意見の種類、監査上の主要な検討事項、追記情報に

ついて説明を行う。

第10回 監査意見と監査報告書3

監査意見の種類、継続企業の前提と監査意見との関係について説明を行う。

第11回 四半期財務諸表と監査1

四半期財務諸表のレビューについて説明を行う。

第12回 四半期財務諸表と監査2

四半期財務諸表のレビューおよび結論について説明を行う。

第13回 内部統制報告制度と監査1

内部統制報告制度について説明を行う。

第14回 内部統制報告制度と監査2

内部統制報告の監査について説明を行う。

第15回 特別目的の財務諸表の監査

特別目的の財務諸表の監査について説明をおこなう。またこれまでの講義の補足説明、整理を行う。

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

山本 誠子

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、専門語学のうち、Reading教材に基づいてPresentationに慣れることを目的にしています。

この授業では、地図を題材として、英語を使って世界の事情を学び、考えます。

教材の内容を全体的に理解するだけでなく、何が重要かを把握する作業をし、その結果をパワーポイントによるプレゼンテーションにつなげていきます。また、図書館の電子書籍等を利用してさらにリサーチを行い、プレゼンテーションに組み込みます。ビジネスの現場では、チームで協力しながら提案書を作成し、効果的にプレゼンする必要がありますから、そのリハーサルのつもりで臨んでください。

この科目は、経営学部ディプロマポリシー第4項「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」に関わっています。

< 到達目標 >

地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解し、重要な点をまとめることができる。

追加のリサーチ結果を、パワーポイントを使用したプレゼンテーションとして発表することができる。

クラスメイトと共に自律的に学ぶ力を培う。

< 授業のキーワード >

重要項目整理、リサーチ、プレゼンテーション、協同学習

< 授業の進め方 >

内容理解を、テキストの設問を利用して行います（個人単位の問題とグループ単位の問題の両方があります）。指定されたAreaの内容理解が終了したら、グループ毎に国または地域を選択し、追加リサーチを実施します。選んだ国または地域を、知らない人に説明・紹介するつもりで、ppt作成にあたります。その際には、各自の長所を生かしながら、どのようにすればチームとして良いプレゼンができるか考えて作業をします。プレゼンテーションはスピーキング活動の一環ですから、話し方についても練習し本番に備えます。プレゼンテーションはピアレビューを行い、その結果が評価の一部になります。

< 履修するにあたって >

原則として、30分以上の遅刻は欠席と見なします。多くの活動を、グループワークで行いますので、作業への貢献度が低くなるからです。また、5回を超える欠席は認めません。

Area毎にグループのメンバーを変えますので、知らなかった人とも協調して作業を進めていく必要があります。pptの作成が必須ですので、基本的なコンピュータスキルが必要です。資料の配布や課題の提出には、Microsoft Teamsを使用します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各Areaの内容理解の設問に答えるために、授業前に教材に目を通す時間が必要である。ppt作成にあたりグループワークの作業をMicrosoft Teamsを通じて授業外で行う必要がある。合計でおよそ10時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

内容理解の設問にはTeamsで解答し、締め切り後その結果が公開される。

グループワークの結果は、その次の週に周知される。プレゼンテーションの結果は、第15回授業で発表される。

< 成績評価方法・基準 >

各Areaの内容理解に関する回答30%、グループワークシート20%、プレゼンテーション40%、期末レポート10%
授業形態が遠隔になった場合は、評価割合が変更される可能性がある。

< テキスト >

CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情 三修社 1,800円（税別） およびプリント教材

< 参考図書 >

経済は地理から学べ！ 宮路 秀作著 ダイアモンド社 1,500円（税別）

地図化すると世の中が見えてくる 伊藤 智章著 ペレ出版 1,500円（税別）

サクッとわかるビジネス教養 地政学 奥山真司監修 新星出版社 1,200円（税別）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

・ 授業の進め方と受講の留意点についての説明

・プレゼンテーションの基礎について

第2回 Area 3

・Area 3: 内容理解と重要項目整理

第3回 Area 3

・Area 3: 内容理解と重要項目整理

第4回 Area 4

・Area 4: 内容理解と重要項目整理

第5回 Area 4

・Area 4: 内容理解と重要項目整理

第6回 Area 6

・Area 6: 内容理解と重要項目整理

第7回 Area 6

・Area 6: 内容理解と重要項目整理

第8回 Area 7

・Area 7: 内容理解と重要項目整理

第9回 Area 7

・Area 7: 内容理解と重要項目整理

第10回 プレゼンテーションの準備

グループ毎に1つの国または地域を選び、その地理・歴史・文化について説明するpptを英語で作成する。テキストの情報だけでなく、図書館の電子書籍も利用しつつ追加のリサーチの内容を組み込んだ内容にする。

第11回 プレゼンテーションの準備

グループ毎に1つの国または地域を選び、その地理・歴史・文化について説明するpptを英語で作成する。テキストの情報だけでなく、図書館の電子書籍を利用しつつ追加のリサーチの内容も組み込んだ内容にする。

第12回 プレゼンテーションの準備

グループ毎に1つの国または地域を選び、その地理・歴史・文化について説明するpptを英語で作成する。テキストの情報だけでなく、図書館の電子書籍も利用しつつ追加のリサーチの内容を組み込んだ内容にする。

第13回 プレゼンテーションの準備

グループ毎に1つの国または地域を選び、その地理・歴史・文化について説明するpptを英語で作成する。テキストの情報だけでなく、図書館の電子書籍も利用しつつ追加のリサーチの内容を組み込んだ内容にする。

第14回 プレゼンテーション実施

プレゼンテーション実施およびpeer review

第15回 振り返り

プレゼンテーションの振り返り 期末レポートの説明

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

山本 誠子

< 授業の方法 >

講義・演習(4/28~6/19の授業はオンデマンド)6/21以降は対面

< 授業の目的 >

この科目は、専門語学のコミュニケーション英語1・2・3と共通のテーマ(リスニング・スピーキング)で授業を進めます。

英語のリスニングとスピーキングの技能を基礎から伸ばすため、反復練習を行います。「体で覚える」ことにより、反射能力を高めていきます。会話文を題材に、音声面の特徴に注意しながら、登場人物と同様の音声表現が求められます。

意味の固まり(フレーズやセンテンス)をインプットの単位として長期記憶に貯えることができれば、アウトプットの際に単語を1つ1つ組み立てるのではなく、再利用と応用で対応できるようになります。

2回目以降の授業では、毎回の提出物が評価され、その積み重ねが全体の評価にもつながります。また、授業外でもリスニング・スピーキングの訓練をするため、English Centralでの学習を自習課題とします。

この科目は、経営学部ディプロマポリシー第4項「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」に関わっています。

< 到達目標 >

基本的な表現について、1つ1つの単語を区切って考えるのではなく、チャンク(固まり)として聞き・話すことができる。

< 授業のキーワード >

リスニング、スピーキング、反復練習

< 授業の進め方 >

日常会話を主な題材としてリスニング課題によるインプットを行い、内容確認をします。聞き取ることができない部分については、その原因(語彙・音声変化・音声のスピード等)を明確にし、内容と音声の特徴を一体化させます。その後、その内容をスピーキング活動に利用します。音声ファイルと同じように読んだ音声の録音、リスニング課題を利用した作文とその録音を実施し、音声ファイルを提出します。

< 履修するにあたって >

授業回数の2/3以上の出席で成績評価の対象となります。履修者名簿に非登学者を含む場合は、テスト内容や評価の割合が変更になる可能性があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

録音作業と、指定されたEnglish Central教材の視聴と学習におよそ15時間を見込んでいる。

< 提出課題など >

リスニングテスト・音読課題・作文課題は、dotCampusで資料配布・解答・提出を行う。

結果は、課題実施の次の週にdotCampus上で公開される。

< 成績評価方法・基準 >

リスニングテスト30%、録音課題15%、自習課題達成率15%、[録音テスト1・リスニングテスト1・自習課題に関

するテスト1]20%、[録音テスト2・リスニングテスト2・
自習課題に関するテスト2]20%

<テキスト>

・プリント教材

・English Central 成美堂 ライセンスカード(2,700
円+税)

出版社の販売サイトで各自が直接購入します。第1回
授業で説明します。

<参考図書>

どんどん話すための瞬間英作文トレーニング 森沢洋介
著 ペレ出版

スラスラ話すための瞬間英作文シャッフルトレーニング
森沢洋介著 ペレ出版

究極の英会話(上) アルク

究極の英会話(下) アルク

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方と受講の留意点および自習課題についての
説明

第2回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第3回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第4回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第5回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第6回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第7回 リスニングによるインプットをスピーキングに

活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第8回 中間テスト

・録音テスト1

・リスニングテスト1

・自習課題に関するテスト1

第9回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第10回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第11回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第12回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第13回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第14回 リスニングによるインプットをスピーキングに
活用する

音声ファイルについてリスニングテストを行う。その後、
その回のリスニング課題(ディクテーションおよび内容
把握)を行い、ダイアログの音読を行う。また、リスニ
ング課題を生かした作文を完成させる。

第15回 最終授業日テスト

・録音テスト2

・リスニングテスト2

・自習課題に関するテスト2

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

山本 誠子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この科目は、専門語学の中で、TOEIC対策を目的にしています。就職活動にTOEICの結果を生かしたいと考える、積極的な受講態度を持つ人が対象です。

TOEICは主としてビジネス英語の能力を客観的に測定する手段として、広く利用されています。就職後も、英語力の向上や保持のために受験を義務づける企業もあります。

TOEICにはListening SectionとReading Sectionがあり、そのスコアアップを目指して、語彙・文法・リスニングののコツを習得することを目的としています。そのため、様々なテーマの文章に慣れることが必要です。

この科目は、経営学部ディプロマポリシー第4項「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」に関わっています。

< 到達目標 >

ビジネス英語の語彙とリスニング/リーディングに関わる技術を身につけ、TOEICの得点アップを目指す。事後テストで、各自のスコアが事前テストよりも伸びることを目標とする。

< 授業のキーワード >

TOEIC, リスニング, リーディング, 語彙

< 授業の進め方 >

テキストの問題に解答後、不正解の原因を解決します。授業の最初には、復習テストを行って、語彙・リスニング・文法の強化をはかります。復習を目的とした自習課題が課されます。最後には事後テストを行って、スコアが向上したか確認します。

< 履修するにあたって >

・ e-learning教材での学習も含め、基本的なコンピュータスキルが必要です。

・ 各回の復習テストに向けて、理解を深める作業を持続する力が求められます。TOEICのスコアアップを真剣に考えている人の履修を希望します。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習テストの準備、自習課題（リンガポルタ）に15時間程度を見込んでいる。

< 提出課題など >

各Unit・復習テストの解答は、TeamsまたはdotCampusでフィードバックされます。

< 成績評価方法・基準 >

教科書の問題・復習テストの解答40%、事後テストの得点5%、事前テストから事後テストへの伸び率5%、自習課題25%、定期試験25%

< テキスト >

BEST PRACTICE FOR THE TOEIC? LISTENING AND READING TEST

- Revised Edition- 吉塚 弘 / Michael Schauer
te 共著 成美堂 2,200円（税別）

< 参考図書 >

新形式対応公式問題集

TOEIC 模試 各種問題集

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

・ 授業の進め方と受講の注意点について説明

・ TOEICの試験形式に関する説明 ・ 自習課題の説明

・ 事前テスト

第2回 Unit 1

Restaurant : リスニング

第3回 Unit 1

Restaurant : リーディング

第4回 Unit 2

Entertainment : リスニング

第5回 Unit 2

Entertainment : リーディング

第6回 Unit 3

Business : リスニング

第7回 Unit 3

Business : リーディング

第8回 Unit 4

Office : リスニング

第9回 Unit 4

Office : リーディング

第10回 Unit 5

Telephone : リスニング

第11回 Unit 5

Telephone : リーディング

第12回 Unit 6

Letter & E-mail : リスニング

第13回 Unit 6

Letter & E-mail : リーディング

第14回 Unit 7

Health : リスニング

第15回 Unit 7

Health : リーディング 定期試験の説明 事後テスト

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

浜本 宏

< 授業の方法 >

対面授業で行います。

履修者には授業時に以下のリンクより教材等をダウンロードして持参するように求めることがあるので注意してください。

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bh151271_ba_kobegakuin_ac_jp/EmtN1ZsaUYdEndcSHvPrjnccBdXT0zk7pw-5-wniTZGQ06g?e=qVcvvD}

< 授業の目的 >

基本的な英文読解能力の獲得をめざします。

< 到達目標 >

英文を単に和訳するのではなく、理解する能力を身に付けることができる事を目標とします。

< 授業のキーワード >

外書講読 浜本 宏 イギリス

< 授業の進め方 >

受講生の皆さんが、これまでに学んできた英語の基礎力を確認しながら、その基礎力のパワーアップができるように授業を進めていきます。毎授業時の英単語の小テストも予定しています。

< 履修するにあたって >

積極的な授業参加 予習・復習の励行 授業回数
の2/3以上の出席 最終提出課題は必ず提出すること
(提出されない場合は単位認定不可)

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習の徹底。

< 提出課題など >

授業時に指示します。最終提出課題は必ず提出すること
!

< 成績評価方法・基準 >

最終提出課題(80%)および 授業中の提出課題(小テスト)20%によります。

< テキスト >

English Indicator - Essential(南雲堂)

< 参考図書 >

英語の冒険by M・ブラッグ(アーティストハウス)、シェイクスピアの英語by 西森マリー(講談社)
イギリス人の表と裏by山田勝(日本放送出版会)、ステイプ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン(朝日出版社)、大学生のための最重要英語構文540by吉ゆうそう

(南雲堂)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や英語力増強のための秘策について授業をします。

第2回 The Royal Family+現在時制

英国王室に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第3回 The Beatles+過去時制

The Beatlesに関する英文を読みつつ、総合英語力を高

めま

す。

第4回 Very cold+進行形

2人の学生が冬のヨーロッパを旅行した時の英文を読み

つつ、総合英語力を高めま

す。

第5回 Euro Money+助動詞

EUにおける通貨ユーロに関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第6回 To Your Health+完了形

健康に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第7回 Recycling+冠詞+代名詞

リサイクルに関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第8回 The UK+名詞+不可算名詞

英国及び英国人に関する英文を読みつつ、総合英語力を

高めま

す。

第9回 A Quiet Life+副詞及び形容詞

英国の田園地帯の生活に関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第10回 My Company+比較級

英国の会社に関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第11回 Advertising+不定詞及び動名詞

英国の某企業の広報に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第12回 Business Trips+前置詞及び接続詞

筆者の海外出張時に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第13回 Get It Cleaned+使役動詞及び知覚動詞

筆者が某ホテルに滞在した時の思い出に関する英文を読

みつつ、総合英語力を高めま

す。

第14回 A Storm+受動態

英国の嵐に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第15回 総括及び最終提出課題についての説明。

授業の総復習及び最終提出課題に関する説明。

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

浜本 宏

< 授業の方法 >

対面授業で行います。

履修者には授業時に以下のリンクより教材等をダウンロードして持参するように求めることがあるので注意してください。

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bh151271_ba_kobegakuin_ac_jp/EmtN1ZsaUYdEndcSHvPrjnccBdXT0zk7pw-5-wniTZGQ06g?e=qVcvvD}

< 授業の目的 >

基本的な英文読解能力の獲得をめざします。

< 到達目標 >

英文を単に和訳するのではなく、理解する能力を身に付けることができる事を目標とします。

< 授業のキーワード >

外書講読 浜本 宏 イギリス

< 授業の進め方 >

受講生の皆さんが、これまでに学んできた英語の基礎力を確認しながら、その基礎力のパワーアップができるように授業を進めていきます。毎授業時の英単語の小テストも予定しています。

< 履修するにあたって >

積極的な授業参加 予習・復習の励行 授業回数
の2/3以上の出席 最終提出課題は必ず提出すること
(提出されない場合は単位認定不可)

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習の徹底。

< 提出課題など >

授業時に指示します。最終提出課題は必ず提出すること
!

< 成績評価方法・基準 >

最終提出課題(80%)および 授業中の提出課題(小テスト)20%によります。

< テキスト >

English Indicator - Essential(南雲堂)

< 参考図書 >

英語の冒険by M・ブラッグ(アーティストハウス)、シェイクスピアの英語by 西森マリー(講談社)
イギリス人の表と裏by山田勝(日本放送出版会)、ステイプ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン(朝日出版社)、大学生のための最重要英語構文540by吉ゆうそう

(南雲堂)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や英語力増強のための秘策について授業をします。

第2回 The Royal Family+現在時制

英国王室に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第3回 The Beatles+過去時制
The Beatlesに関する英文を読みつつ、総合英語力を高

めま

2人の学生が冬のヨーロッパを旅行した時の英文を読み
つつ、総合英語力を高めま

す。

第5回 Euro Money+助動詞
EUにおける通貨ユーロに関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第6回 To Your Health+完了形

健康に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第7回 Recycling+冠詞+代名詞
リサイクルに関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第8回 The UK+名詞+不可算名詞

英国及び英国人に関する英文を読みつつ、総合英語力を

高めま

す。

第9回 A Quiet Life+副詞及び形容詞

英国の田園地帯の生活に関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第10回 My Company+比較級

英国の会社に関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第11回 Advertising+不定詞及び動名詞
英国の某企業の広報に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第12回 Business Trips+前置詞及び接続詞
筆者の海外出張時に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第13回 Get It Cleaned+使役動詞及び知覚動詞
筆者が某ホテルに滞在した時の思い出に関する英文を

読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第14回 A Storm+受動態
英国の嵐に関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第15回 総括及び最終提出課題についての説明。
授業の総復習及び最終提出課題に関する説明。

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

浜本 宏

< 授業の方法 >

対面授業で行います。

履修者には授業時に以下のリンクより教材等をダウンロードして持参するように求めることがあるので注意してください。

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bh151271_ba_kobegakuin_ac_jp/EmtN1ZsaUYdEndcSHvPrjnccBdXT0zk7pw-5-wniTZGQ06g?e=qVcvvD}

< 授業の目的 >

基本的な英文読解能力の獲得をめざします。

< 到達目標 >

英文を単に和訳するのではなく、理解する能力を身に付けることができる事を目標とします。

< 授業のキーワード >

外書講読 浜本 宏 イギリス

< 授業の進め方 >

受講生の皆さんが、これまでに学んできた英語の基礎力を確認しながら、その基礎力のパワーアップができるように授業を進めていきます。毎授業時の英単語の小テストも予定しています。

< 履修するにあたって >

積極的な授業参加 予習・復習の励行 授業回数
の2/3以上の出席 最終提出課題は必ず提出すること
(提出されない場合は単位認定不可)

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習の徹底。

< 提出課題など >

授業時に指示します。最終提出課題は必ず提出すること
!

< 成績評価方法・基準 >

最終提出課題(80%)および 授業中の提出課題(小テスト)20%によります。

< テキスト >

English Indicator - Essential(南雲堂)

< 参考図書 >

英語の冒険by M・ブラッグ(アーティストハウス)、シェイクスピアの英語by 西森マリー(講談社)
イギリス人の表と裏by山田勝(日本放送出版会)、ステイプ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン(朝日出版社)、大学生のための最重要英語構文540by吉ゆうそう

(南雲堂)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や英語力増強のための秘策について授業をします。

第2回 The Royal Family+現在時制

英国王室に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第3回 The Beatles+過去時制

The Beatlesに関する英文を読みつつ、総合英語力を高

めま

す。

第4回 Very cold+進行形

2人の学生が冬のヨーロッパを旅行した時の英文を読み

つつ、総合英語力を高めま

す。

第5回 Euro Money+助動詞

EUにおける通貨ユーロに関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第6回 To Your Health+完了形

健康に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第7回 Recycling+冠詞+代名詞

リサイクルに関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第8回 The UK+名詞+不可算名詞

英国及び英国人に関する英文を読みつつ、総合英語力を

高めま

す。

第9回 A Quiet Life+副詞及び形容詞

英国の田園地帯の生活に関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第10回 My Company+比較級

英国の会社に関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第11回 Advertising+不定詞及び動名詞

英国の某企業の広報に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第12回 Business Trips+前置詞及び接続詞

筆者の海外出張時に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第13回 Get It Cleaned+使役動詞及び知覚動詞

筆者が某ホテルに滞在した時の思い出に関する英文を読

みつつ、総合英語力を高めま

す。

第14回 A Storm+受動態

英国の嵐に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第15回 総括及び最終提出課題についての説明。

授業の総復習及び最終提出課題に関する説明。

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

浜本 宏

< 授業の方法 >

対面授業で行います。

履修者には授業時に以下のリンクより教材等をダウンロードして持参するように求めることがあるので注意してください。

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bh151271_ba_kobegakuin_ac_jp/EmtN1ZsaUYdEndcSHvPrjnccBdXT0zk7pw-5-wniTZGQ06g?e=qVcvvD}

< 授業の目的 >

基本的な英文読解能力の獲得をめざします。

< 到達目標 >

英文を単に和訳するのではなく、理解する能力を身に付けることができる事を目標とします。

< 授業のキーワード >

外書講読 浜本 宏 イギリス

< 授業の進め方 >

受講生の皆さんが、これまでに学んできた英語の基礎力を確認しながら、その基礎力のパワーアップができるように授業を進めていきます。毎授業時の英単語の小テストも予定しています。

< 履修するにあたって >

積極的な授業参加 予習・復習の励行 授業回数
の2/3以上の出席 最終提出課題は必ず提出すること
(提出されない場合は単位認定不可)

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習の徹底。

< 提出課題など >

授業時に指示します。最終提出課題は必ず提出すること
!

< 成績評価方法・基準 >

最終提出課題(80%)および 授業中の提出課題(小テスト)20%によります。

< テキスト >

English Indicator - Essential(南雲堂)

< 参考図書 >

英語の冒険by M・ブラッグ(アーティストハウス)、シェイクスピアの英語by 西森マリー(講談社)
イギリス人の表と裏by山田勝(日本放送出版会)、ステイプ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン(朝日出版社)、大学生のための最重要英語構文540by吉ゆうそう

(南雲堂)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や英語力増強のための秘策について授業をします。

第2回 The Royal Family+現在時制

英国王室に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第3回 The Beatles+過去時制

The Beatlesに関する英文を読みつつ、総合英語力を高

めま

す。

第4回 Very cold+進行形

2人の学生が冬のヨーロッパを旅行した時の英文を読み

つつ、総合英語力を高めま

す。

第5回 Euro Money+助動詞

EUにおける通貨ユーロに関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第6回 To Your Health+完了形

健康に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第7回 Recycling+冠詞+代名詞

リサイクルに関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第8回 The UK+名詞+不可算名詞

英国及び英国人に関する英文を読みつつ、総合英語力を

高めま

す。

第9回 A Quiet Life+副詞及び形容詞

英国の田園地帯の生活に関する英文を読みつつ、総合英

語力を高めま

す。

第10回 My Company+比較級

英国の会社に関する英文を読みつつ、総合英語力を高め

ま

す。

第11回 Advertising+不定詞及び動名詞

英国の某企業の広報に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第12回 Business Trips+前置詞及び接続詞

筆者の海外出張時に関する英文を読みつつ、総合英語

力を高めま

す。

第13回 Get It Cleaned+使役動詞及び知覚動詞

筆者が某ホテルに滞在した時の思い出に関する英文を読

みつつ、総合英語力を高めま

す。

第14回 A Storm+受動態

英国の嵐に関する英文を読みつつ、総合英語力を高めま

す。

第15回 総括及び最終提出課題についての説明。

授業の総復習及び最終提出課題に関する説明。

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to the field of economics and business through news articles and other media resources. This course will utilize current events to structure class projects for the purpose of deepening content comprehension. Course content will be taught using class discussion, English language media, and reading comprehension worksheets.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, reading skills, and knowledge of how current events and media affect economics and business.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to interact with business-related media in English

< 授業のキーワード >

Current Events, Media, Reading Comprehension, Analysis, E-learning

< 授業の進め方 >

This course will use articles based on current events and media to structure online reading comprehension worksheets and online vocabulary study designed to strengthen English reading skills.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Vocabulary study, reading/reading comprehension worksheets

< 提出課題など >

Online reading comprehension worksheets

< 成績評価方法・基準 >

Class participation 60%, Reading Comprehension Worksheets 20%, Examinations 20%

< テキスト >

No textbook is required. Handouts will be issued online

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each

other.

Weeks 2-6 Transcultural Perspectives

Intercultural politics and economic impact

Weeks 7-11 Business and Finance

Economic analysis during the SARS-CoV-2 Pandemic

Weeks 12-15 Travel & Tourism

The travel industry and its environmental impact

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to the field of economics and business through news articles and other media resources. This course will utilize current events to structure class projects for the purpose of deepening content comprehension. Course content will be taught using class discussion, English language media, and reading comprehension worksheets.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, reading skills, and knowledge of how current events and media affect economics and business.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to interact with business-related media in English

< 授業のキーワード >

Current Events, Media, Reading Comprehension, Analysis, E-learning

< 授業の進め方 >

This course will use articles based on current events and media to structure online reading comprehension worksheets and online vocabulary study designed to strengthen English reading skills.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Vocabulary study, reading/reading comprehension worksheets

< 提出課題など >

Online reading comprehension worksheets

< 成績評価方法・基準 >

Class participation 60%, Reading Comprehension Wor

ksheets 20%, Examinations 20%

<テキスト>

No textbook is required. Handouts will be issued online

<授業計画>

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-6 Transcultural Perspectives

Intercultural politics and economic impact

Weeks 7-11 Business and Finance

Economic analysis during the SARS-CoV-2 Pandemic

Weeks 12-15 Travel & Tourism

The travel industry and its environmental impact

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

相島 淑美

<授業の方法>

講義およびグループワーク

<授業の目的>

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことに関わっています。最新のマーケティングに関する資料や文献は英語で書かれたものが多く、今日では日本企業もグローバル市場に向けて英語でコミュニケーションを行うことが前提となっています。そこで重要となる、専門に関する英文を読み、比較し、考えを組み立て、伝える力をつけることがこの授業の目的です。なお、この科目の担当者は翻訳家（英日）として30点以上の実績を持つほか多数企業のマーケティングコミュニケーションの英語サポートをおこなってきた実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

<到達目標>

この授業を終了したとき、学生の皆さんは 1.英語で経営学（マーケティング）に関する事柄を読み、説明することができるようになる。 2.英語で書かれた専門的な文献をすらすら読めるようになる。 3.英語を用いて自分の興味やテーマに合致する情報や文献を収集し、活用することができるようになる。 4.課題への取り組みを通じて、自分の考えを深めていくことができる。

<授業のキーワード>

ブランディング、マーケティングコミュニケーション

<授業の進め方>

英文を読み、提示した課題について考えてきていただきます。受講生の皆さんの積極的な参加に期待しています。なお、英文の内容確認のため小テストを随時実施します。

<履修するにあたって>

単に英文和訳をするのではなく、英文から何が読み取れるかを考えることに重点を置いた授業です。おもに、ブランディング、マーケティングコミュニケーション関連文献を扱います。基礎知識を得ておくことが望ましいですが、理解に有用な文献等については授業中に随時ご紹介いたします。

<授業時間外に必要な学修>

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

<提出課題など>

必要に応じて指示します。

<成績評価方法・基準>

小テストおよび授業への参加度50% 期末試験およびレポート50%

<テキスト>

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事や平易な論文を用います。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業概要の説明。ブランドマネジメントについて説明

第2回 英文1(1)

ブランディングについての英文1について内容把握を行う

第3回 英文1(2)

ブランディングについての英文1について理解を深める

第4回 英文2(1)

ブランディングについての英文2について内容把握を行う

第5回 英文2(2)

ブランディングについての英文2について理解を深める

第6回 英文2(3)

ブランディングについての英文2についてグループディスカッションを行う

第7回 英文3(1)

ブランディングについての英文3について内容把握を行う

第8回 英文3(2)

ブランディングについての英文3について理解を深める

第9回 英文4(2)

ブランディングについての英文4について理解を深める

第10回 英文5(1)

ブランディングについての英文5について内容把握を行う

第11回 英文5(2)

ブランディングについての英文5について理解を深める

第12回 英文6(1)

ブランディングについての英文6について内容把握を行う

第13回 英文6(2)

ブランディングについての英文6について理解を深める

第14回 ふりかえり

全体のまとめ・ディスカッション

第15回 ふりかえり

全体のまとめ・ディスカッション

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

相島 淑美

< 授業の方法 >

講義およびグループワーク

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことに関わっています。最新のマーケティングに関する資料や文献は英語で書かれたものが多く、今日では日本企業もグローバル市場に向けて英語でコミュニケーションを行うことが前提となっています。そこで重要となる、専門に関する英文を読み、比較し、考えを組み立て、伝える力をつけることがこの授業の目的です。なお、この科目の担当者は翻訳家(英日)として30点以上の実績を持つほか多数企業のマーケティングコミュニケーションの英語サポートをおこなってきた実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

< 到達目標 >

この授業を終了したとき、学生の皆さんは 1.英語で経営学(マーケティング)に関する事柄を読み、説明することができるようになる。 2.英語で書かれた専門的な文献をすらすら読めるようになる。 3.英語を用いて自分の興味やテーマに合致する情報や文献を収集し、活用することができるようになる。 4.課題への取り組みを通じて、自分の考えを深めていくことができる。

< 授業のキーワード >

ブランディング、マーケティングコミュニケーション

< 授業の進め方 >

英文を読み、提示した課題について考えてきていただきます。受講生の皆さんの積極的な参加に期待しています。なお、英文の内容確認のため小テストを随時実施します。

< 履修するにあたって >

単純に英文和訳をするのではなく、英文から何が読み取

れるかを考えることに重点を置いた授業です。おもに、ブランディング、マーケティングコミュニケーション関連文献を扱います。基礎知識を得ておくことが望ましいですが、理解に有用な文献等については授業中に随時ご紹介します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

小テストおよび授業への参加度50% 期末試験およびレポート50%

< テキスト >

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事や平易な論文を用います。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業概要の説明。ブランドマネジメントについて説明

第2回 英文1(1)

ブランディングについての英文1について内容把握を行う

第3回 英文1(2)

ブランディングについての英文1について理解を深める

第4回 英文2(1)

ブランディングについての英文2について内容把握を行う

第5回 英文2(2)

ブランディングについての英文2について理解を深める

第6回 英文2(3)

ブランディングについての英文2についてグループディスカッションを行う

第7回 英文3(1)

ブランディングについての英文3について内容把握を行う

第8回 英文3(2)

ブランディングについての英文3について理解を深める

第9回 英文4(2)

ブランディングについての英文4について理解を深める

第10回 英文5(1)

ブランディングについての英文5について内容把握を行う

第11回 英文5(2)

ブランディングについての英文5について理解を深める

第12回 英文6(1)

ブランディングについての英文6について内容把握を行う

第13回 英文6(2)

ブランディングについての英文6について理解を深める

第14回 ふりかえり
全体のまとめ・ディスカッション
第15回 ふりかえり
全体のまとめ・ディスカッション

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

相島 淑美

< 授業の方法 >

講義およびグループワーク

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことに関わっています。最新のマーケティングに関する資料や文献は英語で書かれたものが多く、今日では日本企業もグローバル市場に向けて英語でコミュニケーションを行うことが前提となっています。そこで重要となる、専門に関する英文を読み、比較し、考えを組み立て、伝える力をつけることがこの授業の目的です。なお、この科目の担当者は翻訳家（英日）として30点以上の実績を持つほか多数企業のマーケティングコミュニケーションの英語サポートをおこなってきた実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

< 到達目標 >

この授業を終了したとき、学生の皆さんは 1.英語で経営学（マーケティング）に関する事柄を読み、説明することができるようになる。2.英語で書かれた専門的な文献をすらすら読めるようになる。3.英語を用いて自分の興味やテーマに合致する情報や文献を収集し、活用することができるようになる。4.課題への取り組みを通じて、自分の考えを深めていくことができる。

< 授業のキーワード >

ブランディング、マーケティングコミュニケーション

< 授業の進め方 >

英文を読み、提示した課題について考えてきていただきます。受講生の皆さんの積極的な参加に期待しています。なお、英文の内容確認のため小テストを随時実施します。

< 履修するにあたって >

単純に英文和訳をするのではなく、英文から何が読み取れるかを考えることに重点を置いた授業です。おもに、ブランディング、マーケティングコミュニケーション関連文献を扱います。基礎知識を得ておくことが望ましいですが、理解に有用な文献等については授業中に随時ご紹介いたします。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

小テストおよび授業への参加度50% 期末試験およびレポート50%

< テキスト >

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事や平易な論文を用います。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨソ

授業概要の説明。ブランドマネジメントについて説明

第2回 英文1(1)

ブランディングについての英文1について内容把握を行う

第3回 英文1(2)

ブランディングについての英文1について理解を深める

第4回 英文2(1)

ブランディングについての英文2について内容把握を行う

第5回 英文2(2)

ブランディングについての英文2について理解を深める

第6回 英文2(3)

ブランディングについての英文2についてグループディスカッションを行う

第7回 英文3(1)

ブランディングについての英文3について内容把握を行う

第8回 英文3(2)

ブランディングについての英文3について理解を深める

第9回 英文4(2)

ブランディングについての英文4について理解を深める

第10回 英文5(1)

ブランディングについての英文5について内容把握を行う

第11回 英文5(2)

ブランディングについての英文5について理解を深める

第12回 英文6(1)

ブランディングについての英文6について内容把握を行う

第13回 英文6(2)

ブランディングについての英文6について理解を深める

第14回 ふりかえり

全体のまとめ・ディスカッション

第15回 ふりかえり

全体のまとめ・ディスカッション

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

山本 誠子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この科目は、専門語学の中で、TOEIC対策を目的にしています。就職活動にTOEICの結果を生かしたいと考える、積極的な受講態度を持つ人が対象です。

TOEICは主としてビジネス英語の能力を客観的に測定する手段として、広く利用されています。就職後も、英語力の向上や保持のために受験を義務づける企業もあります。

TOEICにはListening SectionとReading Sectionがあり、そのスコアアップを目指して、語彙・文法・リスニングののコツを習得することを目的としています。そのため、様々なテーマの文章に慣れることが必要です。

この科目は、経営学部ディプロマポリシー第4項「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」に関わっています。

< 到達目標 >

ビジネス英語の語彙とリスニング/リーディングに関わる技術を身につけ、TOEICの得点アップを目指す。事後テストで、各自のスコアが事前テストよりも伸びることを目標とする。

< 授業のキーワード >

TOEIC, リスニング, リーディング, 語彙

< 授業の進め方 >

テキストの問題に解答後、不正解の原因を解決します。授業の最初には、復習テストを行って、語彙・リスニング・文法の強化をはかります。復習を目的とした自習課題が課されます。最後には事後テストを行って、スコアが向上したか確認します。

< 履修するにあたって >

・ e-learning教材での学習も含め、基本的なコンピュータスキルが必要です。
・ 各回の復習テストに向けて、理解を深める作業を持続する力が求められます。TOEICのスコアアップを真剣に考えている人の履修を希望します。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習テストの準備、自習課題（リンガポルタ）に15時間程度を見込んでいる。

< 提出課題など >

各Unit・復習テストの解答は、TeamsまたはdotCampusでフィードバックされます。

< 成績評価方法・基準 >

教科書・補充課題の問題解答40%、事後テストの得点5%、事前テストから事後テストへの伸び率5%、自習課題25%、定期試験25%

< テキスト >

BEST PRACTICE FOR THE TOEIC? LISTENING AND READING TEST

- Revised Edition- 吉塚 弘 / Michael Schauer
te 共著 成美堂 2,200円（税別）

* 前期金曜3限外書講読 を履修した人は、同じ教科書なので購入する必要はありません。

< 参考図書 >

新形式対応公式問題集

TOEIC 模試 各種問題集

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

・ 授業の進め方と受講の注意点について説明

・ TOEICの試験形式に関する説明 ・ 自習課題の説明

・ 事前テスト

第2回 Unit 8

Bank & Post Office : リスニング

第3回 Unit 8

Bank & Post Office : リーディング

第4回 Unit 9

New Products : リスニング

第5回 Unit 9

New Products : リーディング

第6回 Unit 10

Travel : リスニング

第7回 Unit 10

Travel : リーディング

第8回 Unit 11

Travel : リスニング

第9回 Unit 11

Travel : リーディング

第10回 Unit 12

Job Applications : リスニング

第11回 Unit 12

Job Applications : リーディング

第12回 Unit 13

Shopping : リスニング

第13回 Unit 13

Shopping : リーディング

第14回 Unit 14

Education : リスニング

第15回 Unit 14

Education : リーディング 定期試験の説明 事後テスト

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

浜本 宏

< 授業の方法 >

対面授業で行います。

履修者には授業時に言及するURLから教材等をダウンロードして持参するように求めることがあるので注意してください。

< 授業の目的 >

更なる英語力の確認と獲得のため、reading, writing, listeningの総合英語能力（特に英文読解力）を磨くタスクを行います。

< 到達目標 >

中級程度の英文を読んで、語彙を増やし、reading力の強化 文法及び語法の確認をしつつ、英文を書くことによるwriting力の強化 音読によるlistening力の強化。

< 授業のキーワード >

総合英語力、英文読解力、Indicator 2

< 授業の進め方 >

受講生の皆さんが、これまでに学んできた英語の基礎力（特に英文読解力）のパワーアップができるように授業を進めていきます。原則として毎回、課題の提出を求めます。最終成績は毎回の課題の提出の有無及び最終提出課題のレポートの結果を判断します。

< 履修するにあたって >

積極的な授業参加 予習・復習の励行 授業回数
の2/3以上の出席 授業の最終日に英語による面接個別テストを実施予定です。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習の徹底。インターネットを利用して、BBCなどのラジオ番組を聞いてみてください。

< 提出課題など >

授業時に指示します。

< 成績評価方法・基準 >

最終提出課題（80%）及び授業ごとに求める課題（20%）についての結果を総合して判断します。

< テキスト >

English Indicator 2 <Pre-Intermediate> (南雲堂)

< 参考図書 >

英語の冒険 by M・ブラッグ（アーティストハウス）、シェイクスピアの英語 by 西森マリー（講談社）、イギリスはおいしい by 林望（文春文庫）、英国に就いて by 吉田健一（ちくま文庫）、スティーブ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン（朝日出版社）、七色のロンドン by 浅井泰範（朝日文庫）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や更なる総合的英語力増強のための秘策について授業をします。

第2回 Our Aging Society

団塊の世代に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第3回 Holiday Memories

筆者の幼いころの旅の思い出に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第4回 Sport

日英両国民のスポーツ観に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第5回 Foreign Workers

外国人労働者に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第6回 Lifestyles

現代日本人のライフスタイルに関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第7回 Sizes

日米人の大きさに対する異文化的概念に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第8回 Bathrooms

英国と日本の風呂についての習慣の違いなどについて学びつつ、英文読解力を高めます。

第9回 Weather and Global Warning

地球温暖化に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第10回 Recycling

リサイクルに関するエッセイを読みつつ、英文読解力を高めます。

第11回 Commuting

日英の通勤に関する英文を読みながら、英文読解力を高めます。

第12回 Advertising

テレビコマーシャルについての英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第13回 Cars: Transport or Status

ステータスシンボルとしての車の役割と、その変遷についてのEssayを読みつつ、英文読解力を高めます。

第14回 Our Education

教育に関する筆者の意見を読みつつ、英文読解力を高めます。

第15回 最終課題

最終課題提出についての説明及び講義の総復習をします。

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

浜本 宏

< 授業の方法 >

対面授業で行います。

履修者には授業時に言及するURLから教材等をダウンロードして持参するように求めることがあるので注意してください。

< 授業の目的 >

更なる英語力の確認と獲得のため、reading, writing, listeningの総合英語能力（特に英文読解力）を磨くタスクを行います。

< 到達目標 >

中級程度の英文を読んで、語彙を増やし、reading力の強化 文法及び語法の確認をしつつ、英文を書くことによるwriting力の強化 音読によるlistening力の強化。

< 授業のキーワード >

総合英語力、英文読解力、Indicator 2

< 授業の進め方 >

受講生の皆さんが、これまでに学んできた英語の基礎力（特に英文読解力）のパワーアップができるように授業を進めていきます。原則として毎回、課題の提出を求めます。最終成績は毎回の課題の提出の有無及び最終提出課題のレポートの結果を判断します。

< 履修するにあたって >

積極的な授業参加 予習・復習の励行 授業回数
の2/3以上の出席 授業の最終日に英語による面接個別テストを実施予定です。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習の徹底。インターネットを利用して、BBCなどのラジオ番組を聞いてみてください。

< 提出課題など >

授業時に指示します。

< 成績評価方法・基準 >

最終提出課題（80%）及び授業ごとに求める課題（20%）についての結果を総合して判断します。

< テキスト >

English Indicator 2 <Pre-Intermediate> (南雲堂)

< 参考図書 >

英語の冒険 by M・ブラッグ（アーティストハウス）、シェイクスピアの英語 by 西森マリー（講談社）、イギリスはおいしい by 林望（文春文庫）、英国に就いて by 吉田健一（ちくま文庫）、スティーブ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン（朝日出版社）、七色のロンドン by 浅井泰範（朝日文庫）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や更なる総合的英語力増強のための秘策について授業をします。

第2回 Our Aging Society

団塊の世代に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第3回 Holiday Memories

筆者の幼いころの旅の思い出に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第4回 Sport

日英両国民のスポーツ観に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第5回 Foreign Workers

外国人労働者に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第6回 Lifestyles

現代日本人のライフスタイルに関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第7回 Sizes

日米人の大きさに対する異文化的概念に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第8回 Bathrooms

英国と日本の風呂についての習慣の違いなどについて学びつつ、英文読解力を高めます。

第9回 Weather and Global Warning

地球温暖化に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第10回 Recycling

リサイクルに関するエッセイを読みつつ、英文読解力を高めます。

第11回 Commuting

日英の通勤に関する英文を読みながら、英文読解力を高めます。

第12回 Advertising

テレビコマーシャルについての英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第13回 Cars: Transport or Status

ステータスシンボルとしての車の役割と、その変遷についてのEssayを読みつつ、英文読解力を高めます。

第14回 Our Education

教育に関する筆者の意見を読みつつ、英文読解力を高めます。

第15回 最終課題

最終課題提出についての説明及び講義の総復習をします。

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

浜本 宏

< 授業の方法 >

対面授業で行います。

履修者には授業時に言及するURLから教材等をダウンロードして持参するように求めることがあるので注意してください。

< 授業の目的 >

更なる英語力の確認と獲得のため、reading, writing, listeningの総合英語能力（特に英文読解力）を磨くタスクを行います。

< 到達目標 >

中級程度の英文を読んで、語彙を増やし、reading力の強化 文法及び語法の確認をしつつ、英文を書くことによるwriting力の強化 音読によるlistening力の強化。

< 授業のキーワード >

総合英語力、英文読解力、Indicator 2

< 授業の進め方 >

受講生の皆さんが、これまでに学んできた英語の基礎力（特に英文読解力）のパワーアップができるように授業を進めていきます。原則として毎回、課題の提出を求めます。最終成績は毎回の課題の提出の有無及び最終提出課題のレポートの結果を判断します。

< 履修するにあたって >

積極的な授業参加 予習・復習の励行 授業回数
の2/3以上の出席 授業の最終日に英語による面接個別テストを実施予定です。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習の徹底。インターネットを利用して、BBCなどのラジオ番組を聞いてみてください。

< 提出課題など >

授業時に指示します。

< 成績評価方法・基準 >

最終提出課題（80%）及び授業ごとに求める課題（20%）についての結果を総合して判断します。

< テキスト >

English Indicator 2 <Pre-Intermediate> (南雲堂)

< 参考図書 >

英語の冒険 by M・ブラッグ（アーティストハウス）、シェイクスピアの英語 by 西森マリー（講談社）、イギリスはおいしい by 林望（文春文庫）、英国に就いて by 吉田健一（ちくま文庫）、スティーブ・ジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン（朝日出版社）、七色のロンドン by 浅井泰範（朝日文庫）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や更なる総合的英語力増強のための秘策について授業をします。

第2回 Our Aging Society

団塊の世代に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第3回 Holiday Memories

筆者の幼いころの旅の思い出に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第4回 Sport

日英両国民のスポーツ観に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第5回 Foreign Workers

外国人労働者に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第6回 Lifestyles

現代日本人のライフスタイルに関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第7回 Sizes

日米人の大きさに対する異文化的概念に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第8回 Bathrooms

英国と日本の風呂についての習慣の違いなどについて学びつつ、英文読解力を高めます。

第9回 Weather and Global Warning

地球温暖化に関する英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第10回 Recycling

リサイクルに関するエッセイを読みつつ、英文読解力を高めます。

第11回 Commuting

日英の通勤に関する英文を読みながら、英文読解力を高めます。

第12回 Advertising

テレビコマーシャルについての英文を読みつつ、英文読解力を高めます。

第13回 Cars: Transport or Status

ステータスシンボルとしての車の役割と、その変遷についてのEssayを読みつつ、英文読解力を高めます。

第14回 Our Education

教育に関する筆者の意見を読みつつ、英文読解力を高めます。

第15回 最終課題

最終課題提出についての説明及び講義の総復習をします。

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to the field of economics and business through news articles and other media resources. This course will utilize current events to structure class projects for the purpose of deepening content comprehension. Course content will be taught using class discussion, pair work, and reading comprehension worksheets.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, reading skills, and knowledge of how current events and media affect economics and business.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to interact with business-related media in English

< 授業のキーワード >

Current Events, Media, Reading Comprehension, Analysis

< 授業の進め方 >

This class will use the reading of articles based on current events and media to structure reading comprehension worksheets and vocabulary study designed to strengthen English reading skills.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects, access to a computer and/or smartphone is recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Vocabulary study, reading/reading comprehension worksheets

< 提出課題など >

Online reading comprehension worksheets

< 成績評価方法・基準 >

Class participation 60%, Reading Comprehension Worksheets 20%, Examinations 20%

< テキスト >

No textbook is required. Handouts will be issued in class and online

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-6 Entertainment and Arts

Smartphone media and the gaming industry

Weeks 7-11 Politics

Introduction to debate

Weeks 12-15 Technology

The economic application of technology

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to the field of economics and business through news articles and other media resources. This course will utilize current events to structure class projects for the purpose of deepening content comprehension. Course content will be taught using class discussion, pair work, and reading comprehension worksheets.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, reading skills, and knowledge of how current events and media affect economics and business.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to interact with business-related media in English

< 授業のキーワード >

Current Events, Media, Reading Comprehension, Analysis

< 授業の進め方 >

This class will use the reading of articles based on current events and media to structure reading comprehension worksheets and vocabulary study designed to strengthen English reading skills.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects, access to a computer and/or smartphone is recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Vocabulary study, reading/reading comprehension worksheets

< 提出課題など >

Online reading comprehension worksheets

< 成績評価方法・基準 >

Class participation 60%, Reading Comprehension Worksheets 20%, Examinations 20%

< テキスト >

No textbook is required. Handouts will be issued in class and online

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-6 Entertainment and Arts

Smartphone media and the gaming industry

Weeks 7-11 Politics

Introduction to debate

Weeks 12-15 Technology

Industry applications of technology

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

相島 淑美

< 授業の方法 >

講義およびグループワーク

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことに関わっています。最新のマーケティングに関する資料や文献は英語で書かれたものが多く、今日では日本企業もグローバル市場に向けて英語でコミュニケーションを行うことが前提となっています。そこで重要となる、専門に関する英文を読み、比較し、考えを組み立て、ディスカッションする力をつけることがこの授業の目的です。なお、この科目の担当者は翻訳家（英日）として30点以上の実績を持つほか多数企業のマーケティングコミュニケーションの英語サポートをおこなってきた実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

< 到達目標 >

この授業を終了したとき、学生の皆さんは 1.英語で経営学（マーケティング）に関する事柄を読み、説明することができるようになる。 2.英語で書かれた専門的な文献をすらすら読めるようになる。 3.英語を用いて自分の興味やテーマに合致する情報や文献を収集し、活用することができるようになる。 4.グループワークを通じて、自分の考えを深めていくことができる。

< 授業のキーワード >

ブランディング、マーケティングコミュニケーション、グループプレゼンテーション

< 授業の進め方 >

英文を読み、提示した課題について考えてきていただき

ます。授業は少人数のグループでディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めます。受講生の皆さんの活発な発言に期待しています。なお、英文の内容確認のため随時小テストを実施します

< 履修するにあたって >

単純に英文和訳をするのではなく、英文から何が読み取れるかを考えることに重点を置いた授業です。おもに、ブランディング、マーケティングコミュニケーション関連文献を扱います。基礎知識を得ておくことが望ましいですが、理解に有用な文献等については授業中に随時ご紹介します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。グループプレゼンテーションの準備としては、自分たちで意見を出し合いながら資料を探すことも必要です。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

小テストおよび授業・ディスカッションへの参加・貢献（積極的で周囲により影響力があると認められる発言、質問等）50%、期末試験およびレポート50%

< テキスト >

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事や平易な論文を用います。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業概要の説明。マーケティングコミュニケーションについて説明

第2回 英文1(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文1について内容把握とディスカッション

第3回 英文1(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文1についてさらに深いディスカッション

第4回 英文2(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文2について内容把握とディスカッション

第5回 英文2(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文2についてさらに深いディスカッション

第6回 英文3(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文3について内容把握とディスカッション

第7回 英文3(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文3についてさらに深いディスカッション

第8回 英文4(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文4について内容把握とディスカッション

第9回 英文4(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文4についてさらに深いディスカッション

第10回 英文5(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文5について内容把握とディスカッション

第11回 英文5(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文5についてさらに深いディスカッション

第12回 英文6(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文6について内容把握とディスカッション

第13回 英文6(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文6についてさらに深いディスカッション

第14回 プレゼンテーション

グループごとに課題についてプレゼンテーションを行う

第15回 振り返り

プレゼンテーションに対するフィードバック

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

相島 淑美

< 授業の方法 >

講義およびグループワーク

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」に関わっています。最新のマーケティングに関する資料や文献は英語で書かれたものが多く、今日では日本企業もグローバル市場に向けて英語でコミュニケーションを行うことが前提となっています。そこで重要となる、専門に関する英文を読み、比較し、考えを組み立て、ディスカッションする力をつけることがこの授業の目的です。なお、この科目の担当者は翻訳家(英日)として30点以上の実績を持つほか多数企業のマーケティングコミュニケーションの英語サポートをおこなってきた実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

< 到達目標 >

この授業を終了したとき、学生の皆さんは 1.英語で経営学(マーケティング)に関する事柄を読み、説明することができるようになる。2.英語で書かれた専門的な文献をすらすら読めるようになる。3.英語を用いて自分の興味やテーマに合致する情報や文献を収集し、活

用することができるようになる。4.グループワークを通じて、自分の考えを深めていくことができる。

< 授業のキーワード >

ホスピタリティ、おもてなし、観光

< 授業の進め方 >

英文を読み、提示した課題について考えてきていただきます。授業は少人数のグループでディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めます。受講生の皆さんの活発な発言に期待しています。なお、英文の内容確認のため随時小テストを実施します

< 履修するにあたって >

単純に英文和訳をするのではなく、英文から何が読み取れるかを考えることに重点を置いた授業です。テーマとしては、ホスピタリティ、おもてなし関連の文献を扱います。基礎知識を得ておくことが望ましいですが、理解に有用な文献等については授業中に随時ご紹介します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。グループプレゼンテーションの準備としては、自分たちで意見を出し合いながら資料を探すことも必要です。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト及び授業・ディスカッションへの参加・貢献(積極的で周囲により影響力があると認められる発言、質問等)50%、期末試験およびレポート50%

< テキスト >

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事や平易な論文を用います。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業概要の説明。ホスピタリティとおもてなしの比較、日本的マーケティングについて説明

第2回 英文1(1)

ホスピタリティについての英文1(サービス)について内容把握とディスカッション

第3回 英文1(2)

ホスピタリティについての英文1についてさらに深いディスカッション

第4回 英文2(1)

ホスピタリティについての英文2(ディズニーランド)について内容把握とディスカッション

第5回 英文2(2)

ホスピタリティについての英文2についてさらに深いディスカッション

第6回 英文3(1)

ホスピタリティについての英文3(ディズニーランド続き)について内容把握とディスカッション

第7回 英文3(2)

ホスピタリティについての英文3についてさらに深いディスカッション
第8回 英文4(1)
ホスピタリティについての英文4(観光)について内容把握とディスカッション
第9回 英文4(2)
ホスピタリティについての英文4についてさらに深いディスカッション
第10回 英文5(1)
ホスピタリティについての英文5(観光)について内容把握とディスカッション
第11回 英文5(2)
ホスピタリティについての英文5についてさらに深いディスカッション
第12回 英文6(1)
ホスピタリティについての英文6(今後の展望等)について内容把握とディスカッション
第13回 英文6(2)
ホスピタリティについての英文6についてさらに深いディスカッション
第14回 プレゼンテーション
グループごとに課題についてプレゼンテーションを行う
第15回 振り返り
プレゼンテーションに対するフィードバック

2022年度 後期
2.0単位
外書講読
相島 淑美

< 授業の方法 >

講義およびグループワーク

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」に関わっています。最新のマーケティングに関する資料や文献は英語で書かれたものが多く、今日では日本企業もグローバル市場に向けて英語でコミュニケーションを行うことが前提となっています。そこで重要となる、専門に関する英文を読み、比較し、考えを組み立て、ディスカッションする力をつけることがこの授業の目的です。なお、この科目の担当者は翻訳家(英日)として30点以上の実績を持つほか多数企業のマーケティングコミュニケーションの英語サポートをおこなってきた実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

< 到達目標 >

この授業を終了したとき、学生の皆さんは 1.英語で経営学(マーケティング)に関する事柄を読み、説明することができるようになる。2.英語で書かれた専門的な文献をすらすら読めるようになる。3.英語を用いて自分の興味やテーマに合致する情報や文献を収集し、活用することができるようになる。4.グループワークを通じて、自分の考えを深めていくことができる。

< 授業のキーワード >

ブランディング、マーケティングコミュニケーション、グループプレゼンテーション

< 授業の進め方 >

英文を読み、提示した課題について考えてきていただきます。授業は少人数のグループでディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めます。受講生の皆さんの活発な発言に期待しています。なお、英文の内容確認のため随時小テストを実施します

< 履修するにあたって >

単純に英文和訳をするのではなく、英文から何が読み取れるかを考えることに重点を置いた授業です。おもに、ブランディング、マーケティングコミュニケーション関連文献を扱います。基礎知識を得ておくことが望ましいですが、理解に有用な文献等については授業中に随時ご紹介します。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。グループプレゼンテーションの準備としては、自分たちで意見を出し合いながら資料を探すことも必要です。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

小テストおよび授業・ディスカッションへの参加・貢献(積極的で周囲によい影響力があると認められる発言、質問等)50%、期末試験およびレポート50%

< テキスト >

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事や平易な論文を用います。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業概要の説明。マーケティングコミュニケーションについて説明

第2回 英文1(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文1について内容把握とディスカッション

第3回 英文1(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文1についてさらに深いディスカッション

第4回 英文2(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文2について内容把握とディスカッション

第5回 英文2(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文2についてさらに深いディスカッション

第6回 英文3(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文3について内容把握とディスカッション

第7回 英文3(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文3についてさらに深いディスカッション

第8回 英文4(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文4について内容把握とディスカッション

第9回 英文4(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文4についてさらに深いディスカッション

第10回 英文5(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文5について内容把握とディスカッション

第11回 英文5(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文5についてさらに深いディスカッション

第12回 英文6(1)

マーケティングコミュニケーションについての英文6について内容把握とディスカッション

第13回 英文6(2)

マーケティングコミュニケーションについての英文6についてさらに深いディスカッション

第14回 プレゼンテーション

グループごとに課題についてプレゼンテーションを行う

第15回 振り返り

プレゼンテーションに対するフィードバック

2022年度 後期

2.0単位

外書講読

相島 淑美

< 授業の方法 >

講義およびグループワーク

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」に関わっています。最新のマーケティングに関する資料や文献は英語で書かれたものが多く、今日では日本企業もグローバル市場に向けて英語でコミュニケーションを行うことが前提となっています。そこで重要となる、専門に関する英文を読み、比較し、考えを組み立て、

ディスカッションする力をつけることがこの授業の目的です。なお、この科目の担当者は翻訳家(英日)として30点以上の実績を持つほか多数企業のマーケティングコミュニケーションの英語サポートをおこなってきた実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

<到達目標>

この授業を終了したとき、学生の皆さんは 1.英語で経営学(マーケティング)に関する事柄を読み、説明することができるようになる。2.英語で書かれた専門的な文献をすらすら読めるようになる。3.英語を用いて自分の興味やテーマに合致する情報や文献を収集し、活用することができるようになる。4.グループワークを通じて、自分の考えを深めていくことができる。

<授業のキーワード>

ホスピタリティ、おもてなし、観光

<授業の進め方>

英文を読み、提示した課題について考えてきていただきます。授業は少人数のグループでディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めます。受講生の皆さんの活発な発言に期待しています。なお、英文の内容確認のため随時小テストを実施します

<履修するにあたって>

単純に英文和訳をするのではなく、英文から何が読み取れるかを考えることに重点を置いた授業です。テーマとしては、ホスピタリティ、おもてなし関連の文献を扱います。基礎知識を得ておくことが望ましいですが、理解に有用な文献等については授業中に随時ご紹介します。

<授業時間外に必要な学修>

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。グループプレゼンテーションの準備としては、自分たちで意見を出し合いながら資料を探すことも必要です。

<提出課題など>

必要に応じて指示します。

<成績評価方法・基準>

小テスト及び授業・ディスカッションへの参加・貢献(積極的で周囲によい影響力があると認められる発言、質問等)50%、期末試験およびレポート50%

<テキスト>

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事や平易な論文を用います。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業概要の説明。ホスピタリティとおもてなしの比較、日本的マーケティングについて説明

第2回 英文1(1)

ホスピタリティについての英文1(サービス)について内容把握とディスカッション

第3回 英文1(2)

ホスピタリティについての英文1についてさらに深いディスカッション
 第4回 英文2(1)
 ホスピタリティについての英文2(ディズニーランド)について内容把握とディスカッション
 第5回 英文2(2)
 ホスピタリティについての英文2についてさらに深いディスカッション
 第6回 英文3(1)
 ホスピタリティについての英文3(ディズニーランド続き)について内容把握とディスカッション
 第7回 英文3(2)
 ホスピタリティについての英文3についてさらに深いディスカッション
 第8回 英文4(1)
 ホスピタリティについての英文4(観光)について内容把握とディスカッション
 第9回 英文4(2)
 ホスピタリティについての英文4についてさらに深いディスカッション
 第10回 英文5(1)
 ホスピタリティについての英文5(観光)について内容把握とディスカッション
 第11回 英文5(2)
 ホスピタリティについての英文5についてさらに深いディスカッション
 第12回 英文6(1)
 ホスピタリティについての英文6(今後の展望等)について内容把握とディスカッション
 第13回 英文6(2)
 ホスピタリティについての英文6についてさらに深いディスカッション
 第14回 プレゼンテーション
 グループごとに課題についてプレゼンテーションを行う
 第15回 振り返り
 プレゼンテーションに対するフィードバック

 2022年度 前期

2.0単位

外書講読

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to the field of economics and business through news articles and other media resources. This course will utilize current events to structure class projects for the purpose of deepening content comprehension. Course content will be taught using class discussion, pair work,

and reading comprehension worksheets.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, reading skills, and knowledge of how current events and media affect economics and business.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to interact with business-related media in English

< 授業のキーワード >

Current Events, Media, Reading Comprehension, Analysis

< 授業の進め方 >

This class will use the reading of articles based on current events and media to structure reading comprehension worksheets and vocabulary study designed to strengthen English reading skills.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects, access to a computer and/or smartphone is recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Vocabulary study, reading/reading comprehension worksheets

< 提出課題など >

Online reading comprehension worksheets

< 成績評価方法・基準 >

Class participation 60%, Reading Comprehension Worksheets 20%, Examinations 20%

< テキスト >

No textbook is required. Handouts will be issued in class and online

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-6 Entertainment and Arts

Smartphone media and the gaming industry

Weeks 7-11 Politics

Debating a topic

Weeks 12-15 Technology

The economic application of technology

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

トーバート, A. C.

< 授業の方法 >

This class (講義) will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class will give students a chance to read about well-known Japanese and international business people and companies in English. Students will read, discuss and ask questions of each other.

< 到達目標 >

Students will be able to discuss international and domestic business news.

< 授業のキーワード >

Business, Reading, Companies

< 授業の進め方 >

Beginning with well-known companies, students will learn to read graded articles for comprehension and improve their vocabulary.

< 履修するにあたって >

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.

< 成績評価方法・基準 >

Homework, reports and participation 70%, quizzes, exams and presentations 30%.

< テキスト >

"Meet Business Greats and Learn about Economics" (2019) Paul D. Tanner and Manabu Miyata, Houbunshorin, ISBN 978-4-89347-354-7

< 授業計画 >

第1-2回 Cancelled Introduction

Reading strategies and suggestions.

第3回 Early Japanese Companies

Learning about some of the first major capitalists in Japan.

第4-5回 American-style Business

How American companies and strategies were introduced to Japan.

第5-6回 Review and Presentations

A short exam related to what has been learned, feedback, and student presentations.

第7-8回 Modern Business Focus

A look at important industries in Japan.

第9-10回 Industrial Visionaries

A look at important changes in Japanese industry.

第11-12回 21st Century Entrepreneurs

How Japanese companies are aiming for space.

第13-14回 Amazon

How the American company changed Japan.

第15回 Review and exam

Exam, feedback and a review of what was covered in the course.

2022年度 前期

2.0単位

外書講読

山本 誠子

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、専門語学のうち「企業の知られざる成功の軌跡と、多様な商品開発のプロセス」をテーマとした英文読むことを目的にしています。

この授業では、西日本の「ものづくり」企業の歴史や商品開発についての英文を通じて、日本が誇る「ものづくり」の伝統と技術力への理解を深めていきます。

教材の内容を理解するだけでなく、企業のホームページなどで事実を調べ、各企業のポイントをまとめます。

この科目は、経営学部ディプロマポリシー第4項「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」に関わっています。

< 到達目標 >

英文を読んで、内容を理解し要約することができる。テキストの内容を踏まえつつ、各自が選んだ企業に関してプレゼンテーションをすることができる。

< 授業のキーワード >

要約、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

テキストの基本的な内容理解は、テキストの設問に答える形で進めます。テキストの内容把握が終了したら、グループごとに企業を選び、プレゼンテーションを行います。原稿作成後は話し方についても練習し本番に備えます。プレゼンテーションはピアレビューを行い、その結果を評価の一部にします。

< 履修するにあたって >

原則として、30分以上の遅刻は欠席と見なします。5回を超える欠席は認めません。

Unit毎にグループのメンバーを変えますので、知らなかった人とも協調して作業を進めていく必要があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

Compositionパートの完成、およびプレゼン原稿作成・練習に合計10時間程度を見込んでいます。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

内容把握35%、グループワーク20%、プレゼンテーション30%、期末レポート15%

< テキスト >

Outstanding Monozukuri Companies in Japan 吉野成美他著 松伯社 2,000円(税別) およびプリント

教材

<参考図書>

企業・大学はグローバル人材をどう育てるか 本名信行
他著 アスク

<授業計画>

第1回 ガイダンス

・授業の進め方と受講の留意点についての説明
・プレゼンテーションの基礎について

第2回 Chapter 1

マツダ

第3回 Chapter 2

ハウス食品

第4回 Chapter 3

TOTO

第5回 Chapter 4

シマノ

第6回 Chapter 6

UCC 上島珈琲

第7回 Chapter 7

ダイフク

第8回 Chapter 8

サクラクレパス

第9回 Chapter 9

ヤンマー

第10回 Chapter 11

オタフクソース

第11回 プレゼン準備1

プレゼン原稿作成

第12回 プレゼン準備1

プレゼン原稿作成

第13回 プレゼン準備2

プレゼン原稿完成および発表練習（発音練習を含む）

第14回 プレゼン実施

プレゼン実施

第15回 プレゼン実施と振り返り

プレゼン結果発表と全体の振り返り 期末レポートの
説明

2022年度 前期

2.0単位

管理会計論 【19-】 / 管理会計 【-18】

吉田 康久

<授業の方法>

対面式授業を実施します。

<授業の目的>

(主題)

管理会計は、計算技術的側面と管理工学的側面の両方を併せ持ち、管理会計における3つの基軸用語は、原価・責任・利益である。管理会計は、これら3つの用語の

関連性を、社会科学として捉えようとするものである。管理会計は、財務会計と異なり制度会計とはなっていないため、その解釈や適用は、組織の自由意思に委ねられている。よって、管理会計が対象とする目的適合性の範囲も広く多様である。本講義では、管理会計が対象とする一般的な範囲について概説し、その目的適合性を修学する。講義形式は、資料等を活用した論理の解説が定型となる。

(目標)

管理会計による一般的な目的適合性における意思決定は、主観ではなく客観的でなければならず、採択される意思決定の概説を、論理的に展開できる説話能力を身に付けることである。

<到達目標>

管理会計での到達目標は、まず第1に、管理会計として学習すべき基礎的な範囲を認識し、それぞれの領域での概念や考え方を習得するなかで、問題解決に向けた個人的意見を持てるようになること。第2には、計算技法を理解し、異なる課題にも対応できる計算能力を会得すること。第3に、計算による結果を解釈し、説明できるまでの知識を身に付けること。以上の3つが、到達目標となる。

<授業のキーワード>

原価管理・意思決定・会計情報

<授業の進め方>

講義の前半から中盤では、資料を用いたり板書などにより、単元の内容を理解し、その後、数値を用いて計算問題の解法を説明する。講義の終盤では、計算問題の課題を与え、自分で問題を解くことを実施する。管理会計では、計算問題を随所で扱う。

<履修するにあたって>

ノートの携帯が必須。

<授業時間外に必要な学修>

基礎的な、原価会計 および の知識を必要とするので、復習すること。

<提出課題など>

必要がある場合には、課すことがある。

<成績評価方法・基準>

適時の課題や定期試験等の評価による。

<テキスト>

吉田康久『管理会計基礎論』中央経済社、2016年。

<参考図書>

指定しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーリング

講義（管理会計の思考）の進め方および内容について概説する。

第2回 管理概念の蓋然性

管理会計の体系について説明する。

第3回 目的適合性の識別

管理会計が、どのように役立つかを説明する。

第4回 原価概念の類別

原価における諸概念について説明する。

第5回 責任会計

管理会計における責任会計の帰属について説明する。

第6回 業績評価会計

業績評価の方法論について説明する。

第7回 利益管理会計（論理）

利益管理会計の理念と論理について説明する。

第8回 利益管理会計（計算）

利益管理の手法と技法について説明する。

第9回 利益管理会計（技法）

利益管理が、経営意思決定にどのように寄与するかを説明する。

第10回 投資意思決定会計（論理）

投資を決定するために考慮すべき要因について説明する。

第11回 投資意思決定会計（計算）

投資意思決定における計算法について説明する。

第12回 投資意思決定会計（技法）

投資意思決定と管理会計の有機性について説明する。

第13回 価格決定（論理）

価格決定の管理会計への利用法について説明する。

第14回 価格決定（計算）

価格決定と管理会計の連関性について説明する。

第15回 総括

講義内容の再確認と理解度チェックを行う。

2022年度 後期

2.0単位

管理会計論 【19-】 / 管理会計 【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式授業を実施する予定です。

< 授業の目的 >

（主題）

組織の維持・発展は、貨幣による価値評価をもとに展開される。よって、組織の管理概念として管理会計は欠かせない。管理会計の熟知は、組織の指導者として具備すべき方法論に他ならない。管理会計は、目的適合性において、多様な管理観を提供する。本講義では、個別の目的適合性におけるドメスティックな管理観を修学する。講義形式は、資料等を活用した論理の解説が定型となる。

（目標）

管理会計におけるドメスティックな目的適合性における管理観は、独自の管理技法を構築し、その認識には柔軟性が要求されるため、多面的に事象を分析できる解釈能力を身に付けることである。

< 到達目標 >

管理会計 での到達目標は、企業における管理会計の位

置付けを理解し、多様な管理技法を認識するなかで、個人的見解を提示できる能力を身に付けることである。管理技法は、企業の業務形態や組織構造によって、異なる様相を見せるため、唯物論ではない。異なる管理局面には、異なる技法が用いられる。修学する内容は、現存する技法であり、新規的な技法を排他しない。講義のなかで、独自の解釈を有し、提示できることが最大の到達目標である。

< 授業のキーワード >

コストオブジェクト・ビヘイバルコスト・テクニカルマネジメント

< 授業の進め方 >

講義の前半から中盤は、資料や板書によって概論の解説を行う。終盤では、修学内容を確認するために、問題解答を行う。管理工学的な単元が中心であり、理論の理解が求められる。語句の用法や概念の認識が不可欠になる。

< 履修するにあたって >

ノートの携帯が必須。

< 授業時間外に必要な学修 >

1つの単元ごとに、書籍が存在するため、時間をかけて熟読すること。

< 提出課題など >

適時に課題を課す。

< 成績評価方法・基準 >

適時の課題や定期試験等の評価による。

< テキスト >

吉田康久『管理会計基礎論』中央経済社、2016年。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義（管理会計の志向）の進め方および内容について概説する。

第2回 損益分岐点分析

原価・営業量・利益の関係性について説明する。

第3回 損益分岐点分析

利益図表を基軸とした原価計算および原価管理について説明する。

第4回 固定費と損益の関係

固定費の配賦が利益に与える影響を概説する。

第5回 アイドルキャパシティーコスト

活動能力の消費と未消費に関する概念を説明する。

第6回 経営意思決定（期待効用）

経営意思決定における期待と効用について説明する。

第7回 経営意思決定会計（計算）

経営意思決定のプロダクトミックスについて概説する。

第8回 経営意思決定（特殊原価）

経営意思決定における埋没原価等の特殊原価を説明する。

第9回 活動原価会計

活動原価から製品原価を計算する方法を説明する。

第10回 予算管理

予算の編成・統制について説明する。

第11回 キャッシュフロー

利益調整によるキャッシュフローを説明する。

第12回 資金管理

キャッシュサイクルの求め方を説明する。

第13回 管理工学（製品関係）

ライフサイクルコストや品質原価を概観する。

第14回 課題（A）

（課題）講義内容の再確認と理解度チェックを行う。

第15回 課題（B）

（課題）講義内容の再確認と理解度チェックを行う。

2022年度 前期

2.0単位

企業金融論

石賀 和義

2022年度 後期

2.0単位

企業金融論

石賀 和義

2022年度 前期

2.0単位

企業論

小澤 優子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 >

この科目は、学部のDPにある経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指すものである。専門教育科目に属し、経営学の基本的な知識を必要とする。

現代の私たちの生活にとって「企業」は欠かせないものとなっており、われわれがそれらについて理解することは不可欠である。本講義においては、企業がなぜ存在するのか、また、企業を取り巻くさまざまな問題について学習していく。そのために、まず、新制度派経済学の研究をもとに、市場と企業について実践的な側面を取り上げながらさまざまな考察が行われる。また、近年問題になっている企業の社会的責任論についても触れておく。これらを通じて、理論と実践という二つの側面から経営学の対象である企業に関する知識を深めていく。

< 目的 >

・ 周りにあるさまざまな企業形態について理解すること

ができる。

・ 企業において起こりうるさまざまな問題について考えることができる。

・ 近年、話題になっている問題について関心をもち、適切なコメントができるようになる。

< 到達目標 >

・ 身近な企業の形態やそれらの特徴について説明することができる。

・ 企業で起こりうる問題について興味を持ち、その原因や対応策などを検討することができる。

・ 新聞などで取り上げられる問題について、その意味や原因を理解し、企業がどのようにその問題に対処していくべきかを示すことができる。

< 授業のキーワード >

企業形態、株式会社、新制度派経済学、エージェンシー理論、取引コスト理論、CSR

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。

< 履修するにあたって >

経営学の基礎的な知識を習得していることが望ましい。

これ以外については、第1回目の講義で指示する。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の際のノートの整理や内容の確認などを、毎回2時間程度、事後学習として行うこと。このことが、次の講義の事前学習となります。また、第1回目の講義で参考文献も提示するので、それも併せて読むとより理解が進みやすくなります。

< 提出課題など >

授業中に数回、授業に関連した問題の解答やそれに対する意見などを記入した出席カードの提出を求める。これに関しては、次の授業の際にいくつかの回答をサンプルとして挙げ、正解やポイントなどの解説を行う。また、中間試験を一度実施するが、これに関しても出席カードと同様のフィードバックを行う。期末に定期試験を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験（60%）と授業中の課題（もしくは中間試験）（40%）によって総合的に判断する。なお、両者の比率は変更することがある。その他、数回予定している授業時の出席カードを内容（講義内容に関する問に対する答えなどを書いてもらう）によって加味する。

< テキスト >

特定のものは使用しない。参考文献を適宜あげるため、それらを参考にすること。

< 参考図書 >

丹沢安治 他訳(2007)『組織の経済学入門』（第3版）文眞堂。

吉田和夫・大橋昭一監修(2015)『基本経営学用語辞典』同文館出版。

他の文献に関しては、第1回目の講義で指示する。

< 授業計画 >

第1回 講義のガイダンスー 講義の進め方、内容など

- ・企業論という学問領域の説明を行う。
- ・講義のためのテキストや参考文献を提示する。
- ・講義を受けるにあたって、講義の進め方や注意事項を説明する。

第2・3回 企業の生成と発展、企業形態の分類

企業がいかにして生成し、また、発展してきたのかを明らかにする。また、さまざまな企業形態の分類や展開について理解していく。

第4・5回 新制度派経済学の展開

近年、新制度派経済学が企業に関する理論として非常に重要視されている。本講義では、講義全体の土台づくりとして、新古典派経済学から新制度派経済学への発展を学習していく。また、新制度派経済学の中心となる3つの見解（所有権理論、エージェンシー理論、取引コスト理論）について理解する。

第6・7回 エージェンシー理論

新制度派経済学として重要なエージェンシー理論についての説明を行う。ここにおいては、企業は複数のエージェンシー関係から構成される契約の束とみなされる。

第8・9・10回 取引コスト（取引費用）理論

新制度派経済学の2つ目のテーマとして、取引コスト理論を取り上げる。取引コストという観点から、企業が存在する意味を理解していく。

第11・12回 CSRの意味と問題領域

企業活動の中で、近年、重要視されているCSR（企業の社会的責任）について学習していく。ここでは、その意味や問題領域を理解するとともに、そのような議論がなされるにいたった背景についても考えていく。

第13・14回 CSRに対する企業の取組

CSRに対する実際の取り組みを、日本企業の事例をもとに考察していく。

第15回 講義のまとめ 企業はどのようにあるべきか
講義全体のまとめとして、企業のあるべき姿について、今後の展望も含めて考えていく。

2022年度 後期

2.0単位

企業論

小澤 優子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 >

この科目は、学部のDPにある経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指すもの

である。専門教育科目に属し、経営学に関する基本的な知識を必要とする。

近年、世界各国で、コーポレート・ガバナンス（企業統治）に関する議論が盛んにおこなわれている。日本においても、企業の経営者による不祥事が多発し、彼らをチェックするためのガバナンス体制をいかに構築するのかということが大きな問題となっている。本講義においては、まず、コーポレート・ガバナンスの意味やそのような議論が出てきた背景について学習する。そののちに、近年の日本におけるその議論の中身を理論と実践の両側面から考察していく。

< 目的 >

- ・株式会社の仕組みについて理解することができる。
- ・コーポレート・ガバナンスの問題について考えることができる。
- ・企業における経営者が、如何に企業経営を行っていくべきかということに関心を持つことができる。

< 到達目標 >

- ・株式会社の特徴やコーポレート・ガバナンスの意味、問題領域について説明できる。
- ・身の回りにある企業の経営のあり方や法律に関心をもつようになる。
- ・効率の良い企業経営を行っていくための適切な制度を提示することができる。

< 授業のキーワード >

株式会社、会社法、コーポレート・ガバナンス、監査役設置会社、社外取締役

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。

< 履修するにあたって >

経営学の基礎的な知識を習得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の際のノートの整理やその内容確認を、毎回2時間程度、事後学習として行うこと。このことが、次の講義の事前学習となります。また、第1回目の講義で参考文献も提示するので、それも併せて読むとより理解が進みやすくなります。

< 提出課題など >

授業中に数回、講義内容に関連した問題の解答やそれに対する意見などを記入した出席カードの提出を求める。これに関しては、次の講義の際にいくつかの回答をサンプルとして挙げ、正解やポイントなどの解説を行う。また、中間試験を一度、実施予定であるが、これに関しても出席カードと同様のフィードバックを行う。期末には、定期試験を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験（60%）と授業中の課題（レポートもしくは中間試験）（40%）によって総合的に判断する。なお、両者の比率は変更することがある。その他、数回提出してもらう予定の授業時の出席カードを内容（授業で学習し

た内容に関する問に答えてもらう)によって加味する。

<テキスト>

特定のものを使用しない。

<参考図書>

土屋守章・岡本久吉(2003)『コーポレート・ガバナンス論』有斐閣。

吉田和夫・大橋昭一監修(2015)『基本経営学用語辞典』同文館出版。

他の文献に関しては、第1回目の講義で指示する。

<授業計画>

第1回 講義のガイダンス- 講義の進め方、内容など

- ・企業論という学問領域の説明を行う。
- ・講義のための参考文献を提示する。
- ・講義を受けるにあたって、講義の進め方や注意事項を説明する。

第2回 企業形態の発展

一言で企業と言っても、さまざまな形態の企業が存在する。本講義で議論の中心となる株式会社について理解を進めるために、まずは、いくつかの企業形態について学習していく。

第3・4回 株式会社の特徴

本講義で議論の中心となる株式会社の特徴や、そのトップ・マネジメント組織の構造について学習する。

第5回 所有と経営の分離とステイクホルダー

株式会社を考える上で重要な概念について理解していく。

第6・7回 コーポレート・ガバナンスの意味と背景

コーポレート・ガバナンス(企業統治)の意味や問題領域、さらには、そのような議論が出てきた社会的、経済的背景について理解していく。

第8・9回 トップ・マネジメント組織の構造(日、米、独)

ガバナンスの議論で問題となる株式会社のトップ・マネジメント組織について、日本、アメリカ、ドイツのものを比較しながら学習していく。

第10回 株式の所有構造

ガバナンスの議論で重要となる株主は、国ごとに異なっている。本講義ではそれらの違いを学習していく。

第11・12回 トップ・マネジメント組織の問題点と対応策

現在、日本の株式会社におけるトップ・マネジメント組織でどのようなことが問題となっているのかを考察していく。株主総会、取締役会、監査役会それぞれに注目する。

第13・14回 事例研究

近年、ガバナンス改革を進めている日本企業の取り組みをもとに、実践的な側面についての理解を深めていく。

第15回 講義のまとめ- 会社はだれのものか

講義全体のまとめとして、企業経営がいかに適切になされるべきかを考える。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

赤坂 義浩

<授業の方法>

dotcampusを使用したオンディマンド形式で行います。ご質問や連絡事項がある人は、皆さんにお知らせしている赤坂研究室PCのメールアドレス宛に連絡して下さい。

<授業の目的>

本講義は、2年次配当選択必修科目コア科目に位置づけられる。次年度以降に経営学部の専門科目を学修するために必要な準備を行ない、経営学部DPの「1.現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ことが、本講義の目的である。3年次開講の演習・への橋渡しをするため、専門科目の学修に必要な予備知識の習得を目指す。

<到達目標>

本講義を履修することにより、受講者は2年次以降の経営学部各専門科目の履修に必要な予備的な知識が身につく、歴史的な視点で経営諸制度を理解したり、経営者、企業家が果たす役割について理解することが出来るようになることが目標である。

<授業のキーワード>

企業家、企業者史学、経営者

<授業の進め方>

毎週、テキストのシラバスにあげている箇所を読んでもらう。その上で、dotcampusで課題を出すので、それを決められた期日までに提出してもらう。ご質問は、皆さんにお知らせしている赤坂の研究室PCのメールアドレス宛にお願いします。また、オンディマンド形式の開講ですから、特別警報・暴風警報発令時、および公共交通機関運休時も、予定通り開講します。

<履修するにあたって>

テキストを必ず準備して下さい。課題の提出期限は必ず守って下さい。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの指定箇所について、必ず読んでおく必要がある。また、時代背景、不明な用語や制度、ランドマーク商品などについて、詳しく調べて理解を深めておく必要がある。その上で、課題の作成、前期末のレポート作成を行う必要がある。

<提出課題など>

毎回テキストを講読して、内容に関する課題を提出し、前期末には企業家と企業者活動に関するレポートを作成して、提出する必要がある。

<成績評価方法・基準>

提出課題とレポート課題によって総合的に成績評価を行

う。

<テキスト>

宮本二郎編著『日本をつくった企業家』（新書館）

<授業計画>

第1回 ガイダンス・準備

ゼミを開講するにあたって、開講方法、成績評価方法などについて説明し、グループ分けなどの準備を行う。

第2回 世界初の養殖真珠の事業化に成功した企業家

世界で初めて養殖真珠の事業化に成功した企業家、御木本幸吉の企業家活動について学ぶ。

第3回 デパートの経営者

日本で初めて呉服店を百貨店（デパート）に改組した企業家、日比翁助の企業家活動について学ぶ。

第4回 鉄道業の企業家 1

経営不振に陥った企業の再建に長けた企業家の代表例として、東武鉄道グループの総帥根津嘉一郎の企業家活動について学ぶ。

第5回 製菓業の企業家 1

西洋菓子メーカーのパイオニア、森永製菓の創業者である森永太郎の企業家活動について学ぶ。

第6回 鉄道業の企業家 2

ターミナルデパートやレジャー、ホテル、文化産業など、多角経営を行う私鉄企業のパイオニア、阪急電鉄の創業者である小林一三の企業家活動について学ぶ。

第7回 総合電機メーカーの企業家 1

外国企業との提携をせず、国産電気機械製造技術の確立に尽力した、日立製作所創業者小平浪平の企業家活動について学ぶ。

第8回 製菓業の企業家 2

栄養菓子「グリコ」の開発で成功し、その後次々とヒット商品を出して、1代で大手菓子メーカー江崎グリコを育て上げた、江崎利一の企業家活動について学ぶ。

第9回 総合電機メーカーの企業家 2

電力業の発展を見越して、家庭用電気機器の製造から出発し、総合電機メーカー松下電器製作所（現、Panasonic）を1代で育て上げた「経営の神様」松下幸之助の企業家活動について学ぶ。

第10回 国産自動車メーカーの企業家 1

今や世界トップクラスの自動車メーカーとなった本田技研の創業者である本田宗一郎の企業家活動について学ぶ。

第11回 総合電機メーカーの企業家 3

「自由闊達」なる企業東京通信工業を創業し、次々と斬新な商品を開発してヒットさせた電機メーカー大手ソニーの創業者、井深大の企業家活動について学ぶ。

第12回 国産自動車メーカーの企業家 2

日本にも自動車時代が到来することを見通して、国産乗用車の製造に力を尽くしたトヨタ自動車の創業者、豊田喜一郎の企業家活動について学ぶ。

第13回 総合電機メーカーの企業家 4

井深大とともに、世界のSONYを創り上げたもう1人の創

業者、盛田昭夫の企業家活動について学ぶ。

第14回 西洋薬・化粧品メーカーの企業家

日本における西洋薬および西洋薬学に基づいた化粧品の開発・普及につとめた資生堂の創業者福原有信の企業家活動について学ぶ。

第15回 ゴム・タイヤメーカーの企業家

足袋製造から出発し、日本における自動車産業の発展を見越して自動車用タイヤの開発、普及につとめたブリジストンの創業者石橋正二郎の企業家活動について学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

伊藤 健

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

自身の考えや物事の正当性を正しく伝えることの難しさや重要性を知り、より良い意思疎通の方法について考える。

<到達目標>

聞き手にストレスを与えないプレゼンテーションができる。

<授業の進め方>

担当教員が説明を行うこともあるが、基本的には履修者の発表をもとにディスカッションを行う形式をとる。

<履修するにあたって>

演習のため、欠席・遅刻は大きな減点となります。特に、自身が発表を行う回で正当な理由無く欠席した場合は成績評価を行いません。ファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

発表者は資料の準備等が必要であるが、その他の履修者も、毎回のテーマに応じて事前に情報収集をする必要がある。

<提出課題など>

発表・報告等のための課題（準備）がある

<成績評価方法・基準>

ゼミへの参加姿勢（出席状況、発言等の積極性）（50%）、発表・報告および課題への取り組み状況（50%）による総合評価

<テキスト>

指定しない

<参考図書>

必要に応じて指示、または配布

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本演習の進め方など注意事項を説明する。

第2?5回 文章で伝える

自身の考えや、物事の概要・経緯などを文章で伝える課題に取り組む。

第6回 口頭で伝える1

物事の概要を口頭で伝える課題に取り組む。

第7回 ツールの利用

プレゼンテーションソフトの基本操作に取り組む。

第8?10回 口頭で伝える2

プレゼンテーションソフトを利用して自身の考えや、物事の概要・経緯などを伝える課題に取り組む。

第11?14回 話す、聞く、反論する

グループに分かれて、主義主張や物事の正当性について討論する。

第15回 予備日

進捗状況により各回の内容は多少変化するため、それに応じて当該講義内容を決定する。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

江頭 寛昭

----- < 授業の方法 >

リアルタイム授業(ZOOM)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す現代の企業経営に関する基本的知識を学習するとともに、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得することを目指す。選択必修科目の内のコア科目に属し、演習科目の導入科目として位置づけられる。

自動車や家電製品をはじめ、私たちの生活のあらゆる場面で、製品・部品の生産やサービスの提供、商品の販売を通じて、さまざまな企業は関わりを持って重要な役割を果たしています。ゼミでは、多様な企業活動の特色について、自ら資料を収集、検討し、まとめ、報告する力を養うことを目的とする。

なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究者として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な知識をもとに助言、指導を行う。

< 到達目標 >

3年生で履修する演習 A、Bにおける学習で必要となる産業・企業活動に関する基本的知識と技能を習得し報告・発表で必要となる資料を収集・整理、検討することができ、報告・発表資料の作成、発表に関する技能を習得することができる。

< 授業のキーワード >

企業活動、取引関係、経営戦略、経営理念、比較分析

< 授業の進め方 >

それぞれテーマを決め、リサーチし、順番にレポートをまとめて発表し、参加者全員で議論していただきます。

< 履修するにあたって >

受け身にならずに、積極的に発言し議論に参加する姿勢を重視します。

他のメンバーの報告、発言を聞き取る姿勢、自らの意見を発する姿勢を特に重視します。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎日15分は企業活動に関する新聞記事に目を通すように心がけるとともに、リサーチテーマを決めてからは新聞テレビばかりでなく、活字資料(図書、業界誌)を通じてできるだけ最新の業界動向、企業動向に注意しながら情報を取得するよう心がけてください。

< 提出課題など >

参加者一人ずつテーマを選定し、リサーチを行い報告していただきます。各回とも報告内容をもとにディスカッションを行ないます。ゼミ参加者は必ず質問、意見など、ディスカッションに参加することを求めます。

< 成績評価方法・基準 >

遅刻が多い場合や、欠席回数が3分の1を超える場合は評価対象になりません。報告・発表内容、受講態度、ゼミへの参加姿勢、ディスカッションでの発言等を総合的に判断して評価します。

< テキスト >

未定

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

前期15回の授業で行う活動の概要について説明します。

第2~4回 リサーチ・準備前半

産業活動・業界の特徴・企業の経営特質などからテーマを決め、リサーチの準備を行っていただきます。

第5~7回 レポート前半

リサーチの結果をまとめて、順番に報告していただきます。

第8~11回 リサーチ後半

前半の議論をもとに個人別にテーマを再設定しリサーチし、発表の準備をしていただきます。

第12~15回 レポート後半

再びリサーチの結果をまとめて発表していただきます。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

大角 盛広

----- < 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

個人的にも業務上でも利用価値の高いExcelについて、

より深く理解し活用できるようになることを目標とする。よく知られている表計算機能だけでなく、簡単なシステム開発につながるような使い方について学ぶ。

また、AI、仮想通貨、IoT、RPA(ロボットによる事務の自動化)、セキュリティなど社会的な影響が大きいIT関連分野についてリサーチと発表を行うことで、リサーチの方法や効果的な発表の方法について学ぶ。

この授業は、情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPIに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からシステム開発について解説する。

<到達目標>

Excelの関数を使い役に立つシステムを作ることができる。

プレゼンテーションのための効果的な資料作成や発表ができるようになる。

<授業の進め方>

コンピュータを使った実習形式である。

<履修するにあたって>

柔軟な発想が求められる。人まねは評価しない。

<授業時間外に必要な学修>

授業で示した例を毎回少し改造して関数の応用力の養成に努めるところ。また、どのような情報をどのように処理すると有用か、どの程度の難易度・コストがかかりそうか、日頃からシステム構築の観点から情報というものの扱いについて考えること。

<提出課題など>

作成したシステムを提出してもらう。

<成績評価方法・基準>

前半の実習への取り組みとシステム作成(提出)50%、後半のリサーチと発表50%の割合で評価する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方、評価方法等について説明を受ける。担当教員および受講生の自己紹介を行う。

第2回 Excelの関数1

VLOOKUP関数の基礎を学ぶ

第3回 Excelの関数2

VLOOKUP関数による場合分け・仕分け等について実例で学ぶ

第4回 Excelの関数3

VLOOKUP関数のさまざまな応? について学ぶ

第5回 Excelの関数4

INDEX、MATCH、HYPERLINK関数を学ぶ

第6回 Excelのマクロ

マクロを使った処理の自動化について学ぶ

第7回 課題作成1

今までの知識を応用して課題を作成する

第8回 課題作成2

今までの知識を応用して課題を作成する

第9回 リサーチ準備

IT関連で興味を持ったテーマを持ち寄り、同じカテゴリーのテーマごとに4グループに分かれ、さらにグループ内で分担等を決めてリサーチを行っていく

第10回 リサーチ1

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第11回 リサーチ2

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第12回 リサーチ3

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど、および教員への中間報告

第13回 リサーチ4

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第14回 リサーチ5

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第15回 発表

リサーチ内容を全員に報告・発表する

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

小川 賢

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

たくさんの企業の中でも、最終消費財を製造するメーカー以外はなかなか意識する機会が少ないと思います。ユニクロは知っていても、エアリズムやヒートテックの繊維を作っている企業はどこでしょう。(東レ)

素材産業や中間製品を製造している日本のメーカーには世界トップクラスの実力の企業もあります。

この講義では、化学や繊維、工作機械や運輸・物流等日本のモノづくりを支えている業界・企業に注目し、リサーチ、報告を通して業界や企業に関する基本的知識を学修し、日本経済を様々な視点から考察するために有用な知識を総合的に学修する。

<到達目標>

様々な業界についてその特徴や企業の経済活動を説明できる。

テーマについて設定時間に応じた分量のレジュメをまとめることができる。

テーマについてレジュメを使って報告し他の受講生に理解させることができる。

<授業の進め方>

少人数のグループワークで、与えられたテーマについて調べ、レジュメにまとめて報告する。

<履修するにあたって>

積極的に参加し、発言すること。無断欠席をしないこと。

<授業時間外に必要な学修>

事前に資料に目を通して、説明資料を作成する。質問を考えておく。

1回の講義は1時間程度の準備が目安である。

<成績評価方法・基準>

発表・報告内容：60%、受講態度や他の報告に対するコメント：40%で評価する。

<授業計画>

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の進め方

第2回 グループワーク1・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、

報告するための資料をグループワークで作成する。

第3回 グループワーク1・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第4回 グループワーク2・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、

報告するための資料をグループワークで作成する。

第5回 グループワーク2・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第6回 グループワーク3・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、

報告するための資料をグループワークで作成する。

第7回 グループワーク3・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第8回 グループワーク4・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、

報告するための資料をグループワークで作成する。

第9回 グループワーク4・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第10回 グループワーク5・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調

べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第11回 グループワーク5・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第12回 グループワーク6・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第13回 グループワーク6・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第14回 グループワーク7・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事、インターネットでの情報を調べる。関連書籍を読む。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第15回 グループワーク7・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

小澤 優子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

<主題>

この科目は、学部DPにある現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指すものである。3年次より始まる演習への導入科目として位置づけられる。

「組織の時代」といわれる現代において、われわれが企業やその経営・管理について理解することは不可欠である。本基礎演習では、そのような企業経営の全体像について理解していく。基礎的な文献を用いて経営学の理論を学習することとあわせて、私たちの周りにある企業のケースをもとに、実際の企業経営についても検討していく。講義はグループ発表の形式で進めていき、その過程で、経営学の知識を得ることとレジュメの作成方法や報告の仕方を学習していく。

<目的>

・経営学に関する基礎的な知識を修得し、企業経営の全体像を理解することができる。

・グループワークに慣れる。

・報告のための資料作成の方法や、発表の仕方を学ぶ。

<到達目標>

・経営学の全体像を説明することができる。

・経営学と実際の企業経営との関連付けをし、それに関して意見を述べるができる。

・図書館や企業のホームページにおいて、資料収集や情報探索をすることができるようになる。

<授業のキーワード>

経営学、企業、株式会社、管理

<授業の進め方>

少人数のグループワークが中心となります。

<履修するにあたって>

積極的に授業に参加することを望みます。そのために、授業中に少なくとも1回は発言を求めます。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間内に報告準備の時間をあまり取れないため、授業時間外にグループで集まって報告の準備をする必要があります。また、報告の際には、その内容の確認を事後的に2時間程度行うことが不可欠です。

<提出課題など>

報告の後に毎回簡単なレポートの提出を求めます。これに関しては、次の演習の際にいくつかの回答をサンプルとしてあげ、理解を深めるようにします。

<成績評価方法・基準>

3分の2以上の出席が必要となる。そのうえで、発表や質疑応答への参加状況(50%)、授業中の課題提出(20%)、レポート(30%)で総合的に判断する。

<テキスト>

特定のものを使用しない。

<参考図書>

吉田和夫・大橋昭一『基本経営学用語辞典』同文館出版、2015年。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

基礎演習の進め方などについて説明する。

第2回 演習のための土台作り

本基礎演習はグループワークを中心に運営していくため、企業の研修などで用いられる教材を利用し、ゼミ生同士で効果的にコミュニケーションを取ってもらう。

第3回 日経テレコンなどの利用方法の理解

情報処理実習室で、図書館のOPACや日経テレコンの使い方などを学習する。

第4～8回 「経営学」に関する報告と反省会

「経営学」とはどのような学問であるのかを学生自身に考えてもらうために、「経営学」に関連したテーマを各グループで自由に設定してもらい、その準備と報告を行う。報告後の第8回目において報告の反省会を行い、よ

り良い報告のための方法を考える。

第9?14回 文献の輪読

経営学に関する基本的な文献に沿ってグループごとに発表をしていく。発表グループが文献の内容とそれに関連した簡単な事例を報告し、全体で質疑応答を行うことによって、専門的な学習のための土台作りを行う。

第15回 基礎演習 のまとめ

基礎演習 全体の振り返りを行う。また、この際に、これまで提出したレポートなどを返却する。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

河瀬 豊

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

経営学を学ぶには、会計とファイナンスの基本的な知識は必須である。この演習では、これらの初歩的な知識をまとめて学習する(これは1.が選択された場合を指している。他の分野が選択されれば場合は応用的な内容を含む)。前期に演習履修希望者向けの説明会を開催し、そこで受講予定者の希望を聞いて、具体的な内容を決定する。演習内容は次の項目から1つを選んでもらう予定である。1.会計とファイナンスの初歩を学び、実際の財務データを利用して、財務諸表分析を行う。2.税の基礎を学ぶ。3.論文の読み方や大学でのレポートの書き方を学ぶ。4.はずれ馬券裁判事件とパリティミューチュアル式の賭けに対する効率的投資法について学ぶ。5.その他、受講予定者が希望する内容を学ぶ。以下の項目は、「1.会計とファイナンスの初歩を学ぶ」を選んだ場合の例を示す。他の内容が選ばれた場合は、内容も異なったものになる。

また、この科目の担当者は税理士業務を10年以上経験した実務経験のある教員でもある。したがって、必要に応じて、会計実務について言及しながら、受講生の理解を深める演習にすることを目指す。

本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシーに示す「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」こと及び「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する」ことを目指す。

<到達目標>

・会計とファイナンスの初歩的な知識を得る。

・財務諸表を読んで会社がどのような状況なのかを把握することができる。

・教科書どおりの企業価値評価ができるようになる。

<授業の進め方>

教科書や配付資料を報告担当者を決めて輪読する。

<履修するにあたって>

簿記3級程度の知識は前提とするので、簿記 ・ を履修するか、各自で簿記を勉強してから授業に参加すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

演習形式なので、資料の読み込みや報告準備に相当の学習時間が必要である。

< 提出課題など >

必要に応じてレポート等を課す。

発表レジュメについては、発表後にコメントする。レポートについては、個別に口頭または文書でコメントする。最終レポートについては、評価の判断に使用のみであるが、希望者にはオフィスアワーなどを利用してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の報告及びレポートを中心に総合的に評価する。なお、ゼミに出席することは当然なので、出席点はなく、欠席は相当の減点対象となる。

< テキスト >

演習内容確定後に教科書を決定する。

< 参考図書 >

【指定図書】

保田隆明・田中慎一（2013）『あわせて学ぶ 会計&ファイナンス入門講座』ダイヤモンド社。

【参考図書】

桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社（最新のもの）。
リチャード・A・ブリーリー他（2014）『コーポレートファイナンス第10版上』日経BP社。

< 授業計画 >

第1回? 第3回 学習の準備

情報収集の仕方、論理の初歩を学ぶ。

第4・5回 財務諸表

財務諸表の読み方を学ぶ。

第6・7回 財務諸表分析

財務諸表分析の初歩的な知識を確認し、実際に財務諸表分析を行う。

第8・9回 現在価値

時間価値について学ぶ。

第10・11回 投資意思決定

投資意思決定の判断基準を学ぶ。

第12・13回 企業価値

企業価値を求める考え方を学ぶ。

第14・15回 企業価値評価の演習

これまで学んだことを活かして実際に企業価値評価を行う。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

今野 勤

< 授業の方法 >

講義、演習

本講義は、実務経験のある教員による実践的教育から構成される授業科目である。

授業で利用する資料はOffice365のOneDriveの次のURLに保存しています。URLをコピー&ペーストし、授業開始までにダウンロードしてください。

https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bt115117_ba_kobegakuin_ac_jp/Ese8GHWEUpRMr8ClhsiUywQBex_ivmPtJx-ttqP3C0q-bw?e=zWwCoP

連絡先 t-konno@ba.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて

授業を 実施します。

ただし、

避難指示、避難勧告 が発令されている場合は ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本ゼミでは、学生が、就職して社会に出ると様々な問題を扱う。営業職についた人は、“お客さんから怒られてばかりで、営業に行きたくない”。公務員になった人は、“規則が厳しくて、職場に行きたくない”などいろいろな問題がある。これを学生生活に当てはめると、“単位が取れない”、“朝起きられなくて、1限目に出席できない”、“友達ができない”、“バイトと勉強が両立できない”などがある。これらの問題を解決するには、問題に関する情報の収集・分析が大切である。様々な情報の中から、問題の真の原因を探り出すことによって、解決するための方法が見つかる。ゼミでは、学生生活で直面する様々な問題を、就職してから起きる問題に当てはめて、問題解決法を勉強する。具体的には、学生生活で起きる身近な問題を例題に、情報を収集・分析し、対策

を立てる。すなわち問題解決法を学ぶ。

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、
1．現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために
有用な知識を総合的に学修する。

3．情報通信技術（ICT）を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する。

5．経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

に対応している。

<到達目標>

学生の時、遭遇する問題の原因を探索し、問題解決能力をつける。社会人になった時の問題解決の基礎的な力をつける。

<授業のキーワード>

問題解決法

<授業の進め方>

エクセルで作成した演習を通じて、問題解決法を理解する。
第1回から第13回までとする

<履修するにあたって>

積極的に質問をしてください。ゼミの際にUSBを持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で出題される課題を復習すること。目安の時間は、毎回1時間

<提出課題など>

ゼミの中で小テストを実施する。また、授業中に受講者の意見や疑問点について自発的発言を求めることがある。

<成績評価方法・基準>

半期10回以上の出席。課題提出2回で40%、期末課題提出で40%、授業態度、出席、遅刻・早退などを総合的に勘案した授業への取り組み20%で評価する。

<テキスト>

今野 勤 他 「実務に直結！エクセルによる即効問題解決」 日科技連出版

<参考図書>

特になし

<授業計画>

第1回 クラス・ガイダンス

このクラスの全体の狙いを説明。

企業における問題解決とは

企業における問題解決の問題点

$Y=f(X)$

第2回 問題解決と実務

問題解決のステップ

問題解決のステップと手法

問題解決法の学び方

問題解決法の効果について、解説する

第3回 問題の定義 1

問題の定義

プロセスマップ

$Y=f(X)$ について解説する

第4回 問題の定義 2

パレート図

プロジェクトチャーター

について、EXCEL例題による演習を通じて理解する。

第5回 問題の測定 1

問題の測定について解説する

ヒストグラムについてEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第6回 理解度の確認

課題提出 1

第7回 問題の測定 2

ランチャート クレームデータ解析についてEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第8回 問題解決の計画

PDPC法 ガントチャートについて、例題を演習を通じて理解する。

第9回 要因の解析 1

FMEA 因果マトリックスについて例題を演習を通じて理解する。

第10回 理解度の確認

課題提出 2

第11回 要因の解析 2

平均値の差の検定 分散比の検定をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第12回 要因の解析 3

相関・回帰分析をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第13回 要因の解析 4

重回帰分析をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第14回 要因の解析 5

数量化理論 類をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第15回 まとめ

期末課題提出

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

塩出 省吾

<授業の方法>

講義と演習

< 授業の目的 >

社会では様々なアンケート調査の結果が新聞や雑誌、インターネット等で公表されている。それらのデータは料理の材料と同様で、そのままでも食べられるかも知れないが、料理すればもっと美味しく食べられるのである。すなわち、集められたデータをさまざまな形で加工するのである。本演習では経営の現場での問題をデータ処理の手法を学習し、分析する技術を身に付けることを目的とする。

< 到達目標 >

- ・社会において収集されるデータを正しく理解することができる。
- ・発表されている調査結果の見方から将来の予測まで理解できる。

< 授業のキーワード >

アンケート調査、統計分析

< 授業の進め方 >

テキストに従って学習する。また、データを扱っている事例について学習し、グループによる発表も実施する。

< 履修するにあたって >

新聞等で掲載される統計データに普段から関心を持つことが大切です。正当な理由がなく4回以上休むと単位は与えられません。(遅刻は時間で累計する。)

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞、雑誌、本やインターネットから関心のあるデータを集める。

< 提出課題など >

レポート課題を課する。

< 成績評価方法・基準 >

受講状況および発表50%、レポート50%で評価する。

< テキスト >

必要に応じて配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本演習で学修する内容について説明する。

第2回 統計学の基礎

身近な例を基に統計学の基礎を学習する。

第3回 統計学の基礎

実際に使える統計の方法について学習する。

第4回 統計学の基礎

実例から統計を学ぶ。

第5回 データの入手

データの入手の方法について学習する。

第6回 平均値と正規分布

平均値と正規分布をマスターする。

第7回 偏差値と相関

偏差値と相関の意味について学習する。

第8回 標本誤差と仮説検定

標本誤差と仮説検定をマスターする。

第9回 最近の統計の話題

統計で最近話題になったテーマを学ぶ。

第10回 最近の統計の話題

統計で最近話題になったテーマを学ぶ。

第11回 最近の統計の話題

統計で最近話題になったテーマを学ぶ。

第12回 発表準備

班分けと班ごとで決定したテーマに従った発表の準備をする。

第13回 発表準備

班ごとで決定したテーマに従った発表の準備をする。

第14回 発表準備

班ごとで決定したテーマに従った発表の準備をする。

第15回 発表会

各班で選んだテーマに従って発表する。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

島永 和幸

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。コア科目に属し、2年次の演習科目として位置づけられる。会計学の入門的な内容を身につけることを目的とする。

< 到達目標 >

入門的な会計学に関する知識について理解できる。(知識)、簡単なレジュメを作成し、発表できる。(技能)

< 授業のキーワード >

会計学

< 授業の進め方 >

テキストの章ごとに担当を割り当てて、報告用のレジュメを作成し、報告する。担当者からの報告後、グループに分かれてディスカッションを行う。各回の状況に合わせて、講義内容を適宜変更することがある。

< 履修するにあたって >

第1回目までのゼミまでにテキストを購入しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、割り当てられた章のレジュメを作成すること(目安として3時間)

事前・事後学習として、テキストを読み込んでおくこと。(目安として1時間)

< 提出課題など >

レジュメを作成し、人数分印刷し、ホッチキス止めし、授業の開始時に配布すること。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミ中の質疑・発表、提出課題等100%で総合的に評価する。レジュメによる報告とグループワーク活動による評価が主となる。

<テキスト>

上野清貴・小野正芳編著『スタートアップ会計学(第3版)』同文館出版、2022年。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

第12章

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準、講義の概要等を理解する。テキスト 第12章「持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの」の内容を理解する。担当者の割り当てを行う。

第2回 第1章

テキスト 第1章「会計ってなに」の内容を理解する。

第3回 第2章

テキスト 第2章「会計にどんな資格があるの」の内容を理解する。

第4回 第3章

テキスト 第3章「会計情報はどう利用するの」の内容を理解する。

第5回 第4章

テキスト 第4章「企業の成績はどうやってみるの」の内容を理解する。

第6回 第5章

テキスト 第5章「会計は経営にどう役立つの」の内容を理解する。

第7回 第6章

テキスト 第6章「モノがいくらでできたかはどうやって決まるの」の内容を理解する。

第8回 第7章

テキスト 第7章「会計情報はどうやってつくられるの」の内容を理解する。

第9回 第8章

テキスト 第8章「会計制度はどうなっているの」の内容を理解する。

第10回 第9章

テキスト 第9章「財務諸表は信頼できるの」の内容を理解する。

第11回 第10章

テキスト 第10章「会社の税金はいくらになるの」の内容を理解する。

第12回 第11章

テキスト 第11章「グローバル経済における会計ルールってなに」の内容を理解する。

第13回 第13章

テキスト 第13章「ボランティア活動にも儲けが必要な」の内容を理解する。

第14回 第14章

テキスト 第14章「自治体の会計はどうなっているの」

の内容を理解する。

第15回 第15章

本基礎演習のまとめとふりかえり

テキスト 第15章「簿記・会計はどこからやってきたの」の内容を理解する。

本基礎演習のまとめとふりかえりを行う。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

島永 嵩子

<授業の方法>

演習形式。

<授業の目的>

この科目は、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。本ゼミは、コア科目に属し、2年次の演習科目として位置づけられる。本ゼミは、事例研究(ケーススタディ)を通じて、マーケティング分野の基本的概念や理論に対する理解を深めることができるようになることを目的とする。

<到達目標>

1. マーケティング発想の原点である顧客志向について理解できるようになる。

2. マーケティング・ミックスやSTPなどのマーケティングの基本概念を理解できるようになる。

<授業のキーワード>

1. マーケティング 2. 顧客志向

<授業の進め方>

毎回ショートケースを配布する。提示された課題に対し、各自意見をまとめ、小レポートを提出してもらう。

<履修するにあたって>

ゼミでは、毎回の出席が基本です。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習として、新聞や雑誌で企業のマーケティング戦略の動きを把握するように努めること。(目安として2時間)

<成績評価方法・基準>

ゼミへの貢献度(50%)および小レポートの内容(50%)によって評価する。

<参考図書>

石井淳蔵・廣田章光編著(2016)『1からのマーケティング・デザイン』中央経済社。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の概略を理解する。

第2回 消費者の行動

消費者の意思決定プロセスを理解する。

第3回 マーケティング・リサーチ

顧客理解のマネジメントを理解する。

第4回 市場環境分析

マーケティング・マネジメントのあり方を理解する。

第5回 市場へのアプローチ

市場細分化のあり方を理解する。

第6回 差別化戦略

市場でのポジショニングの考え方を理解する。

第7回 製品戦略

製品デザインのあり方を理解する。

第8回 ブランド戦略

マーケティング資産であるブランドのデザインを理解する。

第9回 価格戦略

価格デザインのあり方を理解する。

第10回 コミュニケーション・ミックス

マーケティング・コミュニケーションのデザインのあり方を理解する。

第11回 流通チャネル

流通チャネルのデザインのあり方を理解する。

第12回 マーケティングの基本戦略

市場における地位によって決まる市場地位別戦略の考え方を理解する。

第13回 製品ライフサイクル

製品ライフサイクルに応じて有効なマーケティング・ミックスの考え方を理解する。

第14回 関係性マーケティング

顧客との関係性のあり方を理解する。

第15回 まとめ

講義全体のまとめ

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

千田 直毅

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本講義では、1年次に学んだ経営学の基礎知識や考え方を再確認するとともに、自ら学習し他者と議論するための基礎を学ぶ。

< 到達目標 >

テキストの輪読を通じて経営学の基礎知識を体系的に理解するとともに、文章作成能力、身近な経営現象を分析する能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。

< 授業の進め方 >

テキストの輪読および少人数グループワーク課題の報告

形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

グループワークにおける調査、分析、報告資料等の作成は講義時間外にも行う必要があります。

< 提出課題など >

初回講義時に詳細について説明します。

< 成績評価方法・基準 >

輪読やケース討議時に出される課題レポート(30%)、発表への取り組み、ディスカッションへの参加度(70%)。無断欠席と遅刻については厳しく減点します。

< テキスト >

初回講義時に指示する

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

基礎演習 の概要、講義の進め方に関する説明

第2回 テキストの輪読、ディスカッション

会社の経営とはどんなことか：企業経営入門

第3回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどのようにして社会に役立っているのか：企業

第4回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどのような方針で動いているのか：経営理念と戦略

第5回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどんな仕組みで動いているのか：組織形態

第6回 テキストの輪読、ディスカッション

会社は他の会社とどのように協力しているのか：組織間関係

第7回 テキストの輪読、ディスカッション

会社は誰が動かしているのか：コーポレート・ガバナンス

第8回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどのようにしてモノを造るのか：生産管理

第9回 テキストの輪読、ディスカッション

社員は仕事をどのように分担しているのか：組織構造と職務設計

第10回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はなぜ働くのか：モチベーションとリーダーシップ

第11回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はなぜ組織にとどまろうとするのか：雇用システム

第12回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はどのような報酬を求めるのか：報酬制度

第13回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はどのようにして育てられるのか：人材育成制度

第14回 テキストの輪読、ディスカッション

会社は海外でどのように経営しているのか：国際経営

第15回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと復習

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

田中 康介

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本ゼミでは、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目的とする。そのため、身近にある事象や事例（ケース）を取り上げ、それらのビジネスとしての考え方や仕組み（モデル）等について理解することを目指す。例えば、「なぜ『100円ショップ』は安いのか?」、「なぜ『通販』で買ってしまうのか?」などをテーマとして、ビジネス（事業戦略・企業経営等）の視点から、現実的・実践的に分析・研究を行う。

< 到達目標 >

1. 企業のビジネスの仕組みを説明できる。
2. 実在する企業の事例から、その活動を実践的に分析、考察できる。
3. 自らが調査研究して、まとめた内容を具体的に説明できる。

< 授業のキーワード >

ビジネスモデル、事例研究(ケース・スタディ)、100円ショップ、通信販売、サイバーモール、プラットフォーム

< 授業の進め方 >

グループ・ワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心にを行います。各自の自主性を尊重します。

< 履修するにあたって >

履修者には、調査や研究に対する積極的な取り組みが望まれます。ゼミ（クラス）では授業中、自主的・自発的な発言が求められます。無断欠席をしないで下さい（他のメンバーに迷惑が掛かることもあるので）。

< 授業時間外に必要な学修 >

ゼミ以外の時間でも、自主的・積極的に個人研究やグループ・ワークを行って下さい。

< 提出課題など >

講義期間中に、レポート（各テーマについて各自、どれだけ理解したか）を3回、提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

レポート（3回実施：1回25%）75%、研究発表（プレゼンテーション・ディスカッション）等25%の割合（計100%）で、成績評価します。フィードバックに関しては、レポートは実施（回収）した回の次の授業で行い、研究発表は発表後（授業中）、講評します。但し評価対象は、出席回数が授業回数の3分2以上であることを前提とし

ます。

< テキスト >

オリジナル教材を使用します。教材や資料（ケース、公表資料その他）は適宜配布します。

< 参考図書 >

必要に応じて指示します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス～イントロダクション

最初に、本ゼミの目的や方法、概要等について説明した上で、導入講義を行う。導入講義では、まず「ビジネスモデルとは何か」（意味・意義）を理解し、そして、経営戦略とビジネスモデルの関係や、ビジネスモデルのタイプ（類型）等について理解していく。

第2回 イントロダクション

第1回に続き、導入講義を行う。ここでは、実在する企業の成功や失敗の例から、それらの理由を考察し、ビジネスモデルのあり方や成功条件について検討する。

第3回 なぜ「100円ショップ」は安いのか?（1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、その結果や成果について検討する。

第4回 なぜ「100円ショップ」は安いのか?（2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第5回 なぜ「100円ショップ」は安いのか?（講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、100円ショップのビジネス・モデルについて解説する。

第6回 なぜ「通販」で買ってしまうのか?（テレビ通販のケース1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、その結果や成果について検討する。

第7回 なぜ「通販」で買ってしまうのか?（テレビ通販のケース2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第8回 なぜ「通販」で買ってしまうのか?（テレビ通販のケース：講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、テレビ通販のビジネス・モデルについて解説する。

第9回 なぜ「通販」で買ってしまうのか?（本・雑貨等のネット販売のケース1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、

その結果や成果について検討する。

第10回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（本・雑貨等のネット販売のケース2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第11回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（本・雑貨等のネット販売のケース：講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、本・雑貨等のネット販売のビジネス・モデルについて解説する。

第12回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（サイバーモールのケース1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、その結果や成果について検討する。

第13回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（サイバーモールのケース2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第14回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（サイバーモールのケース：講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、サイバーモールのビジネス・モデルについて解説する。

第15回 全体総括

本演習全体を通じて学習した事をまとめ、総括する。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

辻 幸恵

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この時期は基礎科目から専門科目への移行期にあたる。社会をリードする人間になることは本学の目指す姿でもある。この授業の目的のひとつは、構成メンバーがリーダーシップを身につけることであり、誰かに指示されるだけでなく、自ら考えて行動できることを目指す。そして、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得することを目標とする。実務経験がある教員として事例などを示しながら、実際の消費者の行動とマーケティングの理論の合致するところとしないところを説明する。

< 到達目標 >

1) グローバルで多角的な視点からとらえられることができる。陳列棚に並べられている商品を見て、売れるか否かの判断ができるようになることである。

2) もしも自分が営業をする立場であれば、どのように陳列をするのか、どのようなキャッチコピーにするのかを考え、自分がやるならばどうしたいのかを考えることができるようになることである。

そのために、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識をつける。

3) 実際の店舗販売では必要になる技能の初歩もスキルとして身につける。これはアクティブラーニングを通じて身につける。

< 授業のキーワード >

ヒット商品、流行、マーケティング、ゆるキャラ、雑貨
< 授業の進め方 >

オンライン講義を進める。前期の授業のうちにレポート課題を3回出すので、それに各自が解答し、提出しなければならない。基本的には1コマの授業で一つのテーマをするいわば一話完結になる。13回分のトピックスを習うことになる。時間の最初には、必ず前回の復習をして、全員が基本的な事項を共有してから、本題に入る。教科書にそって授業は実施する。

< 履修するにあたって >

ヒット商品や流行についてのニュースがあれば気をつけて読んでほしい。また、今、何が流行しているのかを衣食住の中で常に気にしてほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書を指定しているので、課題などをこなすときの参考資料として毎回2時間くらいかけて、よく読んでほしい。また、資料作成時には日経ビジネスなどの雑誌を参考にしてほしい。これはインターネットで配信されているニュースでもかまわない。特にニュースなどは毎日30分くらいは目を通すように習慣をつけてほしい。学外での研修に際しては各自が課題についてゼミ時間以外の時間をかけて成果を出すように準備をしてほしい。

< 提出課題など >

グループ発表をした時の資料や原稿は提出してもらう。また、同時に個人発表の資料や原稿も提出してもらう。15回目の授業内で作成するレポートも提出してもらう。いずれも後日には受け取らない。

< 成績評価方法・基準 >

1. 初回のガイダンスをのぞいて、2回目から、毎回の授業での態度、発言点、ゼミへの貢献度を点数化する。0点から3点で毎回評価をする。授業が14回なので42点の配点となる。

2. グループ発表は2回を予定している。0点から5点で毎回評価をする。2回で10点の配点となる。

3. 個人発表は3回を予定している。0点から5点で毎回評価をする。3回で15点の配点となる。

4. 最終回15回目の授業内で作成するレポートは0点～10

点で評価をする。

5.ゼミのアフターケアの点数が23点ある。これは課題に取り組む姿勢や、資料提出など積極的にゼミに参加をしたことに対する点数である。

以上の1から5までの合計を評価点とする。

<テキスト>

山本浩二、上野山達哉編著『マネジメント講義ノート』白桃書房、2017年、2750円+税

<参考図書>

辻幸恵『こだわりと日本人』白桃書房、2013年、2800円+税

<授業計画>

1回 ガイダンス

授業の概要を説明する。授業の進め方、目標、約束事、評価の方法などである。また、自己紹介を各自にもらう。

2回 マネジメントの全体像について

教科書の序章からはいる。また、マーケティングがどのような時に必要であるのかも説明する。(教科書は序章を参考)

3回 現代の課題になっている現象への理解の1回目

現代社会の課題や問題点について考える。経営戦略がうまくいかない会社としては苦境に陥るなど例示する(教科書は第3章を参考)

4回 ヒット商品とは何か、もうかるための工夫

大正・昭和時代のヒット商品を時代背景と共に例示をする。そして儲かるためには、原価と利益との関係を知る必要がある。教科書を用いて原価についても説明する。(教科書は第1章を参考)

5回 マーケティング的な考え方について

なぜ製品を買おうと思ったのか、何がそれに影響しているのかについてマーケティングの基本と照らし合わせて考える。(教科書は第8章を参考)

6回 消費者の行動について

誰もが知っている彦根城のひこにゃんと熊本県のくまモンはなぜ、有名になったのかを由来をもとに学び、なぜキャラクターを使った商品が消費者に受け入れられるのかを考える。これは、企業が有している企業キャラクター(キヨロちゃん、ハム係長、ポンデライオン、ペプシマンなど)にも通じていることである。(教科書は第9章を参考)

7回 現代の課題になっている現象への理解の2回目

自らが調べたことを起承転結をつけて正確に伝える練習をする。また、問題解決の方向性を探る。(教科書は第8章を参考)

8回 前半の復習とまとめ

ヒット商品をテーマにマーケティングの基本についてや、過去と現在のヒット商品などを学んだ。それらを思い出すと共に、今回はビジネスマナーについてふれる。

9回 流行させるための戦略について

前半でヒット商品という現実的な事例や現代社会の課題を学んだので、後半の最初に流行させるための戦略について学ぶ。(教科書は第4章を参考)

10回 戦略の実現性について

世の中の流行やヒット商品を世に多くだす会社がある。その組織に注目し、戦略を実現するためにはどのような組織が必要かについて学ぶ。(教科書は第5章を参考)

11回 流行を生む出す組織内の人間行動

ここでは消費者ではあるが、組織の中では従業員でもあることが現実である。流行を生む組織とそうではない組織内の人間行動について学ぶ。(教科書は第6章を参考)

12回 流行を生む出す人材

流行を生み出す組織とそうではない組織について学んでいるが、組織内の人間行動についてここでは理解する。どのような人材マネジメントが必要かを考察する(教科書は第7章を参考)

13回 これからの消費者行動とマーケットについて考える。全体のまとめ

消費者視点からの今後のマーケットについて考える(教科書は第8章、第9章を参考)

14回 流行とブランドについて

かつて日本人はブランド志向と言われ、ブランドが流行そのものであった。現在の流行とブランドとの関係について説明する。

15回 まとめ

これまでの総まとめをおこなう

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

福井 直人

<授業の方法>

演習(対面)

<授業の目的>

本科目基礎演習福井ゼミは、経営学総論を既に履修済みであることを前提として、総論における組織の管理に重点をおいて知識を深めます。そして、学生諸君が経営組織の概念や理論を理解することを目的とします。企業をはじめとする組織の活動は、そこで働く人々を共通目的のために方向づけることで機能しています。この共通目的の達成のために、組織全体の仕事をどのように人々で分担(分業)し、かつそれらを纏め上げるか(調整)を考える学問領域こそが、経営組織論です。すなわち、組織の構造はどのように作られるか、組織はどのようなプロセスで動いているか、またそれを管理するために経営者は何をしなくてはならないかを、経営学の諸学説を検討するなかで学びます。また、組織の中の人間行動(モ

チベーションやリーダーシップ)についてもその概論的内容を学びます。

この科目は、企業経営において必須である組織づくりに関連している点において、学部のDPである、

1. 現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する。

に大いに関連しています。すなわち企業経営とは組織の管理といっても過言ではなく、これを学ぶことは経営学の全体像を把握するのに必須のことなのです。また、講義の終盤でダイバーシティの論点が出てくるという点では

4. 社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する。

も視野に入れたものになってきます。

<到達目標>

1. 経営組織の基礎的概念について説明できる。
2. 組織変革に成功した企業の情報を独力で収集できる。
3. 身近な組織(家庭、サークル、アルバイトなど)に本科目の知見を応用し実践できる。

<授業のキーワード>

経営組織、組織構造、組織過程、組織成果

<授業の進め方>

各回1章ずつ教科書を読み進めます。各回1名ずつ報告者を割り当てますので、報告者は1つの章についてレジュメを作成し報告することが求められます。報告者以外の人も必ず教科書は熟読してきてください。その内容についてディスカッションを行いたいと思います。もちろん難しい内容については福井から説明することもあります。

4月中は対面、5月中は遠隔zoomリアルタイム形式を予定しています。5月中は演習開始時刻前になりましたら、遠隔授業方法に記載されているアドレスからzoom入室してください。6月以降の方法は未定です。

<履修するにあたって>

経営学入門の内容を復習しておいてください。本科目と非常に関連性の高い科目は経営管理総論ですので、そちらも併せて受講ください。

<授業時間外に必要な学修>

事前に教科書の指定された箇所を読み、分からない語は辞典で調べる。(目安として1時間)

事後に配布資料およびノートを見直す。必要に応じて教科書に立ち返る。(目安として1時間)

<提出課題など>

とくにありません。

<成績評価方法・基準>

報告25%、各回の小課題25%、期末レポート50%

期末レポートでは、現実の企業における実態と学術的な理論の往復ができるかという観点から、論述問題を出題します。問題は教科書の章末問題におそらく準じます。

<テキスト>

上林憲雄・庭本佳子編(2020)『経営組織入門』文真堂。(2,090円)

<参考図書>

安藤史江・稲水伸行・西脇暢子・山岡徹(2019)『ベシックプラス経営組織』中央経済社。(2,640円)

高尾義明(2019)『はじめての経営組織論』有斐閣。(2,090円)

鈴木竜太(2018)『経営組織論』東洋経済新報社。(2,420円)

<授業計画>

第1回 経営組織論への招待

経営組織論とはどのような学問かを説明します。

第2回 経営組織とは(組織入門)

組織がなぜ必要とされるのか、また組織を維持・存続させるためには何を行わねばならないかを検討します。(教科書第1章)

第3回 組織の基本原則(組織構造)

組織における分業と調整のあり方について考えます。(教科書第2章)

第4回 物事を決める(意思決定)

バーナード組織論とサイモン意思決定論を中心に、限定合理性を克服すべく組織的意思決定がいかになされるかを学習します。(教科書第3章)

第5回 メンバーのやる気を高める(モチベーション)

組織のメンバーのやる気をいかに高めるか、モチベーション論を中心に考察します。(教科書第4章)

第6回 メンバーを引っ張る(リーダーシップ)

組織のメンバーを組織目的に向けるために、いかに影響を及ぼしていくか、リーダーシップ論の観点から考えます。(教科書第5章)

第7回 チームを組む(チームワーク)

複数の人々による協働をいかにして促進させるか、チームワークの観点から考えていきます。(教科書第6章)

第8回 組織の形を変える(組織形態)

環境や戦略に応じて、組織の形をどのように設計するかを検討します。(教科書第7章)

第9回 文化を捉える(組織文化)

組織のメンバーに共有された意味の体系である組織文化について、その定義や機能を学びます。(教科書第8章)

第10回 情報・知識を捉える(知識創造)

組織がいかにして情報を処理し、知識を創造するのかを学びます。(教科書第9章)

第11回 革新をおこす(イノベーション)

組織におけるイノベーションの意義について確認し、いかにしてイノベーションを促進するかを考えます。(教

科書第10章)

第12回 他組織と協力する(ネットワーク)

組織は単独で活動するのではなく、他の組織と協働することもあります。この章では組織間関係をネットワークの観点から分析します。(教科書第11章)

第13回 組織変革

組織は環境変化に応じて、その構造や文化を変革することに迫られます。この章では組織変革のあり方について学びます。(教科書第12章)

第14回 経営組織論を学ぶ視点(学問論)

諸科学における経営学の位置づけを確認するとともに、経営学における経営組織論の役割を熟考します。(教科書補章)

第15回 総まとめ

ここまでの回を振りかえるとともに、実際の企業において経営組織論の知見がいかに役立つかを事例を交えて説明します。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

藤原 由紀子

< 授業の方法 >

演習(対面)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。この科目は、すべてのコースの学生が履修するコア科目に属しており、演習 への導入科目に位置づけられる。いろいろな企業の事例を読むことにより、企業活動の実際について知るとともに、それらの背後にあるビジネスの仕組みや経営学の基礎的な知識について学ぶ。発表や質疑応答を通じて理解を深めること、発表用資料の作り方を学ぶこと、発表そのものに慣れることも目的とする。

< 到達目標 >

- ・ここで学んだ基本的な知識を使って、実際の企業の事例について分析することができる。
- ・調べた内容や分析結果をワードやパワーポイントを使った発表資料にまとめることができる。
- ・ワード資料やパワーポイントを使って、発表することができる。
- ・情報収集や発表資料の作成などにおいて、他の受講生と協力して作業を進めることができる。
- ・他のグループの発表に関心を持ち、授業中に発言するなどして授業に参加できる。

< 授業のキーワード >

グループワーク、事例、発表

< 授業の進め方 >

教員による講義と少人数によるグループワーク、発表によって進める。グループの数に応じて内容を一部変更したり、実務家による講演会を聴いたりすることがある。

< 履修するにあたって >

この授業では、グループワークを多く行います。授業やグループワークに支障をきたすので、遅刻や欠席をしないように心して受講して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

現実の企業の経営活動に関心をもって、良質のテレビ番組を視聴したり、新聞を読んだりしてください(毎日20分程度)。

課題についての発表の準備として、関連のある書籍を読んだり、インターネットを使った情報収集を授業時間外にも行ってください。

< 提出課題など >

各グループには、2回の発表が課せられる。1回目は配布した資料について、2回目はこちらが提示した課題についての発表資料の作成と発表を行ってもらう。

< 成績評価方法・基準 >

単位の取得には、11回以上の出席が必要です。

評価は、発表やグループワークへの参加状況40%、発表資料や授業中の提出物の内容40%、授業中の発言や議論への参加状況20%で判断します。

< テキスト >

必要に応じてプリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨN

授業の狙い、進め方、評価の仕方、ゼミでの約束について説明する。

第2・3回 発表資料の作り方

ゼミでの発表の際に使用するレジюмеやパワーポイントを使った発表資料には、どのような内容を書けば良いのだろうか。ここでは、発表資料の作り方について学ぶ。その上で、実際にレジюмеやパワーポイントの資料を作成してみる。

第4回 ゼミ生による発表

事例を使って、企業が存続するために必要な条件について考える。

第5回 競争戦略1

競争相手と同程度、もしくはそれ以上に利益を上げるために企業がとっている方針を競争戦略と言う。ここでは、自社の事業とは何かという事業の定義、誰を顧客とするのか、競争相手は誰なのか、などの競争戦略を考えるうえで明確にすべきいくつかの要素について学ぶ。

第6回 競争戦略2

事例を使って、何を武器にして競争するのか、またターゲットとする顧客の幅という観点から3つのタイプの競

争戦略について学ぶ。

第7回 多角化戦略

成長するために企業は、事業の範囲を広げていくことを角化と呼ぶ。ここでは、複数の事業をいかに運営していくのかという多角化戦略について学ぶ。

第8・9回 国際化のマネジメント

企業はなぜ国際化するのか、国際化するにあたってどのような障壁があるのかについて学ぶ。

第10-12回 グループワーク

これまでに授業で学んだ内容についてのグループワークを行う。出されたテーマについての実際の企業の事例について調査・分析し、発表レジュメにまとめる。

第13・14回 グループワークの成果発表

グループワークの成果をレジュメを使って発表したのち、各事例について考察を行う。

第15回 まとめ

これまでの授業内容を振り返る。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

松田 裕之

< 授業の方法 >

演習〔対面形式〕

ただし、コロナ感染状況によってはハイブリッド〔対面・遠隔併用〕形式に切り替える可能性あり。

< 授業の目的 >

・入門演習と演習 A/B・ の橋渡しをするプレ・ゼミナールです。現在の日本における「働き方」の現状と問題を、以下の視点から考えます。

私たちの社会において、働き方の仕組みはどうなっているのか? 構造

現在の(働き方の)仕組みには、どのような問題点があるのか? 現状

働き方はこれからどのように変化するのか?

未来

私たちは、今後の(働き方の)変化に、どのように備えればよいのか? 対策

< 到達目標 >

(1)人間という多面的な存在の本質を考えていくことができる 態度

(2)もの見方のパリエーションを増やすことができる 知識

(3)ヒト=人間に対する興味とリスペクトを高めることができる 態度・習慣

< 授業のキーワード >

働き方、仕事、雇用形態、正社員、長時間労働、日本型雇用、少子高齢化社会

< 授業の進め方 >

『これだけは知っておきたい 働き方の教科書』を使用。

< 履修するにあたって >

感染予防の観点から、マスク着用は必須とします。注意に従わない受講者は出禁とします。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内容の復習と課題作成に毎回1時間を充当してください。

< 提出課題など >

dotCampusから6回レポート課題を出します。

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題は1回20満点で採点し、これ×6回=120点満点で成績評価します。ただし、合計100点を超えた人も「S」評価です。

< テキスト >

安藤至夫(2015)『これだけは知っておきたい 働き方の教科書』ちくま新書

< 参考図書 >

テーマに応じてその都度紹介します。

< 授業計画 >

第1回 自己紹介・ゼミナールの進め方

教員ならびにゼミ生の自己紹介のあと、グループ分けを行います。

第2回 準備・予行演習

グループ発表と質疑応答のポイントを説明します。

第3回 17~33ページ

稼働能力の向上による生活水準の向上

自己実現の達成 欲求5段階説(課題)

交換と分業のメリット 学習能力

比較優位の原理について

第4~5回 34~47ページ

「使用者」と「労働者」 労働市場

労働基準法と就業規則 アルバイト体験(課題)

コストの節約 長期はほんとうに有利か

第6回

48~65ページ

労働時間 選択可能な場合

時間は「報酬化」できる

賃金の決定メカニズム 賃金の正体

賃金アップの方法 本当か(課題)

第7~8回 71~95ページ

正規雇用」の意味 “permanent”

「非正規雇用」の多様性と増加

7種類を具体的に(課題)
「正社員」 大企業が中小企業が

第9回 96～119ページ
労働時間と法的規制 残業と割増給
健康被害の原因 有能さの長短
「三種の神器」 もとは後進性の象徴
日本型雇用は是か非か (課題)

第10回 119～138ページ
雇用契約の終了 満了・離職・解雇
できる解雇とできない解雇 怖い無知
ブラック企業とは 法的な概念ではない
どうすれば見極められるか (課題)

第11回 143～165ページ
活躍の場の拡大 高齢者・女性・外国人
生産性の向上 職業訓練・労働移動
機械化・自動化の脅威とむきあう
(課題) AI対策

第12回 166～176ページ
正社員の二極化 無限定と限定
社会保障の見直し 私から公へ
年功賃金と職能給 職務給の拡大
新規学卒一括採用の功罪 (課題)

第13回 183～193ページ
目的と手段 目的が優先するのか?
ひとつのパンをふたりで食べる関係
労働法の基礎知識の大切さ
誰に相談すればいいのか? (課題)

第14回 193～201ページ
天職か転職か
失職か失業か
「やりたいこと」か「できること」か
(課題⑩) ノンエリートの自立とは?

第15回 まとめと反省
総括と反省を各人に発表してもらいます。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

宮本 幸平

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本ゼミは、経営学部のDPに示す、「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得」を目指す。そして、経済学及び会計学の基礎理論理解を主題とする。我々が暮らす社会は「経済社会」としての一面があり、これは「商品」の流通・消費によって生活が維持されることから伺える。こうした商品流通には「貨幣」が必要であり、したがって我々の暮らしにおいて貨幣が重要な意味を持ってくる。本ゼミは、貨幣をコントロールする「金融」の機能を理解することを目標とする。具体的には、経済活動における「金融」の流れを理解し(経済学の基礎理論を含む)、併せて「金融」の流れを計算・記録する会計の基本的な枠組み(会計学の基礎理論を含む)などの理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、演習の運営を行うものとする。

<到達目標>

1. 経済の基本的な仕組みが理解できる。
2. 金融商品について理解できる。

<授業の進め方>

講義を中心として、知識の習得を図る。また、経済に関する新聞記事のプレゼンテーションを行う。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、自身が調査した新聞記事と関連する記事を読んでおくこと。(目安として1時間)

<提出課題など>

3回、新聞記事をまとめたレポートを課す。

<成績評価方法・基準>

100%レポート評価による。

<テキスト>

毎回、配布する。

<授業計画>

第1回 オンライン授業の学修方法。

暮らしと経済

最初に、今後の学修方法について説明する。

我々の暮らしのなかで経済がどのように動いているか、「貨幣」がどのような役割を果たしているかについて理解する。

第2回 暮らしと経済

我々の暮らしにおいて「貨幣」のコントロールがどのよ

うに行なわれているか、それによって暮らしがどのように変化するかについて説明する。

第3回 経済のしくみ

不況、インフレ、失業などがどのようなプロセスで生じるかについて、基本的な経済理論によって理解する。

第4回 経済のしくみ

今般の経済動向として世界同時不況（リーマン・ショック）がなぜ起こったか、その理由を経済学および会計学の視点から理論的に説明する。

第5回 金融機関のしくみ

金融機関の中心である「銀行」が我々の生活において果たす役割について説明する。

第6回 金融機関のしくみ

「銀行」が取り扱う金融商品の種類と内容を説明する。また、証券会社の基本的な機能についても触れる。

第7回 金融政策のしくみ

不況、インフレ、失業に対する処方箋としての「金融政策」はどのようなものであるかについて基礎的な理論を説明する。

第8回 金融政策のしくみ

「金融政策」について、やや発展的な経済理論（マクロ経済学）を説明する。

第9回 財政政策のしくみ

今般のような不況時において政府が発動する「財政政策」について基礎的な理論を説明する。

第10回 経済活動と会計の関係

我々が行なう経済活動は「取引」単位に集約され、「会計」によって計算・記録する。そこで、日々の経済活動がどのように「会計」によってまとめられるかについて説明する。

第11回 会計学の基礎理論

経済活動が「取引」単位に集約される「会計」がいかにして計算されるか（会計の計算構造）について、その概略を説明する。

第12回 金融派生商品の取引（先物取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「先物取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第13回 金融派生商品の取引（オプション取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「オプション取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第14回 金融派生商品の取引（金利スワップ取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「金利スワップ取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第15回 学習内容の討論

演習で学んだ内容に基づき、討論を行う。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

安井 一浩

<授業の方法>

演習形式で行う。

<授業の目的>

簿記の基礎的な知識を身につけることを目的として、会計の基礎となる複式簿記の考え方について、公認会計士としての実務経験のある教員が説明する。具体的には日本商工会議所簿記検定試験3級に合格する程度の知識を習得することを目標とする。また一部関連する会計基準の内容についても説明を行い、また必要に応じて現代の会計に関連する経済事象についても考えていく。

<到達目標>

日本商工会議所簿記検定試験3級合格

<授業のキーワード>

商業簿記

<授業の進め方>

教科書の記述に沿って説明を行う。

なお毎回授業開始時に、前回の内容についての小テストを行う。

<履修するにあたって>

毎回、電卓を持参すること。またわからないことがある場合にはその場で質問を行い疑問点を残さずに帰りにすること。なおテキストの演習問題あるいは参考書として示した問題集の問題を、完全に正解できるようになるまでなんども解きなおすことが学習を促進する手段となるであろう。

<授業時間外に必要な学修>

授業中に取り組んだ問題が完全に解答できるまで復習を行うこと。また参考書であげているワークブックを購入し類似問題に取り組むこと。これらの学修に要する時間は毎週1.5時間である。

<成績評価方法・基準>

小テストにより評価を行う。

<テキスト>

『新検定簿記講義 / 3級商業簿記』中央経済社。なお開講日現在における最新版とする。

<参考図書>

『新検定簿記ワークブック / 3級商業簿記』中央経済社。なお開講日現在における最新版とする。

<授業計画>

第1回 簿記の基本原則

簿記の意義、目的、取引の分類などの基本的な原理について説明する。

第2回 仕訳、勘定、帳簿記入

簿記の意義、目的、取引の分類などの基本的な原理につ

いて説明する。

第3回 決算手続の基本

決算手続の概要を説明するとともに元帳の締切り、試算表の作成について説明する。

第4回 現金預金取引

現金勘定、当座預金勘定、小口現金勘定の仕訳と帳簿記入について説明する。

第5回 商品売買

商品売買に係る取引について仕訳および帳簿記入について説明する。

第6回 売上債権、仕入債務

売掛金および買掛金の仕訳および帳簿記入について説明する。なお貸倒れについても併せて説明する。

第7回 その他の債権と債務

貸付金、借入金、商品券等の仕訳について説明する。

第8回 手形取引

受取手形、支払手形の仕訳および帳簿記入、手形譲渡について説明する。

第9回 有価証券、固定資産、

有価証券の仕訳、固定資産の仕訳、減価償却について説明する。

第10回 資本金、収益費用、税金

資本金の取引、収益、費用および経過勘定項目、税金関連の取引について説明する。

第11回 帳簿と伝票

伝票を利用した場合の記入、転記について説明する。

第12回 決算手続

決算と決算手続、試算表の作成について説明する。

第13回 決算整理事項、精算表の作成

決算整理事項および棚卸表、精算表の作成について説明する。

第14回 元帳締切と財務諸表の作成

決算時における振替、元帳の締め切り、財務諸表作成の基礎について説明する。

第15回 ガイダンスまたは講演会

日商簿記検定2級へ向けてのガイダンスを行うかまたは講演会を開催します。

なお講演会の場合は、第1回～第14回の授業と入れ替わる可能性があります。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

柳 久恒

< 授業の方法 >

「対面授業」

本学の方針に則り、対面授業を行う。

< 授業の目的 >

本授業は、受講生のスポーツへの興味関心を高めるとと

もに、「スポーツマーケティング」や「スポーツマネジメント」に関する基礎的な知識を習得することを目的とします。

特に、グループワークを通じて互いのコミュニケーション力を高め、発表会を通じてプレゼンテーションのスキルを磨きます。

< 到達目標 >

- ・テーマに即して資料を収集し、発表できるようになる。
- ・グループワークなどを通じて受講生の親交を深める。

< 授業のキーワード >

スポーツマーケティング、スポーツマネジメント

< 授業の進め方 >

グループや個人で設定したスポーツに関するテーマに基づいて資料を検索・収集したうえで実態を把握し、報告や課題解決のためのディスカッションを通じて発表を行います。

< 履修するにあたって >

- ・原則として、毎回の授業に出席すること。
- ・授業を欠席する場合は、当該授業開始時刻までに連絡すること。
- ・無断で授業を欠席した場合には、厳しい減点を科す。
- ・学外のスポーツ関連の企業を訪問することがある。(予定)
- ・授業計画は、授業の進み方等により、多少前後することがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

グループや個人で設定したスポーツに関するテーマに基づいて資料を検索・収集したうえで実態を把握し、報告や課題解決のための発表資料を作成します。

< 提出課題など >

グループや個人にパワーポイントを用いたプレゼンテーションを課す。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は、グループによる発表(評価割合60%)と個人による発表(評価割合40%)の結果を総合して行う。

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

「図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント」
山下秋二、中西純司、松岡宏高(編著)、大修館書店(2016年)。

「ゴールは偶然の産物ではない~FCバルセロナ流世界最強マネジメント~」フェラン・ソリアーノ(著)、グリーン裕美(翻訳)、アチーブメント出版(2009年)。

「スポーツマネジメント入門: プロ野球とプロサッカーの経営学」西崎信男(著)、税務経理協会(2015)。

「スポーツの資金と財務」武藤泰明(著)、大修館書店(2014)。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方と評価方法の説明、意見交換を行う。

第2回 GW キーワードの検討とテーマの設定
グループに別れ、興味・関心のある問題や課題について検討し、オリジナリティ溢れるキーワードを設定する。設定したキーワードからテーマを設定する。

第3回 GW 文献資料の収集と発表資料の作成
テーマに即した文献資料を収集し、グループで検討した課題に関する発表資料をパワーポイントで作成する。

第4回 GW リハーサル
リハーサルを通じて、発表の構成や調査方法等についてディスカッションを行う。

第5回 GW グループ発表
PP資料を用いた発表（5グループ×発表7分＋質疑応答3分）

第6回 GW キーワードの検討とテーマの設定
グループに別れ、興味・関心のある問題や課題について検討し、オリジナリティ溢れるキーワードを設定する。設定したキーワードからテーマを設定する。

第7回 GW 文献資料の収集と発表資料の作成
テーマに即した文献資料を収集し、グループで検討した課題に関する発表資料をパワーポイントで作成する。

第8回 GW リハーサル
リハーサルを通じて、発表の構成や調査方法等についてディスカッションを行う。

第9回 GW グループ発表
PP資料を用いた発表（5グループ×発表7分＋質疑応答3分）

第10回 個人発表テーマの検討
個人発表テーマを検討し、発表資料を作成する。

第11回 個人発表資料の検討
個人発表資料を作成し、相談する。

第12回 個人発表リハーサル
リハーサルを通じて、発表の構成や調査方法等についてディスカッションを行う。

第13回 個人発表
個人発表（5人×発表7分＋質疑応答3分）

第14回 個人発表
個人発表（5人×発表7分＋質疑応答3分）

第15回 個人発表 と総括
個人発表（5人×発表7分＋質疑応答3分）と総括を行う。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式授業を実施します。しかし、状況が変わった場合は、オンライン授業になることがあります。

< 授業の目的 >

（主題）

課題として設定された研究題目を、自らの力で調査研究を行い、研究成果を導き出す方法論を会得する。調査研究にあたっては、その観点も重要な要素になる。

（目標）

調査研究の結果を成果として公表する際は、客観性が担保されている必要がある。個人的な主観と客観との相違を理解できるようにする。

< 到達目標 >

基礎演習 での到達目標は、課題を自らが調査研究を行って、解釈できる能力を身に付けることである。

< 授業のキーワード >

主観・客観

< 授業の進め方 >

基本原則は、自らの調査研究を主体とする。個々に調査研究した成果を、報告し合い、互いに理解を深める。発表と討論が中心となる。

< 履修するにあたって >

別段の理由がない限り、欠席を想定していない。（原則3回以下）

< 授業時間外に必要な学修 >

個人的問題意識により文献やインターネットで調べる必要がある。

< 提出課題など >

必要性がある場合は、提出を課す。

< 成績評価方法・基準 >

総合的に積極的参加度を勘案し評価する。

< テキスト >

適時に指導する。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

基礎演習 の進め方について説明する。

第2回 課題の設定

課題の選定方法や認識の仕方などを説明する。

第3回 課題の概要把握

課題の概要把握への方法について説明する。

第4回 研究テーマの選定

調査研究するための題目を選択する。

第5回 調査研究の選定と実施

文献等やデータの収集を行う。インターネットも活用する。

第6回 調査研究の選定と実施

文献等やデータの収集を行う。インターネットも活用する。

第7回 調査研究の選定と実施

文献等やデータの収集を行う。インターネットも活用する。

第8回 調査研究の報告と討論

報告をもとに議論・討論を行う。併せて分析も実施する。
第9回 調査研究の報告と討論
報告をもとに議論・討論を行う。併せて分析も実施する。
第10回 調査研究の報告と討論
報告をもとに議論・討論を行う。併せて分析も実施する。
第11回 調査研究の展開
調査研究をさらに深化させる。
第12回 調査研究の展開
調査研究をさらに深化させる。
第13回 調査研究の報告と分析および検証
調査研究の論点整理を行う。
第14回 調査研究の報告と分析および検証
調査研究の論点整理を行う。
第15回 総括
研究成果について議論・討論する。

2022年度 前期

2.0単位

基礎演習

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

2年次配当のコア科目・選択必修科目であり、3年次配当の「演習IA」「演習IB」への導入科目として位置づけられる。

日々進展している情報化社会で仕事をするために必要となるコンピュータ・情報技術に関する基礎的な知識と技能を習得する。また、情報技術に関するテーマでプレゼンテーションを行い、各テーマに対する知識を習得するとともにレジュメの作成、発表や質疑応答の方法についても学ぶ。

< 到達目標 >

・HTML5を利用したWebページやBootstrapを利用したレスポンシブWebデザインによるページを作成できる。(技能)

・表計算ソフトウェアやデータベースを使用し、データの集計・分析などを行える。(技能)

・基礎的な情報技術について説明できる。(知識)

< 授業のキーワード >

HTML5, Bootstrap, Excel, データベース, プレゼンテーションスキル

< 授業の進め方 >

PCを用いた演習とプレゼンテーションを中心に実施する。

< 履修するにあたって >

欠席回数が3分の1を超える場合は単位を与えないので注意すること。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と { <https://rinsaka.com/> } も参照してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

グループ課題について役割を分担し、各自がその分担について30分? 1時間程度を使って作業することが求められる。

< 提出課題など >

作成したWebページやExcel演習での分析結果などの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題、発表内容、ゼミへの貢献度で評価する。

< テキスト >

指定しない。

< 参考図書 >

適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとID配布

ゼミの進め方を理解する。ゼミ専用サーバを利用するためのID及びパスワードを配布し初期設定を行うと共に、ファイルサーバの利用方法を理解する。

第2回 Webページの作成(1)

Webサーバへの接続方法を理解し、HTML5によってWebページを作成する

第3回 Webページの作成(2)

Webサーバへの接続方法を理解し、HTML5によってWebページを作成する

第4回 Webページの作成(3)

Webサーバへの接続方法を理解し、HTML5によってWebページを作成する

第5回 レスポンシブWebデザイン(1)

Bootstrapを用いてスマートフォンにも対応するWebページを作成する

第6回 レスポンシブWebデザイン(2)

Bootstrapを用いてスマートフォンにも対応するWebページを作成する

第7回 Excel 演習(1)

表計算ソフトウェアを利用したデータ分析を行う

第8回 Excel 演習(2)

表計算ソフトウェアを利用したデータ分析を行う

第9回 グループワーク(1)

各グループで興味を持った内容について調査し、スライド、レジュメを作成する

第10回 グループワーク(2)

各グループで興味を持った内容について調査し、スライド、レジュメを作成する

第11回 プレゼンテーション(1)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

第12回 プレゼンテーション(2)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

第13回 グループワーク(3)

各グループで興味を持った内容について調査し、スライド、レシユムを作成する

第14回 プレゼンテーション(3)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

第15回 プレゼンテーション(4)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

赤坂 義浩

< 授業の方法 >

dotcampusを使用したオンデマンド形式で行います。ご質問や連絡事項がある人は、皆さんにお知らせしている赤坂研究室PCのメールアドレス宛に連絡して下さい。

< 授業の目的 >

本講義は、2年次配当選択必修科目コア科目に位置づけられる。次年度以降に経営学部の専門科目を学修するために必要な準備を行ない、経営学部DPの「1.現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ことが、本講義の目的である。3年次開講の演習への橋渡しをするため、専門科目の学修に必要な予備知識の習得を目指す。

< 到達目標 >

本講義を履修することにより、受講者は2年次以降の経営学部各専門科目の履修に必要な予備的な知識が身につく、歴史的な視点で経営諸制度を理解したり、経営者、企業家が果たす役割について理解することが出来るようになることが目標である。

< 授業のキーワード >

企業家、企業者史学、経営者

< 授業の進め方 >

毎週、テキストのシラバスにあげている箇所を読んでもらう。その上で、dotcampusで課題を出すので、それを決められた期日までに提出してもらう。ご質問は、皆さんにお知らせしている赤坂の研究室PCのメールアドレス宛にお願いします。また、オンデマンド形式の開講ですから、特別警報・暴風警報発令時、および公共交通機関運休時も、予定通り開講します。

< 履修するにあたって >

テキストを必ず準備して下さい。課題の提出期限は必ず守って下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストの指定箇所について、必ず読んでおく必要がある。また、時代背景、不明な用語や制度、ランドマーク商品などについて、詳しく調べて理解を深めておく必要がある。その上で、課題の作成、前期末のレポート作成を行う必要がある。

< 提出課題など >

毎回テキストを講読して、内容に関する課題を提出し、前期末には企業家と企業者活動に関するレポートを作成して、提出する必要がある。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題とレポート課題によって総合的に成績評価を行う。

< テキスト >

宮本又郎編著『日本をつくった企業家』（新書館）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・準備

ゼミを開講するにあたって、開講方法、成績評価方法などについて説明し、グループ分けなどの準備を行う。

第2回 世界初の養殖真珠の事業化に成功した企業家

世界で初めて養殖真珠の事業化に成功した企業家、御木本幸吉の企業者活動について学ぶ。

第3回 デパートの経営者

日本で初めて呉服店を百貨店（デパート）に改組した企業家、日比翁助の企業者活動について学ぶ。

第4回 鉄道業の企業家 1

経営不振に陥った企業の再建に長けた企業家の代表例として、東武鉄道グループの総帥根津嘉一郎の企業者活動について学ぶ。

第5回 製菓業の企業家 1

西洋菓子メーカーのパイオニア、森永製菓の創業者である森永太郎の企業者活動について学ぶ。

第6回 鉄道業の企業家 2

ターミナルデパートやレジャー、ホテル、文化産業など、多角経営を行う私鉄企業のパイオニア、阪急電鉄の創業者である小林一三の企業者活動について学ぶ。

第7回 総合電機メーカーの企業家 1

外国企業との提携をせず、国産電気機械製造技術の確立に尽力した、日立製作所創業者小平浪平の企業者活動について学ぶ。

第8回 製菓業の企業家 2

栄養菓子「グリコ」の開発で成功し、その後次々とヒット商品を出して、1代で大手菓子メーカー江崎グリコを育て上げた、江崎利一の企業者活動について学ぶ。

第9回 総合電機メーカーの企業家 2

電力業の発展を見越して、家庭用電気機器の製造から出発し、総合電機メーカー松下電器製作所（現、Panasonic）を1代で育て上げた「経営の神様」松下幸之助の企業者活動について学ぶ。

第10回 国産自動車メーカーの企業家 1

今や世界トップクラスの自動車メーカーとなった本田技研の創業者である本田宗一郎の企業者活動について学ぶ。

第11回 総合電機メーカーの企業家 3

「自由闊達」なる企業東京通信工業を創業し、次々と斬新な商品を開発してヒットさせた電機メーカー大手ソニーの創業者、井深大の企業者活動について学ぶ。

第12回 国産自動車メーカーの企業家 2

日本にも自動車時代が到来することを見通して、国産乗用車の製造に力を尽くしたトヨタ自動車の創業者、豊田喜一郎の企業者活動について学ぶ。

第13回 総合電機メーカーの企業家 4

井深大とともに、世界のSONYを創り上げたもう1人の創業者、盛田昭夫の企業者活動について学ぶ。

第14回 西洋薬・化粧品メーカーの企業家

日本における西洋薬および西洋薬学に基づいた化粧品の開発・普及につとめた資生堂の創業者福原有信の企業者活動について学ぶ。

第15回 ゴム・タイヤメーカーの企業家

足袋製造から出発し、日本における自動車産業の発展を見越して自動車用タイヤの開発、普及につとめたブリジストンの創業者石橋正二郎の企業者活動について学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

伊藤 健

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

自身の考えや物事の正当性を正しく伝えることの難しさや重要性を知り、より良い意思疎通の方法について考える。

< 到達目標 >

聞き手にストレスを与えないプレゼンテーションができる。

< 授業の進め方 >

担当教員が説明を行うこともあるが、基本的には履修者の発表をもとにディスカッションを行う形式をとる。

< 履修するにあたって >

演習のため、欠席・遅刻は大きな減点となります。特に、自身が発表を行う回で正当な理由無く欠席した場合は成績評価を行いません。ファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

発表者は資料の準備等が必要であるが、その他の履修者も、毎回のテーマに応じて事前に情報収集をする必要がある。

< 提出課題など >

発表・報告等のための課題（準備）がある

< 成績評価方法・基準 >

ゼミへの参加姿勢（出席状況，発言等の積極性）（50%），発表・報告および課題への取り組み状況（50%）による総合評価

< テキスト >

指定しない

< 参考図書 >

必要に応じて指示，または配布

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本演習の進め方など注意事項を説明する。

第2?5回 文章で伝える

自身の考えや，物事の概要・経緯などを文章で伝える課題に取り組む。

第6回 口頭で伝える1

物事の概要を口頭で伝える課題に取り組む。

第7回 ツールの利用

プレゼンテーションソフトの基本操作に取り組む。

第8?10回 口頭で伝える2

プレゼンテーションソフトを利用して自身の考えや，物事の概要・経緯などを伝える課題に取り組む。

第11?14回 話す，聞く，反論する

グループに分かれて，主義主張や物事の正当性について討論する。

第15回 予備日

進捗状況により各回の内容は多少変化するため，それに応じて当該講義内容を決定する。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

江頭 寛昭

< 授業の方法 >

遠隔授業(リアルタイム)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す現代の企業経営に関する基本的知識を学習するとともに、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得することを目指す。選択必修科目の内のコア科目に属し、演習科目の導入科目として位置づけられる。

自動車や家電製品をはじめ、私たちの生活のあらゆる場面で、製品・部品の生産やサービスの提供、商品の販売を通じて、さまざまな企業は関わりを持って重要な役割を果たしています。ゼミでは、多様な企業活動の特色について、自ら資料を収集、検討し、まとめ、報告する力を養うことを目的とする。

なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究員として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体

的な知識をもとに助言、指導を行う。

<到達目標>

3年生で履修する演習 A、Bにおける学習で必要となる産業・企業活動に関する基本的知識と技能を習得し報告・発表で必要となる資料を収集・整理、検討することができ、報告・発表資料の作成、発表に関する技能を習得することができる。

<授業のキーワード>

企業活動、取引関係、経営戦略、経営理念、比較分析

<授業の進め方>

グループに分かれてそれぞれテーマを決め、リサーチし、レポートをまとめて発表していただきます。

<履修するにあたって>

受け身にならずに、積極的に発言し議論に参加する姿勢を重視します。

他のメンバーの報告、発言を聞き取る姿勢、自らの意見を発する姿勢を特に重視します。

<授業時間外に必要な学修>

毎日15分は企業活動に関する新聞記事に目を通すように心がけるとともに、リサーチテーマを決めてからは新聞テレビばかりでなく、活字資料(図書、業界誌)を通じてできるだけ最新の業界動向、企業動向に注意しながら情報を取得するよう心がけてください。

<提出課題など>

3-4名のグループに分かれて、グループごとにテーマを選定し、リサーチを行い報告していただきます。各回とも報告内容をもとにディスカッションを行ないます。ゼミ参加者は必ず質問、意見など、ディスカッションに参加することを求めます。

<成績評価方法・基準>

遅刻が多い場合や、欠席回数が3分の1を超える場合は評価対象になりません。報告・発表内容、受講態度、ゼミへの参加姿勢、ディスカッションでの発言等を総合的に判断して評価します。

<テキスト>

未定

<参考図書>

必要があればその都度指示します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

後期15回の授業で行う活動の概要について説明します。

第2~4回 グループリサーチ前半

3-4名のグループを作り、産業活動・業界の特徴・企業の経営特質などからテーマを決め、リサーチを行っていただきます。

第5~7回 グループレポート前半

リサーチの結果をまとめて、グループごとに報告していただきます。

第8~11回 個人別リサーチ前半

個人別にテーマを設定しリサーチし、発表していただきます。

第12~15回 個人別レポート後半

前半の発表時のディスカッションを基にテーマを絞り込み、再びリサーチし結果をまとめて発表していただきます。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

大角 盛広

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

個人的にも業務上でも利用価値の高いExcelについて、より深く理解し活用できるようになることを目標とする。よく知られている表計算機能だけではなく、簡単なシステム開発につながるような使い方について学ぶ。

また、AI、仮想通貨、IoT、RPA(ロボットによる事務の自動化)、セキュリティなど社会的な影響が大きいIT関連分野についてリサーチと発表を行うことで、リサーチの方法や効果的な発表の方法について学ぶ。

この授業は、情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPIに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からシステム開発について解説する。

<到達目標>

Excelの関数を使い役に立つシステムを作ることができる。

プレゼンテーションのための効果的な資料作成や発表ができるようになる。

<授業の進め方>

コンピュータを使った実習形式である。

<履修するにあたって>

柔軟な発想が求められる。人まねは評価しない。

<授業時間外に必要な学修>

授業で示した例を毎回少し改造して関数の応用力の養成に努めると。また、どのような情報をどのように処理すると有用か、どの程度の難易度・コストがかかりそうか、日頃からシステム構築の観点から情報というものの扱いについて考えること。

<提出課題など>

作成したシステムを提出してもらおう。

<成績評価方法・基準>

前半の実習への取り組みとシステム作成(提出)50%、後半のリサーチと発表50%の割合で評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方、評価方法等について説明を受ける。担当
教員および受講生の自己紹介を行う。

第2回 Excelの関数1

VLOOKUP関数の基礎を学ぶ

第3回 Excelの関数2

VLOOKUP関数による場合分け・仕分け等について実例で
学ぶ

第4回 Excelの関数3

VLOOKUP関数のさまざまな応? について学ぶ

第5回 Excelの関数4

INDEX、MATCH、HYPERLINK関数を学ぶ

第6回 Excelのマクロ

マクロを使った処理の自動化について学ぶ

第7回 課題作成1

今までの知識を応用して課題を作成する

第8回 課題作成2

今までの知識を応用して課題を作成する

第9回 リサーチ準備

IT関連で興味を持ったテーマを持ち寄り、同じカatego-
リーのテーマごとに4グループに分かれ、さらにグループ
内で分担等を決めてリサーチを行っていく

第10回 リサーチ1

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第11回 リサーチ2

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第12回 リサーチ3

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど、およ
び教員への中間報告

第13回 リサーチ4

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第14回 リサーチ5

グループ内での進捗報告や討論・打ち合わせなど

第15回 発表

リサーチ内容を全員に報告・発表する

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

小川 賢

< 授業の方法 >

遠隔授業（リアルタイム：10月1日まで）、原則 対面
授業（10月8日以降）

< 授業の目的 >

たくさんの企業の中でも、最終消費財を製造するメーカ-
以外はなかなか意識する機会が少ないと思います。ユニ
クロは知っていても、エアリズムやヒートテックの織
維を作っている企業はどこでしょう。（東レ）

素材産業や中間製品を製造している日本のメーカーには
世界トップクラスの実力の企業もあります。

この講義では、化学や繊維、工作機械や運輸・物流等日
本のモノづくりを支えている業界・企業に注目し、リサ-
ーチ、報告を通して業界や企業に関する基本的知識を学
修し、日本経済を様々な視点から考察するために有用な
知識を総合的に学修する。

< 到達目標 >

様々な業界についてその特徴や企業の経済活動を説明で
きる。

テーマについて設定時間に応じた分量のレジュメをまと
めることができる。

テーマについてレジュメを使って報告し他の受講生に理
解させることができる。

< 授業の進め方 >

少人数のグループワークで、与えられたテーマについて
調べ、レジュメにまとめて報告する。

< 履修するにあたって >

積極的に参加し、発言すること。無断欠席をしないこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に資料に目を通して、説明資料を作成する。質問を
考えておく。

1回の講義は1時間程度の準備が目安である。

< 成績評価方法・基準 >

発表・報告内容：60%、受講態度や他の報告に対するコ
メント：40%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方

第2回 グループワーク1・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調
べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、
報告するための資料をグループワークで作成する。

第3回 グループワーク1・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとな
った業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界
についての理解を深める。

第4回 グループワーク2・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調
べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、
報告するための資料をグループワークで作成する。

第5回 グループワーク2・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとな
った業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界
についての理解を深める。

第6回 グループワーク3・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調
べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第7回 グループワーク3・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第8回 グループワーク4・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第9回 グループワーク4・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第10回 グループワーク5・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第11回 グループワーク5・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第12回 グループワーク6・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事を調べる。関連書籍を読む。

インターネットでの情報を調べる。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第13回 グループワーク6・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

第14回 グループワーク7・ワーク

テーマとなった業界について、テキストや新聞記事、インターネットでの情報を調べる。関連書籍を読む。レジュメを作成し、報告するための資料をグループワークで作成する。

第15回 グループワーク7・報告

グループワークで作成したレジュメを基に、テーマとなった業界についての報告を行い、意見交換を通じて業界についての理解を深める。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

小澤 優子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

<主題>

この科目は、学部DPにある現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指すものである。3年次より始まる演習への導入科目として位置づけられる。

「組織の時代」といわれる現代において、われわれが企業やその経営・管理について理解することは不可欠である。本基礎演習では、そのような企業経営の全体像について理解していく。基礎的な文献を用いて経営学の理論を学習することとあわせて、私たちの周りにある企業のケースをもとに、実際の企業経営についても検討していく。講義はグループ発表の形式で進めていき、その過程で、経営学の知識を得ることとレジュメの作成方法や報告の仕方を学習していく。

<目的>

- ・経営学に関する基礎的な知識を修得し、企業経営の全体像を理解することができる。

- ・グループワークに慣れる。

- ・報告のための資料作成の方法や、発表の仕方を学ぶ。

<到達目標>

- ・経営学の全体像を説明することができる。

- ・経営学と実際の企業経営との関連付けをし、それに関して意見を述べることができる。

- ・図書館や企業のホームページにおいて、資料収集や情報探索をすることができるようになる。

<授業のキーワード>

経営学、企業、株式会社、管理

<授業の進め方>

少人数のグループワークが中心となります。

<履修するにあたって>

積極的に授業に参加することを望みます。そのために、授業中に少なくとも1回は発言を求めます。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間内に報告準備の時間をあまり取れないため、授業時間外にグループで集まって報告の準備をする必要があります。また、報告の際には、その内容の確認を事後的に2時間程度行うことが不可欠です。

<提出課題など>

報告の後に毎回簡単なレポートの提出を求めます。これに関しては、次の演習の際にいくつかの回答をサンプルとしてあげ、理解を深めるようにします。

<成績評価方法・基準>

3分の2以上の出席が必要となる。そのうえで、発表や質疑応答への参加状況(50%)、授業中の課題提出(20%)、レポート(30%)で総合的に判断する。

<テキスト>

特定のものは使用しない。

<参考図書>

吉田和夫・大橋昭一『基本経営学用語辞典』同文館出版、2015年。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

基礎演習の進め方などについて説明する。

第2回 演習のための土台作り

本基礎演習はグループワークを中心に運営していくため、企業の研修などで用いられる教材を利用し、ゼミ生同士で効果的にコミュニケーションを取ってもらう。

第3回 日経テレコンなどの利用方法の理解

情報処理実習室で、図書館のOPACや日経テレコンの使い方などを学習する。

第4～8回 「経営学」に関する報告と反省会

「経営学」とはどのような学問であるのかを学生自身に考えてもらうために、「経営学」に関連したテーマを各グループで自由に設定してもらい、その準備と報告を行う。報告後の第8回目において報告の反省会を行い、より良い報告のための方法を考える。

第9?14回 文献の輪読

経営学に関する基本的な文献に沿ってグループごとに発表をしていく。発表グループが文献の内容とそれに関連した簡単な事例を報告し、全体で質疑応答を行うことによって、専門的な学習のための土台作りを行う。

第15回 基礎演習 のまとめ

基礎演習 全体の振り返りを行う。また、この際に、これまで提出したレポートなどを返却する。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

河瀬 豊

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

経営学を学ぶには、会計とファイナンスの基本的な知識は必須である。この演習では、これらの初歩的な知識をまとめて学習する（これは1.が選択された場合を指している。他の分野が選択されれば場合は応用的な内容を含む）。前期に演習履修希望者向けの説明会を開催し、そこで受講予定者の希望を聞いて、具体的な内容を決定する。演習内容は次の項目から1つを選んでもらう予定である。
1. 会計とファイナンスの初歩を学び、実際の財務データを利用して、財務諸表分析を行う。2. 税の基礎を学ぶ。3. 論文の読み方や大学でのレポートの書き方を学ぶ。4. はずれ馬券裁判事件とパリミュチュアル式の賭けに対する効率的投資法について学ぶ。5. その他、受講予定者が希望する内容を学ぶ。以下の項目は、「1. 会計とファイナンスの初歩を学ぶ」を選んだ場合の例を示す。他の内容が選ばれた場合は、内容も異なったものになる。

また、この科目の担当者は税理士業務を10年以上経験した実務経験のある教員でもある。したがって、必要に応じて、会計実務について言及しながら、受講生の理解を深める演習にすることを旨とする。

本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシーに示す「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」こと及び「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する」ことを目指す。

< 到達目標 >

- ・ 会計とファイナンスの初歩的な知識を得る。
- ・ 財務諸表を読んで会社がどのような状況なのかを把握することができる。
- ・ 教科書どおりの企業価値評価ができるようになる。

< 授業の進め方 >

教科書や配付資料を報告担当者を決めて輪読する。

< 履修するにあたって >

事前に説明会を開催し、演習の内容を説明し、テーマを決定する。説明会に参加しない場合は、説明会の内容をすべて承諾したものとみなして授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

演習形式なので、資料の読み込みや報告準備に相当の学習時間が必要である。

< 提出課題など >

必要に応じてレポート等を課す。

発表レジュメについては、発表後にコメントする。レポートについては、個別に口頭または文書でコメントする。最終レポートについては、評価の判断に使用するのみであるが、希望者にはオフィスアワーなどを利用してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の報告及びレポートを中心に総合的に評価する。なお、ゼミに出席することは当然なので、出席点はなく、欠席は相当の減点対象となる。

< テキスト >

演習内容確定後に教科書を決定する。

< 参考図書 >

【指定図書】

保田隆明・田中慎一（2013）『あわせて学ぶ 会計&ファイナンス入門講座』ダイヤモンド社。

【参考図書】

桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社（最新のもの）。
リチャード・A・ブリーリー他（2014）『コーポレートファイナンス第10版上』日経BP社。

< 授業計画 >

第1回? 第3回 学習の準備

情報収集の仕方、論理の初歩を学ぶ。

第4・5回 財務諸表

財務諸表の読み方を学ぶ。

第6・7回 財務諸表分析

財務諸表分析の初歩的な知識を確認し、実際に財務諸表分析を行う。

第8・9回 現在価値

時間価値について学ぶ。

第10・11回 投資意思決定

投資意思決定の判断基準を学ぶ。

第12・13回 企業価値

企業価値を求める考え方を学ぶ。

第14・15回 企業価値評価の演習

これまで学んだことを活かして実際に企業価値評価を行う。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

今野 勤

< 授業の方法 >

講義、演習

< 9月20日(月) ~ 10月2日(土) までの授業形態 >
遠隔授業(リアルタイム授業)

10月4日(月)以降の授業形態は、対面です。

< 授業の目的 >

本ゼミでは、学生が、就職して社会に出ると様々な問題を扱う。営業職についた人は、“お客さんから怒られてばかりで、営業に行きたくない”。公務員になった人は、“規則が厳しくて、職場に行きたくない”などいろいろな問題がある。これを学生生活に当てはめると、“単位が取れない”、“朝起きられなくて、1限目に出席できない”、“友達ができない”、“バイトと勉強が両立できない”などがある。これらの問題を解決するには、問題に関する情報の収集・分析が大切である。様々な情報の中から、問題の真の原因を探りだすことによって、解決するための方法が見つかる。ゼミでは、学生生活で直面する様々な問題を、就職してから起きる問題に当てはめて、問題解決法を勉強する。具体的には、学生生活で起きる身近な問題を例題に、情報を収集・分析し、対策を立てる。すなわち問題解決法を学ぶ。

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、

1．現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために

有用な知識を総合的に学修する。

3．情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題

をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する。

5．経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

に対応している。

この授業は、実務経験のある教員が指導する。企業の経営現場のリアルな情報により、理論の実践の違いが理解できる。

< 到達目標 >

学生の時、遭遇する問題の原因を探索し、問題解決能力をつける。社会人になった時の問題解決の基礎的な力をつける。

< 授業のキーワード >

問題解決法

< 授業の進め方 >

エクセルで作成した演習を通じて、問題解決法を理解する。

< 履修するにあたって >

積極的に質問をしてください。ゼミの際にUSBを持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で出題される課題を復習すること。目安の時間は、毎回1時間

参考図書の図表、例題を自習する

< 提出課題など >

ゼミの中で小テストを実施する。また、授業中に受講者の意見や疑問点について自発的発言を求めることがある。

< 成績評価方法・基準 >

半期10回以上の出席。課題提出2回で40%、期末課題提出で40%、授業態度、出席、遅刻・早退などを総合的に勘案した授業への取り組み20%で評価する。

< テキスト >

今野 勤 他 「実務に直結！エクセルによる即効問題解決」 日科技連出版

< 参考図書 >

参考図書：今野 勤 ほか：文科系のため情報科学 共立出版 2017

< 授業計画 >

第1回 クラス・ガイダンス

このクラスの全体の狙いを説明。

企業における問題解決とは

企業における問題解決の問題点

$Y=f(X)$

第2回 問題解決と実務

問題解決のステップ

問題解決のステップと手法

問題解決法の学び方

問題解決法の効果について、解説する

第3回 問題の定義 1

問題の定義

プロセスマップ

Y=f(X) について解説する

第4回 問題の定義 2

パレート図

プロジェクトチャーター

について、EXCEL例題による演習を通じて理解する。

第5回 問題の測定 1

問題の測定について解説する

ヒストグラムについてEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第6回 理解度の確認

課題提出 1

第7回 問題の測定 2

ランチャート クレームデータ解析についてEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第8回 問題解決の計画

PDPC法 ガントチャートについて、例題を演習を通じて理解する。

第9回 要因の解析 1

FMEA 因果マトリックスについて例題を演習を通じて理解する。

第10回 理解度の確認

課題提出 2

第11回 要因の解析 2

平均値の差の検定 分散比の検定をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第12回 要因の解析 3

相関・回帰分析をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第13回 要因の解析 4

重回帰分析をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第14回 要因の解析 5

数量化理論 類をEXCEL例題を演習を通じて理解する。

第15回 まとめ

期末課題提出

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

齋藤 政彦

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

「データは21世紀の石油である」という言葉が示す様に、現在では、インターネットや情報処理技術の飛躍的な発展により、データは様々な分野で活用され、価値を生み出している。スマートフォンが常時インターネットに接続され、三宮を歩きかう人の流れがビッグデータとして蓄積されている。またコンビニの商品の売り上げデータ

も、中央コンピュータに集められ、大手コンビニの経営を支えている。「データ」は「石油」ではなく、「原油」であり、それが精製されてこそ価値を生むのであるが、データを精製する技術がデータサイエンスである。この演習では、現代のデータサイエンスの概要を学び、さらにデータサイエンスの重要な要素である統計学の基礎をビジネスや地域課題の解決における実例を通して学ぶ。

< 到達目標 >

1 現在進展中のデータサイエンスの概要を理解する。
2 様々なデータをエクセル等のツールで分析し、統計学の基礎を理解する。

3 実際のグループワークを通してデータを用いた課題解決の方法を理解する。

< 授業のキーワード >

データサイエンス、AI、インターネット、統計学、データ解析

< 授業の進め方 >

講義と講義の内容に則した演習を行う。学生各自のパソコンを持ち込んでエクセルの実習を行う予定である。

< 履修するにあたって >

積極的に課題に取り組みつつ統計学の基礎を理解し、実際色々な課題についてデータ解析を行ってほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義や演習の課題について復習を行うこと。

< 提出課題など >

毎回の課題をメールまたはLMSで提出。最終プレゼン資料（グループごと）と最終レポートを提出する事。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の課題50%、最終プレゼン資料20%、最終レポート30%で評価する。

< テキスト >

『データサイエンス講座 1 データサイエンス基礎』

齋藤政彦・小澤誠一・羽森茂之・南知恵子 編

培風館

ISBN:978-4-563-01610-4

< 参考図書 >

ビジネス統計学上・下、アミール・D・アクゼル、ジャヤベル・ソウンデルバンディアン著；手嶋宣之、原郁、原田喜美枝訳、上 ISBN 9784478470923、下 ISBN 9784478470930

ダイヤモンド社、2007.3

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとデータサイエンス概要 1

この講義の概要とデータサイエンスの最近の進展について学ぶ。

第2回 データサイエンス概論 2

社会で活用されているデータやAIについて学ぶ。

第3回 データ解析と統計 1

データの種類やデータの基本的な統計量を学ぶ。エクセル等のツールの使い方も説明する。

第4回 データ解析と統計 2

データの間の相関関係や、相関関係と因果関係について、エクセル等で実データを解析しながら学ぶ。

第5回 データ解析と統計 3

データを表現する方法として、様々なグラフの表現を学ぶ。エクセル等で実際にデータのグラフ化を行う方法を学ぶ。

第6回 データ解析と統計 4

データ解析における統計的推定や検定をおこなうための確率と統計の基礎をまなぶ。エクセルによる実習を含む。確率の考え方、条件付き確率、順列・組み合わせ

第7回 データ解析と統計 5

データ解析における統計的推定や検定をおこなうための確率と統計の基礎をまなぶ。エクセルによる実習を含む。データの分布を確率的にとらえる。

第8回 データ解析と統計 6

データ解析における統計的推定や検定をおこなうための確率と統計の基礎をまなぶ。エクセルによる実習を含む。正規分布、二項分布の正規近似

第9回 データ解析と統計 7

データ解析における統計的推定や検定をおこなうための確率と統計の基礎をまなぶ。エクセルによる実習を含む。標本と標本分布

第10回 データ解析と統計 8

データ解析における統計的推定や検定をおこなうための確率と統計の基礎をまなぶ。エクセルによる実習を含む。信頼区間と仮説検定

第11回 データ解析課題解決演習 1

グループに分かれ、データセットと課題を設定し、データ解析を行い、課題解決を目指す。グループでデータセットと課題を話し合って設定する。

第12回 データ解析課題解決演習 2

グループに分かれ、データセットと課題を設定し、データ解析を行い、課題解決を目指す。データの可視化や色々なデータ解析を試行し課題解決の方向性を探る。

第13回 データ解析課題解決演習 3

グループに分かれ、データセットと課題を設定し、データ解析を行い、課題解決を目指す。データ解析を行い、課題解決を目指す。また得られたデータ解析の結果を可視化してまとめてみる。

第14回 データ解析課題解決演習 4

グループに分かれ、データセットと課題を設定し、データ解析を行い、課題解決を目指す。最終発表会に向けて、プレゼン資料を準備する。

第15回 最終発表会

得られたデータ解析の結果と解釈をグループごとに発表する。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

塩出 省吾

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

社会では様々なアンケート調査の結果が新聞や雑誌、インターネット等で公表されている。それらのデータは料理の材料と同様で、そのままでも食べられるかも知れないが、料理すればもっと美味しく食べられるのである。すなわち、集められたデータをさまざまな形で加工するのである。本演習では経営の現場での問題をデータ処理の手法を学習し、分析する技術を身に着けることを目的とする。

< 到達目標 >

- ・社会において収集されるデータを正しく理解することができる。
- ・発表されている調査結果の見方から将来の予測まで理解できる。

< 授業のキーワード >

アンケート調査、統計分析

< 授業の進め方 >

テキストに従って学習する。また、データを扱っている事例について学習し、グループによる発表も実施する。

< 履修するにあたって >

新聞等で掲載される統計データに普段から関心を持つことが大切です。正当な理由がなく4回以上休むと単位は与えられません。(遅刻は時間で累計する。)

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞、雑誌、本やインターネットから関心のあるデータを集める。

< 提出課題など >

レポート課題を課する。

< 成績評価方法・基準 >

受講状況および発表50%、レポート50%で評価する。

< テキスト >

必要に応じて配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本演習で学修する内容について説明する。

第2回 統計学の基礎

身近な例を基に統計学の基礎を学習する。

第3回 統計学の基礎

実際に使える統計の方法について学習する。

第4回 統計学の基礎

実例から統計を学ぶ。

第5回 データの入手

データの入手の方法について学習する。
第6回 平均値と正規分布
平均値と正規分布をマスターする。
第7回 偏差値と相関
偏差値と相関の意味について学習する。
第8回 標本誤差と仮説検定
標本誤差と仮説検定をマスターする。
第9回 最近の統計の話題
統計で最近話題になったテーマを学ぶ。
第10回 最近の統計の話題
統計で最近話題になったテーマを学ぶ。
第11回 最近の統計の話題
統計で最近話題になったテーマを学ぶ。
第12回 発表準備
班分けと班ごとに決定したテーマに従った発表の準備をする。
第13回 発表準備
班ごとに決定したテーマに従った発表の準備をする。
第14回 発表準備
班ごとに決定したテーマに従った発表の準備をする。
第15回 発表会
各班で選んだテーマに従って発表する。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

島永 和幸

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。コア科目に属し、2年次の演習科目として位置づけられる。会計学の入門的な内容を身につけることを目的とする。

< 到達目標 >

入門的な会計学に関する知識について理解できる。(知識)、簡単なレジюмеを作成し、発表できる。(技能)

< 授業のキーワード >

会計学

< 授業の進め方 >

テキストの章ごとに担当を割り当てて、報告用のレジюмеを作成し、報告する。担当者からの報告後、グループに分かれてディスカッションを行う。各回の状況に合わせて、講義内容を適宜変更することがある。

< 履修するにあたって >

第1回目のゼミまでにテキストを購入しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、割り当てられた章のレジюмеを作成すること(目安として3時間)

事前・事後学習として、テキストを読み込んでおくこと。(目安として1時間)

< 提出課題など >

レジюмеを作成し、人数分印刷し、ホッチキス止めし、授業の開始時に配布すること。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミ中の質疑・発表、提出課題等100%で総合的に評価する。レジюмеによる報告とグループワーク活動による評価が主となる。

< テキスト >

上野清貴・小野正芳編著『スタートアップ会计学(第3版)』同文館出版、2022年。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

第12章

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準、講義の概要等を理解する。テキスト 第12章「持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの」の内容を理解する。担当者の割り当てを行う。

第2回 第1章

テキスト 第1章「会計ってなに」の内容を理解する。

第3回 第2章

テキスト 第2章「会計にどんな資格があるの」の内容を理解する。

第4回 第3章

テキスト 第3章「会計情報はどう利用するの」の内容を理解する。

第5回 第4章

テキスト 第4章「企業の成績はどうやってみるの」の内容を理解する。

第6回 第5章

テキスト 第5章「会計は経営にどう役立つの」の内容を理解する。

第7回 第6章

テキスト 第6章「モノがいくらでできたかはどうやって決まるの」の内容を理解する。

第8回 第7章

テキスト 第7章「会計情報はどうやってつくられるの」の内容を理解する。

第9回 第8章

テキスト 第8章「会計制度はどうなっているの」の内容を理解する。

第10回 第9章

テキスト 第9章「財務諸表は信頼できるの」の内容を理解する。

第11回 第10章

テキスト 第10章「会社の税金はいくらになるの」の内容を理解する。

第12回 第11章

テキスト 第11章「グローバル経済における会計ルールってなに」の内容を理解する。

第13回 第13章

テキスト 第13章「ボランティア活動にも儲けが必要な」の内容を理解する。

第14回 第14章

テキスト 第14章「自治体の会計はどうなっているの」の内容を理解する。

第15回 第15章

本基礎演習のまとめとふりかえり

テキスト 第15章「簿記・会計はどこからやってきたの」の内容を理解する。

本基礎演習のまとめとふりかえりを行う。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

島永 嵩子

< 授業の方法 >

演習形式

< 授業の目的 >

この科目は、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。本ゼミは、コア科目に属し、2年次の演習科目として位置づけられる。本ゼミは、事例研究(ケーススタディ)を通じて、マーケティング分野の基本的概念や理論に対する理解を深めることができるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

1. マーケティング発想の原点である顧客志向について理解できるようになる。

2. マーケティング・ミックスやSTPなどのマーケティングの基本概念を理解できるようになる。

< 授業のキーワード >

1. マーケティング 2. 顧客志向

< 授業の進め方 >

グループ討議やグループごとのプレゼンテーションの形で進める。具体的には、毎回配布されるショートケースをもとに、グループに分かれてディスカッションを行う。提示された課題に対し、グループとしての意見をまとめ、発表してもらう。

< 履修するにあたって >

ゼミでは、毎回の出席が基本です。遅刻も無断欠席も厳禁とします。全講義回数3分の1以上の欠席の場合には、その時点で「不可」となります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習として、新聞や雑誌で企業のマーケティング戦略の動きを把握するように努めること。(目安と

して2時間)

< 成績評価方法・基準 >

ゼミへの貢献度(50%)および発表の内容(50%)によって評価する。

< 参考図書 >

石井淳蔵・廣田章光編著(2016)『1からのマーケティング・デザイン』中央経済社。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概略を理解する。

第2回 消費者の行動

消費者の意思決定プロセスを理解する。

第3回 マーケティング・リサーチ

顧客理解のマネジメントを理解する。

第4回 市場環境分析

マーケティング・マネジメントのあり方を理解する。

第5回 市場へのアプローチ

市場細分化のあり方を理解する。

第6回 差別化戦略

市場でのポジショニングの考え方を理解する。

第7回 製品戦略

製品デザインのあり方を理解する。

第8回 ブランド戦略

マーケティング資産であるブランドのデザインを理解する。

第9回 価格戦略

価格デザインのあり方を理解する。

第10回 コミュニケーション・ミックス

マーケティング・コミュニケーションのデザインのあり方を理解する。

第11回 流通チャネル

流通チャネルのデザインのあり方を理解する。

第12回 マーケティングの基本戦略

市場における地位によって決まる市場地位別戦略の考え方を理解する。

第13回 製品ライフサイクル

製品ライフサイクルに応じて有効なマーケティング・ミックスの考え方を理解する。

第14回 関係性マーケティング

顧客との関係性のあり方を理解する。

第15回 まとめ

講義全体のまとめ

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

千田 直毅

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本講義では、1年次に学んだ経営学の基礎知識や考え方を再確認するとともに、自ら学習し他者と議論するための基礎を学ぶ。

< 到達目標 >

テキストの輪読を通じて経営学の基礎知識を体系的に理解するとともに、文章作成能力、身近な経営現象を分析する能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。

< 授業の進め方 >

テキストやケース資料の輪読および少人数のグループ課題の報告形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

グループワークにおける調査、分析、報告資料の作成等は講義時間外に行う必要があります。

< 提出課題など >

初回講義時に詳細について説明します。

< 成績評価方法・基準 >

輪読やケース討議時に出される課題レポート(30%)、発表への取り組み、ディスカッションへの参加度(70%)。無断欠席と遅刻については厳しく減点します。

< テキスト >

初回講義時に指示する。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

基礎演習 の概要、講義の進め方に関する説明

第2回 テキストの輪読、ディスカッション

会社の経営とはどんなことか：企業経営入門

第3回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどのようにして社会に役立っているのか：企業

第4回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどのような方針で動いているのか：経営理念と戦略

第5回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどんな仕組みで動いているのか：組織形態

第6回 テキストの輪読、ディスカッション

会社は他の会社とどのように協力しているのか：組織間関係

第7回 テキストの輪読、ディスカッション

会社は誰が動かしているのか：コーポレート・ガバナンス

第8回 テキストの輪読、ディスカッション

会社はどのようにしてモノを造るのか：生産管理

第9回 テキストの輪読、ディスカッション

社員は仕事をどのように分担しているのか：組織構造と職務設計

第10回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はなぜ働くのか：モチベーションとリーダーシップ

第11回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はなぜ組織にとどまろうとするのか：雇用システム

第12回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はどのような報酬を求めるのか：報酬制度

第13回 テキストの輪読、ディスカッション

社員はどのようにして育てられるのか：人材育成制度

第14回 テキストの輪読、ディスカッション

会社は海外でどのように経営しているのか：国際経営

第15回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと復習

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

田中 康介

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本ゼミでは、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目的とする。そのため、身近にある事象や事例(ケース)を取り上げ、それらのビジネスとしての考え方や仕組み(モデル)等について理解することを目指す。例えば、「なぜ『100円ショップ』は安いのか?」、「なぜ『通販』で買ってしまうのか?」などをテーマとして、ビジネス(事業戦略・企業経営等)の視点から、現実的・実践的に分析・研究を行う。

< 到達目標 >

1. 企業のビジネスの仕組みを説明できる。
2. 実在する企業の事例から、その活動を実践的に分析、考察できる。
3. 自らが調査研究して、まとめた内容を具体的に説明できる。

< 授業のキーワード >

ビジネスモデル、事例研究(ケース・スタディ)、100円ショップ、通信販売、サイバーモール、プラットフォーム

< 授業の進め方 >

「授業の方法」「遠隔授業情報」参照。詳しく(授業の方法・内容等)は、初回に説明します。グループ・ワーク、ディスカッション等を中心に行います。各自の自主性を尊重します。

< 履修するにあたって >

履修者には、調査や研究に対する積極的な取り組みが望まれます。ゼミ(クラス)では授業中、自主的・自発的な発言が求められます。無断欠席をしないで下さい(他のメンバーに迷惑が掛かることもあるので)。

< 授業時間外に必要な学修 >

ゼミ以外の時間でも、自主的・積極的に調査研究を行っ

て下さい。

<提出課題など>

講義期間中に、レポート（各テーマについて各自、どれだけ理解したか）を3回、提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

レポート（3回実施：1回25%）75%、研究発表（プレゼンテーション・ディスカッション）等25%の割合（計100%）で、成績評価します。フィードバックに関しては、レポートは実施（回収）した回の次の授業で行い、研究発表は発表後（授業中）、講評します。但し評価対象は、出席回数が授業回数の3分2以上であることを前提とします。

<テキスト>

オリジナル教材を使用します。教材や資料（ケース、公表資料その他）は適宜配布します。

<参考図書>

必要に応じて指示します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス～イントロダクション

最初に、本ゼミの目的や方法、概要等について説明した上で、導入講義を行う。導入講義では、まず「ビジネスモデルとは何か」（意味・意義）を理解し、そして、経営戦略とビジネスモデルの関係や、ビジネスモデルのタイプ（類型）等について理解していく。

第2回 イントロダクション

第1回に続き、導入講義を行う。ここでは、実在する企業の成功や失敗の例から、それらの理由を考察し、ビジネスモデルのあり方や成功条件について検討する。

第3回 なぜ「100円ショップ」は安いのか？（1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、その結果や成果について検討する。

第4回 なぜ「100円ショップ」は安いのか？（2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第5回 なぜ「100円ショップ」は安いのか？（講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、100円ショップのビジネス・モデルについて解説する。

第6回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（テレビ通販のケース1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、その結果や成果について検討する。

第7回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（テレビ通販のケース2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究

発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第8回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（テレビ通販のケース：講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、テレビ通販のビジネス・モデルについて解説する。

第9回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（本・雑貨等のネット販売のケース1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、その結果や成果について検討する。

第10回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（本・雑貨等のネット販売のケース2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第11回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（本・雑貨等のネット販売のケース：講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、本・雑貨等のネット販売のビジネス・モデルについて解説する。

第12回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（サイバーモールのケース1）

標記テーマについて各自、或いはグループで調査研究（情報収集、文献サーベイ、グループ・ワーク等）を行い、その結果や成果について検討する。

第13回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（サイバーモールのケース2）

標記テーマについて、ディスカッション（討議）や研究発表等を行い、クラス全員で、自分（グループ）の思索や意見を披露しながら、テーマに関する理解をより深めていく。

第14回 なぜ「通販」で買ってしまうのか？（サイバーモールのケース：講評・解説）

標記テーマについて、グループや各自の研究成果を講評し、サイバーモールのビジネス・モデルについて解説する。

第15回 全体総括

本演習全体を通じて学習した事をまとめ、総括する。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

辻 幸恵

<授業の方法>

演習

< 授業の目的 >

この時期は基礎科目から専門科目への移行期にあたる。社会をリードする人間になることは本学の目指す姿でもある。この授業の目的のひとつは、構成メンバーがリーダーシップを身につけることであり、誰かに指示されるだけではなく、自ら考えて行動できることを目指す。そして、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得することを目標とする。実務経験がある教員として事例などを示しながら、実際の消費者の行動とマーケティングの理論の合致するところとしないところを説明する。

< 到達目標 >

1) グローバルで多角的な視点からとらえられることができる。陳列棚に並べられている商品を見て、売れるか否かの判断ができるようになることである。

2) もしも自分が営業をする立場であれば、どのように陳列をするのか、どのようなキャッチコピーにするのかを考え、自分がやるならばどうしたいのかを考えることができるようになることである。

そのために、経営の問題を総合的に分析・解析できる知識をつける。

3) 実際の店舗販売では必要になる技能の初歩もスキルとして身につける。これはアクティブラーニングを通じて身につける。

< 授業のキーワード >

ヒット商品、流行、マーケティング、ゆるキャラ、雑貨
< 授業の進め方 >

講義形式ではあるが、少人数のグループディスカッション、グループ発表などグループの活動も取り入れる。また、課題に対する個別発表もしてもらう。黙って座っていれば時間が過ぎるというわけではない。活発に発言を求める。

< 履修するにあたって >

ヒット商品や流行についてのニュースがあれば気をつけて読んでほしい。また、今、何が流行しているのかを衣食住の中で常に気にしてほしい。当たり前ではあるが、遅刻、無断欠席、早退は認めない。また、欠席理由を述べたとしても欠席にはかわりはない。自己の健康管理は生活の基本であるので、その部分ができない者には向かないゼミである。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書を指定しているので、課題などをこなすときの参考資料として毎回2時間くらいかけて、よく読んでほしい。また、資料作成時には日経ビジネスなどの雑誌を参考にしてほしい。これはインターネットで配信されているニュースでもかまわない。特にニュースなどは毎日30分くらいは目を通すように習慣をつけてほしい。学外での研修に際しては各自が課題についてゼミ時間以外の時間をかけて成果を出すように準備をしてほしい。

< 提出課題など >

グループ発表をした時の資料や原稿は提出してもらう。また、同時に個人発表の資料や原稿も提出してもらう。15回目の授業内で作成するレポートも提出してもらう。いずれも後日には受け取らない。

< 成績評価方法・基準 >

1. 初回のガイダンスをのぞいて、2回目から、毎回の授業での態度、発言点、ゼミへの貢献度を点数化する。0点から3点で毎回評価をする。授業が14回なので42点の配点となる。

2. グループ発表は2回を予定している。0点から5点で毎回評価をする。2回で10点の配点となる。

3. 個人発表は3回を予定している。0点から5点で毎回評価をする。3回で15点の配点となる。

4. 最終回15回目の授業内で作成するレポートは0点～10点で評価をする。

5. ゼミのアフターケアの点数が23点ある。これは課題に取り組む姿勢や、資料提出など積極的にゼミに参加をしたことに対する点数である。

以上の1から5までの合計を評価点とする。

< テキスト >

山本浩二、上野山達哉編著『マネジメント講義ノート』白桃書房、2017年、2750円＋税

< 参考図書 >

辻幸恵『こだわりと日本人』白桃書房、2013年、2800円＋税

< 授業計画 >

1回 ガイダンス

授業の概要を説明する。授業の進め方、目標、約束事、評価の方法などである。また、自己紹介を各自にしてもらう。

2回 マネジメントの全体像について

教科書の序章からはいる。また、マーケティングがどのような時に必要であるのかも説明する。(教科書は序章を参考)

3回 現代の課題になっている現象への理解の1回目

現代社会の課題や問題点について考える。

4回 ヒット商品とは何か、もうかるための工夫

大正・昭和時代のヒット商品を時代背景と共に例示をする。そして儲かるためには、原価と利益との関係を知る必要があるため、教科書を用いて原価についても説明する。(教科書は第1章を参考)

5回 マーケティング的な考え方について

なぜ製品を買おうと思ったのか、何がそれに影響しているのかについてマーケティングの基本と照らし合わせて考える。(教科書は第8章を参考)

6回 消費者の行動について

誰もが知っている彦根城のひこにゃんと熊本県のくまモンはなぜ、有名になったのかを由来をもとに学び、なぜキャラクターを使った商品が消費者に受け入れられるの

かを考える。これは、企業が有している企業キャラクター(キョロちゃん、ハム係長、ポンデライオン、ペプシマンなど)にも通じることである。(教科書は第9章を参考)

7回 現代の課題になっている現象への理解の2回目
自らか調べたことを起承転結をつけて正確に伝える練習をする。グループディスカッションをして問題解決の方向性を探る。

8回 前半の復習とまとめ

ヒット商品をテーマにマーケティングの基本についてや、過去と現在のヒット商品などを学んだ。それらを思い出すと共に、グループ発表や個人発表の方法を復習をする。ゼミ運営についても確認と前半での反省点などを話しあう。改善点があれば後半に改善をする。

9回 流行させるための戦略について

前半でヒット商品という現実的な事例や現代社会の課題を学んだので、後半の最初に流行させるための戦略について学ぶ。(教科書は第4章を参考)

10回 戦略の実現性について

世の中の流行やヒット商品を世に多く出す会社がある。その組織に注目し、戦略を実現するためにはどのような組織が必要かについて学ぶ。(教科書は第5章を参考)

11回 現代社会の課題についてグループでディスカッション

日本の現代社会の課題について過去2回に渡って授業で取り上げたが、今回は来週のグループ発表にむけて各グループ内で意見をまとめる

12回 課題を選択してグループ発表

授業内で学習した範囲で課題を選択してグループ発表をおこなう。

13回 流行を生み出す組織内の人間行動

ここでは消費者ではあるが、組織の中では従業員でもあることが現実である。流行を生む組織とそうではない組織内の人間行動について学ぶ。(教科書は第6章を参考)

14回 流行を生み出す人材

流行を生み出す組織とそうではない組織について学んでいるが、組織内の人間行動についてここでは理解する。どのような人材マネジメントが必要かを考察する(教科書は第7章を参考)

15回 今後の研究の方向性と問題点について

ヒット商品を題材として流行をつくり出すしくみ(マーケティング手法)を説明してきた。また、何度も人前で発表する体験を通じて、人に伝えることのむずかしさや自らが考え、動くことも体験できたはずである。そこで今回は各自が課題を選択し、授業内の30分間でレポートを作成してもらう。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

永岡 成人

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

教科書を用いてミクロ経済学の理論を学習し、その理論が予測する事態が起きるかどうかを実験してみます。具体的には、ミクロ経済学の市場均衡理論を取り上げ、被験者を準備して仮想的な取引の実験を行い、理論が予測する形の取引が成立するかどうかを確かめてみます。この科目では、演習形式によってミクロ経済学を習得することで、経営学部のディプロマポリシー(DP)が示す「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する」ことを目指します。

<到達目標>

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

<授業のキーワード>

ミクロ経済学、実験経済学

<授業の進め方>

演習形式の授業のため、前半の理論の学習については、履修者をグループに分けて教科書の担当箇所を決め、その内容を報告してもらうという形で、履修者による発表を中心に進めます。後半の経済実験の進め方については、それまでの履修者の演習への取り組み状況によって判断します。

<授業時間外に必要な学修>

教科書の発表準備および経済実験の準備

<提出課題など>

課題の提出にはMoodleを使用します。

<成績評価方法・基準>

授業中に出席する課題(レポート、発表、問題演習など)によって評価します。

<テキスト>

必要に応じて資料を配布します。

<参考図書>

中谷武・中村保『1からの経済学』碩学舎、2010年。

小川一仁・川越敏司・佐々木俊一郎『実験ミクロ経済学』東洋経済新報社、2012年。

<授業計画>

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、教科書の発表担当箇所を決定します。

第2回 経済実験を体験してみる

被験者として実験に参加し、経済実験を体験してみます。

第3回 需要と供給

教科書を用いて、需要と供給について学習します。

第4回 需要と供給（続き）

前回に引き続き、需要と供給について学習します。

第5回 価格メカニズム

教科書を用いて、価格メカニズムについて学習します。

第6回 価格メカニズム（続き）

前回に引き続き、価格メカニズムについて学習します。

第7回 市場の効率性

教科書を用いて、市場の効率性について学習します。

第8回 市場の効率性（続き）

前回に引き続き、市場の効率性について学習します。

第9回 問題演習

これまでの内容の理解を深めるために、問題演習を行います。

第10回 経済実験の準備

経済実験の実施するための準備を行います。

第11回 経済実験の準備（続き）

前回に引き続き、経済実験の実施するための準備を行います。

第12回 経済実験を実施する

経済実験を行います。

第13回 経済実験を実施する（続き）

前回に引き続き、経済実験を行います。

第14回 経済実験の結果をまとめる

経済実験の結果が、経済理論の予測する結果になっていたかを確かめてみます。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

福井 直人

< 授業の方法 >

演習（対面）

< 授業の目的 >

本科目基礎演習福井ゼミは、経営学総論を既に履修済みであることを前提として、総論における組織の管理に重点を置いて知識を深めます。そして、学生諸君が経営組織の概念や理論を理解することを目的とします。企業をはじめとする組織の活動は、そこで働く人々を共通目的のために方向づけることで機能しています。この共通目的の達成のために、組織全体の仕事をどのように人々で分担（分業）し、かつそれらを纏め上げるか（調整）を考える学問領域こそが、経営組織論です。すなわち、組織の構造はどのように作られるか、組織はどのようなプロセスで動いているか、またそれを管理するために経営者は何をしなければならぬかを、経営学の諸学説を検

討するなかで学びます。また、組織の中の人間行動（モチベーションやリーダーシップ）についてもその概論的内容を学びます。

この科目は、企業経営において必須である組織づくりに関連している点において、学部のDPである、

1．現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する。

5．経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する。

に大いに関連しています。すなわち企業経営とは組織の管理といっても過言ではなく、これを学ぶことは経営学の全体像を把握するのに必須のことなのです。また、講義の終盤でダイバーシティの論点が出てくるという点では

4．社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する。

も視野に入れたものになってきます。

< 到達目標 >

1．経営組織の基礎的概念について説明できる。

2．組織変革に成功した企業の情報を独力で収集できる。

3．身近な組織（家庭、サークル、アルバイトなど）に本科目の知見を応用し実践できる。

< 授業のキーワード >

経営組織、組織構造、組織過程、組織成果

< 授業の進め方 >

各回1章ずつ教科書を読み進めます。各回1名ずつ報告者を割り当てますので、報告者は1つの章についてレジュメを作成し報告することが求められます。報告者以外の人も必ず教科書は熟読してきてください。その内容についてディスカッションを行いたいと思います。もちろん難しい内容については福井から説明することもあります。

< 履修するにあたって >

経営学入門の内容を復習しておいてください。本科目と非常に関連性の高い科目は経営管理総論ですので、そちらも併せて受講ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に教科書の指定された箇所を読み、分からない語は辞典で調べる。（目安として1時間）

事後に配布資料およびノートを見直す。必要に応じて教科書に立ち返る。（目安として1時間）

< 提出課題など >

とくにありません。

< 成績評価方法・基準 >

各回の小課題50%、期末レポート50%とし、教科書の指定箇所について報告することは単位修得の前提とします。期末レポートでは、現実の企業における実態と学術的な理論の往復ができるかという観点から、論述問題を出题します。問題は教科書の章末問題におそらく準じます。

<テキスト>

上林憲雄・庭本佳子編(2020)『経営組織入門』文眞堂。
(2,090円)

<参考図書>

安藤史江・稲水伸行・西脇暢子・山岡徹(2019)『ベシ
ックプラス経営組織』中央経済社。(2,640円)

高尾義明(2019)『はじめての経営組織論』有斐閣。(2,
090円)

鈴木竜太(2018)『経営組織論』東洋経済新報社。(2,42
0円)

<授業計画>

第1回 経営組織論への招待

経営組織論とはどのような学問かを説明する予定ですが、
諸君が教科書が入手できていない場合には、研究倫理に
関する注意喚起(とくにレポートでの文献引用の方法)
という内容で講述する可能性もあります。

第2回 経営組織とは(組織入門)

組織がなぜ必要とされるのか、また組織を維持・存続さ
せるためには何を行わねばならないかを検討します。(教
科書第1章)

第3回 組織の基本原則(組織構造)

組織における分業と調整のあり方について考えます。(教
科書第2章)

第4回 物事を決める(意思決定)

バーナード組織論とサイモン意思決定論を中心に、限定
合理性を克服すべく組織的意思決定がいかになされるか
を学習します。(教科書第3章)

第5回 メンバーのやる気を高める(モチベーション)

組織のメンバーのやる気をいかに高めるか、モチベーシ
ョン論を中心に考察します。(教科書第4章)

第6回 メンバーを引っ張る(リーダーシップ)

組織のメンバーを組織目的に向けるために、いかに影響
を及ぼしていくか、リーダーシップ論の観点から考えま
す。(教科書第5章)

第7回 チームを組む(チームワーク)

複数の人々による協働をいかにして促進させるか、チー
ムワークの観点から考えていきます。(教科書第6章)

第8回 組織の形を変える(組織形態)

環境や戦略に応じて、組織の形をどのように設計するか
を検討します。(教科書第7章)

第9回 文化を捉える(組織文化)

組織のメンバーに共有された意味の体系である組織文化
について、その定義や機能を学びます。(教科書第8章
)

第10回 情報・知識を捉える(知識創造)

組織がいかにして情報を処理し、知識を創造するのかを
学びます。(教科書第9章)

第11回 革新をおこす(イノベーション)

組織におけるイノベーションの意義について確認し、い
かにしてイノベーションを促進するかを考えます。(教

科書第10章)

第12回 他組織と協力する(ネットワーク)

組織は単独で活動するのではなく、他の組織と協働する
こともあります。この章では組織間関係をネットワーク
の観点から分析します。(教科書第11章)

第13回 組織を変える(組織変革)

組織は環境変化に応じて、その構造や文化を変革するこ
とに迫られます。この章では組織変革のあり方について
学びます。(教科書第12章)

第14回 経営組織論を学ぶ視点(学問論)

諸科学における経営学の位置づけを確認するとともに、
経営学における経営組織論の役割を熟考します。(教科
書補章)

第15回 総まとめ

ここまでの回を振りかえるとともに、実際の企業におい
て経営組織論の知見がいかに役立つかを事例を交えて説
明します。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

藤原 由紀子

<授業の方法>

演習(対面)

<授業の目的>

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関
する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用
するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。
この科目は、すべてのコースの学生が履修するコア科目
に属しており、演習 への導入科目に位置づけられる。
いろいろな企業の事例を読むことにより、企業活動の実
際について知るとともに、それらの背後にあるビジネス
の仕組みや経営学の基礎的な知識について学ぶ。発表や
質疑応答を通じて理解を深めること、発表用資料の作り
方を学ぶこと、発表そのものに慣れることも目的とする。
<到達目標>

・ここで学んだ基本的な知識を使って、実際の企業の事
例について分析することができる。

・調べた内容や分析結果をワードやパワーポイントを使
った発表資料にまとめることができる。

・ワード資料やパワーポイントを使って、発表すること
ができる。

・情報収集や発表資料の作成などにおいて、他の受講生
と協力して作業を進めることができる。

・他のグループの発表に関心を持ち、授業中に発言す
るなどして授業に参加できる。

<授業のキーワード>

グループワーク、事例、発表

< 授業の進め方 >

教員による講義と少人数によるグループワーク、発表によって進める。グループの数に応じて内容を一部変更したり、実務家による講演会を聴いたりすることがある。

< 履修するにあたって >

この授業では、グループワークを多く行います。授業やグループワークに支障をきたすので、遅刻や欠席をしないように心して受講して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

現実の企業の経営活動に関心をもって、良質のテレビ番組を視聴したり、新聞を読んだりしてください（毎日20分程度）。

課題についての発表の準備として、関連のある書籍を読んだり、インターネットを使った情報収集を授業時間外にも行ってください。

< 提出課題など >

各グループには、2回の発表が課せられる。1回目は配布した資料について、2回目はこちらが提示した課題についての発表資料の作成と発表を行ってもらう。

< 成績評価方法・基準 >

単位の取得には、11回以上の出席が必要です。

評価は、発表やグループワークへの参加状況40%、発表資料や授業中の提出物の内容40%、授業中の発言や議論への参加状況20%で判断します。

< テキスト >

必要に応じてプリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨ

授業の狙い、進め方、評価の仕方、ゼミでの約束について説明する。

第2・3回 発表資料の作り方

ゼミでの発表の際に使用するレジュメやパワーポイントを使った発表資料には、どのような内容を書けば良いのだろうか。ここでは、発表資料の作り方について学ぶ。その上で、実際にレジュメやパワーポイントの資料を作成してみる。

第4回 ゼミ生による発表

事例を使って、企業が存続するために必要な条件について考える。

第5回 競争戦略1

競争相手と同程度、もしくはそれ以上に利益を上げるために企業がとっている方針を競争戦略と言う。ここでは、自社の事業とは何かという事業の定義、誰を顧客とするのか、競争相手は誰なのか、などの競争戦略を考えるうえで明確にすべきいくつかの要素について学ぶ。

第6回 競争戦略2

事例を使って、何を武器にして競争するのか、またターゲットとする顧客の幅という観点から3つのタイプの競

争戦略について学ぶ。

第7回 多角化戦略

成長するために企業は、事業の範囲を広げていくことを角化と呼ぶ。ここでは、複数の事業をいかに運営していくのかという多角化戦略について学ぶ。

第8・9回 国際化のマネジメント

企業はなぜ国際化するのか、国際化するにあたってどのような障壁があるのかについて学ぶ。

第10~12回 グループワーク

これまでに授業で学んだ内容についてのグループワークを行う。出されたテーマについての実際の企業の事例について調査・分析し、発表レジュメにまとめる。

第13・14回 グループワークの成果発表

グループワークの成果をレジュメを使って発表したのち、各事例について考察を行う。

第15回 まとめ

これまでの授業内容を振り返る。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

松田 裕之

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

・入門演習と演習 A/B・ の橋渡しをするプレ・ゼミナールです。グループ単位で調査・研究、発表、質疑応答、ディベートなどを行い、専門ゼミナールでの学修の土台づくりを行います。

現在の日本における「働き方」の現状と問題を、以下の視点から考えます。

私たちの社会において、働き方の仕組みはどうなっているのか？ 構造

現在の（働き方の）仕組みには、どのような問題点があるのか？ 現状

働き方はこれからどのように変化するのか？

未来

私たちは、今後の（働き方の）変化に、どのように備えればよいのか？ 対策

< 到達目標 >

(1)人間という多面的な存在の本質を考えていくことができる 態度

(2)個人発表の形式（レジュメの作成・規定時間内での発表・質疑応答）をマスターできる 技能

(3)ものの見方のバリエーションを増やすことができる 知識

(4)質疑応答形式をマスターできる 技能

(5) ヒト = 人間に対する興味とリスペクトを高めることができる 態度・習慣

(6) 組織のなかでの存在感をきちんと確立するスキルを養うことができる 技能・態度

< 授業のキーワード >

働き方、仕事、雇用形態、正社員、長時間労働、日本型雇用、少子高齢化社会

< 授業の進め方 >

『これだけは知っておきたい 働き方の教科書』を使って講義し、これをもとに皆で議論して、働くことへの理解を共有します。

< 履修するにあたって >

感染予防の観点から、マスク着用は必須とします。注意に従わない受講者は出禁とします。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習と復習に1時間を充当してください。

< 提出課題など >

dotCampusから6回レポート課題を出します。

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題は1回20満点で採点し、これ×6回 = 120点満点で成績評価します。ただし、合計100点を超えた人も「S」評価です。

< テキスト >

安藤至夫(2015)『これだけは知っておきたい 働き方の教科書』ちくま新書

< 参考図書 >

テーマに応じてその都度紹介します。

< 授業計画 >

第1回 自己紹介・ゼミナールの進め方
授業内容の紹介を行います。

第2回 準備・予行演習

グループ発表と質疑応答のポイントを説明します。

第3回 17~33ページ

稼得能力の向上による生活水準の向上

自己実現の達成 欲求5段階説(課題)

交換と分業のメリット 学習能力

比較優位の原理について

第4~5回 34~47ページ

「使用者」と「労働者」 労働市場

労働基準法と就業規則 アルバイト体験(課題)

コストの節約 長期はほんとうに有利か

第6回

48~65ページ

労働時間 選択可能な場合

時間は「報酬化」できる

賃金の決定メカニズム 賃金の正体
賃金アップの方法 本当か(課題)

第7~8回 71~95ページ

正規雇用」の意味 “permanent”

「非正規雇用」の多様性と増加

7種類を具体的に(課題)

「正社員」 大企業か中小企業か

第9回 96~119ページ

労働時間と法的規制 残業と割増給

健康被害の原因 有能さの長短

「三種の神器」 もとは後進性の象徴

日本型雇用は是か非か (課題)

第10回 119~138ページ

雇用契約の終了 満了・離職・解雇

できる解雇とできない解雇 怖い無知

ブラック企業とは 法的な概念ではない

どうすれば見極められるか (課題)

第11回 143~165ページ

活躍の場の拡大 高齢者・女性・外国人

生産性の向上 職業訓練・労働移動

機械化・自動化の脅威とむきあう

(課題) AI対策

第12回 166~176ページ

正社員の二極化 無限定と限定

社会保障の見直し 私から公へ

年功賃金と職能給 職務給の拡大

新規学卒一括採用の功罪 (課題)

第13回 183~193ページ

目的と手段 目的が優先するのか?

ひとつのパンをふたりで食べる関係

労働法の基礎知識の大切さ

誰に相談すればいいのか? (課題)

第14回 193~201ページ

天職か転職か

失職か失業か

「やりたいこと」か「できること」か

(課題⑩) ノンエリートの自立とは?

第15回 まとめと反省

総括と反省を各人に発表してもらいます。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

宮本 幸平

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本ゼミは、経営学部のDPに示す、「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を修得」を目指す。そして、経済学及び会計学の基礎理論理解を主題とする。我々が暮らす社会は「経済社会」としての一面があり、これは「商品」の流通・消費によって生活が維持されることから伺える。こうした商品流通には「貨幣」が必要であり、したがって我々の暮らしにおいて貨幣が重要な意味を持つてくる。本ゼミは、貨幣をコントロールする「金融」の機能を理解することを目標とする。具体的には、経済活動における「金融」の流れを理解し（経済学の基礎理論を含む）、併せて「金融」の流れを計算・記録する会計の基本的な枠組み（会計学の基礎理論を含む）などの理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、演習の運営を行うものとする。

< 到達目標 >

1. 経済の基本的な仕組みが理解できる。
2. 金融商品について理解できる。

< 授業の進め方 >

講義を中心として、知識の習得を図る。また、経済に関する新聞記事のプレゼンテーションを行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、自身が調査した新聞記事と関連する記事を読んでおくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

毎回、新聞記事をまとめたレポートを課す。プレゼンテーションの後にコメントを返す。

< 成績評価方法・基準 >

レポート・プレゼンテーション80%、討論参加度20%として評価する。

< テキスト >

毎回、当方で配布する。

< 授業計画 >

第1回 暮らしと経済

我々の暮らしのなかで経済がどのように動いているか、「貨幣」がどのような役割を果たしているかについて理

解する。

第2回 暮らしと経済

我々の暮らしにおいて「貨幣」のコントロールがどのように行なわれているか、それによって暮らしがどのように変化するかについて説明する。

第3回 経済のしくみ

不況、インフレ、失業などがどのようなプロセスで生じるかについて、基本的な経済理論によって理解する。

第4回 経済のしくみ

今般の経済動向として世界同時不況（リーマン・ショック）がなぜ起こったか、その理由を経済学および会計学の視点から理論的に説明する。

第5回 金融機関のしくみ

金融機関の中心である「銀行」が我々の生活において果たす役割について説明する。

第6回 金融機関のしくみ

「銀行」が取り扱う金融商品の種類と内容を説明する。また、証券会社の基本的な機能についても触れる。

第7回 金融政策のしくみ

不況、インフレ、失業に対する処方箋としての「金融政策」はどのようなものであるかについて基礎的な理論を説明する。

第8回 金融政策のしくみ

「金融政策」について、やや発展的な経済理論（マクロ経済学）を説明する。

第9回 財政政策のしくみ

今般のような不況時において政府が発動する「財政政策」について基礎的な理論を説明する。

第10回 経済活動と会計の関係

我々が行なう経済活動は「取引」単位に集約され、「会計」によって計算・記録する。そこで、日々の経済活動がどのように「会計」によってまとめられるかについて説明する。

第11回 会計学の基礎理論

経済活動が「取引」単位に集約される「会計」がいかにして計算されるか（会計の計算構造）について、その概略を説明する。

第12回 金融派生商品の取引（先物取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「先物取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第13回 金融派生商品の取引（オプション取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「オプション取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第14回 金融派生商品の取引（金利スワップ取引）

金融派生商品（デリバティブ）のうち、「金利スワップ取引」の具体的な取引内容と会計上の計算の方法を説明する。

第15回 学習内容の討論

演習で学んだ内容に基づき、討論を行う。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

本科目では、経営学を学ぶにあたり必要となる情報の取り扱い方法を習得することを目的とする。Excelまたはプログラミング言語Pythonと簡単なAI処理を用いて、身近なデータ分析が行えるようになる。また、得られた結果についてプレゼンテーションできる能力も身につける。

< 到達目標 >

- ・ Pythonを用いた簡単なプログラミングができる。
- ・ 表計算ツールやAIライブラリを用いた簡単なデータ分析ができる。

- ・ 分析結果を他人に分かりやすく説明できる。

< 授業のキーワード >

データ分析、Python、人工知能

< 授業の進め方 >

情報処理実習室でデスクトップPCを用いた実習を中心に実施する。

< 履修するにあたって >

各自でノートPCを準備すること（必須）。プログラミング経験は問わないが、難易度はやや高めに設定しているので、履修に際しては十分に留意のこと。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。また、初回授業を欠席した場合は履修の意思なしとみなすことがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

個人課題およびグループ課題それぞれについて1時間程度の学修を必要とする。

< 提出課題など >

作成したプログラム、レポートおよびプレゼンテーション資料の提出を課する。

< 成績評価方法・基準 >

個人課題および発表（50%）、グループ課題および発表（50%）で評価する。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

株式会社システム計画研究所（編）、「Pythonによる機械学習入門」、オーム社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本ゼミの進め方を理解し、情報処理実習室の機器の使用方法について復習する。

第2回 人工知能概論

人工知能の概要を理解し、現代社会における活用例につ

いて学ぶ。

第3回 Python入門

プログラミング言語Pythonの使用方法を理解し、簡単なプログラムを作成する。

第4回 データ分析(1)：分類

機械学習における分類について理解し、簡単なデータ分析を行う。

第5回 データ分析(2)：回帰分析

回帰分析について理解し、簡単なデータ分析を行う。

第6回 データ分析(3)：クラスタリング

機械学習におけるクラスタリングについて理解し、簡単なデータ分析を行う。

第7回 個人課題演習(1)

個人で取り組むテーマを設定し、調査を行う。

第8回 個人課題演習(2)

個人で取り組むテーマに関し、分析プログラムを作成する。

第9回 個人課題演習(3)

個人で取り組むテーマに関し、データ分析・評価を行う。

第10回 個人課題発表

各自が取り組んだテーマに関し、発表・討論する。

第11回 グループ課題演習(1)

少人数のグループを編成し、取り組むテーマの設定・調査を行う。

第12回 グループ課題演習(2)

グループで取り組む課題に関し、分析プログラムを作成する。

第13回 グループ課題演習(3)

グループで取り組む課題に関し、データ分析・評価を行う。

第14回 グループ課題発表

各グループが取り組んだテーマに関し、発表・討論する。

第15回 まとめ

本ゼミで習得した知識・技術について振り返り、自己の成長度合いを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

安井 一浩

< 授業の方法 >

演習形式で行う。

< 授業の目的 >

簿記の基礎的な知識を身につけることを目的として、会計の基礎となる複式簿記の考え方について、公認会計士としての実務経験のある教員が説明する。具体的には日本商工会議所簿記検定試験3級に合格する程度の知識を習得することを目標とする。また一部関連する会計基準

の内容についても説明を行い、また必要に応じて現代の会計に関連する経済事象についても考えていく。

<到達目標>

日本商工会議所簿記検定試験 3 級合格

<授業のキーワード>

商業簿記

<授業の進め方>

教科書の記述に沿って説明を行う。

なお毎回授業開始時に、前回の内容についての小テストを行う。

<履修するにあたって>

毎回、電卓を持参すること。またわからないことがある場合にはその場で質問を行い疑問点を残さずに帰るようにすること。なおテキストの演習問題あるいは参考書として示した問題集の問題を、完全に正解するようになるまでなども解きなおすことが学習を促進する手段となるであろう。

<授業時間外に必要な学修>

授業中に取り組んだ問題が完全に解答できるまで復習を行うこと。また参考書であげているワークブックを購入し類似問題に取り組むこと。これらの学修に要する時間は毎週 1.5 時間である。

<成績評価方法・基準>

小テストにより評価を行う。

<テキスト>

『新検定簿記講義 / 3 級商業簿記』中央経済社。なお開講日現在における最新版とする。

<参考図書>

『新検定簿記ワークブック / 3 級商業簿記』中央経済社。なお開講日現在における最新版とする。

<授業計画>

第 1 回 簿記の基本原則

簿記の意義、目的、取引の分類などの基本的な原理について説明する。

第 2 回 仕訳、勘定、帳簿記入

簿記の意義、目的、取引の分類などの基本的な原理について説明する。

第 3 回 決算手続の基本

決算手続の概要を説明するとともに元帳の締め切り、試算表の作成について説明する。

第 4 回 現金預金取引

現金勘定、当座預金勘定、小口現金勘定の仕訳と帳簿記入について説明する。

第 5 回 商品売買

商品売買に係る取引について仕訳および帳簿記入について説明する。

第 6 回 売上債権、仕入債務

売掛金および買掛金の仕訳および帳簿記入について説明する。なお貸倒れについても併せて説明する。

第 7 回 その他の債権と債務

貸付金、借入金、商品券等の仕訳について説明する。

第 8 回 手形取引

受取手形、支払手形の仕訳および帳簿記入、手形譲渡について説明する。

第 9 回 有価証券、固定資産、

有価証券の仕訳、固定資産の仕訳、減価償却について説明する。

第 10 回 資本金、収益費用、税金

資本金の取引、収益、費用および経過勘定項目、税金関連の取引について説明する。

第 11 回 帳簿と伝票

伝票を利用した場合の記入、転記について説明する。

第 12 回 決算手続

決算と決算手続、試算表の作成について説明する。

第 13 回 決算整理事項、精算表の作成

決算整理事項および棚卸表、精算表の作成について説明する。

第 14 回 元帳締め切と財務諸表の作成

決算時における振替、元帳の締め切り、財務諸表作成の基礎について説明する。

第 15 回 ガイダンスまたは講演会

日商簿記検定 2 級へ向けてのガイダンスを行うかまたは講演会を開催します。

なお講演会の場合は、第 1 回～第 14 回の授業と入れ替わる可能性があります。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

柳 久恒

<授業の方法>

対面授業（演習）

本学の方針に則り、対面授業を行う。

<授業の目的>

本授業は、受講生のスポーツへの興味関心を高めるとともに、「スポーツマーケティング」や「スポーツマネジメント」に関する基礎的な知識を習得することを目的とします。

特に、グループワークを通じて互いのコミュニケーション力を高め、発表会を通じてプレゼンテーションのスキルを磨きます。

<到達目標>

- ・テーマに即して資料を収集し、発表できるようになる。
- ・グループワークなどを通じて受講生の親交を深める。

<授業のキーワード>

スポーツマーケティング、スポーツマネジメント

<授業の進め方>

グループや個人で設定したスポーツに関するテーマに基

づいて資料を検索・収集したうえで実態を把握し、報告や課題解決のためのディスカッションを通じて発表を行います。

<履修するにあたって>

- ・原則として、毎回の授業に出席すること。
- ・授業を欠席する場合は当該授業までに連絡すること。
- ・無断で授業を欠席した場合には、厳しい原点を科す。
- ・学外のスポーツ関連の企業を訪問することがある。(予定)
- ・授業計画は、授業の進み方等により、多少前後することがある。

<授業時間外に必要な学修>

グループや個人で設定したスポーツに関するテーマに基づいて資料を検索・収集したうえで実態を把握し、報告や課題解決のための発表資料を作成します。

<提出課題など>

グループや個人にパワーポイントを用いたプレゼンテーションを課す。

<成績評価方法・基準>

成績評価は、グループによる発表(評価割合60%)と個人による発表(評価割合40%)の結果を総合して行う。

<テキスト>

特になし

<参考図書>

「図とイラストで学ぶ 新しいスポーツマネジメント」山下秋二、中西純司、松岡宏高(編著)、大修館書店(2016年)。

「ゴールは偶然の産物ではない-FCバルセロナ流世界最強マネジメント-」フェラン・ソリアーノ(著)、グリーン裕美(翻訳)、アチーブメント出版(2009年)。

「スポーツマネジメント入門:プロ野球とプロサッカーの経営学」西崎信男(著)、税務経理協会(2015)。

「スポーツの資金と財務」武藤泰明(著)、大修館書店(2014)。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方と評価方法の説明、意見交換を行う。

第2回 GW キーワードの検討とテーマの設定

グループに別れ、興味・関心のある問題や課題について検討し、オリジナリティ溢れるキーワードを設定する。設定したキーワードからテーマを設定する。

第3回 GW 文献資料の取集と発表資料の作成

テーマに即した文献資料を収集し、グループで検討した課題に関する発表資料をパワーポイントで作成する。

第4回 GW リハーサル

リハーサルを通じて、発表の構成や調査方法等についてディスカッションを行う。

第5回 GW グループ発表

PP資料を用いた発表(5グループ×発表7分+質疑応答3分)

第6回 GW キーワードの検討とテーマの設定

グループに別れ、興味・関心のある問題や課題について検討し、オリジナリティ溢れるキーワードを設定する。設定したキーワードからテーマを設定する。

第7回 GW 文献資料の取集と発表資料の作成

テーマに即した文献資料を収集し、グループで検討した課題に関する発表資料をパワーポイントで作成する。

第8回 GW リハーサル

リハーサルを通じて、発表の構成や調査方法等についてディスカッションを行う。

第9回 GW グループ発表

PP資料を用いた発表(5グループ×発表7分+質疑応答3分)

第10回 個人発表テーマの検討

個人発表テーマを検討し、発表資料を作成する。

第11回 個人発表資料の検討

個人発表資料を作成し、相談する。

第12回 個人発表リハーサル

リハーサルを通じて、発表の構成や調査方法等についてディスカッションを行う。

第13回 個人発表

個人発表(5人×発表7分+質疑応答3分)

第14回 個人発表

個人発表(5人×発表7分+質疑応答3分)

第15回 個人発表 と総括

個人発表(5人×発表7分+質疑応答3分)と総括を行う。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

吉田 康久

<授業の方法>

対面式授業を実施します。

<授業の目的>

(主題)

課題として設定された研究題目を、自らの力で調査研究を行い、研究成果を導き出す方法論を会得する。調査研究にあたっては、その観点も重要な要素になる。

(目標)

調査研究の結果を成果として公表する際は、客観性が担保されている必要がある。個人的な主観と客観との相違を理解できるようにする。

<到達目標>

基礎演習 での到達目標は、課題を自らが調査研究を行って、解釈できる能力を身に付けることである。

<授業のキーワード>

主観・客観

<授業の進め方>

基本原則は、自らの調査研究を主体とする。個々に調査研究した成果を、報告し合い、互いに理解を深める。発表と討論が中心となる。

<履修するにあたって>

別段の理由がない限り、欠席を想定していない。(原則3回以下)

<授業時間外に必要な学修>

個人的問題意識により文献やインターネットで調べる必要がある。

<提出課題など>

必要性がある場合は、提出を課す。

<成績評価方法・基準>

総合的に積極的参加度を勘案し評価する。

<テキスト>

適時に指導する。

<参考図書>

指定しない。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

基礎演習 の進め方について説明する。

第2回 課題の設定

課題の選定方法や認識の仕方などを説明する。

第3回 課題の概要把握

課題の概要把握への方法について説明する。

第4回 研究テーマの選定

調査研究するための題目を選択する。

第5回 調査研究の選定と実施

文献等やデータの収集を行う。インターネットも活用する。

第6回 調査研究の選定と実施

文献等やデータの収集を行う。インターネットも活用する。

第7回 調査研究の選定と実施

文献等やデータの収集を行う。インターネットも活用する。

第8回 調査研究の報告と討論

報告をもとに議論・討論を行う。併せて分析も実施する。

第9回 調査研究の報告と討論

報告をもとに議論・討論を行う。併せて分析も実施する。

第10回 調査研究の報告と討論

報告をもとに議論・討論を行う。併せて分析も実施する。

第11回 調査研究の展開

調査研究をさらに深化させる。

第12回 調査研究の展開

調査研究をさらに深化させる。

第13回 調査研究の報告と分析および検証

調査研究の論点整理を行う。

第14回 調査研究の報告と分析および検証

調査研究の論点整理を行う。

第15回 総括

研究成果について議論・討論する。

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

林坂 弘一郎

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

2年次配当のコア科目・選択必修科目であり、3年次配当の「演習IA」「演習IB」への導入科目として位置づけられる。

日々進展している情報化社会で仕事をするために必要となるコンピュータ・情報技術に関する基礎的な知識と技能を習得する。また、情報技術に関するテーマでプレゼンテーションを行い、各テーマに対する知識を習得するとともにレジユメの作成、発表や質疑応答の方法についても学ぶ。

<到達目標>

・HTML5を利用したWebページやBootstrapを利用したレスポンシブWebデザインによるページを作成できる。(技能)

・表計算ソフトウェアやデータベースを使用し、データの集計・分析などを行える。(技能)

・基礎的な情報技術について説明できる。(知識)

<授業のキーワード>

HTML5, Bootstrap, Excel, データベース, プレゼンテーションスキル

<授業の進め方>

PCを用いた演習とプレゼンテーションを中心に実施する。

<履修するにあたって>

欠席回数が3分の1を超える場合は単位を与えないので注意すること。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と { <https://rinsaka.com/> } も参照してください。

<授業時間外に必要な学修>

グループ課題について役割を分担し、各自がその分担について30分? 1時間程度を使って作業することが求められる。

<提出課題など>

作成したWebページやExcel演習での分析結果などの提出を求める。

<成績評価方法・基準>

提出課題、発表内容、セミへの貢献度で評価する。

<テキスト>

指定しない。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンスとID配布

ゼミの進め方を理解する。ゼミ専用サーバを利用するためのID及びパスワードを配布し初期設定を行うと共に、ファイルサーバの利用方法を理解する。

第2回 Webページの作成(1)

Webサーバへの接続方法を理解し、HTML5によってWebページを作成する

第3回 Webページの作成(2)

Webサーバへの接続方法を理解し、HTML5によってWebページを作成する

第4回 Webページの作成(3)

Webサーバへの接続方法を理解し、HTML5によってWebページを作成する

第5回 レスポンシブWebデザイン(1)

Bootstrapを用いてスマートフォンにも対応するWebページを作成する

第6回 レスポンシブWebデザイン(2)

Bootstrapを用いてスマートフォンにも対応するWebページを作成する

第7回 Excel 演習(1)

表計算ソフトウェアを利用したデータ分析を行う

第8回 Excel 演習(2)

表計算ソフトウェアを利用したデータ分析を行う

第9回 グループワーク(1)

各グループで興味を持った内容について調査し、スライド、レシユメを作成する

第10回 グループワーク(2)

各グループで興味を持った内容について調査し、スライド、レシユメを作成する

第11回 プレゼンテーション(1)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

第12回 プレゼンテーション(2)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

第13回 グループワーク(3)

各グループで興味を持った内容について調査し、スライド、レシユメを作成する

第14回 プレゼンテーション(3)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

第15回 プレゼンテーション(4)

各グループで決定したテーマについて発表・討論する

2022年度 後期

2.0単位

基礎演習

石賀 和義

2022年度 前期

2.0単位

基礎経済学

永岡 成人

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

初学者を想定し、経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）の入門的な内容を講義します。この授業では、主にマクロ経済学を取り扱います。この科目では、経済分析の基本的な考え方を理解することと、様々な経済現象を経済理論に基づいて理解するための基礎的能力を養うことによって、経営学部のディプロマポリシー（DP）が示す「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する」ことを目指します。

<到達目標>

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

<授業のキーワード>

マクロ経済学

<授業の進め方>

講義形式

<履修するにあたって>

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

<授業時間外に必要な学修>

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出题する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

<提出課題など>

課題の提出にはdotCampusを使用します。

<成績評価方法・基準>

学期末に出题する課題によって評価します。

<テキスト>

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

<参考図書>

平口良司・稲葉大『マクロ経済学：入門の一手前前から応用まで』有斐閣、2015年。

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣、2016年。
中谷巖『入門マクロ経済学（第5版）』日本評論社、2007年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 マクロ経済の測り方

マクロ経済を測る方法として、総生産に関する指標を紹介しします。

第3回 マクロ経済の循環図

マクロ経済分析に登場する経済主体を紹介するとともに、それぞれの経済主体が市場を通じてどのように関係しているかを紹介します。

第4回 物価の測り方

物価の動きを測る方法として、物価に関する指標を紹介しします。

第5回 需要曲線

財の価格と買い手の需要量の関係を表す需要曲線を紹介しします。

第6回 供給曲線

財の価格と売り手の供給量の関係を表す供給曲線を紹介しします。

第7回 市場均衡理論

多数の買い手と売り手が取引に参加する市場で、どのような取引が行われるかを説明する理論として、市場均衡理論を紹介しします。

第8回 マクロ経済の分析枠組み

マクロ経済の総需要・総供給の均衡分析を紹介しします。

第9回 財市場の均衡分析

マクロ経済における財市場の均衡分析を紹介しします。

第10回 乗数メカニズム

マクロ経済における財政政策の効果を、財市場の均衡分析に基づいて考えてみます。

第11回 政府支出乗数

政府支出乗数を導出します。

第12回 投資乗数

投資乗数を導出します。

第13回 租税乗数

租税乗数を導出します。

第14回 マクロ経済学の実証研究

マクロ経済学の実証研究を紹介しします。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 後期

2.0単位

基礎経済学

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

初学者を想定し、経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）の入門的な内容を講義します。この授業では、主にミクロ経済学を取り扱います。この科目では、経済分析の基本的な考え方を理解することと、様々な経済現象を経済理論に基づいて理解するための基礎的能力を養うことによって、経営学部のディプロマポリシー（DP）が示す「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する」ことを目指します。

< 到達目標 >

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

< 授業のキーワード >

ミクロ経済学

< 授業の進め方 >

講義形式

< 履修するにあたって >

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出题する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出题する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

中谷巖・中村保『1からの経済学』碩学舎、2010年。
伊藤元重『入門経済学（第4版）』日本評論社、2015年。
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 分業の利益

数値例を用いて、2人で2つの仕事を分業する場合に、全体でできる成果を大きくする分業方法を調べてみます。

第3回 比較優位

比較優位の考え方を紹介します。

第4回 社会的分業

比較優位の考え方に基づく社会的分業と交換による利益を紹介します。

第5回 需要曲線

財の価格と買い手の需要量の関係を表す需要曲線を紹介합니다。

第6回 供給曲線

財の価格と売り手の供給量の関係を表す供給曲線を紹介합니다。

第7回 市場均衡理論

多数の買い手と売り手が取引に参加する市場で、どのような取引が行われるかを説明する理論として、市場均衡理論を紹介합니다。

第8回 授業で用いる数学

この授業で用いる数学を紹介합니다。

第9回 比較静学

何らかの要因によって市場の需要・供給の様子が変化したときに、市場均衡がどのように変化するかを調べてみます。

第10回 消費者余剰

取引に参加した買い手がその取引から得た余剰の大きさを測る消費者余剰の考え方を紹介します。

第11回 生産者余剰

取引に参加した売り手がその取引から得た余剰の大きさを測る生産者余剰の考え方を紹介します。

第12回 市場均衡における総余剰

数値例を用いて、様々な価格で様々な取引が行われたときの消費者余剰と生産者余剰を計算してみて、それらを合計した総余剰がどうなっているかを調べてみます。

第13回 市場均衡の効率性

市場均衡では総余剰が最大化されていることを確かめてみます。

第14回 市場の失敗

市場均衡理論が想定する仮定が満たされないときには、市場均衡において総余剰が最大化されるとは限らないことを紹介します。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 前期

2.0単位

キャリアトレーニング特別講義 (働き方の研究)

松田 裕之

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

基本的には対面授業で実施する予定です。

感染状況により、授業形態を変更する場合はこちらでご連絡します。

< 授業の目的 >

大学生のうちに社会と何らかの接点を持つことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアトレーニングでは、世の中にある業界のトレンドを調べるワークやグループでの課題解決の経験を通して、自分や社会について理解を深めていきます。

< 到達目標 >

・社会の変化や社会で求められる力を理解し、日々の行動で意識することができる。

・課題解決のためにどのように取り組むべきか理解し、実行できる。

・自分の強みを考え、文章で表現することができる。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、大学生活の充実、変化する社会、PDCA、ワークスタイルの研究、社会と大学のつながり、目標と行動計画、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

・各回テーマに関する知識を講義でインプットしてもらったあと、自分におきかえて各自ワークシートにアウトプットしてもらいます。アウトプットしたものはペアやグループでシェアして学びあう場も何度か設定します。

・グループでテーマに対して調べて発表する回もあります。その場合は積極的に取り組み、各自の役割を果たしてください。

< 履修するにあたって >

・指定されたクラスで受講しないと単位認定できません。

・この授業では、座学だけでなく、個別ワーク、ペアワーク、グループワークといった場面が用意されています。初めのうちは自分の考えを表現する、初対面の人と話しをすることが難しいと感じるかもしれませんが、繰り返しで慣れてくると、教員や他の学生から学べる楽しさや刺激を感じられるようになります。授業は、受け身ではなく積極的に参加しましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

・テキストには毎回ワークシートが用意されていますので、授業前には前回のワークシートの振り返りをしておいてください。

・社会に関心を持つことがスタート地点になりますので、毎日必ず時事ニュースを確認してください。授業でも取り上げます。また、指定のURLでの事前学習を指示することもあります。必ず取り組んでください。

・グループワーク発表のための準備や宿題等は責任をもって必ず取り組んで参加してください。

< 提出課題など >

授業の内容に関するレポートを3回予定しています。

< 成績評価方法・基準 >

授業ごとの課題・ミニレポート15回（60%）と中間、期末のレポート・ワークシート等の課題（40%）によって評価します。

<テキスト>

マイキャリアノート アドバンス（青色の表紙です）

<授業計画>

第1回 キャリアデザインとは

本講座でのオリエンテーションを実施します。変化する社会において、アンテナを高くしながら、自分の学習計画や将来を考えます。

第2回 コミュニケーション力を伸ばす

相手の立場、年齢、経験、知識などによって、コミュニケーションの取り方は変わります。相手をイメージしながら、接するときのポイントを整理して、ワークに取り組みます。

第3回 自分について振り返り、考える

自分のこれまでを項目別に振り返り、自分の「好き」「夢中になれる」「苦手」等を考えます。

第4回 自分の強みと課題を知る

自分が物事に取り組む際に発揮できる強みや苦手な分野を明確にします。

第5回 大学生活で強みを伸ばす、マイテーマを考える
自分の強みや課題について、学生生活の磨き方を考えます。

第6回 PDCAシート作成

授業以外で日々取り組むテーマについて考え、実際に行動を開始します。

第7回 社会を知る

変化する社会で情報を能動的にとりにいくために企業のサステナブルな取り組みを調べます。

第8回 社会を知る

チーム活動1：問題発見

仕事の変化について調べ、特定の業界の情報収集を行い、問題点を見つけます。

第9回 社会を知る

チーム活動2：課題設定

チーム活動1で発見した問題についてなぜそれが起きているのかを調査検討し、課題を設定します。

第10回 社会を知る

チーム活動3：課題設定 ・解決の方向性

チーム活動2で設定した課題について裏付けを進め、解決の方向性について検討します。

第11回 社会を知る

チーム活動4：論理的にOUTPUTする

チームの検討成果を各自がまとめ、別途グループに分かれて発表を行います。

第12回 社会と学問のつながりを知り、考える

仕事の変化について調べた内容を基に、社会で必要になると思う力や、それをどのように大学で身につけるのかを考えます。

第13回 PDCAシート完結・自分の行動パターンを振り返る

PDCAシートの実行内容を振り返り、自分の行動パターンの良さと課題について考えます。

第14回 キャリアデザインマップの作成

PDCAシートの振り返りを基に、キャリアデザインマップを作成します。

第15回 キャリアデザインマップの実行と振り返り

授業のまとめ

キャリアデザインマップで設定した計画の1週間の取り組みを振り返り、計画を修正します。

2022年度 前期

2.0単位

キャリアトレーニング特別講義 （働き方の研究）

松田 裕之

<授業の方法>

「講義」「演習」

基本的には対面授業で実施する予定です。

感染状況により、授業形態を変更する場合はこちらでご連絡します。

<授業の目的>

大学生のうちに社会と何らかの接点を持つことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアトレーニングでは、世の中にある業界のトレンドを調べるワークやグループでの課題解決の経験を通して、自分や社会について理解を深めていきます。

<到達目標>

・社会の変化や社会で求められる力を理解し、日々の行動で意識することができる。

・課題解決のためにどのように取り組むべきか理解し、実行できる。

・自分の強みを考え、文章で表現することができる。

<授業のキーワード>

キャリアデザイン、大学生活の充実、変化する社会、PDCA、ワークスタイルの研究、社会と大学のつながり、目標と行動計画、プレゼンテーション

<授業の進め方>

・各回テーマに関する知識を講義でインプットしてもらったあと、自分におきかえて各自ワークシートにアウトプットしてもらいます。アウトプットしたものはペアやグループでシェアして学びあう場合も何度か設定します。

・グループでテーマに対して調べて発表する回もあります。その場合は積極的に取り組み、各自の役割を果たしてください。

<履修するにあたって>

・指定されたクラスで受講しないと単位認定できません。

・この授業では、座学だけでなく、個別ワーク、ペアワ

ーク、グループワークといった場が用意されています。初めのうちは自分の考えを表現する、初対面の人と話しをすることが難しいと感じるかもしれませんが、繰り返して慣れてくると、教員や他の学生から学べる楽しさや刺激を感じられるようになります。授業は、受け身ではなく積極的に参加しましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

・テキストには毎回ワークシートが用意されていますので、授業前には前回のワークシートの振り返りをしておいてください。

・社会に関心を持つことがスタート地点になりますので、毎日必ず時事ニュースを確認してください。授業でも取り上げます。また、指定のURLでの事前学習を指示することもあります。必ず取り組んでください。

・グループワーク発表のための準備や宿題等は責任をもって必ず取り組んで参加してください。

< 提出課題など >

授業の内容に関するレポートを3回予定しています。

< 成績評価方法・基準 >

授業ごとの課題・ミニレポート15回(60%)と中間、期末のレポート・ワークシート等の課題(40%)によって評価します。

< テキスト >

マイキャリアノート アドバンス(青色の表紙です)

< 授業計画 >

第1回 キャリアデザインとは

本講座でのオリエンテーションを実施します。変化する社会において、アンテナを高くしながら、自分の学習計画や将来を考えます。

第2回 コミュニケーション力を伸ばす

相手の立場、年齢、経験、知識などによって、コミュニケーションの取り方は変わります。相手をイメージしながら、接するときのポイントを整理して、ワークに取り組みます。

第3回 自分について振り返り、考える

自分のこれまでを項目別に振り返り、自分の「好き」「夢中になれる」「苦手」等考えます。

第4回 自分の強みと課題を知る

自分が物事に取り組む際に発揮できる強みや苦手な分野を明確にします。

第5回 大学生活で強みを伸ばす、マイテーマを考える
自分の強みや課題について、学生生活の磨き方を考えます。

第6回 PDCAシート作成

授業以外で日々取り組むテーマについて考え、実際に行動を開始します。

第7回 社会を知る

変化する社会で情報を能動的にとりにいくために企業のサステナブルな取り組みを調べます。

第8回 社会を知る

チーム活動1：問題発見

仕事の変化について調べ、特定の業界の情報収集を行い、問題点を見つけます。

第9回 社会を知る

チーム活動2：課題設定

チーム活動1で発見した問題についてなぜそれが起こっているのかを調査検討し、課題を設定します。

第10回 社会を知る

チーム活動3：課題設定 ・解決の方向性

チーム活動2で設定した課題について裏付けを進め、解決の方向性について検討します。

第11回 社会を知る

チーム活動4：論理的にOUTPUTする

チームの検討成果を各自がまとめ、別途グループに分かれて発表を行います。

第12回 社会と学問のつながりを知り、考える

仕事の変化について調べた内容を基に、社会で必要になると思う力や、それをどのように大学で身につけるのかを考えます。

第13回 PDCAシート完結・自分の行動パターンを振り返る

PDCAシートの実行内容を振り返り、自分の行動パターンの良さと課題について考えます。

第14回 キャリアデザインマップの作成

PDCAシートの振り返りを基に、キャリアデザインマップを作成します。

第15回 キャリアデザインマップの実行と振り返り

授業のまとめ

キャリアデザインマップで設定した計画の1週間の取り組みを振り返り、計画を修正します。

2022年度 前期

2.0単位

キャリアトレーニング特別講義 (工業簿記)【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

日商簿記検定合格に向けた問題の解答・解説を中心にする。

4限目の応用簿記(商業簿記)も必ず履修すること。なお、コロナウィルスの状況によっては、遠隔授業を実施することもあります。

具体的には、第1回目の講義において説明する。

『キャリアトレーニング特別講義 (工業簿記)』に関する連絡先

大原学園 櫻井喜平

yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

< 授業の目的 >

ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定の受験を通じて習得していく講義である。

一般企業はもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。本講義では、製品製造業に関する工業簿記の個別原価計算を中心に学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に大変役立つ知識である。

< 到達目標 >

日商簿記検定試験2級合格レベルの計算力および簿記の基本処理を身につけることができる。

株式会社会計の基礎についての理解を深めることができる。

< 授業のキーワード >

工業簿記、管理会計

< 授業の進め方 >

テキストを使用し講義を進める。

問題演習もおりこみながら進行する。

電卓を使用して問題演習を行う。

学生の習熟度により、下記授業計画は変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

この講義を受講するには事前に日商簿記3級レベルの知識が必要である。

簿記3級の知識があることを前提に授業は進行する。(簿記3級に合格している必要はありません。)

後期試験終了後に日商簿記検定合格の為の直前プログラムを実施する。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。

必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

自宅復習が必要である。具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、1時間程度の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中のミニテスト及び宿題等(30%)、期末試験(70%)により評価する。

< テキスト >

「ALFA2級課程 工業簿記」(テキスト、ドリル、アンサー)大原簿記専門学校

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、簿記学習の目的

簿記を学習する目的や学習の進め方、自宅復習について。

第2回 工業簿記の基礎知識、個別原価計算の記帳体系

工業簿記の考え方、記帳体系について学習する。

第3回 材料費会計

材料費会計の基礎について学習する。

第4回 材料費会計、労務費会計

材料費会計続き、労務費会計について学習する。

第5回 労務費会計

労務費会計の学習をする。

第6回 経費会計、製造間接費会計

経費会計、製造間接費会計について学習する。

第7回 製造間接費会計

製造間接費会計の差異について学習する。

第8回 部門別計算

部門別計算の記帳方法について学習する。

第9回 部門別計算

部門別計算の計算方法について学習する。

第10回 工場会計の独立

工場会計の仕訳について学習する。

第11回 単純個別原価計算

単純個別原価計算について学習する。

第12回 総合原価計算

単純総合原価計算

第13回 総合原価計算

減損及び仕損

第14回 総合原価計算

減損及び仕損

第15回 総合原価計算

工程別総合原価計算

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング特別講義 (社会的スキルトレーニング)

松田 裕之

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

基本的には対面授業で実施する予定です。

感染状況により、授業形態を変更する場合はこちらでご連絡します。

< 授業の目的 >

社会で活躍するために、どの業界・職種にでも共通に求められる基本的な課題解決のためのスキルがあります。

そのスキルを、3つの行動「自ら課題を発見する」「自ら解決策を考える」「自ら周囲を巻き込み行動する」、4つの力「情報収集力」「思考力」「遂行力」「コミュニケーション力」として、概要を学びます。それらを意識しながら、課題解決型のグループワークに取り組み体感することで、自分自身の課題が見えてきます。また、社会で活躍する自分を具体的にイメージしていくためにも、自分自身について考える内容も用意しています。

<到達目標>

- ・なりたい自分を見つける
- ・3つの行動「自ら課題を発見する」「自ら解決策を考える」「自ら周囲を巻き込み行動する」、4つの力「情報収集力」「思考力」「遂行力」「コミュニケーション力」を理解し、実践してみる
- ・なりたい自分になるための行動計画を作り、行動を始める

<授業のキーワード>

なりたい自分、情報収集力、思考力、コミュニケーション力、遂行力、課題解決策立案、プレゼンテーション、行動計画

<授業の進め方>

- ・各回テーマに関する知識を講義でインプットしてもらったあと、自分におきかえて各自ワークシートにアウトプットしてもらいます。アウトプットしたものはペアやグループでシェアして学びあう場も何度か設定します。
- ・グループでテーマに対して調べて発表する回もあります。その場合は積極的に取り組み、各自の役割を果たしてください。

<履修するにあたって>

- ・指定されたクラスで受講しないと単位認定できません。
- ・この授業では、座学だけでなく、個別ワーク、ペアワーク、グループワークといった場面が毎回のよう用意されています。初めのうちは自分の考えを表現する、初対面の人と話しをすることが難しいと感じるかもしれませんが、繰り返しで慣れてくると、教員や他の学生から学べる楽しさや刺激を感じられるようになります。授業は、受け身ではなく積極的に参加しましょう。

<授業時間外に必要な学修>

- ・テキストには毎回ワークシートが用意されていますので、授業前には前回のワークシートの振り返りをしておいてください。
- ・社会に関心を持つことがスタート地点になりますので、毎日必ず時事ニュースを確認してください。授業でも取り上げます。また、指定のURLでの事前学習を指示することもあります。必ず取り組んでください。
- ・グループワーク発表のための準備や宿題等は責任をもって必ず取り組んで参加してください。

<提出課題など>

授業の内容に関するレポートを3回予定しています。

<成績評価方法・基準>

授業ごとの課題・ミニレポート15回(60%)と中間、期末のレポート・ワークシート等の課題(40%)によって評価します。

<テキスト>

マイキャリアノート

<授業計画>

第1回 キャリアデザインとは/なりたい自分オリエンテーションとして、前期のキャリアトレーニング

グ特別講義 を振り返り全体の目標を解説します。これまでの人生で自分に影響を与えたものを振り返ります。第2回 やりたいこと・できること・すべきこと/なりたい自分は自分の基準を見つけよう

なりたい自分に近づくための仕事選びの観点を知り、自分のライフスタイルや価値観を考えます。

第3回 業界・職業からなりたい自分をつかもう
業界・業種を拓げて深く考える方法を、情報収集力を先に学びながら実践します。

第4回 業界企業研究ワーク

前回の続きでグループに分かれて業界企業研究を行います。

第5回 業界企業研究の発表

3.4回の続きで、グループに分かれて研究をしたことを発表します。

第6回 3つの行動と4つの力を知り、行動につなげていくために/情報収集力とは

業界研究ワークでの情報収集について振り返り、自分自身の力をチェックし改善点を考えます。

第7回 思考法について学ぶ

ロジックツリー・プレスト・ディスカッションの技法を学び実践します。

第8回 コミュニケーション力・遂行力・まとめ

コミュニケーションの基本を確認した上で、社会における行動力とは何かを解説します。4つの力を鍛えるための習慣を自分なりに考えます。

第9回 ケーススタディ1(現状理解・情報収集)

今まで習った力をケーススタディで発揮します。ケーススタディは新店舗の開設の人材募集がテーマです。

第10回 ケーススタディ2(目的の設定)

今まで習った力をケーススタディで発揮します。ケーススタディは新店舗の開設の人材募集がテーマです。

第11回 ケーススタディ3(課題の分析・解決策の検討)

今まで習った力をケーススタディで発揮します。ケーススタディは新店舗の開設の人材募集がテーマです。

第12回 ケーススタディ4(プレゼンテーション)

プレゼンテーションの基本を知りグループごとに発表します。発表をしっかりと聞くことについても力を入れます。

第13回 ケーススタディ5(プレゼンテーション)

プレゼンテーションの基本を知りグループごとに発表します。発表をしっかりと聞くことについても力を入れます。

第14回 行動計画の策定

これまでに気づいた課題を整理し、今後の学生生活の過ごし方を考えます。

第15回 4つの力の振り返り/行動計画の実行のために

最新の新卒の就職状況を知り、今からできること・やりたいことを考えます。

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング特別講義 (社会的スキルトレーニング)

松田 裕之

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

基本的には対面授業で実施する予定です。

感染状況により、授業形態を変更する場合はこちらでご連絡します。

< 授業の目的 >

社会で活躍するために、どの業界・職種にでも共通に求められる基本的な課題解決のためのスキルがあります。そのスキルを、3つの行動「自ら課題を発見する」「自ら解決策を考える」「自ら周囲を巻き込み行動する」、4つの力「情報収集力」「思考力」「遂行力」「コミュニケーション力」として、概要を学びます。それらを意識しながら、課題解決型のグループワークに取り組み体感をする中で、自分自身の課題が見えてきます。また、社会で活躍する自分を具体的にイメージしていくためにも、自分自身について考える内容も用意しています。

< 到達目標 >

- ・ になりたい自分を見つける
- ・ 3つの行動「自ら課題を発見する」「自ら解決策を考える」「自ら周囲を巻き込み行動する」、4つの力「情報収集力」「思考力」「遂行力」「コミュニケーション力」を理解し、実践してみる
- ・ になりたい自分になるための行動計画を作り、行動を始める

< 授業のキーワード >

になりたい自分、情報収集力、思考力、コミュニケーション力、遂行力、課題解決策立案、プレゼンテーション、行動計画

< 授業の進め方 >

・ 各回テーマに関する知識を講義でインプットしてもらったあと、自分におきかえて各自ワークシートにアウトプットしてもらいます。アウトプットしたものはペアやグループでシェアして学びあう場も何度か設定します。
・ グループでテーマに対して調べて発表する回もあります。その場合は積極的に取り組み、各自の役割を果たしてください。

< 履修するにあたって >

・ 指定されたクラスで受講しないと単位認定できません。
・ この授業では、座学だけでなく、個別ワーク、ペアワーク、グループワークといった場が毎回のよう用意されています。初めのうちは自分の考えを表現する、初対面の人と話しをすることが難しいと感じるかもしれませんが、繰り返しで慣れてくると、教員や他の学生から

学べる楽しさや刺激を感じられるようになります。授業は、受け身ではなく積極的に参加しましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

・ テキストには毎回ワークシートが用意されていますので、授業前には前回のワークシートの振り返りをお願いしてください。

・ 社会に関心を持つことがスタート地点になりますので、毎日必ず時事ニュースを確認してください。授業でも取り上げます。また、指定のURLでの事前学習を指示することもあります。必ず取り組んでください。

・ グループワーク発表のための準備や宿題等は責任をもって必ず取り組んで参加してください。

< 提出課題など >

授業の内容に関するレポートを3回予定しています。

< 成績評価方法・基準 >

授業ごとの課題・ミニレポート15回(60%)と中間、期末のレポート・ワークシート等の課題(40%)によって評価します。

< テキスト >

マイキャリアノート

< 授業計画 >

- 第1回 キャリアデザインとは/なりたい自分
オリエンテーションとして、前期のキャリアトレーニング特別講義を振り返り全体の目標を解説します。これまでの人生で自分に影響を与えたものを振り返ります。
- 第2回 やりたいこと・できること・すべきこと/なりたい自分は自分の基準を見つけよう
なりたい自分に近づくための仕事選びの観点を知り、自分のライフスタイルや価値観を考えます。
- 第3回 業界・職業からなりたい自分をつかもう
業界・業種を拓げて深く考える方法を、情報収集力を先に学びながら実践します。
- 第4回 業界企業研究ワーク
前回の続きでグループに分かれて業界企業研究を行います。
- 第5回 業界企業研究の発表
3.4回の続きで、グループに分かれて研究をしたことを発表します。
- 第6回 3つの行動と4つの力を知り、行動につなげていくために/情報収集力とは
業界研究ワークでの情報収集について振り返り、自分自身の力をチェックし改善点を考えます。
- 第7回 思考法について学ぶ
ロジックツリー・プレスト・ディスカッションの技法を学び実践します。
- 第8回 コミュニケーション力・遂行力・まとめ
コミュニケーションの基本を確認した上で、社会における行動力とは何かを解説します。4つの力を鍛えるための習慣を自分なりに考えます。
- 第9回 ケーススタディ1(現状理解・情報収集)

今まで習った力をケーススタディで発揮します。ケーススタディは新店舗の開設の人材募集がテーマです。

第10回 ケーススタディ2 (目的の設定)

今まで習った力をケーススタディで発揮します。ケーススタディは新店舗の開設の人材募集がテーマです。

第11回 ケーススタディ3 (課題の分析・解決策の検討)

今まで習った力をケーススタディで発揮します。ケーススタディは新店舗の開設の人材募集がテーマです。

第12回 ケーススタディ4 (プレゼンテーション)

プレゼンテーションの基本を知りグループごとに発表します。発表をしっかりと聞くことについても力を入れます。

第13回 ケーススタディ5 (プレゼンテーション)

プレゼンテーションの基本を知りグループごとに発表します。発表をしっかりと聞くことについても力を入れます。

第14回 行動計画の策定

これまでに気づいた課題を整理し、今後の学生生活の過ごし方を考えます。

第15回 4つの力の振り返り/行動計画の実行のために

最新の新卒の就職状況を知り、今からできること・やりたいことを考えます。

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング特別講義 (工業簿記) 【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

講義：対面講義より実施する。

前期『キャリアトレーニング特別講義 (工業簿記)』の続きの講義である。

『キャリアトレーニング特別講義 (工業簿記)』に関する連絡先

大原学園 櫻井喜平

yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

< 授業の目的 >

ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定の受験を通じて習得していく講義である。

一般企業はもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。本講義では、製品製造業に関する工業簿記の総合原価計算を中心に学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に

大変役立つ知識である。

< 到達目標 >

日商簿記検定試験2級合格レベルの計算力および簿記の基本処理を身につけることができる。

株式会社社会計の基礎についての理解を深めることができる。

< 授業のキーワード >

工業簿記、管理会計

< 授業の進め方 >

テキストを使用し講義を進める。問題演習もおりこみながら進行する。

電卓を使用して問題演習を行う。

学生の習熟度により、下記授業計画は変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

この講義を受講するには前期でキャリアトレーニング特別講義を履修を前提とする。

日商簿記2級レベルの知識が必要である。簿記2級の知識があることを前提に授業は進行する。

後期試験終了後に日商簿記検定合格の為の直前プログラムを実施する。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

自宅復習が必要である。具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、3時間程度の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

宿題等(30%)、期末試験(70%)により総合的に評価する。

< テキスト >

「ALFA2級課程 工業簿記」(テキスト、ドリル、アンサー)大原簿記専門学校

前期のキャリアトレーニング特別講義で購入済みの学生は購入不要。

< 授業計画 >

第1回 総まとめ

問題演習

第2回 総まとめ

問題演習

第3回 総まとめ

問題演習

第4回 模試問題演習

問題演習

第5回 模試問題演習

問題演習

第6回 模試問題演習

問題演習

第7回 模試問題演習

問題演習

第8回 模試問題演習

問題演習

第9回 総まとめ

問題演習

第10回 総まとめ

問題演習

第11回 総まとめ

問題演習

第12回 総まとめ

問題演習

第13回 総まとめ

問題演習

第14回 模試問題演習

問題演習

第15回 模試問題演習

問題演習

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング入門 (A)

松田 裕之

< 授業の方法 >

対面授業「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す経営的素養を身につけること、社会で活躍するために必要な対人関係能力、概念化能力を中心としたスキルを身につけることを目指します。近年の著しい情報技術革新や世界的なパンデミックの影響により、私たちを取り巻く環境は加速度的に変化しています。社会環境の激しい変化は、生き方・働き方の多様化を推進しています。これまでは、会社が私たちのキャリア(人生)を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア(人生)をデザインしていくことが求められています。この授業では、そのために必要な社会に関する知識やスキルを修得し、自らの価値観や将来を考える力の素地を養い、実践できることを目的としています。

< 到達目標 >

- (1)社会人として基本的なマナーを習得する。
- (2)他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受け止めることができる。
- (3)自分の考えを相手に伝えることができる。
- (4)グループ活動を通じ、答えのないものに対して考えを述べるができる。
- (5)将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、コミュニケーション、ヒューマンスキル、自己表現、資格、就職活動

< 授業の進め方 >

座学とワークを交えて展開します。授業冒頭には、時事を取り上げて社会の動きを紹介し、授業の最後に、授業で学んだことを振り返りシートに記入して次回の授業で意見を共有します。

< 履修するにあたって >

座学に加え、ディスカッションなど参加型の体験学習を取り入れています。積極的な参加を期待します。また、私語や遅刻をしないなど、社会人としてふさわしい言動を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から自分自身と向き合い、自分の将来について考えておくことが望ましい。事後学習として、授業内容を実践する。また、再確認する。(目安として30分)

< 提出課題など >

各授業の最後に、授業の内容に関する振り返りシートを作成して提出します。振り返りシートについては、次の授業時に総評などを行います。

< 成績評価方法・基準 >

振り返りシート100%

・授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できているかで評価します。

< テキスト >

必要資料を用意します。

< 参考図書 >

無し

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

当科目におけるキャリアの定義について考えます。キャリアトレーニング入門の目的・評価基準などについて説明します。

第2回 社会が求める能力特性

社会が求める能力特性を学び、それらの能力について大学生活を通してどのように育てていくことができるか考えます。

第3回 社会で生きるコミュニケーションの基本

社会に必要なスキルの1つである文章を通して自分の考えを他者に伝える力をつけるために、文章作成の基本と書き方のコツを学びます。

第4回 社会で生きるコミュニケーションの基本

大学生活や人間関係において前向きな変化をもたらす「聴き方」「受け止め方」について理解を深め、実際に体験できるように取り組みます。

第5回 社会で生きるコミュニケーションの基本

自分の考えや意見を他者に正確に伝えることについて取り組みます。また、他者との良好な関係を築くコミュニケーションについて学びます。

第6回 情報収集と情報活用力

新聞の読み方を理解して、効率かつ効果的な情報収集の方法を学びます。世の中の動きを知ることが、自分のキャリアの可能性を広げることを理解します。

第7回 資格の活かし方

簿記、FP、ITパスポートなど、資格取得の意味や道のりを学びます。そして、資格を仕事としてどう活用していきたいか、また、どのように仕事をするうえで役立っていくのかについて考えます。

第8回 ケースでキャリアを考える

ある事例を通して、仕事に対する姿勢・意識について考えます。そのために、学生生活で何をどのように取り組むことで、今後のキャリアに活かしていきたいのかについて考えをまとめます。

第9回 ケースでキャリアを考える

キャリア形成に欠かせない予期せぬ出来事や人との出会いをチャンスに変えるスキルと、変化を柔軟に受け止めて対応することの大切さを学びます。

第10回 グループ活動

グループディスカッションの進め方について学びます。多様な経験や知識を持つメンバーの意見や知恵を拾ってまとめ、成果を上げていくファシリテーションスキルを高めます。

第11回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第12回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第13回 自分の価値観

キャリアの整理に必要な3つの概念を理解し、自分が大切にしたい価値観や自分の軸を探ることで、将来の自己実現を図ります。

第14回 働く意義

組織で働くことについて学びます。働く意義について考えを整理するとともに、仕事に対する意識・取り組み方について向き合います。今後の学生生活やキャリア形成にどう活かしたいか、考えをまとめます。

第15回 自分のモチベーション

どのような環境や要因が揃うとやる気が出たり、やりがいを感じられるのかを探ります。それを参考に、何に向いているのか(適職)、どんな道に進むべきかを考えていきます。

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング入門 (B)

松田 裕之

< 授業の方法 >

対面授業「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す経営的素養を身につけること、社会で活躍するために必要な対人関係能力、概念化能力を中心としたスキルを身につけることを目指します。近年の著しい情報技術革新や世界的なパンデミックの影響により、私たちを取り巻く環境は加速度的に変化しています。社会環境の激しい変化は、生き方・働き方の多様化を推進しています。これまでは、会社が私たちのキャリア(人生)を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア(人生)をデザインしていくことが求められています。この授業では、そのために必要な社会に関する知識やスキルを修得し、自らの価値観や将来を考える力の素地を養い、実践できることを目的としています。

< 到達目標 >

- (1)社会人として基本的なマナーを習得する。
- (2)他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受け止めることができる。
- (3)自分の考えを相手に伝えることができる。
- (4)グループ活動を通じ、答えのないものに対して考えを述べるができる。
- (5)将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、コミュニケーション、ヒューマンスキル、自己表現、資格、就職活動

< 授業の進め方 >

座学とワークを交えて展開します。授業冒頭には、時事を取り上げて社会の動きを紹介します。授業の最後に、授業で学んだことを振り返りシートに記入して次の授業で意見を共有します。

< 履修するにあたって >

座学に加え、ディスカッションなど参加型の体験学習を取り入れています。積極的な参加を期待します。また、私語や遅刻をしないなど、社会人としてふさわしい言動を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から自分自身と向き合い、自分の将来について考えておくことが望ましい。事後学習として、授業内容を実践する。また、再確認する。(目安として30分)

< 提出課題など >

各授業の最後に、授業の内容に関する振り返りシートを

作成して提出します。振り返りシートについては、次の授業時に総評などを行います。

<成績評価方法・基準>

振り返りシート100%

・授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できているかで評価します。

<テキスト>

必要資料を用意します。

<参考図書>

無し

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

当科目におけるキャリアの定義について考えます。キャリアトレーニング入門の目的・評価基準などについて説明します。

第2回 社会が求める能力特性

社会が求める能力特性を学び、それらの能力について大学生活を通してどのように育んでいくことができるか考えます。

第3回 社会で生きるコミュニケーションの基本

社会に必要なスキルの1つである文章を通して自分の考えを他者に伝える力をつけるために、文章作成の基本と書き方のコツを学びます。

第4回 社会で生きるコミュニケーションの基本

大学生活や人間関係において前向きな変化をもたらす「聴き方」「受け止め方」について理解を深め、実際に体験できるように取り組みます。

第5回 社会で生きるコミュニケーションの基本

自分の考えや意見を他者に正確に伝えることについて取り組みます。また、他者との良好な関係を築くコミュニケーションについて学びます。

第6回 情報収集と情報活用力

新聞の読み方を理解して、効率かつ効果的な情報収集の方法を学びます。世の中の動きを知ることが、自分のキャリアの可能性を広げることを理解します。

第7回 資格の活かし方

簿記、FP、ITパスポートなど、資格取得の意味や道のりを学びます。そして、資格を仕事としてどう活用していきたいか、また、どのように仕事をするうえで役立っていくのかについて考えます。

第8回 ケースでキャリアを考える

ある事例を通して、仕事に対する姿勢・意識について考えます。そのために、大学生活で何をどのように取り組むことで、今後のキャリアに活かしていきたいのかについて考えをまとめます。

第9回 ケースでキャリアを考える

キャリア形成に欠かせない予期せぬ出来事や人との出会いをチャンスに変えるスキルと、変化を柔軟に受け止めて対応することの大切さを学びます。

第10回 グループ活動

グループディスカッションの進め方について学びます。多様な経験や知識を持つメンバーの意見や知恵を拾ってまとめ、成果を上げていくファシリテーションスキルを高めます。

第11回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第12回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第13回 自分の価値観

キャリアの整理に必要な3つの概念を理解し、自分が大切にしたい価値観や自分の軸を探ることで、将来の自己実現を図ります。

第14回 働く意義

組織で働くことについて学びます。働く意義について考えを整理するとともに、仕事に対する意識・取り組み方について向き合います。今後の大学生活やキャリア形成にどう活かしたいか、考えをまとめます。

第15回 自分のモチベーション

どのような環境や要因が揃うとやる気が出たり、やりがいを感じられるのかを探ります。それを参考に、何に向いているのか(適職)、どんな道に進むべきかを考えていきます。

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング入門 (C)

松田 裕之

<授業の方法>

対面授業「講義」「演習」

<授業の目的>

この科目は、経営学部のDPに示す経営的素養を身につけること、社会で活躍するために必要な対人関係能力、概念化能力を中心としたスキルを身につけることを目指します。近年の著しい情報技術革新や世界的なパンデミックの影響により、私たちを取り巻く環境は加速度的に変化しています。社会環境の激しい変化は、生き方・働き方の多様化を推進しています。これまでは、会社が私たちのキャリア(人生)を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア(人生)をデザインしていくことが求められています。この授業では、そのために必要な社会に関する知識やスキルを修得し、自らの価値観や将来を考える力の素地を養い、実践できることを目的としています。

<到達目標>

(1)社会人として基本的なマナーを習得する。

(2)他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受け止めることができる。

(3)自分の考えを相手に伝えることができる。

(4)グループ活動を通じ、答えのないものに対して考えを述べるができる。

(5)将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

<授業のキーワード>

キャリアデザイン、コミュニケーション、ヒューマンスキル、自己表現、資格、就職活動

<授業の進め方>

座学とワークを交えて展開します。授業冒頭には、時事を取り上げて社会の動きを紹介します。授業の最後に、授業で学んだことを振り返りシートに記入して次回の授業で意見を共有します。

<履修するにあたって>

座学に加え、ディスカッションなど参加型の体験学習を取り入れています。積極的な参加を期待します。また、私語や遅刻をしないなど、社会人としてふさわしい言動を求めます。

<授業時間外に必要な学修>

日頃から自分自身と向き合い、自分の将来について考えておくことが望ましい。事後学習として、授業内容を実践する。また、再確認する。(目安として30分)

<提出課題など>

各授業の最後に、授業の内容に関する振り返りシートを作成して提出します。振り返りシートについては、次の授業時に総評などを行います。

<成績評価方法・基準>

振り返りシート100%

・授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できているかで評価します。

<テキスト>

必要資料を用意します。

<参考図書>

無し

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

当科目におけるキャリアの定義について考えます。キャリアトレーニング入門の目的・評価基準などについて説明します。

第2回 社会が求める能力特性

社会が求める能力特性を学び、それらの能力について大学生活を通してどのように育んでいくことができるか考えます。

第3回 社会で生きるコミュニケーションの基本

社会に必要なスキルの1つである文章を通して自分の考えを他者に伝える力をつけるために、文章作成の基本と書き方のコツを学びます。

第4回 社会で生きるコミュニケーションの基本

大学生活や人間関係において前向きな変化をもたらす「聴き方」「受け止め方」について理解を深め、実際に体験できるように取り組みます。

第5回 社会で生きるコミュニケーションの基本

自分の考えや意見を他者に正確に伝えることについて取り組みます。また、他者との良好な関係を築くコミュニケーションについて学びます。

第6回 情報収集と情報活用力

新聞の読み方を理解して、効率かつ効果的な情報収集の方法を学びます。世の中の動きを知ることが、自分のキャリアの可能性を広げることが理解します。

第7回 資格の活かし方

簿記、FP、ITパスポートなど、資格取得の意味や道のりを学びます。そして、資格を仕事としてどう活用していきたいか、また、どのように仕事をするうえで役立っていくのかについて考えます。

第8回 ケースでキャリアを考える

ある事例を通して、仕事に対する姿勢・意識について考えます。そのために、学生生活で何をどのように取り組むことで、今後のキャリアに活かしていきたいのかについて考えをまとめます。

第9回 ケースでキャリアを考える

キャリア形成に欠かせない予期せぬ出来事や人との出会いをチャンスに変えるスキルと、変化を柔軟に受け止めて対応することの大切さを学びます。

第10回 グループ活動

グループディスカッションの進め方について学びます。多様な経験や知識を持つメンバーの意見や知恵を拾ってまとめ、成果を上げていくファシリテーションスキルを高めます。

第11回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第12回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第13回 自分の価値観

キャリアの整理に必要な3つの概念を理解し、自分が大切にしたい価値観や自分の軸を探ることで、将来の自己実現を図ります。

第14回 働く意義

組織で働くことについて学びます。働く意義について考えを整理するとともに、仕事に対する意識・取り組み方について向き合います。今後の学生生活やキャリア形成にどう活かしたいか、考えをまとめます。

第15回 自分のモチベータ

どのような環境や要因が揃うとやる気が出たり、やりがいを感じられるのかを探ります。それを参考に、何に向

いているのか（適職）、どんな道に進むべきかを考えていきます。

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング入門（D）

松田 裕之

< 授業の方法 >

対面授業「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す経営的素養を身につけること、社会で活躍するために必要な対人関係能力、概念化能力を中心としたスキルを身につけることを目指します。近年の著しい情報技術革新や世界的なパンデミックの影響により、私たちを取り巻く環境は加速度的に変化しています。社会環境の激しい変化は、生き方・働き方の多様化を推進しています。これまでは、会社が私たちのキャリア（人生）を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア（人生）をデザインしていくことが求められています。この授業では、そのために必要な社会に関する知識やスキルを修得し、自らの価値観や将来を考える力の素地を養い、実践できることを目的としています。

< 到達目標 >

- (1) 社会人として基本的なマナーを習得する。
- (2) 他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受け止めることができる。
- (3) 自分の考えを相手に伝えることができる。
- (4) グループ活動を通じ、答えのないものに対して考えを述べるができる。
- (5) 将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、コミュニケーション、ヒューマンスキル、自己表現、資格、就職活動

< 授業の進め方 >

座学とワークを交えて展開します。授業冒頭には、時事を取り上げて社会の動きを紹介します。授業の最後に、授業で学んだことを振り返りシートに記入して次回の授業で意見を共有します。

< 履修するにあたって >

座学に加え、ディスカッションなど参加型の体験学習を取り入れています。積極的な参加を期待します。また、私語や遅刻をしないなど、社会人としてふさわしい言動を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から自分自身と向き合い、自分の将来について考えておくことが望ましい。事後学習として、授業内容を実践する。また、再確認する。（目安として30分）

< 提出課題など >

各授業の最後に、授業の内容に関する振り返りシートを作成して提出します。振り返りシートについては、次の授業時に総評などを行います。

< 成績評価方法・基準 >

振り返りシート100%

・授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できているかで評価します。

< テキスト >

必要資料を用意します。

< 参考図書 >

無し

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

当科目におけるキャリアの定義について考えます。キャリアトレーニング入門の目的・評価基準などについて説明します。

第2回 社会が求める能力特性

社会が求める能力特性を学び、それらの能力について大学生活を通してどのように育んでいくことができるか考えます。

第3回 社会で生きるコミュニケーションの基本

社会で必要なスキルの1つである文章を通して自分の考えを他者に伝える力をつけるために、文章作成の基本と書き方のコツを学びます。

第4回 社会で生きるコミュニケーションの基本

大学生活や人間関係において前向きな変化をもたらす「聴き方」「受け止め方」について理解を深め、実際に体験できるように取り組みます。

第5回 社会で生きるコミュニケーションの基本

自分の考えや意見を他者に正確に伝えることについて取り組みます。また、他者との良好な関係を築くコミュニケーションについて学びます。

第6回 情報収集と情報活用力

新聞の読み方を理解して、効率かつ効果的な情報収集の方法を学びます。世の中の動きを知ることが、自分のキャリアの可能性を広げることを理解します。

第7回 資格の活かし方

簿記、FP、ITパスポートなど、資格取得の意味や道のりを学びます。そして、資格を仕事としてどう活用していきたいか、また、どのように仕事をするうえで役立っていくのかについて考えます。

第8回 ケースでキャリアを考える

ある事例を通して、仕事に対する姿勢・意識について考えます。そのために、学生生活で何をどのように取り組むことで、今後のキャリアに活かしていきたいのかについて考えをまとめます。

第9回 ケースでキャリアを考える

キャリア形成に欠かせない予期せぬ出来事や人との出会いをチャンスに変えるスキルと、変化を柔軟に受け止め

て対応することの大切さを学びます。

第10回 グループ活動

グループディスカッションの進め方について学びます。多様な経験や知識を持つメンバーの意見や知恵を拾ってまとめ、成果を上げていくファシリテーションスキルを高めます。

第11回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第12回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第13回 自分の価値観

キャリアの整理に必要な3つの概念を理解し、自分が大切にしたい価値観や自分の軸を探ることで、将来の自己実現を図ります。

第14回 働く意義

組織で働くことについて学びます。働く意義について考えを整理するとともに、仕事に対する意識・取り組み方について向き合います。今後の学生生活やキャリア形成にどう活かしたいか、考えをまとめます。

第15回 自分のモチベータ

どのような環境や要因が揃うとやる気が出たり、やりがいを感じられるのかを探ります。それを参考に、何に向いているのか（適職）、どんな道に進むべきかを考えていきます。

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング入門（E）

松田 裕之

< 授業の方法 >

対面授業「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す経営的素養を身につけること、社会で活躍するために必要な対人関係能力、概念化能力を中心としたスキルを身につけることを目指します。近年の著しい情報技術革新や世界的なパンデミックの影響により、私たちを取り巻く環境は加速度的に変化しています。社会環境の激しい変化は、生き方・働き方の多様化を推進しています。これまでは、会社が私たちのキャリア（人生）を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア（人生）をデザインしていくことが求められています。この授業では、そのために必要な社会に関する知識やスキルを修得し、自らの価値観や将来を考える力の素地を養い、実践できることを目的としています。

< 到達目標 >

- (1)社会人として基本的なマナーを習得する。
- (2)他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受け止めることができる。
- (3)自分の考えを相手に伝えることができる。
- (4)グループ活動を通じ、答えのないものに対して考えを述べるができる。
- (5)将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、コミュニケーション、ヒューマンスキル、自己表現、資格、就職活動

< 授業の進め方 >

座学とワークを交えて展開します。授業冒頭には、時事を取り上げて社会の動きを紹介し、授業の最後に、授業で学んだことを振り返りシートに記入して次回の授業で意見を共有します。

< 履修するにあたって >

座学に加え、ディスカッションなど参加型の体験学習を取り入れています。積極的な参加を期待します。また、私語や遅刻をしないなど、社会人としてふさわしい言動を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から自分自身と向き合い、自分の将来について考えておくことが望ましい。事後学習として、授業内容を実践する。また、再確認する。（目安として30分）

< 提出課題など >

各授業の最後に、授業の内容に関する振り返りシートを作成して提出します。振り返りシートについては、次の授業時に総評などを行います。

< 成績評価方法・基準 >

振り返りシート100%

・授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できているかで評価します。

< テキスト >

必要資料を用意します。

< 参考図書 >

無し

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

当科目におけるキャリアの定義について考えます。キャリアトレーニング入門の目的・評価基準などについて説明します。

第2回 社会が求める能力特性

社会が求める能力特性を学び、それらの能力について大学生活を通してどのように育んでいくことができるか考えます。

第3回 社会で生きるコミュニケーションの基本

社会で必要なスキルの1つである文章を通して自分の考えを他者に伝える力をつけるために、文章作成の基本と

書き方のコツを学びます。

第4回 社会で生きるコミュニケーションの基本

大学生生活や人間関係において前向きな変化をもたらす「聴き方」「受け止め方」について理解を深め、実際に体験できるように取り組みます。

第5回 社会で生きるコミュニケーションの基本

自分の考えや意見を他者に正確に伝えることについて取り組みます。また、他者との良好な関係を築くコミュニケーションについて学びます。

第6回 情報収集と情報活用力

新聞の読み方を理解して、効率かつ効果的な情報収集の方法を学びます。世の中の動きを知ることが、自分のキャリアの可能性を広げることを理解します。

第7回 資格の活かし方

簿記、FP、ITパスポートなど、資格取得の意味や道のりを学びます。そして、資格を仕事としてどう活用していきたいか、また、どのように仕事をすすめるうえで役立っていくのかについて考えます。

第8回 ケースでキャリアを考える

ある事例を通して、仕事に対する姿勢・意識について考えます。そのために、学生生活で何をどのように取り組むことで、今後のキャリアに活かしていきたいのかについて考えをまとめます。

第9回 ケースでキャリアを考える

キャリア形成に欠かせない予期せぬ出来事や人との出会いをチャンスに変えるスキルと、変化を柔軟に受け止めて対応することの大切さを学びます。

第10回 グループ活動

グループディスカッションの進め方について学びます。多様な経験や知識を持つメンバーの意見や知恵を拾ってまとめ、成果を上げていくファシリテーションスキルを高めます。

第11回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第12回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバーとどのように協力して結論を出していくのか、グループ活動を通して体験します。

第13回 自分の価値観

キャリアの整理に必要な3つの概念を理解し、自分が大切にしたい価値観や自分の軸を探ることで、将来の自己実現を図ります。

第14回 働く意義

組織で働くことについて学びます。働く意義について考えを整理するとともに、仕事に対する意識・取り組み方について向き合います。今後の学生生活やキャリア形成にどう活かしたいか、考えをまとめます。

第15回 自分のモチベータ

どのような環境や要因が揃うとやる気が出たり、やりがいを感じられるのかを探ります。それを参考に、何に向いているのか(適職)、どんな道に進むべきかを考えていきます。

2022年度 後期

2.0単位

キャリアトレーニング入門 (F)

松田 裕之

< 授業の方法 >

対面授業「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す経営的素養を身につけること、社会で活躍するために必要な対人関係能力、概念化能力を中心としたスキルを身につけることを目指します。近年の著しい情報技術革新や世界的なパンデミックの影響により、私たちを取り巻く環境は加速度的に変化しています。社会環境の激しい変化は、生き方・働き方の多様化を推進しています。これまでは、会社が私たちのキャリア(人生)を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア(人生)をデザインしていくことが求められています。この授業では、そのために必要な社会に関する知識やスキルを修得し、自らの価値観や将来を考える力の素地を養い、実践できることを目的としています。

< 到達目標 >

- (1)社会人として基本的なマナーを習得する。
- (2)他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受け止めることができる。
- (3)自分の考えを相手に伝えることができる。
- (4)グループ活動を通じ、答えのないものに対して考えを述べることができる。
- (5)将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、コミュニケーション、ヒューマンスキル、自己表現、資格、就職活動

< 授業の進め方 >

座学とワークを交えて展開します。授業冒頭には、時事を取り上げて社会の動きを紹介します。授業の最後に、授業で学んだことを振り返りシートに記入して次の授業で意見を共有します。

< 履修するにあたって >

座学に加え、ディスカッションなど参加型の体験学習を取り入れています。積極的な参加を期待します。また、私語や遅刻をしないなど、社会人としてふさわしい言動を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から自分自身と向き合い、自分の将来について考

えておくことが望ましい。事後学習として、授業内容を
実践する。また、再確認する。(目安として30分)

< 提出課題など >

各授業の最後に、授業の内容に関する振り返りシートを
作成して提出します。振り返りシートについては、次の
授業時に総評などを行います。

< 成績評価方法・基準 >

振り返りシート100%

・ 授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できてい
るかで評価します。

< テキスト >

必要資料を用意します。

< 参考図書 >

無し

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

当科目におけるキャリアの定義について考えます。キャ
リアトレーニング入門の目的・評価基準などについて説
明します。

第2回 社会が求める能力特性

社会が求める能力特性を学び、それらの能力について大
学生活を通してどのように育んでいくことができるか考
えます。

第3回 社会で生きるコミュニケーションの基本

社会で必要なスキルの1つである文章を通して自分の考
えを他者に伝える力をつけるために、文章作成の基本と
書き方のコツを学びます。

第4回 社会で生きるコミュニケーションの基本

大学生活や人間関係において前向きな変化をもたらす「
聴き方」「受け止め方」について理解を深め、実際に体
現できるように取り組みます。

第5回 社会で生きるコミュニケーションの基本

自分の考えや意見を他者に正確に伝えることについて取
り組みます。また、他者との良好な関係を築くコミュニ
ケーションについて学びます。

第6回 情報収集と情報活用力

新聞の読み方を理解して、効率かつ効果的な情報収集の
方法を学びます。世の中の動きを知ることが、自分のキ
ャリアの可能性を広げることを理解します。

第7回 資格の活かし方

簿記、FP、ITパスポートなど、資格取得の意味や道のり
を学びます。そして、資格を仕事としてどう活用してい
きたいか、また、どのように仕事をするうえで役立って
いくのかについて考えます。

第8回 ケースでキャリアを考える

ある事例を通して、仕事に対する姿勢・意識について考
えます。そのために、大学生活で何をどのように取り組
むことで、今後のキャリアに活かしていきたいのかにつ
いて考えをまとめます。

第9回 ケースでキャリアを考える

キャリア形成に欠かせない予期せぬ出来事や人との出会
いをチャンスに変えるスキルと、変化を柔軟に受け止め
て対応することの大切さを学びます。

第10回 グループ活動

グループディスカッションの進め方について学びます。
多様な経験や知識を持つメンバーの意見や知恵を拾って
まとめ、成果を上げていくファシリテーションスキルを
高めます。

第11回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバ
ーとどのように協力して結論を出していくのか、グルー
プ活動を通して体験します。

第12回 グループ活動

正解のないテーマに対して、多様な考えを持つメンバ
ーとどのように協力して結論を出していくのか、グルー
プ活動を通して体験します。

第13回 自分の価値観

キャリアの整理に必要な3つの概念を理解し、自分が大
切にしたい価値観や自分の軸を探ることで、将来の自己
実現を図ります。

第14回 働く意義

組織で働くことについて学びます。働く意義について考
えを整理するとともに、仕事に対する意識・取り組み方
について向き合います。今後の大学生活やキャリア形成
にどう活かしたいか、考えをまとめます。

第15回 自分のモチベーション

どのような環境や要因が揃うとやる気が出たり、やりが
いを感じられるのかを探ります。それを参考に、何に向
いているのか(適職)、どんな道に進むべきかを考えて
いきます。

2022年度 前期

2.0単位

銀行論

石賀 和義

2022年度 後期

2.0単位

銀行論

石賀 和義

2022年度 前期

2.0単位

経営科学

塩出 省吾

< 授業の方法 >

講義と講義時間内演習

< 授業の目的 >

< 主題 >

この授業では、経営に関する具体的な問題を科学的に扱うことを目的とする。

近年のコンピュータ技術の急速な進展とともに、経営をシステム化し、それまでの技術ではとても扱うことができなかったような複雑かつ大規模な問題が実用的な時間で解けるようになった。

これら経営問題を実用的に解くためのシステム化に関する基本となることを本講義で学ぶ。

経営情報科学コースの3年次配当科目であるので、コース1・2年次配当科目をベースにして社会で直面する経営問題を数理的に解決する手法を学ぶ。

< 到達目標 >

1. 様々な経営問題をシステムティックに扱うことができる。

2. 様々な経営問題を解くためのアルゴリズムが理解できる。

3. 講義で学んだ手法を他の種の問題にも幅広く活用できるようになる。

< 授業のキーワード >

経営科学 (マネジメント・サイエンス)、オペレーションズ・リサーチ (OR)、スケジューリング、在庫管理

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めますが、授業の最後にその日の講義に関連した演習問題を解いて、その日に学んだことを理解します。中間試験および定期試験を実施します。

< 履修するにあたって >

授業中に計算をするので平方根 (ルート) 計算もできる電卓を必ず持ってくる。授業を受ける前にはテキストを予習しておいてください。また、テキストの例題、演習問題や時間内演習の問題を繰り返して復習して下さい。授業中の飲食や私語は禁じます。

< 授業時間外に必要な学修 >

何かやろうと思ったら、必ず作業の手順が発生します。スケジューリングで学習した最適な作業手順を決める方法を自身の生活の中に適用してみてください。

< 提出課題など >

講義時間内に演習を実施して理解を深める。

< 成績評価方法・基準 >

中間試験30%、定期試験30%、時間内演習40%で評価します。

< テキスト >

長畑秀和著 『ORへのステップ』 共立出版

< 参考図書 >

宮地功著 『演習形式で学ぶオペレーションズリサーチ』 共立出版 多田実他共著 『Excelで学ぶ経営科学』 オーム社

< 授業計画 >

第1回 経営科学への導入

経営科学について説明する。(テキスト1章)

第2回 アローダイアグラム

スケジューリング問題を導入する。(テキスト2章2.1)

第3回 結合点時刻

様々な結合点時刻の定義と計算を講義する。(テキスト2章2.2.1(1))

第4回 パート計算表

パート計算表の作成を講義する。(テキスト2章2.2.1(2)~(5))

第5回 3点見積もり

3つの値から作業時間を見積もる方法を講義する。(テキスト2章2.2.2)

第6回 CPM

Critical Path Methodについて講義する。(テキスト2章2.3)

第7回 演習1

経営科学 前半の演習を行う。

第8回 中間試験

経営科学 の中間試験を行う。

第9回 在庫管理とは

在庫管理の導入的講義をする。(テキスト3章3.1, 3.2)

第10回 需要量が離散型分布の場合

異なる時点で供給が独立で需要量が離散型の場合を講義する。(テキスト3章3.3.1)

第11回 需要量が連続型分布の場合

異なる時点で供給が独立で需要量が連続型の場合を講義する。(テキスト3章3.3.2)

第12回 発注点法

在庫管理システムの発注点法について講義する。(テキスト3章3.4)

第13回 定期発注法

在庫管理システムの定期発注法について講義する。(テキスト3章3.5)

第14回 シミュレーション

様々なモデルの模擬実験で用いるシミュレーションを講義する。

第15回 演習2

経営科学 後半の演習を行う。

2022年度 後期

2.0単位

経営科学

塩出 省吾

< 授業の方法 >

講義と講義時間内演習

< 授業の目的 >

この授業では線形計画法とその周辺について講義する。具体的には、線形計画問題とその効率的な解法を学習し、線形計画問題の応用として、輸送問題や最適配置問題およびゲームの理論について学習する。

経営情報科学コースの3年次配当科目であるので、コース1・2年次配当科目をベースにして社会で直面する経営問題を数理的に解決する手法を学ぶ。

<到達目標>

1. 企業においても非常に良く用いられている線形計画法が理解できる。
2. シンプレックス法を理解し、用いることができる。
3. 輸送型問題とその解法が理解できる。
4. 最適配置問題とその解法が理解できる。
5. ゲーム理論を理解し、様々なゲームの問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

経営科学(マネジメント・サイエンス)、オペレーションズ・リサーチ(OR)、線形計画法、輸送問題、人員配置問題、ゲームの理論

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めますが、授業の最後にその日の講義に関連した演習問題を解いて、その日に学んだことを理解します。

<履修するにあたって>

授業中に計算をするので平方根(ルート)計算もできる電卓を必ず持ってくる。授業を受ける前にはテキストを予習しておいてください。また、テキストの例題、演習問題や時間内演習の問題を繰り返して復習して下さい。授業中の飲食や私語は禁じます。

<授業時間外に必要な学修>

自分のまわりには線形計画が適用できる問題が必ずあるはず。何が適用できるのかに関心を持ってください。

<提出課題など>

講義時間内に演習を実施する。

<成績評価方法・基準>

中間試験30%、期末試験30%、講義時間内演習40%で評価します。

<テキスト>

長畑秀和著『ORへのステップ』共立出版

<参考図書>

宮地功著『演習形式で学ぶオペレーションズリサーチ』共立出版

<授業計画>

第1回 線形計画とは
線形計画問題とその解法である線形計画法および周辺の歴史を講義する。

第2回 線形計画法の事例について
数理計画法で最も重要な線形計画法について講義する。(6章6.1)

第3回 線形計画問題の解法について

線形計画問題の図的解法について講義する。(6章6.2)
第4回 シンプレックス法
線形計画問題の一般的解法であるシンプレックス法について講義する。(6章6.3)

第5回 双対性について
線形計画問題の双対性について講義する。(6章6.4)

第6回 シンプレックス表の計算(1)
シンプレックス表の計算について詳細に講義し、シンプレックス法の演習をする。(6章6.3~6.4)

第7回 シンプレックス表の計算(2)
シンプレックス表の計算について詳細に講義し、シンプレックス法の演習をする。(6章6.3~6.4)

第8回 シンプレックス表の計算(3)
シンプレックス表の計算について詳細に講義し、シンプレックス法の演習をする。(6章6.3~6.4)

第9回 中間演習
経営科学 前半部の演習をする。

第10回 輸送問題について
輸送問題の解説と演習を行う。(テキスト6章6.5)

第11回 輸送問題の解法
輸送問題の最適解を求める飛び石法について講義する。(6章6.5)

第12回 最適配置問題
線形計画問題の応用として、最適な人員配置問題の効率的な解法について講義する。(6章6.6)

第13回 ゲームの理論~純粋戦略~
ゲームの理論の純粋戦略について講義する。(7章7.1~7.3)

第14回 ゲームの理論~混合戦略~
ゲームの理論の混合戦略について講義する。(7章7.4)

第15回 後半演習
経営科学 後半部の演習をする。

2022年度 前期

2.0単位

経営学総論 (A)

福井 直人

<授業の方法>

講義(対面)

<授業の目的>

本講義は、経営学部に入学者間もない学生を対象とする、カリキュラムの出発点にあたる科目です。経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説するので、DPでいえば1番目の「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」に対応する科目といえます。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められていますが、これらの活

動を一般的に経営といいます。経営学の基礎的な概念や理論についての知識を修得し、企業経営全体がどのようなメカニズムで動いているのかを自分なりに説明できるようになることが本講義の目的です。この点で本講義はDPの5番目「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する」も視野に入れていきます。15回の講義の中では、経営学の主対象である株式会社の制度、経営の方向性を定める戦略、協働する人々による組織の形態、もの作りの仕組みとしての生産システムといった内容を扱います。

<到達目標>

1. 経営学の基礎的な概念について説明できる。
2. 関心のある企業の情報を独力で収集できる。
3. 日本企業における今後の経営のあり方を展望できるだけの興味・関心をもつ。

<授業のキーワード>

経営、企業、株式会社、組織、戦略

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。パワーポイントまたはレジュメまたは板書によって講義を進めます。比重は諸君の反応を見ながら変えていきたいです。

<履修するにあたって>

初学者向けの講義なので前提知識は問いませんが、高校で学んだ政治経済や現代社会における経済分野について復習しておくとういでしょう。心構えとしてコメントしますと、少なくともこの科目が十分に理解できなければ先に進むことはできないと自覚しておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

事前に教科書の指定された箇所を読み、分からない語は辞典で調べる。(目安として1時間)

事後に配布資料およびノートを見直す。必要に応じて教科書に立ち返る。(目安として1時間)

<提出課題など>

とくにありません。

<成績評価方法・基準>

中間レポート20%、期末テスト80%の予定。

中間レポートでは、講義内容前半部分についての基礎的な論述問題を課します。期末テストでは、経営学の基本的な知識を確認するための論述問題を出题します。

<テキスト>

上林憲雄・奥林康司他(2018)『経験から学ぶ経営学入門(第2版)』有斐閣。(2,640円)

<参考図書>

伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。(3,300円)

坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。(2,860円)

吉田和夫・大橋昭一編(2015)『最新基本経営学用語辞典(改訂版)』同文館出版。(3,080円)

<授業計画>

第1回 経営学事始め

講義のイントロダクションを行ない、高校での政治経済と大学での経営学の関係について説明します。

第2回 企業経営入門

企業を営むとはどういうことか、経営資源の動きに注目しながら概説します。(教科書第1章)

第3回 経済体制と企業

資本主義経済体制のもとでの古典的企業像について学びます。とくに資本主義の基本前提である所有権の概念に焦点を当てます。(教科書第2章)

第4回 現代の企業像

まず企業とNPOとの違いについて説明し、現代企業にこそ求められる役割、とくにステークホルダー・マネジメントやCSRについて説明します。(教科書第2章)

第5回 企業形態

企業の形態について、出資者の属性や責任の観点から区分・整理し、その後で株式会社の諸機関について説明します。(教科書第1章および第3章)

第6回 コーポレート・ガバナンス

所有と経営の分離について説明し、いかに経営者をチェック・コントロールしていくかを調べます。(教科書第3章)

第7回 昨今のコーポレート・ガバナンス改革

前講の内容を踏まえ、最近のコーポレート・ガバナンスの動向について会社法の改正と関連させながら論考します。(教科書第3章)

第8回 経営理念と経営戦略

経営理念の意義について説明し、そのうえで経営戦略の定義・役割について確認します。企業戦略のあたりまで説明する予定です。(教科書第4章)

第9回 経営戦略の考え方

経営戦略論の概要について学びます。とくに、PPM、競争戦略、戦略的地位などの理論の大枠を説明します。(教科書第4章)

第10回 組織形態

いかなる基準で部門を構成するか、すなわち組織形態の種類について確認します。職能別組織および事業部制組織の違いを学びます。(教科書第5章)

第11回 組織間関係論(1)

組織間関係について、まずは組織間関係論の基礎を学び、その後で企業集団や持株会社の概念について確認します。(教科書第6章)

第12回 組織間関係論(2)

組織間関係について、サプライヤーシステムとして知られる系列について学び、その後で戦略的提携やネットワークの概念について確認します。(教科書第6章)

第13回 少品種大量生産方式

少品種大量生産方式としての科学的管理法およびフォード・システムの特徴について説明します。(教科書第7章)

第14回 多品種少量生産方式

少品種大量生産方式の対比例として日本的生産システムの特徴を学ぶとともに、昨今の多品種少量生産方式について実例を紹介しします。(教科書第7章)

第15回 経営学総論 の総まとめ

企業論、組織論、戦略論がどのような連関をもっているかを、本講のまとめとして講述します。

2022年度 前期

2.0単位

経営学総論 (B)【22】

千田 直毅

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

経営学部ディプロマポリシーの第1項「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ための科目と位置づけられ、履修系統図(カリキュラ・マップ)の経営・商学コース1年次コース別選択必修科目であり、1年次配当科目「入門的な科目で経営学の基礎を学修」することを目的とする科目のひとつに位置づけられる。

具体的には、私たちの生活と密接な関連がある「企業」とは何か、そして企業とはどのような仕組みで動いているのかといった、経営学を学ぶ上で最低限必要な知識や考え方を理解する。また、経営学とはどのような学問なのか、経営学は実際の企業経営にどのように活かされているのかを考えていく。

<到達目標>

本講義では、今後各人の関心に基づいて学ぶ専門領域への足がかりとなるような基礎的な知識を習得し、経営学の全体像をつかみとり、経営学への興味・関心を持つようになることを目指す。本講義を通して、普段私たちが何気なく、無意識に接している様々な経営現象とその背後にある理論を結びつけて考える力を身につけることを目指す。

<授業の進め方>

こちらで用意したパワーポイント資料を中心に解説していく講義形式で進める。

<授業時間外に必要な学修>

授業毎に約1時間

<成績評価方法・基準>

出席カード等を用いて講義中に指示する提出課題(30%)、期末試験(70%)

<テキスト>

初回講義時に指示する。適宜資料を配布する

<参考図書>

上林憲雄ほか『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス

<授業計画>

第1回 イントロダクション

講義概要と進め方

第2回 経営学とはどのような学問か

社会科学における経営学の位置づけ、どのような特徴を持つ学問なのかについて学ぶ

第3回 企業とは何か

企業とは社会にとってどのような存在なのかについて学ぶ

第4回～第5回 会社形態とコーポレートガバナンス

会社は誰のもので、誰がどのように動かしているのかについて学ぶ

第6回～第7回 経営戦略

企業が競争に勝ち抜くためにどのように戦略をたて、実行していくのかについて学ぶ

第8回 ビッグ・ビジネスの発展

現代社会に見られる企業形態がどのように出現し、発展したのかという経緯について学ぶ

第9回～第10回 組織構造

多くの人々が一つの組織で一緒に働くために、どのような仕組みが構築され動かされているのかを学ぶ

第11回 組織と市場

なぜ市場において組織なるものが発生するのか、組織の存在意義はいかなるものかについて学ぶ

第12回～第14回 生産管理・サプライヤシステム

企業がどのようにモノをつくっているのかについて学ぶ

第15回 まとめ

これまでの講義全体のまとめ

2022年度 前期

2.0単位

経営学総論 【法】

浅井 希和子

<授業の方法>

講義形式

<授業の目的>

現代の社会において? かすことのできない企業や組織の活動である経営について学ぶ。

ビジネスの世界や経営学において最低限必要な知識と、企業や組織の活動についての具体的なイメージを持つことができるようにする。

<到達目標>

・ビジネスの世界で使われている基本的な? 語について理解する

・? 常? 活の中で触れる商品やサービスなどの経営活動を経営学の観点から捉えることができる。

・企業や組織の活動の具体的なイメージを持つ。

<授業のキーワード>

組織、企業、マネジメント、? 的資源管理、? 産管理、マーケティング、財務管理、経営学、商学

<授業の進め方>

教科書と配布資料を使って対面講義を中心に行います。

<履修するにあたって>

教科書を必ず準備すること

<授業時間外に必要な学修>

各講義の予習として教科書の該当箇所を読んでおくこと。

? 近な企業のホームページや就職案内の資料、ニュースなどから、どのような経営活動をしているのか考えること。

<提出課題など>

レポート課題を3回出します。

<成績評価方法・基準>

レポート課題の評価30% + 期末テストの評価70%

<テキスト>

上林憲雄他 著 (2018年) 『経験から学ぶ経営学? ? 第2版』 有斐閣ブックス

<参考図書>

加護野忠雄・吉村典久 著 (2021年) 『1からの経営学 第3版』 碩学舎

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の概要、進め?、評価の? 法についての説明

経営学とはどのような学問かについて考える。

第2回 企業の経営と社会1

企業とは何か、企業と社会の関わり、私たちの生活と企業との関わりについて考える。

第3回 企業の経営と社会2

NGOやNPO (? 営利企業) と会社 (営利企業) の違い、企業の社会貢献活動について学修する。

第4回 企業の仕組み1

会社の形態、指揮命令系統について学修する。

第5回 企業の仕組み2

会社間の連携や協?、取引の関係について学修する。

第6回 企業の仕組み3

企業がモノやサービスを創り出す仕組みについて学修する。

第7回 企業と働く? ? 1

組織とは何か、組織の構造、組織と個? の関係について学修する。

第8回 企業と働く? ? 2

企業で働く? ? のモチベーションとは何か、また、企業はどのようにして

? ? のモチベーションをマネジメントするのかについて学修する。

第9回 企業と働く? ? 3

キャリアや職務満?、報酬と昇進の仕組みについて学修する。

第10回 企業と市場

企業がモノやサービスを消費者に届ける仕組み、マーケティングについて学修する。

第11回 国際経営

複数の国での? 産、販売を? うグローバル企業とその活動について学修する。

第12回 会社の利益はどのように

して測定するのか

会社の財産や利益はどのようにして測定し、経営に反映させるのかについて学修する、

第13回 会社は誰のものが

コーポレートガバナンス、株主と経営者の関係について学修する。

第14回 企業の社会的責任

企業の社会的責任とは何か、企業の社会的責任と企業活動の関係について学修する。

第15回 まとめ

これまでの講義のまとめと期末テストの説明をします。

2022年度 後期

2.0単位

経営学総論 (A)

福井 直人

<授業の方法>

講義 (対面)

<授業の目的>

本講義は、経営学部に入學して間もない学生を対象する、カリキュラムの出発点にあたる科目です。経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説するので、DPでいえば1番目の「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」に対応する科目といえます。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立って

おり、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められています。これらの活動を一般的に経営といいます。経営学の基礎的な概念や理論についての知識を修得し、企業経営全体がどのようなメカニズムで動いているのかを自分なりに説明できるようになることが本講義の目的です。この点で本講義はDPの5番目「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する」も視野に入れています。15回の講義の中では、組織行動論、人的資源管理論、マーケティング論、国際経営論の領域を扱います。

<到達目標>

1. 経営学の基礎的な概念について説明できる。
2. 関心のある企業の情報を独力で収集できる。
3. 日本企業における今後の経営のあり方を展望できるだけの興味・関心をもつ。

<授業のキーワード>

組織構造、組織行動、人的資源管理、国際経営

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。パワーポイントまたはレジュメまたは板書によって講義を進めます。比重は諸君の反応を見ながら変えていきたいです。

<履修するにあたって>

初学者向けの講義なので前提知識は問いませんが、経営学総論について夏期休業期間に復習しておくといひでしょう。心構えとしてコメントしますと、少なくともこの科目が十分に理解できなければ先に進むことはできないと自覚しておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

事前に教科書の指定された箇所を読み、分からない語は辞典で調べる。(目安として1時間)

事後に配布資料およびノートを見直す。必要に応じて教科書に立ち返る。(目安として1時間)

わからない用語が出てきたら参考図書を参照し調べてください。

<提出課題など>

とくにありません。

<成績評価方法・基準>

中間レポート50%、期末レポート50%

各レポートでは、現実の企業における実態と学術的な理論の往復ができるかという観点から、論述問題を出題します。

<テキスト>

上林憲雄・奥林康司他(2018)『経験から学ぶ経営学入門(第2版)』有斐閣。(2,640円)

<参考図書>

伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。(3,300円)

坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。(2,860円)

吉田和夫・大橋昭一編(2015)『最新基本経営学用語辞典

(改訂版)』同文館出版。(3,080円)

<授業計画>

第1回 経営学総論 の復習

本講義のイントロダクションを説明した後、経営学総論の復習を行ないます。

第2回 組織構造と職務設計

分業と調整のあり方を規定する組織構造について学びます。(教科書第8章)

第3回 新しい組織の設計

前講義の内容を前提としつつ、新しい作業組織の設計について、生産方式との関連で概説します。(教科書第8章)

第4回 モチベーション理論

人の行動を引き起こすモチベーションについて、マズローやハーズバーグを代表とする内容理論、ブルームやローラーを代表とする過程理論それぞれについて学習します。(教科書第9章)

第5回 リーダーシップ理論

組織における対人影響のひとつとしてのリーダーシップについて、資質理論、行動理論などを中心に学びます。各自のリーダーシップ経験についてもまとめてもらいます。(教科書第9章)

第6回 雇用管理

組織で働いてもらう従業員をどのように雇うか、雇用管理の問題を取り上げます。採用・異動・退職という一連のフローについて確認します。(教科書第10章)

第7回 雇用管理の新動向

昨今の雇用管理の新動向について概説します。とくに雇用形態の多様化、正社員を対象とする採用・退職管理の最近の事例について検討します。(教科書第10章)

第8回 賃金管理

労働の対価として支払われる報酬の中心である、賃金の支払いルールについて検討します。賃金の意義について説明した後、賃金体系や賃金形態という概念を押さえます。(教科書第11章)

第9回 賃金管理の新動向

日本企業における賃金管理の史的変遷をたどり、昨今の賃金管理の動向、とくに成果主義賃金について事例を交えながら説明します。(教科書第11章)

第10回 人材育成

日本企業において従業員の能力向上がどのように図られているか、OJTやOff-JTの内実を確認しつつ、事例も検討します。(教科書第12章)

第11回 マーケティング(1)

組織と市場をつなぐ活動であるマーケティングについて基本的な内容を学びます。まずは内外環境分析やSWOT分析に始まり、STP戦略がどういったものかを講述します。(教科書第13章)

第12回 マーケティング(2)

前講義の内容を前提としつつさらに議論を進め、4つのP

(製品、価格、流通、プロモーション)やブランド管理について検討します。(教科書第13章)

第13回 国際経営

グローバル企業が国境を越えてどのような活動をしているかについて議論します。さらに、経営制度の国際比較研究についても言及します。(教科書第14章)

第14回 会計学基礎論

会計学の各領域について説明した後、貸借対照表と損益計算書の読み方について概説します。(教科書第15章)

第15回 社会科学における経営学の位置づけ

教科書の補論部分を扱います。広範な領域にわたる科学における経営学の位置づけを確認したあと、経営現象を科学的に分析することの意義について学びます。(教科書補章)

2022年度 後期

2.0単位

経営学総論 (B)【22】

千田 直毅

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経営学部ディプロマポリシーの第1項「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ための科目と位置づけられ、履修系統図(カリキュラ・マップ)の経営・商学コース1年次コース別選択必修科目であり、1年次配当科目「入門的な科目で経営学の基礎を学修」することを目的とする科目のひとつに位置づけられる。

経営学総論 に引き続き、経営学における基本的な知識や考え方を体系的に理解し、経営学の全体像を把握することである。企業事例や現代的なトピックスも交えながら、経営学における理論の変遷、主要な概念を学ぶ。

< 到達目標 >

本講義では、今後各人の関心に基づいて学ぶ専門領域への足がかりとなるような基礎的な知識を習得し、経営学の全体像をつかみとり、経営学への興味・関心を持つようになることを目指す。本講義を通して、普段私たちが何気なく、無意識に接している様々な経営現象とその背後にある理論を結びつけて考える力を身につけることを目指す。

< 授業の進め方 >

こちらで用意したパワーポイント資料を中心に解説する講義形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業毎に約1時間

< 成績評価方法・基準 >

出席カード等を用いて講義中に指定する提出課題(20%)、期末試験(80%)

< テキスト >

初回講義時に指示する。適宜資料を配布する

< 参考図書 >

上林憲雄ほか『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義概要と進め方

第2回 モチベーション

ヒトのモチベーションとそのマネジメントのあり方について学ぶ

第3回～第4回 リーダーシップ

組織をうまくまとめ上げるためのリーダーシップ、これからの時代に求められるリーダーシップについて検討する

第5回? 6回 キャリア・マネジメント

組織において個人がどのようにキャリアを築いていくのか、組織はどのように個人のキャリア形成をサポートしていくのかについて学ぶ

第7回～第9回 組織の中の個人

組織における個人間のコミュニケーション、意思決定、チームワークなどについて学ぶ

第10回～第12回 人と組織のマネジメント

企業におけるヒトと組織のマネジメントに関する諸制度について、事例を紹介しながら学ぶ

第13回 グローバル経営

企業の国際化、海外展開におけるマネジメントについて学ぶ

第14回 ITと企業経営

ITの進展が企業経営にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ

第15回 まとめ

これまでの講義全体のまとめ

2022年度 後期

2.0単位

経営学総論 【法】

浅井 希和子

< 授業の方法 >

講義形式

< 授業の目的 >

経営学の基本的な理論を学習する。

どのような企業、組織に所属しても必要になる経営管理(マネジメント)という概念の基本を理解する。

< 到達目標 >

企業や組織の経営について経営学の基本的な理論を使って説明できる。

< 授業のキーワード >

経営管理、企業、組織、戦略、人的資源管理

< 授業の進め方 >

教科書と配布資料を使用し、講義を中心に進めます。

< 履修するにあたって >

教科書を必ず準備すること。

経営学総論 を履修していることが望ましい。

履修していない者は、『経験から学ぶ経営学入門』などの書籍で、基本的な内容を把握しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の前に指定された資料を読んで疑問点を整理しておくこと。

教科書を読んで講義の内容を復習すること。

< 提出課題など >

レポート課題を3回出します。

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題評価30% + 期末テスト評価70%

< テキスト >

上野恭裕・馬場大治 編著 (2016年) 『経営管理論
ベーシックプラス』 中央経済社

< 参考図書 >

上林憲雄 他著 (2018年) 『経験から学ぶ経営学入門
第2版』 有斐閣ブックス

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、進め方、評価の方法について説明する。

第2回 経営学とはどのような学問か

経営学という学問の成り立ちと他の関連する学問分野との関係について考える。

第3回 管理とは何か

経営管理とは、経営管理の担い手は誰なのか、経営管理の歴史について学習する。

第4回 企業とは何か

会社組織の種類、株式会社の特徴、株式会社の成立の経緯などについて学習する。

第5回 マネジメントの誕生

科学的管理法、人間関係論など古典的なマネジメント論について学習する。

第6回 組織のマネジメントの展開

個人と組織の関係、組織の存続条件、意思決定のマネジメントについて考える。

第7回 組織文化のマネジメント

組織文化とは何か、組織文化の機能と逆機能、組織文化の形成と変革について学ぶ。

第8回 経営組織の環境適応

コンティンジェンシー理論の誕生と発展、またその限界について考える。

第9回 企業戦略のマネジメント

経営戦略とは何かについて考える。

第10回 競争戦略のマネジメント

競争優位とは何か、競争優位を獲得するための戦略を考える。

第11回 イノベーションのマネジメント

イノベーションとは何か、イノベーションをどのようにマネジメントするのかについて考える。

第12回 生産管理

生産管理と経営、品質管理、生産管理と企業の優位性について考える。

第13回 企業における人のマネジメント

人のマネジメントとは何か、日本企業に特徴的な人のマネジメントについて考える。

第14回 財務管理とコーポレート・ガバナンス

企業はお金をどう管理し、様々な利害関係者にどのように対応するのかについて考える。

第15回 まとめ

これまでの講義のまとめと期末テストの説明を行います。

2022年度 前期

2.0単位

経営学特講

石賀 和義

2022年度 後期

2.0単位

経営学特講 (OB・OGキャリアデザイン塾)

岡田 豊基

< 授業の方法 >

- ・対面授業(講義)
- ・講師が1回の講義を担当するオムニバス形式。
- ・レジュメ等の資料は配布する場合と、配布しない場合がある。
- ・この講義は、履修届を提出していない学生も聴講できます。

(単位の取得はできません)

< 授業の目的 >

- ・この科目は、法学部および経営学部のDP(ディプロマポリシー)に示す、公平性と客観性を重視した判断および行動ができるようになることを目指し、< 授業計画 > に示した内容で講義を行う。
- ・将来の進路決定に自信を持って立ち向かうため、日本の国内外で活躍されている9万人の同窓生の中から講師を選抜し“人間力”をいかに養うか、社会へ羽ばたいていただく為に同窓会が企画し大学と連携した特別な科目である。
- ・就職を考える上で、実際の社会・業界・業種で活躍さ

れている卒業生が本音で語りかけ、職業

選択の参考にしてほしい。

・本講義は、実務家を講師としてお迎えするものであることから、文部科学省の進める高等教育の

質保証の政策に心えるものであり、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

・就職活動を行う、または、社会人として人々と接する上での心構えの修得。

<授業のキーワード>

・学生時代にすべき活動、就職活動の体験談、現在勤めている業界・業種の過去・現在・未来の

展望、社会人としての成功及び失敗談

<授業の進め方>

・15回の講義では、様々な卒業生（講師）が登場されるので、自己紹介・学生時代の思い出、就職活動、業界・業種の紹介、社会人としての成功体験・失敗談等をお話していただきます。

・レジメ等の資料はdotCampusに掲載するので、各自、講義前にダウンロードし、講義で使うこと。

・講義の終了前には質問時間を設け、卒業生だから言える、または、伝えておきたい本音の話をし

て頂きます。

・「質問」して下さい。就職活動（面接等）への準備・

社会人への準備です。

・講義への出席とレポートの提出を成績評価の対象とするので、時間割通りに参加すること。

・レポートは、dotCampusにアップロードするので、各自ダウンロードして下さい。

<履修するにあたって>

・皆さん方は「大学を代表して講義を受ける」ことを強く意識して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

・各講義終了後、レポートを作成する。

<提出課題など>

・各講義につき、レポートを、次の週の火曜日午後11時半までに、dotCampusで提出すること。

・システム上、提出期限を超えたレポートは受け付けられない。

・レポートの「 . 」は、10行以上記述すること。

10行以上記述したレポートを成績評価の対象とする。

・レポートの「 . 」は、1つ以上の質問をすること。

質問をしたレポートを成績評価の対象とする。

・レポートの書き方

適切な大きさの字で、最後まで書き込む（= 枠を埋める）。

原稿（案）を書き、つぎに、それをまとめる。

「 . 」は、10行以上記述すること。

<成績評価方法・基準>

・出席状況（50%）、レポート（50%）により評価する。

・レポートの「 . 」は、10行以上記述すること。10行以上記述したレポートを成績評価の対象とする。

・レポートの「 . 」は、1つ以上の質問をすること。質問をしたレポートを成績評価の対象とする。

・15回の講義のうち、実出席日数が3分の2に達しない場合（6回以上欠席した場合に相当）

には、評価を受けることはできない（=「/」となる）。

<テキスト>

・講義中に指定することがある。

<参考図書>

・講師の著書及び推薦図書。

・講義中に指定することがある。

<授業計画>

第1回 保険業の仕事

あなたが選ぶのは・・・

自分に出来る仕事？ それとも自分が成長でいる仕事？

今岡 健一（法学部卒）

ソニー生命保険（株）（保険業）

第2回 製造業の仕事

巻寿司で世界に挑戦！

- 俺の恵方巻どうだ！！ -

清水 久明（法学部卒）

大松食品（株）/ 宝海草（株）（製造業）

第3回 金融業の仕事

楽しく働くモチベーション

大槻 佐智子（法学部卒）

（株）みなと銀行（金融業）

第4回 専門サービス業の仕事

社会人になる前に知っておきたい、職場で求められるコミュニケーション力

米田 貴虎（法学部卒）

（株）ブレントラスト（専門サービス業）

第5回 公務員（消防官）の仕事

CALL 119！！ いざ、災害現場へー背負うのは空気呼吸器と責任ー

竹葉 健治（経済学部卒）

明石消防局（公務員（消防官））

第6回 イベント・興行業の仕事

死ぬまで勉強、人生楽笑！

浪花 功（法学部卒）

協愛（株）（イベント・興行業）

第7回 キャリアコンサル業の仕事

『就職 = ゴール』じゃない！

ー自分らしいキャリアプランを見つけようー

進藤優子（法学部卒）

（一般社団法人）キャリアエール（キャリアコンサル業）

第8回 運輸倉庫業の仕事

心の強化書

- 「われ以外みなわが師なり」-

橋本昇（経済学部卒）

（株）太子産業（運輸倉庫業）

第9回 専門サービス業の仕事

薬剤師資格を持つ弁護士のココだけの話

山口 弥生（薬学部卒）

あさひ法律事務所（弁護士）

第10回 サービス業の仕事

自分が社会の中でどう貢献したいか？を追い求める学生生活を。

- スポーツ栄養士として開業するまでの事例から-

安藤大貴（学部卒）

Sports&Fitness Dining WARRIOR'S REST（専門サービス業）

第11回 金融業の仕事・不動産業の仕事

上場会社役員が本音で語る、求める人材

桑原理哲（法学部卒）

東洋証券（株）代表取締役社長（金融業）

濱本聡（経済学部卒）

和田興産（株）専務取締役（不動産業）

第12回 公益財団法人の仕事

テニスを通じて、世界で働く仕事

川廷 尚弘（経済学部卒）

（公益財団法人）日本テニス協会（公益財団）

第13回 金融業の仕事

地域金融の醍醐味ー多くの人と夢を共有する仕事ー

大西謙作（法学部卒）

（株）日清信用金庫（金融業）

第14回 フリーアナウンサー（情報通信業）の仕事

ミライは言葉で創られる

香山 真希（法学部卒）

フリーアナウンサー（情報通信業）

第15回 不動産管理業の仕事

就職がゴールではない！！

- 企業はあなたのどこを見ているか知っていますか？ -

松尾 紀明（法学部卒）

ラポール(株)（不動産管理等）

2022年度 前期

2.0単位

経営学特講 3年次生対象

松田 裕之

< 授業の方法 >

対面授業

担当教員のメールアドレスは、maeda@gc.kobegakuin.ac.jp です。

< 授業の目的 >

就職活動の準備として、自己分析と業界研究を行い、就職活動の流れを学習します。

また、筆記試験対策を早いうちから始めることで、就職対策への準備も万全にしていきます。

なお、この授業の担当者は、人事部での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導するものとする。

< 到達目標 >

就職活動の概要や流れを理解が出来て、就職活動に向けてのスケジュールリングができます。

就職に必要なルールやマナーを理解できます。

筆記試験対策では、特に頻出度の高い単元の問題を繰り返し解き、就職試験に慣れましょう。

< 授業のキーワード >

自己分析・自己PR作成・業界研究・一般就職試験・SPI3

< 授業の進め方 >

・就職に関する基礎項目（マナー・エントリーシート基本・面接の種類など）

・就職活動に向かう準備トレーニングを行います。（徹底した自己分析）

・SPIは問題を解くことと解説が中心です。

< 履修するにあたって >

・受講者各人の積極的な勉学が基本です。分からないところは、必ず質問してください。

・予習・復習や課題に取り組む時間を増やしましょう。

・授業中の私語は禁じます。

・原則、遅刻は認めません。

< 授業時間外に必要な学修 >

・小テストのために、授業で行うSPIの問題の復習を必ずしておくこと。

・エントリーシート提出のための授業中に伝えた項目の復習は必須。

< 提出課題など >

最終課題は、エントリーシートの作成です。期日に間に合わなければ、採点に入れません。

< 成績評価方法・基準 >

授業の課題への毎回のレポート提出（自己PR、学生時代

に頑張ったことなど) 30%、SPI小テスト結果 30%、エントリーシート課題評価 40% の割合で総合的に判断します。

<テキスト>

テキスト配付資料は、Teamsにて配ります。
課題についてもTeamsで配布しますのでよろしくお願ひします。

<授業計画>

第1回 【ガイダンス】 キャリアとは? ~自己分析
授業の目的・ゴールを理解する。今後のスケジュールを知る

一般的な就職活動の流れを知り、自分の就職活動の計画を立てる

自分の職業観・人生観を考える

第2回 自己分析

今までの自分を振り返る(自分棚卸)

自分の強みを知る/自分の強み・弱みをまとめる

エゴグラムで自分を知る

第3回 自己分析

他己分析から自己分析を掘り下げる

学生時代に頑張ったことを書いてみる

第4回 社会で働くとは

業界・企業研究

社会の構造・関連性について理解する

業界とは?自分が興味のある業界の見つけ方を知る

第5回 エントリーシートへの道

自分史を作り上げる

志望動機を書くために必要な事柄を知る

志望動機を書いてみる

第6回 エントリーシートへの道

文章構成の仕方とエントリーシートに必須項目の基礎

PREP法による文章構成方法

第7回 自己分析から自己PRへ

自己分析を自己PRの事例

学生時代に頑張ったことの題材について

志望動機の事例

第8回 業界・企業研究

情報収集から企業詳細調査シートへ

社会人としてのマナー

企業へ売り込む必要性

業界とは?

自分が興味のある業界の見つけ方を知る

第9回 就職適性試験対策

企業情報シートと情報の集め方について

割合と非・速さ・距離・時間

企業の調べ方と情報の抜粋の仕方

第10回 就職適性試験対策

自己PRの掘り下げと完成

濃度算・損益算

基本のエントリーシートの書き方

自分の言いたいことを伝えるには

第11回 就職適正試験対策

エントリーシートのチェック

順列・組合せ・確率

エントリーシートの基本のチェック項目について(エントリーシートの提出)

第12回 就職適正試験対策

言語

学生時代に頑張ったことの題材と仕上げ方

第13回 就職適正試験対策 (模擬テスト)

模擬テスト:就職適正試験対策 ~の中から出題します。

第14回 エントリーシートの書き方のおさらい

・自己PR

・学生時代に最も打ち込んだこと

・志望動機

・エントリーシートで気をつけるべきこと

第15回 総括

夏休みの間にやっておくべきこと

就職活動スケジュールのおさらい

2022年度 前期

2.0単位

経営学特講 4年次生対象

松田 裕之

<授業の方法>

対面授業

担当教員メールアドレス: maeda-h@gc.kobegakuin.ac.jp です。

<授業の目的>

社会人になるための就職活動の実践として、キャリアプラン作成。社会人になる為の基礎力を身につける。なお、この授業の担当者は、人事部での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対するの解説、指導するものとする。

<到達目標>

社会に出る前に自分の目指す社会人像をイメージできません。

社会に出てからの知識を身につけます。

社会適応力を身につけることができます。

プレゼンテーション能力の向上を図ります。

<授業のキーワード>

集団面接演習・グループディスカッション演習・個人面接演習・人生のキャリアプラン

<授業の進め方>

・グループワークを取り入れ授業を実施します。

・総合的な角度から一般就職問題を解き、解説を行います

す。
<履修するにあたって>
・受講者各人の積極的な勉学が基本です。分からないところは、必ず質問してください。
・予習・復習や宿題に取り組む量を増やしましょう。
・授業中の私語は禁じます。
・原則、遅刻は認めません。
<授業時間外に必要な学修>
・中間の小テストのために、授業で行う社会人基礎問題の復習をしておくこと。
・チーム作成課題の分担分は、必ず、次回までに仕上げしておくこと。
<提出課題など>
最終課題は、それぞれのチームライフライン評価提出です。提出に遅れれば採点に入れません。
<成績評価方法・基準>
レポート(他己分析と自己評価) 30%、小テスト点数結果 40%、チーム企画書評価表の提出 30% の割合で総合的に判断します。
<授業計画>
第1回 【ガイダンス】
キャリアとは?
授業の目的・ゴールを理解する
キャリアプランニングの重要性
キャリアプランの為に自分の棚卸確認
第2回 SPI(総合問題)
SPI対策
第3回 面接の基本確認
就活に必要なメールのやり取りとルール
グループディスカッションの基本
選考の基準について
選考後の対応について
第4回 他己分析と他己評価
自己アピールと他己アピールを发表形式で
(コミュニケーション能力アップ)
業界別質問集

第5回 面接官の目線を知る
面接官の目線を体感する 模擬最終面接
第6回 ディベート
(自分の意見を正当に主張できるようになる)
ディベートの手法を知る
評価者になってみる(=お互いに評価し合う)
第7回 社会人マナー基本
社会人マナー基本編(敬語含)
社会人基本テスト 40分
第8回 コミュニケーション基礎とメールと手紙の書き方の基本
コミュニケーション能力アップとお礼のメールやお礼の手紙の書き方

メールや手紙についてのルールの習得
第9回 コミュニケーション能力向上とチームワークの作り方
基本的な心理学を知る
心理学に基づいたワークをして鍛える
伝えることの難しさと上手く伝える方法を知る
第10回 自己の価値観と他人の価値観
違う価値観とチームワークを作るコツを知る
価値観カードによる自分の価値観分析と他人の価値観を知る
価値観の違うチームを組んで共通点を見出す
第11回 チームを組んで
「共通課題」に取り組む
チームビルディングと企画書作成の基礎を知る
第12回 卒業してからの目標の設定
社会人になって何をしたいのか?
チームライフラインの続き
10年後どうなりたいのか?
どうなっていたいのか?
第13回 チームライフラインの完成
社会人の入り口が「内定」ですが、そこからの自分の将来の組み立てをする
第14回 社会人になるに向けて
チームのライフラインの発表と評価
第15回 総括
社会人になる前の最後の夏休みをどう過ごすか

2022年度 後期
2.0単位
経営学特講 3年次生対象
松田 裕之

<授業の方法>
対面授業

担当教員のメールアドレス: maeda-h@gc.kobegakuin.ac.jp

<授業の目的>
就職活動の流れを学習し、応募書類や筆記試験、面接試験の練習を行います。
筆記試験対策は、演習問題を多くとくことで、より早く回答できるようにしましょう。
エントリーから最終面接までの常識を習得します。就職活動の最新情報を提示します。
なお、この授業の担当者は、人事部での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導するものとする。
<到達目標>
就職活動の概要や流れを理解が出来て、就職活動に向けてのスケジュールリングができます。

就職に必要なルールやマナーを理解できます。
筆記試験対策では、特に頻出度の高い単元の問題を繰り返し解き、就職試験に慣れましょう。

< 授業のキーワード >

一般就職試験対策・SPI3・エントリーシート対策・個人面接・グループディスカッション演習

< 授業の進め方 >

- ・SPIは問題を解き、解説をしていきます。
- ・面接については個人演習中心です。
- ・グループワークの手法を覚えることも取り入れ授業を実施

< 履修するにあたって >

- ・受講者各人の積極的な勉強が基本です。分からないところは、必ず質問してください。
- ・自分自身の就職活動です。調べたり、課題に取り組む量を増やしましょう。
- ・授業中の私語は禁じます。
- ・原則、遅刻は認めません。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・中間の小テストのために、授業で行うSPIの問題の復習をしておくこと。
- ・最終課題のエントリーシート提出のための復習は必須。

< 提出課題など >

最終課題は、エントリーシートの作成です。期日に間に合わなければ、採点に入れません。

< 成績評価方法・基準 >

授業後の質問への回答 40%、SPI小テストの点数結果 30%、エントリーシートの評価 30% の割合で総合的に判断します。

< テキスト >

- ・テキスト配布：Teamsで配ります。
- ・課題についてもTeamsで配布します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

この講義の目的とゴール(含:評価)

変化した世の中のことなど

就職活動の変化について

第2回 学生時代に頑張ったことをまとめる

学生時代に頑張ったことのアピール

就職適正試験対策 割合/損益算

第3回 エントリーシートの書き方のポイント

エントリーシートの書き方のポイント

就職適正試験対策 分割払い/代金の清算/同意語・反対語・5択

第4回 学生時代頑張ったこと・自己PR

学生時代頑張ったことと自己PRのまとめ

就職適正試験対策 速度算/集合 GAB 空欄補充・文の並び換え

第5回 自分の良いところの再認識

自己PRの見直しと確立

就職適正試験対策 順列・組み合わせ/確率

第6回 職種について考える

将来やりたいことを考える 職種の内容を知る

就職適正試験対策 表の読み取り

第7回 志望動機のまとめ

志望動機の良い事例と悪い事例を比較し、志望動機をまとめる

就職適正試験対策 グラフの領域/ブラックボックス

第8回 志望動機のまとめ

志望動機の集大成・それに合わせた自己PRの見直し

就職適正試験対策 推論

第9回 文章作成講座

就職適正試験対策 四則計算/図表の読み取り

簡潔で記憶に残る文章を書く力を身につける

文章作成のルール、読み手に伝わりやすい書き方のコツを学ぶ

第10回 書類対策

就職適正試験対策(模擬テスト)

応募書類の概要と書き方を理解する

応募書類提出のマナーを知る

自身のSPI能力と授業開始時からの上達を知る

第11回 業界と職種の違い

個人面接基礎

業界と職種の違いを知る

個人面接の基本所作を学ぶ

第12回 敬語テスト

ESの評価項目について

面接で必要な敬語を理解する

ESを書く時のポイントを知る

第13回 グループディスカッションについて(オンラインも含)

オンラインに対応する技術を含めてグループディスカッションについて学ぶ

グループディスカッションを行う

面接に必要なマナーを習得する

第14回 グループディスカッションと集団面接の評価軸の違い

GDと集団面接と個人面接のそれぞれの評価軸の違いを知る

第15回 目標と計画

就活スケジュールだけではない自分の人生の目標と計画の重要性を知る

講座の総括

2022年度 後期

2.0単位

経営学特講 4年次生対象

松田 裕之

< 授業の方法 >

対面授業

担当教員メールアドレス：maeda-h@gc.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

社会人になるための心構えを学習します。社会人として身につけているべきビジネスマナーや業務についてなど、実際に就職してからのルールやマナーを理解します。また、社会人としてなくてはならない、コミュニケーション力を、様々なアプローチで楽しく学びます。また、社会人になってからのライフプランの立て方など、大学卒業後の生活に役立つ目標の立て方などを学びます。またSNSを学ぶ授業では、実際にあった事例を通して、コミュニケーションツールの使用において気をつけるべきことを理解します。なお、この授業の担当者は、人事部での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導するものとする。

< 到達目標 >

社会人が知るべきルールやマナーを理解できます。社会人として求められる力を習得できます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション力・論理力・ビジネスマナー・計画と目標・企画/構成

< 授業の進め方 >

・グループワーク・個人ワークを取り入れ授業を実施します。・ビジネスマナートレーニングも取り入れます。

< 履修するにあたって >

・受講者各人の積極的な勉学が基本です。分からないところは、必ず質問してください。

・予習・復習や宿題に取り組む量を増やしましょう。

・授業中の私語は禁じます。

・原則、遅刻は認めません。

< 授業時間外に必要な学修 >

中間の小テストのために、授業で行うビジネスマナー問題の復習をしておくこと。

< 提出課題など >

最終課題は、プレゼンテーション能力・企画・構成評価提出です。期限内に提出がない場合には、不可となりますので、必ず、期限内提出をお願いいたします。

< 成績評価方法・基準 >

授業後の質問への回答 50%、ビジネスマナー小テストの点数結果 20%、事業計画書提出とその評価 30% の割合で総合的に判断します。

< テキスト >

テキスト配布：Teamsにて行います。（課題についても同様）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

働くとは？(人生観・職業観)

授業の目的・ゴールを理解する。自分の職業観・人生観を考える。キャリアへの意識を高める。

第2回 対人コミュニケーション

傾聴や伝達などの基本的なコミュニケーションスキルを身につける

第3回 伝達力UP

人に伝える、きちんと伝わるとはどういうことか、コミュニケーションの基礎を学習する

第4回 社会人基礎力と敬語と態度

社会人として必要な基礎力と社会人の敬語、社会人にふさわしい態度などを学ぶ

第5回 ビジネス文書の基本と論理的思考基礎

社会人に必要なビジネス文書の基本とものごとを相手に分かりやすく伝え方の論理思考を学ぶ

第6回 社会人基礎力と問題解決法

社会人として必要なこと知識と課題にぶつかった時の対処法として問題解決法を学ぶ

第7回 問題解決法

ブレインストーミング、ロジックツリー、KJ法など、社会で必要な問題解決法の基礎を理解する

第8回 グループワークで問題解決法を習得する

ブレインストーミング、ロジックツリー、KJ法など、社会で必要な問題解決法の実践編

第9回 問題解決法の基本

問題解決法をグループワークで実践する

第10回 目標と計画/社会人のコミュニケーションに関する知識/チームワーク形成

ライフラインチャートを作成し、どこに向かいたいかを明確にする/社会でのコミュニケーションの知識を得る/チームワークとは？を知る

第11回 企画・構成

学んだ問題解決法を使いながら、企画書の作成を題材に、説得力のある論理的な話の組み立て方や文書表現を身につける

第12回 企画・構成

効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶ

第13回 企画・構成 /コミュニケーションツール講座

社会人になる為に学んだことを使って事業計画書を仕上げる

コミュニケーションツールの正しい使い方を学ぶ

第14回 事業計画の発表と評価

事業計画を評価する評価軸を知る

プレゼンテーション能力を評価する

第15回 社会にでてから

まとめと今後についてをしっかりと考える(目標の立て方と実現)

2022年度 前期

2.0単位

経営管理総論

田中 康介

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義科目では、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識、及びビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修します。また本講義科目は、経営・商学コースの選択必修科目に属し、経営学の基礎を学ぶための重要な科目です。現在、私たちの周りには、数多くの企業（例えばコンビニエンス・ストア、自動車会社、運輸会社など）が存在しています。本講義では、そのような企業における経営や管理、いわゆるマネジメントの理論や手法が、どのようにして生まれ、どのような意味があるのかを検証、理解することを目的としています。そのため、まず経営(学)とは何か、企業とは何かを理解し、そして企業の組織は、どのように構築され運営されているのか、どのような目的や責任、どのような戦略を持って活動しているのか、などについて理解します。

< 到達目標 >

1. 経営管理の様々な理論や手法を説明できる。
2. 経営戦略とは何かを説明できる。
3. 市場競争に打ち勝つ方法を説明できる。
4. 企業の社会的責任や新しいマネジメントについて説明できる。

< 授業のキーワード >

マネジメント、経営管理、経営組織、経営戦略、企業統治、社会的責任

< 授業の進め方 >

講義中心の授業ですが、より実践的な理解を促進するため、様々な映像や事例を用いて解説します。

< 履修するにあたって >

授業中の私語や飲食、授業に関係ないことは慎んで下さい。全出席(無欠席)を前提としますが、欠席(遅刻)の理由がある場合は届け出て下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で示されている教材(プリント)の個所を、丹念に繰り返し読むこと。

事前学習として、講義の対象となる教材(プリント・レジュメ)の個所を読み込んでおくこと。(目安として1時間程度)

事後学修として、講義の対象であった教材(プリント・レジュメ)とビデオ教材等の内容を再確認すること。(目安として1時間程度)

< 提出課題など >

講義期間中(授業中)に、小テストを合計2回、実施します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験50%、小テスト(合計2回実施予定)等50%の割合で、成績評価します。フィードバックに関しては、小テストは、必要(質問等)に応じて、実施した後(以降)の授業で行い、定期試験に関しては、疑義や質問があれば適宜、行います。

< テキスト >

オリジナル教材(プリント)を使用しますが、教材や資料は適宜配布します。

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 経営(学)とは何か(1)

企業の組織や管理(マネジメント)の仕組みが、どのように生まれ、どのような戦略が生み出されたのかなど、企業経営と経営学について理解します。

第2回 経営(学)とは何か(2)

引き続き、企業経営と経営学について、理解を深めます。

第3回 企業とは何か

企業を「市場経済において財やサービスの生産と販売を行う経済主体」として捉え、その基本的な役割や行動について理解します。

第4回 企業の特徴

引き続き企業について、理解を深めます。ここでは、特に現代企業の特徴について理解します。

第5回 マネジメントの意義

近代企業が成立した早くから、様々な管理手法や組織形態が生まれて来ました。ここでは、今日の企業経営に通じる、様々な管理(マネジメント)の理論や手法について理解します。

第6回 組織とは何か

社会では企業も組織として活動していますが、ここでは、まず組織とは何かを理解し、そして組織の構造や形態などについて、具体的に理解します。

第7回 戦略と組織の関係

企業の組織では、人々は共通の経営目的を持ち、それを達成するために協力しています。そして組織は、より効率的・効果的に目的を達成しようと、そのための適切な経営戦略を策定、実行しようとします。ここでは、そのような組織と戦略の関係について理解します。

第8回 人的資源管理

人(ヒト)が企業の重要な経営資源であることは多くの経営者が認識し、早くから経営(学)の重要なテーマとして扱われて来ました。ここでは、人(ヒト)をいかに企業経営に活かすかという、人的資源管理の発展経緯について理解します。

第9回 意思決定と生産管理

1960年代～80年代の、日本の高度成長の要因は、生産管

理を特長とする日本型経営にあると言われています。一方、米国では、意思決定システムを中心に、経営管理の手法や理論が発展して来ました。ここでは、意思決定や生産管理など、オペレーション・マネジメントについて理解します。

第10回 経営戦略とは

経営戦略は、その良し悪しが企業の収益を左右するため、重要な経営課題と認識されています。ここでは、環境に適應することにより企業が存続・成長するための、経営戦略について理解します。

第11回 競争戦略とは

企業は、市場で勝ち残るために、他社と競争しています。その中から、より望ましい商品やサービスが生まれています。ここでは、競争に勝つための戦略、すなわち競争戦略について理解します。

第12回 マーケティング戦略

従来から「商品をいかに販売するか」は、重要な経営課題でした。しかし現在、このような供給者の視点だけでなく、消費者の視点からも求められる商品・サービスを開発・販売することが重要になっています。ここでは、売れる商品・サービスのための、マーケティング戦略について理解します。

第13回 財務管理とロジスティクス

人(ヒト)とともに、金(カネ)や物(モノ)も重要な経営資源です。金(カネ)や物(モノ)の流れが、企業経営を左右します。それらをどのように管理するかということも、重要な経営課題となっています。ここでは、財務管理や物流管理(ロジスティクス)について理解します。

第14回 バリュー・チェーンとブランド価値

近年、急成長をとげた企業は、今までにないビジネスの仕組みを創り出し、その一連の業務の流れ(バリュー・チェーン)の中で、新しい価値を創造することで成功しています。また、価値に基づくブランドの確立も成功要因になっています。ここでは、ビジネスの中で価値を生み出す仕組みについて理解します。

第15回 CSRとコーポレート・ガバナンス

企業は、利益を出すためだけに経営されるべきではなく、また経営者や所有者だけのものではありません。企業には、適切な統治と社会的責任を果たすことが求められています。ここでは、企業の統治(コーポレート・ガバナンス)や社会的責任について理解します。

2022年度 後期

2.0単位

経営管理総論

松田 裕之

< 授業の方法 >

講義(オンデマンド形式で実施)

テキスト並びに授業映像へのアクセスは「遠隔授業情報

」欄に記したURLより行ってください。

< 授業の目的 >

経営学総論・経営史で学んだ企業の経営管理に関する知識を基礎として、その実践がどのように行われているのかを我が国著名企業を事例として、具体的に検証していきます。これら企業が積み重ねた様々な経験に関する知見を増やすことで、社会に出て企業で働くとき、理論と現実がきちんとかみあい、仕事の場面でスキルとして活用できる土台を作ります。

< 到達目標 >

- (1)著名企業がなぜ「著名」になったのか、その成功の要因を理解できる 知識
- (2)これまで学修した企業経営の理論がどのように実践されているのかを理解できる 知識
- (3)企業経営に影響を及ぼす経済社会の変化を理解できる 知識
- (4)企業の経営管理に携わった人びとの経験にふれることができる 知識・態度・技能
- (5)意思決定や行動に必要なメンタリティを養うことができる 態度・習慣
- (6)現代の企業経営に関する基本的知識を学修できる 知識
- (7)経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能をできる 知識・技能

< 授業のキーワード >

ケーススタディ、ビジネス・ヒストリー、創業者、イノベーション、リーダーシップ

< 授業の進め方 >

オリジナル・テキストを使用します。対面形式で実施する場合は、第2回目講義時に配布します。また、遠隔形式になった場合は第1回講義開始前までにOneDriveにアップしておきます。それをもちいて毎回の授業を進めますので、「遠隔授業情報」欄に記載したURLからダウンロードしてください。

< 履修するにあたって >

対面形式で実施する場合、授業中の私語は厳禁と致します。また、感染予防の観点からマスク着用を必須とします。従わない受講者については、「不合格」と致します。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回復習と予習に1時間程度を充てるようにしてください。

< 提出課題など >

対面形式で実施する場合、毎回受講カードを配布し、感想・意見・指摘を記入してもらいます。また、遠隔形式の場合には、dotCampusよりレポート課題を4回出します。

< 成績評価方法・基準 >

【遠隔形式で実施する場合】

レポート課題1回が25点満点。これ「x」4回の100点満点で評価したものをS,A,B,C,D,/に変換して最終成績と

する。

<テキスト>

対面形式で実施する場合、第2回目講義時に配布。

遠隔形式で実施する場合、OneDriveにアップ。

<参考図書>

とくになし

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

経営管理の理論を実践に活かすための学習の意義を考える。

第2回 経営管理論の枠組みについて

経営管理論に必要な概念と基本的枠組みを理解する

第3回 ケーススタディについて

ケーススタディの意義と効用を理解する

第4回 CASE 1

三菱合資～「マネジメント」の模索と進化～

第5回 CASE 2

三井物産～総合商社の人と情報網～

第6回 CASE 3

阪急電鉄～無から有への「需要創造」～

第7回 CASE 4

ヤマト運輸～論理を積み重ねた市場シェアの拡大～

第8回 CASE 5

松下電器～「流通系列化」への道～

第9回 CASE 6

ダイエー～「価格破壊」から自己崩壊へ～

第10回 CASE 7

そごう～置き去りにされた企業の使命～

第11回 CASE 8

トヨタ自動車～「生産性と品質」の同時追求～

第12回 CASE 9

ブリヂストン～地方企業から世界ブランドへ～

第13回 CASE 10

森永製菓～エンゼルの自立と企業体質の強化～

第14回 経営管理の実践例からのフィードバック

10件のケースから経営管理の実践のエッセンスを検証する

第15回 総括と展望

これまで学習してきたケースの振り返りおよび今後の実践にむけての展望

2022年度 前期

2.0単位

経営史総論 (B)【22】

赤坂 義浩

<授業の方法>

今のところ、対面講義を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、遠隔で実施する場合

もあります。遠隔で開講する場合は、OneDriveを使用したオンディマンド講義形式で行います。遠隔（オンディマンド）形式で実施する場合は、毎回DotCampusの「お知らせ」機能で随時お知らせします。その場合、アップロードした講義資料・動画等の無断編集・転用は厳禁します。講義資料・動画を無断で編集したり、SNS等インターネットに転載することは、著作権法に抵触します。その場合は、厳正に対処します。

ご質問など連絡事項がある場合は、DotCampusの「質問箱」を使用して連絡をして下さい。基本的には講義日の前日にはその週の講義資料をアップロードする予定ですが、研究室から配信する関係で、暴風特別警報や公共交通機関運休時には、配信が遅れる場合があります。その際はご了承下さい。

<授業の目的>

本講義は、経営学部ディプロマポリシーの第1項「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ための科目と位置づけられ、履修系統図（カリキュラ・マップ）の経営・商学コース1年次コース別選択必修科目であり、1年次配当科目「入門的な科目で経営学の基礎を学修」することを目的とする科目のひとつに位置づけられる。

具体的には、日本の経済発展、経営発展の過程において、企業経営の様々な制度や技術がどのような条件で、どのように形成されたのかということを知ることができる。それによって、受講者が、企業という組織の仕組みについて、より深く理解できるようになることが、本講義の目的である。

<到達目標>

受講者は、企業経営の諸制度が歴史的にどのように形成されて来たのかについて学ぶことで、歴史的な視点で現状を理解出来るようになることが目標である。

<授業のキーワード>

経営史、企業者史学、会計史、商業史

<授業の進め方>

対面講義の場合は、毎週、講義資料を使いながら講義を進めて行きますが、遠隔（オンディマンド）開講の場合は、毎回講義動画や講義資料をOneDriveにアップしていくので、受講者はその週のうちに講義資料を読んで、それぞれのトピックスについて学ぶ自学自習方式を取る。遠隔開講の場合は、dotcampusを通して課題を出すことがあるので、通知に注意すること。なお、質問はDotcampusの「質問箱」を通じてお願いします。また、遠隔（オンディマンド）形式で開講する場合には、特別警報・暴風警報発令時、および公共交通機関運休時も、原則として予定通り開講しますが、この場合、講義資料のアップロードが遅くなる場合があります。

<履修するにあたって>

講義動画、資料は毎週OneDriveにアップするので、その週のうち読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講に際しては、講義資料を熟読し、前期末には総復習をすること。

< 提出課題など >

遠隔で開講する場合には、中間レポートと期末レポートの2回の課題を提出してもらう。

< 成績評価方法・基準 >

対面講義の場合には、定期試験によって成績を評価しますが、遠隔開講の場合には、2回のレポート課題によって評価します（配点は、中間課題が30点、前期末課題が70点です）。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

講義中、適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

経営史総論の内容、成績評価などについて、詳しくガイダンスを行う。

第2回 都市大商家の成立 1 - 1

江戸時代の商業発展をもたらした、日本経済の動向について学ぶ。

第3回 都市大商家の成立 1 - 2

江戸時代における日本経済の発展が、なぜ江戸時代の都市商人の成長をもたらすのか、そのマクロ経済的な要因について学ぶ。

第4回 都市大商家の成立 2

江戸時代に創業した企業（商家）について、代表的な事例として三井家について学ぶ。

第5回 都市大商家の成立 3

江戸時代に創業した企業（商家）について、代表的な事例として住友家について学ぶ。

第6回 都市大商家の成立 4

江戸時代に創業した企業（商家）について、代表的な事例として鴻池家について学ぶ。

第7回 江戸期商家の経営システム 1 所有構造・企業形態・企業統治

江戸期商家の所有構造から、株式会社制度へつながる共同所有の形態について学ぶ。

第8回 江戸期商家の経営システム 2 資産管理

江戸期商家の資産管理について学ぶ。

第9回 江戸期商家の経営システム 3 経営管理

江戸期商家の経営管理、所有と経営の分離について学ぶ。

第10回 江戸期商家の経営システム 4 帳合法と財務管理

商家の会計システムとしての帳合法と、わが国における複式決算の仕組みと起源を学ぶ。

第11回 江戸期商家の経営システム 5 労務管理

商家の人事・労務管理システムとしての丁稚（奉公人）制度について学ぶ。

第12回 江戸時代の商業教育

個々の商家の店内教育が持つ弊害を解決する手段として商業教育が果たした役割について学ぶ。

第13回 株仲間政策の変遷

商業秩序の維持のため、幕府側がとった政策の変遷と、老中田沼意次の株仲間公認政策の意義について学ぶ。

第14回 株仲間の役割

江戸時代の同業者団体である株仲間が商取引の円滑化に果たした重要な役割について学ぶ。

第15回 近世と近代の連続性

江戸時代商家の経営システムや経験が、近代経営の導入、普及、定着にどのように役だったかについて学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

経営史総論 (A)

赤坂 義浩

< 授業の方法 >

今のところ、対面講義を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、遠隔で実施する場合があります。遠隔で開講する場合は、OneDriveを使用したオンディマンド講義形式で行います。遠隔（オンディマンド）形式で実施する場合は、毎回DotCampusの「お知らせ」機能で随時お知らせします。その場合、アップロードした講義資料・動画等の無断編集・転用は厳禁します。講義資料・動画を無断で編集したり、SNS等インターネットに転載することは、著作権法に抵触します。その場合は、厳正に対処します。

ご質問など連絡事項がある場合は、DotCampusの「質問箱」を使用して連絡をして下さい。基本的には講義日の前日にはその週の講義資料をアップロードする予定ですが、研究室から配信する関係で、暴風特別警報や公共交通機関運休時には、配信が遅れる場合があります。その際はご了承下さい。

< 授業の目的 >

本講義は、経営学部ディプロマポリシーの第1項「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ための科目と位置づけられ、履修系統図（カリキュラ・マップ）の経営・商学コース1年次コース別選択必修科目であり、1年次配当科目「入門的な科目で経営学の基礎を学修」することを目的とする科目のひとつに位置づけられる。

具体的には、日本の経済発展、経営発展の過程において、企業経営の様々な制度や技術がどのような条件で、どのように形成されたのかということを知ることができ

る。それによって、受講者が、企業という組織の仕組みについて、より深く理解できるようになることが、本講義の目的である。

<到達目標>

受講者は、企業経営の諸制度が歴史的にどのように形成されて来たのかについて学ぶことで、歴史的な視点で現状を理解出来るようになることが目標である。

<授業のキーワード>

経営史、企業者史学、会計史、商業史

<授業の進め方>

対面講義の場合は、毎週、講義資料を使いながら講義を進めて行きますが、遠隔（オンディマンド）開講の場合は、毎回講義動画や講義資料をOneDriveにアップしていくので、受講者はその週のうちに講義資料を読んで、それぞれのトピックスについて学ぶ自学自習方式を取る。遠隔開講の場合は、dotcampusを通して課題を出すことがあるので、通知に注意すること。なお、質問はDotcampusの「質問箱」を通じてお願いします。また、遠隔（オンディマンド）形式で開講する場合には、特別警報・暴風警報発令時、および公共交通機関運休時も、原則として予定通り開講しますが、この場合、講義資料のアップロードが遅くなる場合があります。

<履修するにあたって>

講義動画、資料は毎週OneDriveにアップするので、その週のうちに読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

受講に際しては、講義資料を熟読し、前期末には総復習をすること。

<提出課題など>

遠隔で開講する場合には、中間レポートと期末レポートの2回の課題を提出してもらう。

<成績評価方法・基準>

対面講義の場合には、定期試験によって成績を評価しますが、遠隔開講の場合には、2回のレポート課題によって評価します（配点は、中間課題が30点、前期末課題が70点です）。

<テキスト>

なし

<参考図書>

講義中、適宜紹介する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

経営史総論 の内容、成績評価などについて、詳しくガイダンスを行う。

第2回 都市大商家の成立 1 - 1

江戸時代の商業発展をもたらした、日本経済の動向について学ぶ。

第3回 都市大商家の成立 1 - 2

江戸時代における日本経済の発展が、なぜ江戸時代の都市商人の成長をもたらすのか、そのマクロ経済的な要因

について学ぶ。

第4回 都市大商家の成立 2

江戸時代に創業した企業（商家）について、代表的な事例として三井家について学ぶ。

第5回 都市大商家の成立 3

江戸時代に創業した企業（商家）について、代表的な事例として住友家について学ぶ。

第6回 都市大商家の成立 4

江戸時代に創業した企業（商家）について、代表的な事例として鴻池家について学ぶ。

第7回 江戸期商家の経営システム 1 所有構造・企業形態・企業統治

江戸期商家の所有構造から、株式会社制度へつながる共同所有の形態について学ぶ。

第8回 江戸期商家の経営システム 2 資産管理

江戸期商家の資産管理について学ぶ。

第9回 江戸期商家の経営システム 3 経営管理

江戸期商家の経営管理、所有と経営の分離について学ぶ。

第10回 江戸期商家の経営システム 4 帳合法と財務管理

商家の会計システムとしての帳合法と、わが国における複式決算の仕組みと起源を学ぶ。

第11回 江戸期商家の経営システム 5 労務管理

商家の人事・労務管理システムとしての丁稚（奉公人）制度について学ぶ。

第12回 江戸時代の商業教育

個々の商家の店内教育が持つ弊害を解決する手段として商業教育が果たした役割について学ぶ。

第13回 株仲間政策の変遷

商業秩序の維持のため、幕府側がとった政策の変遷と、老中田沼意次の株仲間公認政策の意義について学ぶ。

第14回 株仲間の役割

江戸時代の同業者団体である株仲間が商取引の円滑化に果たした重要な役割について学ぶ。

第15回 近世と近代の連続性

江戸時代商家の経営システムや経験が、近代経営の導入、普及、定着にどのように役だったかについて学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

経営史総論 (B)【22】

赤坂 義浩

<授業の方法>

今のところ、対面講義を予定しているが、新型コロナウィルス感染症の感染状況により、遠隔（オンディマンド）による開講の場合もある。その場合は、OneDriveを使用したオンディマンド講義形式で行なうhttps://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f/g/personal/by101112_ba_kobegakuin_ac_jp/Eh9JamQ_9R5Gpgsro9oQzxcBw0MedX_0r

ehyqKRYvKH2g?e=CvFgW0

ご質問など連絡事項がある場合は、dotcampusの「質問箱」などを使用して連絡をして下さい。

< 授業の目的 >

本講義は、経営学部ディプロマポリシーの第1項「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ための科目と位置づけられ、履修系統図（カリキュラ・マップ）の経営・商学コース1年次コース別選択必修科目であり、1年次配当科目「入門的な科目で経営学の基礎を学修」することを目的とする科目のひとつに位置づけられる。

具体的には、日本の経済発展、経営発展の過程において、企業経営の様々な制度や技術がどのような条件で、どのように形成されたのかということを知ることができる。それによって、受講者が、企業という組織の仕組みについて、より深く理解できるようになることが、本講義の目的である。

< 到達目標 >

受講者は、企業経営の諸制度が歴史的にどのように形成されて来たのかについて学ぶことで、歴史的な視点で現状を理解出来るようになることが目標である。

< 授業のキーワード >

経営史、株式会社制度、近代産業、企業者史学、政府・企業間関係、政商・財閥論

< 授業の進め方 >

今のところ、対面による開講を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、遠隔開講する場合がある。遠隔開講の場合は、オンデマンド方式により開講する。毎週、講義資料と参考プリントをOneDriveにアップしていくので、受講者はその週のうちに講義資料を読んで、それぞれのトピックスについて学ぶ自学自習方式を取る。随時、dotcampusを通して、課題を出すことがあるので、通知に注意すること。なお、質問等は、Dotcampusの「質問箱」にすること。また、オンデマンド形式の開講なので、特別警報・暴風警報発令時、および公共交通機関運休時も、原則として予定通り開講する（この場合、講義資料のアップロードが遅くなる場合がある）。

< 履修するにあたって >

定期試験は講義内容から出題するので、受講者は、講義時には必ずノートを取る。講義中、私語、携帯電話の使用等の授業妨害は厳禁する。講義資料は、講義担当者が随時配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講に際しては、必ず講義ノートを作成し、毎回講義内容について必ず復習をしておくこと。定期試験実施時には、定期試験対策として、総復習をすること。

< 提出課題など >

遠隔開講の場合は、中間レポート、後期末レポートを提

出してもらう。

< 成績評価方法・基準 >

対面講義の場合は、定期試験で成績評価します。遠隔開講の場合は、中間レポート、期末レポートの2回の提出課題によって評価します。両者の合計100点満点で採点し、得点に応じて成績評価を行います。配点は、中間レポートが30点満点、期末レポートが70点満点です。

< テキスト >

テキストは特にありません。

< 参考図書 >

宮本又郎編『日本をつくった企業家』、宮本又郎、平野恭平ほか編『1からの経営史』（碩学社）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

後期の「経営史総論」の内容、成績評価方法などについて説明する。

第2回 開港と近代化の初期条件

ペリー来航と幕府の開国の決断から日本の近代化の道りが始まる。果たして日本は欧米諸国に比べてどれくらい遅れていたのか。日本がその後埋めなければならなかった欧米諸国とのギャップ、近代化の初期条件について学ぶ。

第3回 幕末～維新期の経営(1)

幕末から維新期には、社会経済が大きく変化した。そのとき、多くの商家が市場から退場を迫られる一方、生き残ることが出来た商家もあった。両者の違いはどこにあったのかについて、三井家の事業再建を行った三野村利左衛門の事例から学ぶ。

第4回 幕末～維新期の経営(2)

幕末～維新期の変革期に生き残った商家の1つである住友家を事例に、広瀬幸平の経営再建の取り組みについて学ぶ。さらに、三野村と広瀬の企業者活動から、変革期の企業経営に必要なこととは何かについて学ぶ。

第5回 株式会社制度の認識 - 書籍と近代法典整備

日本経済の近代化＝近代産業の創設と発展には、ソフトとしての会社制度、特に株式会社制度が不可欠であった。しかし、江戸時代に商家組織、共同出資ビジネスの発展が見られてもなお、会社組織そのものは、当時の日本人には新奇なものであった。そこでこの回では、まず知識として株式会社制度がどのように認識、理解されていったのかについて学ぶ。

第6回 近代銀行制度の創設と株式会社 - 国立銀行

日本初の本格的な株式会社は、国立銀行であった。今回は、知識として広まった株式会社制度が、どのように活用され、どのように株式会社の設立が進んでいったか、について学ぶ。

第7回 日本における株式会社制度の普及過程(1)

近代紡績業

株式会社制度を活用して、日本にも近代産業企業が次々と創設されていった。その先駆的事例として、近代紡績

業を事例に、日本における株式会社制度と近代産業の創設、定着過程について学ぶ。

第8回 日本における株式会社制度の普及過程(2) 私鉄会社の設立

株式会社制度を活用した近代産業の創設事例として、鉄道事業の創設と展開について学ぶ。

第9回 「鉄道熱」と株式市場の発展

日本初の私鉄である日本鉄道の経営的成功により、1880年代後半以降、各地で鉄道会社の設立が相次いだ。いわゆる「鉄道熱」と呼ばれる鉄道会社設立ブームは、日本の株式市場の発展に大きく貢献した。この回は、鉄道会社設立ブームが株式市場の発展にどのように貢献したのかについて学ぶ。

第10回 岩崎弥太郎の企業者活動と新興企業家
幕末から明治期にかけて、近代産業の分野でリスクをとって起業する、いわゆる新興企業家とはどのような人たちなのか。三菱財閥の創業者岩崎弥太郎の事例をもとに、新興企業家の企業者活動とその特徴について学ぶ。

第11回 政商の経済合理性

近代化の初期時点では、どの国でもいわゆる「政商」と呼ばれる人々が生まれている。彼らの存在は、非合理的だと言われて来たが、果たして本当にそうだろうか。政商が日本経済の近代化に果たした役割、経済合理性について学ぶ。

第12回 明治前・中期の新興企業家(1)

「長者番付」データの分析により、幕末～明治期にかけての企業家の変遷について学ぶ。

第13回 明治前・中期の新興企業家(2)

幕末～明治前・中期の新興企業家は、5つのタイプに分類できる。この回では、そのうち、「1.旧商家を近代企業に再建した企業家」、「2.徒手空拳のベンチャー企業家」の企業者活動について学ぶ。

第14回 明治前・中期の新興企業家(3)

明治前・中期の新興企業家の5類型のうち、「3.技術者・職人出身の企業家」、「4.社会的企業家」、「5.財界指導者(ビジネスリーダー)」の企業者活動について学ぶ。

第15回 明治の企業家精神

日本経済の近代化を担った新興企業家たちは、どこから生まれて来て、どのような企業家精神の持ち主だったのだろうか。最後に、新興企業家と、彼らの企業家精神の源泉について学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

経営史総論 (A)

赤坂 義浩

<授業の方法>

今のところ、対面講義を予定しているが、新型コロナウ

いする感染症の感染状況により、遠隔(オンデマンド)による開講の場合もある。その場合は、OneDriveを使用したオンデマンド講義形式で行なうhttps://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/by101112_ba_kobegakuin_ac_jp/Eh9JamQ_9R5Gpgsro9oQzxcBw0MedX_Or_ehyqKRYvKHi2g?e=CvFgW0

ご質問など連絡事項がある場合は、dotcampusの「質問箱」などを使用して連絡をして下さい。

<授業の目的>

本講義は、経営学部ディプロマポリシーの第1項「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」ための科目と位置づけられ、履修系統図(カリキュラ・マップ)の経営・商学コース1年次コース別選択必修科目であり、1年次配当科目「入門的な科目で経営学の基礎を学修」することを目的とする科目のひとつに位置づけられる。

具体的には、日本の経済発展、経営発展の過程において、企業経営の様々な制度や技術がどのような条件で、どのように形成されたのかということを知ることができる。それによって、受講者が、企業という組織の仕組みについて、より深く理解できるようになることが、本講義の目的である。

<到達目標>

受講者は、企業経営の諸制度が歴史的にどのように形成されて来たのかについて学ぶことで、歴史的な視点で現状を理解出来るようになることが目標である。

<授業のキーワード>

経営史、株式会社制度、近代産業、企業家史学、政府・企業間関係、政商・財閥論

<授業の進め方>

今のところ、対面による開講を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、遠隔開講する場合がある。遠隔開講の場合は、オンデマンド方式により開講する。毎週、講義資料と参考プリントをOneDriveにアップしていくので、受講者はその週のうちに講義資料を読んで、それぞれのトピックスについて学ぶ自学自習方式を取る。随時、dotcampusを通して、課題を出すことがあるので、通知に注意すること。なお、質問等は、Dotcampusの「質問箱」にすること。また、オンデマンド形式の開講なので、特別警報・暴風警報発令時、および公共交通機関運休時も、原則として予定通り開講する(この場合、講義資料のアップロードが遅くなる場合がある)。

<履修するにあたって>

定期試験は講義内容から出題するので、受講者は、講義時には必ずノートを取る。講義中、私語、携帯電話の使用等の授業妨害は厳禁する。講義資料は、講義担当者が随時配布する。

<授業時間外に必要な学修>

受講に際しては、必ず講義ノートを作成し、毎回講義内容について必ず復習をしておくこと。定期試験実施時には、定期試験対策として、総復習をすること。

< 提出課題など >

遠隔講義の場合は、中間レポートと後期末レポートを提出してもらう。

< 成績評価方法・基準 >

対面講義の場合は、定期試験で成績評価をします。遠隔開講の場合は、2回の提出課題によって評価します。両者の合計100点満点で採点し、得点に応じて成績評価を行います。配点は、中間レポートが30点満点、期末レポートが70点満点です。

< テキスト >

テキストは特にありません。

< 参考図書 >

宮本又郎編『日本をつくった企業家』、宮本又郎、平野恭平ほか編『1からの経営史』（碩学社）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

後期の「経営史総論」の内容、成績評価方法などについて説明する。

第2回 開港と近代化の初期条件

ペリー来航と幕府の開国の決断から日本の近代化の道のりが始まる。果たして日本は欧米諸国に比べてどれくらい遅れていたのか。日本がその後埋めなければならなかった欧米諸国とのギャップ、近代化の初期条件について学ぶ。

第3回 幕末～維新期の経営(1)

幕末から維新期には、社会経済が大きく変化した。そのとき、多くの商家が市場から退場を迫られる一方、生き残ることが出来た商家もあった。両者の違いはどこにあったのかについて、三井家の事業再建を行った三野村利左衛門の事例から学ぶ。

第4回 幕末～維新期の経営(2)

幕末～維新期の変革期に生き残った商家の1つである住友家を事例に、広瀬幸平の経営再建の取り組みについて学ぶ。さらに、三野村と広瀬の企業者活動から、変革期の企業経営に必要なこととは何かについて学ぶ。

第5回 株式会社制度の認識 - 書籍と近代法典整備

日本経済の近代化＝近代産業の創設と発展には、ソフトとしての会社制度、特に株式会社制度が不可欠であった。しかし、江戸時代に商家組織、共同出資ビジネスの発展が見られてもなお、会社組織そのものは、当時の日本人には新奇なものであった。そこでこの回では、まず知識として株式会社制度がどのように認識、理解されていたのかについて学ぶ。

第6回 近代銀行制度の創設と株式会社 - 国立銀行

日本初の本格的な株式会社は、国立銀行であった。今回は、知識として広まった株式会社制度が、どのように活用され、どのように株式会社の設立が進んでいったか、

について学ぶ。

第7回 日本における株式会社制度の普及過程(1)

近代紡績業

株式会社制度を活用して、日本にも近代産業企業が次々と創設されていった。その先駆的事例として、近代紡績業を事例に、日本における株式会社制度と近代産業の創設、定着過程について学ぶ。

第8回 日本における株式会社制度の普及過程(2)

私鉄会社の設立

株式会社制度を活用した近代産業の創設事例として、鉄道事業の創設と展開について学ぶ。

第9回 「鉄道熱」と株式市場の発展

日本初の私鉄である日本鉄道の経営的成功により、1880年代後半以降、各地で鉄道会社の設立が相次いだ。いわゆる「鉄道熱」と呼ばれる鉄道会社設立ブームは、日本の株式市場の発展に大きく貢献した。この回は、鉄道会社設立ブームが株式市場の発展にどのように貢献したのかについて学ぶ。

第10回 岩崎弥太郎の企業者活動と新興企業家

幕末から明治期にかけて、近代産業の分野でリスクをとって起業する、いわゆる新興企業家とはどのような人たちなのか。三菱財閥の創業者岩崎弥太郎の事例をもとに、新興企業家の企業者活動とその特徴について学ぶ。

第11回 政商の経済合理性

近代化の初期時点では、どの国でもいわゆる「政商」と呼ばれる人々が生まれている。彼らの存在は、非合理的だと言われて来たが、果たして本当にそうであろうか。政商が日本経済の近代化に果たした役割、経済合理性について学ぶ。

第12回 明治前・中期の新興企業家(1)

「長者番付」データの分析により、幕末～明治期にかけての企業家の変遷について学ぶ。

第13回 明治前・中期の新興企業家(2)

幕末～明治前・中期の新興企業家は、5つのタイプに分類できる。この回では、そのうち、「1. 旧商家を近代企業に再建した企業家」、「2. 徒手空拳のベンチャー企業家」の企業者活動について学ぶ。

第14回 明治前・中期の新興企業家(3)

明治前・中期の新興企業家の5類型のうち、「3. 技術者・職人出身の企業家」、「4. 社会的企業家」、「5. 財界指導者(ビジネスリーダー)」の企業者活動について学ぶ。

第15回 明治の企業家精神

日本経済の近代化を担った新興企業家たちは、どこから生まれて来て、どのような企業家精神の持ち主だったのだろうか。最後に、新興企業家と、彼らの企業家精神の源泉について学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

経営情報処理

伊藤 健

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析し活用する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、経営統計学で学習した統計学の知識と基礎情報処理実習で学習したコンピュータの操作を活用し、経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修し、講義中に実施する演習や課題を通して、レポートや卒業論文作成時に有用な統計データの基本的な解析方法や情報処理の修得を目的とする。

< 到達目標 >

基本的な統計量について特徴を説明できる。

Excelを使って基本的な統計量の計算ができる。

Excelを使って推定に関する統計処理が行える。

< 授業のキーワード >

データ分析、Excel、統計学

< 授業の進め方 >

経営統計学と基礎情報処理実習で学習した内容を基本的に講義を進める。

実習を中心として講義を進めるので、なるべく遅刻、欠席しないこと。

このクラスは大学の情報処理実習室のパソコンを使用して統計処理を学ぶクラスなので、特に断りのない限り作成したファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

< 履修するにあたって >

欠席が授業回数の3分の1を超えると単位を修得できない。また、遅刻が何回か重なると欠席扱いになる。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習：テキストに目を通しておくこと。必要であれば、統計学のテキストを復習しておくこと。

復習：講義で学修した統計処理、エクセルの操作方法を復習し、内容の理解に努めること。

1時間程度の授業時間外が目安である。

< 提出課題など >

数回の課題を実施予定。

< 成績評価方法・基準 >

課題（数回実施予定）100%で評価する。

著しく悪い受講態度には減点措置をとることもありうる。

< テキスト >

涌井良幸・涌井貞美著『初歩からしっかり学ぶ実習統計

学入門』技術評論社

< 参考図書 >

塩出省吾・今野勤著『経営系学生のための基礎統計学改訂版』共立出版

縄田和満著『Excelによる統計入門』朝倉書店

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明。

第2回 度数分布表の作成

度数分布表の作成法、ヒストグラム作成法を理解する。

第3回 基礎統計量1

代表値の算出法、分散と標準偏差、変量の標準化を理解する。

第4回 基礎統計量2

共分散と相関係数の意味と求め方を理解する。

第5回 課題

基本的な統計量の意味とその求め方に関する課題を通して理解を深める。

第6回 確率論の基本

確率の定義、確率変数と確率分布を理解する。

第7回 確率分布1

正規分布、標準正規分布、t分布とこれらの100p%点を理解する。

第8回 確率分布2

カイ2乗分布、F分布とこれらの100p%点を理解する。

第9回 課題

確率分布とその100p%点の求め方に関する課題を通して理解を深める。

第10回 推定の準備

推定を行う上で必要な概念である、母集団と標本の関係、不偏分散等を理解する。

第11回 推定1

区間推定の考え方、母平均の推定（分散が既知の場合、未知の場合）を理解する。

第12回 推定2

母比率の推定、母分散の推定を理解する。

第13回 課題

推定に関する課題を通して理解を深める。

第14回 まとめ

これまでに学んだ内容を復習し、理解の定着を促す。

第15回 確認テスト

これまでに学んだ内容に関するまとめの確認テストを行う。

2022年度 前期

2.0単位

経営情報処理

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と実習

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析し活用する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、経営統計学で学習した統計学の知識と基礎情報処理実習で学習したコンピュータの操作を活用し、経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修し、講義中に実施する実習や課題を通して、レポートや卒業論文作成時に有用な統計データの基本的な解析手法や情報処理の修得を目的とする。

< 到達目標 >

- ・ 基本的な統計量について特徴を説明できる。
- ・ Excelを使って基本的な統計量の計算ができる。
- ・ Excelを使って推定に関する統計処理が行える。

< 授業のキーワード >

データ分析、Excel、統計学

< 授業の進め方 >

経営統計学と基礎情報処理実習で学習した内容を基本的に講義を進める。

実習を中心として講義を進めるので、なるべく遅刻、欠席しないこと。

このクラスは大学の情報処理実習室のパソコンを使用して統計処理を学ぶクラスなので、特に断りのない限り作成したファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

< 履修するにあたって >

欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習：テキストに目を通しておくこと。必要であれば、統計学のテキストを復習しておくこと。

復習：講義で学修した統計処理、Excelの操作方法を復習し、内容の理解に努めること。

1回の講義は4時間の授業時間外の学修とあわせることが基準となっている。

< 提出課題など >

数回の課題を実施予定。

< 成績評価方法・基準 >

実習課題（90%）、授業中の取り組み（10%）で評価する。

< テキスト >

涌井良幸・涌井貞美著、「初歩からしっかり学ぶ実習統計学入門」、技術評論社

< 参考図書 >

塩出省吾・今野勤著、「経営系学生のための基礎統計学」、共立出版

縄田和満著、「Excelによる統計入門」、朝倉書店

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明。

第2回 度数分布表の作成

度数分布表の作成法、ヒストグラム作成法を理解する。

第3回 基礎統計量1

代表値の算出法、分散と標準偏差、変量の標準化を理解する。

第4回 基礎統計量2

共分散と相関係数の意味と求め方を理解する。

第5回 課題実習(1)

基本的な統計量の意味とその求め方に関する課題を通して理解を深める。

第6回 確率論の基本

確率の定義、確率変数と確率分布を理解する。

第7回 確率分布1

正規分布、標準正規分布、t分布とこれらの100p%点を理解する。

第8回 確率分布2

カイ2乗分布、F分布とこれらの100p%点を理解する。

第9回 課題実習(2)

確率分布とその100p%点の求め方に関する課題を通して理解を深める。

第10回 推定の準備

推定を行う上で必要な概念である、母集団と標本の関係、不偏分散等を理解する。

第11回 推定1

区間推定の考え方、母平均の推定（分散が既知の場合、未知の場合）を理解する。

第12回 推定2

母比率の推定、母分散の推定を理解する。

第13回 課題実習(3)

推定に関する課題を通して理解を深める。

第14回 まとめ

これまでに学んだ内容を復習し、理解の定着を促す。

第15回 総復習

これまでに学んだ内容に関する総復習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

経営情報処理

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と実習

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析し活用する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、経営統計学で学習した統計学の知識と基礎情報処理実習で学習したコンピュータの操作を活用し、経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学

修し、講義中に実施する実習や課題を通して、レポートや卒業論文作成時に有用な統計データの基本的な解析手法や情報処理の修得を目的とする。

<到達目標>

- ・基本的な統計量について特徴を説明できる。
- ・Excelを使って基本的な統計量の計算ができる。
- ・Excelを使って推定に関する統計処理が行える。

<授業のキーワード>

データ分析、Excel、統計学

<授業の進め方>

経営統計学と基礎情報処理実習で学習した内容を基本的に講義を進める。

実習を中心として講義を進めるので、なるべく遅刻、欠席しないこと。

このクラスは大学の情報処理実習室のパソコンを使用して統計処理を学ぶクラスなので、特に断りのない限り作成したファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

<履修するにあたって>

欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

<授業時間外に必要な学修>

予習：テキストに目を通しておくこと。必要であれば、統計学のテキストを復習しておくこと。

復習：講義で学修した統計処理、Excelの操作方法を復習し、内容の理解に努めること。

1回の講義は4時間の授業時間外の学修とあわせることが基準となっている。

<提出課題など>

数回の課題を実施予定。

<成績評価方法・基準>

実習課題（90%）、授業中の取り組み（10%）で評価する。

<テキスト>

涌井良幸・涌井貞美著、「初歩からしっかり学ぶ実習統計学入門」、技術評論社

<参考図書>

塩出省吾・今野勤著、「経営系学生のための基礎統計学」、共立出版

縄田和満著、「Excelによる統計入門」、朝倉書店

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明。

第2回 度数分布表の作成

度数分布表の作成法、ヒストグラム作成法を理解する。

第3回 基礎統計量1

代表値の算出法、分散と標準偏差、変量の標準化を理解する。

第4回 基礎統計量2

共分散と相関係数の意味と求め方を理解する。

第5回 課題実習(1)

基本的な統計量の意味とその求め方に関する課題を通し

て理解を深める。

第6回 確率論の基本

確率の定義、確率変数と確率分布を理解する。

第7回 確率分布1

正規分布、標準正規分布、t分布とこれらの100p%点を理解する。

第8回 確率分布2

カイ2乗分布、F分布とこれらの100p%点を理解する。

第9回 課題実習(2)

確率分布とその100p%点の求め方に関する課題を通して理解を深める。

第10回 推定の準備

推定を行う上で必要な概念である、母集団と標本の関係、不偏分散等を理解する。

第11回 推定1

区間推定の考え方、母平均の推定（分散が既知の場合、未知の場合）を理解する。

第12回 推定2

母比率の推定、母分散の推定を理解する。

第13回 課題実習(3)

推定に関する課題を通して理解を深める。

第14回 まとめ

これまでに学んだ内容を復習し、理解の定着を促す。

第15回 総復習

これまでに学んだ内容に関する総復習を行う。

2022年度 後期

2.0単位

経営情報処理

伊藤 健

<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析し活用する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、経営統計学で学習した統計学の知識と基礎情報処理実習で学習したコンピュータの操作を活用し、経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修し、講義中に実施する演習や課題を通して、レポートや卒業論文作成時に有用な統計データの基本的な解析手法や情報処理の修得を目的とする。

<到達目標>

Excelを使って検定に関する統計処理が行える。

Excelを使って分散分析できる。

Excelを使って基本的な多変量解析が行える。

<授業のキーワード>

データ分析、Excel、統計学

< 授業の進め方 >

経営統計学と基礎情報処理実習で学習した内容を基本的に講義を進める。

実習を中心として講義を進めるので、なるべく遅刻、欠席しないこと。

このクラスは大学の情報処理実習室のパソコンを使用して統計処理を学ぶクラスなので、特に断りのない限り作成したファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

< 履修するにあたって >

欠席が授業回数の3分の1を超えると単位を修得できない。また、遅刻が何回か重なると欠席扱いになる。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習：テキストに目を通しておくこと。必要であれば、統計学のテキストを復習しておくこと。

復習：講義で学修した統計処理、エクセルの操作方法を復習し、内容の理解に努めること。

1時間程度の授業時間外が目安である。

< 提出課題など >

数回の課題を実施予定。

< 成績評価方法・基準 >

課題（数回実施予定）100%で評価する。

著しく悪い受講態度には減点措置をとることもありうる。

< テキスト >

涌井良幸・涌井貞美著『初歩からしっかり学ぶ実習統計学入門』技術評論社

< 参考図書 >

塩出省吾・今野勤著『経営系学生のための基礎統計学改訂版』共立出版

縄田和満著『Excelによる統計入門』朝倉書店

末吉正成・末吉美喜著『EXCEL ビジネス統計分析』翔泳社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明。

第2回 検定1

統計的検定の仕組みと有意水準の意味と検定の基本を理解する。

第3回 検定2

母平均の検定（分散が既知の場合、未知の場合）、母比率の検定を理解する。

第4回 検定3

母平均の差の検定を理解する。

第5回 検定4

等分散の検定（F検定）を理解する。

第6回 課題

母平均の検定、母比率の検定、等分散の検定に関する課題を通して理解を深める。

第7回 検定5

カイ2乗検定を理解する。

第8回 分散分析

ピボットテーブルの使い方や分散分析を理解する。

第9回 課題

カイ2乗検定、分散分析に関する課題を通して理解を深める。

第10回 回帰分析1

回帰分析の基本や、重回帰分析、多重共線性、対数変換等回帰分析の方法を理解する。

第11回 課題

重回帰分析、多重共線性、対数変換等回帰分析に関する課題を通して理解を深める。

第12回 マクロ1

マクロとプログラミングの基本を理解する。

第13回 マクロ2

エクセルのVBAの理解を深める。

第14回 課題

マクロに関する課題を通して理解を深める。

第15回 まとめ

これまでに学んだ内容を復習し、理解の定着を促す。

2022年度 後期

2.0単位

経営情報処理

羽藤 雅彦

< 授業の方法 >

オンデマンド授業

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析し活用する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、経営統計学で学習した統計学の知識と基礎情報処理実習で学習したコンピュータの操作を活用し、ビジネススキルとして必要な統計データの基本的な解析方法や情報処理の修得を目的とする

< 到達目標 >

Excelを使って基本的な（検定に関する）統計処理が行え、それを解釈することができる。

< 授業のキーワード >

データ分析、Excel、統計学

< 授業の進め方 >

経営統計学と基礎情報処理実習で学習した内容を基本的に講義を進める。

実習を中心とした講義なので、遅刻、欠席しないこと。

< 履修するにあたって >

提出課題が他の受講者のコピーであることが発覚した場合、提出課題の評価を0とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

経営情報処理Iで学んだ統計的な考え方が基礎となっています。未履修の学生は、予習にて基本的な考えをしつ

かりと理解しておいてください。

< 提出課題など >

確認テストと数回の課題を実施予定。

< 成績評価方法・基準 >

* 確認テスト30%、中間課題30%、講義中の課題40%で評価する。

< テキスト >

涌井良幸・涌井貞美著『初歩からしっかり学ぶ実習統計学入門』技術評論社。

講義の前半（6回目まで）のみ利用します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明。

第2回 検定1

統計的検定の仕組みと有意水準の意味と検定の基本を理解する。

第3回 検定2

母平均の検定（分散が既知の場合、未知の場合）、母比率の検定を理解する。

第4回 検定3

母平均の差の検定を理解する。

第5回 検定4

等分散の検定（F検定）を理解する。

第6回 中間課題

母平均の検定、母比率の検定、等分散の検定に関する課題を通して理解を深める。

第7回 検定5

カイ2乗検定を理解する。また、クロス表（ピボットテーブル）についても学ぶ。

第8回 t検定

t検定を理解する。

第9回 分散分析

分散分析を理解する。

第10回 相関分析

相関分析を理解する。

第11回 回帰分析

回帰分析の基本を理解する。

第12回 見積書の作成

vlookup関数を利用し、見積書を作成する。

第13回 マクロ

マクロの基本を学ぶ。

第14回 復習

これまでの講義で重要な点を復習する。

第15回 確認テスト

これまでに学んだ内容に関するまとめの確認テストを行う。

2022年度 後期

2.0単位

経営情報処理

羽藤 雅彦

< 授業の方法 >

オンデマンド授業

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析し活用する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、経営統計学で学習した統計学の知識と基礎情報処理実習で学習したコンピュータの操作を活用し、ビジネススキルとして必要な統計データの基本的な解析方法や情報処理の修得を目的とする

< 到達目標 >

Excelを使って基本的な（検定に関する）統計処理が行え、それを解釈することができる。

< 授業のキーワード >

データ分析、Excel、統計学

< 授業の進め方 >

経営統計学と基礎情報処理実習で学習した内容を基本に講義を進める。

実習を中心とした講義なので、遅刻、欠席しないこと。

< 履修するにあたって >

提出課題が他の受講者のコピーであることが発覚した場合、提出課題の評価を0とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

経営情報処理Iで学んだ統計的な考え方が基礎となっています。未履修の学生は、予習にて基本的な考えをしっかりと理解しておいてください。

< 提出課題など >

確認テストと数回の課題を実施予定。

< 成績評価方法・基準 >

* 確認テスト30%、中間課題30%、講義中の課題40%で評価する。

< テキスト >

涌井良幸・涌井貞美著『初歩からしっかり学ぶ実習統計学入門』技術評論社。

講義の前半（6回目まで）のみ利用します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明。

第2回 検定1

統計的検定の仕組みと有意水準の意味と検定の基本を理解する。

第3回 検定2

母平均の検定（分散が既知の場合、未知の場合）、母比率の検定を理解する。

第4回 検定3

母平均の差の検定を理解する。

第5回 検定4

等分散の検定（F検定）を理解する。

第6回 中間課題

母平均の検定、母比率の検定、等分散の検定に関する課題を通して理解を深める。

第7回 検定5

カイ2乗検定を理解する。 あわせてクロス表（ピボットテーブル）を学ぶ。

第8回 t検定

t検定を理解する。

第9回 分散分析

分散分析を理解する。

第10回 相関分析

相関分析を理解する。

第11回 回帰分析

回帰分析の基本を理解する。

第12回 見積書の作成

vlookup関数を利用し、見積書を作成する。

第13回 マクロ

マクロの基本を学ぶ。

第14回 復習

これまでの講義で重要だった点を復習する。

第15回 確認テスト

これまでに学んだ内容に関するまとめの確認テストを行う。

2022年度 後期

2.0単位

経営情報処理

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と実習

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析し活用する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、経営統計学で学習した統計学の知識と基礎情報処理実習で学習したコンピュータの操作を活用し、経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修し、講義中に実施する実習や課題を通して、レポートや卒業論文作成時に有用な統計データの基本的な解析手法や情報処理の修得を目的とする。

< 到達目標 >

- ・ Excelを使って検定に関する統計処理が行える。
- ・ Excelを使って分散分析できる。
- ・ Excelを使って基本的な多変量解析が行える。

< 授業のキーワード >

データ分析、Excel、統計学

< 授業の進め方 >

経営統計学と基礎情報処理実習で学習した内容を基本的に講義を進める。

実習を中心として講義を進めるので、なるべく遅刻、欠席しないこと。

このクラスは大学の情報処理実習室のパソコンを使用して統計処理を学ぶクラスなので、特に断りのない限り作成したファイルを保存するためのUSBメモリを持参すること。

< 履修するにあたって >

各自でノートPCを準備すること（必須）。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習：テキストに目を通しておくこと。必要であれば、統計学のテキストを復習しておくこと。

復習：講義で学修した統計処理、Excelの操作方法を復習し、内容の理解に努めること。

1回の講義は4時間の授業時間外の学修とあわせることが基準となっている。

< 提出課題など >

数回の課題を実施予定。

< 成績評価方法・基準 >

実習課題（90%）、授業中の取り組み（10%）で評価する。

< テキスト >

涌井良幸・涌井貞美著、「初歩からしっかり学ぶ実習統計学入門」、技術評論社

< 参考図書 >

塩田省吾・今野勤著、「経営系学生のための基礎統計学」、共立出版

縄田和満著、「Excelによる統計入門」、朝倉書店

末吉正成・末吉美喜著、「EXCEL ビジネス統計分析」、翔泳社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明。

第2回 検定1

統計的検定の仕組みと有意水準の意味と検定の基本を理解する。

第3回 検定2

母平均の検定（分散が既知の場合、未知の場合）、母比率の検定を理解する。

第4回 検定3

母平均の差の検定を理解する。

第5回 検定4

等分散の検定（F検定）を理解する。

第6回 検定5

カイ2乗検定を理解する。

第7回 課題演習(1)

検定に関する課題を通して理解を深める。

第8回 検定の復習

演習課題の復習を通じて検定の理解を深める。

第9回 相関分析

ピボットテーブルの使い方や分散分析を理解する。

第10回 回帰分析

回帰分析の基本および重回帰分析の方法を理解する。

第11回 課題演習(2)

分析に関する課題を通して理解を深める。

第12回 マクロ1

マクロとプログラミングの基本を理解する。

第13回 マクロ2

エクセルのVBAの理解を深める。

第14回 課題演習(3)

マクロに関する課題を通して理解を深める。

第15回 まとめ

これまでに学んだ内容を復習し、理解の定着を促す。

2022年度 前期

2.0単位

経営情報論

今野 勤

< 授業の方法 >

講義、演習

授業で利用する資料はOffice365のOneDriveの次のURLに保存しています。URLをコピー＆ペーストし、授業開始までにダウンロードしてください。

https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/bt115117_ba_kobegakuin_ac_jp/EoLm9IpaUJRMokG6Sb7XB6YBj39p0b9sI9DnMxSk78pL7A?e=qpUq39

連絡先 t-konno@ba.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて

授業を 実施します。

ただし、

避難指示、避難勧告 が発令されている場合は ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的変更について
>

4月26日（月）から5月29日（土）までの間、授業形態をオンライン、オンデマンド併用授業にします。オンラインに参加できない学生は、オンライン授業の内容をOneDrive(上記URL)に上げますのでそれを閲覧してください。受講方法につきましては「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

企業経営において、人、もの、金の3つの資源が重要といわれていますが、昨今は、情報を4つ目の経営資源に上げる説があります。企業内外の情報を正確に把握し、きちんとした対応をしなければ企業の発展はありません。そこで企業の現場でおきる様々な実例を中心に解説し、演習を行いながら授業を進めます。たとえば、店舗でお客さんに値下げ要求を受けたときどのように対応すべきか？などです。なお本講座と処理概論を履修すると”ITパスポート”試験を受験するための知識も合わせて身に付きます。

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、

1. 現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために
有用な知識を総合的に学修する。

3. 情報通信技術（ICT）を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

との関係が深い授業となっています。

なお、この授業の担当者は、製造メーカーでの情報処理業務を16年間経験しており、実務経験のある教員です。より実践的な観点で製造メーカーの情報処理について解説します。

< 到達目標 >

企業の現場で起きる様々な問題に対して、即応できる実践的な知識がつく。

< 授業のキーワード >

品質管理、マーケティング、経営戦略、財務三表

< 授業の進め方 >

教科書の解説、実践的な例題と演習を繰り返しながら進める。コロナによる事情により、第1回から第15回までの授業の実施となる。

<履修するにあたって>

やむおえない場合を除き欠席、遅刻をしないこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業で出題される課題を自分で解くこと。目安の時間は、1時間。

<提出課題など>

特になし

<成績評価方法・基準>

小テスト2回で40%(持込可)、期末テスト40%(持込可)、受講内容(授業態度、出席、出席カードの記載内容など)20%の割合で成績評価する。

<テキスト>

今野 勤 他 「文科系のための情報科学」 共立出版
オリジナルパワーポイント資料

<参考図書>

特になし

<授業計画>

第1回 クラス・ガイダンス

このクラスの全体の狙いを説明し、成績評価の方法を理解してもらう。

第2回 経営・組織論

企業の経営形態と組織の在り方について理解する。企業理念を学生自身の理念に置き換えて、演習を通じて理解する。

第3回 OR1

在庫管理について理解する。過剰在庫を抱えた企業が、その処理をどのようにするかを演習を通じて理解する。

第4回 OR2

PERTについて理解する。プロジェクトの日程計算を演習を通じて理解する。

第5回 小テスト1

これまでの内容について小テストを実施する

第6回 IE1

稼働時間分析について理解する。人の稼働状態が悪い店舗をどのように分析し、改善するかを演習を通じて理解する。

第7回 IE2

経済性分析について理解する。2つの設備投資案をどちらが優位か、演習を通じて理解する。

第8回 QC1

基本統計について理解する。平均値、標準偏差の計算方法を演習を通じて理解する。

第9回 QC2

問題解決法、言語データについて理解する。部下と上司のコミュニケーションがうまく取れない場面で、どのように改善するか演習を通じて理解する。

第10回 QC3

連関図法、系統図法について理解する。人間関係に問題

が発生している職場の問題を、解決する演習を通じて理解する。

第11回 小テスト2

これまでの内容について小テストを実施する

第12回 QC4

PDPC法について理解する。事故で不通になったJRのある区間を避けて、時間までに到着する演習を通じて理解する。

第13回 貸借対照表

貸借対照表について理解する。流動負債と固定負債のバランスが取れてない企業の改善を、演習を通じて理解する。

第14回 損益計算書

損益計算書の読み方を理解する。主に、企業の収益の源泉を理解する

第15回 期末能力判定

前期の学習内容を総合的に判定する

2022年度 後期

2.0単位

経営情報論

今野 勤

<授業の方法>

講義、演習

<9月20日(月)～10月2日(土)までの授業形態>

遠隔授業(リアルタイム授業)

10月4日(月)以降の授業形態は、対面ですよろしく
お願いします。

<授業の目的>

企業経営において、人、もの、金の3つの資源が重要といわれていますが、昨今は、情報を4つ目の経営資源に上げる説があります。企業内外の情報を正確に把握し、きちんとした対応をしなければ企業の成長はありません。そこで企業の現場でおきる様々な実例を中心に解説し、演習を行いながら授業を進めます。たとえば、ライバル企業が値下げ攻勢をかけてきたときに、どう対応するか?なお本講座と情報処理概論を履修すると”ITパスポート”試験を受験するための知識も合わせて身に付きます。

なお、経営学部のディプロマポリシーのうち、

1. 現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために
有用な知識を総合的に学修する。

3. 情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題

をシステム化するのに必要な数値情報の知識や技術を学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する。

との関係が深い授業となっています。なお、この授業の担当者は、製造メーカーでの情報処理業務を16年間経験しており、実務経験のある教員です。より実践的な観点で製造メーカーの情報処理について解説します。

<到達目標>

企業の現場で起きる様々な問題に対して、即応できる実践的な知識がつく。また、この科目の教員は、製造メーカーでの情報処理業務を16年間経験しており、実務経験のある教員です。

<授業のキーワード>

品質管理、マーケティング、経営戦略

<授業の進め方>

教科書の解説、実践的な例題と演習を繰り返しながら進める。

<履修するにあたって>

やむおえない場合を除き欠席、遅刻をしないこと

<授業時間外に必要な学修>

授業で出題される課題を自分で解くこと。目安の時間は、1時間。

参考図書 今野 勤：データ解析による実践マーケティング 日科技連 2019

の図表、事例を参考にすること

<提出課題など>

特になし

<成績評価方法・基準>

小テスト2回40%、期末能力判定テスト40(持込可)%、受講内容(授業態度、出席、出席カードの記載内容など)20%の割合で成績評価する。

<テキスト>

今野 勤 他 「文科系のための情報科学」 共立出版
オリジナル・パワーポイント資料

<参考図書>

参考図書 今野 勤：データ解析による実践マーケティング 日科技連 2019

<授業計画>

第1回 知的財産

知的財産法と判例について理解する。著作権法について、演習問題を通じて理解する。

第2回 セキュリティ関連法規

セキュリティ関連法規と判例について理解する。法律違

反になる簡単な例を、演習を通じて理解する。

第3回 標準化と国際認証

ISO9000シリーズなど。国際標準の認証を受けた企業が陥る問題を、演習を通じて理解する。

第4回 経営戦略マネジメント1

経営戦略手法、PEST分析など。経営戦略の選択を、現実的な例で、演習を通じて理解する。

第5回 小テスト1

これまでの復習を兼ねて、小テストを実施する。

第6回 経営戦略マネジメント2

経営戦略手法、SWOT分析など。SWOT分析を電気自動車を例に、演習を通じて理解する。

第7回 新製品開発戦略1

商品企画システム。商品企画七つ道具を演習を通じて理解する。

第8回 新製品開発戦略2

コンジョイント分析の概要を解説する。

第9回 技術戦略マネジメント1

コンカレントエンジニアリングの概要を解説する。

第10回 小テスト2

これまでの復習を兼ねて小テストを実施する

第11回 技術戦略マネジメント2

品質表などの概要を解説する。

第12回 ビジネスインダストリー

楽天のビジネスモデルを、演習を通じて理解する。

第13回 システム戦略1

ビジネスモデルを”いろいろ”を例に理解する。

第14回 システム戦略2

業務モデルをスーパーのレジシステムを通じて理解する。

第15回 期末能力判定

これまで、習得した内容について、能力判定テストをする

2022年度 前期

2.0単位

経営数学

小川 賢

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、経営学部専門科目を学習する上で必要となる基礎的な数学知識の習得を目標とします。高校で学んだ数学の内容を復習し、「例」を提示して「問」を解きながら学習します。さらに、学習した数学知識が経営学・社会でどのように用いられているかについても例題を用いて講義します。また、公務員試験の問題演習や就職活動に必要なSPIの非言語分野の学習もします。数学に慣れておいて就職活動に備えてください。高校時代

に数学が苦手な人は数学の諸概念を確認・理解するだけでなく、公務員志望や資格試験に興味がある人にとっても、「実践問題」を通じて経営問題をシステム化し数理情報の技術が現実の社会にどのように利用されているのかを知ることができます。

<到達目標>

経営学部の専門科目で必要な数学の知識を修得できる。講義を通じて数学に興味を持つことができる。経営学や社会で数学がどのように使われているかを理解できる。公務員試験の問題や就職活動に必要なSPIの非言語分野の問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

方程式と不等式、数列と級数、関数とグラフ

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。授業時間中に演習問題を解いてもらいます。

<履修するにあたって>

テキストを用いて講義するので、必ずテキストは持参してください。授業をしっかりと聞いて、理解できないところは積極的に質問すること。

<授業時間外に必要な学修>

テキストに沿って学習しているので次回の講義についてテキストを予習すること。また、数学は学習の積み重ねであるので、授業で習ったことは次回の講義までに復習して理解しておくこと。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する中間演習課題(10%)最終演習課題(10%)、定期試験(80%)により評価する。演習課題の提出がない受講生は評価の対象となりません。

<テキスト>

塩出省吾・上野信行・柴田淳子・中村光宏著「社会科学系学生のための基礎数学」共立出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス、数の概念、整式と分数式

数の分類、複素数

第2回 2次方程式と2次不等式

2次方程式および2次不等式の解法

第3回 等差数列

等差数列の一般項とその和

第4回 等比数列とその応用

等比数列の一般項とその和、積立預金

第5回 無限級数

無限級数の和とその極限、政府購入乗数と租税乗数

第6回 階差数列

階差数列を用いた元の数列の一般項

第7回 数と式、数列と級数のまとめ

数と式、数列と級数の演習

第8回 1次関数、逆関数、合成関数

1次関数のグラフの移動と回転、逆関数の求め方とグラ

フ

第9回 2次関数

2次関数のグラフ、2次関数と2次方程式

第10回 分数関数、無理関数

分数関数のグラフ、無理関数のグラフ

第11回 指数関数

指数法則、指数関数のグラフ

第12回 対数関数

対数の基本性質、対数関数のグラフ

第13回 三角関数

三角関数と重要な公式

第14回 さまざまな関数のまとめ

さまざまな関数の演習

第15回 多変数関数

1変数関数と多変数関数

2022年度 前期

2.0単位

経営数学 【22】

宮本 行庸

<授業の方法>

講義と演習

<授業の目的>

この授業は、経営学部の専門科目を学習する上で必要となる基礎的な数学知識の習得を目標とします。高校で学んだ数学の内容を復習し、「例」を提示して「問」を解きながら学習します。さらに、学習した数学知識が経営学・社会でどのように用いられているかについても例題を用いて講義します。また、公務員試験の問題演習や就職活動に必要なSPIの非言語分野の学習もします。数学に慣れておいて就職活動に備えてください。高校時代に数学が苦手な人は数学の諸概念を確認・理解するだけでなく、公務員志望や資格試験に興味がある人にとっても、「実践問題」を通じて経営問題をシステム化し数理情報の技術が現実の社会にどのように利用されているのかを知ることができます。

<到達目標>

- ・経営学部の専門科目で必要な数学の知識を修得できる。
- ・講義を通じて数学に興味を持つことができる。
- ・経営学や社会で数学がどのように使われているかを理解できる。
- ・公務員試験の問題や就職活動に必要なSPIの非言語分野の問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

方程式と不等式、数列と級数、関数とグラフ

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。授業時間中に演習問題を解いてもらいます。

<履修するにあたって>

テキストを用いて講義するので、必ずテキストは持参してください。授業をしっかりと聞いて、理解できないところは積極的に質問すること。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストに沿って学習しているので次回の講義についてテキストを予習すること。また、数学は学習の積み重ねであるので、授業で習ったことは次回の講義までに復習して理解しておくこと。

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の演習課題（30%）、定期試験に相当する演習課題（70%）で評価する。定期試験に相当する演習課題を提出していない者は評価の対象とならない。

< テキスト >

「社会科学系学生のための基礎数学」、塩出省吾・上野信行・柴田淳子・中村光宏著、共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、数の概念、整式と分数式

数の分類、複素数

第2回 2次方程式と2次不等式

2次方程式および2次不等式の解法

第3回 等差数列

等差数列の一般項とその和

第4回 等比数列とその応用

等比数列の一般項とその和、積立預金

第5回 無限級数

無限級数の和とその極限、政府購入乗数と租税乗数

第6回 階差数列

階差数列を用いた元の数列の一般項

第7回 数と式、数列と級数のまとめ

数と式、数列と級数の演習

第8回 1次関数、逆関数、合成関数

1次関数のグラフの移動と回転、逆関数の求め方とグラフ

第9回 2次関数

2次関数のグラフ、2次関数と2次方程式

第10回 分数関数、無理関数

分数関数のグラフ、無理関数のグラフ

第11回 指数関数

指数法則、指数関数のグラフ

第12回 対数関数

対数の基本性質、対数関数のグラフ

第13回 三角関数

三角関数と重要な公式

第14回 多変数関数

1変数関数と多変数関数

第15回 さまざまな関数のまとめ

さまざまな関数の演習

2022年度 前期

2.0単位

経営数学 【22】

齋藤 政彦

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、経営学部の専門科目を学習する上で必要となる基礎的な数学知識の習得を目標とします。高校で学んだ数学の内容を復習し、「例」を提示して「問」を解きながら学習します。さらに、学習した数学知識が経営学・社会でどのように用いられているかについても例題を用いて講義します。また、公務員試験の問題演習や就職活動に必要なSPIの非言語分野の学習もします。数学に慣れておいて就職活動に備えてください。高校時代に数学が苦手な人は数学の諸概念を確認・理解するだけでなく、公務員志望や資格試験に興味がある人にとっても、「実践問題」を通じて経営問題をシステム化し数理情報の技術が現実の社会にどのように利用されているのかを知ることができます。

< 到達目標 >

経営学部の専門科目で必要な数学の知識を修得できる。講義を通じて数学に興味を持つことができる。経営学や社会で数学がどのように使われているかを理解できる。公務員試験の問題や就職活動に必要なSPIの非言語分野の問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >

方程式と不等式、数列と級数、関数とグラフ

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。授業時間中に演習問題を解いてもらいます。

< 履修するにあたって >

テキストを用いて講義するので、必ずテキストは持参してください。授業をしっかりと聞いて、理解できないところは積極的に質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストに沿って学習しているので次回の講義についてテキストを予習すること。また、数学は学習の積み重ねであるので、授業で習ったことは次回の講義までに復習して理解しておくこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する演習課題（30%）、定期試験（70%）により評価する。演習課題の提出がない受講生は評価の対象となりません。

< テキスト >

塩出省吾・上野信行・柴田淳子・中村光宏著「社会科学系学生のための基礎数学」共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、数の概念、整式と分数式
数の分類、複素数
第2回 2次方程式と2次不等式
2次方程式および2次不等式の解法
第3回 等差数列
等差数列の一般項とその和
第4回 等比数列とその応用
等比数列の一般項とその和、積立預金
第5回 無限級数
無限級数の和とその極限、政府購入乗数と租税乗数
第6回 階差数列
階差数列を用いた元の数列の一般項
第7回 数と式、数列と級数のまとめ
数と式、数列と級数の演習
第8回 1次関数、逆関数、合成関数
1次関数のグラフの移動と回転、逆関数の求め方とグラフ
第9回 2次関数
2次関数のグラフ、2次関数と2次方程式
第10回 分数関数、無理関数
分数関数のグラフ、無理関数のグラフ
第11回 指数関数
指数法則、指数関数のグラフ
第12回 対数関数
対数の基本性質、対数関数のグラフ
第13回 三角関数
三角関数と重要な公式
第14回 さまざまな関数のまとめ
さまざまな関数の演習
第15回 多変数関数
1変数関数と多変数関数
第1回 ガイダンス、数の概念、整式と分数式
数の分類、複素数
第2回 2次方程式と2次不等式
2次方程式および2次不等式の解法
第3回 等差数列
等差数列の一般項とその和
第4回 等比数列とその応用
等比数列の一般項とその和、積立預金
第5回 無限級数
無限級数の和とその極限、政府購入乗数と租税乗数
第6回 階差数列
階差数列を用いた元の数列の一般項
第7回 数と式、数列と級数のまとめ
数と式、数列と級数の演習
第8回 1次関数、逆関数、合成関数
1次関数のグラフの移動と回転、逆関数の求め方とグラフ
第9回 2次関数
2次関数のグラフ、2次関数と2次方程式

第10回 分数関数、無理関数
分数関数のグラフ、無理関数のグラフ
第11回 指数関数
指数法則、指数関数のグラフ
第12回 対数関数
対数の基本性質、対数関数のグラフ
第13回 三角関数
三角関数と重要な公式
第14回 さまざまな関数のまとめ
さまざまな関数の演習
第15回 多変数関数
1変数関数と多変数関数

2022年度 後期

2.0単位

経営数学

小川 賢

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

この授業は、経営数学 に引き続き、経営学部の専門科目を学習する上で必要となる基礎的な数学知識の習得を目標とします。経営数学 と同様に高校で学んだ数学の内容を復習し、「例」を提示して「問」を解きながら学習します。さらに、学習した数学知識が経営学・社会でどのように用いられているかについても例題を用いて講義します。また、公務員試験の問題演習や就職活動に必要なSPIの非言語分野の学習もします。数学に慣れておいて就職活動に備えてください。高校時代に数学が苦手な人は数学の諸概念を確認・理解するだけでなく、公務員志望や資格試験に興味がある人にとっても、「実践問題」を通じて経営問題をシステム化し数値情報の技術が現実の社会にどのように利用されているのかを知ることができます。

<到達目標>

経営学部の専門科目に必要な数学の知識を修得できる。講義を通じて数学に興味を持つことができる。経営学や社会で数学がどのように使われているかを理解できる。公務員試験の問題や就職活動に必要なSPIの非言語分野の問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

微分法、積分法、ベクトル、行列、行列式、連立方程式、固有値、固有ベクトル

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。授業時間中に演習問題を解いてもらいます。

<履修するにあたって>

テキストを用いて講義するので、必ずテキストは持参してください。授業をしっかりと聞いて、理解できないとこ

ろは積極的に質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストに沿って学習しているので次回の講義についてテキストを予習すること。また、数学は学習の積み重ねであるので、授業で習ったことは次回の講義までに復習して理解しておくこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する中間演習課題（10%）最終演習課題（10%）、定期試験（80%）により評価する。演習課題の提出がない受講生は評価の対象となりません

< テキスト >

塩出省吾・上野信行・柴田淳子・中村光宏著「社会科学系学生のための基礎数学」共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、関数の極限

関数の極限と極限值

第2回 微分法の基礎（1）

微分係数と導関数、微分法の公式

第3回 微分法の基礎（2）

基本関数の導関数、高次導関数

第4回 微分法の応用（1）

接線と法線

第5回 微分法の応用（2）

関数の増減と極大・極小

第6回 積分法の基礎（1）

不定積分

第7回 積分法の基礎（2）

定積分

第8回 積分法の応用

面積と体積

第9回 偏微分法

偏導関数

第10回 微分法と積分法のまとめ

微分法と積分法の演習

第11回 ベクトルとその演算

ベクトルの計算法則、内積

第12回 行列とその演算

行列の計算法則、行列の乗法

第13回 行列式と連立方程式

余因子展開、Gaussの消去法

第14回 固有値と固有ベクトル

固有方程式、固有ベクトル

第15回 ベクトルと行列のまとめ

ベクトルと行列の演習

2022年度 後期

2.0単位

経営数学 【22】

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この授業は、経営数学 に引き続き、経営学部の専門科目を学習する上で必要となる基礎的な数学知識の習得を目標とします。経営数学 と同様に高校で学んだ数学の内容を復習し、「例」を提示して「問」を解きながら学習します。さらに、学習した数学知識が経営学・社会でどのように用いられているかについても例題を用いて講義します。また、公務員試験の問題演習や就職活動に必要なSPIの非言語分野の学習もします。数学に慣れておいて就職活動に備えてください。高校時代に数学が苦手な人は数学の諸概念を確認・理解するだけでなく、公務員志望や資格試験に興味がある人にとっても、「実践問題」を通じて経営問題をシステム化し数理情報の技術が現実の社会にどのように利用されているのかを知ることができます。

< 到達目標 >

- ・経営学部の専門科目で必要な数学の知識を修得できる。
- ・講義を通じて数学に興味を持つことができる。
- ・経営学や社会で数学がどのように使われているかを理解できる。
- ・公務員試験の問題や就職活動に必要なSPIの非言語分野の問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >

微分法、積分法、ベクトル、行列、行列式、連立方程式、固有値、固有ベクトル

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。授業時間中に演習問題を解いてもらいます。

< 履修するにあたって >

テキストを用いて講義するので、必ずテキストは持参してください。授業をしっかりと聞いて、理解できないところは積極的に質問すること。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストに沿って学習しているので次回の講義についてテキストを予習すること。また、数学は学習の積み重ねであるので、授業で習ったことは次回の講義までに復習して理解しておくこと。

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の演習課題（30%）、定期試験（70%）で評価する。

定期試験を受験していない者は評価の対象とならない。

感染状況により、定期試験を授業中の演習課題に置き換えることがあります。

<テキスト>

塩出省吾・上野信行・柴田淳子・中村光宏著、「社会科学系学生のための基礎数学」、共立出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス、関数の極限

関数の極限と極限值

第2回 微分法の基礎(1)

微分係数と導関数、微分法の公式

第3回 微分法の基礎(2)

基本関数の導関数、高次導関数

第4回 微分法の応用(1)

接線と法線

第5回 微分法の応用(2)

関数の増減と極大・極小

第6回 積分法の基礎(1)

不定積分

第7回 積分法の基礎(2)

定積分

第8回 積分法の応用

面積と体積

第9回 偏微分法

偏導関数

第10回 微分法と積分法のまとめ

微分法と積分法の演習

第11回 ベクトルとその演算

ベクトルの計算法則、内積

第12回 行列とその演算

行列の計算法則、行列の乗法

第13回 行列式と連立方程式

余因子展開、Gaussの消去法

第14回 固有値と固有ベクトル

固有方程式、固有ベクトル

第15回 ベクトルと行列のまとめ

ベクトルと行列の演習

2022年度 後期

2.0単位

経営数学 【22】

齋藤 政彦

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、経営数学 に引き続き、経営学部の専門科目を学習する上で必要となる基礎的な数学知識の習得を目標とします。経営数学 と同様に高校で学んだ数学の内容を復習し、「例」を提示して「問」を解きながら学

習します。さらに、学習した数学知識が経営学・社会でどのように用いられているかについても例題を用いて講義します。また、公務員試験の問題演習や就職活動に必要なSPIの非言語分野の学習もします。数学に慣れておいて就職活動に備えてください。高校時代に数学が苦手な人は数学の諸概念を確認・理解するだけでなく、公務員志望や資格試験に興味がある人にとっても、「実践問題」を通じて経営問題をシステム化し数理情報の技術が現実の社会にどのように利用されているのかを知ることができます。

<到達目標>

経営学部の専門科目で必要な数学の知識を修得できる。講義を通じて数学に興味を持つことができる。経営学や社会で数学がどのように使われているかを理解できる。公務員試験の問題や就職活動に必要なSPIの非言語分野の問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

微分法、積分法、ベクトル、行列、行列式、連立方程式、固有値、固有ベクトル

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。授業時間中に演習問題を解いてもらいます。

<履修するにあたって>

テキストを用いて講義するので、必ずテキストは持参してください。授業をしっかり聞いて、理解できないところは積極的に質問すること。

<授業時間外に必要な学修>

テキストに沿って学習しているので次回の講義についてテキストを予習すること。また、数学は学習の積み重ねであるので、授業で習ったことは次回の講義までに復習して理解しておくこと。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する演習課題(30%)、定期試験(70%)により評価する。演習課題の提出がない受講生は評価の対象となりません。

<テキスト>

塩出省吾・上野信行・柴田淳子・中村光宏著「社会科学系学生のための基礎数学」共立出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス、関数の極限

関数の極限と極限值

第2回 微分法の基礎(1)

微分係数と導関数、微分法の公式

第3回 微分法の基礎(2)

基本関数の導関数、高次導関数

第4回 微分法の応用(1)

接線と法線

第5回 微分法の応用(2)

関数の増減と極大・極小

第6回 積分法の基礎(1)

不定積分

第7回 積分法の基礎(2)

定積分

第8回 積分法の応用

面積と体積

第9回 偏微分法

偏導関数

第10回 微分法と積分法のまとめ

微分法と積分法の演習

第11回 ベクトルとその演算

ベクトルの計算法則、内積

第12回 行列とその演算

行列の計算法則、行列の乗法

第13回 行列式と連立方程式

余因子展開、Gaussの消去法

第14回 固有値と固有ベクトル

固有方程式、固有ベクトル

第15回 ベクトルと行列のまとめ

ベクトルと行列の演習

2022年度 前期

2.0単位

経営政策会計論 【19-】

水野 一郎

< 授業の方法 >

テキストおよび担当教員が作成したパワーポイントを中心にした講義

< 授業の目的 >

経営政策会計論は、企業の経営理念や経営目的に基づく経営政策を踏まえて、その実現のための会計を学ぶ学問であり、従来の管理会計論よりももっと経営に寄り添った新しい会計学の科目です。京セラの創業者である稲盛和夫氏は「会計がわからなくて経営ができるか！」と喝破し、企業経営において会計は「飛行機の操縦席にあるコックピットのメーター」に匹敵すると述べています。本講義では「経営政策実現のための会計」の意義と重要性を理解していただきますが、簿記の仕訳や原価計算、管理会計の特別で複雑な計算技術を取り扱うことはありません。「経営政策実現のための会計」は、実は会社によって多様な形態があり、京セラのアメーバ経営の会計もその一つです。経営政策会計論の本講義では京セラ、日本航空、パナソニックの経営理念や経営政策、経営会計を取り上げ、それぞれの「経営政策実現のための会計」を考察していきます。

< 到達目標 >

経営政策会計論の意義と基本的な特長を理解すること

< 授業のキーワード >

経営理念、日本的経営、アメーバ経営、経理社員制度、

事業部制会計

< 授業の進め方 >

テキストとパワーポイントを用いて講義する

< 履修するにあたって >

テキストは文庫本であり、コンパクトで廉価でもあるので必ず購入し授業には持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストと講義資料を読み返し、授業内容の理解に努めること。また指定している参考図書 of 少なくとも一つは読み、内容を把握すること。

< 提出課題など >

講義内容に関する中間レポートの提出

< 成績評価方法・基準 >

授業のなかでの発表やレポート、出席状況など平常点で評価する

< テキスト >

稲盛和夫『稲盛和夫の実学：経営と会計』日経ビジネス人文庫、小川守正『松下幸之助に学んだ実践経営学』PHP文庫

< 参考図書 >

稲盛和夫『稲盛和夫の実践アメーバ経営：全社員が自ら採算をつくる』日本経済新聞社、川上徹也『女房役の心得：松下幸之助流お金の教科書』日本経済新聞社、松下幸之助『実践経営哲学』PHP文庫、林總『騙されない会計：会社の数字のウラを読む方法』PHPビジネス新書

< 授業計画 >

第1回 経営政策会計論とは何か

経営政策会計論の意義と特長を他の会計科目と比較しながら説明し、経営学・会計学における位置づけを明確にする

第2回 京セラ創業者である稲盛和夫氏の会計学

京セラの社是、経営理念と会計思想

第3回 京セラの経営政策会計論 1

キャッシュベースの経営の原則と1対1対応の原則

第4回 京セラの経営政策会計論 2

筋肉質経営の原則、完璧主義の原則およびダブルチェックの原則

第5回 京セラの経営政策会計論 3

アメーバ経営と時間当た採算制度

第6回 経営のための会計学の実践 1

盛和塾での経営問答 1・2

第7回 経営のための会計学の実践 2

盛和塾での経営問答 3・4・5

第8回 日本航空の経営政策会計論 1

日本航空の破綻の要因と会計

第9回 日本航空の経営政策会計論 2

日本航空の再生と経営理念の確立

第10回 日本航空の経営政策会計論 3

日本航空のアメーバ経営・会計の導入

第11回 パナソニックの経営政策会計論 1

松下幸之助の経営思想とパナソニックの経営理念

第12回 パナソニックの経営政策会計論 2

事業部制会計とキャッシュフロー経営

第13回 パナソニックの経営政策会計論 3

経理社員制度の意義と役割

第14回 パナソニックの経営政策会計論 4

パナソニックの海外展開と会計

第15回 まとめ

この授業で講義してきたことをまとめ、質問に応えます。

2022年度 後期

2.0単位

経営政策会計論 【19-】

水野 一郎

< 授業の方法 >

担当教員が作成したパワーポイントを中心にした講義

< 授業の目的 >

経営政策会計論は、企業の経営理念や経営目的に基づく経営政策を踏まえて、その実現のための会計を学ぶ学問であり、従来の管理会計論よりももっと経営に寄り添った新しい会計学の科目です。経営政策会計論 は、経営政策会計論 で取り上げた京セラ、日本航空、パナソニック以外のできるだけ多くの会社の経営理念や経営政策を紹介し、その特有の会計を考察することを目的としています。経営政策会計論 の受講については経営政策会計論 を前提とはしていません。本講義では高付加価値経営をめざし、従業員を大切にし、ユニークな経営理念と経営政策を展開している企業を取り上げます。また中小企業の経営政策会計も考察の対象としております。わが国の中小企業の企業数は全事業者数の99.7%を占めており、従業者数も全体の7割を占めています。中小企業の中には小さくても優れた経営をしている企業も少なくありません。本講義ではそうした企業を中心に経営理念と経営政策を検討し、経営政策会計を探っていきます。

< 到達目標 >

企業経営と会計を一体として考え、ユニークな企業の経営政策会計論を理解し、その基本的な特長を理解すること

< 授業のキーワード >

人本主義、アメーバ経営の会計、生産性、付加価値会計

< 授業の進め方 >

教材資料とパワーポイントを用いたオンデマンド講義

< 履修するにあたって >

担当者が指定する論文や資料は手許において受講すること

< 授業時間外に必要な学修 >

講義資料を読み返し、授業内容の理解に努めること。また指定している参考図書 of 少なくとも一つは読み、内容を把握すること。さらに授業で取り上げた企業のホーム

ページ（各社とも充実した内容になっています）を閲覧し、その概要を押さえておくこと。

< 提出課題など >

講義内容に関する期末レポートの提出

< 成績評価方法・基準 >

中間の小テストもしくはレポート（30%）及び期末のレポート（70%）で評価します

< テキスト >

担当者が指定する論文、資料をテキストとする

< 参考図書 >

林總『つぶれる会社には「わけ」がある』日経ビジネス人文庫、野中郁次郎・勝見明『全員経営』日経ビジネス人文庫、塚越寛『末広がりのいい会社をつくる：人も社会も幸せになる年輪経営』文屋、渋沢栄一『論語と算盤』角川文庫、木村昌人『渋沢栄一：日本のインフラを創った民間経済の巨人』ちくま新書、エリヤ・ゴールドラット『何が、会社の目的を妨げるのか：日本企業が捨ててしまった大事なもの』ダイヤモンド社

< 授業計画 >

第1回 論語と算盤 1

渋沢栄一の事績と経営思想

第2回 論語と算盤 2

渋沢栄一の経営思想とCSV

第3回 TOC(制約理論)とスループット会計

ゴールドラットが提唱し、日本企業にも大きな影響を与えているTOC(制約理論)とその業績評価システムになるスループット会計を説明する

第4回 人本主義経営と経営政策会計

人本主義は企業を従業員を中心に考えるものであり、その意義と論理を説明する

第5回 キーエンスの経営政策会計論

日本一の給料をめざす高付加価値経営と経営政策会計

第6回 キリンビールの経営政策会計論

ESG経営とCSV

第7回 YKKの経営政策会計論

創業者である吉田忠雄の「善の循環」思想と経営政策会計

第8回 伊那食品工業の経営政策会計論

「年輪経営」思想と経営政策会計

第9回 未来工業の経営政策会計論

「常に考える」思想と経営政策会計

第10回 中小企業の経営政策会計論 1

(株)日本経営の経営理念と人時生産性会計

第11回 中小企業の経営政策会計論 2

キリックスグループの経営理念と会計

第12回 中小企業の経営政策会計論 3

メガネ21の経営理念と会計

第13回 中小企業の経営政策会計論 4

廣野鐵工所の経営理念と会計

第14回 中小企業の経営政策会計論 5

2022年度 前期

2.0単位

経営戦略論

田中 康介

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識、及び経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指す。また本講義科目は、コア科目(選択必修科目)に属し、経営戦略に関する基礎的な理論や知識の修得とともに、近年台頭してきたプロセス型戦略論などを理論枠組みとして、新しい創造的な視点から経営戦略を理解することを目指す。そのため、まず経営戦略とは何か、そして、なぜ企業にとって経営戦略は必要なのかなど、経営戦略の意味・意義を理解した上で、経営戦略に関する様々な概念や理論、フレームワークやモデルなどを提示し、経営戦略について具体的・立体的に把握していく。また、戦略自体だけでなく、戦略と組織との関わりや、組織の中で実際に戦略はどのように形成され、実行・実現されていくのか、などについても理解する。

< 到達目標 >

1. 経営戦略に関する基礎的な理論を説明できる。
2. 新しい視点からも経営戦略を説明できる。
3. 戦略と組織の関わりについて説明できる。
4. どのように組織内で戦略は形成されるのかを説明できる。
5. 経営戦略を具体的・実践的に説明できる。

< 授業のキーワード >

環境適応、意思決定、ドメイン、多角化、資源展開、競争戦略、分析型戦略、プロセス型戦略、経営革新

< 授業の進め方 >

講義中心の授業ですが、より実践的な理解を促進するため、必要に応じて、実際の企業事例(映像等)を用いて説明します。

< 履修するにあたって >

授業中の私語や飲食、授業に関係ないことは慎んで下さい。全出席(無欠席)を前提としますが、欠席(遅刻)の理由がある場合は届け出て下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で示されている教材(プリント)の個所を、丹念に繰り返し読むこと。

事前学習として、講義の対象となる教材(プリント)の個所を読み込んでおくこと。(目安として1時間程度)

事後学修として、講義の対象であった教材(プリント)とビデオ教材等の内容を再確認すること。(目安として1時間程度)

< 提出課題など >

講義期間中(授業中)に、小テストを合計2回、実施します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験50%、小テスト(合計2回実施予定)等50%の割合で、成績評価します。フィードバックに関しては、小テストは、必要(質問等)に応じて、実施した後(以降)の授業で行い、定期試験に関しては、疑義や質問があれば適宜、行います。

< テキスト >

オリジナル教材(プリント)を使用しますが、教材や資料は適宜配布します。

< 参考図書 >

1. 産能大学経営研究会(2000年)現代企業と経営、産能大学出版部
2. 奥村昭博(1989年)経営戦略(日経文庫)、日本経済新聞社その他、必要に応じて指示します。

< 授業計画 >

第1回 経営戦略と環境適応

企業(組織)は、環境に適応することによって、存続と成長を確保できる。こうした企業の環境適応において、カギとなるのが経営戦略である。そして、企業ごとの経営戦略の違いが、環境適応の成否を左右する。第1講(初回)では、企業の環境適応における経営戦略の意義について理解する。

第2回 経営戦略の意味

第2講では、経営戦略とは何か、なぜ企業にとって経営戦略は必要なのか、などを根本的に理解する。そして、経営戦略の基本的な意味や定義を理解した上で、特に戦略の必要性について、実際の企業事例を取り上げ、より実践的に理解する。

第3回 戦略的意思決定

戦略的意思決定とは、まず「わが社はどのような事業を行い、どのような製品を開発し、どのような市場に進出するか」を決めることである。ここでは、戦略的意思決定の意味を理解した上で、更に戦略的意思決定が企業の存続・成長にどのような影響を及ぼすのかについて理解する。

第4回 経営戦略の本質

企業は何のために経営戦略を策定・実行するのか、という問に答えるならば、創造や革新のためである。ある高名な経済学者によれば、企業や企業家の起こす創造的革新が経済や社会の発展をもたらすという。ここでは、経営戦略の本質である創造や革新の意味・意義を理解する。

第5回 経営戦略の概念と構想

ここでは、まず経営戦略に関する基本的な考え方(概念)を理解した上で、経営戦略を構造的に分解し、全社戦

略、事業（競争）戦略、機能別戦略など、それぞれについて理解する。加えて、経営戦略の基盤となる経営理念やビジョン、更に全社的な戦略構想についても理解する。

第6回 ドメインの定義と多角化戦略

戦略構想の第一歩であるドメイン（事業領域）が定義されると、まず企業はそのまま事業を展開していく。ある事業を集中的に行っていく企業もあれば、事業を拡大したり或いは事業を多様化・多角化したりする企業もある。ここでは、特に企業の多角化戦略に焦点を当て、その方向や類型について理解する。

第7回 資源展開の戦略

企業（組織）は、その目的を達成するために、必要な経営資源を蓄積し調達するとともに、ドメインを構成する事業分野のそれぞれに、その資源を配分していくことが求められる。ここでは、特に財務的資源（資金）の配分に焦点を当て、その戦略手法について理解する。

第8回 競争戦略論 1：競争要因分析

企業には、全社的に事業を調整・管理することが必要である一方、それぞれの事業ごとの戦略、とりわけ市場や競合他社に目を向けると、競争戦略が不可欠となる。競争戦略を策定する際の決め手は、まず自社の競争（市場）環境を分析することにある。ここでは、市場の競争要因分析とその手法を理解する。

第9回 競争戦略論 2：競争戦略の基本型その 1

上記のように企業は、競争（市場）環境やそこに含まれる要因を分析した上で、自社がどのような競争戦略を採用すれば良いのかを決定しなければならない。ここでは、企業の採るべき競争戦略の基本的類型について理解する。

第10回 競争戦略論 3：競争戦略の基本型その 2

上記のように企業は、市場において、自社がどのような競争戦略を採用すれば良いのかを決定しなければならない。前回に続き、企業の採るべき競争戦略の基本的類型について、事例を通じて理解する。

第11回 分析型戦略論の限界

これまで検討してきた理論（例えば多角化戦略、資金配分、競争戦略など）は、事前の分析を重視する「分析型戦略論」と呼ばれる理論体系である。しかし、分析もやり過ぎると却って役に立たないといわれ、近年では、その限界も指摘されている。ここでは、分析型戦略論の限界説について理解する。

第12回 経営戦略論の新潮流：プロセス型戦略論

現実の世界では、事前に分析した通り単純に物事が運ぶわけではない。現実の企業（組織）では、多様な人々が経営戦略の策定や実行に関与しながら、複雑なプロセスを形成している。こうした観点から、ここでは、経営戦略論の新潮流「プロセス型戦略論」の考え方について理解する。

第13回 経営戦略の現代的理解 1

講義の最終段階（第13~15回）では、現代企業が経営戦略をどのように捉え実践していくべきか、について理解

する。そのために、上記（第12回）プロセス型戦略論の枠組みに基づき、様々な企業事例を取り上げ、経営戦略の全体的プロセス（策定・実行・実現）について理解する。

第14回 経営戦略の現代的理解 2

前回に続き、様々な企業事例を取り上げ、経営戦略の全体的プロセス（策定・実行・実現）を具体的に理解する。

第15回 経営戦略と経営革新

現代企業の戦略プロセスについて理解を深める。先に検討したように（第4回）、経営戦略の本質は創造的革新にあり、ここでは特に、企業（組織）が革新を遂行していくための制度や方法などについて理解する。そして今一度、経営戦略の意味・意義を再考する。

2022年度 後期

2.0単位

経営戦略論

田中 康介

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識、及び経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指す。また本講義科目は、コア科目（選択必修科目）に属し、授業では経営戦略とともに組織にも焦点を当て、戦略と組織との関係、戦略を実行する際の組織のあり方、組織メンバーの戦略行動などについて、実践的に理解することを目指す。経営戦略と経営（企業）組織は、当然ながら密接な関係を持っている。経営戦略とは、組織が環境に適応していくための、いわば設計図であり、進むべき方向、実践すべきシナリオ、資源展開のパターンなどを定めたものである。そして、この戦略を実行していくのが組織である。つまり組織とは、戦略を実行・実現する主体だといえよう。特に講義の後半では、最近、新しく展開されている経営戦略の各論についても解説する。

< 到達目標 >

1. 経営戦略と組織の関係を説明できる。
2. 戦略を実行する際の組織のあり方を説明できる。
3. 組織メンバーの戦略行動について説明できる。
4. 経営戦略の新しい理論モデルを説明できる。

< 授業のキーワード >

戦略・組織の関係、創造的組織、戦略的革新、戦略行動、戦略的学習、資源ベース、サプライ・チェーン、アーキテクチャ、プラットフォーム

< 授業の進め方 >

講義中心の授業ですが、より実践的な理解を促進するため、必要に応じて、実際の企業事例（映像等）を用いて説明します。

< 履修するにあたって >

授業中の私語や飲食、授業に関係ないことは慎んで下さい。全出席(無欠席)を前提としますが、欠席(遅刻)の理由がある場合は届け出て下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で示されている教材(プリント)の個所を、丹念に繰り返し読むこと。

事前学習として、講義の対象となる教材(プリント)の個所を読み込んでおくこと。(目安として1時間程度)

事後学修として、講義の対象であった教材(プリント)とビデオ教材等の内容を再確認すること。(目安として1時間程度)

< 提出課題など >

講義期間中(授業中)に、小テストを合計2回、実施します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験50%、小テスト(合計2回実施予定)等50%の割合で、成績評価します。フィードバックに関しては、小テストは、必要(質問等)に応じて、実施した後(以降)の授業で行い、定期試験に関しては、疑義や質問があれば適宜、行います。

< テキスト >

オリジナル教材(プリント)を使用しますが、教材や資料は適宜配布します。

< 参考図書 >

1. 産能大学経営研究会(2000年)現代企業と経営、産能大学出版部 2. ゲイリー・ハメル他(1995年)コア・コンピタンス経営、日本経済新聞社その他、必要に応じて指示します。

< 授業計画 >

第1回 経営戦略と組織

まず初めに、経営戦略の実行主体である、経営組織とは何か、を理解する。組織とは人の集まりであるが、各人が勝手に行動しているわけではなく、人々は共通の目的を持ち、それを達成するために組織を構築し、協働している。第1講(初回)では、そのような経営組織の意味を理解した上で、組織の構造や形態などについて理解する。

第2回 戦略と組織の関係

組織は、より効率的・効果的に目的を達成しようと、そのための戦略を策定し実行する。その場合、組織にとって適切な戦略が策定されなければならないし、逆に戦略を実行するための適切な組織が構築されなければならない。ここでは、そのような戦略と組織の関係について理解する。

第3回 組織戦略1: 創造的組織の構築

経営戦略の本質は、創造的革新にあるといわれる。つまり経営戦略は、創造や革新を実現するために策定、実行されるものであり、組織もそれらの実現に向けて構築、運営されなければならない。ここでは、革新を起こすべく創造的な組織をいかに構築するか、そのための方法(

戦略)について理解する。

第4回 組織戦略2: 戦略的革新

環境は絶え間なく変化しており、従来と同じ戦略・組織のもとで企業活動を続けていけば、環境に適応できなくなる。企業は、環境変化にうまく対応できるような、或いは環境変化をうまく先取りできるような戦略を臨機応変に採り、その実行・実現のために、従来の組織を革新していかなければならない。ここでは、組織革新のための戦略について理解する。

第5回 トップの戦略行動

戦略を策定・実行していく上で、トップ・マネジメント(経営者・経営陣)が組織(メンバー)をどのようにリードしていくか、という問題は極めて重要である。トップの行動次第で、組織の存否が左右されるといっても過言ではない。ここでは、戦略実現のための、トップの役割やリーダーシップについて理解する。

第6回 ミドルの戦略行動

戦略を実現するためには、上述のトップのみならず、ミドル・マネジメント(中間管理者)も重要な役割を担っている。ミドルは、現場とトップの、或いは組織内外の結節点として、自らの行動を通じて、戦略の実現に貢献していくことが求められる。ここでは、戦略実現のための、ミドルの役割やリーダーシップについて理解する。

第7回 企業間の競争

競争戦略の基本型を理解した上で、それらに含まれる「差別化戦略」(どのようにして高付加価値の製品は生み出されるのか)、「コストリーダーシップ戦略」(どのようにしてコストダウンは実現されるのか)、「集中戦略」(どのようにして経営資源の集中が行われるのか)などについて、実際の企業事例(ケース)を取り上げ、具体的に実践的に理解する。

第8回 組織の戦略形成プロセス

現実の企業(組織)では、上記トップやミドルその他のメンバーも含め、多様な人々が経営戦略の策定や実行に関与しながら、複雑なプロセスを形成している。こうした観点から、ここでは、様々な企業事例を取り上げ、組織とそのメンバーの戦略形成プロセスについて、具体的に理解する。

第9回 戦略的学習1

現代的な経営戦略の考え方では、戦略が形成されるプロセスで最も重視されるのは、いわゆる「戦略的学習」である。環境に長期的に適応していくためには、組織やそのメンバーは、自らの行動によって、継続的に学習を行っていくことが求められる。ここでは、戦略の実行を通じて、組織がどのように学習するのかについて理解する。

第10回 戦略的学習2

引き続き、戦略的学習について考察する。戦略の実行プロセスにおいて、組織やそのメンバーは、様々なことから学習する。組織内の出来事や人々から学習することもあれば、組織内だけではなく、必要に応じて、組織外の

顧客や他社からも学習することもある。ここでは、様々な企業事例を取り上げ、顧客や他社からの学習について理解する。

第11回 現代の経営戦略論1：資源ベース理論

これまで見てきたように、従来の経営戦略論は、戦略策定に際し精緻な分析手法を求める考え方であった。それに対し近年、分析・策定だけでなく、組織(メンバー)が実際に戦略を実行・実現していくプロセスを考察しようとするアプローチが主張され、特に組織の経営資源やそれらを基に形成された能力の視点から経営戦略を考察しようとする、「資源ベースの戦略論」なるものが台頭している。ここでは、その考え方について理解する。

第12回 現代の経営戦略論2：サプライ・チェーン理論
最近、いわゆる「サプライ・チェーン・マネジメント」の議論も盛んに行われている。サプライ・チェーンとは、顧客 - 小売 - 卸 - 製造 - 部品・資材サプライヤ等の供給活動の連鎖構造であり、そのチェーン(連鎖)全体をいかに最適化するかがマネジメントの重要課題とされている。ここでは、それらサプライ・チェーンについて、戦略的視点から理解する。

第13回 現代の経営戦略論3：アーキテクチャ理論
製品やビジネス・プロセスなどを、構成部品や工程、或いは部分的プロセスなどに分割し、それらに機能を配分して、それによって必要となる部品(工程)・プロセス間のインタフェースをいかに設計(アーキテクチャ)するかについて検討する、いわゆるアーキテクチャ研究も最近、盛んである。ここでは、アーキテクチャのタイプ及び、その設計思想や構想などの、戦略的な意味・意義を理解する。

第14回 現代の経営戦略論4：プラットフォーム理論
最近の様々な企業事例から、プラットフォーム・ビジネスなる事業モデルが析出されている。プラットフォーム・ビジネスとは、誰もが明確な条件で提供を受けられる商品やサービスの供給を通じて、第三者間の取引を活性化させたり、新しいビジネスを起こす基盤を提供したりする役割を、ビジネスとして行っている存在のことである。ここでは、このプラットフォーム・ビジネスの事業戦略について理解する。

第15回 全体総括

講義内容全般にわたり復習し、その全体的な理論体系について総括し理解する。

2022年度 前期

2.0単位

経営組織論

福井 直人

< 授業の方法 >

講義(対面)

< 授業の目的 >

本科目は経営学総論を既に履修済みであることを前提として、総論における組織の管理に重点をおきます。そして、学生諸君が経営組織の概念や理論を理解することを目的とします。企業をはじめとする組織の活動は、そこで働く人々を共通目的のために方向づけることで機能しています。この共通目的の達成のために、組織全体の仕事をどのように人々で分担(分業)し、かつそれらを纏め上げるか(調整)を考える学問領域こそが、経営組織論です。経営組織論は大きく分けてミクロとマクロとに分かれますが、ミクロ組織論については経営組織論で扱います。その前段階にあたる経営組織論では、マクロ組織論を中心に、組織の構造はどのように作られるか、組織はどのようなプロセスで動いているか、またそれを管理するために経営者は何をしなければならぬかを、経営学の諸学説を検討するなかで学びます。

この科目は、企業経営において必須である組織づくりに関連している点において、学部DPである、

1. 現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する。

5. 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する。

に大いに関連しています。すなわち企業経営とは組織の管理といっても過言ではなく、これを学ぶことは経営学の全体像を把握するのに必須のことなのです。また、講義の終盤でダイバーシティの論点が出てくるという点では

4. 社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する。

も視野に入れたものになってきます。

< 到達目標 >

1. 経営組織の基礎的概念について説明できる。
2. 組織変革に成功した企業の情報を独力で収集できる。
3. 身近な組織(家庭、サークル、アルバイトなど)に本科目の知見を応用し実践できる。

< 授業のキーワード >

経営組織、組織構造、組織過程、組織成果

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。パワーポイントまたはレジュメまたは板書によって講義を進めます。比重は諸君の反応を見ながら変えていきたいです。

基本的にオンデマンドではありますが、5月中の講義はリアルタイムzoomがメインとなります。5月中は講義開始時刻少し前に、遠隔授業方法に記載されているアドレスから入室してください。

< 履修するにあたって >

経営学総論の内容を復習しておいてください。本科目と非常に関連性の高い科目は経営管理論ですので、そちら

も併せて受講ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に教科書の指定された箇所を読み、分からない語は辞典で調べる。(目安として1時間)

事後に配布資料およびノートを見直す。必要に応じて教科書に立ち返る。(目安として1時間)

< 提出課題など >

とくにありません。

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート50%、期末レポート50%

各レポートでは、経営組織についての初歩的な概念についての用語問題を出題します。現実の企業における実態と学術的な理論の往復ができるかという観点から、論述問題を出題します。

< テキスト >

安藤史江・稲水伸行・西脇暢子・山岡徹(2019)『ベシックプラス経営組織』中央経済社。(2,640円)

< 参考図書 >

高尾義明(2019)『はじめての経営組織論』有斐閣。(2,090円)

鈴木竜太(2018)『経営組織論』東洋経済新報社。(2,420円)

< 授業計画 >

第1回 経営組織論への招待

経営組織論とはどのような学問かを説明します。

第2回 組織とは何か

本講義の鍵概念である組織について、その目的や類型について説明します。(教科書第1章)

第3回 組織の基礎理論(1)

古典的組織管理論について、テイラーの科学的管理法およびウェーバーの官僚制組織を中心に学習します。(教科書第2章)

第4回 組織の基礎理論(2)

近代組織論について、バーナード組織論とサイモン意思決定論を中心に学習します。(教科書第2章)

第5回 組織構造と組織デザイン

部門間の分業と調整のあり方について、機能別組織と事業部制組織とを対比させながら解説します。マトリックス組織やカンパニー制などについても言及します。(教科書第3章)

第6回 集団力学

グループ・ダイナミクスについて概説します。集団が生産性を高めることもあれば、集団浅慮などにより意思決定にバイアスがかかりうることも確認します。(教科書第5章)

第7回 組織の意思決定

講義番号04における意思決定論をまずは復習します。そのうえで、限定合理性を克服すべく組織的意思決定がいかになされるかを学習します。(教科書第6章)

第8回 組織と環境

組織と環境が相互にいかなるやりとりをするのか、トンプソンの理論を中心に概説します。さらに、環境適合的な組織構造の設計はいかにあるべきかを問う、コンティンジェンシー理論の展開を説明します。(教科書第7章)

第9回 組織構造のダイナミクス

情報処理パラダイムの観点から、組織が環境の不確実性などのように対処するかについて講述します。また、情報処理の必要性削減と情報処理能力の向上についても議論します。(教科書第8章)

第10回 組織間関係論

組織を取り巻く環境のひとつを構成する他組織との関係をパワー、取引コスト、ネットワークといった概念を媒介しながら論じます。(教科書第9章)

第11回 組織変革

組織はいつまでも同じ構造や文化をもつものではなく、環境の変化に応じて、また変化を予見して、変革するものです。レヴィンによる組織変革の段階論を中心に説明します。(教科書第10章)

第12回 組織学習

個人と同じく、組織はいろいろなことを学習する存在です。組織学習と呼ばれる概念を確認しつつ、組織学習の類型やプロセスについて学習します。(教科書第11章)

第13回 組織のパラドックス

組織においては、あちらを立てればこちらが立たないという、両立が難しい面がたくさんあります。ここでは学習・所属・組織化・実行それぞれにおけるパラドックスを学びます。(教科書第12章)

第14回 近年の組織論研究

比較的発展的な内容として近年の組織論研究の系譜を概観します。扱う理論は組織進化論、組織生態論、制度理論などです。(教科書第13章、および教科書に含まれない内容)

第15回 総まとめ

ここまでの回を振りかえるとともに、実際の企業において経営組織論の知見がいかに役立つかを事例を交えて説明します。

2022年度 後期

2.0単位

経営組織論

福井 直人

< 授業の方法 >

講義(対面)

< 授業の目的 >

本科目は経営学総論を既に履修済みであることを前提として、総論における組織の管理に重点をおきます。そして、学生諸君が経営組織の概念や理論を理解することを目的とします。企業をはじめとする組織の活動は、そこ

で働く人々を共通目的のために方向づけることで機能しています。この共通目的の達成のために、組織全体の仕事をどのように人々で分担（分業）し、かつそれらを纏め上げるか（調整）を考える学問領域こそが、経営組織論です。経営組織論は大きく分けてミクロとマクロとに分かれますが、マクロ組織論については経営組織論で扱いました。続く経営組織論では、ミクロ組織論を中心に、組織のなかの人間行動はどのようにして生じるのか、またそれを管理するための施策の設計をいかにするかを、組織行動論の諸学説を検討するなかで学びます。この科目は、企業経営において必須である組織づくりに関連している点において、学部のDPである、

1．現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する。

5．経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する。

に大いに関連しています。すなわち企業経営とは組織の管理といっても過言ではなく、これを学ぶことは経営学の全体像を把握するのに必須のことなのです。また、講義の終盤でダイバーシティの論点が出てくるという点では

4．社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する。

も視野に入れたものになってきます。

<到達目標>

1．組織行動の基礎的概念について説明できる。
2．モチベーション向上やリーダーシップ発揮に成功した企業の情報を独力で収集できる。

3．身近な組織（家庭、サークル、アルバイトなど）に本科目の知見を応用し実践できる。

<授業のキーワード>

経営組織、組織行動、組織心理学

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。パワーポイントまたはレジュメまたは板書によって講義を進めます。比重は諸君の反応を見ながら変えていきたいです。

<履修するにあたって>

経営学総論および経営組織論の内容を復習しておいてください。本科目と非常に関連性の高い科目は経営管理論ですので、そちらも併せて受講ください。

<授業時間外に必要な学修>

事前に教科書の指定された箇所を読み、分からない語は辞典で調べる。（目安として1時間）

事後に配布資料およびノートを見直す。必要に応じて教科書に立ち返る。（目安として1時間）

わからない点があった場合、あるいは発展的な内容が知りたい場合は、参考図書を読んでみてください。

<提出課題など>

とくにありません。

<成績評価方法・基準>

中間レポート50%、期末レポート50%

各レポートでは、現実の企業における実態と学術的な理論の往復ができるかという観点から、論述問題を出題します。

<テキスト>

開本浩矢編(2019)『ベーシックプラス組織行動論』中央経済社。（2,640円）

<参考図書>

鈴木竜太・服部泰宏(2019)『組織行動』有斐閣。（2,200円）

<授業計画>

第1回 組織行動論への招待

組織行動論とはどのような学問領域かを説明します。（教科書第1章）

第2回 モチベーション

人々のやる気は何から生じるのか、どのようなプロセスを経て高まるのかを検証します。（教科書第2章）

第3回 組織コミットメント

組織と個人の関わりあいを表す概念である組織コミットメントについて考察を深めます。（教科書第3章）

第4回 意思決定と合意形成

異なった意見や価値観をもつ人々からなる組織において、どのように合意形成がなされ、最終的に意思決定がなされるのかを学習します。（教科書第4章）

第5回 キャリア・マネジメント

職業経験であるキャリアを、組織と個人の関係から捕捉し、キャリア・マネジメントのあり方を考えます。（教科書第5章）

第6回 組織市民行動

職務境界にとらわれない利他的な行動にはどのようなものがあり、それはいかにして促進されるかを検討します。（教科書第6章）

第7回 組織ストレス

組織成員に対する精神的負荷を示す概念である、組織ストレスについて講述します。それがもたらすプラスとマイナスの側面についても言及します。（教科書第7章）

第8回 チーム・マネジメント

組織のなかでは個人単位で職務を遂行することもあります。チームで遂行することの長短、およびそのマネジメントについて学びます。（教科書第8章）

第9回 リーダーシップ

組織における対人影響のひとつであるリーダーシップに焦点を当て、その理論的変遷をたどります。交換型から変革型へという大きな流れを把握します。（教科書第9章）

第10回 組織学習

個人が学習する存在であることは自明ですが、組織も学

習するものであると、個人学習のアナロジーを使って議論されることがあります。この組織学習論の系譜について学びます。(教科書第10章)

第11回 組織変革

組織構造や組織過程、組織文化は通時的に一定ではなく、環境変化に応じて変革を迫られることがあります。組織変革のプロセスと阻害要因、その克服方法について確認します。(教科書第11章)

第12回 組織文化

国ごとに文化が存在するように、組織ごとにも固有の文化が存在し、これを組織文化と呼びます。組織文化についてミクロ的な視点から学習していきます。(教科書第12章)

第13回 組織的公正

報酬をもらうときなど、その多寡に応じて不公平感を感じることがあります。組織における公正については、組織的公正の理論として展開されてきました。分配・手続き双方の公正に注目します。(教科書第13章)

第14回 組織社会化

新しく入職した人が組織になじみ、学習して一人前になっていくことを組織社会化と呼びます。組織社会化の過程を理解するとともに、そのマネジメント方法について考えます。(教科書第14章)

第15回 ダイバーシティとプロフェッショナル

昨今では組織のなかで国籍や人種、雇用形態や職種といった、いろいろな側面での多様化が進んでいます。この多様性をいかに管理しパフォーマンスにつなげるかについて検討します。(教科書第15章、第16章)

2022年度 前期

2.0単位

経営統計学

塩出 省吾

< 授業の方法 >

講義と講義時間内演習

< 授業の目的 >

近年、ビッグデータに代表されるように統計学に関する本は話題を呼んでおり、多数の書籍が出版され、購入されている。経営学部では「マーケティング」や「経営戦略」に代表されるようにほとんどすべての分野の科目でデータを扱っている。卒業論文を作成する段階で統計分析が必要になってくるゼミが多数ある。また、就職して社会に出てからも、企業経営をより良く導くためにはデータ分析は必須不可欠なものになっている。この講義ではデータ分析に必要な基礎的知識を学ぶことが目的である。統計学は確率とは密接に関連しており、確率および周辺の知識を高校数学の学習からやり直すつもりで講義する。

< 到達目標 >

1. 不確実な社会現象を確率の概念から理解することができる。
2. この科目を学習することによってデータの現れ方の原理を理解することができる。
3. 経営データを分析するために必要な確率の原理を理解することができる。

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めますが、授業の途中でカードを配布して、最後に当日学習した内容に関連した演習問題を解いて、当日に学んだことを理解します。

< 履修するにあたって >

授業中に計算をするので平方根(ルート)計算もできる電卓を必ず持ってくる。授業を受ける前にはテキストを予習しておいてください。また、テキストの例題、演習問題や時間内に行う演習問題を繰り返して復習して下さい。授業中の飲食や私語は禁じます。

< 授業時間外に必要な学修 >

テレビや新聞・雑誌等で扱われるデータには関心を持ってください。例えば、いろいろなランキング、テレビ視聴率などいろいろなデータに関心を持ってください。

< 提出課題など >

講義と連続して演習問題で理解を深める。演習問題の正解は基本的に次回の講義の最初に前回の復習も兼ねて解説する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験60%、時間内演習40%で評価する。

< テキスト >

塩出、今野著『経営系学生のための基礎統計学 改訂版』共立出版

< 授業計画 >

第1回 経営統計学 で学ぶこと

経営統計学 で講義する内容についてシラバスを用いて説明する。

第2回 順列と組み合わせ

～リーダーの決め方とグループの作り方～

ITパスポート、公務員試験、SPIなどでもよく出題される順列・組合せについて講義する。(テキスト1.1)

第3回 可能性から確率へ

統計学の背景となる確率について講義する。(テキスト1.2)

第4回 条件付き確率とベイズの定理

条件付き確率と、それを用いたベイズの定理について講義する。(テキスト1.3)

第5回 資料の整理と第1章の章末問題

集めたデータの整理の仕方とそこから得られる意味について講義する。(テキスト1.4)

第6回 確率変数と確率分布～離散型確率分布～

離散型の確率と確率分布について講義する。(テキスト

2.1、2.2)

第7回 問題演習(1)

前半の内容に関する問題演習を行う。

第8回 中間試験

前半の内容に関する中間試験を行う。

第9回 様々な離散型確率分布

離散型確率変数も様々あるが、それらの中で主要なものについて講義する。(テキスト2.3)

第10回 連続型確率分布

個数や人数でなく、長さや量のような連続的に変化する確率変数について講義する。(テキスト2.4)

第11回 正規分布の再生性と標準正規分布

統計分析で最も基本的な確率分布である正規分布について詳しく講義する。(テキスト2.5)

第12回 正規近似

様々な確率分布がデータ数が増えれば正規分布で近似できることについて講義する。(テキスト2.6)

第13回 偏差値

異なったデータを比較するための基準値となる偏差値について講義する。(テキスト2.7)

第14回 2次元確率分布と第2章の章末問題

2種類の確率変数の関係について講義する。(テキスト2.8)

第15回 問題演習(2)

後半の内容に関する問題演習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

経営統計学

伊藤 健

<授業の方法>

講義と講義時間内演習

<授業の目的>

近年、ビッグデータに代表されるように統計学に関する本は話題を呼んでおり、多数の書籍が出版され、購入されている。経営学部では「マーケティング」や「経営戦略」に代表されるようにほとんどすべての分野の科目でデータを扱っている。卒業論文を作成する段階で統計分析が必要になってくるゼミが多数ある。また、就職して社会に出てからも、企業経営をより良く導くためにはデータ分析は必須不可欠なものになっている。この講義ではデータ分析に必要な基礎的知識を学ぶことが目的である。統計学は確率とは密接に関連しており、確率および周辺の知識を高校数学の学習からやり直すつもりで講義する。

<到達目標>

1. 不確実な社会現象を確率の概念から理解することができる。

2. この科目を学習することによってデータの現れ方の原理を理解することができる。

3. 経営データを分析するために必要な確率の原理を理解することができる。

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めますが、授業の途中でカードを配布して、最後に当日学習した内容に関連した演習問題を解いて、当日に学んだことを理解します。

<履修するにあたって>

授業中に計算をするので平方根(ルート)計算もできる電卓を必ず持ってくる。授業を受ける前にはテキストを予習しておいてください。また、テキストの例題、演習問題や時間内に行う演習問題を繰り返して復習して下さい。授業中の飲食や私語は禁じます。

<授業時間外に必要な学修>

テレビや新聞・雑誌等で扱われるデータには関心を持ってください。例えば、いろいろなランキング、テレビ視聴率などいろいろなデータに関心を持ってください。

<提出課題など>

講義と連続して演習問題で理解を深める。演習問題の正解は基本的に次回の講義の最初に前回の復習も兼ねて解説する。

<成績評価方法・基準>

定期試験60%、時間内演習40%で評価する。

<テキスト>

塩出、今野著『経営系学生のための基礎統計学 改訂版』共立出版

<授業計画>

第1回 経営統計学 で学ぶこと

経営統計学 で講義する内容についてシラバスを用いて説明する。

第2回 順列と組み合わせ

~リーダーの決め方とグループの作り方~

ITパスポート、公務員試験、SPIなどでもよく出題される順列・組合せについて講義する。(テキスト1.1)

第3回 可能性から確率へ

統計学の背景となる確率について講義する。(テキスト1.2)

第4回 条件付き確率とベイズの定理

条件付き確率と、それを用いたベイズの定理について講義する。(テキスト1.3)

第5回 資料の整理と第1章の章末問題

集めたデータの整理の仕方とそこから得られる意味について講義する。(テキスト1.4)

第6回 確率変数と確率分布~離散型確率分布~

離散型の確率と確率分布について講義する。(テキスト2.1、2.2)

第7回 問題演習(1)

前半の内容に関する問題演習を行う。

第8回 中間試験

前半の内容に関する中間試験を行う。

第9回 様々な離散型確率分布

離散型確率変数も様々あるが、それらの中で主要なものについて講義する。(テキスト2.3)

第10回 連続型確率分布

個数や人数でなく、長さや量のような連続的に変化する確率変数について講義する。(テキスト2.4)

第11回 正規分布の再生性と標準正規分布

統計分析で最も基本的な確率分布である正規分布について詳しく講義する。(テキスト2.5)

第12回 正規近似

様々な確率分布がデータ数が増えれば正規分布で近似できることについて講義する。(テキスト2.6)

第13回 偏差値

異なったデータを比較するための基準値となる偏差値について講義する。(テキスト2.7)

第14回 2次元確率分布と第2章の章末問題

2種類の確率変数の関係について講義する。(テキスト2.8)

第15回 問題演習(2)

後半の内容に関する問題演習を行う。

2022年度 後期

2.0単位

経営統計学

塩出 省吾

<授業の方法>

講義と講義時間内演習

<授業の目的>

社会にはいろいろな経営データが存在しており、その分析ができれば企業は経営をより優位に展開できる。この講義ではいろいろな統計データを分析する手法を学習する。統計データを分析するというは単にグラフを書いたり表にしたりするだけでなく、理論的背景を伴った分析により相手を納得させるものである。

具体的には経営問題をはじめとする様々な問題について、データを用いて分析する技術を修得するのが目的である。卒業論文を作成する段階で統計分析が必要になってくるゼミが多数ある。

現在、非常に注目を浴びているデータアナリスト、データサイエンティストになるための第一歩でもある。

<到達目標>

1. 具体的な例を多数用いて学習し、実際に統計手法が使えるようになる。
2. テレビや新聞・雑誌などマスコミで報告されているデータから導かれている結論が理解できる。
3. 社会に出てからデータを用いた説明ができるように、

有効な統計手法を活用することができるようになる。

<授業の進め方>

講義と演習で授業を進めます。

<履修するにあたって>

授業中に計算をするので平方根(ルート)計算もできる電卓を必ず準備すること。授業を受ける前にはテキストを予習しておいてください。また、テキストの例題、演習問題や講義に直結する演習問題を繰り返して復習して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

統計分析は経営学のさまざまな領域で用いられますので、テレビや新聞・雑誌等で扱われるデータに関心を持ってください。また、スポーツや娯楽など自分の趣味や関心のあるもので扱われているデータを、この授業で学習した統計分析を用いて分析してみてください。

<提出課題など>

講義と連続して演習問題で理解を深める。演習問題の正解は基本的に次回の講義の最初に前回の復習も兼ねて解説する。

<成績評価方法・基準>

中間試験30%、定期試験30%、講義時間内演習40%で評価する。

<テキスト>

塩出、今野著『経営系学生のための基礎統計学 改訂版』共立出版

<参考図書>

西内啓著「統計学が最強の学問である」ダイヤモンド社

西内啓著「統計学が最強の学問である[ビジネス編]」ダイヤモンド社

<授業計画>

第1回 講義概要とサンプリング

経営統計学 の講義概要を解説し、サンプリングを講義する。(テキスト3.1)

第2回 母平均の点推定

様々な平均とともに、母平均の点推定を講義する。(テキスト3.2)

第3回 母平均の区間推定

調べようとする対象(母集団)の平均値をある範囲(区間)で推定する方法を講義する。(テキスト3.3)

第4回 母平均の検定

母集団の平均値に関する主張について正しいかどうかテスト(検定)する。(テキスト3.4)

第5回 2つの母集団の推定・検定

2つの母集団を比較するための検定・推定について講義する。(テキスト3.5)

第6回 母比率の推定・検定

テレビ視聴率のような比率に関するデータの推定・検定を講義する。(テキスト3.6)

第7回 等分散の検定と分散比の推定

2つの母集団の分散が等しいかどうかを検定し、違って

いれば分散の比を推定する手法を講義する。(テキスト3.7)

第8回 中間試験

前半の内容について理解の程度を確認するための試験を行う。

第9回 分割表と独立性の検定

2種類の属性間の独立性に関する検定を講義する。(テキスト3.8)

第10回 適合度の検定

仮定している確率分布が適合しているのかに関する検定を講義する。(テキスト3.9)

第11回 相関分析

2つの属性間の相関関係について講義する。(テキスト4.1)

第12回 回帰分析

2つの属性間の回帰直線の求め方について講義する。(テキスト4.2)

第13回 符号検定

ノンパラメトリック検定の中の符号検定について講義する。(テキスト4.3.1)

第14回 ウィルコクソンの順位和検定

ノンパラメトリック検定の中のウィルコクソンの順位和検定を講義する。(テキスト4.3.2)

第15回 後半演習

後半の内容について理解の程度を確認するための演習を行う。

2022年度 後期

2.0単位

経営統計学

伊藤 健

<授業の方法>

講義と講義時間内演習

<授業の目的>

社会にはいろいろな経営データが存在しており、その分析ができれば企業は経営をより優位に展開できる。この講義ではいろいろな統計データを分析する手法を学習する。統計データを分析するというは単にグラフを書いたり表にしたりするだけでなく、理論的背景を伴った分析により相手を納得させるものである。

具体的には経営問題をはじめとする様々な問題について、データを用いて分析する技術を修得するのが目的である。卒業論文を作成する段階で統計分析が必要になってくるゼミが多数ある。

現在、非常に注目を浴びているデータアナリスト、データサイエンティストになるための第一歩でもある。

<到達目標>

1. 具体的な例を多数用いて学習し、実際に統計手法が

使えるようになる。

2. テレビや新聞・雑誌などマスコミで報告されているデータから導かれている結論が理解できる。

3. 社会に出てからデータを用いた説明ができるように、有効な統計手法を活用することができるようになる。

<授業の進め方>

講義と演習で授業を進めます。

<履修するにあたって>

授業中に計算をするので平方根(ルート)計算もできる電卓を必ず準備すること。授業を受ける前にはテキストを予習しておいてください。また、テキストの例題、演習問題や講義に直結する演習問題を繰り返して復習して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

統計分析は経営学のさまざまな領域で用いられますので、テレビや新聞・雑誌等で扱われるデータに関心を持ってください。また、スポーツや娯楽など自分の趣味や関心のあるもので扱われているデータを、この授業で学習した統計分析を用いて分析してみてください。

<提出課題など>

講義と連続して演習問題で理解を深める。演習問題の正解は基本的に次回の講義の最初に前回の復習も兼ねて解説する。

<成績評価方法・基準>

中間試験30%、定期試験30%、講義時間内演習40%で評価する。

<テキスト>

塩出、今野著『経営系学生のための基礎統計学 改訂版』共立出版

<参考図書>

西内啓著「統計学が最強の学問である」ダイヤモンド社
西内啓著「統計学が最強の学問である[ビジネス編]」ダイヤモンド社

<授業計画>

第1回 講義概要とサンプリング

経営統計学 の講義概要を解説し、サンプリングを講義する。(テキスト3.1)

第2回 母平均の点推定

様々な平均とともに、母平均の点推定を講義する。(テキスト3.2)

第3回 母平均の区間推定

調べようとする対象(母集団)の平均値をある範囲(区間)で推定する方法を講義する。(テキスト3.3)

第4回 母平均の検定

母集団の平均値に関する主張について正しいかどうかテスト(検定)する。(テキスト3.4)

第5回 2つの母集団の推定・検定

2つの母集団を比較するための検定・推定について講義する。(テキスト3.5)

第6回 母比率の推定・検定

テレビ視聴率のような比率に関するデータの推定・検定を講義する。(テキスト3.6)

第7回 等分散の検定と分散比の推定

2つの母集団の分散が等しいかどうかを検定し、違っていれば分散の比を推定する手法を講義する。(テキスト3.7)

第8回 中間試験

前半の内容について理解の程度を確認するための試験を行う。

第9回 分割表と独立性の検定

2種類の属性間の独立性に関する検定を講義する。(テキスト3.8)

第10回 適合度の検定

仮定している確率分布が適合しているのかに関する検定を講義する。(テキスト3.9)

第11回 相関分析

2つの属性間の相関関係について講義する。(テキスト4.1)

第12回 回帰分析

2つの属性間の回帰直線の求め方について講義する。(テキスト4.2)

第13回 符号検定

ノンパラメトリック検定の中の符号検定について講義する。(テキスト4.3.1)

第14回 ウィルコクソンの順位和検定

ノンパラメトリック検定の中のウィルコクソンの順位和検定を講義する。(テキスト4.3.2)

第15回 後半演習

後半の内容について理解の程度を確認するための演習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

経営分析論 【19-】 / 財務諸表分析 【-18】

島永 和幸

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識・技能を学修することを目指す。2年次配当科目の会計コース選択必修科目に属し、簿記論（基礎会計学）、簿記論（基礎会計学）の発展科目として位置づけられる。財務諸表の利用に必要な入門的な知識について学習し、その内容を説明したり、活用したりする能力を身につけることを目的とする。

< 到達目標 >

財務諸表の利用に必要な財務会計や財務諸表分析に関する入門的な知識を理解し、説明し、活用できる。(

知識)(技能)

< 授業のキーワード >

会計、財務諸表、財務諸表分析

< 授業の進め方 >

基本的に講義中心で進める。授業の進捗状況に合わせて、各回の講義内容を調整することがある。

< 履修するにあたって >

本講義を履修するにあたって、簿記論（基礎会計学）、簿記論（基礎会計学）を事前に履修しておくことをお勧めする。必要に応じて、電卓(ただし、通信・通話等の機能のあるものは除く。)を使用するので、毎回持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、テキストを読み込んでおくこと。(目安として1時間)、事後学習として、テキストの知識確認問題を解いておくこと。(目安として1時間)

< 提出課題など >

第8回目の授業で中間試験を実施する。定期試験を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

中間試験 30%、定期試験 70% で、総合的に評価する。ただし、やむを得ず、中間試験を欠席したことが証明書等で証明できる場合には、レポート課題で代替するものとする(中間試験受験者との公平性を確保するために、15%満点とする)。

< テキスト >

内藤文雄『会計学エッセンス(最新版)』中央経済社。(授業開始時に発刊されている最新版を使用する)。テキストは、授業で使用するので、余裕をもって早めに購入すること。

< 参考図書 >

桜井久勝『財務諸表分析(最新版)』中央経済社。(授業開始時に発刊されている最新版)

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準、講義の概要等を理解する。

第2回 意思決定と情報

会計情報の役立ち

テキスト 第1章「意思決定と情報」の内容を理解する。
テキスト 第2章「会計情報の役立ち」の内容を理解する。

第3回 ディスクロージャー制度

テキスト 第3章「ディスクロージャー制度」の内容を理解する。

第4回 有価証券報告書/アニュアル・レポート

テキスト 第4章「有価証券報告書/アニュアル・レポート」の内容を理解する。

第5回 貸借対照表

テキスト 第5章「貸借対照表」の内容を理解する。

第6回 損益計算書

テキスト 第6章「損益計算書」の内容を理解する。

第7回 キャッシュ・フロー計算書

株主資本等変動計算書・製造原価明細書

テキスト 第7章「キャッシュ・フロー計算書」の内容を理解する。

テキスト 第8章「株主資本等変動計算書・製造原価明細書」の内容を理解する。

第8回 中間試験

第7回までの講義内容について、中間試験を実施する。

第9回 収益性分析：ROAとROE

テキスト 第9章「収益性分析：ROAとROE」の内容を理解する。

第10回 収益性分析：CVP

テキスト 第10章「収益性分析：CVP」の内容を理解する。

第11回 成長性分析：増加率

テキスト 第11章「成長性分析：増加率」の内容を理解する。

第12回 成長性分析：売上予測

テキスト 第12章「成長性分析：売上予測」の内容を理解する。

第13回 安全性分析

テキスト 第13章「安全性分析」の内容を理解する。

第14回 IR情報の開示・分析

テキスト 第14章「IR情報の開示・分析」の内容を理解する。

第15回 企業価値の分析

本講義のまとめとふりかえり

テキスト 第15章「企業価値の分析」の内容を理解する。
本講義のまとめとふりかえりを行う。

2022年度 後期

2.0単位

経営分析論 【19-】 / 財務諸表分析 【-18】

島永 和幸

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識・技能を学修することを目指す。2年次配当科目の会計コース選択必修科目に属し、簿記論（基礎会計学）、簿記論（基礎会計学）、経営分析論（財務諸表分析）の発展科目として位置づけられる。財務諸表の利用に必要な基本的知識について学習し、その内容を説明したり、活用したりする能力を身につけることを目的とする。

< 到達目標 >

財務諸表の利用に必要な財務会計や財務諸表分析に

関する基本的知識を理解し、説明し、活用できる。（知識）(技能)

< 授業のキーワード >

会計、財務諸表、財務諸表分析

< 授業の進め方 >

基本的に講義中心で進める。授業の進捗状況に合わせて、各回の講義内容を調整することがある。

< 履修するにあたって >

本講義を履修するにあたって、簿記論（基礎会計学）、簿記論（基礎会計学）、経営分析論（財務諸表分析）を事前に履修しておくことをお勧めする。必要に応じて、電卓(ただし、通信・通話等の機能のあるものは除く。)を使用するので、毎回持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、テキストを読み込んでおくこと。（目安として1時間）、事後学習として、講義内容を復習すること。（目安として1時間）

< 提出課題など >

第8回目の授業で中間試験を実施する。定期試験を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

中間試験 30%、定期試験 70% で、総合的に評価する。ただし、やむを得ず、中間試験を欠席したことが証明書等で証明できる場合には、レポート課題で代替するものとする（中間試験受験者との公平性を確保するために、15%満点とする）。

< テキスト >

桜井久勝『財務諸表分析（最新版）』中央経済社。（授業開始時に発刊されている最新版を使用する）。テキストは、授業で使用するので、余裕をもって早めに購入すること。

< 参考図書 >

内藤文雄『会計学エッセンス（最新版）』中央経済社。（前期開講の経営分析論（財務諸表分析）で使用した最新版）

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版、2021年。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

第1章

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準、講義の概要等を理解する。

テキスト 第1章「財務諸表の役割と仕組み」の内容を理解する。

第2回 第2章

テキスト 第2章「財務諸表の入手方法」の内容を理解する。

第3回 第3章

テキスト 第3章「貸借対照表の見方」の内容を理解する。

第4回 第4章

テキスト 第4章「損益計算書の見方」の内容を理解する。
第5回 第5章
テキスト 第5章「キャッシュ・フロー計算書の見方」の内容を理解する。
第6回 第6章
テキスト 第6章「会計方針の注記」の内容を理解する。
第7回 第7章
テキスト 第7章「分析の視点と方法」の内容を理解する。
第8回 中間試験
第7回までの講義内容について、中間試験を実施する。
第9回 第8章
テキスト 第8章「収益性の分析」の内容を理解する。
第10回 第9章
テキスト 第9章「生産性の分析」の内容を理解する。
第11回 第10章
テキスト 第10章「安全性の分析」の内容を理解する。
第12回 第11章
テキスト 第11章「不確実性によるリスクの分析」の内容を理解する。
第13回 第12章
テキスト 第12章「成長性の分析」の内容を理解する。
第14回 第13章
テキスト 第13章「投資意思決定有用性」の内容を理解する。
第15回 第14章
本講義のまとめとふりかえり
テキスト 第14章「株式価値評価モデル」の内容を理解する。
本講義のまとめとふりかえりを行う。

2022年度 前期

2.0単位

経済学

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

基礎経済学I・IIに引き続いて、経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）の入門的な内容を講義します。この授業では、ミクロ経済学における供給の理論（生産者理論）を解説します。この科目では、経済分析の基本的な考え方を理解することと、様々な経済現象を経済理論に基づいて理解するための基礎的能力を養うことによって、経営学部のディプロマポリシー（DP）が示す「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および「経営の問題を総合的に分析・解析できる知

識と技能を習得する」ことを目指します。

< 到達目標 >

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

< 授業のキーワード >

ミクロ経済学

< 授業の進め方 >

講義形式

< 履修するにあたって >

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出题する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出题する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤『ミクロ経済学をつかむ』有斐閣、2006年。

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。

丸山雅祥『経営の経済学（第3版）』有斐閣、2017年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 需要曲線と供給曲線

基礎経済学I・IIで講義される内容のうち、需要曲線と供給曲線について復習します。

第3回 市場均衡理論

基礎経済学I・IIで講義される内容のうち、市場均衡理論について復習します。

第4回 余剰分析

基礎経済学I・IIで講義される内容のうち、余剰分析について復習します。

第5回 生産関数

生産関数の考え方を紹介します。

第6回 費用関数

費用関数の考え方を紹介します。

第7回 限界生産力と限界費用

数値例を用いて、費用関数を導出するとともに、その特徴を調べてみます。

第8回 微分概念

今後の分析に必要なとなる数学の解説として、微分の考え

方を紹介します。

第9回 微分の計算

今後の分析に必要な数学の解説として、微分の計算方法を紹介します。

第10回 限界分析

限界分析の考え方を紹介します。

第11回 最適生産量の分析

限界分析の考え方をを用いて、利益を最大にする生産量を分析します。

第12回 供給曲線の導出

最適生産量の分析から供給曲線を導出してみます。

第13回 独占市場の分析

独占市場を分析するモデルを紹介します。

第14回 独占市場の分析の応用

独占市場の分析を経営の問題に応用してみます。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 後期

2.0単位

経済学

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

基礎経済学I・IIに引き続いて、経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）の入門的な内容を講義します。この授業では、前半でミクロ経済学を取り扱い、後半でマクロ経済学を取り扱う予定です。具体的には、前半でミクロ経済学における需要の理論（消費者理論）の解説を行い、後半でこの理論をマクロ経済学の問題に応用してみようと思います。この科目では、経済分析の基本的な考え方を理解することと、様々な経済現象を経済理論に基づいて理解するための基礎的能力を養うことによって、経営学部のディプロマポリシー（DP）が示す「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する」ことを目指します。

< 到達目標 >

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

< 授業のキーワード >

ミクロ経済学、マクロ経済学

< 授業の進め方 >

講義形式

< 履修するにあたって >

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出题する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出题する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

H.ヴァリアン『入門ミクロ経済学（原著第9版）』勁草書房、2015年。

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。

N.G.マンキュー『マクロ経済学II：応用編（第3版）』

東洋経済新報社、2012年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 需要曲線と供給曲線

基礎経済学I・IIで講義される内容のうち、需要曲線と供給曲線について復習します。

第3回 市場均衡理論

基礎経済学I・IIで講義される内容のうち、市場均衡理論について復習します。

第4回 財市場の均衡分析

基礎経済学I・IIで講義される内容のうち、マクロ経済の財市場の均衡分析について復習します。

第5回 予算集合

消費者の予算制約の考え方を紹介します。

第6回 無差別曲線

効用関数と無差別曲線の考え方を紹介します。

第7回 様々な効用関数と無差別曲線

様々な効用関数に対して、その無差別曲線を図示してみます。

第8回 図を用いた最適消費の分析

予算制約と無差別曲線の図を用いて、最適消費を調べてみます。

第9回 今後の分析のための数学

今後の分析で用いる数学として、微分を紹介します。

第10回 微分を用いた最適消費の分析

微分を用いて限界代替率の計算を行い、最適消費を分析します。

第11回 最適消費の計算

具体的な効用関数のもとで、最適消費を計算してみます。

第12回 消費理論の経済政策への応用

消費理論の経済政策への応用を紹介します。

第13回 異時点間の消費選択

多期間における消費選択のモデルを紹介します。

第14回 リカードの定理

消費理論のマクロ経済分析への応用を紹介します。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 後期

4.0単位

経済史総論

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

第二次世界大戦後の日本経済を取り上げて、戦後の日本経済の推移を観察してみるとともに、特に高度経済成長期について、その経済の動きを経済理論に基づいて考えてみます。そのために、マクロ経済学の入門的な内容の復習から始めて、マクロ経済学のより進んだ内容もあわせて講義します。この科目では、経済分析の基本的な考え方を理解することと、様々な経済現象を経済理論に基づいて理解するための基礎的能力を養うことによって、経営学部のディプロマポリシー（DP）が示す「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」および「経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能を習得する」ことを目指します。

< 到達目標 >

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

< 授業のキーワード >

マクロ経済学、日本経済、経済史

< 授業の進め方 >

講義形式

< 履修するにあたって >

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出題しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出題する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出題する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

平口良司・稲葉大『マクロ経済学：入門の一步手前から応用まで』有斐閣、2015年。

福田慎一、照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣、2016年。

原田泰『コンパクト日本経済論』新世社、2009年。

宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之『日本経済論（ベーシック+）』中央経済社、2017年。

吉川洋『高度成長 日本を変えた6000日』中央公論新社、2012年。

< 授業計画 >

第1週 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2週 マクロ経済の測り方

マクロ経済を測るための指標として、総生産や物価指数を紹介します。

第3週 日本経済のデータ

第二次世界大戦後から現在までの日本のマクロ経済データの推移を観察してみます。

第4週 経済成長の理論

マクロ経済の長期的な成長を説明する理論を紹介します。

第5週 成長会計分析

経済成長の要因を、資本蓄積・人口増加・技術進歩に分解する成長会計分析を取り上げ、日本経済の成長会計分析を紹介します。

第6週 需要・供給と市場均衡

需要曲線と供給曲線を用いた市場の分析方法を紹介し

ます。

第7週 授業で用いる数学

この授業で用いる数学を紹介し

ます。

第8週 マクロ経済の分析枠組み

マクロ経済の総需要・総供給の均衡分析を紹介し

ます。

第9週 財市場の均衡分析

財市場の均衡分析を紹介し

ます。

第10週 貨幣市場の均衡分析

貨幣市場の均衡分析を紹介し

ます。

第11週 IS-LM分析

財市場と貨幣市場を同時に分析するIS-LM分析を紹介し

ます。

第12週 経済政策の分析

IS-LM分析のモデルを用いて、財政政策や金融政策がマ

クロ経済にどのような影響を与えるかを考えてみます。

第13週 国際貿易

外国との貿易（輸出・輸入）の大きさを決める要因を考

えてみるとともに、日本の輸出・輸入の大きさがどのよ

第15週 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 前期

2.0単位

原価計算論 【19-】 / 原価会計 【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式で授業を実施します。

< 授業の目的 >

(主題)

原価会計 は、社会で製造（生産・提供）される財（製品やサービス）の価値を測定する方法論として欠かせない個別原価会計の体系を取り扱う。原価会計は、貨幣流通社会では、不可避の知識である。原価会計を理解するためには、基礎的な計算技法の理解が不可欠である。計算技法の論理そのものは、複雑なものではなく、理解は十分に可能である。十分な理解をするためには、単に文字を追うだけでは不十分であり、実際に計算技法を活用して計算するという実践が必要である。本講義では、原価会計における個別原価計算の計算技法について修学する。

講義形式は、計算技法の説明と、計算の実践を組み合わせることが定型となり、計算技法のなかでも必要不可欠な内容に焦点を当て、計算結果を導きだすことに主眼を置く。

(目標)

基礎的な計算を実践でき、その計算過程の思想を併せて理解し、実態の経済社会で活用されている原価会計（個別原価計算）における認識観を習得することである。

< 到達目標 >

原価会計 での到達目標は、講義の内容が個別原価会計が中心となるため、基礎的な計算技法を修学し、全領域で計算問題を解けるようになることである。原価会計での計算技法の習熟が未達であると、原価会計 の履修そして単位修得が難しくなる。

< 授業のキーワード >

個別原価・製造間接費・財務諸表

< 授業の進め方 >

講義は、もっぱら計算問題の解法説明が中心であり、前半から中盤までは解説が中心である。終盤では、問題を解く作業に充てる。自力で計算問題が解けることが不可欠である。各単元は、1回の講義で完結するため、欠席すると復習が必要になる。

< 履修するにあたって >

テキスト、電卓、ノートの携帯が必須。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習には、教科書を熟読すること。

< 提出課題など >

必要性がある場合は、課すことがある。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験等の評価による。

< テキスト >

吉田康久『原価計算基礎論』中央経済社、2012年。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーリング

講義（個別原価計算）の進め方や学習方法について説明する。

第2回 勘定連絡の仕組み

製品原価を計算するための勘定の関連性を説明する。

第3回 材料費の会計（平均法）

材料の払出単価を平均法により計算する方法を説明する。

第4回 材料費の会計（先入先出法）

材料の払出単価を先入先出法により計算する方法を説明する。

第5回 材料費の会計（後入先出法）

材料の払出単価を後入先出法により計算する方法を説明する。

第6回 労務費の会計

賃金・給料を例として原価計算期間の要支払額を計算する方法を説明する。

第7回 経費の会計

原価計算期間における経費の測定・計算方法を説明する。

第8回 製造間接費の会計（配賦）

製造間接費の予定配賦の考え方と配賦計算法を説明する。

第9回 製造間接費の差異分析

予定配賦による原価差異を分類し計算する方法を説明する。

第10回 部門別計算

部門別の部門個別費と部門共通費の計算方法を説明する。

第11回 部門費の配賦（直接配賦法・相互配賦法）

補助部門費を製造部門へ配賦する直接配賦法と相互配賦法を説明する。

第12回 仕損・作業屑（個別原価計算）

完成品原価との原価的関連性の考え方と計算方法を説明する。

第13回 財務諸表の作成（手順）

製造原価報告書と損益計算書の作成手順について説明する。

第14回 財務諸表の作成（計算）

製造原価報告書と損益計算書を計算を通じて作成する方法を説明する。

第15回 総括

講義内容の再確認と問題演習を行う。

2022年度 後期

2.0単位

原価計算論 【19-】 / 原価会計 【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式で授業を実施します。

< 授業の目的 >

(主題)

原価会計 は、社会で製造（生産・提供）される財（製品やサービス）の価値を測定する方法論として欠かさない総合原価会計を取り扱う。原価会計は、貨幣流通社会では、不可避の知識である。原価会計を理解するためには、基本となる計算構造を構築している計算技法の理解が不可欠であり、その理解は十分に可能である。本講義は、原価会計 と関連性があり、先んじて原価会計を理解していることが望ましい。原価会計 と同様に、実際に計算技法を活用して計算し、原価会計における総合原価計算の計算技法について修学する。

講義形式は、計算技法の説明と、計算の実践を組み合わせることが定型となり、計算技法のなかでも必要不可欠な内容に焦点を当て、計算結果を導きだすことに主眼を置く。

(目標)

基礎的な計算を実践でき、その計算過程の思想を併せて理解し、実態の経済社会で活用されている原価会計（総合原価計算）における認識観を習得することである。

< 到達目標 >

原価会計 での到達目標は、総合原価会計を中心とした、複雑な計算技法を習得し、自ら計算問題を解ける能力を身に付けることである。それぞれの單元には、連続性があるため、理解が分断されていると、問題が解けなくなる。一連の計算体系を、網羅することが最大の目標である。

< 授業のキーワード >

工程別・組別・等級別原価計算・標準原価計算・直接原価計算

< 授業の進め方 >

講義の前半から中盤までは、計算の解法説明が中心となる。終盤は、課題を与え、自ら問題を解く作業を実施する。実施する課題解答は、講義での解法の解説を理解していれば、自力で解けるものが殆どである。講義では、図解を用いた説明を多く取り入れる。

< 履修するにあたって >

テキスト、電卓、ノートの携帯が必須。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習には、教科書を熟読すること。

< 提出課題など >

適時に課題を課す。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験等の評価による。

< テキスト >

吉田康久『原価計算基礎論』中央経済社、2012年。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義（総合原価計算）の進め方や学習方法について説明する。

第2回 月末仕掛品原価の計算（平均法）

月末仕掛品原価および完成品総合原価を平均法により算出する方法を説明する。

第3回 月末仕掛品原価の計算（先入先出法）

月末仕掛品原価および完成品総合原価を先入先出法により算出する方法を説明する。

第4回 月末仕掛品原価の計算（後入先出法）

月末仕掛品原価および完成品総合原価を後入先出法により算出する方法を説明する。

第5回 工程別総合原価計算（累加法の概要）

複数工程を‘ころがし’計算（累加法）する考え方を説明する。

第6回 工程別総合原価計算（累加法の計算）

累加法により計算する方法を説明する。

第7回 組別総合原価計算

組共通費の配賦を経由して計算する方法を説明する。

第8回 等級別総合原価計算

等価係数を用いて計算する方法を説明する。

第9回 標準原価計算の体系

標準原価計算制度の考え方や計算の仕組みについて説明する。

第10回 標準原価計算（材料費差異分析）

材料費の原価差異を分析する方法を説明する。

第11回 標準原価計算（労務費差異分析）

労務費の原価差異を分析する方法を説明する。

第12回 標準原価計算（製造間接費差異分析）

製造間接費の原価差異を分析する方法を説明する。

第13回 直接原価計算（限界利益・公式の導出）

直接原価計算に必要な公式を導出する方法を説明する。

第14回 直接原価計算（計算）

損益分岐点分析（CVP分析）の計算方法を説明する。

第15回 総括

（課題）講義内容の再確認と問題演習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

工業簿記 【19-】

吉田 康久

< 授業の方法 >

日商簿記検定合格に向けた問題の解答・解説を中心にする。

4限目の商業簿記 も必ず履修すること。

なお、コロナウイルスの状況によっては、遠隔授業を実施することもあります。

具体的には、第1回目の講義において説明する。

『工業簿記』に関する連絡先
大原学園 櫻井喜平
yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

< 授業の目的 >

ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定の受験を通じて習得していく講義である。

一般企業はもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。本講義では、製品製造業に関する工業簿記の個別原価計算を中心に学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に大変役立つ知識である。

< 到達目標 >

日商簿記検定試験2級合格レベルの計算力および簿記の基本処理を身につけることができる。

株式会社社会計の基礎についての理解を深めることができる。

< 授業のキーワード >

工業簿記、管理会計

< 授業の進め方 >

テキストを使用し講義を進める。

問題演習もおりこみながら進行する。

電卓を使用して問題演習を行う。

学生の習熟度により、下記授業計画は変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

この講義を受講するには事前に日商簿記3級レベルの知識が必要である。

簿記3級の知識があることを前提に授業は進行する。(簿記3級に合格している必要はありません。)

後期試験終了後に日商簿記検定合格の為の直前プログラムを実施する。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。

必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

自宅復習が必要である。具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、1時間程度の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中のミニテスト及び宿題等(30%)、期末試験(70%)により評価する。

< テキスト >

「ALFA2級課程 工業簿記」(テキスト、ドリル、アンサー)大原簿記専門学校

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、簿記学習の目的

簿記を学習する目的や学習の進め方、自宅復習について。

第2回 工業簿記の基礎知識、個別原価計算の記帳体系

工業簿記の考え方、記帳体系について学習する。

第3回 材料費会計

材料費会計の基礎について学習する。

第4回 材料費会計、労務費会計

材料費会計続き、労務費会計について学習する。

第5回 労務費会計

労務費会計の学習をする。

第6回 経費会計、製造間接費会計

経費会計、製造間接費会計について学習する。

第7回 製造間接費会計

製造間接費会計の差異について学習する。

第8回 部門別計算

部門別計算の記帳方法について学習する。

第9回 部門別計算

部門別計算の計算方法について学習する。

第10回 工場会計の独立

工場会計の仕訳について学習する。

第11回 単純個別原価計算

単純個別原価計算について学習する。

第12回 総合原価計算

単純総合原価計算

第13回 総合原価計算

減損および仕損

第14回 総合原価計算

減損及び仕損

第15回 総合原価計算

工程別総合原価計算

2022年度 後期

2.0単位

工業簿記 【19-】

吉田 康久

< 授業の方法 >

授業形態は対面講義で実施する。

日商簿記検定合格に向けた問題の解答・解説を中心にする。

4限目の商業簿記 も必ず履修すること。
また、この授業は前期「工業簿記」の続きである。
具体的には、第1回目の講義において説明する。

『工業簿記』に関する連絡先
大原学園 櫻井喜平
yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

<授業の目的>

ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定の受験を通じて習得していく講義である。

一般企業はもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。本講義では、製品製造業に関する工業簿記の総合原価計算を中心に学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に変役立立つ知識である。

<到達目標>

日商簿記検定試験2級合格レベルの計算力および簿記の基本処理を身につけることができる。

株式会社会計の基礎についての理解を深めることができる。

<授業のキーワード>

工業簿記、管理会計

<授業の進め方>

テキストを使用し講義を進める。問題演習もおりこみながら進行する。

電卓を使用して問題演習を行う。

学生の習熟度により、下記授業計画は変更する可能性がある。

<履修するにあたって>

この講義を受講するには前期でキャリアトレーニング特別講義を履修を前提とする。

日商簿記2級レベルの知識が必要である。簿記2級の知識があることを前提に授業は進行する。

後期試験終了後に日商簿記検定合格の為の直前プログラムを実施する。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

<授業時間外に必要な学修>

自宅復習が必要である。具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、3時間程度の復習が必要である。

<成績評価方法・基準>

授業中のミニテスト及び宿題等(30%)、期末試験(70%)

により評価する。

<テキスト>

「ALFA2級課程 工業簿記」(テキスト、ドリル、アンサー)大原簿記専門学校

前期のキャリアトレーニング特別講義で購入済みの学生は購入不要。

<授業計画>

第1回 総まとめ

問題演習

第2回 総まとめ

問題演習

第3回 総まとめ

問題演習

第4回 模試問題演習

問題演習

第5回 模試問題演習

問題演習

第6回 模試問題演習

問題演習

第7回 模試問題演習

問題演習

第8回 模試問題演習

問題演習

第9回 総まとめ

問題演習

第10回 総まとめ

問題演習

第11回 総まとめ

問題演習

第12回 総まとめ

問題演習

第13回 総まとめ

問題演習

第14回 模試問題演習

問題演習

第15回 模試問題演習

問題演習

2022年度 前期

2.0単位

国際会計論 【19-】 / 比較制度会計論 【-18】

安井 一浩

<授業の方法>

講義形式で行う。

<授業の目的>

国際財務報告基準を採用している企業において、経理担当者として業務を遂行するための基礎的な知識を修得することを目的として、この授業では国際会計基準審議会

(IASB)が公表しているIASおよびIFRSのうち重要なものについて日本の会計基準と比較を行いながらその内容について説明を行う。また公認会計士としての実務経験のある教員が、守秘義務から逸脱しない範囲で実務上の観点からの解説を行う。

<到達目標>

IFRSの諸概念および主要な論点について、業務上で必要な知識を身に着けることを目標とする。

<授業のキーワード>

国際財務報告基準、IFRS、IASB

<授業の進め方>

教科書の記述に沿って説明を行う。

なお毎回授業開始時に、前回の授業内容についての小テストを行う。

<履修するにあたって>

毎回テキストは必ず持参すること。なおIFRSsの英文版を入手しテキストと照合することが、学習を促進する手助けとなる。また下記の授業計画の内容以外に、IFRSに関する議論が生じた場合には、適宜解説を行う。そのため新聞等において報道されるIFRSの動向に常に注目することを要望する。

<授業時間外に必要な学修>

授業で取り上げたIFRSの英語版を入手してその概要を理解し、次回の小テストに備える必要がある。なおこの学習に要する時間は毎週1時間である。

<成績評価方法・基準>

授業中の小テスト60%、定期試験40%

<テキスト>

桜井久勝編著「テキスト国際会計基準」白桃書房 なお授業開始日現在の最新版とする。

<参考図書>

IFRSs

(IFRS財団のホームページ<https://www.ifrs.org/>から入手可能)

<授業計画>

第1回 会計基準の国際的コンバージェンスと概念フレームワーク

教科書第1章、第2章、第3章をもとに国際財務報告基準をめぐる近年の動き、概念フレームワークについて説明を行う。

第2回 概念フレームワーク(続き)および財務諸表

教科書第3章、第4章をもとに概念フレームワークおよび財務諸表の表示について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第3回 棚卸資産およびキャッシュ・フロー計算書

教科書第5章、第6章をもとに棚卸資産およびキャッシュ・フロー計算書について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第4回 会計方針および後発事象

教科書第7章、第8章をもとに会計方針、会計上の見積りの変更および誤謬および後発事象に関する会計について日本の会計基準と比較して説明を行う。説明を行う。

第5回 法人所得税および有形固定資産

教科書第9章、第10章をもとに法人所得税(法人税等)および有形固定資産の会計について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第6回 有形固定資産(続き)および従業員給付

教科書第10章、第11章をもとに有形固定資産および従業員給付について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第7回 政府補助金の会計および外国為替レートの変動の影響

教科書第12章、第13章をもとに政府補助金および外貨建取引の換算について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第8回 借入コストおよび関連当事者

教科書第14章、第15章をもとに借入コスト関連当事者との取引の開示について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第9回 金融商品

教科書第20章、第35章をもとに金融商品に関する会計について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第10回 金融商品(続き)および1株当たり利益

教科書第35章、第33章をもとに金融商品に関する会計について日本の会計基準と比較して説明を行う。また第21章をもとに1株当たり利益について計算例を示しながら説明を行う。

第11回 資産の減損

教科書第23章をもとに資産の減損について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第12回 引当金、偶発負債および偶発資産

教科書第24章をもとに引当金、偶発負債および偶発資産について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第13回 無形資産

教科書第25章をもとに無形資産について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第14回 農業およびIFRSの初度適用

教科書第27章、第28章をもとに農業およびIFRSの初度適用に関する会計について日本の会計基準と比較して説明を行う。

第15回 事業セグメントおよび公正価値測定

教科書第34章、第39章をもとに事業セグメント(セグメント情報)および公正価値測定について日本の会計基準と比較して説明を行う。

2022年度 後期

2.0単位

国際会計論 【19-】 / 比較制度会計論 【-18】

安井 一浩

< 授業の方法 >
講義形式で行う。

< 授業の目的 >
この授業では、国際簿記検定（BATIC）のテキストに基づいて英文簿記における仕訳、勘定科目、帳簿記入および会計基準の考え方、諸概念について、日本の簿記と対比しながら説明を行う。最終的には外資系企業、在外子会社など英文簿記を導入している企業において、経理担当者とし勤務するときに必要と思われる知識を修得することを目的としている。なお本授業では公認会計士としての実務経験のある教員が、守秘義務を逸脱しない範囲で適宜、実務的な観点に基づく説明を適宜行う。

< 到達目標 >
最終的には東京商工会議所主催の国際会計検定（BATIC）初級レベルの知識を修得することを目標とする。

< 授業のキーワード >

英文簿記、BATIC

< 授業の進め方 >

教科書の記述に沿って説明を行う。
なお毎回授業開始時に、前回の授業内容についての小テストを行う。

< 履修するにあたって >
毎回、テキストおよび英和辞典（電子辞書でもよい）を用意すること。なお指示に応じて電卓を用意すること。また関連する参考書の問題を解くことがより理解を深め学習の効果を促進できる手段となる。

< 授業時間外に必要な学修 >
授業の復習として毎回の内容に関して教科書を読み直すとともに、授業中に行った演習問題を解きなおし次回の小テストに備えること。なおこの学習に必要な時間は毎週1時間である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の小テスト60%、定期試験40%

< テキスト >

東京商工会議所編「国際会計検定BATIC公式テキスト英文簿記」中央経済社。なお授業開始日現在における最新版とする。

< 参考図書 >

東京商工会議所編「国際会計検定BATIC 問題集 英文簿記」中央経済社。なお授業開始日現在における最新版とする。

< 授業計画 >

第1回 会計と簿記の基本概念

複式簿記の基本原則、会計等式、勘定科目、T勘定について英文の表現を交えて説明する。

第2回 取引と仕訳その1

代表的な取引の仕訳について英文の表現を交えて説明する。

第3回 取引と仕訳その2

代表的な取引の仕訳について英文の表現を交えて説明する。

第4回 取引と仕訳その3

代表的な取引の仕訳について英文の表現を交えて説明する。

第5回 仕訳と元帳その1

英文による各種仕訳帳および元帳の記入について例題をもとに説明を行う。

第6回 仕訳と元帳その2

英文による各種仕訳帳および元帳の記入について例題をもとに説明を行う。

第7回 試算表および決算締切仕訳その1

試算表の構造、作成方法および決算締切仕訳について説明を行う。

第8回 決算締切仕訳その2

決算締切仕訳について説明を行う。

第9回 決算締切仕訳その3

決算締切仕訳について説明を行う。

第10回 財務諸表の構造

財務諸表の構造および各科目等について日本語の表現と英文の表現とを対比しながら説明する。

第11回 精算表の構造と会計サイクル

精算表の構造について説明を行う。また塊茎サイクルの概念とその構成要素についても説明を行う。

第12回 会計の諸概念その1

会計の諸概念について英文の表現をまじえながら説明する。

第13回 会計の諸概念その2

会計の諸概念について英文の表現をまじえながら説明する。

第14回 内部統制

内部統制の考え方及び仕組みについて、簿記の実務と関連付けて説明を行う。

第15回 復習

帳簿記入に関する総合問題を解き、これまでの内容の総合的な復習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

国際経営論

藤原 由紀子

< 授業の方法 >

講義（対面）

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに掲げられている現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学習することを目指している。この科目は経営・商学コースの選択必修科目に位置付けられており、国際経営論、異文化マネジメント論への導入科目に位置づけられる。

本講義では製造企業に焦点を当てて、日本企業の経営の国際化がどのような理由から、どのような経過を辿って進展したのか、また外国企業と比べて日本企業の国際経営に特徴的な点は何かについて学ぶ。製造企業の主たる活動である生産や販売、製品の開発や新技術の研究、原材料や部品の調達が国境を越えて行われるようになったとき、経営の国際化が始まる。そして、そこで行われる経営活動を国際経営と言う。

本講義での学修を通じて、新聞やニュースで見聞きする実際の企業の国際経営上の行動や意思決定に関心を持ち、その内容を理解できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

1. 海外直接投資の理論について、説明できる。
2. 外国為替の変動が日本企業の輸出に及ぼす影響を説明できる。
3. 日本企業による海外生産の進展やその要因について、東南アジア地域、欧米地域に分けて、過去から現在に向かって説明できる。
4. 国際マーケティングを実施する際の課題について説明できる。
5. 国際経営に関する基本的な用語や指標の意味を説明できる。
6. 輸出比率を計算することができる。
7. 学んだ事柄に関する新聞記事を探して要約したり解釈したりすることができる。

< 授業のキーワード >

企業活動の国際化、外国政府の政策の影響、国際経営戦略、海外生産、輸出

< 授業の進め方 >

講義中心で進めます。ときどき、受講生に質問を投げかけることによって考えを促したり、意見を求めることがあります。

< 履修するにあたって >

企業経営の実際を知るために新聞を読んだり、良質のテレビ番組を見るなどしてください。

また、自分で考える癖をつけてください。

質問を含めて、発言を歓迎します。ただし、私語は真剣に授業を聞きたい人、また講義をする側にとっても大変迷惑ですので、謹んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学んだ知識を実際の企業活動と結び付けて理解することが大切です。

・事後学習として、教科書を読んで、講義で学んだ内容を再確認すること。（目安として30分）

・出来る限り毎日、新聞の経済面を読み、企業の国際経営活動の実際について把握すること。（目安として30分）

・良質のテレビ番組を視聴するなどして、実際の企業活動を知るように心掛けてください。

・中間テスト実施後は、回答できなかった箇所について、該当するプリントや教科書を丹念に読んで振り返りをしておくこと。（目安として2時間）授業中にも解説しますが、直後に自分で学習することがもっとも効果があります。

< 提出課題など >

< 成績評価方法・基準 >

中間テスト（50点）、期末テスト（50%）で評価する。

< 参考図書 >

中川功一・林正・多田和美・大木清弘著 『はじめての国際経営』 有斐閣。

< 授業計画 >

第1回 国際経営活動とは

- ・授業の進め方、評価の仕方、テキストについて
- ・国際経営活動の概略について説明する。

第2回 多国籍企業の経営とは

企業はなぜ海外進出しようとするのか。また海外進出する際に企業が直面する自国との隔たりについて、CAGEフレームワークを使って理解する。

第3回 海外進出の形態と海外直接投資

海外進出の形態である輸出、海外直接投資、ライセンスングについて学ぶ。海外直接投資と海外間接投資の違いを理解する。

第4回 海外直接投資の理論1

国境を越えて経営活動を行おうとすると、企業はさまざまな困難に直面する。それにもかかわらず、企業はなぜ

国際化するのか。また、どのような企業がどのような国にどのような形態で進出するのだろうか。ここでは、これらを説明する理論について学ぶ。

第5回 海外直接投資の理論2

国境を越えて経営活動を行おうとすると、企業はさまざまな困難に直面する。それにもかかわらず、企業はなぜ国際化するのか。また、どのような企業がどのような国にどのような形態で進出するのだろうか。ここでは、これらを説明する理論について学ぶ。

第6回 為替変動の輸出入への影響

海外市場に自社の製品を供給する方法の第一段階である輸出を取り上げ、円高が日本の輸出企業に及ぼす影響について学ぶ。

第7回 為替変動の輸出入への影響2

プラザ合意後の円高によって、日本企業がどのように国際経営戦略を変化させたのかを学ぶ。

第8回 輸出から海外生産へ - 国際経営戦略の変化

海外市場に自社の製品を供給する第2段階である現地生産について理解する。企業が輸出に加えて海外生産を行うようになる理由や国際分業の状況について学ぶ。

第9回 東南アジア諸国の政策と日本企業の国際経営戦略の変化1

国際経営に関する日本企業の戦略は、進出先の国の政策によって影響を受けている。ここでは、東南アジア諸国で日本企業が輸出から現地生産へと製品の供給形態を変えていった経緯を、現地政府の政策との関係から学ぶ。

第10回 東南アジア諸国の政策と日本企業の国際経営戦略の変化2

国際経営に関する日本企業の戦略は、進出先の国の政策によって影響を受けている。ここでは、東南アジアで現地生産を開始した日本企業が、その後の東南アジア諸国の政策の変更により、どのように海外拠点の位置づけを変えて行ったのかを学ぶ。

第11回 欧米諸国の政策と日本企業の国際経営戦略

国際経営に関する日本企業の戦略は、輸出先の国の政策によって影響を受けている。ここでは、欧米諸国の政策によって日本企業が輸出から海外生産へと現地市場への製品の供給方法を変えていった経緯と、その後の政策により日本企業がどのように戦略を変化させて行ったのかを理解する。

第12回 輸出マーケティング

日本企業の輸出マーケティングの特徴を輸出製品、輸出先の2つの観点から理解する。また、日本企業の主たる輸出経路が、間接輸出から直接輸出へと変化した理由を、輸出製品の変化と輸出企業の内部要因の変化から考える。

第13回 国際マーケティング1

国境を越えてマーケティング活動を行う際に考えなければ

ならない「現地化」と「標準化」の概念と、それぞれのメリットと限界について学ぶ。

第14回 国際マーケティング2

事例から国際マーケティングについて学ぶ。

第15回 総括

これまでの学修内容について振り返る。

2022年度 後期

2.0単位

国際経営論

藤原 由紀子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、経営学部のDPに掲げられている現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学習することを目指している。この科目は経営・商学コースの選択必修科目に位置付けられており、国際経営論を受講していることが望ましい。

本講義では、日本企業が海外子会社をどのように経営しているのかについて学ぶ。特に、日本企業の生産システムや経営システムの特徴と、それらの海外子会社への移転、日本的な生産や経営を海外で実施するうえでの課題、近年の製品の設計アーキテクチャがインテグラル型からモジュール型へと変化しているが、その変化が日本企業の国際競争力に及ぼしている影響、経営組織と海外子会社への出資戦略という観点から見た海外子会社のマネジメントのあり方、について学ぶ。

本講義での学修を通じて、新聞やニュースで見聞きする実際の企業の国際経営上の行動や意思決定に関心を持ち、その内容を理解できるようになることを目的とする。

<到達目標>

- ・日本的生産システムとその海外移転の特徴、課題について説明できる。
- ・モジュール型の製品の増加が日本企業の競争力に及ぼす影響とそのような影響を及ぼす理由について説明できる。
- ・日本企業による海外子会社のマネジメントの特徴について説明できる。
- ・多国籍企業による海外子会社への出資割合について、その所有戦略の観点から説明できる。
- ・国際経営の進展状況と組織構造の関わりについて説明できる。

<授業のキーワード>

日本的生産システム、海外移転、製品のアーキテクチャ、

日本企業のものづくり、所有形態

< 授業の進め方 >

講義中心で進めます。ときどき、受講生に質問を投げかけることによって考えを促したり、意見を求めることがあります。

< 履修するにあたって >

国際経営論を受講していない場合には、参考書もしくは国際経営の基礎的なテキストの前半部分を読んでおいて下さい。授業の理解がしやすくなります。

質問は歓迎します。

私語は真剣に授業を聞きたい人、また講義をする側にとっても大変迷惑ですので、謹んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞を読んだり良質のテレビ番組を見るなどして、授業で学んだ知識への理解を深めたり、現実の企業活動への関心を高めてください。授業で学んだ知識を実際の企業活動と結び付けて理解することが大切です。

・事後学習として、授業中の小テストに取り組んで理解が不十分だったと思う箇所について、配布資料を読み返すこと。読んでも理解が難しいところ、聞きそびれたところについては、参考書を活用してください(目安として1時間弱)。授業直後に自分で学習することが、もっとも効果的です。

・出来る限り毎日、新聞の経済面を読み、企業の国際経営活動の実際について把握してください(目安として30分)

< 提出課題など >

< 成績評価方法・基準 >

授業中の提出物(20%)、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)で評価する。

< 参考図書 >

中川功一・林正・多田和美・大木清弘著 『はじめての国際経営』 有斐閣。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨ

授業の進め方、評価の仕方、テキストについて説明する国際経営論で学んだ日本企業の海外生産の進展について振り返る。

第2回 日本的生産システムとは

アメリカ企業と比較しながら、日本企業のものづくりの特徴を生産設備、組織風土、生産管理の観点から学ぶ。

第3回 日本的生産システムの海外移転

日本とは従業員の定着率や考え方の異なる海外子会社に日本的生産システムをどの程度、移転するのか。またど

うやって移転するのか。日本的生産システムの海外移転に際して日本企業が直面している課題と各企業の工夫について学ぶ。

第4回 トヨタ自動車とゼネラル・モーターズの合併企業NUMMIへのトヨタ生産システムの移転-1

トヨタ自動車がアメリカの自動車メーカーのゼネラル・モーターズと合併でつくった海外子会社のNUMMIに対して、どのようにしてトヨタ生産システムを移転していったのかを成果、問題点、労働組合の関係なども含めて学ぶ。

第5回 トヨタ自動車とゼネラル・モーターズの合併企業NUMMIへのトヨタ生産システムの移転-2

トヨタ自動車がアメリカの自動車メーカーのゼネラル・モーターズと合併でつくった海外子会社のNUMMIに対して、どのようにしてトヨタ生産システムを移転していったのかを成果、問題点、労働組合の関係なども含めて学ぶ。

第6回 日本企業の技術移転と海外での研究開発

日本企業の海外子会社への技術移転の特徴と課題、海外での研究開発業務の広がりについて学ぶ。

第7回 トヨタ自動車の生産システムの海外移転

世界中でトヨタ式のものづくりを展開するうえで、トヨタ自動車はどのような課題を抱えているのか、また課題に対してどのような対策を講じているのかについて学ぶ。

第8回 トヨタ自動車の事例から考える

自社のものづくりを海外に展開するうえでトヨタ自動車を抱えている課題についての動画を視聴する。この内容をもとに、日本的生産システムを海外に展開していくうえで日本企業が直面する課題と対策について考える。

第9回 モジュール型製品とは

近年、モジュール型の製品が増加している。モジュール型とは何か、モジュール型製品の代表にはどのようなものがあるのかを、インテグラ型との対比しながら学ぶ。

第10回 モジュール型製品の増加と新興企業の台頭
近年増加しているモジュラー型の製品の分野に新興企業が参入し、追いついて来ている。なぜ、そのようなことが可能なのかを学ぶ。

第11回 モジュール型製品の台頭の中での日本企業
モジュラー型製品が増加するなかで、なぜ日本企業の競争力が低下しているのかを、日本企業が得意とするものづくりの特徴から学ぶ。

第12回 海外子会社のマネジメント

ー海外子会社への出資比率

の視点から

親会社の海外子会社への出資比率は、どのような要因から決まるのか。また、日本企業の海外子会社への出資戦略が時代とともにどのように変化していったのか、その

理由について学ぶ。

第13回 海外子会社のマネジメント

ー海外子会社への出資比率

事例紹介

現地企業と日本企業がどのようにかかわりあいながら、現地での経営が行われているのかをDVDの視聴を通じて考える。

第14回 海外子会社のマネジメント

ー組織構造の視点から

多国籍企業は、国際経営活動をどのように管理（マネジメント）しているのだろうか。企業の国際経営滑動は輸出から始まり、海外子会社での生産（海外生産）へと発展していく。ここでは、このようなプロセスのなかで親会社はどのような組織構造を採ることで海外子会社をコントロールしてきたのか、について学ぶ。

第15回 総括

これまでの講義内容について振り返る。

2022年度 前期

2.0単位

国際経済学

岸脇 誠

----- < 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

現在の国際経済では資本や労働力の国境を越えた移動が活発化するとともに、貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって世界における経済的な結びつきがますます深まっている。この授業では、国際経済を理解するために必要な基礎理論を習得し、現状分析を行う。その内容は、経営学部のディプロマ・ポリシーの「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」という点に対応している。

< 到達目標 >

国際経済に関する基礎理論を習得し、具体的なデータをもとに実証分析ができるようになること。

< 授業のキーワード >

比較優位、直接投資、関税政策、非関税障壁、市場統合、貿易自由化

< 授業の進め方 >

基本的に講義を中心として進める。ただし、具体的なデータに基づいた実証分析を行う等、演習の要素も兼ね備えている。

< 履修するにあたって >

普段から新聞やニュース等を通して国際経済や貿易に関する情報を収集し、論点を整理しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

その日の授業内容を具体的な事例に照らし合わせて確認する復習が必要である。また、参考書で次回の学習内容を予習することも重要である。

< 提出課題など >

必要に応じて授業の中で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業時間内に実施する小テスト50%、中間テスト25%、期末テスト25%で採点する。

< テキスト >

必要に応じてプリントを配布する。

< 参考図書 >

石川城太、棕寛、菊地徹 『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣、2013年。

中西訓嗣 『国際経済学 国際貿易編』ミネルヴァ書房、2013年。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方について説明した上で、国際経済学の全体像について学習する。

第2回 比較優位

貿易の基礎理論であるリカード・モデルとヘクシャー＝オリーン・モデルについて学習する。

第3回 規模の経済と貿易

規模の経済性に従って決まる産業内貿易のパターンについて学習する。

第4回 直接投資と貿易

直接投資の貿易効果（輸出代替効果、輸出転換効果、輸出誘発効果）について学習する。

第5回 貿易政策の経済効果(1)

最も一般的な貿易政策である関税政策について学習する。

第6回 貿易政策の経済効果(2)

輸入割当、生産補助金、輸出補助金といった非関税障壁について学習する。

第7回 不完全競争と貿易政策(1)

独占が存在する不完全競争下の貿易政策について学習する。

第8回 不完全競争と貿易政策(2)

小国と大国の場合に分けて、関税や輸入割当の効果について学習する。

第9回 戦略的貿易政策(1)

複占競争下における戦略的貿易政策について学習する。

第10回 戦略的貿易政策(2)

企業間に戦略的な関係がある市場において、政府の貿易政策がどのような影響をもたらすかについて学習する。

第11回 市場統合(1)

自由貿易協定や関税同盟といった地域貿易協定について学習する。

第12回 市場統合(2)

市場統合の経済効果について学習する。

第13回 貿易自由化(1)

貿易自由化の経済効果について学習する。

第14回 貿易自由化(2)

市場の失敗、取引費用等によって保護貿易が選択される理由について学習する。

第15回 総括

15回の講義で学んだ内容を総復習し、発展的な学習課題を提示する。

2022年度 後期

2.0単位

国際経済学

浅居 孝彦

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

「国際経済学」では、国際金融の基礎的な知識を身につけることを目的としている。具体的には、外国為替、国際収支に関する基礎的な概念・理論、国際金融の制度的枠組みとその歴史・現状について学習する。加えて、金融のグローバル化が進展するなかで起こった通貨危機、金融危機についても解説する。

この科目は、経営学部がDPに掲げる「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことを目指す。

< 到達目標 >

国際金融の基礎的な知識を習得した上で、(国際金融に関する)現実の経済問題・動向について自らの見解を示すことができる。

< 授業のキーワード >

外国為替市場、外国為替相場、国際金融市場、国際収支、国際通貨制度、通貨・金融危機

< 授業の進め方 >

基本的に講義中心で進めるが、授業内に理解度確認のための問題演習を行う。

< 履修するにあたって >

「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「国際経済学」を履修済みであることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内に実施する演習問題を理解できるまで繰り返し復習すること。理解できない内容については、次回の授業時に質問できるように質問内容の整理をしておくこと。復習と質問内容の整理のために、1?2時間程度の事後学習をすることが望ましい。

< 提出課題など >

課題の説明・指示は授業内に行う。問題演習・課題の提出にはdotCampusを利用する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内課題(40%)、授業内試験(60%)で評価する。

< テキスト >

テキストは指定しないが、必要に応じて下記の参考図書を読むこと。

* 資料は下記のOneDrive上にアップロードする。

< 参考図書 >

佐々木百合[2017]『国際金融論入門』新世社。

飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩 [2017]『身近に感じる国際金融』有斐閣。

永易淳・江阪太郎・吉田裕司 [2015]『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣。

秦忠夫・本田敬吉・西村陽造 [2012]『国際金融のしくみ(第4版)』有斐閣。

* 上記以外の参考図書については適宜授業時に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

「国際経済学」で学習する内容について説明する(授業の進め方、学習の仕方、成績評価の方法についての説明を含む)。

第2回 外国為替のしくみ

外国為替・対外決済のしくみを学習する。

第3回 外国為替市場と外国為替取引

外国為替市場のしくみと外国為替取引の種類について学習する。

第4回 国際金融市場

国際金融市場の目的とデリバティブ取引について学習する。

第5回 国際収支統計

国際収支の概念・枠組みを学習する。

第6回 為替相場と国際収支

為替相場の変動が貿易収支に及ぼす影響、為替相場と国際資本移動の関係について学習する。

第7回 為替相場の決定理論(1)

購買力平価説について学習する。

第8回 為替相場の決定理論(2)

金利平価説について学習する。

第9回 国際通貨制度

国際通貨制度の役割、基軸通貨の成立要件について学習する。

第10回 国際通貨制度(1)

金(為替)本位制のしくみと問題点について学習する。

第11回 国際通貨制度(2)

ブレトンウッズ体制のしくみと問題点について学習する。

第12回 国際通貨制度(3)

変動相場制の問題点、増大する国際資本移動の状況について学習する。

第13回 アジア通貨危機

アジア通貨危機の背景・メカニズムについて学習する。

第14回 世界金融危機

世界金融危機の背景・メカニズム、金融危機の世界経済

第9回 Chapter 4
Housework
第10回 Chapter 4
Housework
第11回 Chapter 5
After Work
第12回 Chapter 5
After Work
第13回 Chapter 6
At Night
第14回 Chapter 6
At Night
第15回 達成度チェック
達成度テスト

2022年度 後期

2.0単位

コミュニケーション英語 【1年次生限定】

山本 誠子

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目では、「聞いてわかる語彙」の習得と発音練習を中心に授業を進めます。

・「知っている単語なのに聞き取れない」と思ったことはありませんか？実際の連続音声の中では様々な変化が起こるからです。音のかたまり(chunk)がどのように聞こえてくるかということに慣れることが必要です。

・英語で何か表現しようと思っても、発音が気になって口がよく回らないと思ったことはありませんか？日本語で話すとき、私たちはいちいち口の動きに注意を払いません。母語の発音は「自動化」されているからです。英語で話すときにも口がスムーズに動くように（なるべく自動化に近づくように）、「筋トレ」を行います。その訓練方法の1つとして、発音評価ソフト「GlobalvoiceCALL」に録音をして判定結果を提出してもらいます。これら2つの訓練は、相互に関係しています。聞き取ることができる語句は発音しやすくなり、発音がなめらかになれば、自分が発する音が聞き取りの入力になって、より強固な音のイメージが頭の中にできあがるのです。

・この科目は、専門語学の中で、リスニング・スピーキングの基礎科目と位置づけられています。日常語彙の聞き取りと発音練習を土台にして、スピーキング中心の「コミュニケーション英語」「コミュニケーション英語」で発信する力を身につけてください。

・この科目は、経営学部ディプロマポリシー第4項「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」に関わっています。

< 到達目標 >

日常会話で使用する語句を聞き取り、発音することができる。

英文を、英語らしいリズム・イントネーションで発音することができる。

< 授業のキーワード >

日常会話、リスニング、発音

< 授業の進め方 >

各Chapterの英文について、習得すべき語句とそのリスニングの問題点を説明します。その後、発音練習をしたら、ポイントとなる文を発音評価ソフトに録音し、その結果を提出します。授業の始めに、英語音声の聞き取りのポイントごとにリスニングテストを実施します。学期中に、録音課題を3回実施し、担当者が採点してコメントします。発音が難しいと思われる部分については、口の形や舌の動きを自身のスマートフォン等で録画し、その動画を提出してもらいます。映像を利用して、自分で自分の問題点を発見することができるように作業します。

< 履修するにあたって >

受講人数制限科目ですので、指定された期間に手続きを行ってください。教材配布や小テストの一部を学内のe-learningシステムを使用して行いますので、基本的なコンピュータのスキルが必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

小テストや録音課題の準備、および自習教材実施のための学習時間（合計およそ15時間）が必要です。

< 提出課題など >

・発音評価結果 ・録音した音声ファイル

< 成績評価方法・基準 >

リスニングテスト15%、発音評価結果15%、録音音声30%、達成度テスト25%、自習教材15%で評価します。

授業形態が遠隔になった場合、評価対象や割合が変更になる可能性があります。

< テキスト >

「起きてから寝るまで英会話口慣らし練習帳」（アルク）1,800円＋税

< 参考図書 >

究極の英語リスニング Vol.1 / Vol.2 / Vol.3 (アルク)

究極の英語ディクテーション Vol.1 / Vol.2 (アルク)
英単語・熟語ダイアログBasic1200(三訂版) 秋葉利治・森秀夫著 旺文社

速読速聴・英単語 Daily 1500 ver.3 松本茂監修 Z会

< 授業計画 >

第1回 導入

授業ガイダンス+英語音声の特徴について

第2回 導入

発音評価に関する説明 自習教材の説明 リスニングクイズ

第3回 Chapter 1

In the Morning
 第4回 Chapter 1
 In the Morning
 第5回 Chapter 2
 On the Way to the Office
 第6回 Chapter 2
 On the Way to the Office
 第7回 Chapter 3
 At the Office
 第8回 Chapter 3
 At the Office
 第9回 Chapter 4
 Housework
 第10回 Chapter 4
 Housework
 第11回 Chapter 5
 After Work
 第12回 Chapter 5
 After Work
 第13回 Chapter 6
 At Night
 第14回 Chapter 6
 At Night
 第15回 達成度チェック
 達成度テスト

 2022年度 後期
 2.0単位
 コミュニケーション英語
 トーパート, A . C .

 < 授業の方法 >
 This class (講義) will be taught in English.
 < 授業の目的 >
 This course is designed to inspire students to discuss issues raised in short, up-to-date reading passages. Students will have many opportunities to improve their listening and speaking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.
 < 到達目標 >
 Students will be able to learn how to discuss modern topics improve their English skills at their own pace.
 < 授業のキーワード >
 Speaking, Culture, Writing, Listening
 < 授業の進め方 >
 Typing practice is advised. Learning how to use MS Word and Powerpoint is also important.

< 授業時間外に必要な学修 >
 Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.
 < 成績評価方法・基準 >
 Visits to English Plaza will be required in order to pass the class. Participation and homework will count for 75% of the grade. Projects and reports will be 25%.
 < テキスト >
 "Reading Pass Intro" (2013) Andrew E. Bennett, Nan 'un-do, ISBN 978-4-523-17720-3
 < 授業計画 >
 Weeks 1-5 Business
 Using English to learn about science, food and sports.
 Weeks 6-10 Culture
 Consider how lifestyles lead to longer lives, and how people participate in society.
 Weeks 11-15 Modern Businesses
 Examine how businesses are changing and the effect on people around the world.

 2022年度 前期
 2.0単位
 コミュニケーション英語
 トーパート, A . C .

 < 授業の方法 >
 This class (講義) will be taught in English.
 < 授業の目的 >
 This class is designed to inspire students to discuss issues raised in short, up-to-date reading passages. Students will have many opportunities to improve their listening and speaking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.
 < 到達目標 >
 Students will be able to learn how to discuss modern topics improve their English skills at their own pace.
 < 授業のキーワード >
 Speaking, Culture, Writing, Listening
 < 授業の進め方 >
 Typing practice is advised. Learning how to use MS Word and Powerpoint is also important.
 < 授業時間外に必要な学修 >
 Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.
 < 成績評価方法・基準 >

Visits to English Plaza will be required in order to pass the class. Participation and homework will count for 75% of the grade. Projects and reports will be 25%.

<テキスト>

"Reading Pass 1 (2nd Edition)" (2015) Andrew E. Bennett, Nan'un-do, ISBN 978-4-523-17774-6

<授業計画>

Weeks 1-5 Sports and the Internet

Using English to learn about Internet communities, teleworking, e-books and sports.

Weeks 6-10 Culture and Volunteerism

Consider how lifestyles in different countries vary. Learn about international music and destinations.

Weeks 11-15 Modern Transport and Lifestyles

Examine how high-speed trains are becoming more common around the world. Consider how family structures are changing.

2022年度 前期

2.0単位

コミュニケーション英語

トーパート, A . C .

<授業の方法>

This class (講義) will be taught in English.

<授業の目的>

This class is designed to inspire students to discuss issues raised in short, up-to-date reading passages. Students will have many opportunities to improve their listening and speaking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.

<到達目標>

Students will be able to learn how to discuss modern topics improve their English skills at their own pace.

<授業のキーワード>

Speaking, Culture, Writing, Listening

<授業の進め方>

Typing practice is advised. Learning how to use MS Word and Powerpoint is also important.

<授業時間外に必要な学修>

Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.

<成績評価方法・基準>

Visits to English Plaza will be required in order to pass the class. Participation and homework will

count for 75% of the grade. Projects and reports will be 25%.

<テキスト>

"Reading Pass 1 (2nd Edition)" (2015) Andrew E. Bennett, Nan'un-do, ISBN 978-4-523-17774-6

<授業計画>

Weeks 1-5 Sports and the Internet

Using English to learn about Internet communities, teleworking, e-books and sports.

Weeks 6-10 Culture and Volunteerism

Consider how lifestyles in different countries vary. Learn about international music and destinations.

Weeks 11-15 Modern Transport and Lifestyles

Examine how high-speed trains are becoming more common around the world. Consider how family structures are changing.

2022年度 前期

2.0単位

コミュニケーション英語

トーパート, A . C .

<授業の方法>

This class (講義) will be taught in English.

<授業の目的>

This class is designed to inspire students to discuss issues raised in short, up-to-date reading passages. Students will have many opportunities to improve their listening and speaking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.

<到達目標>

Students will be able to learn how to discuss modern topics improve their English skills at their own pace.

<授業のキーワード>

Speaking, Culture, Writing, Listening

<授業の進め方>

Typing practice is advised. Learning how to use MS Word and Powerpoint is also important.

<授業時間外に必要な学修>

Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.

<成績評価方法・基準>

Visits to English Plaza will be required in order to pass the class. Participation and homework will count for 75% of the grade. Projects and reports will be 25%.

< テキスト >

"Reading Pass 1 (2nd Edition)" (2015) Andrew E. Bennett, Nan'un-do, ISBN 978-4-523-17774-6

< 授業計画 >

Weeks 1-5 Sports and the Internet
Using English to learn about Internet communities, teleworking, e-books and sports.

Weeks 6-10 Culture and Volunteerism
Consider how lifestyles in different countries vary. Learn about international music and destinations.

Weeks 11-15 Modern Transport and Lifestyles
Examine how high-speed trains are becoming more common around the world. Consider how family structures are changing.

2022年度 後期

2.0単位

コミュニケーション英語
ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, culture, and topics that will help increase speaking ability using a variety of methods such as: conversational English, public speaking, role playing, and debate. Course content will be taught using class discussion, pair work, worksheets, and group oral presentations.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, English conversational ability, and improve their English public speaking skills.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to use English language media, skim for documents for information in English, and formulate an argument in English.

< 授業のキーワード >

Conversation, CALL, Oral Presentation, Role Playing

< 授業の進め方 >

This course will use in-class activities, vocabulary tests, worksheets, and oral presentations to instruct students.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Studying for vocabulary tests, preparing for oral presentations and group projects

< 提出課題など >

Students will be required to submit practice recordings of oral presentations prior to the presentation due date

< 成績評価方法・基準 >

Class participation 60%, Worksheets 20%, Oral Presentation 20%

< テキスト >

No textbook is necessary. All course material will be handed out in class.

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-6 Problem Solving

Learning how to use language to solve problems

Week 7-10 Cooperation

Learning how to use language to cooperate with group members

Weeks 11-14 Debate

Learning how to detect logical fallacies using debate

Week 15 Group Presentations

Groups will present on what they have learned throughout the semester

2022年度 後期

2.0単位

コミュニケーション英語
トーバート, A. C.

< 授業の方法 >

This class (講義) will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class is designed to inspire students to use critical thinking on a wide variety of topics. The main methodology will be the use of video, followed by discussion. Students will have many opportunities to improve their listening and speaking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.

< 到達目標 >

Students will be able to learn how to discuss modern topics improve their English skills at their own pace.

< 授業のキーワード >

Speaking, Culture, Writing, Listening

< 授業の進め方 >

Typing practice is advised. Learning how to use MS Word and Powerpoint is also important.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.

< 成績評価方法・基準 >

Visits to English Plaza will be required in order to pass the class. Participation and homework will count for 75% of the grade. Projects and reports will be 25%.

< テキスト >

"Expanding Horizons CEFR A2-B1" (2021) Charles Brown and Yuji Tanabe, Nan'un-do, ISBN 978-4-523-17921-4 C0082

< 授業計画 >

Weeks 1-5 Holidays, Soccer, Travel and Inventions
Learn about and discuss international travel destinations. Think about how sports and culture mix.

Weeks 6-10 Culture, Sports, Family and Free Time
Consider how Japanese culture is similar and different to other cultures. Learn about new sports and destinations.

Weeks 11-15 People, Food, Art, Family and Jobs
Examine how ideas of beauty, food and art are part of today's society.

2022年度 後期

2.0単位

コミュニケーション英語

トーパート, A . C .

< 授業の方法 >

This class (講義) will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class is designed to inspire students to use critical thinking on a wide variety of topics. The main methodology will be the use of video, followed by discussion. Students will have many opportunities to improve their listening and speaking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.

< 到達目標 >

Students will be able to learn how to discuss modern topics improve their English skills at their own pace.

< 授業のキーワード >

Speaking, Culture, Writing, Listening

< 授業の進め方 >

Typing practice is advised. Learning how to use MS Word and Powerpoint is also important.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.

< 成績評価方法・基準 >

Visits to English Plaza will be required in order to pass the class. Participation and homework will count for 75% of the grade. Projects and reports will be 25%.

< テキスト >

"Expanding Horizons CEFR A2-B1" (2021) Charles Brown and Yuji Tanabe, Nan'un-do, ISBN 978-4-523-17921-4 C0082

< 授業計画 >

Weeks 1-5 Holidays, Soccer, Travel and Inventions
Learn about and discuss international travel destinations. Think about how sports and culture mix.

Weeks 6-10 Culture, Sports, Family and Free Time
Consider how Japanese culture is similar and different to other cultures. Learn about new sports and destinations.

Weeks 11-15 People, Food, Art, Family and Jobs
Examine how ideas of beauty, food and art are part of today's society.

2022年度 前期

2.0単位

財務会計論 【19-】 / 財務会計 【-18】

島永 和幸

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、企業等の財務・会計に関する基礎から応用に至るまでの知識・技能を学修することを目指す。3・4年次配当科目の会計コース選択必修科目に属し、「会計学総論（財務会計）」、「会計学総論（財務会計）」、「経営分析論（財務諸表分析）」、「経営分析論（財務諸表分析）」の発展科目として位置づけられる。財務会計の基本的内容を理解し、説明できる能力を身につけることを目的とする。

< 到達目標 >

財務会計の基本的内容を理解し、説明できる。(知識)

< 授業のキーワード >

財務会計、利益計算、会計理論、会計基準、資産会計

< 授業の進め方 >

基本的に講義中心で進める。授業の進捗状況に合わせて、各回の講義内容を調整することがある。

<履修するにあたって>

2022年度後期に開講される「財務会計論（財務会計）」は、本講義の続きから講義を行う。したがって、後期に当該科目を受講予定の人は、財務会計論（財務会計）を履修すること。

また、本講義を履修するにあたって、「簿記論（基礎会计学）」、「簿記論（基礎会计学）」、「会计学総論（財務会計）」、「会计学総論（財務会計）」、「経営分析論（財務諸表分析）」、「経営分析論（財務諸表分析）」を事前に履修しておくことをお勧めする。必要に応じて、電卓（ただし、通信・通話等の機能のあるものは除く。）を使用する。

<授業時間外に必要な学修>

事前・事後学習として、テキストを読み込んでおくこと。（目安として1時間）

<提出課題など>

第8回目の授業で中間試験を実施する。定期試験を実施する。

<成績評価方法・基準>

中間試験 30%、定期試験 70% で、総合的に評価する。ただし、やむを得ず、中間試験を欠席したことが証明書等で証明できる場合には、レポート課題で代替するものとする（中間試験受験者との公平性を確保するために、15%満点とする）。

<テキスト>

桜井久勝『財務会計講義（最新版）』中央経済社。（前期授業開始時に発刊されている最新版を使用する）。テキストは、授業で使用するもので、余裕をもって早めに購入すること。

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準、講義の概要等を理解する。

第2回 財務会計の機能と制度

テキスト 第1章「財務会計の機能と制度」の第1節～第2節の内容を理解する。

第3回 財務会計の機能と制度

テキスト 第1章「財務会計の機能と制度」の第3節の内容を理解する。

第4回 利益計算の仕組み

テキスト 第2章「利益計算の仕組み」の第1節～第3節の内容を理解する。

第5回 会計理論と会計基準

テキスト 第3章「会計理論と会計基準」の第1節～第3節の内容を理解する。

第6回 会計理論と会計基準

テキスト 第3章「会計理論と会計基準」の第4節～第5節の内容を理解する。

第7回 利益測定と資産評価の基礎概念

テキスト 第4章「利益測定と資産評価の基礎概念」の

第1節～第3節の内容を理解する。

第8回 中間試験

第7回までの講義内容について、中間試験を実施する。

第9回 現金預金と有価証券

テキスト 第5章「現金預金と有価証券」の第1節～第5節の内容を理解する。

第10回 売上高と売上債権

テキスト 第6章「売上高と売上債権」の第1節～第8節の内容を理解する。

第11回 棚卸資産と売上原価

テキスト 第7章「棚卸資産と売上原価」の第1節～第6節の内容を理解する。

第12回 有形固定資産と減価償却

テキスト 第8章「有形固定資産と減価償却」の第1節～第2節の内容を理解する。

第13回 有形固定資産と減価償却

テキスト 第8章「有形固定資産と減価償却」の第3節～第5節の内容を理解する。

第14回 無形固定資産と繰延資産

テキスト 第9章「無形固定資産と繰延資産」の第1節～第3節の内容を理解する。

第15回 本講義のまとめとふりかえり

本講義のまとめとふりかえりを行う。

2022年度 後期

2.0単位

財務会計論 【19-】 / 財務会計 【-18】

島永 和幸

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、経営学部のDPに示す、企業等の財務・会計に関する基礎から応用に至るまでの知識・技能を学修することを目指す。3・4年次配当科目の会計コース選択必修科目に属し、「会计学総論（財務会計）」、「会计学総論（財務会計）」、「経営分析論（財務諸表分析）」、「経営分析論（財務諸表分析）」の発展科目として位置づけられる。財務会計の基本的内容を理解し、説明できる能力を身につけることを目的とする。

<到達目標>

財務会計の基本的内容を理解し、説明できる。（知識）

<授業のキーワード>

財務会計、負債会計、財務諸表の作成と公開、連結財務諸表、外貨建取引等の換算

<授業の進め方>

基本的に講義中心で進める。授業の進捗状況に合わせて、各回の講義内容を調整することがある。

<履修するにあたって>

本講義は、2022年度前期に開講される「財務会計論（財務会計）」の続きから講義を行う。したがって、本講義を受講する予定の人は、財務会計論（財務会計）を履修すること。

また、本講義を履修するにあたって、「簿記論（基礎会计学）」、「簿記論（基礎会计学）」、「会计学総論（財務会計）」、「会计学総論（財務会計）」、「経営分析論（財務諸表分析）」、「経営分析論（財務諸表分析）」を事前に履修しておくことをお勧めする。必要に応じて、電卓（ただし、通信・通話等の機能のあるものは除く。）を使用する。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前・事後学習として、テキストを読み込んでおくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

第8回目の授業で中間試験を実施する。定期試験を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

中間試験 30%、定期試験 70% で、総合的に評価する。ただし、やむを得ず、中間試験を欠席したことが証明書等で証明できる場合には、レポート課題で代替するものとする（中間試験受験者との公平性を確保するために、15%満点とする）。

< テキスト >

桜井久勝『財務会計講義（最新版）』中央経済社。（前期授業開始時に発刊されている最新版を使用する）。テキストは、授業で使用するので、余裕をもって早めに購入すること。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨN

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準、講義の概要等を理解する。

第2回 負債

テキスト 第10章「負債」の第1節～第2節の内容を理解する。

第3回 負債

テキスト 第10章「負債」の第3節～第4節の内容を理解する。

第4回 負債

テキスト 第10章「負債」の第5節～第6節の内容を理解する。

第5回 株主資本と純資産

テキスト 第11章「株主資本と純資産」の第1節～第2節の内容を理解する。

第6回 株主資本と純資産

テキスト 第11章「株主資本と純資産」の第3節～第5節の内容を理解する。

第7回 財務諸表の作成と公開

テキスト 第12章「財務諸表の作成と公開」の第1節～第4節の内容を理解する。

第8回 中間試験

第7回までの講義内容について、中間試験を実施する。

第9回 財務諸表の作成と公開

テキスト 第12章「財務諸表の作成と公開」の第5節～第7節の内容を理解する。

第10回 連結財務諸表

テキスト 第13章「連結財務諸表」の第1節～第3節の内容を理解する。

第11回 連結財務諸表

テキスト 第13章「連結財務諸表」の第4節～第5節の内容を理解する。

第12回 連結財務諸表

テキスト 第13章「連結財務諸表」の第6節～第9節の内容を理解する。

第13回 外貨建取引等の換算

テキスト 第14章「外貨建取引等の換算」の第1節～第3節の内容を理解する。

第14回 外貨建取引等の換算

テキスト 第14章「外貨建取引等の換算」の第4節～第6節の内容を理解する。

第15回 本講義のまとめとふりかえり

本講義のまとめとふりかえりを行う。

2022年度 前期

2.0単位

システム分析

小川 賢

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析したり、モデル化する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修し、経営に関するデータ分析の考え方と具体的な分析方法を修得することを目的とする。企業の行動を経済学にモデル化し行動を分析するために知識を学習する。

情報の格差が意思決定に与える影響について報の経済学の基本的な知識を学習する。

< 到達目標 >

多変量解析（重回帰分析・主成分分析・因子分析・判別分析・クラスター分析）の分析方法について特徴を説明できる。

コンピュータを使って多変量解析（重回帰分析・主成分分析・因子分析・判別分析・クラスター分析）を行い、結果を考察し説明できる。

統計ソフトを用いた統計処理ができる。

< 授業のキーワード >

多変量解析

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

< 履修するにあたって >

授業中の私語と講義に関係ないスマホ等の操作は禁じます。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習：テキストに目を通しておくこと。必要であれば、統計学のテキストを復習しておくこと。

復習：講義で学修した分析方法、ソフトウェアの操作方法を復習し、内容の理解に努めること。

1時間程度の授業時間外が目安である。

< 成績評価方法・基準 >

講義時間中に数回実施予定の演習課題（25%）と定期試験（75%）により評価する。

< テキスト >

石村貞夫・石村光資郎著『入門はじめての多変量解析』東京図書

< 参考図書 >

塩出省吾・今野勤著『経営系学生のための基礎統計学』共立出版

兼子毅著『Rで学ぶ多変量解析』日科技連出版社

石村貞夫著『すぐわかる多変量解析』東京図書

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要、講義の進め方についての説明

第2回 基礎統計量と線形代数 1

基礎統計量について理解する。

第3回 基礎統計量と線形代数 2

逆行列や行列の固有値・固有ベクトルについて理解する。

第4回 重回帰分析 1

重回帰分析の基本的な考え方を理解する。

第5回 重回帰分析 2

重回帰モデルの理論的背景を理解する。

第6回 重回帰分析 3

重回帰分析の結果の解釈方法を理解する。

第7回 重回帰分析 4

重回帰分析を行う上での注意すべき内容を理解する。

第8回 主成分分析

主成分や主成分得点、寄与度等主成分分析の基本を理解する。

第9回 因子分析 1

因子モデルや因子の回転等因子分析の基本を理解する。

第10回 因子分析 2

因子分析の結果の解釈方法を理解する。

第11回 判別分析

判別得点や線形判別関数、マハラノビスの距離等判別分析の基本を理解する。

第12回 クラスタ分析

クラスタやデンドログラム等クラスタ分析の基本を理

解する。

第13回 データサイエンス 1

データを扱う上での倫理、注意すべき事柄を理解する。

第14回 データサイエンス 2

多変量解析や統計分析等を用いたデータ分析の例を学び、データ分析の活用について理解する。

第15回 まとめ

多変量解析やデータの扱いについて総括する。

2022年度 後期

2.0単位

システム分析

小川 賢

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

企業経営やビジネスに活用される大量の経営情報の中から必要な情報を抽出してデータを解析したり、モデル化する能力のニーズは高くなっている。

この講義では、問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修し、経営に関するデータ分析の考え方と具体的な分析方法を修得することを目的とする。企業の行動を経済モデル化し行動を分析するために知識を学習する。

情報の格差が意思決定に与える影響について報の経済学の基本的な知識を学習する。

< 到達目標 >

企業の行動を経済学の考え方に基づいて考察し説明できる。

情報の非対称が引き起こす現象についてモデル化による分析ができる。

< 授業のキーワード >

企業の経済学、情報の経済学

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

< 履修するにあたって >

授業中の私語と講義に関係ないスマホ等の操作は禁じます。

テキストを用いて講義するので、必ずテキストは持参してください。授業をしっかりと聞いて、理解できないところは積極的に質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習：テキストや資料に目を通しておくこと。

復習：講義で学修した分析方法、モデルの考え方を復習し、内容の理解に努めること。

1時間程度の授業時間外が目安である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に数回実施予定の演習課題（25%）、定期試験（75%）により評価する。

<参考図書>

西島益幸著『企業の経済学』新世社
神戸伸輔著『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
塩出省吾・今野勤著『経営系学生のための基礎統計学』共立出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス
講義の概要、講義の進め方についての説明
第2回 情報の経済学とは
情報の経済学の基本的な概念について理解する。
第3回 数量競争1
ゲーム理論を用いた数量競争の基本的な概念について理解する。
第4回 数量競争2
数量競争の経済学的な意味について理解する。
第5回 価格競争1
ゲーム理論を用いた価格競争の基本的な概念について理解する。
第6回 価格競争2
価格競争の経済学的な意味について理解する。
第7回 差別化戦略1
ゲーム理論を用いた差別化戦略の基本的な概念について理解する。
第8回 差別化戦略2
企業の経済学に関する様々な概念について理解を深める。
第9回 リスクと保険
差別化戦略の経済学的な意味について理解する。
第10回 モラルハザードとエージェンシー理論
情報の非対称性によるモラルハザードとエージェンシー理論について理解する。
第11回 逆選択
情報の非対称性による逆選択について理解する。
第12回 スクリーニング
情報の非対称性への対策としてのスクリーニングについて理解する。
第13回 シグナリング
情報の非対称性への対策としてのシグナリングについて理解する。
第14回 小テスト
情報の経済学について小テストを実施し理解を深める。
第15回 まとめ
企業の経済学・情報の経済学について総括する。

2022年度 前期

2.0単位

商業簿記 【19-】

吉田 康久

<授業の方法>

日商簿記検定合格に向けた問題の解答・解説を中心にする。

5限目の工業簿記 も必ず履修すること。

なお、コロナウィルスの状況によっては、遠隔授業を実施することもあります。

具体的には、第1回目の講義において説明する。

『商業簿記』に関する連絡先

大原学園 櫻井喜平

yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

<授業の目的>

ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定の受験を通じて習得していく講義である。

一般企業はもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。本講義では、株式会社会計を対象として学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に大変役立つ知識である。

<到達目標>

日商簿記検定試験2級合格レベルの計算力および簿記の基本処理を身につけることができる。

株式会社会計の基礎についての理解を深めることができる。

<授業のキーワード>

商業簿記、財務会計

<授業の進め方>

テキストを使用し講義を進める。問題演習もおりこみながら進行する。

問題演習時には電卓を使用する。

学生の習熟度により、下記授業計画は変更する可能性がある。

<履修するにあたって>

この講義を受講するには事前に日商簿記3級レベルの知識が必要である。

簿記3級の知識があることを前提に授業は進行する。(簿記3級に合格している必要はありません。)

11月検定試験受験者向けに夏休み補講を実施する。

また、後期試験終了後に日商簿記検定合格の為の直前プログラムを実施する。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

自宅復習が必要である。

具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、1時間程度の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中のミニテスト及び宿題等(30%)、期末試験(70%)により評価する。

< テキスト >

「ALFA2級課程 商業簿記」(テキスト、ドリル、アンサー)大原専門学校

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、簿記学習の目的

簿記を学習する目的や学習の進め方、自宅復習について。

第2回 総論

簿記一巡の流れ、財務諸表について学習する。

第3回 現金預金、銀行勘定調整表

現金預金、銀行勘定調整表について学習する。

第4回 債権・債務

クレジット売掛金・手形

第5回 債権・債務

電子記録債権・電子記録債務

第6回 棚卸資産

商品売買(3分法、売上原価対立法)について学習する。

第7回 棚卸資産

商品の評価、仕入れおよび売上の割引・割戻について学習する。

第8回 有価証券

売買目的有価証券について学習する。

第9回 有価証券

満期保有目的有価証券、子会社株式および関連会社株式を学習する。

第10回 有価証券

その他有価証券について学習する。

第11回 有価証券

有価証券の売却について学習する。

第12回 有形固定資産

有形固定資産の購入、修繕費および改良費について学習する。

第13回 有形固定資産

減価償却費、圧縮記帳について学習する。

第14回 有形固定資産

有形固定資産の売却、買換、除却、滅失について学習する。

第15回 有形固定資産

リース会計について学習する。

2022年度 後期

2.0単位

商業簿記 【19-】

吉田 康久

< 授業の方法 >

日商簿記検定合格に向けた問題の解答・解説を中心にする。

5限目の工業簿記 も必ず履修すること。

また、この授業は前期「商業簿記」の続きである。

具体的には、第1回目の講義において説明する。

不明点があればご連絡ください。

『商業簿記』に関する連絡先

大原学園 櫻井喜平

yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

< 授業の目的 >

ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定の受験を通じて習得していく講義である。

一般企業はもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。本講義では、株式会社会計を対象として学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に大変役立つ知識である。

< 到達目標 >

日商簿記検定試験2級合格レベルの計算力および簿記の基本処理を身につけることができる。

株式会社会計の基礎についての理解を深めることができる。

< 授業のキーワード >

商業簿記、財務会計

< 授業の進め方 >

テキストを使用し講義を進める。問題演習もおりこみながら進行する。

問題演習時には電卓を使用する。

学生の習熟度により、下記授業計画は変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

この講義を受講するには事前に日商簿記3級レベルの知識が必要である。

簿記3級の知識があることを前提に授業は進行する。(簿記3級に合格している必要はありません。)

11月検定試験受験者向けに夏休み補講を実施する。
また、後期試験終了後に日商簿記検定合格の為の直前プログラムを実施する。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

自宅復習が必要である。

具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、1時間程度の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中のミニテスト及び宿題等(30%)、期末試験(70%)により評価する。

< テキスト >

「ALFA2級課程 商業簿記」(テキスト、ドリル、アンサー)大原専門学校

< 授業計画 >

第1回 総まとめ

問題演習

第2回 総まとめ

問題演習

第3回 総まとめ

問題演習

第4回 模擬試験演習

問題演習

第5回 模擬試験演習

問題演習

第6回 模擬試験演習

問題演習

第7回 模擬試験演習

問題演習

第8回 模擬試験演習

問題演習

第9回 総まとめ

問題演習

第10回 総まとめ

問題演習

第11回 総まとめ

問題演習

第12回 総まとめ

問題演習

第13回 総まとめ

問題演習

第14回 模擬試験演習

問題演習

第15回 模擬試験演習

問題演習

2022年度 前期

2.0単位

消費者行動論

島永 嵩子

< 授業の方法 >

講義(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。専門選択科目に属する。企業が自社の製品やサービスを市場に導入する際に重要な要因は、対象顧客となる消費者への理解である。本講義は、マーケティングの基礎ともいえる消費者行動の理解に焦点を当て、消費者行動に影響を与える個人内部での心理プロセスに関する基本的な概念や理論を理解できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

消費者行動に影響を与える個人内プロセスに関する基本的な概念を理解する力を養う。

< 授業のキーワード >

1.個人特性 2.消費者行動

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義中心の授業であるが、講義中、受講生に自発的な発言を求めることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、新聞や雑誌で消費者動向の変化を把握するように努めること。(目安として1時間)

事後学習として、授業の内容を復習するように努めること。(目安として1時間)

< 提出課題など >

授業内容の理解度を確認するために、不定期で簡単なレポートの提出を課す。

レポートに記載されたことに対して、次の授業時に、総評などを行う。

< 成績評価方法・基準 >

講義中のレポート30%、定期試験70%で総合的に評価する。

< テキスト >

テキストは指定しないが、以下の指定図書のいずれかを熟読しておくこと。

< 参考図書 >

松井剛・西川英彦編著(2016)『1からの消費者行動』碩学舎。

マイケル・R・ソロモン(2015)『ソロモン 消費者行動論 ハードカバー版』(松井剛監訳)丸善。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概略を理解する。

第2回 消費者行動とマーケティング

消費者行動とマーケティングの関係について理解する。

第3回 消費者行動モデル

消費者行動の捉え方について理解する。

第4回 購買意思決定プロセス

消費者の典型的な購買意思決定プロセスの5つの段階について学習する。

第5回 知覚

外部からの製品や他者に関する情報を受け入れ、解釈する知覚プロセスについて学習する。

第6回 学習

学習プロセスを通して新しい情報が既存の知識にどのように加えられていくか、という問題について学習する。

第7回 記憶

外部からの情報をいかに記憶するか、という問題について学習する。

第8回 消費者関与

関与概念の整理や関与がもたらす様々な影響について学習する。

第9回 態度

消費者の態度はどのように形成されるかについて学習する。

第10回 説得

消費者の態度はどのように変容されるかについて学習する。

第11回 アイデンティティ

アイデンティティが情報の受容にどのような影響を与えるかについて学習する。

第12回 サイコグラフィクス

消費者の理解にあたってサイコグラフィクスという尺度の必要性について理解する。

第13回 意思決定のパターン

消費者が購買意思決定をする際にどのようなパターンが見られるかを学習する。

第14回 事例研究

消費者の意思決定過程に対応したマーケティング活動に関する事例研究を通じて、消費者行動に対する理解を深める。

第15回 全体のまとめ

これまでの議論を総括する。

2022年度 後期

2.0単位

消費者行動論

島永 嵩子

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。専門選択科目に属する。本講義は、消費者行動論で学習した個人内プロセスに関する基礎理論を踏まえて、消費者行動に影響を与える状況要因、およびブランドをベースにした消費者行動とマーケティングとの関係について理解できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

消費者行動に影響を与える外部要因や、ブランドに関する基本的な概念を理解する力を養う。

< 授業のキーワード >

1.ブランド 2.価値創造 3.消費文化

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義中心の授業であるが、講義中、受講生に自発的な発言を求めることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、新聞や雑誌で流通業の動向を把握するように努めること。（目安として1時間）

事後学習として、授業の内容を復習するように努めること。（目安として1時間）

< 提出課題など >

授業内容の理解度を確認するために、不定期で簡単なレポートの提出を課す。

レポートに記載されたことに対して、次の授業時に、総評などを行う。

< 成績評価方法・基準 >

講義中のレポート30%、定期試験70%で総合的に評価する。

< テキスト >

テキストは指定しないが、以下の指定参考図書を熟読しておくこと。

< 参考図書 >

石井淳蔵・廣田章光編著（2021）『1からのブランド経営』碩学舎。

松井剛・西川英彦編著（2016）『1からの消費者行動』碩学舎。

マイケル・R・ソロモン（2015）『ソロモン 消費者行動論 ハードカバー版』（松井剛監訳）丸善。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概略を理解する。

第2回 状況要因(1)

消費者行動に対して家族が果たす役割について理解する。

第3回 状況要因(2)

準拠集団が消費者の意思決定に与える影響について学習する。

第4回 状況要因(3)

口コミが消費者の意思決定に与える影響について学習する。

第5回 状況要因(4)

ステータスが消費者の意思決定に与える影響について学習する。

第6回 状況要因(5)

サブカルチャーと消費者行動との関係について学習する。

第7回 状況要因(6)

文化的要因と消費者行動との関係について学習する。

第8回 状況要因(7)

インターネット時代における消費者行動へのアプローチについて理解する。

第9回 ブランドと消費者行動

ブランドが現代社会でどのような役割を果たすのかを理解する。

第10回 ブランド発想とは

マーケティング発想とブランド発想のそれぞれの特徴について学習する。

第11回 ブランド育成

大塚製薬「ポカリスエット」の事例を使って用途拡張によるブランド育成について学習する。

第12回 ブランド進化

良品計画「無印良品」の事例を取り上げ、技術、市場分野の拡大によるブランド進化について学習する。

第13回 シグネチャー・ストーリー

ナイキの事例を通じて、シグネチャー・ストーリーの観点からのブランド構築について学習する。

第14回 ブランド・レゾナンス

マザーハウスの事例を通じて、ブランドの顧客共鳴（レゾナンス）の仕組みについて学習する。

第15回 まとめ

これまでの議論を総括する。

2022年度 前期

2.0単位

情報管理概論

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

経営情報科学コースの選択必修科目（2年次配当科目）に属し、3年次で展開される選択必修科目への導入科目として位置づけられる。

現代のような高度情報化社会あるいは情報ネットワーク社会においては、コンピュータシステムの重要性が極めて高く、情報処理技術の進歩が急速に進んでいる。近年ではインターネットの爆発的な普及により、クラウドコ

ンピューティングなどの新たなサービスの利用が広まっている。しかしながら、発展著しい情報処理技術に対応できる技術者の充足率が低く、これら人材の育成が課題となっている。このような現状に鑑み、本講義では情報処理技術者試験、特にITパスポート試験や基本情報処理技術者試験の受験に関連した知識を学ぶ。

< 到達目標 >

データベースや情報ネットワークの仕組みを説明できる。

（知識）

インターネットやWeb検索システムの仕組みを説明できる。

（知識）

< 授業のキーワード >

デジタルデータ、データベース、ネットワーク、インターネット、顧客関係管理、ビッグデータ

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

毎回の講義の最後に理解度を確認するための小テストを実施し、次回の冒頭で解説する。

< 履修するにあたって >

「情報処理概論I」も同時に履修する、または、単位習得済みであることが望ましい。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と { <https://rinsaka.com/> } も参照してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義で得た知識を教科書や配布資料だけでなく、PCやスマートフォン、インターネットなどの利用を通じて実際に再確認するような復習を30分？ 1時間程度行えば効果的である。

< 提出課題など >

毎回の講義の最後に理解度を確認するための小テストを実施する。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題100%

< テキスト >

今野勤、大角盛広、毛利進太郎、林坂弘一郎 著『文科系のための情報科学』 共立出版 2017年 2600円

< 参考図書 >

適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 情報と情報管理

情報とは、情報管理とは、情報管理における情報について理解する。情報管理におけるデータベースとネットワークの重要性を理解する。

第2回 情報とマルチメディア(1)

アナログデータとデジタルデータの特徴を理解し、画像・音声・動画データの取り扱いを学ぶ。仮想現実や拡張現実が社会でどのように利用されているかを理解する。

第3回 情報とマルチメディア(2)

アナログデータとデジタルデータの特徴を理解し、画像・音声・動画データの取り扱いを学ぶ。仮想現実や拡張

現実が社会でどのように利用されているかを理解する。

第4回 情報とマルチメディア(3)

アナログデータとデジタルデータの特徴を理解し、画像・音声・動画データの取り扱いを学ぶ。仮想現実や拡張現実が社会でどのように利用されているかを理解する。

第5回 データベース(1)

情報管理の基盤技術の一つであるデータベースについて、その構造と設計、操作の基本について理解する。

第6回 データベース(2)

情報管理の基盤技術の一つであるデータベースについて、その構造と設計、操作の基本について理解する。

第7回 データベース(3)

情報管理の基盤技術の一つであるデータベースについて、その構造と設計、操作の基本について理解する。

第8回 情報ネットワーク(1)

情報管理のもう一つの基盤技術であるネットワークについて、LANのアクセス方式、プロトコルなどの基本を理解する。

第9回 情報ネットワーク(2)

情報管理のもう一つの基盤技術であるネットワークについて、LANのアクセス方式、プロトコルなどの基本を理解する。

第10回 情報ネットワーク(3)

情報管理のもう一つの基盤技術であるネットワークについて、LANのアクセス方式、プロトコルなどの基本を理解する。

第11回 インターネットと WWW(1)

インターネットの歴史を考察し、WWWや電子メールの仕組み、インターネット利用時に注意すべき問題などを理解する。

第12回 インターネットと WWW (2)

インターネットの歴史を考察し、WWWや電子メールの仕組み、インターネット利用時に注意すべき問題などを理解する。

第13回 XML と XBRL

XMLの仕様について理解するとともに、XBRL形式の企業財務データを分析する方法について理解する。

第14回 情報収集と情報検索システム

GoogleやYahoo!などのWeb検索システムが検索結果を瞬時に表示できる仕組みについて理解するとともに、検索結果の表示順を決定するために採用されているランキングアルゴリズムを理解する。

第15回 顧客情報管理システム

小売りにおけるポイントカードの活用事例と、そこから得られるビッグデータを活用した推奨システムを理解する。

2022年度 後期

2.0単位

情報管理概論

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

経営情報科学コースの選択必修科目(2年次配当科目)に属し、3年次で展開される選択必修科目への導入科目として位置づけられる。

現代のような高度情報化社会あるいは情報ネットワーク社会においては、コンピュータシステムの重要性が極めて高く、情報処理技術の進歩が急速に進んでいる。近年ではインターネットの爆発的な普及により、クラウドコンピューティングなどの新たなサービスの利用が広まっている。しかしながら、発展著しい情報処理技術に対応できる技術者の充足率が低く、これら人材の育成が課題となっている。このような現状に鑑み、本講義では情報処理技術者試験、特にITパスポート試験や基本情報処理技術者試験の受験に関連した知識を学ぶ。

< 到達目標 >

情報セキュリティの3つの要素を説明できる。(知識)
暗号化やデジタル署名の仕組みを説明できる。(知識)
システム運用管理や情報システムの構築手法を説明できる。(知識)

< 授業のキーワード >

情報セキュリティ、暗号化、デジタル署名、不正アクセス、ソフトウェア開発、信頼性

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

毎回の講義の最後に理解度を確認するための小テストを実施し、次回の冒頭で解説する。

< 履修するにあたって >

「情報処理概論II」も同時に履修する、または、単位習得済みであることが望ましい。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と {<https://rinsaka.com/>} も参照してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義で得た知識を教科書や配布資料だけでなく、PCやスマートフォン、インターネットなどの利用を通じて実際に再確認するような復習を30分? 1時間程度行えば効果的である。

< 提出課題など >

毎回の講義の最後に理解度を確認するための小テストを

実施する。

<成績評価方法・基準>

提出課題100%

<テキスト>

今野勤、大角盛広、毛利進太郎、林坂弘一郎 著『文科系のための情報科学』 共立出版 2017年 2600円

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 情報セキュリティ(1)

情報セキュリティの基本概念を理解し、情報漏えいなどの事例(インシデント)を考察する。

第2回 情報セキュリティ(2)

情報セキュリティの基本概念を理解し、情報漏えいなどの事例(インシデント)を考察する。

第3回 情報セキュリティ(3)

不正アクセスとコンピュータウイルスについて理解し、その対策を検討する。

第4回 暗号化(1)

インターネット上で利用される暗号化方式(共通鍵暗号・公開鍵暗号・ハイブリッド暗号)について、またデジタル署名や認証局について理解する。

第5回 暗号化(2)

インターネット上で利用される暗号化方式(共通鍵暗号・公開鍵暗号・ハイブリッド暗号)について、またデジタル署名や認証局について理解する。

第6回 暗号化(3)

インターネット上で利用される暗号化方式(共通鍵暗号・公開鍵暗号・ハイブリッド暗号)について、またデジタル署名や認証局について理解する。

第7回 フォールトトレランス(1)

フォールトトレランスとそれに関連する技術を理解し、システムの性能管理、障害管理やバックアップの手法についても理解する。

第8回 フォールトトレランス(2)

フォールトトレランスとそれに関連する技術を理解し、システムの性能管理、障害管理やバックアップの手法についても理解する。

第9回 故障率と稼働率(1)

システムの故障率と稼働率、およびデータの管理と廃棄方法について理解する。

第10回 故障率と稼働率(2)

システムの故障率と稼働率、およびデータの管理と廃棄方法について理解する。

第11回 故障率と稼働率(3)

システムの故障率と稼働率、およびデータの管理と廃棄方法について理解する。

第12回 ソフトウェア開発モデル(1)

ソフトウェアの特徴、システムの開発工程と開発モデルについて理解し、ソフトウェアテストの目的と種類につ

いても理解する。

第13回 ソフトウェア開発モデル(2)

ソフトウェアの特徴、システムの開発工程と開発モデルについて理解し、ソフトウェアテストの目的と種類についても理解する。

第14回 ソフトウェア信頼性評価モデル

ソフトウェアの信頼性成長モデルとアジャイル開発と呼ばれる新しい開発手順について理解する。

第15回 Webサービスの運用管理

フォールトトレランス技術の一つである冗長化がWebシステムにおいて実際にどのように利用されているのか、さらに負荷分散をどのようにして実現しているのかについて理解する。

2022年度 後期

2.0単位

情報処理 【19-】

宮本 行庸

<授業の方法>

講義と実習

<授業の目的>

Pythonを使用して、小規模なプログラムを開発できるようになる。また、標準ライブラリを用いてデータを適切に分析するプログラムが記述できるようになる。

<到達目標>

・Pythonを使用して、小規模なプログラムを記述し、実行できるようになる。

・標準ライブラリを用いてデータを適切に分析するプログラムが記述できるようになる。

<授業のキーワード>

Python、プログラミング、アルゴリズム、データ構造、関数、クラス、オブジェクト

<授業の進め方>

パソコンを用いた講義・実習形式の授業。パワーポイント資料を用いて説明、例題を提示したのち、各自でプログラムを作成しながら理解を進める。

<履修するにあたって>

各自でノートPCを準備すること(必須)。情報処理を履修済みであることを強く推奨する。プログラミング経験は問わないが、難易度はやや高めに設定しているので、履修に際しては十分に留意のこと。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

<授業時間外に必要な学修>

授業毎に約1時間

<提出課題など>

授業中に適宜指示する。

<成績評価方法・基準>

実習課題(80%)、授業中の取り組み(20%)で評価する。

<テキスト>

「みんなのPython【第4版】」、柴田淳著、SBクリエイティブ

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方、成績評価方法等の説明

第2回 前期の復習

前期に学んだPythonについての文法事項を復習する

第3回 クラスの継承

クラスおよび組み込み型の継承について学ぶ

第4回 モジュール

Pythonにおけるモジュールの扱いについて学ぶ

第5回 スコープ

スコープとオブジェクト、および名前空間の関係について学ぶ

第6回 例外処理

Pythonにおける例外処理について学ぶ

第7回 復習

前半の復習と問題解説

第8回 課題実習(1)

これまでの内容に関する実習課題製作

第9回 標準ライブラリ(1)

標準ライブラリ(日付・正規表現・システム)について学ぶ

第10回 標準ライブラリ(2)

標準ライブラリ(数学・ネットワーク・ファイル処理)について学ぶ

第11回 データサイエンス(1)

ライブラリを用いた数値計算およびグラフ描画の方法を学ぶ

第12回 データサイエンス(2)

ライブラリを用いた簡単な機械学習について学ぶ

第13回 復習

後半の復習と問題解説

第14回 課題実習(2)

これまでの内容に関する実習課題製作

第15回 総復習

後期の総復習、実習課題解説

2022年度 後期

2.0単位

情報処理 【19-】

宮本 行庸

< 授業の方法 >

講義と実習

< 授業の目的 >

Pythonを使用して、小規模なプログラムを開発できるようになる。また、標準ライブラリを用いてデータを適切に分析するプログラムが記述できるようになる。

< 到達目標 >

・ Pythonを使用して、小規模なプログラムを記述し、実行できるようになる。

・ 標準ライブラリを用いてデータを適切に分析するプログラムが記述できるようになる。

< 授業のキーワード >

Python、プログラミング、アルゴリズム、データ構造、関数、クラス、オブジェクト

< 授業の進め方 >

パソコンを用いた講義・実習形式の授業。パワーポイント資料を用いて説明、例題を提示したのち、各自でプログラムを作成しながら理解を進める。

< 履修するにあたって >

各自でノートPCを準備すること(必須)。情報処理を履修済みであることを強く推奨する。プログラミング経験は問わないが、難易度はやや高めに設定しているので、履修に際しては十分に留意のこと。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業毎に約1時間

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

実習課題(80%)、授業中の取り組み(20%)で評価する。

< テキスト >

「みんなのPython【第4版】」、柴田淳著、SBクリエイティブ

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方、成績評価方法等の説明

第2回 前期の復習

前期に学んだPythonについての文法事項を復習する

第3回 クラスの継承

クラスおよび組み込み型の継承について学ぶ

第4回 モジュール

Pythonにおけるモジュールの扱いについて学ぶ

第5回 スコープ

スコープとオブジェクト、および名前空間の関係について学ぶ

第6回 例外処理

Pythonにおける例外処理について学ぶ

第7回 復習

前半の復習と問題解説

第8回 課題実習(1)

これまでの内容に関する実習課題製作

第9回 標準ライブラリ(1)

標準ライブラリ(日付・正規表現・システム)について学ぶ

第10回 標準ライブラリ(2)

標準ライブラリ(数学・ネットワーク・ファイル処理)について学ぶ

第11回 データサイエンス(1)

ライブラリを用いた数値計算およびグラフ描画の方法を学ぶ

第12回 データサイエンス(2)

ライブラリを用いた簡単な機械学習について学ぶ

第13回 復習

後半の復習と問題解説

第14回 課題実習(2)

これまでの内容に関する実習課題製作

第15回 総復習

後期の総復習、実習課題解説

2022年度 前期

2.0単位

情報処理概論

大角 盛広

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

ITパスポート試験レベルの情報処理の基礎知識を学び理解する。ただし、資格試験の範囲全般を一通り学習するのではなく、自学自習では理解が困難と思われる分野や暗記だけでは通用しないと思われる分野について重点的に、ときには資格試験の範囲を超えて学んでいく。

この授業は、情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPIに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から情報処理について解説する。

< 到達目標 >

授業で学んだ分野についてはITパスポート試験レベルの資格試験で十分に通用する理解を得ることを目標とする。

< 授業の進め方 >

ほぼ毎回授業の最後に10分程度のミニテストを行う。

< 履修するにあたって >

パソコンを使用しない講義科目である

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞や雑誌でIT企業や製品についてのニュースや解説を読むようにすること。新しいサービスや製品はどのような技術を基にしているのか、また新しい理論や技術の出現はどのように生活や社会に影響を与えているのか、自分自身の体験に照らして考えたり書籍等で調べる姿勢をもつこと。

< 提出課題など >

ほぼ毎回ミニテストを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み(課題・小テスト等を含む)100%の割

合で評価する。

< テキスト >

今野勤, 大角盛広, 毛利進太郎, 林坂 弘一郎, 『文科系のための情報科学』, 共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、評価方法等について説明を受ける

第2回 コンピュータによる情報処理

コンピュータによる情報処理の概要・特徴について学ぶ

第3回 2進数

2進数について学ぶ。10進数2進数の相互変換ができるようになる。

第4回 2進数の応用

2進数を応用してできることについて学ぶ

第5回 論理演算

論理演算と論理回路について学ぶ

第6回 負数・浮動小数点

2の補数、有限桁での負数表現、浮動小数点表現について学ぶ

第7回 文字の表現

文字情報の数値化について学ぶ。日本語文字コードについて学ぶ。

第8回 音声の扱い

サンプリング、量子化による音声の数値化について学ぶ

第9回 画像の扱い

画像の数値化、データ圧縮について学ぶ

第10回 アルゴリズム

アルゴリズムの概念、初歩的なアルゴリズムの効率について学ぶ

第11回 コンピュータの成り立ち1

バベッジの解析機関からプログラム内蔵型コンピュータまでの歴史と技術的なアイデアについて学ぶ

第12回 コンピュータの成り立ち2

電子的なコンピュータの出現からメインフレームを経てパソコンが生まれるまでの流れを学ぶ

第13回 ソフトウェア1

一大産業に成長したソフトウェア業界、ソフトウェア工学、著作権などについて学ぶ

第14回 ソフトウェア2

ビットコインなどの暗号資産、人工知能などの概要を学ぶ

第15回 まとめ

重要なポイントをまとめて学ぶ

2022年度 後期

2.0単位

情報処理概論

大角 盛広

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

ITパスポート試験レベルの情報処理の基礎知識を学び理解する。ただし、資格試験の範囲全般を一通り学習するのではなく、自学自習では理解が困難と思われる分野や暗記だけでは通用しないと思われる分野について重点的に、ときには資格試験の範囲を超えて学んでいく。

この授業は、情報通信技術(ICT)を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識や技術を学修する、という経営学部のDPIに対応する。

なお、この授業の担当者は、保険会社とIT企業で10年間の実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から情報処理について解説する。

< 到達目標 >

授業で学んだ分野についてはITパスポート試験レベルの資格試験で十分に通用する理解を得ることを目標とする。

< 授業の進め方 >

ほぼ毎回授業の最後に10分程度のミニテストを行う。

< 履修するにあたって >

パソコンを使用しない講義科目である

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞や雑誌でIT企業や製品についてのニュースや解説を読むようにすること。新しいサービスや製品はどのような技術を基にしているのか、また新しい理論や技術の出現はどのように生活や社会に影響を与えているのか、自分自身の体験に照らして考えたり書籍等で調べる姿勢をもつこと。

< 提出課題など >

ほぼ毎回ミニテストを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み(課題・小テスト等を含む)100%の割合で評価する。

< テキスト >

今野勤, 大角盛広, 毛利進太郎, 林坂 弘一郎, 『文科系のための情報科学』, 共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容、進め方、評価方法等について説明を受ける

第2回 ハードウェア1

コンピュータのCPU、メモリなど基本的なハードウェアについて学ぶ

第3回 ハードウェア2

ソフトウェアが動く様子をハードウェアの立場から概観する

第4回 ハードウェア3

コンピュータの周辺器機について学ぶ

第5回 コンピュータ・ネットワーク1

コンピュータネットワーク、特にLANについて学ぶ

第6回 コンピュータ・ネットワーク2

インターネットの仕組みについて学ぶ

第7回 コンピュータ・ネットワーク3

多様なデバイスがインターネットに接続されている現状やネットワークビジネス等について学ぶ

第8回 セキュリティ1

セキュリティ、特に公開鍵暗号について学ぶ

第9回 セキュリティ2

デジタル認証について学ぶ。また、情報社会に生きる者として最低限必要なセキュリティ意識についても学ぶ

第10回 コンピュータ・シミュレーション1

現実の問題を抽象化したモデルをコンピュータで動かすことにより有益なシミュレーションが行えることを学ぶ

第11回 コンピュータ・シミュレーション2

現実の問題を抽象化したモデルをコンピュータで動かすことにより有益なシミュレーションが行えることを学ぶ

第12回 コンピュータ・シミュレーション3

具体的なシミュレーションが実行される様子を見る

第13回 コンピュータが切り拓く世界1

コンピュータの計算能力により発展することになった比較的新しい学術分野について学ぶ

第14回 コンピュータが切り拓く世界2

コンピュータの計算能力により発展することになった比較的新しい学術分野について学ぶ

第15回 まとめ

重要なポイントをまとめて学ぶ

2022年度 前期

2.0単位

情報ネットワーク論

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

経営情報科学コースの選択必修科目に属し、基礎的な情報処理に関する技術を前提としている。

現代の高度情報化社会において、情報通信、特にインターネットが果たす役割は非常に重要なものとなり、既に我々の日常生活において必要不可欠なものとなった。しかしながら、望み通りの情報ネットワーク環境を構築あるいは利用するためには、多くの知識が必要となる。本講義では、個人がTCP/IPをベースとしたネットワークを利用する際に知っておくべき点に焦点を当て、ネットワークの仕組みについて学ぶ。

< 到達目標 >

情報通信およびTCP/IPの仕組みを説明できる。(知識)

TCP/IPの各種プロトコルを説明できる。(知識)

<授業のキーワード>

TCP/IP、プロトコル、インターネット

<授業の進め方>

講義を中心に進める。

毎回の講義の最後に理解度を確認するための小テストを実施し、次回の冒頭で解説する。

<履修するにあたって>

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と {<https://rinsaka.com/>} も参照してください。

<授業時間外に必要な学修>

講義で得た知識を配布資料だけでなく、PCやスマートフォン、インターネットなどの利用を通じて実際に再確認するような復習を30分? 1時間程度行えば効果的である。

<提出課題など>

毎回の講義の最後に理解度を確認するための小テストを実施する。

<成績評価方法・基準>

提出課題100%

<テキスト>

資料を配布する。

<参考図書>

今野勤、大角盛広、毛利進太郎、林坂弘一郎 著『文科系のための情報科学』 共立出版 2017年 2600円

<授業計画>

第1回 ネットワークの種類

LAN、WAN、インターネット、クライアント・サーバ、ピアツーピアなどのネットワークの種類について理解する。

第2回 プロトコルとOSI参照モデル(1)

プロトコルの階層化と標準化について理解し、OSI参照モデルやTCP/IPの4階層モデルについて、各層の役割を理解する。さらに、コネクション型通信とコネクションレス型の特徴についても理解する。

第3回 プロトコルとOSI参照モデル(2)

プロトコルの階層化と標準化について理解し、OSI参照モデルやTCP/IPの4階層モデルについて、各層の役割を理解する。さらに、コネクション型通信とコネクションレス型の特徴についても理解する。

第4回 通信速度と待ち行列(1)

通信速度や通信時間の計算方法を習得する。また、指数分布とポアソン分布の関係性を理解するとともに、M/M/1待ち行列モデルによる平均待ち時間や平均応答時間の計算方法を習得する。

第5回 通信速度と待ち行列(2)

通信速度や通信時間の計算方法を習得する。また、指数分布とポアソン分布の関係性を理解するとともに、M/M/1待ち行列モデルによる平均待ち時間や平均応答時間の計算方法を習得する。

第6回 ネットワークへの接続

xDSL、FTTH、PLC、WiMAX、LTEなどの通信回線について

それらの特徴を理解する。

第7回 無線LAN

周波数と無線通信の特徴を理解し、無線LAN規格の特徴と暗号化などのセキュリティについて考察する。

第8回 MACアドレスとIPアドレス(1)

MACアドレスとIPアドレスについて理解する。特にIPアドレスに対しては、グローバルアドレスとプライベートアドレスを理解し、ネットワーク部とホスト部の算出方法を習得する。

第9回 MACアドレスとIPアドレス(2)

MACアドレスとIPアドレスについて理解する。特にIPアドレスに対しては、グローバルアドレスとプライベートアドレスを理解し、ネットワーク部とホスト部の算出方法を習得する。

第10回 MACアドレスとIPアドレス(3)

MACアドレスとIPアドレスについて理解する。特にIPアドレスに対しては、グローバルアドレスとプライベートアドレスを理解し、ネットワーク部とホスト部の算出方法を習得する。

第11回 ルーティング

ルーティングによってパケットが目的のホストまで届く仕組みを理解する。

第12回 TCP と UDP

トランスポート層の役割を理解する。とりわけTCPのコネクション管理、ウィンドウ制御、ふくそう制御について理解する。

第13回 DNS

ドメイン名の構造とDNSの仕組み、DNSの負荷分散などを理解するとともに、DHCPによるIPアドレスの割り当て方法についても理解する。

第14回 WWWと電子メール

HTTPやHTTPSなどWWWに関連するプロトコルを理解し、CookieやWeb Storageなどの仕組みも理解する。さらにSMTP、POP3、IMAP4など電子メールに関連するプロトコルを理解する。

第15回 Windowsネットワーク

Windows固有のネットワークサービスについて、ワークグループとドメイン、共有フォルダ、プリンタの共有などの仕組みを理解する。

2022年度 前期

2.0単位

情報処理 【19-】

宮本 行庸

<授業の方法>

講義と実習

<授業の目的>

プログラミング言語Pythonの概念を理解して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。また、基本

的なアルゴリズムやデータ構造を理解する。

<到達目標>

・Pythonを使用して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。

・基本的なアルゴリズム（順次・選択・繰返し）やデータ構造（クラス・オブジェクト）を理解する。

<授業のキーワード>

Python、プログラミング、アルゴリズム、データ構造、関数、クラス、オブジェクト

<授業の進め方>

パソコンを用いた講義・実習形式の授業。パワーポイント資料を用いて説明、例題を提示したのち、各自でプログラムを作成しながら理解を進める。

<履修するにあたって>

プログラミング経験は問わないが、難易度はやや高めに設定しているため、履修に際しては十分に留意のこと。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

<授業時間外に必要な学修>

授業毎に約1時間

<提出課題など>

授業中に適宜指示する。

<成績評価方法・基準>

実習課題（80%）、授業中の取り組み（20%）で評価する。

<テキスト>

「みんなのPython【第4版】」、柴田淳著、SBクリエイティブ

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の進め方、成績評価方法等の説明

第2回 Python環境構築

Python環境（Anaconda）のインストール、統合環境の利用方法

第3回 データ(1)

数値・変数・文字列の扱いを習得する

第4回 データ(2)

リスト・辞書・タブルの扱いを習得する

第5回 制御文

ループ（繰返し）および条件分岐について学ぶ

第6回 関数

Pythonで関数を扱う方法について学ぶ

第7回 復習

前半の復習と問題解説

第8回 課題実習(1)

これまでの内容に関する実習課題製作

第9回 組み込み型

Pythonにおける組み込み型およびその扱い方について学ぶ

第10回 ファイル処理

Pythonにおけるファイル処理について学ぶ

第11回 関数型プログラミング

内包表記・イテレータ・ジェネレータについて学ぶ
第12回 クラスとオブジェクト

Pythonにおけるクラスとオブジェクトについて学ぶ
第13回 復習

後半の復習と問題解説

第14回 課題実習(2)

これまでの内容に関する実習課題製作

第15回 総復習

前期の総復習、実習課題解説

2022年度 前期

2.0単位

情報処理 【19-】

宮本 行庸

<授業の方法>

講義と実習

<授業の目的>

プログラミング言語Pythonの概念を理解して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。また、基本的なアルゴリズムやデータ構造を理解する。

<到達目標>

・Pythonを使用して、簡単なプログラムを記述し、実行できるようになる。

・基本的なアルゴリズム（順次・選択・繰返し）やデータ構造（クラス・オブジェクト）を理解する。

<授業のキーワード>

Python、プログラミング、アルゴリズム、データ構造、関数、クラス、オブジェクト

<授業の進め方>

パソコンを用いた講義・実習形式の授業。パワーポイント資料を用いて説明、例題を提示したのち、各自でプログラムを作成しながら理解を進める。

<履修するにあたって>

プログラミング経験は問わないが、難易度はやや高めに設定しているため、履修に際しては十分に留意のこと。欠席時数が3分の1を超える場合は評価を行わない。

<授業時間外に必要な学修>

授業毎に約1時間

<提出課題など>

授業中に適宜指示する。

<成績評価方法・基準>

実習課題（80%）、授業中の取り組み（20%）で評価する。

<テキスト>

「みんなのPython【第4版】」、柴田淳著、SBクリエイティブ

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の進め方、成績評価方法等の説明

第2回 Python環境構築

Python環境 (Anaconda) のインストール、統合環境の利用方法

第3回 データ(1)

数値・変数・文字列の扱いを習得する

第4回 データ(2)

リスト・辞書・タプルの扱いを習得する

第5回 制御文

ループ (繰り返し) および条件分岐について学ぶ

第6回 関数

Pythonで関数を扱う方法について学ぶ

第7回 復習

前半の復習と問題解説

第8回 課題実習(1)

これまでの内容に関する実習課題製作

第9回 組み込み型

Pythonにおける組み込み型およびその扱い方について学ぶ

第10回 ファイル処理

Pythonにおけるファイル処理について学ぶ

第11回 関数型プログラミング

内包表記・イテレータ・ジェネレータについて学ぶ

第12回 クラスとオブジェクト

Pythonにおけるクラスとオブジェクトについて学ぶ

第13回 復習

後半の復習と問題解説

第14回 課題実習(2)

これまでの内容に関する実習課題制作

第15回 総復習

前期の総復習、実習課題解説

2022年度 前期

2.0単位

人的資源管理論

千田 直毅

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義では、経営学における人的資源管理論の基本的な理論について体系的に理解することを目的とする。とりわけ、経営における「ヒト」資源の重要性とそのマネジメントのあり方についての理論と実態を把握する。

< 到達目標 >

本講義を通じて人的資源管理の基礎を学び、自分自身が将来何らかの組織において働くということのイメージをつかんでもらうとともに、自身の将来のキャリア形成について真剣に考えることができるようになることを目標とする。

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使用して講義を行う

< 授業時間外に必要な学修 >

授業毎に約 1 時間

< 成績評価方法・基準 >

期末試験100%

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義概要と進め方

第2回 人的資源管理とは何か

経営学における人的資源管理論とはどのような学問なのか、何故重要であるのかといった点について俯瞰する

第3回 人間モデルの変遷と人的資源管理

経営学におけるヒトの捉え方の変遷と人的資源管理との関連について学ぶ

第4回 人間モデルの変遷と人的資源管理

経営学におけるヒトの捉え方の変遷と人的資源管理との関連について学ぶ

第5回 人間モデルの変遷と人的資源管理

経営学におけるヒトの捉え方の変遷と人的資源管理との関連について学ぶ

第6回 組織設計と人的資源管理

ヒトのマネジメントを円滑に行うための組織作りについて学ぶ

第7回 雇用管理

人材の採用、配置・異動のマネジメントについて学ぶ

第8回 人材育成・キャリア開発

組織で働くヒトの育て方と個人のキャリア形成のあり方について学ぶ

第9回 人材の評価と処遇

組織で働くヒトをどのように評価するのかについて学ぶ。

第10回 人材の評価と処遇

人材の評価の結果をどのように昇進や昇格などの処遇に反映するのかについて学ぶ

第11回 報酬管理

賃金をはじめとする様々な報酬にはどのようなものがあるのか、またその管理はどのようになされているのかについて学ぶ

第12回 ケース・スタディ

ここまで学んできた様々な人的資源管理の考え方について、企業の実例を用いながらその実際の設計・運用のされかたを学ぶ

第13回 労使関係

企業における労働組合の役割、労働者と経営者の関係のあり方について学ぶ

第14回 国際人的資源管理

グローバル時代のヒトのマネジメントのあり方について学ぶ

第15回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと整理を行う

2022年度 後期

2.0単位

人的資源管理論

千田 直毅

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義では、経営学における人的資源管理論の基本的な理論について体系的に理解することを目的とする。とりわけ、現代的な人的資源のありかた、人的資源管理の新しい考え方について理解することを目的とする。

< 到達目標 >

現代組織における人的限管理の理論と実践を学び、将来自分がより豊かな就労生活を実践するにはどうすればよいかを考えられる、また自己のキャリアを形成について考えることができるようになることを目指す。

< 授業の進め方 >

パワーポイントを利用して進める

< 授業時間外に必要な学修 >

授業毎に約 1 時間

< 成績評価方法・基準 >

期末試験100%

< テキスト >

上林憲雄（編）『人的資源管理【ベーシック+】』中央経済社、2,592円

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨ

講義の概要と進め方

第2回 人事部の役割

現代企業において人事部門が果たす役割について学ぶ

第3回 多様化する人材の管理

組織における女性労働者、外国人労働者など多様な人材のマネジメントについて学ぶ

第4回 多様化する雇用形態の管理

非正規雇用の増加に伴う雇用管理の変化について学ぶ

第5回 多様化する労働時間・場所の管理

裁量労働や在宅勤務など、働く時間と場所の多様化とそのマネジメントについて学ぶ

第6回 ワーク・ライフ・バランス

人間らしい労働とはどのような働き方なのか、仕事と生活の調和をどのように図っていくのかということについて学ぶ

第7回 専門職人材のマネジメント

組織において高い専門性を発揮して働く人材のマネジメントについて学ぶ

第8回 人材のリテンション

働くヒトと組織の良好な関係を維持するためのマネジメ

ントについて学ぶ

第9回 次世代リーダーの育成

現代組織に求められる新たなリーダーシップとリーダー人材の育成について学ぶ

第10回 チームワーク

集団をチームとして機能させるためのマネジメントについて学ぶ

第11回 組織学習

個人の知識や経験を組織レベルでの学習として蓄積していくことの意義、そのマネジメントについて学ぶ

第12回 働きやすい職場

現代組織において労働者が働きやすい職場を形成するためにはどのようなことを考えなければならないかを学ぶ

第13回 メンタルヘルスマネジメント

競争が激化する現代企業における労働者のメンタルヘルスマネジメントについて学ぶ

第14回 ケース・スタディ

これまで学んできた様々な人的資源管理の考え方について、企業の実例を用いながらヒトのマネジメントの実践について学ぶ

第15回 まとめ

これまでの講義のまとめと整理

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ・ツーリズム論

柳 久恒

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

：教科書（必須）を用いた課題とフィードバック中心の講義。

< 授業の目的 >

スポーツ・ツーリズムが誕生した背景や近年注目されているトピックなどを取り上げ、その知識体系について理解する。

< 到達目標 >

- ・スポーツ・ツーリズムの学問および実践内容に親しむ。
- ・スポーツ・ツーリズムの基礎的な用語について説明できる。

< 授業のキーワード >

スポーツ・ツーリズム、スポーツイベント、地域活性化

< 授業の進め方 >

教科書を用いて、スポーツツーリズムに関する事例等について説明する。

< 履修するにあたって >

- ・本授業は、指定した教科書を学生が購入し、その教科書を用いて授業を進めます。
- ・本授業の出欠は、小テストや課題レポート等の提出有

無によって判断しますので、小テストの回答やレポートを作成しやすい環境整備に努めてください。

・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とします。

・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業で小テストやレポート課題の提出を義務付けるので、教科書の指定した箇所の復習と予習が必要となる(およそ2時間程度)。

< 提出課題など >

・毎回の授業で小テストやレポート課題等の提出を義務付けるので、教科書の指定した箇所の復習と予習が必要となる(およそ2時間程度)

・小テストやレポート課題等には提出期限を設け、後日の授業等でフィードバックを行う

・レポート課題の作成には、課題内容に適した資料の検索と収集、読解を推奨する場合がある

< 成績評価方法・基準 >

・小テスト(55%)とレポート課題(35%)、アンケート(10%)で評価する

・小テスト等は1回5点満点、レポート課題は1回10点満点とし、最終レポートのみ15点満点とする

・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とする

< テキスト >

原田宗彦、木村和彦(編著)「スポーツ・ヘルスツーリズム」(スポーツビジネス叢書)、大修館書店(2009年)、2,000円(税抜)

< 参考図書 >

日本スポーツツーリズム推進機構(編)「スポーツツーリズム・ハンドブック」、学芸出版社(2015年)。

原田宗彦(著)「スポーツ地域マネジメント 持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略」、学芸出版社(2020年)。

原田宗彦(著)「スポーツイベントの経済学-メガイイベントとホームチームが都市を変える」、平凡社(2002年)。

原田宗彦(著)「スポーツ都市戦略:2020年後を見すえたまちづくり」、学芸出版社(2016年)。

ジェームス・ハイナム、トム・ヒンチ(著)「スポーツツーリズム入門」、晃洋書房(2020年)。

高松平蔵「ドイツのスポーツ都市 健康に暮らせるまちの作り方」、学芸出版社(2020年)。

愛知東邦大学地域創造研究所(編)「持続可能なスポーツツーリズムへの挑戦 (地域創造研究叢書 33)」、唯学書房(2020年)。

ほか

< 授業計画 >

1 ガイダンス

講義の進め方について説明し、目標を理解する。

2 新しい生活様式とスポーツツーリズム【映像教材】
映像教材を視聴してレポートを作成する。

3 ツーリズムの歴史的発展

ツーリズムの歴史的発展について学ぶ。(テキスト第1章)

4 スポーツ・ツーリズムの概念と現状

スポーツ・ツーリズムの概念と現状について学ぶ。(テキスト第2章)

5 スポーツ・ツーリズムの対象と事例

スポーツ・ツーリズムの対象と事例について学ぶ。(テキスト第3章)

6 ゲストスピーカーによる講演

ゲストスピーカーを招き、講演会を開催する。

7 スポーツ・ツーリズムにおける観光行動

スポーツ・ツーリズムにおける観光行動について学ぶ。(テキスト第4章)

8 旅行業とスポーツ・ツーリズム

旅行業とスポーツ・ツーリズムについて学ぶ。(テキスト第5章)

9 スポーツ・ツーリズムのインパクト

スポーツ・ツーリズムのインパクトについて学ぶ。(テキスト第6章)

10 スポーツ・ツーリズムのマーケティング

スポーツ・ツーリズムのマーケティングについて学ぶ。(テキスト第7章)

11 スポーツ・ツーリズムと地域振興

スポーツ・ツーリズムと地域振興について学ぶ。(テキスト第8章)

12 日本のスポーツ・ツーリズムの現状と課題

日本のスポーツ・ツーリズムの現状と課題について検討する。(テキスト第9章)

13 日本のスポーツ・ツーリズムの現状と課題

日本のスポーツ・ツーリズムの現状と課題について検討する。(テキスト第9章)

14 国際市場におけるスポーツ・ツーリズム

国際市場におけるスポーツ・ツーリズムについて学ぶ。(テキスト第10章)

15 スポーツ・ツーリズムの将来

スポーツ・ツーリズムの将来について検討する。(テキスト第11章)

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ・ビジネス論

柳 久恒

< 授業の方法 >

「対面授業」

: 教科書を用いた課題とフィードバック中心の教育。

< 授業の目的 >

本講義は、スポーツビジネスをテーマとしてその諸相について事例を紹介しながら解説する。スポーツビジネスは、スポーツ組織や選手のみならず、多くのステークホルダー（利害関係者）によって成り立っている。本講義の受講生は、さまざまなスポーツビジネスの内容について認識し、課題を解決するための方法論について思考する。

< 到達目標 >

- ・スポーツビジネスの内容について説明することができる。
- ・スポーツビジネスの基礎的な用語について説明できる。

< 授業のキーワード >

スポーツ、ビジネス

< 授業の進め方 >

スポーツビジネスが誕生した背景や現在注目されているトピックなどを取り上げ、その知識体系について事例や資料を用いながら解説する。

< 履修するにあたって >

- ・本授業は、指定した教科書を学生が購入し、その教科書を用いて授業を進めます。
- ・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とします。
- ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業で小テストやレポート課題の提出を義務付けるので、テキストの指定した箇所の復習と予習が必要となる（およそ2時間程度）。

< 提出課題など >

- ・毎回の授業で小テストやレポート課題の提出を義務付けるので、テキストの指定した箇所の復習と予習が必要となる（およそ2時間程度）
- ・小テストやレポート課題には提出期限を設け、後日の授業等でフィードバックを行う
- ・レポート課題の作成には、課題内容に適した資料の検索と収集、読解を推奨する場合がある

< 成績評価方法・基準 >

- ・小テスト等（65%）とレポート課題（35%）で評価する
- ・小テストは1回5点満点、レポート課題は1回10点満点とし、最終レポートのみ15点満点とする
- ・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とする

< テキスト >

原田宗彦（編著）「スポーツ産業論 第7版」、杏林書院（2021年）、2,750円（税込）。

< 参考図書 >

水野誠、三浦麻子、稲水信行（編著）「プロ野球『熱狂』の経営科学」、東京大学出版会（2016年）。

カーター、D・M.、ロベル・D（著）原田宗彦（訳）「アメリカ・スポーツビジネスに学ぶ経営戦略」、大修館書店（2006年）。

天野春果（著）「スポーツでこの国を変えるために スタジアムの宙にしあわせの歌が響く街」、小学館（2016年）。

島田慎二（著）「千葉ジェッツの奇跡」、角川書店（2017年）。

黒田次郎、石塚大輔、荻原悟一（編著）「スポーツビジネス概論2」、叢文社（2016年）。

武藤泰明（著）「スポーツの資金と財務」、大修館書店（2014年）。

西野努、藤原兼蔵、三浦太（著）「プロスポーツ・ビジネス羅針盤」、税務経理協会（2014年）ほか。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方について説明し、目標や評価方法を理解する。

第2回 スポーツ産業とは

スポーツ産業の特徴について学ぶ。（テキスト第1章）

第3回 スポーツ産業とは

スポーツ用品産業のビジネスについて学ぶ。（テキスト第2章）

第4回 スポーツ産業とは

スポーツ施設産業のビジネスについて学ぶ。（テキスト第3章）

第5回 スポーツ産業とは

スポーツ・サービス産業について学ぶ。（テキスト第4章）

第6回 スポーツ産業とは

スポーツとメディア産業について学ぶ。（テキスト第5章）

第7回 プロスポーツビジネスを知る

日本のプロ・スポーツビジネスについて学ぶ。（テキスト第18章）

第8回 プロスポーツビジネスを知る

アメリカのプロ・スポーツビジネスについて学ぶ。（テキスト第19章）

第9回 プロスポーツビジネスを知る

ヨーロッパのプロ・スポーツビジネスについて学ぶ。（テキスト第20章）

第10回 プロスポーツビジネスを知る

プロ選手制度とスポーツエージェントについて学ぶ。（テキスト第21章）

第11回 プロスポーツビジネスを知る

権利ビジネスとしてのスポーツについて学ぶ。（テキスト第22章）

第12回 プロスポーツビジネスを知る

スポーツツーリズムについて学ぶ。（テキスト第23章）

第13回 プロスポーツビジネスを知る

スポーツと地域活性化戦略について学ぶ。(テキスト第24章)

第14回 プロスポーツビジネスを知る

スポーツと社会的責任について学ぶ。(テキスト第25章)

第15回 スポーツビジネスの課題と総括

スポーツビジネスにおける課題について検討する。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ・マーケティング論

柳 久恒

< 授業の方法 >

「対面授業」

: 教科書や資料を用いた課題とフィードバック中心の教育。

< 授業の目的 >

本授業は、スポーツ・マーケティングに着目し、その入門編と位置づけて講義を行う。講義の内容は、スポーツ・マーケティングが誕生した背景や近年注目されているトピックなどを取り上げ、その知識体系について解説する。

< 到達目標 >

- ・スポーツ・マーケティングの学問および実践内容に親しむ。
- ・スポーツ・マーケティングの基礎的な用語について説明できる。

< 授業のキーワード >

スポーツ、マーケティング

< 授業の進め方 >

テキストを用いてスポーツ・マーケティングとスポーツ・マネジメントに関する事例等について説明し、議論する。

< 履修するにあたって >

- ・本授業は、指定した教科書を学生が購入し、その教科書を用いて授業を進めます。
- ・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とします。
- ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業で小テストやレポート課題の提出を義務付けるので、テキストの指定した箇所の復習と予習が必要となる(およそ2時間程度)。

< 提出課題など >

- ・毎回の授業で小テストやレポート課題の提出を義務付けるので、テキストの指定した箇所の復習と予習が必要となる(およそ2時間程度)
- ・小テストやレポート課題には提出期限を設け、後日の

授業等でフィードバックを行う

- ・レポート課題の作成には、課題内容に適した資料の検索と収集、読解を推奨する場合があります

< 成績評価方法・基準 >

- ・小テスト等(65%)とレポート課題(35%)で評価する

- ・小テストは1回5点満点、レポート課題は1回10点満点とし、最終レポートのみ15点満点とする

- ・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とする

< テキスト >

原田宗彦、藤本淳也、松岡宏高 編著「スポーツマーケティング改訂版」(スポーツビジネス叢書)、大修館書店(2016年)、2,200円(税抜)。

< 参考図書 >

エステベ・カルサーダ(著)、小澤一郎(訳)「SHOW ME THE MONEY ビジネスを勝利に導くFCバルセロナのマーケティング実践講座」、ソルメディア(2013年)。

アラン・フェラン/ジャン=ルー・シャペレ/ベノワ・スガン(著)、原田宗彦(監訳)「オリンピック・マーケティング」、スタジオタッククリエイティブ(2013年)。

原田宗彦・押見大地・福原宗之(著)「Jリーグマーケティングの基礎知識」、創文企画(2013年)

B.G.ピッツ・D.K.ストットラー(編著)、首藤禎史・伊藤友章(訳)「スポーツ・マーケティングの基礎〔第2版〕」、白桃書房(2006年)。

ジョン・スポールストラ(著)、中道暁子(訳)「エスキモーに氷を売る」、きこ書房(2012年)。

天野春果(著)「僕がバナナを売って算数ドリルをつくるワケ」、小学館(2011年)。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方について説明し、目標を理解する。

第2回 スポーツマーケティングとは

スポーツマーケティングの特徴と定義について学ぶ。(テキスト第1章)

第3回 スポーツプロダクトとは

スポーツプロダクトの特徴と経験について学ぶ。(テキスト第2章)

第4回 スポーツ消費者を理解するためのリサーチ

スポーツ消費者を理解するために、マーケティング・リサーチについて学ぶ。(テキスト第3章)

第5回 消費者としてのスポーツ参加者

スポーツ参加者の消費行動について学ぶ。(テキスト第4章)

第6回 消費者としてのスポーツ観戦者

スポーツ観戦者の特性について学ぶ。(テキスト第5章)

第7回 スポーツ市場のセグメンテーション

マーケティングのプロセスとして、スポーツ市場のセグ

メンターションを学ぶ。(テキスト第6章)

第8回 マーケティングミックス
 マーケティングミックスの開発について学ぶ。(テキスト第7章)

第9回 プロモーション
 スポーツに関するプロモーションについて学ぶ。(テキスト第8章)

第10回 スポーツ・スポンサーシップ
 スポーツ・スポンサーシップの発展や現状について学ぶ。(テキスト第9章)

第11回 ブランディング
 スポーツのブランディングについて学ぶ。(テキスト第10章)

第12回 ソーシャルメディアマーケティング
 ソーシャルメディアを用いたマーケティングについて学ぶ。(テキスト第11章)

第13回 スポーツマーケティングの可能性
 日本におけるスポーツマーケティングの将来的課題について学ぶ。(テキスト第12章)

第14回 スポーツマーケティングの可能性
 日本におけるスポーツマーケティングの将来的課題について学ぶ。(テキスト第12章)

第15回 スポーツマーケティング論の総括
 スポーツマーケティング論の総括

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ・マーケティング論

柳 久恒

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

: 教科書(必須)を用いた課題とフィードバック中心の講義。

< 授業の目的 >

スポーツ・マーケティングとマネジメントの背景や、近年注目されているトピックなどを取り上げ、その知識体系について理解する。

< 到達目標 >

・スポーツ・マーケティングの学問および実践内容に親しむ

・スポーツ・マーケティング用語について説明できる

< 授業のキーワード >

スポーツ・マーケティング、スポーツマネジメント

< 授業の進め方 >

スポーツ・マーケティングとスポーツマネジメントに関する事例について、教科書と資料などを用いて説明する。

< 履修するにあたって >

・本授業は、指定した教科書を学生が購入し、その教科書を用いて授業を進めます。

・本授業の出欠は、小テストや課題レポート等の提出有無によって判断しますので、小テストの回答やレポートを作成しやすい環境整備に努めてください。

・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とします。

・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業で小テストやレポート課題等の提出を義務付けるので、教科書の指定した箇所の復習と予習が必要となる(およそ2時間程度)。

< 提出課題など >

・毎回の授業で小テストやレポート課題の提出を義務付けるので、教科書の指定した箇所の復習と予習が必要となる(およそ2時間程度)

・小テストやレポート課題等には提出期限を設け、後日の授業等でフィードバックを行う

・レポート課題の作成には、課題内容に適した資料の検索と収集、読解を推奨する場合があります

< 成績評価方法・基準 >

・小テスト(55%)とレポート課題(35%)、アンケート(10%)で評価する

・小テスト等は1回5点満点、レポート課題は1回10点満点とし、最終レポートのみ15点満点とする

・開講授業のうち2/3以上欠席した場合は、成績評価対象外とする

< テキスト >

原田宗彦・小笠原悦子(編著)「スポーツマネジメント 改訂版」(スポーツビジネス叢書)、大修館書店(2015年)、1,900円(税抜)。

< 参考図書 >

小林至(著)「[新装改訂版]スポーツの経済学」、PHP研究所(2019年)。

間野義之(編)「東京大学大学院特別講義 スポーツビジネスイノベーション」、日経BP(2019年)。

中村武彦(著)「MLSから学ぶスポーツマネジメント 躍進するアメリカサッカーを読み解く」、東洋館出版社(2018年)。

早稲田大学スポーツナレッジ研究会(編)「スポーツ・ファン・マネジメント」、創文企画(2016年)。

早稲田大学スポーツナレッジ研究会(編)「これからのスポーツガバナンス」、創文企画(2020年)。

笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ(2018) スポーツライフに関する調査報告書」、(2018年)。

笹川スポーツ財団「子ども・青少年のスポーツライフ・データ(2019) 4~21歳のスポーツライフに関する調査報告書」、(2019年)。

笹川スポーツ財団「スポーツ白書(2020) 2030年のスポーツのすがた」、(2020年)。

ほか

< 授業計画 >

1 ガイダンス

講義の進め方について説明し、目標を理解する。

2 スポーツマネジメントとは？

映像教材を視聴してレポートを作成する

3 スポーツマネジメントをめぐる社会的背景

スポーツマネジメントの時代について学ぶ。(テキスト第1章)

4 スポーツマネジメントをめぐる社会的背景

スポーツマネジメントの時代について学ぶ。(テキスト第1章)

5 スポーツマネジメントの発展

スポーツとメディアの関係、スポーツと人的資源の関係について学ぶ(テキスト第2章)

6 ゲストスピーカーによる講演

ゲストスピーカーを招き、講演会を開催する

7 スポーツ関連組織のマネジメント

スポーツ関連組織のマネジメントについて学ぶ(テキスト第3章)

8 組織行動と発展

スポーツ組織の統治(ガバナンス)と戦略について学ぶ。(テキスト第4章)

9 スポーツマネジメントに必要な法知識

スポーツマネジメントに必要な法知識について学ぶ。(テキスト第5章)

10 スポーツチームのマネジメント

スポーツチームのマネジメントについて学ぶ。(テキスト第6章)

11 スポーツリーグのマネジメント

スポーツリーグのマネジメントについて学ぶ。(テキスト第7章)

12 トップスポーツ選手のマネジメント

トップスポーツ選手のマネジメントについて学ぶ。(テキスト第8章)

13 スポーツ組織のマネジメント

スポーツ組織のマネジメントについて学ぶ。(テキスト第9章)

14 スポーツファンのマネジメント

スポーツファンのマネジメントについて学ぶ。(テキスト第10章)

15 スポーツファンのマネジメント

スポーツファンのマネジメントについて学ぶ。(テキスト第10章)

2022年度 前期

2.0単位

スモール・ビジネス論

江頭 寛昭

< 授業の方法 >

遠隔授業(オンデマンド)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。経営商学コースの選択必修科目の一つで、「経営学総論」で学ぶ基礎知識を必要とします。

私たちの生活に欠かすことのできない家電製品や自動車をはじめとする工業製品や、生活の利便性を高め、豊かな暮らしを支えてくれている様々な商品やサービスの提供など、社会のあらゆる場面で中小企業は重要な役割を果たしています。また、他方で中小企業は私たちの働く場の提供者としても重要な役割を果たしています。このように私たちの暮らしにとって重要で、産業の中で大きな役割を果たしている中小企業の特徴と中小企業を取り巻く環境について、多様な情報に接し、評価・解釈し理解したことを表現できるようになることを目的とする。なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究員として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な例をもとに企業活動の実際を紹介する。

< 到達目標 >

この授業では、中小企業の戦後の歴史的な変遷と中小企業を取り巻く現代の経営環境の特徴を中心に概括的に理解し、中小企業の社会における役割について評価し判断することができる。

< 授業のキーワード >

中小企業、経営資源、グローバル化、経済成長、自生的産業

< 授業の進め方 >

テキストに沿って作成した配布資料(OneDriveにより配布)をもとに授業を進め、適宜簡単なレポートを提出していただきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の講義までに、20分~30分程度の予習が必要です。

< 提出課題など >

授業期間中2~3回ほど学習度確認のための小テスト(レポート)を課します。

< 成績評価方法・基準 >

授業期間中に実施するレポート(100%)をもとに評価します。

< テキスト >

植田浩史、桑原武志他著『中小企業・ベンチャー企業論(新版)』有斐閣コンパクト

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義で取り扱う内容について概説するとともに、講義の進め方や評価方法についてガイダンスを行います。

第2回 中小企業とは

講義で取り上げる主要な対象となる中小企業とはどんな存在で、産業の中でどんな役割を果たしているのかについてお話しします。

第3回 日本経済と中小企業

日本経済のなかで、中小企業はどの程度の位置を占め、どのような課題を抱えているのか、について説明します。

第4回 経済発展と中小企業

明治以降の産業の近代化とその目覚ましい発展の中で中小商工業がどのような形で存在し、産業の中でどのように位置づけられているのかを概説します。

第5回 経済発展と中小企業

戦後の日本経済は復興期を経て1950年代中ごろから世界に例を見ない長期にわたる高度成長を遂げますが、ここでは中小企業の存在の在り方と中小企業が産業に果たす役割が特に注目されました。また、この時期に戦後の本格的な中小企業政策が始まりました。この間の中小企業が果たした役割と中小企業政策の特徴について概説します。

第6回 経済発展と中小企業

1970年代は71年のドルショック、73年の第一次石油危機などを契機に国際経済システムが大きく変化したが、80年前半にかけての安定成長期は中小企業の発展を基に日本の産業競争力に対する注目が注がれた時期で、この時期に見直しが進んだ中小企業の役割について解説します。

第7回 経済発展と中小企業

1985年のプラザ合意以降、日本の産業は長らく続く円高の動きに苦しみながら、その構造を大きく変化させていきました。特にバブル崩壊以降は失われた10年といわれる経済の低迷が長らく続きました。このように厳しい状況の中での中小企業の状況を概観し、中小企業に新たに求められる役割について解説します。

第8回 大企業と中小企業

21世紀に入ってから日本経済はリーマンショック、東日本大震災等相次ぐ危機に見舞われるとともに、成熟化、グローバル化の一層の進展により経済環境は激しく変化しており、日本経済を支えてきた中小企業が今後果たすべき役割について検討します。

第9回 大企業と中小企業

大企業と中小企業とはどのように違うのだろうか。誰もがイメージできる企業規模の違い以外にどのような違いがあるのか、その違いを企業自身が持つ違いと企業が置かれる環境の違いから説明します。

第10回 地域経済と中小企業

中小企業の存在は地域経済と密接にかかわりあっており、地域経済の発展には中小企業の存在を欠かすことができない。そこで、地域経済と中小企業の結びつきについてみていきます。

第11回 地域経済と中小企業

地域経済の発展には、地域経済の原動力となる「地域産業」をいかに充実させていくかという「地域産業政策」

が必要となるが、有効な「地域産業政策」としてより有効といわれている「内発的発展論」について概説する。

第12回 海外の中小企業

中小企業は日本ばかりでなく、多くの国々で産業の大多数を占め、社会の中で重要な役割を果たしている。90年代以降国内の中小企業に注目が集まった際には、海外の中小企業の特徴から日本の中小企業をとらえなおす動きに結び付いた。そこで海外の中小企業と産業集積が注目された。こうした海外の中小企業をとらえる動きについて紹介する。

第13回 海外の中小企業

前回紹介した海外の中小企業の特徴はそれぞれの国の産業が有する特徴によって異なり、その違いはその国が定める中小企業の定義の違いに反映される。ここでは各国の中小企業の定義について紹介する。加えて、海外の中小企業の例として近年著しい経済の発展を見せているタイの中小企業を紹介する。

第14回 中小企業金融

中小企業向けの資金供給機関としては、銀行、信用金庫、信用組合があるが、いずれも債務保証の必要な間接金融であり、資産保有が少なく担保能力の低い中小企業には十分な機能を果たすことができてはいない。

第15回 中小企業金融

十分な資金調達機会を中小企業が確保するために必要となる、新たな資金調達手法を紹介し、今後の中小企業金融の方向性について示唆する。

2022年度 後期

2.0単位

スモール・ビジネス論

江頭 寛昭

< 授業の方法 >

遠隔授業(オンデマンド)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。経営商学コースの選択必修科目の一つで、「経営学総論」で学ぶ基礎知識を必要とします。

私たちの生活に欠かすことのできない家電製品や自動車をはじめとする工業製品や、生活の利便性を高め、豊かな暮らしを支えてくれている様々な商品やサービスの提供など、社会のあらゆる場面で中小企業は重要な役割を果たしています。加えて、国内経済を新たにけん引する力として起業活動に注目が注がれています。また、他方で新規創業企業も含めて、中小企業は私たちの働く場の提供者としても重要な役割を果たしています。このように私たちの暮らしにとって重要で、産業の中で大きな役

割を果たしている中小企業の特徴とイノベーション、中小企業を取り巻く環境について、多様な情報に接し、評価・解釈し理解したことを表現できるようになることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究者として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な例をもとに企業活動の実際を紹介する。

<到達目標>

この授業では、スモールビジネス論 で学んだ中小企業についての概括的な理解を基礎として、産業社会の中での中小企業存立の特徴である産業集積、ネットワークと存立条件となる事業継承、新たな経済のけん引力として期待される起業活動とイノベーションを中心に現代のスモールビジネスの特質について理解し、スモールビジネスの社会における役割について評価し判断することができる。

<授業のキーワード>

中小企業、日本の下請けシステム、イノベーション、ベンチャー

<授業の進め方>

配布資料に沿って授業を進めます。また、授業の理解度を確認するため授業期間中に2回と最終回の授業の際に簡単なレポートを課します。

<履修するにあたって>

この授業では、スモールビジネス論 での知識習得を前提として講義を進めますので、できるだけスモールビジネス論 の単位を修得したうえで受講してください。

<授業時間外に必要な学修>

配布資料に沿って、毎回20分～30分程度の学習が必要です。

<提出課題など>

授業期間中に2回と最終回(計3回)簡単なレポートを課します。課題内容は適宜授業中にお伝えするとともに、Dot Campus で公表します。

<成績評価方法・基準>

授業期間中に実施する簡単なレポート(3回程度)の結果をもとに評価します。

<テキスト>

植田浩史、桑原武志他著『中小企業・ベンチャー企業論(新版)』有斐閣コンパクト

<参考図書>

渡辺幸男、小川正博他著『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義で取り扱う内容について概説するとともに、講義の

進め方や評価方法についてガイダンスを行います。

第2-4回 下請けシステムとものづくり中小企業

日本のものづくりにとって重要な役割を担ってきた日本の下請システムについて解説するとともに、今日の経済の中でどのように変化しているのかをみていく。

第5-7回 国際化と中小企業

中小企業を取り巻く激しい環境変化の中で、国際化も重要な要素の一つである。新興国の台頭や貿易の活発化、製造業の海外進出など、中小企業の視点から国際化の現状を捉えていきます。

第8,9回 事業承継と中小企業

近年、日本の企業数の減少が続いている。その主要な要因の一つとして、厳しい経営環境の中で後継者の確保が困難になっていることが指摘されている。後継者難による倒産・廃業は雇用の面でも大きな影響をもたらすと考えられる。ここでは産業、社会にとって重要な問題となっている中小企業の事業承継について考える。

第10-13回 集積・ネットワークを生かす中小企業

経営資源に乏しい中小企業が自らの強みに特化して特徴を発揮できるためには、複数の中小企業が強みを持ち寄って力を発揮する必要があります。その力を発揮する場として特定地域に企業が集中する産業集積の果たす役割の重要性が近年認められるようになっていきます。また、集積の中で中小企業はネットワークを克つ要することで限られた資源を補い強みを発揮しているといわれています。ここではこの産業集積とネットワークについて取り上げます。

第14,15回 地域とともに生きる中小企業

大企業に比べ中小企業は取引や雇用の面で立地地域との結びつきが強くならざるを得ず、事業に直接かわりがない場合でも、中小企業の存続にとって地域社会との良好な関係を築いていくことが重要となります。ここでは、こうした中小企業と地域社会との結びつきについて考えます。

2022年度 前期

2.0単位

税務会計論 【19-】 / 税務会計 【-18】

河瀬 豊

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

【目的等】

所得税に関する税務会計を学ぶ。所得税を理解するためには、まず所得税の計算ができるようになることが必要であろう。この講義では、現行税制において個人の所得税を正しく計算するために必要な知識を担当教員が説明する。やる気のある2年生及び着実に学修してきた3年

生以上の履修が望まれる。

【必要記載事項】

なお、この科目の担当者は、税理士業務を10年以上経験していた実務経験のある教員でもある。必要に応じて具体的に実務上どのように税法が適用されているかも解説したい。

本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシーに示す「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」ことを目指す。簿記論や会計学総論の学修後に（若しくは並行して）履修すべき応用的な内容である。本科履修後、税務会計論を履修することを想定している。

<到達目標>

・個人の所得税額を計算できるようになる。

<授業のキーワード>

税務会計，所得税

<授業の進め方>

授業は講義形式で行う。問題演習をする時間はほとんど取れないので、各自授業時間外に計算練習をすること。教科書以外に電卓と条文を使用するので、各自準備すること。

受講生の理解状況や進行状況によっては、内容を変更することもある。

<履修するにあたって>

日商簿記3級程度の知識は前提とするので、簿記論

を履修済みであることが望ましい。民法，行政法，憲法などの知識も若干必要であり、できるだけ並行して履修することが望ましい。税務会計は多くの前提知識を必要とするため、2年生でこれまでの学修に不安がある者はこれらの科目を履修及び復習した後に、3年生以降に履修することも検討して欲しい。

また、会計学特講で税の学修に必要な前提知識を学べる。

教科書、電卓、条文を持参すること。条文の入手方法は初回で説明する。

<授業時間外に必要な学修>

法律科目を履修したことがない受講生は、法律科目を並行して履修するか、初回の授業前に指定図書や法律学の入門書を読んでおくこと。

事前に教科書を読んでから授業に出席すること。

授業後は、教科書、条文をよく読み、問題練習をすること。

<成績評価方法・基準>

原則として、定期試験100%（コロナ禍の状況により、レポート等に変更する可能性もある。）

（講義に貢献した受講生に加点する場合もある。受講態度が著しく悪い受講生に対しては、減点したり、単位を認めないこともある。）

<テキスト>

全国経理協会編（2022）『令和4年版 演習所得税法』

清文社

<参考図書>

【指定図書】（履修するにあたって、読んでおくことが望ましいもの）

金子宏他『税法入門』有斐閣（最新のもの）。

佐藤英明（2021）『プレップ租税法＜第4版＞』弘文堂。

藤本清一『所得税入門の入門』税務研究会出版局（最新のもの）。

小田満『基礎から身につく所得税』大蔵財務協会（最新のもの）。

【参考図書】（復習，発展的な学修の参考になる図書）

金子宏『租税法』弘文堂（最新のもの）。

佐藤英明（2020）『スタンダード所得税法 第2版補訂2版』弘文堂。

櫻田譲・中島茂幸編（2018）『Newベーシック税務会計＜個人課税編＞』五紘舎。

中里実・増井良啓編『租税法判例六法』有斐閣（最新のもの）。

『実務税法六法（法令編・通達編）』新日本法規出版（最新のもの）。

吉沢浩二郎編『図説 日本の税制』財経詳報社（最新のもの）。

藤原忠文編（2017）『税務相談事例集－各税目の視点からの解説＜平成29年版＞』大蔵財務協会。

注解所得税法研究会編（2019）『注解所得税法（6訂版）』大蔵財務協会。

武田昌輔監修『DHCコンメンタール所得税法』第一法規。

三又修他編（2021）『所得税基本通達逐条解説 令和3年版』大蔵財務協会。

松崎啓介編『図解所得税』大蔵財務協会（最新のもの）。

【参考URL】

税大講本{<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>,<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>}

国税庁{<https://www.nta.go.jp/>,<https://www.nta.go.jp/>}

財務省{https://www.mof.go.jp/tax_policy/,https://www.mof.go.jp/tax_policy/}

政府税制調査会{<https://www.cao.go.jp/zei-cho/>,<https://www.cao.go.jp/zei-cho/>}

<授業計画>

第1回 ガイダンス及び税金の基礎知識1

評価方法及び注意事項，並びに条文等授業に必要なもの入手方法の説明。税金の学習をするにあたって前提となる基礎知識を確認する。

第2回 所得税の概要

所得税の概要について学ぶ。

第3回 所得税の基本事項

納税義務者，所得概念，および非課税所得

第4回 利子所得および配当所得

利子所得および配当所得，ならびに配当控除

第5回 事業所得 1

事業所得の範囲，事業所得の計算など

第6回 事業所得 2

収入金額など

第7回 事業所得 3

必要経費など

第8回 事業所得 4

必要経費の続き，青色申告，帳簿制度など

第9回 不動産所得 1

不動産所得の範囲，所得の計算など

第10回 不動産所得 2

事業と業務

第11回 山林所得および譲渡所得

山林所得および譲渡所得

第12回 譲渡所得

分離課税の譲渡所得

第13回 給与所得

給与所得の範囲，所得の計算，フリンジベネフィットなど

第14回 退職所得，一時所得，および雑所得

退職所得，一時所得および雑所得

第15回 所得控除

各種所得控除

2022年度 後期

2.0単位

税務会計論 【19-】 / 税務会計 【-18】

河瀬 豊

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

法人税を理解するには、法人の課税所得の計算ができるようになることが必要であろう。この講義では、法人の課税所得を計算するための知識を説明する。各種試験の基礎知識の習得にも役立つであろう。内容はやや高度で多くの前提知識を必要とするため、意欲のある2年生又は十分に学修した3年生以上に履修してもらいたい。

本科目は、経営学部のディプロマ・ポリシーに示す「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」ことを目指す。本科目は、税務会計論 の履修後に受講することを想定している。本科目の履修後、さらに税について学修したい学生には発展的な科目として租税論がある。

なお、この科目の担当者は、税理士業務を10年以上経験していた実務経験のある教員でもある。したがって、必要に応じて税法が実務上具体的にどのように適用されているかを解説したい。

< 到達目標 >

法人の課税所得を計算できるようになる。

< 授業のキーワード >

法人税，課税所得

< 授業の進め方 >

授業は講義形式で行い、課税所得の計算についても少しは説明するが、授業時間の制約により問題演習の多くは自習となる。教科書の他に電卓と条文を使用するので、各自準備しておくこと。

受講生の理解度や進捗の状況に応じて、内容を変更することがある。

大学が授業形態を指定した場合や新型コロナウイルスの感染状況などから授業の進め方は学期の途中でも変更する可能性があります。

< 履修するにあたって >

法人の課税所得は会計上の当期純利益をもとに計算される。したがって、法人税に関する学習をする前に当期純利益がどのように計算されるのかを知らないと、課税所得の計算もできない。このような理由から、簿記2級程度の知識は前提とする。税務会計 ，簿記論（基礎会计学） ・ を履修済みであり、さらに、商業簿記（上級簿記）を履修済み、または、並行して履修すること。また、会社法の知識も少しは必要となるので履修済み又は並行して履修することが望ましい。これまでの学修に不安がある者はこれらの科目を履修及び復習した後に3年生以降に受講することも検討して欲しい。

授業には、教科書、電卓、条文を持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に教科書の該当部分を読み、必要な条文や通達を調べる。授業後は、教科書、条文をよく読み、問題練習をすること。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、期末試験 100%

（講義に貢献した受講生に加点する場合もある。受講態度が著しく悪い受講生に対しては、減点したり、単位を認めない場合がある。）

< テキスト >

中嶋茂幸・櫻田譲編（2020）『Newベーシック税務会計

< 企業課税編 >』五紘舎。

< 参考図書 >

【指定図書（履修するにあたって、読んでおくことが望ましい図書）】

全国経理教育協会編『入門税法』清文社（令和3年度版）。

辻敢・齊藤幸司『法人税入門の入門』税務研究会出版局（最新のもの）。

有賀文宣『基礎から身につく法人税』大蔵財務協会（最新のもの）。

【参考図書（復習，発展的な学修の参考になる図書）】

鈴木一水（2013）『税務会計分析』森山書店。

成道秀雄監，坂本雅士編『現代税務会計論』中央経済社（最新のもの）。

渡辺徹也（2019）『スタンダード法人税法 第2版』弘文堂。

岡村忠生（2007）『法人税法講義』成文堂。

金子宏『租税法』弘文堂（最新のもの）。

中里実・増井良啓編『租税法判例六法』有斐閣（最新のもの）。

『実務税法六法（法令編・通達編）』新日本法規出版（最新のもの）。

藤原忠文編（2017）『税務相談事例集—各税目の視点からの解説<平成29年版>』大蔵財務協会。

武田昌輔監修『DHCコンメンタール法人税法』第一法規。

武田昌輔編『DHC会社税務釈義』第一法規。

小原一博編（2021）『法人税基本通達逐条解説（十訂版）』税務研究会出版局。

白井純夫編『図解法人税』大蔵財務協会（最新のもの）。

鈴木基史『対話式法人税申告書作成ゼミナール』清文社（最新のもの）。

【参考URL】

税大講本{<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>,<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>}

国税庁{<https://www.nta.go.jp/>,<https://www.nta.go.jp/>}

財務省{https://www.mof.go.jp/tax_policy/,https://www.mof.go.jp/tax_policy/}

政府税制調査会{<https://www.cao.go.jp/zei-cho/>,<https://www.cao.go.jp/zei-cho/>}

< 授業計画 >

第1回 法人税法の基礎的事項
ガイダンス，法人税の納税義務者など

第2回 課税所得と法人税額の計算
所得概念，法人税額

第3回 益金の額
益金

第4回 益金，損金，及び公正処理基準
益金の続き，損金，及び公正処理基準

第5回 ・寄附金
・利益積立金
・寄附金
・利益積立金，資本金等，課税所得の計算構造

第6回 受取配当等
受取配当等，所得税額の控除

第7回 棚卸資産
棚卸資産

第8回 租税公課
租税公課

第9回 減価償却

減価償却

第10回 圧縮記帳

圧縮記帳

第11回 繰延資産，役員及び同族会社
繰延資産，役員の範囲，同族会社など

第12回 役員給与

役員給与，使用人給与

第13回 交際費等

交際費等

第14回 貸倒損失及び貸倒引当金

貸倒損失，貸倒引当金

第15回 その他

繰越欠損金，その他項目

2022年度 後期

2.0単位

専門基礎講義【19-】

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式授業を予定しています。

< 授業の目的 >

日商簿記検定3級を受験する学生を対象とするもの。

< 到達目標 >

日商簿記検定3級に合格すること。

< 授業のキーワード >

簿記・仕訳・損益計算書・貸借対照表

< 授業の進め方 >

検定試験向けに特化した教材を使用し、解説と答練の反復学習を行う。

< 履修するにあたって >

日商簿記検定3級の合格を目指す意識があること。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習によって理解の定着が必要。

< 提出課題など >

適時に課題を課す。

< 成績評価方法・基準 >

課題等により評価する。

< テキスト >

初回の講義で提示する。

< 参考図書 >

特になし。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス（簿記の目的）

簿記の必要性について概説する。

第2回 簿記一巡

簿記の流れについて説明する。

第3回 商品売買

商品仕入れの基本的仕訳を説明する。

第4回 商品売買

仕入れに際しての、諸掛費などを説明する。

第5回 現金および預金

現金の処理に関する仕訳を説明する。

第6回 手形・電子記録債権・債務

手形および電子記録による債権・債務について説明する。

第7回 有形固定資産

有形固定資産の取得・売却について説明する。

第8回 その他の債権・債務

諸種の債権・債務について説明する。

第9回 株式会社の資本

会社の資本金制度について説明する。

第10回 税金

消費税の制度について説明する。

第11回 その他の勘定・訂正仕訳

仕訳にともなう訂正に関して説明する。

第12回 試算表の作成

試算表の仕組みについて説明する。

第13回 伝票

伝票制度について説明する。

第14回 決算

決算の制度や考え方、整理・修正仕訳を説明する。

第15回 学習確認

学習内容の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

専門基礎講義 【19-】

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

専門選択科目に属し、2年次以上の経営学部専門教育科目への導入科目として位置づけられる。

特に本講義では情報処理技術者試験の一つであるITパスポート試験の合格を目標とする。このために、必要となる基礎知識を広範囲に理解するとともに、演習問題を数多く解く。

< 到達目標 >

コンピュータや周辺機器の特徴と動作原理を説明できる。(知識)

マルチメディア、データベース、ネットワークなど、PCを使うために必要な技術を活用できる。(技能)

システム開発の流れについて説明できる。(知識)

< 授業のキーワード >

情報処理技術者試験、ITパスポート試験

< 授業の進め方 >

講義を中心として授業を進めるが、PCまたはスマートフォンを用いた演習問題の回答も頻繁に行う。

< 履修するにあたって >

「ICT実習I」程度のPC基本操作ができることを前提とする。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と {<https://rinsaka.com/>} も参照してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の前にテキストの予習を60分程度行うことが求められる。また、30分程度、復習とWebシステムを利用した演習問題を解くことで、自身の理解度を確認する。

< 提出課題など >

ほぼ毎週のようにWebシステム ({<https://rinsaka.com/>}) から演習問題を受験する課題を課す予定である。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題100%

< テキスト >

ITパスポート試験教育研究会編『ITパスポート試験 テキスト&問題集』実教出版 1500円。なお、開講年度における最新版を利用します。

< 参考図書 >

今野勤、大角盛広、毛利進太郎、林坂弘一郎 著『文科系のための情報科学』共立出版 2017年 2600円

< 授業計画 >

第1回 Webシステムの操作説明

WebシステムのユーザIDを取得し、Webシステムの操作を理解する。

第2回 コンピュータの構成要素(1)

コンピュータの種類と構成、プロセッサとメインメモリについて理解する。

第3回 コンピュータの構成要素(2)

補助記憶装置と記憶媒体、および周辺装置と入出力インターフェースについて理解する。

第4回 ソフトウェア(1)

ソフトウェアの種類と構成、ソフトウェアパッケージについて理解する。

第5回 コンピュータの考え方

基数変換と論理演算について理解する。

第6回 統計の基礎、アルゴリズムとプログラミング

主な統計量、アルゴリズムとデータ構造について理解する。

第7回 マルチメディア

ファイル形式の種類やデータ処理方法について理解する

第8回 データベース

データベース管理システム、データベース設計、データ操作とトランザクション処理について理解する。

第9回 コンピュータシステム

コンピュータシステムの評価指標と処理形態、障害発生時の対応方法について理解する。

第10回 ネットワーク(1)

ネットワークで使用する機器とプロトコルについて理解する。

第11回 ネットワーク(2)

ネットワーク上のアドレスを理解し、伝送時間の計算方法を習得する。

第12回 セキュリティ (1)

情報資産とリスク、情報セキュリティ管理および情報セキュリティ技術について理解する。

第13回 セキュリティ(2)

情報資産とリスク、情報セキュリティ管理および情報セキュリティ技術について理解する。

第14回 システム開発

システム開発の概要とソフトウェア開発手法、ヒューマンインターフェースについて理解する。

第15回 ソフトウェア(2)

表計算ソフトの利用方法を習得する。

2022年度 後期

2.0単位

専門基礎講義 【19-】

山本 誠子

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

・この科目は、英語圏の大学への留学を目指す人を対象にしており、そのために必要な英語力を証明するための試験の1つであるIELTS(International English Language Testing System)対策の入門編として位置づけられます。

・IELTSは、4技能を筆記試験(リスニング・リーディング・ライティング)と面接試験(スピーキング)で測定し、それぞれが1.0(初心者レベル)から9.0(ネイティブレベル)までの0.5刻みのバンドスコアで表示され、4技能のスコアを加算平均した総合評価としてのオーバーオールバンドスコアが示されます。本学の交換/派遣留学では、語学プログラムで最低4.0以上のバンドスコアが求められます。まずはそのレベルをターゲットに対策を立て、特にリスニングとリーディングに焦点を当てます。

・この科目は、経営学部ディプロマポリシー第4項「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」に関わっています。

< 到達目標 >

IELTSのリスニング・リーディングにおいて、バンドスコア4.5以上に到達する(オーバーオールスコアで4.0以上を取るためには、リスニング・リーディングでそれよりも高いスコアが必要であると考えられるため)

< 授業のキーワード >

留学, IELTS, 4技能

< 授業の進め方 >

プリント教材で試験の概観を理解したら、各回のe-learning教材を進め、質問&解説セッションを繰り返すことで進めます。

< 履修するにあたって >

自習課題としてe-learningの問題を実施します。基礎的なコンピュータスキルが必要です。

英検準2級~英検2級程度の英語力があることが履修の基準となります。

下記の例題を見て、IELTSの問題がどのようなものか確認したうえで履修登録をしてください。

<https://www.examenglish.com/IELTS/index.php>

Listening例題：https://www.examenglish.com/IELTS/IELTS_listening_part1.htm

Reading例題：https://www.examenglish.com/IELTS/IELTS_academic_reading1.htm

< 授業時間外に必要な学修 >

・e-learning教材実施 ・自習課題(スーパー英語)の実施 合計15時間程度を見込んでいる。

< 提出課題など >

・Unitの最後にあるミニテストの実施終了後、正答率がフィードバックされる

・自習課題の得点は、締め切りまでに実施した量で計算できる

・期末課題の解答は、実施締め切り後に周知する

< 成績評価方法・基準 >

・各回の解答結果 60% ・自習課題 20% ・期末課題 20%

< テキスト >

IELTS Foundation Reallyenglish 5,000円(税別)

*教科書購入にあたっては、補助があります。詳細は、第1回授業で説明します。

< 参考図書 >

IELTSブリティッシュ・カウンシル公認問題集 ブリティッシュ・カウンシル著 旺文社編 2,860円(税込)

IELTSブリティッシュ・カウンシル公認 本番形式問題3回分 ブリティッシュ・カウンシル著 旺文社編 3,080円(税込)

はじめてのIELTS 改訂3版 石谷由美子他著 南雲堂 2,400円(税別)

English 101 Series: 101 Model Answers for IELTS Writing Task 1 (English Edition) Mark Griffiths (著) Kindle版

< 授業計画 >

第1回 導入 1

・受講上の注意 ・IELTSとはどのような試験か
・教科書の購入方法の説明 ・自習課題(スーパー英

語)説明

第2回 導入 2

・基礎的な文法事項の説明 ・模擬問題実施

第3回 Listening

Listening 1 Friends abroad

Listening 2 Food, cooking and diet

第4回 Listening

Listening 3 Preparing a presentation

Listening 4 Looking after your health

第5回 Listening

Listening 5 Working for a living

Listening 6 On-campus services

第6回 Listening

Listening 7 Staying safe

Listening 8 Out and about

第7回 Listening

Listening 9 Studying, exams and revision

Listening 10 Shopping and spending

第8回 Listening

Listening 11 Hobbies, interests and sports

Listening 12 The world of animals

第9回 Reading

Reading 1 The importance of friendship

Reading 2 Body and mind

第10回 Reading

Reading 3 Studying in another country

Reading 4 City life

第11回 Reading

Reading 5 Science and technology at home

Reading 6 Back to nature

第12回 Reading

Reading 7 Communication

Reading 8 Extreme weather

第13回 Reading

Reading 9 Business management

Reading 10 Know your rights

第14回 Reading

Reading 11 Community matters

Reading 12 Spending habits

第15回 期末課題の説明

期末課題：実施範囲と評価方法の説明

2022年度 前期

2.0単位

租税論 【19-】 / 実務税法 【-18】

河瀬 豊

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

税務計画(タックス・プランニング)の基礎について学ぶ。

これまで学修した内容は、結果として得た所得に対して、どのように課税されるかということが中心であった。しかし、合理的な人であれば、所得を得る前に、もし、その所得を得たらどれだけ課税されるかを計算して行動するはずである。そして、税引後のキャッシュ・フローが大きくなるような意思決定をするはずである。本講義ではこのような考え方の基礎を学ぶ。

〔大学からの指示による必要記載事項〕

【ディプロマポリシーとの関連】

この科目は経営学部のDPのうち、「企業等の財務・会計に関する基礎から応用に至るまでの知識・技能を学修する」ことを目指す。

【実務経験がある教員の担当科目】

この科目は税理士として実務経験が10年以上ある教員が担当している。この講義では実務経験に様々な分野の学問の枠組みを当てはめて分析し、常識や直観からは容易に導くことが難しい結論を提示したい。これまで実直に学修してきた履修者にとって興味深い内容となるようにしたい。

< 到達目標 >

税務計画(タックス・プランニング)について、その概要と仕組みを理解する。

< 授業のキーワード >

税務計画(tax planning, タックス・プランニング), 租税回避, 税務会計, 所得税, 法人税

< 授業の進め方 >

主に講義形式で進めるが、履修者にも議論に参加してもらおう。したがって、事前に十分に予習すること。

< 履修するにあたって >

税に関する初歩的な知識があることを前提とする。税務会計論・を履修済みであること。会社法や経済学を履修済み、または、並行して履修することが望ましい。授業内容は履修者の理解の程度等に応じて内容を変更する可能性がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回のテーマについて、事前に税制を予習すること。受講後は講義内容をノートにまとめたり、レポートを作成すること。

< 提出課題など >

必要に応じてレポートを課すこともある。

< 成績評価方法・基準 >

レポート、授業中の発言内容、授業への参加の程度を総合的に評価する。(コロナ禍などの理由により変更する可能性がある。遠隔授業情報も確認すること。)

< テキスト >

指定しない。可能であれば指定図書を入手して読んで欲しい。詳細は授業中に説明する。

< 参考図書 >

(指定図書)

- [1]鈴木一水(2013)『税務会計分析』森山書店。
[2]渡辺智之(2005)『税務戦略入門』東洋経済新報社。
[3]坂林孝郎訳(2001)『MBA税務工学入門』中央経済社。
([4]の2版の部分訳)
(参考図書)

[4]Erickson et al.(2019)Sholes & Wolfson's Taxes and Business Strategy 6th ed' Cambridge business publishers.

< 授業計画 >

- 第1回 税務計画(タックス・プランニング)の概要
タックス・プランニングの概要と視点を理解する。
第2回 租税回避と税務計画
法律学から税に接近する際の特徴を議論する。特に税務計画に強く影響すると考えられる租税回避について検討する。
第3回 税に対する経済学からのアプローチ及び経済学と税務計画との関係
経済学から税に接近する際の特徴を議論する。特に税務計画との関係について議論する。
第4回 他の分野からの税に対するアプローチ
会計、公共政策などが税に与える影響を議論する。
第5回 税務会計の変遷と税務計画
税務会計研究の歴史とSholes and Wolfsonが提唱したタックス・プランニングについて学ぶ。
第6回 税務計画の基礎概念
Sholes and Wolfsonが提唱したタックス・プランニングの基礎概念を学ぶ。
第7回 代替的貯蓄ピークル
債券、年金、保険などはそれぞれ課税される頻度が異なる。課税される頻度に応じて、手取り額にどのような変化が生じるかを一般的に議論する。
第8回 最適組織形態 1
個人や法人など日本の組織形態についてどのような種類があるかを確認する。
第9回 最適組織形態 2
組織形態毎に異なる課税制度の違いから、最適な組織形態とは何かを議論する。
第10回 税裁定 1
代替的貯蓄ピークルを用いた税の裁定取引の仕組みを学ぶ。
第11回 税裁定 2
組織形態を用いた税の裁定取引の仕組みを学ぶ。
第12回 税以外のコスト
タックス・プランニングの際に考慮すべき税以外のコストについて学ぶ。
第13回 限界税率
税に関する意思決定に有用な税率概念は限界税率であることを確認し、その計算方法を学ぶ。

第14回 タックス・シェルターとその事例

租税回避商品(または、それに類似する金融商品や契約形態)の事例として、航空機リース事件の概要とその後の動向について学ぶ。

第15回 給与に関する税務計画

税務計画各論として、給与に関する税務計画を議論する。

2022年度 後期

2.0単位

租税論 【19-】 / 実務税法 【-18】

河瀬 豊

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

これまでに学修した知識をもとに、税に関する様々な問題について議論する。当たり前の知識を積み重ねることで直観的に当たり前ではない結論が導かれることもあることを確認し、専門知識を修得することによって得られる力を理解して欲しい。

[以下、大学からの指示による必要記載項目]

【ディプロマポリシーとの関連】

この科目は経営学部のDPのうち、「企業等の財務・会計に関する基礎から応用に至るまでの知識・技能を学修する」ことを目指す。

【実務経験がある教員の担当科目】

この科目は税理士として実務経験が10年以上ある教員が担当している。この講義では実務経験に様々な分野の学問の枠組みを当てはめて分析し、常識や直観からは容易に導くことが難しい結論を提示したい。これまで実直に学修してきた履修者にとって興味深い内容となるようにしたい。

< 到達目標 >

税に関する様々な問題について理解する。

< 授業のキーワード >

税、所得、税務計画(タックス・プランニング)、租税回避、税裁定(tax arbitrage)、二重課税、財産評価

< 授業の進め方 >

原則として講義形式によるが、履修者にも議論に参加してもらいたいことがある。したがって、十分に予習をして意味のある議論ができるように準備すること。

< 履修するにあたって >

税務会計論、租税論を履修済みであること。法律科目や経済学に関連する科目も履修すること。授業内容は履修者の理解の程度等に応じて内容を変更する可能性がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

(予習) 授業範囲に該当する税制を確認し、さらに、指示した資料を読んでおくこと。

(復習) 講義内容をノートにまとめる。レポートとして

提出してもらうこともある。

< 提出課題など >

必要に応じてレポートを課す。期末レポート以外は、授業中に講評する。

< 成績評価方法・基準 >

レポート、授業中の発言、授業への貢献などを総合的に評価する。(コロナ禍などの理由により変更する可能性がある。遠隔授業情報も確認すること。)

< テキスト >

指定しないが、これまでに使用した教科書(税務会計論・ , 租税論) を使用することもある。

< 参考図書 >

(指定図書)

税務会計論・ , 租税論 で紹介した文献を参照すること。

(参考図書)

授業中に適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 税とは何か

現代の民主国家においては、国民の代表者である議員が国会で税制を決めることを確認する。その視点から、税とは何か、租税原則の位置づけなどを議論する。

第2回 社会選択理論と予算制度

国会や選挙では多数決によってものごとが決められるが、税法も例外ではない。税法を多数決で決めるとどのような問題があるかについて議論する。さらに、税は予算の重要な一部を構成するので、予算制度について概観する。

第3回 所得概念

課税される所得とは何かについて、過去の学説を概観し、実際の税制との関連を確認する。

第4回 タックス・プランニングと租税回避

税務計画と租税回避について、航空機リース事件及びこれに類似するタックス・シェルターについて議論する。

第5回 税と時間価値

納税者にとって、税はできるだけ負担を先送りした方が得である。課税の繰延によりどれだけ得することができるのかを計算式により明らかにする。このことを数式で明示することにより、課税の繰延べと税額控除との関係、経済的合理的な減価償却方法などが明らかになる。

第6回 給与所得の問題

給与所得の様々な問題について議論する。

第7回 二重課税

二重課税の問題を議論する。

第8回 競馬必勝法とはずれ馬券裁判

競馬などのギャンブル必勝法の歴史について概観し、その課税問題について議論する。

第9回 税と時間価値

納税者にとって、税はできるだけ負担を先送りした方が得である。課税の繰延によりどれだけ得することができるのかを計算式により明らかにする。このことを数式で

明示することにより、課税の繰延べと税額控除との関係、経済的合理的な減価償却方法などが明らかになる。

第10回 給与所得の問題

給与所得の様々な問題について議論する。

第11回 競馬必勝法とはずれ馬券裁判

競馬などのギャンブル必勝法の歴史について概観し、その課税問題について議論する。

第12回 税制改正

税制改正のプロセスを学び、次年度の税制改正大綱を読む。

第13回 公正処理基準

法人税法22条4項の公正処理基準について議論する。

第14回 評価の安全と課税の公平

財産評価に関する問題を静的評価に起因する相続税の節税問題を中心に議論する。さらに、相続税と所得税の二重課税について学ぶ。

第15回 固定資産税及びまとめ

固定資産税評価基準と建物評価の複雑さ、市町村の情報開示と説明責任などについて議論する。さらに、これまでの授業内容をまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

データベース

林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

「講義」および「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部の DP に掲げる情報通信技術 (ICT) を用いて経営企画や経営戦略に必要な情報を収集し、さらに問題をシステム化するのに必要な数理情報の知識・技術を学修することを目指す。

経営情報科学コースの選択必修科目に属し、基礎的な情報処理に関する技術を前提としている。

インターネットの発展により、検索サービスやオンラインショッピング・予約など各種サービスを瞬時に受けることが可能となった。これらサービスを提供する情報システムの中核にはデータベースが存在する。本講義では代表的なデータベースであるリレーショナルデータベースの仕組みについて学び、実際にデータベースの操作・設計を体験することで、データベースを利用するための基礎的な技術を習得する。

< 到達目標 >

リレーショナルデータベースの仕組みを説明できる。(知識)

MS-Accessによるデータベース操作・設計を行える。(技能)

< 授業のキーワード >

データベース、正規化、SQL、MS-Access

< 授業の進め方 >

情報処理実習室において講義とPC演習を行う。

< 履修するにあたって >

「ICT実習I・II」程度のPC基本操作ができることを前提とする。

LMS (dotCampus, Moodle, Microsoft Teams など) と { <https://rinsaka.com/> } も参照してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義で得た知識を配布資料だけでなく、PCやスマートフォン、インターネットなどの利用を通じて実際に再確認するような復習を30分? 1時間程度行えば効果的である。

< 提出課題など >

PC演習での数回の課題提出を予定している。またオンラインでのクイズ回答も求める。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題100%

< テキスト >

資料を配布する。

< 参考図書 >

今野勤、大角盛広、毛利進太郎、林坂弘一郎 著『文科系のための情報科学』 共立出版 2017年 2600円

< 授業計画 >

第1回 データベースの基礎(1)

データベースとは、データベース管理システムとは何かについて理解し、データベースの種類を理解する。

第2回 データベースの基礎(2)

データベースとは、データベース管理システムとは何かについて理解し、データベースの種類を理解する。

第3回 MS-Accessの基本操作(1)

MS-Accessを用いたデータ検索など基本操作を習得する。

第4回 MS-Accessの基本操作(2)

MS-Accessを用いたデータ検索など基本操作を習得する。

第5回 リレーショナルデータベース

リレーショナルモデルの構造と各種のキー、整合性制約について理解する。

第6回 関係代数 (1)

データベースにおける各種の関係代数を理解する。

第7回 関係代数 (2)

データベースにおける各種の関係代数を理解する。

第8回 E-Rモデル

実世界をE-Rモデルを用いて概念モデル化する方法を理解し、リレーションシップの多重度と制約についても理解する。

第9回 正規化

属性の関数従属性を理解し、データベースの正規化を行う。

第10回 SQL (1)

SQLを用いたデータベースへの問合せやテーブルの結合方法を理解する。

第11回 SQL (2)

SQLを用いたデータベースへの問合せやテーブルの結合方法を理解する。

第12回 総合演習(1)

MS-Accessの総合実習を通じて、テーブルやフォームの作成、データの入力、リレーションシップの作成、各種クエリの作成し、データベースシステムを構築する。

第13回 総合演習(2)

MS-Accessの総合実習を通じて、テーブルやフォームの作成、データの入力、リレーションシップの作成、各種クエリの作成し、データベースシステムを構築する。

第14回 トランザクション処理(1)

データベースにおけるトランザクションの異常レベルや分離レベルを理解し、トランザクションと同時実行制御の必要性を考察する。

第15回 トランザクション処理(2)

データベースにおけるトランザクションの異常レベルや分離レベルを理解し、トランザクションと同時実行制御の必要性を考察する。

2022年度 後期

2.0単位

東洋の歴史 【経営】

片岡 恵美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修することを目指す。また、東アジアの中心である中国の通史を中心に適宜西アジア史も合わせつつ、東洋の歴史について、基本的な知識を修得し、東洋の歴史の流れを理解できるようになることを目的とする。

なお、この科目の担当者は、高等学校で20年以上世界史を教えてきた、実務経験のある教員である。高等学校と大学の知識をつなげて、より分かりやすい講義を行う。

< 到達目標 >

1. 東洋の歴史について、基本的な用語や概念を説明できる(知識)。

2. 各時代の特色や歴史の展開について興味を持つことができる(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

東洋、歴史、文化

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めます。受講生からの意見や疑問点について、毎回、ミニ・レポートを記入してもらい、適宜、後の回で共有します。

< 履修するにあたって >

毎回、ミニ・レポートを提出してもらいます。授業回数

の三分の二以上、ミニ・レポートを提出すること。三分の二以上、ミニ・レポートを提出していない場合、大幅に減点します。

高等学校の「世界史B」を復習しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に講義の対象となる時代についてのキーワードを伝えますので、基本的な事項を確認しておくこと。(目安として60分)

事後学習として、講義で配布されたプリントを見直し、基礎的な内容を再確認し、覚えておくこと。(目安として60分)

< 提出課題など >

毎回、授業についての意見や疑問点などを書いて提出してもらい、それをミニ・レポートとします。提出されたミニ・レポートについては後の回で講評などを行います。小テストを実施します。正解(模範解答)を提示し、解説・講評を行います。

定期試験については、正解(模範解答)、解説、講評を提示します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回、講義の際に提出してもらったミニ・レポートと授業中の態度や積極性の他、小テストや定期試験を合わせて評価します。評価の割合は、ミニ・レポートと授業中の態度や積極性(40%)、小テスト(30%)、定期試験(30%)です。

< 参考図書 >

特に指定しない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業のガイダンスと、東洋史の形成と発展について理解する。

第2回 黄河文明・長江文明と殷周

中国文明の源である黄河文明・長江文明の特色と、殷や周の王朝の形成について理解する。

第3回 春秋戦国時代

分裂と抗争の時代である春秋戦国時代の概要を理解し、合わせて諸子百家の思想についても理解する。

第4回 秦漢帝国

秦漢帝国の形成と発展について、基本事項を整理し、理解する。

第5回 古代の東アジアと西方諸国

漢代までの東アジアと西方諸国の東西交流の概要を理解し、それが物や文化に与えた影響について考察する。

第6回 魏晋南北朝時代

中国の分裂と周辺諸民族の活動の概要を理解する。

第7回 隋唐帝国

隋・唐の制度と文化の概略と周辺諸民族の活動について理解する。

第8回 宋と北方民族

宋代の社会の発展と文化、北方民族との関係について理解する。

第9回 モンゴル帝国

モンゴル帝国の発展と東西交流に与えた影響について理解する。

第10回 イスラーム世界

イスラーム諸国の形成と発展について基本的事項を理解する。

第11回 明と清

明清時代の概略と文化交流について基本的な事項について理解する。

第12回 トルコ世界

トルコ民族の活動とオスマン帝国の発展と衰退、西洋との関わりについて理解する。

第13回 近代ヨーロッパとアジア

近代における西欧諸国のアジア進出と植民地化について理解する。

第14回 近現代の中国

中国の近代化について日本との関わりも合わせて理解する。

第15回 総括

1~14回までに出了た質問に回答し、これまでの授業の内容の理解を補完する。

2022年度 前期

2.0単位

日本の歴史 【経営】

吉岡 保

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

「日本の歴史」を通史として概括的に学ぶ。過去の歴史事象を「暗記」することに終始するのではなく、史料を読み、歴史事実を正確に把握し、時代の政治社会文化の特質を理解する。

全学DPとの関連は、

「日本の歴史」を概括的に学び、「共通教育等を通じて広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する。」(知識・技能)

歴史史料を読み各時代の政治・社会・文化の特質を理解・把握し説明できる。「幅広い知識を活用して、様々な問題を発見し」「自分の意見を口頭や文書によって表現」する能力を育成する。(知識・技能)(思考力・判断力・表現力等の能力)

科目担当者は、中学校6年間の社会科、高等学校32年間の地理歴史科・公民科の教員として、またその間、自治

体等が主催する講座・研修等の講師、自治体史の編纂等を担当した実務経験と社会活動の経歴を有する。多様な興味関心ををもつ受講生に対応する授業を進めたい。

<到達目標>

「日本の歴史」(日本の基本的な通史)を把握できる。(知識)

日本の歴史に興味を持ち、歴史的観点から社会的事象を考察できる。(態度・習慣)

歴史史料を読み各時代の政治・社会・文化の特色を理解・把握し説明できる。(知識・技能)

<授業のキーワード>

「興味」「理解・読解」「判断」「説明・表現」「出席」「傾聴」

<授業の進め方>

講義中心に、日本の歴史を原始・古代から現代まで概説する。

授業進度は 授業計画 より多少前後する場合がある。

講義中はノートを取ることをすすめる。

授業レジメで随時、「練習問題」を示す。授業ごとの理解を確認するように。「練習問題」の記入例は順次示していく。この「練習問題」については提出を求めないので、各自で取り組むこと。

毎時、授業で出席カードを提出する。(「授業で理解した内容」「授業内容について今後取り組みたいこと」)

出席カードは授業開始時に配布する。授業終了前、5～10分で記入すること。

<履修するにあたって>

講義計画・評価方法等は初回に詳細に説明するので履修希望者は初回に必ず参加すること。

授業に積極的に参加し、ノートを取る必要がある。ルーズリーフまたはノートを利用すること。

講義に使用したレジメと資料、講義中に紹介した文献を用い予習と復習に活用し、講義に対する理解を深める事を求める。この時、講義中のメモ・ノートが重要な役割をもつ。

「日本の歴史」の通史・概要を15回の授業で十分に学ぶことは困難なので、授業の進度は速くなる。授業に集中して真剣に取り組むことを求める。周囲に迷惑になるような行為は厳に慎むことを求める。マナーを逸脱するような場合、退出を求めることがある。

高等学校で日本史Bを履修していない受講者があることは考慮する。

<授業時間外に必要な学修>

予習：授業計画に示した範囲の基本的な事項について、テキスト・参考書等を用いて自学自習する。(60分)

講義の対象として扱った歴史事象に興味を持った内容や、受講生の居住地、帰省先、旅行先などの史跡、名所・旧跡などについて、学びを深め調べたことを記録する。(随時)

復習：配布したレジメや資料をもとに講義内容を整理し、説明が出来るようにする。(60分)

<提出課題など>

授業ごとに出席カード(「授業で理解した内容」「授業内容について今後取り組みたいこと」)を提出する。

<成績評価方法・基準>

出席カードの記述内容(1回3点×15回=45点)

試験(論述試験55点)

論述試験評価の観点は、

設問の趣旨に正対し論述しているか。

歴史的な事象を資料や時代の政治・社会・文化の特質を把握し説明、論述しているか。

解答者がテーマに関して理解し内容を正確に把握し、自分の考えを表現しているか。

共同で勉強した場合でも、全く同じ内容の記述はともに不可とする。

<テキスト>

山川出版『詳説日本史図録』本体860円 + 税

その他、毎回の授業でレジメ・資料を配布する。

<参考図書>

高校時代に使用した日本史Aないし日本史Bの教科書、図説・図録等。

その他、講義中にレジメ・資料で適宜紹介する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス 古代 (原始～飛鳥)

授業のねらいと留意点、評価方法について

古代国家の成立：文化の始まり、農耕社会の成立、古墳時代、飛鳥の朝廷

第2回 古代 (天智朝～平安初期)

律令国家の形成：律令国家への道、平城京の時代、古代の社会と文化

第3回 古代 (平安中期)

貴族政治と国風文化：摂関政治、国風文化、地方政治の展開と武士

第4回 中世 (院政期～鎌倉幕府)

中世社会の成立：院政と平氏政権、鎌倉幕府の成立、蒙古襲来と幕府の衰退

第5回 中世 (南北朝～室町幕府)

武家社会の成長：室町幕府の成立、幕府の衰退と庶民の台頭

第6回 中世 (鎌倉・室町文化)

中世文化の展開：鎌倉文化、室町文化

第7回 近世 (織豊政権～江戸前期)

幕藩体制の確立：織豊政権、桃山文化、幕藩体制の成立

第8回 近世 (江戸中期)

幕藩体制の展開：幕政の安定、経済の発展、元禄文化

第9回 近世 (江戸後期と幕政改革)

幕藩体制の動揺：幕政の改革、幕府の衰退と近代への道、化政文化

第10回 近代 (幕末・維新～明治期)

近代国家の成立：開国と幕末の動乱、明治維新と富国強兵、立憲国家の成立と日清・日露戦争

第11回 近代（大正期～昭和初期）

政党政治の発展と社会運動：第一次世界大戦と日本、ワシントン体制、市民生活の変容と大衆文化

第12回 近代（昭和戦前期）

アジア太平洋戦争：恐慌の時代、軍部の台頭、第二次世界大戦

第13回 現代（昭和戦後改革期）

占領下の日本：占領と改革、冷戦の時代と講和

第14回 現代（高度成長期）

高度成長の時代：55年体制、経済復興から高度成長へ

第15回 現代（現代の日本）

激動する世界と日本：経済大国への道、冷戦の終結と日本社会の変容

2022年度 前期

2.0単位

入門演習

赤坂 義浩、石賀 和義、伊藤 健、大角 盛広、小川 賢、小澤 優子、河瀬 豊、今野 勤、塩出 省吾、島永 和幸、島永 嵩子、千田 直毅、辻 幸恵、福井 直人、藤原 由紀子、宮本 幸平、安井 一浩、柳 久恒、吉田 康久、林坂 弘一郎

2022年度 前期

2.0単位

非営利会計論

宮本 幸平

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、経営学部のDPに示す、「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」ことを目指す。そして、非営利組織会計の制度及び理論の理解を主題とする。社会において、営利活動が成立しない福祉・ボランティア・医療などの領域は多岐に渡り、これらを担当する非営利組織の重要性が今日増している。そしてこれらの組織では、寄付金・補助金が主たる財源であるため、資金提供者に対する公正な開示が要請される。講義では、非営利組織の社会的意義を明確にしつつ、公益法人・社会福祉法人・NPO法人・病院の会計規定、財務諸表の表示科目、および計算構造について、内容理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から講義するものとする。

< 到達目標 >

1. 非営利組織会計の制度及び理論の内容を理解できる。
2. 会計規定、財務諸表の表示科目、および計算構造について理解できる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。授業の最後に「まとめ」のミニレポートを作成します（10分程度）。

< 履修するにあたって >

会計・簿記の知識が無くても、履修に支障ない。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる内容につき、一般的な入門テキストを読んでおくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

毎回のミニレポート（講義内容をまとめたもの）、および期末レポートの作成を行う。提出されたレポートに対しては、全体的な概況を講義中にコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

ミニレポート20%、期末レポート80%で評価する。

< テキスト >

宮本幸平著「非営利・政府会計テキスト」創成社。

< 授業計画 >

第1回 今後の学修方法・

わが国の非営利組織と会計

オンライン授業にあたり、今後の学修方法について説明する。

わが国非営利組織（公益法人、社会福祉法人、NPO法人など）につき、制度の概要、財務諸表体系などを説明する。

第2回 非営利組織の「貸借対照表」

非営利組織の貸借対照表について、概要、表示科目、機能の説明をする。

第3回 貸借対照表「資産の部」の機能

非営利組織・貸借対照表「資産の部」の表示科目および区分の価額に基づいて判断する意思決定の機能につき説明する。

第4回 「資産の部」科目の計算・評価

公益法人会計・貸借対照表・「資産の部」科目の計算処理・評価について説明する。また、減価償却・減損処理・有価証券の評価についても説明する。

第5回 「負債の部」科目の計算・評価

公益法人会計・貸借対照表・「負債の部」科目の計算処理・評価について説明する。また引当金の概念と計算処理についても説明する。

第6回 「正味財産の部」科目の計算・評価

公益法人会計・貸借対照表・「正味財産の部」科目の計算処理・評価について説明する。また、複式簿記計算構造についても触れる。

第7回 非営利組織会計の「正味財産増減計算書」

公益法人会計・正味財産増減計算書につき、その意義・機能、内容、計算構造を説明する。

第8回 前半のまとめ

第1回から第7回の講義内容をまとめる。

第9回 非営利組織会計の「キャッシュ・フロー計算書」

公益法人会計・キャッシュ・フロー計算書につき、その意義、機能、表示科目、計算構造について説明する。

第10回 社会福祉法人会計(1)

社会福祉法人会計の財務諸表のうち「貸借対照表」につき、その意義、機能、表示科目、計算処理、などを説明する。

第11回 社会福祉法人会計(2)

社会福祉法人会計の財務諸表のうち「事業活動計算書」につき、その意義、機能、表示科目、計算処理、などを説明する。

第12回 NPO法人会計

NPO法人会計の財務諸表につき、その意義、機能、表示科目、計算処理、などを説明する。

第13回 病院会計(1)

病院会計準則に基づき、一般規則、財務諸表の表示科目、計算処理などについて説明する。

第14回 病院会計(2)

病院会計準則に基づき、貸借対照表・資産の評価基準などについて説明する。

第15回 学習内容の確認

講義の総まとめを行い、知識の定着を図る。

2022年度 後期

2.0単位

非営利会計論

宮本 幸平

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、経営学部のDPに示す、「企業等の財務・会計に関する基礎からその応用に至るまでの知識や技能を学修する」ことを目指す。そして、地方政府における会計制度・基準、財務諸表の表示科目、および計算構造について、その内容理解を主題とする。周知のとおりわが国政府の財政状態は、年々の歳出超過により危機的状況にある。このため中央および地方政府は、歳入・歳出をコントロールして累積赤字を削減することに苦慮している。こうした事態において、政府が保有する資産・負債の評価額、純資産の変動、資金(キャッシュ)の出入などにつき会計に基づいて公正に測定・表示し、住民に対する説明責任を果たす要請が強まっている。そこで講義では、こうした基準、表示、計算構造の内容理解を目標とする。

なお、この授業の担当者は、企業の経理業務を経験し

ている、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から講義するものとする。

< 到達目標 >

1. 政府会計の制度及び理論の内容を理解できる。
2. 政府会計の会計規定、財務諸表の表示科目、および計算構造について理解できる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進め、授業の最後に「まとめ」のミニレポートを作成(10分程度)。

< 履修するにあたって >

会計・簿記の知識が無くても、履修に支障ない。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる内容につき、一般的な入門テキストを読んでおくこと。(目安として1時間)

< 提出課題など >

講義終了後、ミニレポート(講義内容をまとめたもの)の作成を行う。提出されたレポートに対しては、全体的な概況を講義中にコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート100%で評価する。

< テキスト >

宮本幸平著「非営利・政府会計テキスト」創成社

< 授業計画 >

第1回 わが国地方政府の会計

わが国地方政府の会計につき、制度の概要、財務諸表体系などを説明する。

第2回 政府会計の「基本目的」

わが国をはじめ英米など諸外国の基準・規定に基づき、政府会計の「基本目的」について説明する。

第3回 政府会計の「貸借対照表」

政府会計の「貸借対照表」について、概要、表示科目、機能の説明をする。

第4回 貸借対照表における「資産の部」の評価(1)

わが国総務省が規定する地方自治体「貸借対照表」の流動資産・固定資産・インフラ資産につき、その内容および認識・測定(評価)の手法を概観する。とくにインフラ資産については、評価方法を詳しく説明する。

第5回 貸借対照表における「資産の部」の評価(2)

わが国総務省が規定する地方自治体「貸借対照表」の固定資産に対する減価償却・減損処理の手法について説明する。

第6回 政府会計の「行政コスト計算書」(1)

わが国総務省が規定する地方自治体の「行政コスト計算書」につき、その意義、機能、表示科目の説明をする。

第7回 政府会計の「行政コスト計算書」(2)

わが国総務省が規定する地方自治体の「行政コスト計算書」につき、計算構造と理論的問題点を説明する。

第8回 前半のまとめ

第1から第7回までの講義内容の総まとめを行う。

第9回 政府会計の「純資産変動計算書」
わが国総務省が規定する地方自治体の「純資産変動計算書」につき、その意義、機能、表示科目、計算構造の説明をする。

第10回 政府会計の「資金収支計算書」
わが国総務省が規定する地方自治体の「資金収支計算書」につき、その意義、機能、表示科目、計算構造、および理論的問題点について説明する。

第11回 政府会計の複式簿記
公会計の財務書類体系について説明し、これを作成するための複式簿記構造について説明する。

第12回 複式簿記に基づく財務会計システム
東京都財務会計システム（わが国初の複式簿記システム）の事例を説明し、公会計の計算構造（簿記構造）を理解する。

第13回 ニュー・パブリック・マネジメントによる業績評価
ニュー・パブリック・マネジメントとは、PDCAサイクルに基づく業績管理であり、この意義と内容について解説する。

第14回 わが国地方政府の業績評価システム
地方自治体で実施されている「業績評価システム」について、システムの概要と意義を中心に解説する。また、これと予算編成との連携について説明し、予算編成に対し業績評価がどのように関わっているかを説明する。

第15回 学習内容の確認
講義の総まとめを行い、知識の定着を図る。

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to international business using the English language. This course will feature group activities, research projects, and oral presentations to allow students to use what they are learning in class. Course content will be taught using class discussion, group work, online homework, and listening comprehension activities.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, be able to actively participate in group activities in English, and improve both their English public speaking skills and listening comprehension skills.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to participate in basic business practices

such as group meetings, presentations, and researching information on business-related topics in English.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, Oral Presentation, Listening Comprehension, E-Learning

< 授業の進め方 >

This course makes use of both in-class and online activities, group activities, research projects, online homework, listening comprehension, and oral presentations to instruct students.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects and activities, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Oral presentation preparation and online homework
< 提出課題など >

Oral presentation research and online homework
< 成績評価方法・基準 >

Class Participation 60%, Online Homework 10%, Oral Presentations 10%, Examinations 20%

< テキスト >

Business Result Intermediate Student's Book with Online Practice, Oxford University Press
ISBN: 978-0-19-473886-6

< 参考図書 >

N/A

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-4 Unit 1: Working Life

Giving a self-introduction in a business setting; how to network

Weeks 5-7 Unit 2: Work-Life Balance

Communicating needs to an employer; exchanging contact details

Weeks 8-10 Unit 3: Projects

Researching a topic; planning a business project

Weeks 11-13 Unit 4: Services and Systems

Making product comparisons; writing a product review

Week 14 Review Session

Cumulative review based on material covered throughout the semester

Week 15 Final Examination

Cumulative review based on material covered throughout the semester

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to international business using the English language. This course will feature group activities, research projects, and oral presentations to allow students to use what they are learning in class. Course content will be taught using class discussion, group work, online homework, and listening comprehension activities.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, be able to actively participate in group activities in English, and improve both their English public speaking skills and listening comprehension skills.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to participate in basic business practices such as group meetings, presentations, and researching information on business-related topics in English.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, Oral Presentation, Listening Comprehension, E-Learning

< 授業の進め方 >

This course makes use of both in-class and online activities, group activities, research projects, online homework, listening comprehension, and oral presentations to instruct students.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects and activities, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Oral presentation preparation and online homework

< 提出課題など >

Oral presentation research/practice recording and online homework

< 成績評価方法・基準 >

Class Participation 60%, Online Homework 10%, Oral Presentations 10%, Examinations 20%

< テキスト >

Business Result Intermediate Student's Book with Online Practice, Oxford University Press
ISBN: 978-0-19-473886-6

< 参考図書 >

N/A

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-4 Unit 1: Working Life

Giving a self-introduction in a business setting; how to network

Weeks 5-7 Unit 2: Work-Life Balance

Communicating needs to an employer; exchanging contact details

Weeks 8-10 Unit 3: Projects

Researching a topic; planning a business project

Weeks 11-13 Unit 4: Services and Systems

Making product comparisons; writing a product review

Week 14 Review Session

Cumulative review based on material covered throughout the semester

Week 15 Final Examination

Cumulative review based on material covered throughout the semester

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

トーパート, A . C .

< 授業の方法 >

This class (講義) will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class will give students a chance to learn key vocabulary and allow them many chances to use it. There will be short readings designed to give students opportunities to discuss important business and development issues and use their critical thinking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.

< 到達目標 >

Students will be able to discuss many topics related to the environment and business.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, SDGs

< 授業の進め方 >

Beginning with introductions, students will learn the basics and have a lot of listening practice. Listening to NHK radio or TV outside will be helpful

I.
< 授業時間外に必要な学修 >
Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.

< 成績評価方法・基準 >
Participation, homework and reports about 60%, short quizzes, tests, presentations about 40%.

< テキスト >
Living as Global Citizens
Author: Kazuya Oseki and Kevin M. McManus
Nan'un-do
2020.11.06
ISBN: 978-4-523-17931-3

< 授業計画 >
Week 1-2 Introductions
Students will be introduced to the teacher, textbook and each other, and be given an outline of what will be expected of them during the semester.
Weeks 3-5 The Environment
Climate change, water and clean energy.
Weeks 6-8 Development
Poverty, hunger and the effects on children.
Weeks 9-11 Multicultural Society
Gender, refugees and insects.
Week 12-14 Action for Change
Vegetarianism, plastic waste and shopping.
Week 15 Final Exam and/or Presentations
Feedback and discussion on improving work.

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

トーパート, A.C.

< 授業の方法 >

This class (講義) will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class will give students a chance to learn key vocabulary and allow them many chances to use it. There will be short readings designed to give students opportunities to discuss important business and development issues and use their critical thinking skills. Students will be taught using an active learning approach, using pair work, group work and class discussions.

< 到達目標 >

Students will be able to discuss many topics related to the environment and business.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, SDGs

< 授業の進め方 >

Beginning with introductions, students will learn the basics and have a lot of listening practice. Listening to NHK radio or TV outside will be helpful.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should expect to spend up to 60 minutes per week on studying outside of class.

< 成績評価方法・基準 >

Participation, homework and reports about 60%, short quizzes, tests, presentations about 40%.

< テキスト >

Living as Global Citizens
Author: Kazuya Oseki and Kevin M. McManus
Nan'un-do
2020.11.06
ISBN: 978-4-523-17931-3

< 授業計画 >

Week 1-2 Introductions
Students will be introduced to the teacher, textbook and each other, and be given an outline of what will be expected of them during the semester.
Weeks 3-5 The Environment
Climate change, water and clean energy.
Weeks 6-8 Development
Poverty, hunger and the effects on children.
Weeks 9-11 Multicultural Society
Gender, refugees and insects.
Week 12-14 Action for Change
Vegetarianism, plastic waste and shopping.
Week 15 Final Exam and/or Presentations
Feedback and discussion on improving work.

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

相島 淑美

< 授業の方法 >

演習形式

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」およびDP4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」に関わっています。とくに今回取り上げるサステナビリティ (SDGs) は企業や消費者にとって現在不可避の問題となっていますが、このテーマに関する最新

の情報は英語によるものが大半を占めており、私たちは主体的に英語を使いこなしてバランスよく必要な情報を得、意見を構築することが求められます。本授業では、そうした視点から実践的な英語力をのばすことを目的としています。なお、この科目の担当者は翻訳家（英日）として30点以上の実績を持つほか企業のCSR/CSVプロジェクトを指揮した実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

<到達目標>

この授業を終了したとき、受講生の皆さんは 1. SDG およびビジネスにおけるサステナビリティについて英語で説明することができる 2. 様々な視点から積極的に英語で情報を収集し、考えを深めることができる 3. サステナビリティを中心とした企業の取り組みについて、英語で意見を述べるができる

<授業のキーワード>

サステナビリティ、SDGs、エシカル

<授業の進め方>

ひとつのテーマについて様々な視点から理解を深め、ディスカッションを通じて自分の考えを練り上げていく授業です。必要に応じてリサーチの方法やサマリーの作り方、議論の組み立て方等アドバイスします。受講生の皆さんの積極的な参加に期待しています。なお、単語等確認のため小テストを随時実施します。

<履修するにあたって>

今回取り上げるSDGsはビジネスの領域のみならず政治・社会・科学をはじめとする様々な領域でいま国際的に最も重視されているテーマのひとつであり、皆さんが卒業してからもビジネスの場で向き合う機会があると考えられます。授業の課題としてとらえるのではなく、英語を用いてリアルな情報に接し、知見を広げる機会としてこの授業を活用してください。

<授業時間外に必要な学修>

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

<提出課題など>

必要に応じて指示します。

<成績評価方法・基準>

小テストおよび授業（ディスカッション）参加度50%、
期末試験およびレポート（プレゼンテーション）50%

<テキスト>

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事やプレスリリース等を用います。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業概要についてオリエンテーション

第2回 トピック1(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッ

ション

第3回 トピック1(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第4回 トピック2(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第5回 トピック2(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第6回 トピック3(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第7回 トピック3(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第8回 トピック4(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第9回 トピック4(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第10回 トピック5(1)

エシカル消費について英文の読解および簡単なディスカッション

第11回 トピック5(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第12回 トピック6(1)

SDGsの取り組みと社会について理解する

第13回 トピック6(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第14回 まとめ

ふりかえり

第15回 まとめ

ふりかえり

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

相島 淑美

<授業の方法>

演習形式

<授業の目的>

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」およびDP4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」に関わっています。とくに今回取り上げるサステナビリティ（SDGs）は企業や消費者にとって現在不可避の問題となっていますが、このテーマに関する最新の情報は英語によるものが大半を占めており、私たちは主体的に英語を使いこなしてバランスよく必要な情報を

得、意見を構築することが求められます。本授業では、そうした視点から実践的な英語力をのばすことを目的としています。なお、この科目の担当者は翻訳家（英日）として30点以上の実績を持つほか企業のCSR/CSVプロジェクトを指揮した実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

<到達目標>

この授業を終了したとき、受講生の皆さんは 1. SDG およびビジネスにおけるサステナビリティについて英語で説明することができる 2. 様々な視点から積極的に英語で情報を収集し、考えを深めることができる 3. サステナビリティを中心とした企業の取り組みについて、英語で意見を述べるができる

<授業のキーワード>

サステナビリティ、SDGs、エシカル

<授業の進め方>

ひとつのテーマについて様々な視点から理解を深め、ディスカッションを通じて自分の考えを練り上げていく授業です。必要に応じてリサーチの方法やサマリーの作り方、議論の組み立て方等アドバイスします。受講生の皆さんの積極的な参加に期待しています。なお、単語等確認のため随時小テストを実施します。英語でのディスカッションに重点を置きます

<履修するにあたって>

今回取り上げるSDGsはビジネスの領域のみならず政治・社会・科学をはじめとする様々な領域でいま国際的に最も重視されているテーマのひとつであり、皆さんが卒業してからもビジネスの場で向き合う機会があると考えられます。授業の課題としてとらえるのではなく、英語を用いてリアルな情報に接し、知見を広げる機会としてこの授業を活用してください。

<授業時間外に必要な学修>

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

<提出課題など>

必要に応じて指示します。

<成績評価方法・基準>

小テストおよび授業（ディスカッション）参加度50%、
期末試験およびレポート（プレゼンテーション）50%

<テキスト>

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事やプレスリリース等を用います。

<授業計画>

第1回 インTRODクッション

授業概要についてオリエンテーション

第2回 トピック1(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第3回 トピック1(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第4回 トピック2(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第5回 トピック2(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第6回 トピック3(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第7回 トピック3(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第8回 トピック4(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第9回 トピック4(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第10回 トピック5(1)

エシカル消費について英文の読解および簡単なディスカッション

第11回 トピック5(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第12回 トピック6(1)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第13回 トピック6(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第14回 まとめ

ふりかえり

第15回 まとめ

ふりかえり

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

相島 淑美

<授業の方法>

演習形式

<授業の目的>

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」およびDP4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことに関わっています。とくに今回取り上げるサステナビリティ（SDGs）は企業や消費者にとって現在不可避の問題となっていますが、このテーマに関する最新の情報は英語によるものが大半を占めており、私たちは主体的に英語を使いこなしてバランスよく必要な情報を得、意見を構築することが求められます。本授業では、

そうした視点から実践的な英語力をのばすことを目的としています。なお、この科目の担当者は翻訳家（英日）として30点以上の実績を持つほか企業のCSR/CSVプロジェクトを指揮した実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

<到達目標>

この授業を終了したとき、受講生の皆さんは 1. SDG およびビジネスにおけるサステナビリティについて英語で説明することができる 2. 様々な視点から積極的に英語で情報を収集し、考えを深めることができる 3. サステナビリティを中心とした企業の取り組みについて、英語で意見を述べるができる

<授業のキーワード>

サステナビリティ、SDGs、エシカル

<授業の進め方>

ひとつのテーマについて様々な視点から理解を深め、ディスカッションを通じて自分の考えを練り上げていく授業です。必要に応じてリサーチの方法やサマリーの作り方、議論の組み立て方等アドバイスします。受講生の皆さんの積極的な参加に期待しています。なお、単語等確認のため小テストを随時実施します。

<履修するにあたって>

今回取り上げるSDGsはビジネスの領域のみならず政治・社会・科学をはじめとする様々な領域でいま国際的に最も重視されているテーマのひとつであり、皆さんが卒業してからもビジネスの場で向き合う機会があると考えられます。授業の課題としてとらえるのではなく、英語を用いてリアルな情報に接し、知見を広げる機会としてこの授業を活用してください。

<授業時間外に必要な学修>

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

<提出課題など>

必要に応じて指示します。

<成績評価方法・基準>

小テストおよび授業（ディスカッション）参加度50%、
期末試験およびレポート（プレゼンテーション）50%

<テキスト>

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事やプレスリリース等を用います。

<授業計画>

第1回 インTRODクッション

授業概要についてオリエンテーション

第2回 トピック1（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第3回 トピック1（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第4回 トピック2（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第5回 トピック2（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第6回 トピック3（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第7回 トピック3（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第8回 トピック4（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第9回 トピック4（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第10回 トピック5（1）

エシカル消費について英文の読解および簡単なディスカッション

第11回 トピック5（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第12回 トピック6（1）

SDGsの取り組みと社会について理解する

第13回 トピック6（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第14回 まとめ

ふりかえり

第15回 まとめ

ふりかえり

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語

ロベッツ、ケヴィン レイ

<授業の方法>

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to international business using the English language. This course will feature group activities, research projects, and oral presentations to allow students to use what they are learning in class. Course content will be taught using class discussion, group work, online homework, and listening comprehension activities.

<授業の目的>

Students will increase their vocabulary, be able to actively participate in group activities in English, and improve both their English public speaking skills and listening comprehension skills.

<到達目標>

By the end of the semester, students will be better

r able to participate in basic business practices such as group meetings, presentations, and researching information on business-related topics in English.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, Oral Presentation, Listening Comprehension, E-Learning

< 授業の進め方 >

This course makes use of both in-class and online activities, group activities, research projects, online homework, listening comprehension, and oral presentations to instruct students.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects and activities, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Oral presentation preparation and online homework

< 提出課題など >

Oral presentation research and online homework

< 成績評価方法・基準 >

Class Participation 60%, Online Homework 10%, Oral Presentations 10%, Examinations 20%

< テキスト >

Business Result Intermediate Student's Book with Online Practice, Oxford University Press

ISBN: 978-0-19-473886-6

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-4 Unit 5: Customers

Demographics; customer service

Weeks 5-7 Unit 6: Guests and Visitors

Business travel; cross cultural communication

Weeks 8-10 Unit 7: Working Online

Teleconferencing; online business strategy

Weeks 11-13 Unit 8: Finance

Financing business ideas; proposal presentation

Week 14 Review Session

Cumulative review based on material covered throughout the semester

Week 15 Final Examination

Cumulative examination based on material covered throughout the semester

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to international business using the English language. This course will feature group activities, research projects, and oral presentations to allow students to use what they are learning in class. Course content will be taught using class discussion, group work, online homework, and listening comprehension activities.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, be able to actively participate in group activities in English, and improve both their English public speaking skills and listening comprehension skills.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to participate in basic business practices such as group meetings, presentations, and researching information on business-related topics in English.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, Oral Presentation, Listening Comprehension, E-Learning

< 授業の進め方 >

This course makes use of both in-class and online activities, group activities, research projects, online homework, listening comprehension, and oral presentations to instruct students.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects and activities, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Oral presentation preparation and online homework

< 提出課題など >

Oral presentation research/practice recording and online homework

< 成績評価方法・基準 >

Class Participation 60%, Online Homework 10%, Oral Presentations 10%, Examinations 20%

< テキスト >

Business Result Intermediate Student's Book with Online Practice, Oxford University Press

ISBN: 978-0-19-473886-6

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-4 Unit 5: Customers

Demographics; customer service

Weeks 5-7 Unit 6: Guests and Visitors

Business travel; cross cultural communication

Weeks 8-10 Unit 7: Working Online

Teleconferencing; online business strategy

Weeks 11-13 Unit 8: Finance

Financing business ideas; proposal presentation

Week 14 Review Session

Cumulative review based on material covered throughout the semester

Week 15 Final Examination

Cumulative examination based on material covered throughout the semester

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語

トーバート, A . C .

< 授業の方法 >

This class will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class will give students a chance to read and discuss recent events related to business and society. There will be some listening and the watching short videos. Students will work often be asked to work in pairs or small groups and actively participate in discussions.

< 到達目標 >

Students will be able to understand, in English, many of the recent issues that have appeared in the world news.

< 授業のキーワード >

Trade, Business, Society

< 授業の進め方 >

Listening to NHK radio or podcasts, watching YouTube videos in English will be helpful. Reading easy book (extensive reading) is also recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should expect to spend between 30-60 minutes per week studying outside of class.

< 成績評価方法・基準 >

Participation, homework and reports about 60%, short quizzes, tests and presentations about 40%.

< テキスト >

Instructor will provide materials.

< 授業計画 >

Week 1 Introductions

Class information, guidelines and topic discussions.

Weeks 2-5 COVID-19

How COVID-19 has affected the world economy.

Week 6-9 Unique Business Stories

Study of selected companies and their unique business models and products.

Weeks 10-13 Societal Changes

How a changing society affects current and future business prospects.

Weeks 14-15 Presentations and feedback

Presentations preparation and feedback, plus discussion.

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語

トーバート, A . C .

< 授業の方法 >

This class will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class will give students a chance to read and discuss recent events related to business and society. There will be some listening and the watching short videos. Students will work often be asked to work in pairs or small groups and actively participate in discussions.

< 到達目標 >

Students will be able to understand, in English, many of the recent issues that have appeared in the world news.

< 授業のキーワード >

Trade, Business, Society

< 授業の進め方 >

Listening to NHK radio or podcasts, watching YouTube videos in English will be helpful. Reading easy book (extensive reading) is also recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should expect to spend between 30-60 minutes per week studying outside of class.

< 成績評価方法・基準 >

Participation, homework and reports about 60%, short quizzes, tests and presentations about 40%.

< テキスト >

Instructor will provide materials.

< 授業計画 >

Week 1 Introductions

Class information, guidelines and topic discussion s.

Weeks 2-5 COVID-19

How COVID-19 has affected the world economy.

Week 6-9 Unique Business Stories

Study of selected companies and their unique business models and products.

Weeks 10-13 Societal Changes

How a changing society affects current and future business prospects.

Weeks 14-15 Presentations and feedback

Presentations preparation and feedback, plus discussion.

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語

相島 淑美

< 授業の方法 >

演習形式

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」およびDP4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことに関わっています。とくに今回取り上げるサステナビリティ（SDGs）は企業や消費者にとって現在不可避の問題となっていますが、このテーマに関する最新の情報は英語によるものが大半を占めており、私たちは主体的に英語を使いこなしてバランスよく必要な情報を得、意見を構築することが求められます。本授業では、そうした視点から実践的な英語力をのばすことを目的としています。なお、この科目の担当者は翻訳家（英日）として30点以上の実績を持つほか企業のCSR/CSVプロジェクトを指揮した実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

< 到達目標 >

この授業を終了したとき、受講生の皆さんは 1. SDG およびビジネスにおけるサステナビリティについて英語で説明することができる 2. 様々な視点から積極的に英語で情報を収集し、考えを深めることができる 3. サステナビリティを中心とした企業の取り組みについて、英語で意見を述べるができる

< 授業のキーワード >

サステナビリティ、SDGs、エシカル

< 授業の進め方 >

ひとつのテーマについて様々な視点から理解を深め、自分の考えを練り上げていく授業です。必要に応じてリサーチの方法やサマリーの作り方、議論の組み立て方等アドバイスします。受講生の皆さんの積極的な参加に期待しています。なお、単語等確認のため随時小テストを実施します

< 履修するにあたって >

今回取り上げるSDGsはビジネスの領域のみならず政治・社会・科学をはじめとする様々な領域でいま国際的に最も重視されているテーマのひとつであり、皆さんが卒業してからもビジネスの場で向き合う機会があると考えられます。授業の課題としてとらえるのではなく、英語を用いてリアルな情報に接し、知見を広げる機会としてこの授業を活用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

小テストおよび授業（ディスカッション）参加度50%、
期末試験およびレポート（プレゼンテーション）50%

< テキスト >

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事やプレスリリース等を用います。

< 授業計画 >

第1回 インTRODククション

授業概要についてオリエンテーション

第2回 トピック1（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第3回 トピック1（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第4回 トピック2（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第5回 トピック2（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第6回 トピック3（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第7回 トピック3（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第8回 トピック4（1）

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第9回 トピック4（2）

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第10回 トピック5(1)

エシカル消費について英文の読解および簡単なディスカッション

第11回 トピック5(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第12回 まとめ(1)

これまで取り上げたテーマについて全体的な視点からのディスカッション

第13回 まとめ(2)

全体の振り返りおよび補足

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語

相島 淑美

< 授業の方法 >

演習形式

< 授業の目的 >

この授業はDP1「現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修する」およびDP4「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」に関わっています。とくに今回取り上げるサステナビリティ(SDGs)は企業や消費者にとって現在不可避の問題となっていますが、このテーマに関する最新の情報は英語によるものが大半を占めており、私たちは主体的に英語を使いこなしてバランスよく必要な情報を得、意見を構築することが求められます。本授業では、そうした視点から実践的な英語力をのばすことを目的としています。なお、この科目の担当者は翻訳家(英日)として30点以上の実績を持つほか企業のCSR/CSVプロジェクトを指揮した実務経験のある教員です。実務で求められる英語読解力についても言及しながら深い学びへとつなげていきます。

< 到達目標 >

この授業を終了したとき、受講生の皆さんは 1. SDGおよびビジネスにおけるサステナビリティについて英語で説明することができる 2. 様々な視点から積極的に英語で情報を収集し、考えを深めることができる 3. サステナビリティを中心とした企業の取り組みについて、英語で意見を述べるができる

< 授業のキーワード >

サステナビリティ、SDGs、エシカル

< 授業の進め方 >

ひとつのテーマについて様々な視点から理解を深め、自分の考えを練り上げていく授業です。必要に応じてリサーチの方法やサマリーの作り方、議論の組み立て方等アドバイスします。受講生の皆さんの積極的な参加に期待

しています。なお、単語等確認のため随時小テストを実施します

< 履修するにあたって >

今回取り上げるSDGsはビジネスの領域のみならず政治・社会・科学をはじめとする様々な領域でいま国際的に最も重視されているテーマのひとつであり、皆さんが卒業してからもビジネスの場で向き合う機会があると考えられます。授業の課題としてとらえるのではなく、英語を用いてリアルな情報に接し、知見を広げる機会としてこの授業を活用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業前に、指定された英文を読み込み、課題に取り組む時間が必要となります。関連する資料を探す努力も求められます。

< 提出課題など >

必要に応じて指示します。

< 成績評価方法・基準 >

小テストおよび授業(ディスカッション)参加度50%、期末試験およびレポート(プレゼンテーション)50%

< テキスト >

テキストは指定せず、新聞・雑誌記事やプレスリリース等を用います。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業概要についてオリエンテーション

第2回 トピック1(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第3回 トピック1(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第4回 トピック2(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第5回 トピック2(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第6回 トピック3(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第7回 トピック3(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第8回 トピック4(1)

SDGs企業の取り組み事例 読解と簡単なディスカッション

第9回 トピック4(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第10回 トピック5(1)

エシカル消費について英文の読解および簡単なディスカッション

第11回 トピック5(2)

与えられたトピックについてディスカッションを行う

第12回 まとめ(1)

これまで取り上げたテーマについて全体的な視点からのディスカッション

第13回 まとめ(2)

全体の振り返りおよび補足

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to international business using the English language. This course will feature group activities, research projects, and oral presentations to allow students to use what they are learning in class. Course content will be taught using class discussion, group work, online homework, and listening comprehension activities.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, be able to actively participate in group activities in English, and improve both their English public speaking skills and listening comprehension skills.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to participate in basic business practices such as group meetings, presentations, and researching information on business-related topics in English.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, Oral Presentation, Listening Comprehension, E-Learning

< 授業の進め方 >

This course makes use of both in-class and online activities, group activities, research projects, online homework, listening comprehension, and oral presentations to instruct students.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects and activities, access to a computer and/or smartphone is highly recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Oral presentation preparation and online homework

< 提出課題など >

Oral presentation research/practice recording and online homework

< 成績評価方法・基準 >

Class Participation 60%, Online Homework 10%, Oral

Presentations 10%, Examinations 20%

< テキスト >

Business Result Intermediate Student's Book with Online Practice, Oxford University Press

ISBN: 978-0-19-473886-6

< 参考図書 >

N/A

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-4 Unit 9: Logistics

Shipping, placing, and handling orders

Weeks 5-7 Unit 10: Facilities

Describing your place of work, making suggestions and recommendations

Weeks 8-10 Unit 11: Decisions

Decision-making, negotiations

Weeks 11-13 Unit 12: Innovation

Presenting new ideas

Week 14 Review Session

Cumulative review based on material covered throughout the semester

Week 15 Final Examination

Cumulative examination based on material covered throughout the semester

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語

ロベッツ, ケヴィン レイ

< 授業の方法 >

This course will expose students to vocabulary, concepts, and culture related to international business using the English language. This course will feature group activities and oral presentations to allow students to use what they are learning in class. Course content will be taught using class discussion, group work, online homework, and listening comprehension activities.

< 授業の目的 >

Students will increase their vocabulary, be able to actively participate in group activities in English, and improve both their English public speaking skills and listening comprehension skills.

< 到達目標 >

By the end of the semester, students will be better able to participate in basic business practices such as group meetings, presentations, and research

hing information on business-related topics in English.

< 授業のキーワード >

Business English, Communication, Culture, Oral Presentation, Listening Comprehension, E-Learning

< 授業の進め方 >

This course will use in-class activities, group activities, research projects, online homework, listening comprehension, and oral presentations to instruct students.

< 履修するにあたって >

As this course makes use of Computer-Assisted Language Learning projects, access to a computer and/or smartphone is recommended.

< 授業時間外に必要な学修 >

Oral presentation preparation and online homework

< 提出課題など >

Oral presentation research/practice recording and online homework

< 成績評価方法・基準 >

Class Participation 60%, Online Homework 10%, Oral Presentations 10%, Examinations 20%

< テキスト >

Business Result Intermediate Student's Book with Online Practice, Oxford University Press

ISBN: 978-0-19-473886-6

< 参考図書 >

N/A

< 授業計画 >

Week 1 Introduction

Students are introduced to the course and to each other.

Weeks 2-4 Unit 13: Breakdowns

Discussing and resolving problems

Weeks 5-7 Unit 14: Processes

Dealing with questions

Weeks 8-10 Unit 15: Performance

Personal qualities, appraising workplace performance

Weeks 11-13 Mock Interviews

Prepare for a professional interview in English

Week 14 Review Session

Cumulative review based on material covered throughout the semester

Week 15 Final Examination

Cumulative examination based on material covered throughout the semester

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス中国語

松岡 依文

< 授業の方法 >

対面授業（講義・演習）

授業で利用する資料ある場合は、「Office365」の「One Drive」に置いてあります。次の「URL」は資料を置いたフォルダーへのリンクになっています。授業の始まる前までにこの「URL」をクリックして授業科目のフォルダーを開き、授業を受けるのに必要な資料を授業回のフォルダーから選んで、自分の環境にダウンロードしておいてください。

<One Drive の URL>

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/gi161169_ge_kobegakuin_ac_jp/EmNqlu-huUNArZso0UgntcIBTuKhcp0pDP_XUI9ImIWEtg?e=ceebLr,https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/gi161169_ge_kobegakuin_ac_jp/EmNqlu-huUNArZso0UgntcIBTuKhcp0pDP_XUI9ImIWEtg?e=ceebLr}

教員に連絡するためのメールアドレス

gi161169@ge.kobegakuin.ac.jp

メールを送る際は「件名」欄に「授業の曜日・時限・科目名および自分の学籍番号・氏名と用件の概要」を必ず記しておいて下さい。「件名」欄にこれらの情報の記されていないメールは読まれないことがあります。

< 授業の目的 >

< 主題 > この講義概要は、中国企業と取引をする際に、実際の現場でのビジネス交渉の流れに沿って作成したものです。様々なビジネス環境が想定されますが、今回は、中国に赴任する日本人会社員が経験した物語となっております。貿易と交渉の手順を通して、ビジネス中国語を習得することを可能としています。

< 目標 > 相互理解を深めるためには、文化習慣の相違から生まれる文法の構造や、独自の表現を知っておくことがとても大切です。双方の常識、挨拶の仕方、行動パターンや考え方を理解して始めて“真心の交流”ができます。本講義は、専門知識のほかに、中国人の特有の交流術にふれ、生きた知識を伝えたいと考えています。

< 到達目標 >

簡単なビジネス会話ができる。

< 授業のキーワード >

ビジネス会話

< 授業の進め方 >

文法の説明したのちに、本文の日本語訳を確認。練習問題及びリスニングは出来るだけ実力でトライをしていただく。

<履修するにあたって>

中国語初級レベルを習得した学生を対象とする。

<授業時間外に必要な学修>

各課終了後に必ず授業内容を復習して付属CDを繰り返し聞く。

<提出課題など>

敬語を中心とした社会人として正しい表現での日本語の訳文及び練習問題を定時に提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。

・定期試験50%。授業への取り込む50%。

<テキスト>

「仕事のための基礎中国語」(CD付き) ¥2,600 荘
廠 / 佐藤貴子著 発行所 金星堂

<授業計画>

第1回 <初めに>

1. ビジネスマナーの心得 2. 発音総合練習

第2回 <第一課>

出迎え

・ポイント

第3回 <第一課>

出迎え

・総合練習

第4回 <第二課>

車に乗る

・ポイント

第5回 <第二課>

車に乗る

・総合練習

第6回 <第三課>

部屋を見る

・ポイント

第7回 <第三課>

部屋を見る

・総合練習

第8回 <第四課>

会社見学

・ポイント

第9回 <第四課>

会社見学

・総合練習

第10回 総合復習(1)

第1課から第3課までの到達確認テスト及び復習。

第11回 <第五課>

紹介

・ポイント

第12回 <第五課>

紹介

・総合練習

第13回 <第六課>

電話応対

・ポイント

第14回 <第六課>

電話応対

・総合練習

第15回 総合復習(2)

第4課から第6課までの到達確認テスト及び復習。

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス中国語

松岡 依文

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

授業で利用する資料ある場合は、「Office365」の「One Drive」に置いてあります。次の「URL」は資料を置いたフォルダーへのリンクになっています。授業の始まる前までにこの「URL」をクリックして授業科目のフォルダーを開き、授業を受けるのに必要な資料を授業回のフォルダーから選んで、自分の環境にダウンロードしておいてください。

<One Drive の URL>

```
{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/gi161169_ge_kobegakuin_ac_jp/Ese599r6_t9ApMy8iYmNnGUBspa8NDXKAPpNfvwVYfSHAQ?e=0h3syF,https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/gi161169_ge_kobegakuin_ac_jp/Ese599r6_t9ApMy8iYmNnGUBspa8NDXKAPpNfvwVYfSHAQ?e=0h3syF}
```

教員に連絡するためのメールアドレス

gi161169@ge.kobegakuin.ac.jp

メールを送る際は「件名」欄に「授業の曜日・時限・科目名および自分の学籍番号・氏名と用件の概要」を必ず記しておいて下さい。「件名」欄にこれらの情報の記されていないメールは読まれないことがあります。

<授業の目的>

<主題>この講義概要は、中国企業と取引をする際に、実際の現場でのビジネス交渉の流れに沿って作成したものです。様々なビジネス環境が想定されますが、今回は、中国に赴任する日本人社員が経験した物語となっております。貿易と交渉の手順を通して、ビジネス中国語を

習得することを可能としています。

<目標> 相互理解を深めるためには、文化習慣の相違から生まれる文法の構造や、独自の表現を知っておくことがとても大切です。双方の常識、挨拶の仕方、行動パターンや考え方を理解して始めて“真心の交流”ができます。本講義は、専門知識のほかに、中国人の特有の交流術にふれ、生きた知識を伝えたいと考えています。

<到達目標>

簡単なビジネス会話ができる。

<授業のキーワード>

ビジネス会話

<授業の進め方>

文法の説明したのちに、本文の日本語訳を確認。練習問題及びリスニングは出来るだけ実力でトライをしていただく。

<履修するにあたって>

中国語初級レベルを習得した学生を対象とする。

<授業時間外に必要な学修>

各課終了後に必ず授業内容を復習して付属CDを繰り返し聞く。

<提出課題など>

敬語を中心とした社会人として正しい表現での日本語の訳文を定時に提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験50%。授業への取り込む50%。

<テキスト>

「仕事のための基礎中国語」(CD付き) ¥2600 荘
廠 / 佐藤貴子著 発行所 金星堂

<授業計画>

第1回 <初めに>

- (1)後期の授業方法について説明する
- (2)発音の復習
- (3)文化交流

第2回 <第七課>

出張

・ポイント

第3回 <第七課>

出張

・総合練習

第4回 <第八課>

仕入先工場視察

・ポイント

第5回 <第八課>

仕入先工場視察

・総合練習

第6回 <第九課>

社員研修

・ポイント

第7回 <第九課>

社員研修

・総合練習

第8回 総合復習(1)

第七課から第九課までの到達確認テスト及び復習。

第9回 <第十課>

接待

・ポイント

第10回 <第十課>

接待

・総合練習

第11回 <第十一課>

価格交渉

・ポイント

第12回 <第十一課>

価格交渉

・総合練習

第13回 <第十二課>

オフィスにて

・ポイント

第14回 <第十二課>

オフィスにて

・総合練習

第15回 総合復習(2)

第十課から第十二課までの到達確認テスト及び復習。

2022年度 前期

2.0単位

貿易論

岸脇 誠

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業では受講生が貿易に関する基礎知識を、輸出入取引の流れに沿って体系的に理解できるようになることを目的とする。この目的は経営学部のディプロマ・ポリシーの「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識と技能を学修する」という点に対応している。

<到達目標>

受講生が貿易に関する基礎知識を理解した上で、将来、企業において基本的な貿易実務を担当できるレベルに到達することを目標とする。

<授業のキーワード>

輸出入規制、信用状、インコタームズ、貨物海上保険、為替変動リスク

<授業の進め方>

基本的に講義を中心として進める。ただし、契約書、信

用状発行依頼書といった具体的な貿易書類のサンプル作成といった演習の要素も兼ね備えている。

<履修するにあたって>

貿易に関する書類では主に英語が用いられるので、必要に応じて電子辞書等を参照することが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

その日の授業内容を具体的な事例で確認する復習が必要である。また、英文契約書のサンプルを翻訳する等、次の授業に向けた予習も必要となる。

<提出課題など>

必要に応じて授業の中で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業時間内に実施する小テスト50%、中間テスト25%、期末テスト25%で採点する。

<テキスト>

必要に応じてプリントを配布する。

<参考図書>

日本貿易実務検定協会編『図解 貿易実務ハンドブック ベーシック版 第7版』日本能率協会マネジメントセンター、2020年。

黒岩章『改訂版 貿易実務完全パイブル』かんき出版、2021年。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方について説明した上で、貿易に関する基本的な用語について学習する。

第2回 貿易取引の全体像

貿易取引の手順とそれぞれの場面で必要となる書類、手続き等について学習する。

第3回 市場調査から契約の成立まで

市場調査、輸出入規制、信用調査等、契約成立に至るまでの過程について学習する。

第4回 信用状

貿易決済を円滑化するために銀行が発行する信用状について学習する。

第5回 品質条件・数量条件等

貿易取引における品質条件・数量条件等について学習する。

第6回 インコタームズ

国際商業会議所が発行する輸出入取引に関して定型的な取引条件を定めたインコタームズについて学習する。

第7回 貿易運送

信用状の確認、為替予約、船舶の予約等の貿易運送に関わる実務について学習する。

第8回 貨物海上保険

海上輸送される貨物を対象に、運送中のさまざまなリスクから生じる損害をカバーする保険について学習する。

第9回 貿易取引に関するその他の保険

貿易取引の実態、貨物等の特性に応じて条件が設定されるその他の保険について学習する。

第10回 代金決済

貿易取引は取引先が海外にあるため、商品の引き渡しと代金の支払いとの間にタイムラグが生じる。そのリスクを回避する決済方法について学習する。

第11回 船積みから輸出代金の回収

輸出貨物の船積み手続きから輸出代金回収までの過程を学習する。

第12回 「船積通知の受領」から「貨物の引取り」まで船積みを完了したことが輸出者から輸入者に対して知らされた後、輸入者が貨物を引き取るまでの過程を学習する。

第13回 外国為替相場と為替変動リスクの回避

為替変動のリスクを輸出者と輸入者のどちらが負担するか、またそのリスクを回避する方法について学習する。

第14回 クレームへの対応とリスクの回避策

貿易取引でしばしば見受けられる商品の品質不良や破損、数量不足といったクレームへの対応とそのリスクを回避する方法について学習する。

第15回 総括

15回の講義で学んだ内容を総復習し、発展的な課題を提示する。

2022年度 後期

2.0単位

貿易論

浅居 孝彦

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

「貿易論」では、貿易の仕組みや貿易取引についての専門的な知識を身につけることを目的としている。具体的には、貿易取引の相手探しから輸出・輸入までのそれぞれの段階で必要となる書類・手続きについて学習する。

この科目は、経営学部がDPに掲げる「社会のグローバル化に伴って、国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化圏の人々と交流するのに必要な知識・技能を学修する」ことを目指す。

<到達目標>

貿易実務の仕事の流れと専門用語が説明できる。

日本貿易実務検定協会の主催する「貿易実務検定C級」の問題が解ける。

<授業のキーワード>

契約交渉、インコタームズ、船積み書類、信用状取引、輸出・輸入実務

<授業の進め方>

基本的に講義中心で進めるが、授業内に理解度確認のための問題演習を行う。

<履修するにあたって>

前期に「貿易論」を履修済みであることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内に実施する演習問題を理解できるまで繰り返し復習すること。理解できない内容については、次回の授業時に質問できるように質問内容の整理をしておくこと。復習と質問内容の整理のために、1?2時間程度の事後学習をすることが望ましい。

< 提出課題など >

課題の説明・指示は授業内に行う。問題演習・課題の提出にはdotCampusを利用する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内課題（40%）、授業内試験（60%）で評価する。

< テキスト >

池田隆之[2020]『サクッとわかる貿易実務（第4版）』

ネットスクール株式会社出版本部。

* 資料は下記のOneDrive上にアップロードする。

< 参考図書 >

片山立志[2011]『改訂版 絵でみる貿易のしくみ』日本能率協会マネジメントセンター。

池田隆之[2020]『サクッとわかる貿易実務問題集（第4版）』ネットスクール株式会社出版本部。

* 「貿易実務検定」の受験を検討している場合は、指定テキストに加えて上記の参考書を利用して学習することが望ましい。

< 授業計画 >

第1回 貿易取引の全体像

輸出・輸入における貨物・書類・金の流れを含めた貿易取引の全体像について学習する。

第2回 契約交渉を始めるまで

貿易のリスク、取引の準備（取引相手探し、マーケティング調査、信用調査）について学習する。

第3回 契約交渉（1）：商品、運送、保険条件

契約交渉の流れと契約内容（商品、運送、保険条件）について学習する。

第4回 契約交渉（2）：価格条件、インコタームズ

インコタームズの各条件について学習する。

第5回 契約交渉（3）：決済条件、船積み書類

荷為替手形決済・信用状決済の仕組み、船積み書類の役割について学習する。

第6回 契約成立と許認可取得

輸出・輸入に関する規制と法令、許認可の取得について学習する。

第7回 決済準備と保険付保の手続き

信用状の発行依頼（輸入者）、信用状の受領（輸出者）、貨物保険の付保に関する流れと手続きについて学習する。

第8回 船積み準備

船積み準備の手続きと通関業務の依頼の流れ、船荷証券の流通の仕組みについて学習する。

第9回 輸出通関と船積み作業

輸出通関手続き、コンテナ船・在来船の船積み作業の流

れについて学習する。

第10回 輸出代金の決済

輸出代金のさまざまな決済方法（送金決済、D/P決済（=手形支払い時書類渡し）、D/A決済（=手形引受時書類渡し）、L/C付決済）について学習する。

第11回 輸入代金の決済と貨物の引き取り

輸入代金の決済の手続きと流れについて、一般的な場合と船積み書類未着の場合を学習する。

第12回 輸入通関と荷受け作業

コンテナ船・在来船の荷受け作業、輸入通関手続きの流れについて学習する。

第13回 貿易リスクの回避策

クレームの種類とトラブルへの対応、紛争解決の手段について学習する。

第14回 貿易の形態とマーケティング

貿易の形態（仲介貿易、加工貿易、中継貿易、並行輸入、開発輸入、OEM輸入、個人輸入と小口輸入）とマーケティング戦略について学習する。

第15回 「貿易論」のまとめ

「貿易論」で学習した内容を総復習する。

2022年度 後期

2.0単位

簿記論（A）【19-】/基礎会计学【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式で授業を実施します。

< 授業の目的 >

（主題）

簿記論は、会計のなかでも重要な決算整理に関する手続きを修学するための布石として位置付けられる。会計手続きの社会的認知は、決算により作成される財務諸表の集約になる。制度会計を成立させているのが、講義で扱う決算に他ならない。会計手続きは、会計理論によって裏付けられ、単なる事務的作業ではないことを認識する必要がある。講義で解説する内容を、会計理論の観点から捉え、その意義や必要性を認識する。講義形式は、解説と問題演習を中心とする。

（目標）

決算手続きのなかでも基礎的なものを扱うため、修学において大きな理解上の困難を伴うものではなく、継続して講義を受ければ熟知は可能である。会計理論を体系的に習得する。

< 到達目標 >

簿記論での到達目標は、決算手続きの仕組みや考え方を、会計理論に照らして認識し、自ら仕訳を実施し、決算手続きまでを行えるようになることである。問題演習を実践することによって、実社会の会計制度の蓋然性を把握する。

< 授業のキーワード >

決算整理・精算表・財務諸表

< 授業の進め方 >

講義の前半および中盤は、解説を中心に進め、終盤は問題演習を実施する。解説は、指定の教科書を用いて行う。問題演習は、既存あるいは作成したものを使用する。解説と問題演習の構成によって、理解の定着を図る。

< 履修するにあたって >

教科書とノートおよび電卓は必携。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習を必要とするので、現存する書籍を図書館などで活用すること。

< 提出課題など >

適時に課題等を課す。

< 成績評価方法・基準 >

適時の課題と定期試験により評価する。

< テキスト >

吉田康久『簿記会計基礎論』中央経済社、2020年。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方について説明する。

第2回 貸倒引当金の設定

債権の貸倒れについて説明する。

第3回 貸倒引当金の残高設定

貸倒引当金の残高を補充する方法を説明する。

第4回 有形固定資産の取得と減価償却

減価償却の考え方について説明する。

第5回 減価償却費の記帳と有形固定資産の売却・除却
仕訳の違いによる考え方の相違を説明する。

第6回 有価証券の取得・売却・評価替え

有価証券の購入から売却そして評価替えの考え方を説明する。

第7回 費用・収益の繰延べ

費用・収益の前払・前受を繰り延べる方法を説明する。

第8回 費用・収益の見越し

費用・収益の未払い・未収を見越し方法を説明する。

第9回 現金過不足・引出金・消耗品・貯蔵品

現金過不足・引出金・消耗品・貯蔵品の手続きについて説明する。

第10回 中間課題

講義の第1回から第9回までの範囲から出題する。

第11回 決算（試算表の作成）

試算表の作成方法を勘定を用いて説明する。

第12回 決算（決算整理）

決算整理仕訳を行い精算表への記入の仕方を説明する。

第13回 決算（精算表の作成）

複合的な決算整理仕訳を行い精算表へ記入する手順を説明する。

第14回 精算表の完成

総合的な精算表を完成させるための手続きを行う。

第15回 確認課題

総合的な学習内容の確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

簿記論 (B)【19-】/基礎会计学【-18】

加藤 大智

< 授業の方法 >

対面式授業を実施します。しかし、状況が変わった場合は、オンライン授業になることがあります。

< 授業の目的 >

(主題)

簿記論 は、会計のなかでも重要な決算整理に関する手続きを修学するための布石として位置付けられる。会計手続きの社会的認知は、決算により作成される財務諸表の集約になる。制度会計を成立させているのが、講義で扱う決算に他ならない。会計手続きは、会計理論によって裏付けられ、単なる事務的作業ではないことを認識する必要がある。講義で解説する内容を、会計理論の観点から捉え、その意義や必要性を認識する。講義形式は、解説と問題演習を中心とする。

(目標)

決算手続きのなかでも基礎的なものを扱うため、修学において大きな理解上の困難を伴うものではなく、継続して講義を受ければ熟知は可能である。会計理論を体系的に習得する。

< 到達目標 >

簿記論 での到達目標は、決算手続きの仕組みや考え方を、会計理論に照らして認識し、自ら仕訳を実施し、決算手続きまでを行えるようになることである。問題演習を実践することによって、実社会の会計制度の蓋然性を把握する。

< 授業のキーワード >

決算整理・精算表・財務諸表

< 授業の進め方 >

講義の前半および中盤は、解説を中心に進め、終盤は問題演習を実施する。解説は、指定の教科書を用いて行う。問題演習は、既存あるいは作成したものを使用する。解説と問題演習の構成によって、理解の定着を図る。

< 履修するにあたって >

教科書とノートおよび電卓は必携。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習を必要とするので、現存する書籍を図書館などで活用すること。

< 提出課題など >

適時に課題等を課す。

< 成績評価方法・基準 >

適時の課題と定期試験により評価する。

<テキスト>

吉田康久『簿記会計基礎論』中央経済社、2020年。

<参考図書>

指定しない。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方について説明する。

第2回 貸倒引当金の設定

債権の貸倒れについて説明する。

第3回 貸倒引当金の残高設定

貸倒引当金の残高を補充する方法を説明する。

第4回 有形固定資産の取得と減価償却

減価償却の考え方について説明する。

第5回 減価償却費の記帳と有形固定資産の売却・除却
仕訳の違いによる考え方の相違を説明する。

第6回 有価証券の取得・売却・評価替え

有価証券の購入から売却そして評価替えの考え方を説明する。

第7回 費用・収益の繰延べ

費用・収益の前払・前受を繰り延べる方法を説明する。

第8回 費用・収益の見越し

費用・収益の未払い・未収を見越す方法を説明する。

第9回 現金過不足・引出金・消耗品・貯蔵品

現金過不足・引出金・消耗品・貯蔵品の手続きについて説明する。

第10回 中間課題

講義の第1回から第9回までの範囲から出題する。

第11回 決算（試算表の作成）

試算表の作成方法を勘定を用いて説明する。

第12回 決算（決算整理）

決算整理仕訳を行い精算表への記入の仕方を説明する。

第13回 決算（精算表の作成）

複合的な決算整理仕訳を行い精算表へ記入する手順を説明する。

第14回 精算表の完成

総合的な精算表を完成させるための手続きを行う。

第15回 確認課題

総合的な学習内容の確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

簿記論 (C)【19-】/基礎会计学 【-18】

櫻井 喜平

<授業の方法>

講義は日商簿記検定合格に向けた問題の解答・解説を中心にする。

授業形態について

ライブ講義により実施致します。

『簿記論』に関する連絡先

大原学園 櫻井喜平

yoshinari.sakurai@mail.o-hara.ac.jp

<授業の目的>

ビジネスに必須の知識である簿記を習得する講義である。一般企業はもちろんのこと、公認会計士や税理士試験受験の基礎知識にもなる。

簿記とは、企業活動を帳簿に記録することにより企業の経営成績や財政状態を明らかにするものである。

本講義では、個人企業を対象として学習する。

簿記を学習することで企業の数字に強くなり、就職後に大変役立つ知識である。

<到達目標>

日商簿記検定試験3級合格レベルの計算力および簿記の基本処理を身につけることが出来る。

会計の基礎知識の理解を深めることができる。

<授業のキーワード>

簿記、会计学

<授業の進め方>

テキストを使用し講義を進める。問題演習もおりこみながら進行する。

電卓を使用して問題演習を行う。

<履修するにあたって>

授業を欠席すると次回の授業内容が分からなくなるため、欠席することなく出席すること。

本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

講義初回から、教材及び電卓を使用する。必ず教材を購入して初回授業に出席すること。

<授業時間外に必要な学修>

自宅学習が必要である。具体的には、ドリルの解答が必要である。

1回の講義に対して、1時間程度の復習が必要である。

<提出課題など>

授業内で配付するプリントを提出すること。

<成績評価方法・基準>

授業中のミニテストおよび宿題等（30%）、期末試験（70%）により評価する。

<テキスト>

「ALFA3級商業簿記」（テキスト・ドリル・アンサー）

大原簿記専門学校

簿記論 専用のパッケージされた教材を購入する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス、簿記学習の目的

簿記を学習する目的や学習の進め方、自宅学習について

第2回 問題演習

簿記の基礎知識の確認を行う。

第3回 期中取引

現金および預金について学習する。

第4回 期中取引

手形、電子記録債権・債務について学習する。

第5回 株式会社

株式会社の概念、株式会社の資本、株式の発行について学習する。

第6回 株式会社

剰余金の配当など、消費税、その他の税金について学習する。

第7回 決算

帳簿の締切りについて確認する。

第8回 決算

繰越商品および仕入の決算整理について学習する。

第9回 決算

受取手形・売掛金の決算整理について学習する。

第10回 決算

有形固定資産の決算整理について学習する。

第11回 決算

収益・費用の繰延べ計上について学習する。

第12回 決算

収益・費用の見越し計上について学習する。

第13回 決算

当座預金、貯蔵品、消費税、法人税の決算整理仕訳を学習する。

第14回 決算

精算表の作成について学習する。

第15回 決算

貸借対照表、損益計算書の作成について学習する。

2022年度 前期

2.0単位

簿記論 (A)【19-】/基礎会计学 【-18】

吉田 康久

< 授業の方法 >

対面式で授業を実施します。

< 授業の目的 >

(主題)

簿記論 は、会計領域に帰属する学問を修学するための布石として位置付けられる。会計理論は、借方・貸方という左右2つの区分領域を巧みに扱い、自己完結する仕組みが構築されている。後に、会計理論を修学するにあたって、借方・貸方の構造・仕組みと、そこで用いられる勘定の有機的関連性の知識を欠いては進められない。よって、講義では、借方・貸方、そして勘定の有機的関連性の理解に重点を置く。講義形式は、解説と問題演習を中心とする。

(目標)

初歩的な勘定体系を認識し、それらが借方・貸方のなかで、どのような論理によって有機的に関連するのかを熟知し、会計理論の礎石を習得することである。

< 到達目標 >

簿記論 での到達目標は、会計取引における仕訳を、論理を理解した上で実践できるようになることである。勘定および仕訳には、それぞれ会計論理を持ち合わせ、その用法が定型化されている。問題演習を実践することで、理解の深化を図ることができる。

< 授業のキーワード >

借方・貸方・勘定・仕訳

< 授業の進め方 >

講義の前半および中盤は、解説を中心に進め、終盤は問題演習を実施する。解説は、指定の教科書を用いて行う。問題演習は、既存あるいは作成したものを使用する。解説と問題演習の構成によって、理解の定着を図る。

< 履修するにあたって >

教科書とノートおよび電卓は必携。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習を必要とするので、現存する書籍を図書館などで活用すること。

< 提出課題など >

必要性がある場合は、課すことがある。

< 成績評価方法・基準 >

適時の課題と定期試験により評価する。

< テキスト >

吉田康久『簿記会計基礎論』中央経済社、2020年。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 序論

会計理論の基礎をなす簿記について概説する。

第2回 仕訳

簿記における仕訳の構造について説明する。

第3回 貸借対照表・損益計算書

貸借対照表・損益計算書の役割や様式を解説する。

第4回 仕訳の原則

仕訳のルールを資産・負債・純資産・収益・費用の観点から説明する。

第5回 仕訳と勘定口座

仕訳した勘定の集約方法について概説する。

第6回 現金・当座預金

現金・当座預金勘定の用法について説明する。

第7回 商品売買

商品売買の仕訳を3分法により説明する。

第8回 中間テスト

講義の第1回から第7回までの範囲から出題する。

第9回 商品売買の付帯取引

商品の仕入・売上における付帯取引について説明する。

第10回 売掛金・買掛金その他の債権・債務・電子記

録債権・債務

債権・債務の仕訳の考え方について説明する。

第11回 約束手形・為替手形

2者間および3者間取引における手形債権・債務を説明する。

第12回 手形の裏書譲渡・決済と割引

手形を他者へ譲渡した場合ならびに決済と満期前の売却における割引について説明する。

第13回 株式会社の資本

株式会社の資本構成やその考え方を説明する。

第14回 税金

消費税や法人税について解説する。

第15回 総括

各単元の内容整理を行う。

2022年度 前期

2.0単位

簿記論 (B)【19-】/基礎会计学 【-18】

加藤 大智

< 授業の方法 >

対面式授業を実施します。しかし、状況が変わった場合は、オンライン授業になることがあります。

< 授業の目的 >

(主題)

簿記論 は、会計領域に帰属する学問を修学するための布石として位置付けられる。会計理論は、借方・貸方という左右2つの区分領域を巧みに扱い、自己完結する仕組みが構築されている。後に、会計理論を修学するにあたって、借方・貸方の構造・仕組みと、そこで用いられる勘定の有機的関連性の知識を欠いては進められない。よって、講義では、借方・貸方、そして勘定の有機的関連性の理解に重点を置く。講義形式は、解説と問題演習を中心とする。

(目標)

初歩的な勘定体系を認識し、それらが借方・貸方のなかで、どのような論理によって有機的に関連するのかを熟知し、会計理論の礎石を習得することである。

< 到達目標 >

簿記論 での到達目標は、会計取引における仕訳を、論理を理解した上で実践できるようになることである。勘定および仕訳には、それぞれ会計論理を持ち合わせ、その用法が定型化されている。問題演習を実践することで、理解の深化を図ることができる。

< 授業のキーワード >

借方・貸方・勘定・仕訳

< 授業の進め方 >

講義の前半および中盤は、解説を中心に進め、終盤は問題演習を実施する。解説は、指定の教科書を用いて行う。

問題演習は、既存あるいは作成したものを使用する。解説と問題演習の構成によって、理解の定着を図る。

< 履修するにあたって >

教科書とノートおよび電卓は必携。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習を必要とするので、現存する書籍を図書館などで活用すること。

< 提出課題など >

必要性がある場合は、課すことがある。

< 成績評価方法・基準 >

適時の課題と定期試験により評価する。

< テキスト >

吉田康久『簿記会計基礎論』中央経済社、2020年。

< 参考図書 >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 序論

会計理論の基礎をなす簿記について概説する。

第2回 仕訳

簿記における仕訳の構造について説明する。

第3回 貸借対照表・損益計算書

貸借対照表・損益計算書の役割や様式を解説する。

第4回 仕訳の原則

仕訳のルールを資産・負債・純資産・収益・費用の観点から説明する。

第5回 仕訳と勘定口座

仕訳した勘定の集約方法について概説する。

第6回 現金・当座預金

現金・当座預金勘定の用法について説明する。

第7回 商品売買

商品売買の仕訳を3分法により説明する。

第8回 中間テスト

講義の第1回から第7回までの範囲から出題する。

第9回 商品売買の付帯取引

商品の仕入・売上における付帯取引について説明する。

第10回 売掛金・買掛金その他の債権・債務・電子記録債権・債務

債権・債務の仕訳の考え方について説明する。

第11回 約束手形・為替手形

2者間および3者間取引における手形債権・債務を説明する。

第12回 手形の裏書譲渡・決済と割引

手形を他者へ譲渡した場合ならびに決済と満期前の売却における割引について説明する。

第13回 株式会社の資本

株式会社の資本構成やその考え方を説明する。

第14回 税金

消費税や法人税について解説する。

第15回 総括

各単元の内容整理を行う。

2022年度 前期

2.0単位

マーケティング・リサーチ

辻 幸恵

< 授業の方法 >

授業

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの以下の場所に記載されているので、ご確認ください。URL:<https://www.kobegakuin.ac.jp/students/toriatsukai.html>

< 授業の目的 >

この授業は経営・商学コースに属している。この授業では、経営の問題をリサーチという手法とその調査結果から、総合的に分析・解析できる知識・技能を修得する科目である。これは経営学部の目的と合致している。まさにマーケティング論などで培った基礎から、より現実的な課題を分析・理解できるようになることが目的である。具体的には、この授業で学んだ事例をもとにして、身近なニュースや調査結果からその要因を推測したり、予測することができればよい。さらに実務経験のある教員として、結果の推測や予測する手助けとして具体例を示すことができる。

< 到達目標 >

1. 知識としては、マーケティング・リサーチの基本的な手法を知ること。さらに導き出された結果の読み取りができることを目標とする。
2. 態度・習慣としては、新聞やニュースでマーケット（市場）に変化があったり、トピックスがあったりしたときに、積極的にそれらを知ろうとする態度がのぞましい。また、定期的にそれらの記事やニュースを読む習慣ができることがのぞましい。
3. 技能については、分析手法と統計処理された数字の見方や導かれ方を正しく示すことができればよい。

< 授業のキーワード >

リサーチ マーケティング アンケート ブランド

< 授業の進め方 >

オンライン講義を進める。前期の授業のうちにレポート課題を3回出すので、それに各自が解答し、提出しなければならない。基本的には1コマの授業で一つのテーマをするいわば一話完結になる。13回分のトピックスを習うことになる。時間の最初には、必ず前回の復習をして、全員が基本的な事項を共有してから、本題に入る。教科書にそって授業は実施する。

< 履修するにあたって >

マーケティング論 あるいは を履修していることが望ましい。マーケティングに関するニュースなどには関心をもってほしいので、毎日、ニュースなどをチェックすること。新聞ならば朝刊、夕刊ともにチェックをする。また教科書を指定しているので、毎回の授業の後は該当ページの復習、毎時間、次回の予告をするのでそのページに目をとおしておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で例示した企業や広告については各自がインターネットなどで10分程度をかけて確認をすること。また、関連したニュースや新聞記事などがあれば目をとおしておくこと。毎回、授業内で設問（問題）を4つ出すが、授業内での内容しか出さないのので、1時間ほどは復習をしておくこと。また授業内の設問は教科書からも出題するので、授業内で説明した箇所はマークをし、1時間程度は予習をかねておくこと。

< 提出課題など >

前期の授業のうちに1度だけレポート課題を出す。

課題内容は教科書から出す予定である。期日を過ぎたものは受け取らないので期日はしっかり守るようにすること、まったく同じ解答があった場合はカンニングを疑い採点しない（0点）。なお、レポートに対する質問は授業内容と同然に受付けるが、直接的な個々の点数については回答はしない。

< 成績評価方法・基準 >

2回目の授業から14回目の授業までの13回においては毎回、1問1点で4問の問題を出すのでそれに回答をする。これは4点×13回＝52点の配点となる。ただし出席点ではないので、間違えた回答ばかりだと1回出席しても0点の場合がある。中間課題としてレポート課題が8点、15回目の授業内で期末確認テストは40点とする。

< テキスト >

辻幸恵『リサーチ・ビジョン - マーケティング・リサーチの実際 - 』白桃書房、2016年、2500円＋税。

< 参考図書 >

滋野英憲、辻幸恵、松田優『マーケティング講義ノート』白桃書房、2018年、2600円＋税

< 授業計画 >

1回 マーケティングとリサーチの意味

全体の講義概要を説明する。次に、授業内容としては、マーケティングの発祥（つまり、はじまりはいつで何であったか）とその意味、どうしてそのようなことが必要であったのかを説明する。次にマーケティング・リサーチの意味と必要性について説明し、具体例を示す。

2回

マーケティング・リサーチに求められていることについて
マーケティング・リサーチの必要性と意義についての理解を深める。また、現在、マーケティング・リサーチは

単純な調査だけではなく、多くの役割があることを説明する。(教科書pp.1-11)

3回

手法の分類と変遷について

リサーチには基本な手法がある。それは時代によっての変遷があった。また、リサーチ・プロセスについて説明する。(教科書pp.11-20)

4回

リサーチ・デザインとプロセスとの関係について

データの分類とそれぞれのメリット、デメリットを挙げる。また、理論を説明した後いくつかの事例をあげる。(教科書pp.21-22)

5回

リサーチ・アプローチについて

実際のアプローチの例として男子大学生たちの日用品やブランド品に対する選択基準と女子大学生の海外有名ブランドの購入時の基準を挙げる。(教科書pp.22-36)

6回

解釈方法について

デザインによる相違と解釈方法の流れを説明する、またアプローチの視点について、具体的にはサンプリングやサーバイ方法を説明をする。(教科書pp.37-51)

7回

ファストファッションに対する消費者の購買意識について

ファストファッションへのイメージ調査や選択理由を例示し、そのような回答を導いた具体的な方法について学習する(教科書pp.53-71)

8回

前半のまとめと復習

マーケティング/リサーチの起源、定義、方法、解釈の仕方などの復習と事例の復習を中心とする。特にリサーチ・デザインについては復習をする。

9回

キャラクター人気を支える要因分析について

世の中ではゆるキャラが多く、存在するが、そのイメージやグッズ販売を例にして、選択、好悪、などの消費者心理を説明する。(教科書pp.73-91)

10回

好悪の感情についてのリサーチ方法

ゆるキャラとヒット商品を中心に製品が世の中に普及するために必要な感情分析のツールを学ぶ。たとえば、実態調査からの分析結果を引用して、方法と結果との結びつきを学ぶ。(教科書pp.95-115)

11回 製作者側の調査について

販売する側(生産者側)へのリサーチを紹介する。具体的な事例としてはハンドメイドをあげる。聞き取り調査の方法なども説明をする。(教科書pp.117-134)

12回 消費者の好悪に関する調査とその結果について

ハンドメイドを好む顧客に関する調査結果と若者の意識について学ぶ。(教科書pp.135-165)

13回 ギフト市場について

ギフト市場について説明する。具体的には観察による手法から引き出す結果をギフト市場から学ぶ。(教科書pp.167-188)

14回 市場予測とリサーチについて

リサーチの方法や解釈に関する学問的な今後の課題を説明し(教科書pp.189-191)。

15回

総まとめと確認

最終回なので授業内容の復習として、授業内容の理解度を確認するために確認問題をといてもらう

2022年度 後期

2.0単位

マーケティング・リサーチ

辻 幸恵

<授業の方法>

授業

<授業の目的>

変動する現代社会を考えるうえで、社会の中で流行しているサービスや商品の具体事例をあげる。そこで消費者(現在では生活者)として自分たちがどのようなシステムの中で生活をしているのかを知ることができると共に、経営の問題を身近にとらえ、専門分野において、総合的に高度な知識や技能としての分析・解析できる術を修得する。また、さまざまな問題を発見し、自分の意見を口頭や文書によって表現し、それを伝えることができるようになる。授業の目的は社会の中でどのように消費やマーケティングに対してとらえていくのかをリサーチ結果を通じて、本質を見る目を養うことである。この目的を手助けするために実務経験のある教員として、事例に対して具体的なシュミレーション(数値の予測や読み方)を説明する。

<到達目標>

- 1.知識としてはマーケティングの中のリサーチの一部の知識を身に付ける。
- 2.態度・習慣としては社会での出来事の原因に関心をもてるようにする。

3.技能についてはリサーチ結果として示された数値の意味がわかるようにする。

<授業のキーワード>

消費社会、調査、流行、生活、選択基準

<授業の進め方>

オンライン授業で、授業中にレポート課題を3回出すので、それに各自が解答し、提出しなければならない。基本的には1コマの授業で一つのテーマをするいわば一話完結になる。授業回数分のトピックスを習うことになる。時間の最初には、必ず前回の復習をして、全員が基本的な事項を共有してから、本題に入る。教科書にそって授業は実施する。

<履修するにあたって>

ある分野を細かく学習するわけではなく、生活をしている中で身近なテーマを例示しながらすすめる。よって、宿題はださないが、その時点でのニュースなどは新聞やインターネットでおさえておくようにしてもらいたい。また、前期に基本的な調査手法を学んだので、後期は具体的な調査結果からの考察を主に学ぶ。

<授業時間外に必要な学修>

授業内で例示をした商品や広告などには興味をもって確認をしてほしい。また、関連したニュースやトピックスなどがあれば積極的に予習として情報に、毎日30分程度は検索などをしてふれてほしい。教科書を用意しているので、授業内でわからなかった箇所は各自が復習をし、またわかった人ももう一度、1時間程度は復習をしてもらいたい。

<提出課題など>

後期の授業のうちに1度だけレポート課題を出す。

課題内容は教科書から出す予定である。期日を過ぎたものは受け取らないので期日はしっかり守るようにすること、まったく同じ解答があった場合はカンニングを疑い採点しない(0点)。なお、レポートに対する質問は授業内容と同然に受付けるが、直接的な個々の点数については回答はしない。

<成績評価方法・基準>

2回目の授業から14回目の授業までの13回においては毎回、1問1点で4問の問題を出すのでそれに回答をする。これは4点×13回=52点の配点となる。ただし出席点ではないので、間違えた回答ばかりだと1回出席しても0点の場合がある。中間課題としてレポート課題が8点、15回目の授業内で期末確認テストは40点とする。

<テキスト>

辻幸恵『こだわりと日本人』白桃書房、2013年、2800円+税

<参考図書>

辻幸恵『流行と日本人』白桃書房、2001年(初版)、2200円+税。版は何版でも可。

<授業計画>

1回 ガイダンス・今期に学ぶ学問範囲と領域の説明

最初に全体の講義概要を説明する。次に授業内容を説明する。さらに授業を受ける態度、提出物、注意事項、評価方法を説明する。最後に来週のテーマを述べ、テーマに関する簡単な説明を加える。

2回 リサーチの方策について

社会科学と呼ばれている学問の内容、領域を説明する。その中で今期はどこを重点的に学ぶのかという説明をする。次に社会科学がどのように実生活の中で役にたっているのかあるいはどのような影響があるのかを大学生の選択基準の変化を事例にあげて説明をする。(テキストpp.1-12)

3回 大学生の意識の変化に冠する調査結果について
女子大学生の意識の変化を購買行動とブランドをあわせて事例から考えてみる。日用品、ブランド品、情報品(パソコンやスマホ)に分けて、それらを購入するとき何を基準にしているのかを過去の調査と現代を比較して考察する。経済的な背景やそのときの流行も加味しながら、相違の原因を考える。(テキストpp.13-20)

4回 若者の購買背景、購買素地と社会について
大学生の意識の変化を購買行動から考えてみる。嫌消費の現象を中心に考えてみる。また中古品を購入するとき何を基準にしているのかを過去の調査結果と現在を比較して考察する。経済的な背景やそのときの流行も加味しながら、相違の原因を考える。(テキストpp.21-30)

5回 手作り市を例示し、ものづくりに対する考え方と若者のニーズを取り上げる

ここでは社会現象となった若者の嫌消費を例示し、社会の中で若者と親世代などの世代間の相違をみる。その場合、日本社会の若者の情報伝播と流行もあわせて学習し、その中で購買力の差などを検討する。またブームになったブランド中古品市場、そこから見えるニーズも例示する。(テキストpp.31-44)

6回 大学生のライフスタイルを例示し価値観の分析結果からの考察をする

女子大学生の流行に対して男子大学生がどのように感じているのか、また好感度の高さの相違の理由を考え、装いや身に付けるモノに対するニーズや付加価値などの心理を学ぶ。(テキストpp.45-66)

7回 大学生のライフスタイルとファッションからの分析の2回目(化粧品)

ライフスタイルやファッションは個人差が大きく、こだわりも異なる。そこで今回は化粧品に関するこだわりの調査とその結果から簡単な統計手法やアンケートの分析方法を学ぶ。社会調査とする場合の事例として2000年に実施した大学生を対象としたアンケート調査結果を使用する。(テキストpp.67-96)

8回 前半のまとめと復習

社会科学の中で、経済学、経営学、商学、心理学などがどのように関わっているのかを確認する。また、1980年

代や1990年代の流行と現在の流行である手づくり市や雑貨についてもなぜ、そのような現象がひろがっているのかを探究する。さらに社会調査の事例についても復習をし、統計的な処理からわかったことを確認する。

9回

大学生の価値観と流行、そしてこだわりの変化に関する調査結果のうち、キャラクター商品を取りあげる今回は女子大学生たちにとって身近なキャラクターグッズを例示しながら、身の回りの日常的な品物に対するこだわりについて考える。キャラクター志向など女性にとっての「かわいい」はいつの時代も存在している。その中で商品に対する思いを情報の伝播（広告）から考えてみる。（テキストpp.97-121）

10回 キャラクター商品と社会のニーズについて

前は自分の価値観からキャラクター商品を選択する例を取りあげたが、今回は他者へのギフトの行為と選択される商品を取りあげる。また、キャラクター志向から高額な商品も事例とする。このことによって、若者のかわいい観と流行の関係が明らかになる。

11回 キャラクター商品に対する社会的価値

ゆるキャラをはじめ、アニメキャラクターなど日本ではキャラクター商品が多く市場に出回っている。それらの魅力と経済効果を説明し、なぜ人々はキャラクター商品を好むのかということを解説する。

12回 こだわりの本質に関する調査結果

ここまでの授業で様々な場面での選択基準などを例示してきた。ここでは、そもそもなぜこだわるのかということと、こだわりと選択基準の差について説明する。（テキストpp.123-139）

13回 価値観の変化と新しい社会

ここでは従来とは異なる価値観について考える。例としてペットボトルのお茶、使い捨てカイロ、新製品に対する反応をあげる。また、世間という社会からのアイ・シャワーの効果や自己満足についても説明を加える。さらに女子大学生が抱く流行のイメージについても言及する（テキストpp.141-155）

14回 こだわりの表現方法、他者への情報発信

こだわりを他者に伝える方法は1つではない。情報発信は現在ではブログ、ツイッターをはじめ、個人が世界に発信できるツールを有している。ここではそれらの情報を正しく発信するために、こだわりそのものを正しく理解できることの意味を検討する。（テキストpp.157-173）

15回 講義内容とテーマに関する確認と研究の未来について

授業内容の復習として特に理論について確認をする。また今後の研究の方向性について説明する。さらに、授業内容の理解度を確認する。

2022年度 前期

2.0単位

マーケティング論

辻 幸恵

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

この授業は経営・商学コースに属している。基礎知識のステップアップに位置する科目である。社会学入門などで培った基礎的な社会科学から、より現実的な課題を理解できるようになることが目的である。本学院は「社会をリードする活力に富んだ人材を育成する」大学である。よって、社会の中の市場（マーケット）の姿を学ぶことは、その目的にもあっている。つまり、企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修するというディプロマポリシーとまさに合致している。

この授業で学んだ事例を、身近な買い物行動からその根本にある理論や法則に照らし合わせることができればよい。また、そのために実務経験がある教員として事例などを示しながら、実際の消費者の行動とマーケティングの理論の合致するところとしないところを説明する。

<到達目標>

- 1.知識としては、マーケティングの基本要素の4つを理解できること。さらに相互の関係や、それらがミックスされた市場であることが理解できることを目標とする。
- 2.態度・習慣としては、新聞やニュースでマーケット（市場）に変化があったり、トピックスがあったりしたときに、積極的にそれらを知ろうとする態度がのぞましい。また、定期的にそれらの記事やニュースを読む習慣ができることがのぞましい。
- 3.技能については、なぜ、それらが売れているのかなどという具体的な事例をみて、それがどのような理論や法則に従っているのかを推測できるようになればよい。

<授業のキーワード>

購買行動 消費者心理 市場 ブランド

<授業の進め方>

最初に前回の復習をする。次に本日の授業としてその回のメインテーマを話す。主にパワーポイントと教科書を使用する。

<履修するにあたって>

マーケティングに関するニュースなどには関心をもってほしいので、毎日、ニュースなどをチェックすること。新聞ならば朝刊、夕刊ともにチェックをする。また教科書を指定しているので、毎回の授業の後は該当ページの復習、毎時間、次回の予告をするのでそのページに目をおしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業内で例示した企業や広告については各自がインターネットなどで20分程度は確認をすること。また、関連したニュースや新聞記事などがあれば目をとっておくこと。授業内での内容を教科書を用いて、1時間ほどは復習をしておくこと。また中間あるいは期末レポートは教科書からも出題するので、授業内で説明した箇所はマークをしておくこと。

< 提出課題など >

前期の授業のうちに1度だけレポート課題を出す。

課題内容は教科書から出す予定である。期日を過ぎたものは受け取らないので期日はしっかり守るようにすること、まったく同じ解答があった場合はカンニングを疑い採点しない(0点)。なお、レポートに対する質問は授業内容と同然に受付けるが、直接的な個々の点数については回答はしない。

< 成績評価方法・基準 >

2回目の授業から14回目の授業までの13回においては毎回、1問1点で4問の問題を出すのでそれに回答をする。これは4点×13回=52点の配点となる。ただし出席点ではないので、間違えた回答ばかりだと1回出席しても0点の場合がある。中間課題としてレポート課題が8点、15回目の授業内で期末確認テストは40点とする。

< テキスト >

滋野英憲、辻幸恵、松田優著『マーケティング講義ノート』白桃書房、2018年、2600円+税

< 参考図書 >

山本浩二、上野山達哉編『マネジメント講義ノート』白桃書房、2017年、2750円+税

< 授業計画 >

1回 マーケティングの意味

全体の講義概要を説明する。次に、授業内容としては、マーケティングの発祥や歴史(つまり、はじまりはいつで何であったか)とその意味、どうしてそのようなことが必要であったのかを説明する。そして現在、社会の中でのマーケティングの役割を理解できるように身近な例を示す。

2回

マーケティングに求められていることについてマーケティングの定義と目的についての理解を深める。また、現在、マーケティングは単純に売る工夫だけではなく、多くの役割があることを説明する。そのためにマーケティング・コンセプトの変遷、領域拡大と発展も学習する。

3回

基本の4つの要因とその中の製品政策についてマーケティングには基本になることが4つある。それは価格政策、製品政策、販売促進政策、流通政策であるが、なぜそれらが基本になっているのかを説明する。また、本講義ではその4つの中の製品政策について重点的に学ぶ。

4回

価格政策について

企業がマーケティング活動の対象とする市場の特性を価格を中心に例示する。たとえば、ファッション市場ならば、ユニクロは誰をターゲットにしている価格かなど、いくつかの事例をあげる。また、消費者が価格に感じる利得と損失の感情や新製品の価格政策についても学習する。

5回

マーケティング・コミュニケーション政策について販売促進からマーケティングコミュニケーションへの変遷やその影響する要因について学ぶ。今回は特に広告の機能とその効果について学ぶ。

6回

流通政策について

マーケティングにおける流通政策の位置づけや小売業の役割とチャネルの分類をする。そして、具体的にコンビニエンスストアを例示しながら、その業績向上要因などを学ぶ。

7回

医療マーケティングについて

ここからは教科書の実務編に入る。この回では医療マーケティングを学ぶ。コロナ前とコロナ後では問題点が異なっているところもあるが、全体的に現状と今後のマーケットと医療サービスについて学ぶ。

8回

地域マーケティング について

地域マーケティングの起源、必要性の背景、定義をはじめ、具体的には都市ブランド戦略としての展開を学ぶ。ここでは具体的に伊丹市の事例をあげる

9回

地域マーケティング について

地域のブランド化について説明をする。日本だけではなく世界の都市ブランドも参考にする。地域マーケティングの必要性や都市のブランド化について考える。また、場をつくる重要性から地域活性化と地域社会のつながりについても学ぶ。

10回

ブランドマーケティングについて

前は都市、地域のブランド化について考えたが、ここではブランド・マーケティングを学ぶ。ブランドの定義にはじまり、その付加価値やロイヤリティについて学ぶ。事例としては、海外有名ブランドを挙げる。そして、ブランドを多く持つファッションを例示しながらそのマーケティングについて学ぶ。感性をどのように企画するのか、消費者心理とてらしあわせながら、その戦略について学ぶ。

11回 ファッションマーケティングについて

ファッションマーケティングの特徴や流行現象とは何かを踏まえて説明をする。また、ファッションに対する消

費者心理についてはジンメルトリクルダウン・セオリーを用いて説明する。

12回 キャラクターマーケティングについて

キャラクターの定義や背景を説明した後、地域がゆるキャラを、企業が企業キャラクターを有するメリットについて学ぶ。キャラクター商品の企画やそれらを購入する消費者心理についても学ぶ。

13回 アート・マーケティングについて

定義と背景からはじまり、アート現場における現状と課題を紹介する。また、文化イベントとしての実施例（神戸ビエンナーレなど）や野外フェスタなどの企画や仕掛け方を学ぶ。

14回 WEBマーケティングについて

WEBインターネットの台頭によるマーケット革命などを知る。WEBインターネットと社会（ソーシャル）との関係を学ぶ。

15回

ニッチ市場へのアプローチとソーシャルマーケティングについて

前半はニッチな市場への可能性を学ぶ。後半は今後さらに注目されるソーシャルマーケティングの具体例としてフェアトレードを挙げて説明する。

2022年度 後期

2.0単位

マーケティング論

辻 幸恵

< 授業の方法 >

授業

< 授業の目的 >

この授業は経営・商学コースに属している。基礎知識のステップアップに位置する科目である。マーケティング論などで培った基礎知識をもとに、より市場（マーケット）に対する専門的な課題を解決するための知識を身につけることが目的である。本学は「社会をリードする活力に富んだ人材を育成する」大学である。よって、社会の中の市場（マーケット）の姿を学ぶことは、その目的にもあっている。つまり、企業経営に関する幅広い知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用し、それを解決する方策を導くために、学びを深め、協働して、社会に役立つ態度を培う。このように有用な知識を総合的に学修するという経営学部のディプロマポリシーとも合致している。

この授業で学んだ事例を、身近な買い物行動からその根本にある理論や法則に照らし合わせることができればよい。そのために実務経験がある教員が具体的に解釈の方法を例示する。

< 到達目標 >

1. 知識としては、マーケティングの基本要素の4つPと

消費者目線の4つのCを理解できること。さらに相互の関係や、それらがミックスされた市場であることが理解できることを目標とする。

2. 態度・習慣としては、新聞やニュースでマーケット（市場）に変化があったり、トピックスがあったりしたときに、積極的にそれらを知ろうとする態度がのぞましい。また、店頭で見かけた新製品に関心をはらうこと、あるいは定期的にそれらの記事やニュースを読む習慣ができることがのぞましい。

3. 技能については、なぜ、それらが売れているのかなどという具体的な事例をみて、それがどのような理論や法則に従っているのかを推測し、今後の予測ができるようになればよい。

< 授業のキーワード >

購買行動 消費者心理 ソーシャル 持続可能

< 授業の進め方 >

最初に前回の復習をする。次に本日の授業としてその回のメインテーマを話す。ワンドライブに動画をあげている。具体的にはパワーポイントと教科書を併用する。

< 履修するにあたって >

マーケティングに関するニュースなどには関心を持つ姿勢を習慣づけたいので、毎日、ニュースなどをチェックすること。また教科書を指定しているので、毎回の授業の後は該当ページの復習、毎時間、次回の予告をすることで、予習としてそのページに目をとおしておくこと。また、マーケティング論を履修していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で例示した企業や広告、製品については各自がインターネットなどで10分程度は確認をすること。また、関連したニュースや新聞記事などがあれば目をとおしておくこと。教科書を指定しているので、毎時間、復習をしておくこと。また次回の予習もかねておくこと。

< 提出課題など >

後期の授業のうちに1度だけレポート課題を出す。

課題内容は教科書から出す予定である。期日を過ぎたものは受け取らないので期日はしっかり守るようにすること、まったく同じ解答があった場合はカンニングを疑い採点しない（0点）。なお、レポートに対する質問は授業内容と同然に受付けるが、直接的な個々の点数については回答はしない。

< 成績評価方法・基準 >

2回目の授業から14回目の授業までの13回においては毎回、1問1点で4問の問題を出すのでそれに回答をする。これは4点×13回=52点の配点となる。ただし出席点ではないので、間違えた回答ばかりだと1回出席しても0点の場合がある。中間課題としてレポート課題が8点、15回目の授業内で期末確認テストは40点とする。

< テキスト >

辻幸恵『持続可能な社会とマーケティング』嵯峨野書院、2020年

< 参考図書 >

山本浩二、上野山達也編『マネジメント講義ノート 増補版』 白桃書房、2019年、3000円＋税

< 授業計画 >

1回 マーケティングの意味の確認と応用

全体の講義概要を説明する。次に、授業内容としては、マーケティングの発祥（つまり、はじまりはいつで何であったか）とその意味、どうしてそのようなことが必要であったのかを説明する。そして現在、社会の中でのマーケティングの役割を理解できるように身近な例を示す。

2回

マーケティングに求められていることについてマーケティングの定義と目的についての理解を深める。また、現在、マーケティングは単純に売る工夫だけではなく、多くの役割があることを説明する。その中で顧客との関係について学習する。教科書の第1章であるマーケティングの新しい傾向について知る。

3回

地域の活性化とマーケティング

マーケティングには基本になることが4つある。それは価格政策、製品政策、販売促進政策、流通政策であるが、なぜそれらが基本になっているのかを説明すると共に、それらが地域経済とどのように結びつくのかも理解できるように説明をする。教科書の第2章の地域マーケティングを中心に学ぶ。

4回

地域市場の理解と特性について

地域の企業がマーケティング活動の対象とする市場の特性を例示する。たとえば、ファッション市場ならば、岐阜県のアパレル産業をとりあげる。ファッション音は誰をターゲットにしているかなど、いくつかの事例をあげる。具体的な数字の読み方も学ぶ。

5回

ギフト市場のとらえ方について

ギフト・マーケティングとして市場と商品の選び方について説明をする。この回はギフト市場とは何かを理解するため4Cを復習すると共に消費者心理について学ぶ。教科書は第3章のギフト・マーケティングの章を中心に学ぶ。

6回

キャラクター商品を選択する消費者行動について

企業からのアプローチに対して消費者はどのような行動をとってきたのかをヒット商品であるキャラクターグッズを例示しながら、説明をする。ここでは消費者行動や消費者心理の基本的な法則や理論の紹介もおこなう。教科書は第4章のキャラクター・マーケティングの章を中心に学ぶ。

7回

アート・マーケティングについて

製品価値の意味を考える。また、前回の消費者行動や心

理の中の「かわいい」ものを購入する行動と共に、価格に反応をする消費者心理もあわせて説明をする。教科書は第5章のアート・マーケティングの章を中心に学ぶ。

8回

前半のまとめと復習

マーケティングの起源、定義、由来などの復習と基本的な4つの要因が現在ほどのような市場の中で反映されているのかなどを、地域、キャラクター、ギフト、アートを中心に復習をする。

9回

持続する社会を望む消費者について

後半は世の中の新しい傾向として継続的な持続可能な社会に消費者が何をのぞむかを考える。教科書は第6章のソーシャル・マーケティングの章である。ここでは具体例としてフェアトレードを取り上げる。

10回

ものづくりをする消費者について

消費後半は世の中の新しい傾向の中に消費者がものづくりをして、作り手になることや販売者になることが挙げられる。ここでは主に、製品をつくる消費者に焦点をあてて学ぶ。教科書は第7章ものづくりをする消費者を中心に学ぶ。

11回 売り手になる消費者について

消費者がつくった製品が世の中に普及するために必要なツールを学ぶ。たとえば、SNSや口コミである。消費者が売る側になった時のメリットやデメリットを具体例と共に知る。教科書は第8章売り手になる消費者を中心に学ぶ。

12回 フォーマル場面でのマーケティング

フォーマルと日常の場面では異なる消費形態になる。ここでは主に女子大学生たちの成人式や卒業式を例示し、「ハレ」であるフォーマル場面についての購買行動や選択行動を学ぶ。教科書は第9章の「ハレ」の場を意識する消費者と和への回帰の章を学ぶ。

13回 消費社会の変化と社会のニーズについて

4つの基本要因が現在の消費生活にどのようかわりがあるのかを、若者に焦点をあてて学ぶ。レンタルやシェアの現状の例を示しながら、所持することの意味やステータスについて考える。教科書は第10章消費者の変化と社会のニーズを中心に学ぶ。

14回 マーケティングの新しい傾向と持続可能な社会について

前回のかかわりをさらにすすめて、今後の消費社会におけるマーケティング要素について考える。エコ消費、エシカル消費を例示し、持続可能な社会を実現するための市場育成について学ぶ。

15回

新しい傾向のマーケティングに関するケースと概論 授業内容の確認として授業内で学んだ理論の復習をおこなう。さらに授業内容の理解度を確認する。

2022年度 前期

2.0単位

ものづくりの経営経済学

江頭 寛昭

< 授業の方法 >

オンデマンド

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。専門選択科目の一つで、「経営学総論」で学ぶ基礎知識を必要とします。

グローバル化と社会の成熟化の進展によって、国内市場が縮小する一方で新興国経済の目覚ましい発展もあって、大手製造業の生産の海外移転に伴い、ものづくりにかわる産業の生産を巡る取引関係はダイナミックな変化を遂げています。このように激しく変化するものづくり産業に関するデータ・情報から、産業活動が有する本質を捉え、的確に評価することができるようになることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究員として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な例をもとに企業活動の実際を紹介する。

< 到達目標 >

この授業では、日本のものづくりに関して、その本質に関して的確に理解できることを狙っており、具体的にはものづくりとは何か、その概念と定義、発展史、基本構造、経営的特質、現状と今後の発展方向について理解し、日本のものづくりにが持つ役割について評価し判断することができる。

< 授業のキーワード >

ものづくり、アーキテクチャ、トヨタ生産方式、生産管理、技術

< 授業の進め方 >

こちらで準備した資料(OneDriveにより事前に配布)を基に講義を進めます。また、授業の理解度を確認するため適宜簡単なレポートを提出していただきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業までに、20分～30分程度の予習が必要です。

< 成績評価方法・基準 >

授業期間中に提出していただく簡単なレポート(100%)をもとに評価します。

< 参考図書 >

港徹雄『日本のものづくり 競争力基盤の変遷』 日本経済新聞出版社 2011年 3500円+税

青木昌彦 安藤晴彦 編著『モジュール化 あたらしい産業アーキテクチャの本質』 東洋経済新報社 2002年

2800円+税

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義で取り扱う内容について概説するとともに、講義の進め方や評価方法についてガイダンスを行います。

第2回 ものづくりの概念と定義

この科目の主題である「ものづくり」という言葉が有する意味と内容について解説します。

第3回 ものづくりの発展史

「ものづくり」がどのように発展し現在に至っているのか、歴史的な発展の経緯を概説します。

第4-5回 ものづくりの基本構造

「ものづくり」がどのような要素から成り立っているのか、それぞれの要素について内容を説明します。

第6-7回 藤本隆宏の「ものづくり経営学」

従来「ものづくり」については、その実態からのケーススタディ中心で研究がすすめられてきましたが、理論的に体系立てて「ものづくり」を説明した藤本隆宏の「ものづくり経営学」の内容について概略を紹介します。

第8回 品質管理の日本の特質

日本の精密な「ものづくり」は、独自の品質管理によるところが大きいといえます。この日本独自の品質管理の特徴について説明します。

第9回 トヨタ生産方式

現代の生産方式が抱える課題は、少品種の大量生産から多品種少量、さらには多種混流へと生産に求められる課題が変化していることである。この課題に対する答えの手がかりをもたらしたのがトヨタ生産方式である。ここではトヨタ生産方式について説明する。

第10回 生産方式の展開と課題

日本のものづくり産業は独自の生産方式により高く評価され、その代表的な存在であるトヨタ生産方式はグローバルスタンダードとしての地位を確立したといえます。フォードのコンベアシステムに始まるこの生産方式の発展について、現在に至るまでの変遷と現代の課題について解説します。

第11回 ものづくりにおける人づくり

ものづくりを発展させ、現代のものづくりを支えるのは「人」であり、人単独では十分な力を発揮するのが困難な状況であっても、複数の人を組織化することによりより大きな力を発揮することができます。この組織化された人の力の和をその組織の「組織能力」といいます。ここでは、ものづくり企業の「組織能力」について説明します。

第12,13回 ITの普及とものづくりの変革

情報化の進展は「ものづくり」の世界にも急速に浸透しており、現代のものづくりは多様な課題への対応と新たな可能性を内包した存在となっています。ここではITの普及によるものづくりが抱える課題と新たな展開の可能

性について触れます。

第14回 ものづくりの課題と市場適応

ものづくりの世界も新たに生じている課題に対する対応を迫られているといえます。こうした現代のものづくりを取り巻く環境の変化とその変化への適応の方向について概観します。

第15回 ものづくりの潮流変化

IT化とデジタル化の進展はものづくりの在り方を大きく変化させている。他方で、グローバル化の進展や社会の成熟化はものづくりに求めるものを変化させており、こうした現代の環境変化の中でのものづくりに求められるものについて説明します。

2022年度 後期

2.0単位

ものづくりの経営経済学

江頭 寛昭

< 授業の方法 >

遠隔授業(オンデマンド)

< 授業の目的 >

この科目は、経営学部のDPに示す、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。専門選択科目の一つで、「経営学総論」で学ぶ基礎知識を必要とします。

グローバル化と社会の成熟化の進展によって、国内市場が縮小する一方で新興国経済の目覚ましい発展もあって、大手製造業の生産の海外移転に伴い、ものづくりにかわる産業の生産を巡る取引関係はダイナミックな変化を遂げています。このように激しく変化するものづくり産業に関するデータ・情報から、産業活動が有する本質を捉え、的確に評価することができるようになることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、自治体附属の調査研究機関の研究員として、17年にわたる地域産業の実態調査研究に携わってきた実務経験を有する教員である。より具体的な例をもとに企業活動の実際を紹介する。

< 到達目標 >

この授業では、「ものづくりの経営経済学」で得た日本のものづくりに関する本質的理解をベースに、日本のものづくりの特質についてのより具体的に理解することを狙っており、具体的には現代のものづくりの戦略的特質とものづくりを巡る取引関係の変化、ものづくりを巡る環境の現代的特質と変化について理解し、日本のものづくりにが持つ役割と発展方向について評価し判断することができる。

< 授業のキーワード >

ものづくり、製品開発、取引関係、モジュール化、サプライヤーシステム

< 授業の進め方 >

配布資料を基に授業を進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の講義につき、20分～30分程度の学習が必要です。

< 提出課題など >

授業期間中に2回と最終回(計3回)簡単なレポートを課します。課題内容は適宜配付資料中にてお伝えするとともに、Dot Campus で公表します。

< 成績評価方法・基準 >

授業期間中に行う簡単なレポート(3回程度)の結果をもとに評価します。

< 参考図書 >

港徹雄『日本のものづくり 競争力基盤の変遷』 日本経済新聞出版社 2011年 3500円+税

青木昌彦 安藤晴彦 編著『モジュール化 あたらしい産業アーキテクチャの本質』 東洋経済新報社 2002年 2800円+税

鈴木良始・那須野公人編著『日本のものづくりと経営学 現場からの考察』 ミネルヴァ書房 2009年 2800円+税

藤本隆宏 東京大学21世紀COEものづくり経営研究センター『ものづくり経営学 製造業を超える生産思想』 光文社新書 2007年 1200円+税

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義で取り扱う内容について概説するとともに、講義の進め方や評価方法についてガイダンスを行います。

第2回 ものづくり基盤としての産業集積

グローバル化による影響がそれほど大きくはなかったころ、実際のものづくりの多くの部分は特定の産業集積の内部で行われ、その産業集積の在り方が日本の産業構造を特徴づけていました。ここでは、日本の産業集積と産業構造の特徴について説明します。

第3回 日本の下請システム

日本の製造業の競争力の源泉の一つとして「日本の下請けシステム」の存在があります。ここではこの日本の下請けシステムの特徴である「長期継続的取引関係」と構造的特質について取り上げます。

第4-6回 日本製造業の競争力基盤の変化

経済の高度成長期を経て安定成長期に至るまで日本の「ものづくり」を支える製造業は高い国際競争力を誇っていましたが、90年代に入ってからはその競争力に陰りがみられると指摘されています。ここでは、日本の製造業の競争力の状況について取り上げます。

第7回 製品開発と生産、市場

現代の「ものづくり」は作るべきものを創造する製品開発と実際にモノを作り出す生産が分裂し、その相互関係が見えにくくなっています。ここではそうした開発と生産との関係について説明します。

第8回 モジュール化の進展とものづくりの変容

先の日本の製造業の競争力を低下させた要因の一つとして、「ものづくり」におけるデジタル化の進展とモジュール化の取り組みが指摘されています。ここでは、このデジタル化とモジュール化の内容について説明します。

第9回 規格化・標準化

世界大でものづくりの再編が進む中では、ものづくりについての国際標準の確立が重要になります。ここでは国際レベルでの規格化と標準化の状況について説明します。

第10回 戦略的提携と組織間学習

グローバル化の進展による「ものづくり」企業の取引関係の変化の中で、重要な取り組みとして指摘されている「戦略的提携」と「組織間学習」について採りあげます。

第11回 新たな分業構造

グローバル化の進展に伴う生産拠点の海外移転（世界的な再配置）は日本の製造業の競争力の源泉といわれた分業構造（日本の下請けシステム）を大きく変容させました。ここではその変容の内容について採りあげます。

第12回 ものづくりの制約要因

環境問題や資源制約など多様な課題が生起しており、それらがものづくりの制約要因にもなっています。ここでは、そのうちの「環境規制」と「資源制約」について解説します。

第13回 ものづくりの制約要因

ここでは、前回に続いてものづくりの制約要因について、社会的な要請が高まっている「安全・安心」の確保にかかわる状況について採りあげます。

第14回 求められる安全・安心への対応

科学技術の発展や社会経済の変化によって、企業活動にも様々なりリスクが生じる可能性が高くなっています。その中で企業が安定的に事業を続けていくための条件について取り上げます。

第15回 ものづくりの行方

技術の進歩と新たなビジネスモデルの登場などを通じて、ものづくりとサービスを融合させたビジネスの登場などものづくりの在り方もこれまでの枠組みとは異なるものが求められるようになっていきます。ここではこうした新しい動きのいくつかを取り上げます。

2022年度 前期

2.0単位

ヨーロッパ経営論

小澤 優子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 >

この科目は、学部のDPにある経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指すもの

である。この科目は専門教育科目のひとつで、経営学に関する基本的な知識を必要とする。

企業経営を理解するうえで、欧州連合（EU）について理解することは不可欠である。欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）を母体として発足し、深化をたどる欧州連合は、経済共同体として世界経済全体はもちろん日本に対しても大きな影響力を及ぼすためである。本講義では、27か国という大きな連合体であり、今後の動向に注目が集まる欧州連合の全体像や、そこにおける企業経営について理解を進めていく。前期の においては、欧州連合の歴史や今日の在り方など、その全体に関して学習していきたい。

< 目的 >

・ 欧州連合の歴史や今日の加盟国、それらの経済状況に関する知識を修得することができる。

・ 欧州連合の企業経営について関心をもつようになる。

・ 日本と他国との企業経営の違いについて理解し、適切なコメントができるようになる。

< 到達目標 >

・ 欧州連合の全体像や、そこにおける企業経営の特徴について説明することができる。

・ 他国の企業経営に興味を持ち、日本企業との違いについて議論ができる。

・ 新聞などで取り上げられる欧州企業に関する問題について、その意味や本質を理解し、それに対する自らの意見を述べることができる。

< 授業のキーワード >

欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)、欧州連合(EU)、ユーロ、企業の社会的責任(CSR)、ステークホルダー志向

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。

< 履修するにあたって >

経営学の基礎的な知識を修得していることが望ましい。

また、海外企業の経営に積極的に興味を持つ姿勢が重要となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の際のノート整理やその内容確認を、毎回2時間程度、事後学習として行うこと。このことが、次の講義の事前学習となります。また、第1回目の講義で参考文献を複数提示するので、それも併せて読むと理解が進みやすくなります。

< 提出課題など >

授業中に数回、授業内容に関連した問題の解答やそれに対する意見などを記入した出席カードの提出を求める。これに関しては、次の講義の際にいくつかの回答をサンプルとして提示し、正解やポイントなどの解説を行う。また、中間試験を実施するが、これに関しても出席カードと同様のフィードバックを行う。最終回には、講義のまとめとして試験を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

講義の最終回に行う確認テスト(50%)と授業中に2回実施する小テスト(40%)、さらには、複数回提出を求める出席カードの内容(理解度の程度)(10%)によって総合的に判断する。なお、これらの比率は変更することがある。

<テキスト>

特定のものは使用しない。

<参考図書>

久保広正、海道ノブチカ編著(2013)『EU経済の進展と企業経営』勁草書房。

田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治(2014)『現代ヨーロッパ経済(第4版)』有斐閣。

他の文献に関しては、第1回目の講義で指示する。

<授業計画>

第1回 講義のガイダンス 講義の進め方、内容など

- ・講義全体の流れを提示する。
- ・講義のために必要な学習などについて指摘する。
- ・講義を受けるにあたって、その進め方や注意事項を説明する。

第2回 欧州連合の全体像

今日の欧州連合(EU)について、その全体像や近年の動向を理解していく。とりわけ近年は、英国の離脱決定や難民問題など、様々な問題が生じている。

第3回 EUの歴史

欧州連合が、欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)の時代から近年に至るまでどのように発展してきたのかを学習していく。

第4回 EUの歴史

1990年代以降の欧州連合の統合の深化について、加盟国の拡大やユーロの導入などを基に検討していく。

第5・6回 ヨーロッパのCSR

ヨーロッパの企業経営において非常に重要視される企業の社会的責任(CSR)について理解する。

第7・8回 CSRの取組み

CSRに関して先進的なヨーロッパの企業の取組みを理解し、日本企業が採り入れるべき点について考察する。

第9・10回 CSRとコーポレート・ガバナンス

CSRの重要な柱となっているコーポレート・ガバナンス(企業統治)の問題について、ドイツならびにフランス企業の制度を中心に学習する。

第11・12回 コーポレート・ガバナンスの現状

ガバナンス体制がいかに採られているのかを、ドイツ企業の事例を基に理解していく。その際に、日本における制度との比較・検討もしていく。

第13回 経済の進展と企業の発展

欧州連合における企業の現状を理解し、その優れた点や問題点について考える。

第14回 経済の進展と企業の発展

欧州連合全体の経済の進展に伴い、今後企業経営がどのように変化していくのかを、これまで学習した内容をもとに考察していく。

第15回 講義のまとめ 確認のためのテスト

講義全体のまとめとして、全ての内容について理解できているのかどうかの確認テストを実施する。

2022年度 後期

2.0単位

ヨーロッパ経営論

小澤 優子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

<主題>

この科目は、学部のDPにある経営の問題を総合的に分析・解析できる知識・技能を修得することを目指すものである。この科目は専門教育科目のひとつで、経営学に関する基本的な知識を必要とする。

企業経営を理解するうえで、欧州連合(EU)について理解することは不可欠である。欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)を母体として発足し、深化をたどる欧州連合は、経済共同体として世界経済全体に大きな影響力を及ぼすためである。後期では、そのような欧州連合の中心国であり、世界経済でも重要な役割を果たすドイツ連邦共和国の経済発展や企業経営に注目していく。まずは、その土台としてEUの全体像について簡単に触れ、そのちにアメリカや日本とは異なったドイツの資本主義の在り方や企業経営の特徴に関して理解を深めていく。

<目的>

- ・欧州連合やドイツの経済に関する知識を修得することができる。
- ・ドイツにおける企業や、その特徴的な企業経営について関心をもつようになる。
- ・日本と他国との企業経営の違いについて理解し、適切なコメントができるようになる。

<到達目標>

- ・欧州連合ならびにドイツの全体経済や、そこにおける企業経営の特徴について説明することができる。
- ・他国の企業経営に興味を持ち、日本企業との違いについて議論ができる。
- ・新聞などで取り上げられる欧州企業やドイツに関する問題について、その意味や本質を理解し、それに対する自らの意見を述べるができる。

<授業のキーワード>

欧州連合(EU)、ドイツ連邦共和国、ライン型資本主義、ステークホルダー志向、コーポレート・ガバナンス、共同決定制度、コンツェルン、同族企業

<授業の進め方>

講義を中心に進めます。

<履修するにあたって>

経営学の基礎的な知識を修得していることが望ましい。また、海外企業の経営に積極的に興味を持つ姿勢が重要

となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の際のノート整理やその内容確認を、毎回2時間程度、事後学習として行うこと。このことが、次の講義の事前学習となります。また、第1回目の講義で参考文献を複数提示するので、それも併せて読むと理解が進みやすくなります。

< 提出課題など >

授業中に数回、授業内容に関連した問題の解答やそれに対する意見などを記入した出席カードの提出を求める。これに関しては、次の講義の際にいくつかの回答をサンプルとして提示し、正解やポイントなどの解説を行う。また、中間試験を実施するが、これに関しても出席カードと同様のフィードバックを行う。最終回には、講義のまとめとして試験を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

講義の最終回に行う確認テスト(50%)と授業中に2回実施するテスト(40%)、さらには、複数回提出を求める出席カードの内容(理解度の確認)(10%)によって総合的に判断する。なお、これらの比率は変更することがある。

< テキスト >

特定のものは使用しない。

< 参考図書 >

久保広正、海道ノブチカ編著(2013)『EU経済の進展と企業経営』勁草書房。

田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治(2014)『現代ヨーロッパ経済(第4版)』有斐閣。

他の文献に関しては、第1回目の講義で指示する。

< 授業計画 >

第1回 講義のガイダンス 講義の進め方、内容など

- ・ 講義全体の流れを提示する。
- ・ 講義のために必要な学習などについて指摘する。
- ・ 講義を受けるにあたって、その進め方や注意事項を説明する。

第2回 欧州連合の発展

今日の欧州連合(EU)の全体像について学習する。その際に、EU各国の経済状況なども明らかにする。

第3回 ドイツの歴史

ドイツが、第二次世界大戦後から近年に至るまでどのように発展してきたのかを、経済全体ならびに企業という2つの側面から理解する。

第4回 ドイツの歴史

1990年代以降のグローバル化の進展によるドイツ企業経営への影響について、今日に至るまでの流れを検討していく。

第5・6回 ドイツの大規模企業

ドイツの大規模な企業はコンツェルンの形態を採ることが多い。また、同族企業が多いことも特徴である。それらの概要について理解する。

第7・8回 ヨーロッパ型企業モデルとコーポレート・ガ

バナンス

ヨーロッパの企業において重視される、利害多元的なステークホルダー志向的ガバナンスモデルに関して、アメリカとの比較を通じて理解していく。

第9・10回 コーポレート・ガバナンスと共同決定

ドイツの資本主義を支える共同制度について学習する。これは企業のトップマネジメント組織に従業員代表の参加が認められる制度全体を意味する。

第11・12回 ドイツの資本市場

ガバナンスを検討する際に重要となる資本市場について、その現状や近年の変化を検討していく。とりわけ、企業経営に対する銀行の影響力の変容について理解していく。

第13回 ドイツの会計制度

ドイツ企業において特徴的な管理会計の制度(コントローリング)について、その歴史的な展開や全体像を学習する。

第14回 ドイツの会計制度

コントローリングが実際の企業経営にどのように活用されているのかを、事例をあげて検討していく。

第15回 講義のまとめ 確認のためのテスト

講義全体のまとめとして、全ての内容について理解できているかどうかの確認テストを実施する。

2022年度 前期

2.0単位

流通システム論

島永 嵩子

< 授業の方法 >

講義(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。経営・商学コース選択必修科目に属する。本講義は、生産と消費とを仲介する「流通」の機能や流通の仕組みを理解できるようになることを目的としている。

< 到達目標 >

1. 流通にかかわる基本的な概念を理解できるようになる。
2. 流通・マーケティングに関する現象を理解する力を養う。

< 授業のキーワード >

1. 商業 2. 流通 3. 業態

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義中心の授業であるが、講義中、受講生に自発的な発言を求めることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、新聞や雑誌で流通業の動向を把握するように努めること。(目安として1時間)

事後学習として、授業の内容を復習するように努めること。（目安として1時間）

< 提出課題など >

授業内容の理解度を確認するために、不定期で簡単なレポートの提出を課す。

レポートに記載されたことに対して、次の授業時に、総評などを行う。

< 成績評価方法・基準 >

講義中のレポート30%、定期試験70%で総合的に評価する。

< テキスト >

テキストは指定しないが、以下の指定図書のいずれかを熟読しておくこと。

< 参考図書 >

鈴木安昭(2016)『新・流通と商業』有斐閣。

石原武政ほか(2008)『1からの流通論』碩学舎。

原田英生ほか(2010)『ベーシック 流通と商業』有斐閣アルマ。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概略を理解する。

第2回 流通とは何か

流通の役割を理解する。

第3回 売買集中の原理

商業者の行動原理や存立根拠を理解する。

第4回 流通構造とは

流通構造の特徴や空間構造を捉えるための指標を理解する。

第5回 日本の流通構造

日本の流通構造の特徴や流通構造の分析手法を理解する。

第6回 小売業態とは

業種と業態との違いや主な小売業態の革新性を理解する。

第7回 小売業態展開の理論

小売業態の展開を説明する代表的な理論仮説を理解する。

第8回 卸売業の機能と構造

卸売業の特徴や機能、存在意義を理解する。

第9回 日本型取引慣行

取引慣行が形成されてきた経緯や見直されることになった背景、取引関係に与えた影響を理解する。

第10回 生産者による流通系列化

流通チャネルの類型や流通系列化の論理を理解する。

第11回 ロジスティクス

物流の革新やロジスティクスという考え方の特徴を理解する。

第12回 サプライチェーン・マネジメント

在庫のマネジメントとSCMの考え方を理解する。

第13回 「投機・延期」の理論

流通チャネルにおける機能分担関係の再編成の方法を理解する。

第14回 変化する流通チャネル

流通におけるパワー・シフトや生産と流通の新たな分業

関係を理解する。

第15回 まとめ

これまでの議論を総括する。

2022年度 後期

2.0単位

流通システム論

島永 嵩子

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、現代の企業経営に関する基本的知識を学修し、ビジネス全般にわたって活用するために有用な知識を総合的に学修することを目指す。経営・商学コース選択必修科目に属する。本講義は、流通システム論で学習した流通に関する基礎理論を踏まえて、具体的な流通企業の事例を取り上げながら、現代の流通システムの特徴について理解できるようになることを目的としている。

< 到達目標 >

各流通業態の特徴や課題を理解できること。

< 授業のキーワード >

1.業態特性 2.業態の革新性 3.業態の仕組み

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義中心の授業であるが、講義中、受講生に自発的な発言を求めることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、新聞や雑誌で流通業の動向を把握するように努めること。（目安として1時間）

事後学習として、授業の内容を復習するように努めること。（目安として1時間）

< 提出課題など >

授業内容の理解度を確認するために、不定期で簡単なレポートの提出を課す。

レポートに記載されたことに対して、次の授業時に、総評などを行う。

< 成績評価方法・基準 >

講義中のレポート30%、定期試験70%で総合的に評価する。

< テキスト >

テキストは指定しないが、以下の指定図書のいずれかを熟読しておくこと。

< 参考図書 >

崔相鐵・岸本徹也編著(2018)『1からの流通システム』中央経済社。

石井淳蔵・向山雅夫編著(2009)『小売業の業態革新（シリーズ流通体系）』中央経済社。

矢作敏行(1996)『現代流通』有斐閣アルマ。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概略を理解する。

第2回 百貨店の発展プロセス

百貨店業態の発展プロセスを理解する。

第3回 百貨店の業態特性

営業構造や仕入形態、販売形態からみた百貨店の業態特徴を理解する。

第4回 百貨店の取り組み

事例を取り上げながら、特徴的な3つの取り組みの方向性を理解する。

第5回 総合スーパーの革新性

総合スーパーの革新性や取り組みを理解する。

第6回 食品スーパーの革新性

食品スーパー業態の確立や革新性、取り組みを理解する。

第7回 コンビニエンスストアの革新性(1)

フランチャイズ・チェーンや単品管理の考え方を理解する。

第8回 コンビニエンスストアの革新性(2)

多頻度小口配送やメーカーとの協働的マーチャンダイジングの考え方を理解する。

第9回 ドラッグストア業態

ドラッグストア業態の発展プロセスや革新性を理解する。

第10回 均一価格店の仕組み

均一価格店の発展プロセスや仕組みを理解する。

第11回 商店街

中小商業者の特徴や商店街の業態特性を理解する。

第12回 ショッピングセンター

ショッピングセンターの発展プロセスや仕組みを理解する。

第13回 ネット型小売の仕組み

ネット型小売業の発展プロセスや革新性を理解する。

第14回 卸売業の経営革新

卸売業の構造変化の要因や機能強化を理解する。

第15回 まとめ

本講義のまとめ

2022年度 前期

2.0単位

労務管理論

松田 裕之

< 授業の方法 >

遠隔形式: オンデマンド授業

< 授業の目的 >

基礎経営学・経営学総論、経営史で学んだ労働力あるいは人的資源を対象とする管理や組織運営についての知識が基礎になります。

経営資源の要であるヒト=人間を扱う労務管理は、文字どおり企業経営の核ですモノ(設備)・カネ(資本)・情報も、ヒト資源の活用如何で、価値を減らしたり、高めたりするからです。松下幸之助の「企業は人なり」と

いう言葉を待つまでもなく、ヒト資源を有効に活用する企業は生き残り、できない企業は衰亡の途を辿るのが市場経済システムの掟となっています。この講義では、労務管理の基礎的な知識をマスターするために、その発展の歴史を豊富な事例とともにお話したいと思います。前期の労務管理論「 」では、労務管理の先進国アメリカで作られ、我が国の労務管理の在り方にも大きな影響を及ぼした管理理念・実践・制度を学びましょう。

< 到達目標 >

(1)労働力 ヒト資源の特徴とはなにかが理解できる知識

(2)アメリカで開発された労務管理の理念・実践・制度が理解できる知識

(3)日本とアメリカの労務管理の関連が理解できる知識

(4)企業経営における人間の喜怒哀楽への興味を深めることができる知識・態度

(5)現代の企業経営に関する基本的知識を学修できる知識

(6)経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能をできる知識・技能

< 授業のキーワード >

労働-労働力-労働者の関係、成行管理、科学的管理、フォード・システム、人間関係論、行動科学

< 授業の進め方 >

講義は事前に録画した授業映像をONE DRIVEにアップし、オンデマンド配信します。URLは「遠隔授業情報欄」に記してあります。これをクリックしてONE DRIVEに入ってください。配布資料=本科目のテキストもONE DRIVEに第1回講義開始前までにアップしておきます。それをもちいて毎回の授業を進めますので、上記「授業の方法」に記載したURLからダウンロードしてください。dotCampusにレポート課題を4回アップし、講義録画のなかで講評を行い、併せて疑問点や指摘点についての回答を行います。

< 履修するにあたって >

レポートはdotCampusにてテーマと解答フォーマット(word形式)を配信しますので、それに記入してdotCampusにて提出してください。その際、word形式からPDFに変換して提出してください。また、提出前の確認作業をきちんとしてください。別の科目の課題をご提出したり、空提出したりしないように、くれぐれも注意してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

配布資料はオリジナルテキストであり、空所補充箇所も設けられています。きちんと記入すれば、労務管理論の基礎的な知識は十分身につきます。授業終了後自分なりの整理をしてください。毎回復習と予習に1時間程度を

充てるようにしてください。

< 提出課題など >

毎回配布資料 = テキストに設けられた空所の補充や論述課題などに解答したレポートをdotCampusで4回提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

4回提出してもらったレポートの記載内容で評価します。詳細は初回に講義において説明します。

< テキスト >

下記「遠隔授業情報」欄に記したURLでONE DRIVEからダウンロードしておいてください。

< 参考図書 >

とくになし。

< 授業計画 >

第1回

4/12深夜配信 「労務管理論」とはどんな科目だろうか？

上記にある講義の内容・形式・評価・注意事項についての再確認を行ったあと、科目としての「労務管理」の内容とそれを学ぶ意義について解説します。

第2回

4/19深夜配信 「ヒト資源」とは、どんな資源なのだろうか？

「経営資源」とはなにかを説明し、そのなかで「ヒト資源」が「モノ・カネ・情報」資源となりがどう違うのかを、古典的な経済学の理論をわかりやすいかたちで解説しながら、あきらかにしていきます。

第3回

以降の映像配信はdotCampusにてお知らせします。「ヒト資源」とは、どんな資源なのだろうか？

「経営資源」とはなにかを説明し、そのなかで「ヒト資源」が「モノ・カネ・情報」資源となりがどう違うのかを、古典的な経済学の理論をわかりやすいかたちで解説しながら、あきらかにしていきます。

第4回 なぜ「アメリカ合衆国」が労務管理において先進的であったのか？

産業革命の発信地にして、一時世界に多くの領土を築いたイギリスではなく、19世紀半ばによろやく工業化を開始した後進国アメリカが、なぜ企業経営の核である労務管理分野において先進的であったのか、その理由を探ります。

第5回 なぜ「アメリカ合衆国」が労務管理において先進的であったのか？

産業革命の発信地にして、一時世界に多くの領土を築いたイギリスではなく、19世紀半ばによろやく工業化を開始した後進国アメリカが、なぜ企業経営の核である労務管理分野において先進的であったのか、その理由を探ります。

第6回 「ヒト資源」の合理的・効率的活用はどのように行われたのか？

まず、ひたすら「ヒト資源」を効率的に活用するために、作業動作・手順・工程の改善が行われました。具体的には、成り行き管理～科学的管理～分業式流れ作業～コンベア式流れ作業という系譜になります。

第7回 「ヒト資源」の合理的・効率的活用はどのように行われたのか？

まず、ひたすら「ヒト資源」を効率的に活用するために、作業動作・手順・工程の改善が行われました。具体的には、成り行き管理～科学的管理～分業式流れ作業～コンベア式流れ作業という系譜になります。

第8回 「ヒト資源」の合理的・効率的活用はどのように行われたのか？

まず、ひたすら「ヒト資源」を効率的に活用するために、作業動作・手順・工程の改善が行われました。具体的には、成り行き管理～科学的管理～分業式流れ作業～コンベア式流れ作業という系譜になります。

第9回 「ヒト資源」のもつ人間性・心性にはどのような配慮が払われたのか？

効率的活用がいかに大切でも「ヒト」は機械ではなく、生身の人間であり、各々個性や感情をもっています。この人間性の側面を無視しては、合理的な作業動作・手順・工程を整備しても意味がないのです。そこで、「ヒト資源」の効率的活用の前提として、その人間性に対してもなんらかの働きかけが必要となります。具体的な系譜としては、企業内福祉(福利厚生)～労使協議機関の設置～人間関係論(ヒューマン・リレーションズ)となります。

第10回 「ヒト資源」のもつ人間性・心性にはどのような配慮が払われたのか？

効率的活用がいかに大切でも「ヒト」は機械ではなく、生身の人間であり、各々個性や感情をもっています。この人間性の側面を無視しては、合理的な作業動作・手順・工程を整備しても意味がないのです。そこで、「ヒト資源」の効率的活用の前提として、その人間性に対してもなんらかの働きかけが必要となります。具体的な系譜としては、企業内福祉(福利厚生)～労使協議機関の設置～人間関係論(ヒューマン・リレーションズ)となります。

第11回 「ヒト資源」のもつ人間性・心性にはどのような配慮が払われたのか？

効率的活用がいかに大切でも「ヒト」は機械ではなく、生身の人間であり、各々個性や感情をもっています。この人間性の側面を無視しては、合理的な作業動作・手順・工程を整備しても意味がないのです。そこで、「ヒト資源」の効率的活用の前提として、その人間性に対してもなんらかの働きかけが必要となります。具体的な系譜としては、企業内福祉(福利厚生)～労使協議機関の設置～人間関係論(ヒューマン・リレーションズ)となります。

第12回 「ヒト資源の」効率的活用と人間性への配慮

はどのようにして両立させるのか？

効率性と人間性は相反するものではなく、同時並行的に追求・実現せねば「ヒト資源」の活用は図れません。そこで、「ヒト資源」が自発的・積極的に作業に取り組むような仕事内容を設計していくことが労務管理の課題となります。心理学・生物学・人類学の多彩な成果を活用した行動科学的労務管理が第二次大戦後に登場し、洗練化されました。マズローの欲求段階説や職務拡大・職務充実の技法・動機付けの理論などを解説します。

第13回 「ヒト資源の」効率的活用と人間性への配慮はどのようにして両立させるのか？

効率性と人間性は相反するものではなく、同時並行的に追求・実現せねば「ヒト資源」の活用は図れません。そこで、「ヒト資源」が自発的・積極的に作業に取り組むような仕事内容を設計していくことが労務管理の課題となります。心理学・生物学・人類学の多彩な成果を活用した行動科学的労務管理が第二次大戦後に登場し、洗練化されました。マズローの欲求段階説や職務拡大・職務充実の技法・動機付けの理論などを解説します。

第14回 「ヒト資源の」効率的活用と人間性への配慮はどのようにして両立させるのか？

効率性と人間性は相反するものではなく、同時並行的に追求・実現せねば「ヒト資源」の活用は図れません。そこで、「ヒト資源」が自発的・積極的に作業に取り組むような仕事内容を設計していくことが労務管理の課題となります。心理学・生物学・人類学の多彩な成果を活用した行動科学的労務管理が第二次大戦後に登場し、洗練化されました。マズローの欲求段階説や職務拡大・職務充実の技法・動機付けの理論などを解説します。

第15回 講義のまとめと試験ポイントの解説

第2～14回の講義の内容を振り返り、「ヒト資源」の効率的活用・人間性の尊重・それらの両立の流れに関するポイントを確認します。

2022年度 後期

2.0単位

労務管理論

松田 裕之

< 授業の方法 >

講義〔オンデマンド授業形式〕

第1回目配信9月20日午前8時頃

第2回目配信9月27日午前8時頃

第3回目以降はdotCampusより履修確定者全員に配信日時を通知します。

テキスト並びに授業映像へのアクセスは「遠隔授業情報」欄に記したURLより行ってください。

< 授業の目的 >

経営管理論、経営組織論、労務管理論 で学修した労働

力 = 人的資源の管理の理論や技法に関する知識を基礎とし、より実践的で、日常的な内容を日本企業の事例を引きながら、欧米企業との比較も随所にまじえて学修します。

経営資源の要であるヒト = 人間を扱う労務管理は、文字どおり企業経営の核となります。モノ（設備）・カネ（資本）・情報も、ヒト資源の活用如何で、価値を減らしたり、高めたりするからです。ヒト資源を有効に活用する企業は生き残り、できない企業は衰亡の途を辿るのが市場経済システムの掟となっています。後期の「労務管理論」では、我が国企業に特徴的な労務管理の発展の歴史をフォローしたあと、現代一般的に実践されている労務管理制度を具体的事例をもちいて説明したいと思います。

< 到達目標 >

(1) 我が国の労務管理がどのように発展してきたのかを理解できる 知識

(2) アメリカで開発された労務管理と我が国の労務管理の関連を理解できる 知識

(3) 現代我が国企業で実施されている労務管理の特徴を理解できる 知識

(4) 労務管理から人的資源管理に至る最新の流れを理解できる 知識

(5) 企業経営における人間の喜怒哀楽への興味を深められる 知識・態度

(6) 現代の企業経営に関する基本的知識を学修できる 知識

(7) 経営の問題を総合的に分析・解析できる知識と技能をできる 知識・技能

< 授業のキーワード >

日本型雇用慣行、終身雇用・年功序列・企業別組合、三種の神器、成果主義、実力主義、処遇、人事考課、日本型組織とアメリカ型組織、トップマネジメント・ミドルマネジメント・ロウワーマネジメント、マネジメントの3スキル、リーダーシップ、労働組合、労働基準法

< 授業の進め方 >

オリジナル・テキストを使用します。対面形式の場合、第2回目講義にて配布します。また、遠隔授業となった場合は、ONE DRIVEに第1回講義開始前までにアップしておきます。

< 履修するにあたって >

対面形式の場合、授業中の私語は厳禁とし、感染予防の観点からマスク着用を必須とします。従わない受講者は「不合格」とします。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回復習と予習に1時間程度を充てるようにしてください。

< 提出課題など >

対面形式の場合、毎回受講カードに感想・指摘・質問・私見等を記入して提出してもらいます。遠隔形式の場合、dotCampusで4回のレポート課題を課します。

<成績評価方法・基準>

レポート課題1回が25点満点。4回×25点=100満点 S,A,B,C,D,/の変換して最終成績とする。

<テキスト>

オリジナルテキストを使用。

<参考図書>

とくになし。

<授業計画>

第1回 「労務管理論」とはどんな科目だろう？

上記にある講義の内容・形式・評価・注意事項についての再確認を行ったあと、我が国企業の労務管理を学ぶ意義について解説します。

第2回 経営家族主義から日本型雇用システムの成立まで

我が国が欧米型の近代的企業制度を導入した明治期から、第二次大戦を経て、戦後復興・高度経済成長期に至る近現代の経営史をフォローしながら、いわゆる日本型雇用システム（長期継続雇用・年功序列型昇給昇進体系・企業別組合）の理念・実践・技法・制度がどのような環境要因の作用によって築かれてきたのかを探ります。

第3回 日本型雇用システムの変貌と現代

戦後の我が国企業の大きな特徴とされた日本型雇用システムが、国内外の経済的・政治的・文化的な環境要因の変化を受けて、1980年代から次第に見直しが進められるプロセスを眺めていきます。

第4回 日本型雇用システムの変貌と現代

戦後の我が国企業の大きな特徴とされた日本型雇用システムが、国内外の経済的・政治的・文化的な環境要因の変化を受けて、1980年代から次第に見直しが進められるプロセスを眺めていきます。

第5回 日本企業の雇用システム - ヒトはなぜ企業で働くとするのか？ -

雇用は労務管理の「入口」であり、企業の中に在る仕事とそれを担う能力があると考えられる外部の人間=ヒト資源とを組み合わせる行為です。これは、採用・配置・配置転換・退職というかたちで頻繁に実施されます。その実際を具体例によって探りましょう。

第6回 日本企業の雇用システム - ヒトはなぜ企業で働くとするのか？ -

雇用は労務管理の「入口」であり、企業の中に在る仕事とそれを担う能力があると考えられる外部の人間=ヒト資源とを組み合わせる行為です。これは、採用・配置・配置転換・退職というかたちで頻繁に実施されます。その実際を具体例によって探りましょう。

第7回 日本企業の人材育成制度 - 企業はヒトをどのように育てるのか？ -

仕事とヒト資源を適切に組み合わせるには、ヒトの能力

を高めることで、彼ら彼女らが取り組める仕事を増やしていくことが必要です。そのために、企業は人材育成や能力開発に積極的な取り組みを行っています。その実践と問題点を具体例によって探りましょう。

第8回 日本企業の人材育成制度 - 企業はヒトをどのように育てるのか？ -

仕事とヒト資源を適切に組み合わせるには、ヒトの能力を高めることで、彼ら彼女らが取り組める仕事を増やしていくことが必要です。そのために、企業は人材育成や能力開発に積極的な取り組みを行っています。その実践と問題点を具体例によって探りましょう。

第9回 日本企業の人事組織構造 - 企業は仕事をどのようにヒトに分担させるのか？ -

企業は採用・育成したヒト資源が各自の仕事の分担を守って効率的に働けるように、さまざまな組織的な仕組みや工夫を実施します。ヒト資源を動かす組織づくりの基礎と、ヒト資源各自の仕事の在り方について、具体例をまじえながら考えましょう。

第10回 日本企業の人事組織構造 - 企業は仕事をどのようにヒトに分担させるのか？ -

企業は採用・育成したヒト資源が各自の仕事の分担を守って効率的に働けるように、さまざまな組織的な仕組みや工夫を実施します。ヒト資源を動かす組織づくりの基礎と、ヒト資源各自の仕事の在り方について、具体例をまじえながら考えましょう。

第11回 日本企業の人材処遇システム - 企業はヒトにどのような処遇を与えるのか？ -

当たり前ですが、ヒト資源とは生身の「人間」であり、「勤労生活者」であります。だから、企業は彼ら彼女らの仕事の成果に対して賃金や役職の面で適切な処遇を与えなければなりません。「適切な」とはいったいどのようなことなのでしょう？ また、ヒト資源は「人間」として「勤労生活者」として、いかなる処遇を企業に期待しているのでしょうか？ 具体例によって探りましょう。

第12回 日本企業の人材処遇システム - 企業はヒトにどのような処遇を与えるのか？ -

当たり前ですが、ヒト資源とは生身の「人間」であり、「勤労生活者」であります。だから、企業は彼ら彼女らの仕事の成果に対して賃金や役職の面で適切な処遇を与えなければなりません。「適切な」とはいったいどのようなことなのでしょう？ また、ヒト資源は「人間」として「勤労生活者」として、いかなる処遇を企業に期待しているのでしょうか？ 具体例によって探りましょう。

第13回 日本企業のモチベーションとリーダーシップ - 企業はヒトをどのように刺激するのか？ -

ヒト資源が仕事に期待するのは、賃金や役職といった「報酬」だけではありません。彼ら彼女らには金銭欲・出世欲のほかにもさまざまな欲求があり、人生の時間の多

くを占める仕事の中でそれらを実現したいという希望も抱いているのです。これらを叶えられるような、叶えたと実感できるような刺激（インセンティブ）を与えることで、企業はヒト資源のもつ潜在力を発揮させることができます。具体的な技法にはどのようなものがあるのかを探りましょう。

第14回 日本企業のモチベーションとリーダーシップ - 企業はヒトをどのように刺激するのか？ -

ヒト資源が仕事に期待するのは、賃金や役職といった「報酬」だけではありません。彼ら彼女らには金銭欲・出世欲のほかにもさまざまな欲求があり、人生の時間の多くを占める仕事の中でそれらを実現したいという希望も抱いているのです。これらを叶えられるような、叶えたと実感できるような刺激（インセンティブ）を与えることで、企業はヒト資源のもつ潜在力を発揮させることができます。具体的な技法にはどのようなものがあるのかを探りましょう。

第15回 講義のまとめ

我が国企業の労務管理を知ることが社会に出るに際してどのような積極的な意味をもつのかを確認しながら、講義のポイントを改めて解説していきます。